兵庫県文化財調査報告　第 495 冊

川辺郡猪名川町

観音寺跡・広根遺跡２

－新名神高速道路　箕面～神戸間（兵庫県域）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成 30（2018）年１月

兵 庫 県 教 育 委 員 会

川辺郡猪名川町

観音寺跡・広根遺跡２

－新名神高速道路　箕面～神戸間（兵庫県域）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成 30（2018）年１月

兵 庫 県 教 育 委 員 会

観音寺跡・広根遺跡Ⅰ区

観音寺跡全景　南東から

広根遺跡Ⅰ区全景　東から

広根遺跡Ⅰ区

Ⅰ－３区屋敷地　東から

Ⅰ－３区堀地　南東から

Ⅰ－６区カマ跡群　東から

Ⅰ－６区旧河道出土　墨書土器（10）

近代の灰原出土　和鏡（M1）

観音寺跡

4 区中世墓地（南群）　北から

観音寺跡

2 区　上層の遺構　北から

2 区南端　火葬場の層序　南から

近代の火葬場 SX2004　西から

共同火葬場 SX2132　北西から

3 区（トレンチ）出土　旧石器（S101）

2 区木棺墓 SX2028 出土　飾金具（M291）

同 SX2028 出土　錫杖（M290）

例　言

1　本書は、川辺郡猪名川町広根に所在する観音寺跡・広根遺跡Ⅰ区の発掘調査報告書である。本報告では県道川西三田線以西の両遺跡の各調査区を報告対象とした。

2　本調査は、新名神高速道路　箕面～神戸間（兵庫県域）建設工事に伴うもので、西日本高速道路株式会社関西支社新名神兵庫事務所の依頼に基づき、兵庫県教育委員会を調査主体として、兵庫県立考古博物館、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部を調査機関として実施した。

3　調査の推移

観音寺跡・広根遺跡Ⅰ区の調査は周辺の分布調査の開始から本発掘調査の終了まで、平成 10 年度より平成 25 年度に亘っており、その詳細は第 1 章にあげた。本報告書に直接関わる確認調査・本発掘調査についても第 1 章を参照していただきたい。

（発掘作業）

平成 23 年度より、兵庫県考古博物館が実施、平成 24 年度より、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部が実施機関となった。

確認調査　平成 23 年 12 月 16 日～平成 24 年８月 10 日
実施機関：兵庫県立考古博物館
公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

本発掘調査　平成 24 年 10 月 4 日～平成 26 年 2 月 28 日
実施機関：兵庫県立考古博物館
公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

（出土品整理作業）

平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日
実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 1 月 31 日
実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

4　本書の編集・執筆は、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部　多賀茂治・別府洋二・西口圭介・深江英憲が行なった（第 5 章・第 6 章以外）。

5　本調査において出土した遺物や作成した写真・図面類は、兵庫県教育委員会（兵庫県立考古博物館）で保管している。

６．その他の記載項目

・　調査成果の測量は、電子基準点神戸北・箕面・猪名川及び２級基準点　神４－２・神５－２・神５－３・神６－１を使用し、座標は世界測地系に基づくもので、調査地は第Ⅴ系に属する。

・　本書に用いた方位は座標北を示す。また、標高は東京湾平均海水準を基準とした。

・　空中写真測量は、平成 24 年度は（株）オオバ（2012120）、平成 25 年度は（株）日建技術コンサルタント（2013024・2013085）・（株）オーシススマップ（2013086）・（株）八州（2013117・2013118）に委託した。

・　遺物写真撮影は、（株）クレアチオに委託した。

・　本書の図版１「広根遺跡２・観音寺跡トレンチ図」は、西日本高速道路（株）関西支社兵庫工事事務所提供の 1/2,000 都市計画図を縮小して使用した。

・　現地の遺構実測は、調査員と調査補助員が行った。

・　本報告書掲載遺構の遺構番号については、重複を避けるため、広根遺跡Ⅰ区では１区から６区の各小区の№を遺構番号の冒頭につけ、例えば、Ⅰ－６区の SR01 は SR6001 とした。
また、観音寺跡では、各小区の№を冒頭につけ、4 区の SX03 を SX4003、2 区の SX116 を SX2116 とした。
加えて１区では、１から４の平坦面ごとに遺構№が調査時に充てられていることから、2 桁目を平坦面№とした。例えば、観音寺跡１区平坦面４の SK02 は SK1402 とした。
但し、両遺跡ともに建物（SB）に伴うピットを表記する場合、各図版・写真図版内で適宜前 2 桁の表記を省いて表記する場合がある。

・　遺構の製図および遺物の実測・製図は兵庫県まちづくり技術センター整理技術嘱託員が行った。なお、遺構図版の作成に際し、撮影写真と実測図との整合性を確保するため、南を天にする場合がある。

・　遺物については、兵庫津遺跡Ⅱ（兵庫県文化財調査報告　第 270 冊）の用語を参考とし、土師器・須恵器・瓦器の表現を概ね使用した。用字については、磁器以外の種別には杯・椀・鍋の字を使用、磁器については碗の字を使用した。また、土製煮炊具については土師器鍋・羽釜とし、瓦器・瓦質土器の鍋・羽釜については瓦質土器鍋・羽釜の用語を使用している。また、石製品・木製品・金属製品の用語を使用している。

・　本遺跡の地形環境については立命館大学非常勤講師　青木哲哉氏に確認調査段階より現地にてご教示いただき、本報告書の第５章として玉稿を賜った。

・　炭化物ついては、放射性炭素年代（AMS 測定）を（株）加速器分析研究所に依頼し、第６章第１節に結果を掲載している。

・　火山灰の同定については（株）加速器分析研究所に依頼し、第６章第２節に結果を掲載している。

・　本遺跡出土の人骨については、安部考古動物学研究所　安部みき子氏・聖マリアンナ医科大学　長岡朋人氏に鑑定を依頼し、本報告書の第６章第３節として玉稿を賜った。

・　出土木製品の樹種同定については（株）パレオラボに依頼し、平成 28 年度刊行の広根遺跡（兵庫県文化財調査報告　第 492 冊）第５章に結果を掲載している。

・　発掘調査及び報告書の作成にあたっては、立命館大学非常勤講師　青木哲哉氏・安部考古動物学研究所　安部みき子氏・聖マリアンナ医科大学　長岡朋人氏・兵庫県立考古博物館学芸員　岡田章一氏・猪名川町教育委員会　青木美香氏から資料提供・御指導等をいただいた。記して感謝の意を表すものである。

本　文　目　次

第１章　はじめに
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　広根遺跡の調査経過 …… 1
第３節　観音寺跡の調査経過 …… 3
第４節　出土品整理事業 …… 6
第２章　位置と環境 …… 7
第３章　広根遺跡Ⅰ区の調査
第１節　各調査区（小区）の概要 …… 9
第２節　古代の遺構 …… 11
第３節　中世の遺構 …… 11
・13 世紀代の遺構 …… 11
・14 世紀代の遺構 …… 12
・15 世紀代の遺構 …… 13
・その他　中世の遺構 …… 13
第４節　近世の遺構 …… 15
・16 世紀から 17 世紀代の遺構 …… 15
・18 世紀代の遺構 …… 16
第５節　近代の遺構 …… 17
・19 世紀代の遺構 …… 17
第６節　出土遺物 …… 20
第４章　観音寺跡の調査
第１節　各調査区の概要 …… 29
第２節　寺院跡の調査 …… 29
・１区平坦面４ …… 30
・１区平坦面３ …… 30
・１区平坦面１・２ …… 31
・５区 …… 32
第３節　墓地跡の調査 …… 32
・４区の中世墓地 …… 32
・その他の遺構 …… 44
第４節　出土遺物 …… 47
第５章　広根遺跡Ⅰ区と観音寺跡の地形環境 …… 65
第６章　自然科学分析
第１節　観音寺跡における放射性炭素年代（AMS 測定） …… 77
第２節　広根遺跡における火山灰分析 …… 82
第３節　観音寺跡から出土した人骨 …… 85
第７章　まとめ …… 95

挿　図　目　次

第１図　遺跡の位置…… 8
第２図　観音寺跡出土玉類…… 64
第３図　調査区周辺の地形分類図…… 66
第４図　調査区付近の微地形分布…… 68
第５図　広根遺跡I－３区のトレンチ断面図 …… 70
第６図　広根遺跡I－１区のトレンチ断面図 …… 71
第７図　広根遺跡I－６区北西部のトレンチ断面図 …… 72
第８図　広根遺跡I－６区南東部のトレンチ断面図 …… 72
第９図　観音寺跡１区北西部（平坦面４）のトレンチ断面図…… 74
第10図　観音寺跡１区中央部（平坦面３）のトレンチ断面図…… 74
第11図　暦年較正年代グラフ（参考1） …… 80
第11図　暦年較正年代グラフ（参考2） …… 81
第12図　重鉱物組成および火山ガラス比…… 83
第13図　火山ガラスの屈折率…… 83
第14図　重鉱物・火山ガラス…… 84
第15図　残存する人骨の部位……92
第16図　SX2048 頭蓋骨・頸椎　SX2066 頭蓋骨……93

表　目　次

表１　観音寺跡・広根遺跡I区確認調査トレンチ一覧 …… 5
表２　広根遺跡I区　本発掘調査概要 …… 9
表３　観音寺跡　本発掘調査概要 …… 29
表４　観音寺跡　４区中近世墓一覧 …… 48
表５　観音寺跡　２区中近世墓一覧 …… 49
表６　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C補正値）…… 79
表７　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C未補正値、暦年較正用^{14}C年代、較正年代）（1）…… 79
表７　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C未補正値、暦年較正用^{14}C年代、較正年代）（2）…… 80
表８　重鉱物・火山ガラス比分析結果 …… 83
表９　４区出土人骨の分析結果（1）～（3） …… 86～88
表10　２区出土人骨の分析結果（1）・（2） …… 88・89
表11　２区出土人骨の頭蓋計測値(mm)と示数（1）・（2） …… 89・90
表12　２区出土人骨の四肢骨計測値(mm)と示数（1）・（2） …… 90・91
表13　２区出土人骨の推定身長 …… 92
表14　遺構変遷表 …… 98
表15　広根遺跡I区出土遺物観察表…… 99
表16　観音寺跡出土遺物観察表 …… 104

巻 頭 写 真 図 版 目 次

巻頭写真図版１　観音寺跡・広根遺跡Ⅰ区
巻頭写真図版２　広根遺跡Ⅰ区
巻頭写真図版３　観音寺跡
巻頭写真図版４　観音寺跡

図　　版　　目　　次

図版１　観音寺跡・広根遺跡Ⅰ区他　トレンチ図
図版２　広根遺跡・観音寺跡・猪渕遺跡 調査位置図
図版３　広根遺跡・観音寺跡・猪渕遺跡 遺構配置図
図版４　観音寺跡・広根遺跡Ⅰ区 本発掘調査区位置図
図版５　観音寺跡・広根遺跡Ⅰ区　全体図
図版６　広根遺跡Ⅰ区　全体図
図版７　広根遺跡Ⅰ区　遺構平面詳細図1
図版８　広根遺跡Ⅰ区　遺構詳細平面図2
図版９　広根遺跡Ⅰ－１区　全体図
図版10　広根遺跡Ⅰ－２区　全体図
図版11　広根遺跡Ⅰ－３区　全体図
図版12　広根遺跡Ⅰ－４区　全体図
図版13　広根遺跡Ⅰ－６区　全体図
図版14　広根遺跡Ⅰ区　古代の河道・中世前期の遺構1
図版15　広根遺跡Ⅰ区　中世前期の遺構2（掘立柱建物跡）
図版16　広根遺跡Ⅰ区　中世前期の遺構3（墓・土坑）
図版17　広根遺跡Ⅰ区　14世紀の遺構１（集石・焼土坑他）
図版18　広根遺跡Ⅰ区　14世紀の遺構2（焼土坑他）
図版19　広根遺跡Ⅰ区　15世紀代の遺構1（各堀跡）
図版20　広根遺跡Ⅰ区　15世紀代の遺構2（各堀跡）
図版21　広根遺跡Ⅰ区　15世紀代の遺構3（炭土坑・溝）
図版22　広根遺跡Ⅰ区　中世の掘立柱建物跡1
図版23　広根遺跡Ⅰ区　中世の掘立柱建物跡2
図版24　広根遺跡Ⅰ区　中世の掘立柱建物跡3
図版25　広根遺跡Ⅰ区　中世の掘立柱建物跡4
図版26　広根遺跡Ⅰ区　中世の掘立柱建物跡5
図版27　広根遺跡Ⅰ区　中世の木棺墓
図版28　広根遺跡Ⅰ区　16・17世紀の遺構1（土坑・井戸）
図版29　広根遺跡Ⅰ区　16・17世紀の遺構2（水溜・石組溝）
図版30　広根遺跡Ⅰ区　18世紀の遺構1（土坑・井戸）
図版31　広根遺跡Ⅰ区　18世紀の遺構2（SX3103）
図版32　広根遺跡Ⅰ区　18世紀の遺構3（井戸・水溜）
図版33　広根遺跡Ⅰ区　18世紀の遺構4（集石埋桶遺構）
図版34　広根遺跡Ⅰ区　18世紀の遺構5（SX2081）
図版35　広根遺跡Ⅰ区　18～19世紀代の遺構群
図版36　広根遺跡Ⅰ区　近世の溝・石敷遺構
図版37　広根遺跡Ⅰ区　近代の遺構１（土坑）
図版38　広根遺跡Ⅰ区　近代の遺構２（土坑）
図版39　広根遺跡Ⅰ区　近代の遺構３（カマ5・6）
図版40　広根遺跡Ⅰ区　近代の遺構４（カマ2・3）
図版41　広根遺跡Ⅰ区　近代の遺構５（カマ4）
図版42　広根遺跡Ⅰ区　近代の遺構６（カマ1）
図版43　広根遺跡Ⅰ区　出土土器1
図版44　広根遺跡Ⅰ区　出土土器2
図版45　広根遺跡Ⅰ区　出土土器3
図版46　広根遺跡Ⅰ区　出土土器4
図版47　広根遺跡Ⅰ区　出土土器5
図版48　広根遺跡Ⅰ区　出土土器6
図版49　広根遺跡Ⅰ区　出土土器7
図版50　広根遺跡Ⅰ区　出土土器8
図版51　広根遺跡Ⅰ区　出土土器9
図版52　広根遺跡Ⅰ区　出土土器10
図版53　広根遺跡Ⅰ区　出土土器11
図版54　広根遺跡Ⅰ区　出土土器12
図版55　広根遺跡Ⅰ区　出土土器13
図版56　広根遺跡Ⅰ区　出土金属製品1
図版57　広根遺跡Ⅰ区　出土金属製品2
図版58　広根遺跡Ⅰ区　出土石製品器
図版59　広根遺跡Ⅰ区　出土木製品
図版60　観音寺跡　全体図
図版61　観音寺跡　１区平坦面３・４
図版62　観音寺跡　１区平坦面４・２区各遺構
図版63　観音寺跡　１区平坦面３集石土坑
図版64　観音寺跡　１区平坦面３井戸・水溜遺構・溝
図版65　観音寺跡　１区平坦面３東半・中層・下層の遺構
図版66　観音寺跡　１区平坦面３暗渠・集石遺構
図版67　観音寺跡　１区平坦面１・２全体図・各遺構
図版68　観音寺跡　１区平坦面１・２間石垣・斜路
図版69　観音寺跡　５区及び周辺全体
図版70　観音寺跡　５区調査区土層断面・各遺構
図版71　観音寺跡　４区全体図（上・下層）
図版72　観音寺跡　４区中世墓北群A・B支群
図版73　観音寺跡　４区中世墓北群A・B支群
図版74　観音寺跡　４区中世墓北群B・C支群
図版75　観音寺跡　４区南群D～F支群（上層・下層）
図版76　観音寺跡　４区南群D支群1
図版77　観音寺跡　４区南群D支群2・E-1支群1
図版78　観音寺跡　４区南群E-1支群2
図版79　観音寺跡　４区南群E-1支群3
図版80　観音寺跡　４区南群E-2支群1
図版81　観音寺跡　４区南群E-2支群2・F支群・G支群
図版82　観音寺跡　２区全体図
図版83　観音寺跡　２区土葬墓　円形棺1
図版84　観音寺跡　２区土葬墓　円形棺2
図版85　観音寺跡　２区土葬墓　円形棺3・方形棺1
図版86　観音寺跡　２区土葬墓　方形棺2・長方形棺1
図版87　観音寺跡　２区土葬墓　長方形棺2・その他
図版88　観音寺跡　２区下層の中近世火葬址と共同火葬場
図版89　観音寺跡　２区中近世火葬墓・火葬址
図版90　観音寺跡　２区近世火葬墓・火葬址と各時期の共同火葬場
図版91　観音寺跡　２区中段溝
図版92　観音寺跡　３区全体図・土層堆積・土坑
図版93　観音寺跡　出土土器1

図版94　観音寺跡　出土土器2
図版95　観音寺跡　出土土器3
図版96　観音寺跡　出土土器4
図版97　観音寺跡　出土土器5
図版98　観音寺跡　出土土器6
図版99　観音寺跡　出土土器7
図版100　観音寺跡　出土土器8
図版101　観音寺跡　出土土器9
図版102　観音寺跡　出土土器10
図版103　観音寺跡　出土土器11
図版104　観音寺跡　出土土器12
図版105　観音寺跡　出土土器13
図版106　観音寺跡　出土土器14
図版107　観音寺跡　出土土器15
図版108　観音寺跡　出土金属製品1
図版109　観音寺跡　出土金属製品2
図版110　観音寺跡　出土金属製品3
図版111　観音寺跡　出土金属製品4
図版112　観音寺跡　出土金属製品5
図版113　観音寺跡　出土金属製品6
図版114　観音寺跡　出土金属製品7
図版115　観音寺跡　出土金属製品8
図版116　観音寺跡　出土金属製品9
図版117　観音寺跡　出土金属製品10
図版118　観音寺跡　出土石製品1
図版119　観音寺跡　出土石製品2
図版120　観音寺跡　出土石製品3

写　真　図　版　目　次

写真図版１　空中写真１　観音寺跡
写真図版２　空中写真２　広根遺跡Ⅰ区
写真図版３　空中写真３　観音寺跡・広根遺跡Ⅰ区
写真図版４　空中写真４　観音寺跡
写真図版５　空中写真５　広根遺跡Ⅰ区
写真図版６　空中写真６　観音寺跡・広根遺跡Ⅰ区
写真図版７　広根遺跡Ⅰ区　全景1
写真図版８　広根遺跡Ⅰ区　全景2
写真図版９　広根遺跡Ⅰ区　古代の遺構・中世の遺構1
写真図版10　広根遺跡Ⅰ区　中世の遺構2
写真図版11　広根遺跡Ⅰ区　中世の遺構3
写真図版12　広根遺跡Ⅰ区　中世の遺構4
写真図版13　広根遺跡Ⅰ区　中世の遺構5
写真図版14　広根遺跡Ⅰ区　中世の遺構6
写真図版15　広根遺跡Ⅰ区　中世の遺構7
写真図版16　広根遺跡Ⅰ区　中世の遺構8
写真図版17　広根遺跡Ⅰ区　中世の遺構9
写真図版18　広根遺跡Ⅰ区　中世の遺構10・近世の遺構1
写真図版19　広根遺跡Ⅰ区　近世の遺構2
写真図版20　広根遺跡Ⅰ区　近世の遺構3
写真図版21　広根遺跡Ⅰ区　近世の遺構4
写真図版22　広根遺跡Ⅰ区　近世の遺構5
写真図版23　広根遺跡Ⅰ区　近世の遺構6・近代の遺構1
写真図版24　広根遺跡Ⅰ区　近代の遺構2
写真図版25　広根遺跡Ⅰ区　近代の遺構3
写真図版26　広根遺跡Ⅰ区　近代の遺構4
写真図版27　広根遺跡Ⅰ区　近代の遺構5
写真図版28　広根遺跡Ⅰ区　近代の遺構6
写真図版29　広根遺跡Ⅰ区　近代の遺構7
写真図版30　広根遺跡Ⅰ区　近代の遺構8
写真図版31　広根遺跡Ⅰ区　近代の遺構9
写真図版32　広根遺跡Ⅰ区　出土土器1
写真図版33　広根遺跡Ⅰ区　出土土器2
写真図版34　広根遺跡Ⅰ区　出土土器3
写真図版35　広根遺跡Ⅰ区　出土土器4
写真図版36　広根遺跡Ⅰ区　出土土器5
写真図版37　広根遺跡Ⅰ区　出土土器6
写真図版38　広根遺跡Ⅰ区　出土土器7
写真図版39　広根遺跡Ⅰ区　出土土器8
写真図版40　広根遺跡Ⅰ区　出土土器9
写真図版41　広根遺跡Ⅰ区　出土土器10
写真図版42　広根遺跡Ⅰ区　出土土器11
写真図版43　広根遺跡Ⅰ区　出土土器12
写真図版44　広根遺跡Ⅰ区　出土土器13
写真図版45　広根遺跡Ⅰ区　出土土器14
写真図版46　広根遺跡Ⅰ区　出土土器15
写真図版47　広根遺跡Ⅰ区　出土土器16
写真図版48　広根遺跡Ⅰ区　出土土器17
写真図版49　広根遺跡Ⅰ区　出土土器18
写真図版50　広根遺跡Ⅰ区　出土金属製品1
写真図版51　広根遺跡Ⅰ区　出土金属製品2
写真図版52　広根遺跡Ⅰ区　出土石製品
写真図版53　広根遺跡Ⅰ区　出土木製品
写真図版54　観音寺跡１区　平坦面４　全景・遺構1
写真図版55　観音寺跡１区　平坦面４　遺構2
写真図版56　観音寺跡１区　平坦面３　全景・遺構1
写真図版57　観音寺跡１区　平坦面３　遺構2
写真図版58　観音寺跡１区　平坦面３　遺構3
写真図版59　観音寺跡１区　平坦面３　遺構4
写真図版60　観音寺跡１区　平坦面２　全景・遺構1
写真図版61　観音寺跡１区　平坦面２　遺構2
　　平坦面１　全景・石垣
写真図版62　観音寺跡１区　平坦面１・２石垣
写真図版63　観音寺跡５区　全景・遺構
写真図版64　観音寺跡４区　全景・中世墓北群
写真図版65　観音寺跡４区　北群全景・A支群1
写真図版66　観音寺跡４区　北群A支群2
写真図版67　観音寺跡４区　北群A支群3

写真図版68　観音寺跡４区　北群B支群1
写真図版69　観音寺跡４区　北群B支群2
写真図版70　観音寺跡４区　北群B支群3
写真図版71　観音寺跡４区　南西部集石・C支群
写真図版72　観音寺跡４区　南群全景
写真図版73　観音寺跡４区　南群D支群1
写真図版74　観音寺跡４区　南群D支群2
写真図版75　観音寺跡４区　南群D支群3
写真図版76　観音寺跡４区　南群D支群4
写真図版77　観音寺跡４区　南群D支群5
写真図版78　観音寺跡４区　南群D支群6・E-1支群1
写真図版79　観音寺跡４区　南群E-1支群2
写真図版80　観音寺跡４区　南群E-1支群3
写真図版81　観音寺跡４区　南群E-1支群4
写真図版82　観音寺跡４区　南群E-1支群5
写真図版83　観音寺跡４区　南群E-1支群6
写真図版84　観音寺跡４区　南群E-1支群7
写真図版85　観音寺跡４区　南群E-1支群8
写真図版86　観音寺跡４区　南群E-1支群9
写真図版87　観音寺跡４区　南群E-1支群10・E-2支群1
写真図版88　観音寺跡４区　南群E-2支群2
写真図版89　観音寺跡４区　南群E-2支群3
写真図版90　観音寺跡４区　南群E-2支群4
写真図版91　観音寺跡４区　南群E-2支群5
写真図版92　観音寺跡４区　南群E-2支群6
写真図版93　観音寺跡４区　南群E-2支群7・F支群1
写真図版94　観音寺跡４区　南群F支群2
写真図版95　観音寺跡４区　南群F支群3
写真図版96　観音寺跡４区　南群G支群
写真図版97　観音寺跡２区　全景・層序
写真図版98　観音寺跡２区　墓地跡全景
写真図版99　観音寺跡２区　土葬墓の状況
写真図版100　観音寺跡２区　土葬墓1（円形棺）
写真図版101　観音寺跡２区　土葬墓2（円形棺）
写真図版102　観音寺跡２区　土葬墓3（円形棺）
写真図版103　観音寺跡２区　土葬墓4（円形棺）
写真図版104　観音寺跡２区　土葬墓5（円形棺・方形棺）
写真図版105　観音寺跡２区　土葬墓6（方形棺）
写真図版106　観音寺跡２区　土葬墓7（長方形棺）
写真図版107　観音寺跡２区　土葬墓8（長方形棺）
その他の遺構
写真図版108　観音寺跡２区　中層～下層の遺構
火葬墓・火葬址
写真図版109　観音寺跡２区　下層共同火葬場遺構
写真図版110　観音寺跡２区　中層・下層の遺構
写真図版111　観音寺跡２区　下層の遺構
写真図版112　観音寺跡２区　下層の火葬址
写真図版113　観音寺跡２区　近世～近現代の火葬墓・火葬場
写真図版114　観音寺跡２区　火葬場及び中段の溝
写真図版115　観音寺跡３区　東・西区全景・遺構
写真図版116　広根遺跡Ⅰ区　下層断ち割りトレンチ1
写真図版117　広根遺跡Ⅰ区・観音寺跡　下層断ち割りトレンチ2
写真図版118　観音寺跡　出土土器1
写真図版119　観音寺跡　出土土器2
写真図版120　観音寺跡　出土土器3
写真図版121　観音寺跡　出土土器4
写真図版122　観音寺跡　出土土器5
写真図版123　観音寺跡　出土土器6
写真図版124　観音寺跡　出土土器7
写真図版125　観音寺跡　出土土器8
写真図版126　観音寺跡　出土土器9
写真図版127　観音寺跡　出土土器10
写真図版128　観音寺跡　出土土器11
写真図版129　観音寺跡　出土土器12
写真図版130　観音寺跡　出土土器13
写真図版131　観音寺跡　出土土器14
写真図版132　観音寺跡　出土土器15
写真図版133　観音寺跡　出土土器16
写真図版134　観音寺跡　出土土器17
写真図版135　観音寺跡　出土土器18
写真図版136　観音寺跡　出土土器19
写真図版137　観音寺跡　出土土器20
写真図版138　観音寺跡　出土土器21
写真図版139　観音寺跡　出土金属製品1
写真図版140　観音寺跡　出土金属製品2
写真図版141　観音寺跡　出土金属製品3
写真図版142　観音寺跡　出土金属製品4
写真図版143　観音寺跡　出土繊維製品・金属製品5・玉類
写真図版144　観音寺跡　出土金属製品6
写真図版145　観音寺跡　出土金属製品7
写真図版146　観音寺跡　出土金属製品8・石製品1
写真図版147　観音寺跡　出土石製品2
写真図版148　観音寺跡　出土石製品3
写真図版149　観音寺跡　出土石製品4

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経緯

西日本高速道路株式会社（NEXCO 西日本）では中国自動車道、名神高速道路等の混雑緩和のため新名神高速道路の建設工事を計画し、兵庫県内においては川西市、猪名川町、宝塚市、神戸市北区を通る約 20km のルートが設定された。猪名川町内は川西市石道から六石山を越えて広根地区の谷を横断して猪渕川の谷を宝塚方面に向かうルートを通る。建設予定地については、平成 10 年度に兵庫県教育委員会が分布調査（遺跡調査番号　980063）をおこない、周知の埋蔵文化財包蔵地である広根遺跡の西側で新たに遺物の散布等を確認し№.９地点と仮称し確認調査の対象範囲とした。また№.９地点北側の丘陵斜面には近代まで観音寺（観音堂）が所在しており、寺院創建が中世まで遡る可能性が想定されたため№.10 地点と仮称し確認調査の対象範囲とした。その後事業計画の変更があったため平成 20 年度に再度分布調査（遺跡調査番号　2008151）を実施して、確認調査対象範囲の追加変更をおこなった。この№.９地点が本書で報告する広根遺跡Ｉ区であり、№.10 地点が観音寺跡である。

［分布調査］

遺跡調査番号　980063

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所　調査第２班　池田正男・吉識雅仁・西口圭介・池田征弘・松野健児・佐々木俊彦・戸田真美子

調査期間　平成 10 年 5 月 6 日～5 月 13 日

調査面積　1,300,000 ㎡

遺跡調査番号　2008151

調査主体　兵庫県教育委員会

調査担当者　兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部

調査期間　平成 20 年 7 月 25 日

調査面積　111,000 ㎡

第２節　広根遺跡の調査経過

№.９地点については本体工事に先行する迂回道路整備に伴い平成 23 年 12 月に西日本高速道路株式会社関西支社兵庫工事事務所長の依頼（平成 23 年 12 月 8 月付け関兵工第 1479 号）により確認調査（遺跡調査番号　2011304）を実施したが、この調査では遺構・遺物は確認できなかった。

その後、用地内に所在した家屋の移転が完了したのに伴い、平成 24 年度から本格的に確認調査を実施した。平成 24 年 6 月には西日本高速道路株式会社関西支社兵庫工事事務所長の依頼（平成 24 年 5 月 8 日付け関兵工第 237 号）により、№.９地点の北側の確認調査（遺跡調査番号　2012059）を実施し、中世の遺構・遺物を確認した。さらに同事務所長の依頼（平成 24 年 5 月 8 日付け関兵工第 238 号）により、東端の未買収地区（後のＩ－６区）を除く全域について確認調査（遺跡調査番号　2012084）を

実施し、猪渕川と観音寺の丘陵に挟まれた山裾で中世の遺構・遺物を確認した。

これらの結果を受けて兵庫県教育委員会と西日本高速道路株式会社との協議をおこない、№.９地点のうち遺構・遺物が認められた範囲を広根遺跡Ｉ区として、西日本高速道路株式会社関西支社新名神兵庫事務所長（平成 24 年に名称変更、以下新名神兵庫事務所長と略）の依頼（平成 24 年 8 月 3 日付け関兵事第 537 号）により兵庫県教育委員会が受託して、下半期から本発掘調査（遺跡調査番号　2012120）を実施することとなった。発掘調査は県教育委員会から受託した(公財)兵庫県まちづくり技術センターが担当してＩ－１区・２区・３区・４区の調査を実施し、この地区に中世の集落が存在することが明らかになった。

翌年の平成 25 年 4 月には用地に隣接する民家への進入路設置のため、新名神兵庫事務所長の依頼（平成 25 年 3 月 18 日付け関兵事第 1973 号）により№.９地点の西北端部分をＩ－５区として本発掘調査（遺跡調査番号　2013006）を実施した。観音寺跡に接する№.９地点西北部については用地取得が遅れていたため、用地取得後の平成 25 年 9 月に新名神兵庫事務所長の依頼（平成 25 年 3 月 18 日付け関兵事第 1974 号）により確認調査（遺跡調査番号　2013087）を実施し、中世から近世に至る遺構・遺物を確認した。この範囲については平成 26 年 1 月から新名神兵庫事務所長の依頼（平成 25 年 9 月 10 日付け関兵事第 238 号）により、Ｉ－６区として本発掘調査（遺跡調査番号　2013117）を実施した。

発掘調査成果については、平成 25 年 3 月 2 日に猪渕遺跡と合わせて現地説明会を開催し、260 名の参加があった。

［確認調査］

遺跡調査番号　2011304

調査主体　　兵庫県教育委員会（以下、各年度の調査主体はすべて兵庫県教育委員会である。）

調査担当者　兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部　企画調整課　小川弦太

調査期間　　平成 23 年 12 月 16 日

調査面積　　16 ㎡

遺跡調査番号　2012059

調査担当者　兵庫県立考古博物館　総務部　埋蔵文化財課　多賀茂治

調査期間　　平成 24 年 6 月 7 日

調査面積　　128 ㎡

遺跡調査番号　2012084

調査担当者　（公財）兵庫県まちづくり技術センター　埋蔵文化財調査部　調査第２課　渡辺　昇・西口圭介・中川　渉

調査期間　　平成 24 年 7 月 24 日～ 8 月 10 日（実働 14 日間）

調査面積　　380 ㎡

遺跡調査番号　2013087

調査担当者　（公財）兵庫県まちづくり技術センター　埋蔵文化財調査部　調査第２課　渡辺　昇・西口圭介・門田諭佳

調査面積　　100 ㎡

［本発掘調査］

遺跡調査番号　2012120

調査担当者　（公財）兵庫県まちづくり技術センター　埋蔵文化財調査部　調査第２課　渡辺　昇・西口圭介・中川　渉・門田諭佳・菅澤敏弘

調査期間　　平成 24 年 10 月 4 日～平成 25 年 3 月 25 日（実働 116 日間）

調査面積　　6,035 ㎡

遺跡調査番号　2013006

調査担当者　兵庫県立考古博物館　総務部　埋蔵文化財課　多賀茂治

調査期間　　平成 25 年 4 月 15 日～ 16 日（実働２日間）

調査面積　　60 ㎡

遺跡調査番号　2013117

調査担当者　（公財）兵庫県まちづくり技術センター　埋蔵文化財調査部　調査第２課　渡辺　昇・西口圭介・門田諭佳

調査期間　　平成 25 年 1 月 20 日～ 3 月 14 日

調査面積　　1,272 ㎡

第３節　観音寺跡の調査経過

№.10 地点については用地取得が遅れたため、里道からの観察程度しかできておらず、現地の詳細な状況が不明のままであった。このため用地への立入が可能になった平成 25 年 3 月に詳細な分布調査(遺跡調査番号　2012214）を実施して、現地の状況の確認をおこなった。その結果、観音寺跡の推定地内には造成された多くの平坦面が存在し、中世から現代に至る寺院及び墓地が存在することが明らかになった。

これを受けて平成 25 年 4 月に、新名神兵庫事務所長の依頼（平成 25 年 3 月 18 日付け関兵事第 1973 号）により、用地取得の完了した寺院跡を中心とした範囲について確認調査（遺跡調査番号　2013004）を実施し、観音寺の創建が中世に遡ることが明らかになった。その後、用地取得の進捗にあわせて平成 25 年 5 月～６月にかけて、新名神兵庫事務所長の依頼（平成 25 年 3 月 18 日付け関兵事第 1974 号）により、寺院跡周辺の確認調査（遺跡調査番号　2013025）を実施し、寺院の尾根上や平坦地に中世墓が存在することが明らかになった。

加えて、調査対象範囲外の寺院跡北側の尾根上で五輪塔残欠が発見され、中世墓の範囲が広がる可能性が出てきたため、尾根上を中心に再度分布調査（遺跡調査番号　2013054）を実施し、調査対象範囲を拡大した上で、確認調査を追加した。

以上の結果をうけて、平成 25 年 7 月に広根遺跡Ｉ区に隣接する地区（３区）について、確認調査（遺跡調査番号　2013088）に引き続き本発掘調査（遺跡調査番号　2013085）を実施した。その後、平成 25 年 8 月から新名神兵庫事務所長の依頼（平成 25 年 5 月 31 日付け関兵事第 369 号）により、中世～近世寺院及び尾根上の中世～近世墓地が存在する地区（１区、２区、４区）について本発掘調査（遺跡調査番号　2013086）を実施した。広根遺跡Ｉ－６区の北側に接する５区については用地取得が遅れていたため、平成 25 年 12 月から新名神兵庫事務所長の依頼（平成 25 年 9 月 10 日付　関兵事第 956 号）により本発掘調査（遺跡調査番号　2013118）を実施し、これをもって観音寺跡の調査が完了した。

発掘調査成果については、平成 25 年 10 月 26 日に現地説明会を開催し、77 名の参加者があった。

［分布調査］

遺跡調査番号　2012214

調査主体　　兵庫県教育委員会（以下、各年度の調査主体はすべて兵庫県教育委員会である。）

調査担当者　兵庫県立考古博物館　総務部　埋蔵文化財課　多賀茂治

調査期間　　平成 25 年 3 月 15 日

調査面積　　10,000 ㎡

遺跡調査番号　2013054

調査担当者　兵庫県立考古博物館　総務部　埋蔵文化財課　多賀茂治

調査期間　　平成 25 年 6 月 4 日

調査面積　　3,000 ㎡

［確認調査］

遺跡調査番号　2013004

調査担当者　兵庫県立考古博物館　総務部　埋蔵文化財課　多賀茂治

調査期間　　平成 25 年 4 月 15 日～ 19 日

調査面積　　180 ㎡

遺跡調査番号　2013025

調査担当者　（公財）兵庫県まちづくり技術センター　埋蔵文化財調査部　調査第２課　渡辺　昇・西口圭介・門田諭佳

調査期間　　平成 25 年 5 月 16 日～ 6 月 25 日（実働５日間）

調査面積　　210 ㎡

遺跡調査番号　2013088

調査担当者　（公財）兵庫県まちづくり技術センター　埋蔵文化財調査部　調査第２課　渡辺　昇・西口圭介・門田諭佳

調査期間　　平成 25 年 9 月 2 日～ 9 月 27 日（実働 3 日間）

調査面積　　80 ㎡

［本発掘調査］

遺跡調査番号　2013085

調査担当者　（公財）兵庫県まちづくり技術センター　埋蔵文化財調査部　調査第２課　渡辺　昇・西口圭介・門田諭佳

調査期間　　平成 25 年 7 月 1 日～ 7 月 23 日（実働 20 日間）

調査面積　　418 ㎡

遺跡調査番号　2013086

調査担当者　（公財）兵庫県まちづくり技術センター　埋蔵文化財調査部　調査第２課　渡辺　昇・西口圭介・門田諭佳

調査期間　　平成 25 年 8 月 1 日～ 11 月 30 日（実働 91 日間）

調査面積　　4,915 ㎡

遺跡調査番号　2013118

調査担当者　（公財）兵庫県まちづくり技術センター　埋蔵文化財調査部　調査第２課　渡辺　昇・西口圭介・門田諭佳

調査期間　　平成 25 年 12 月 1 日～平成 26 年 2 月 28 日

調査面積　　967 ㎡

表１　観音寺跡・広根遺跡Ⅰ区確認調査トレンチ一覧（図版１参照）

トレンチ名	調査番号	調査期間	地区名	旧トレンチ№	幅(m)×全長(m)	遺構	遺物	時期	立地と備考
123	2011304	20111216～20111216	広根Ⅰ区	1	2.0×2.0	なし	なし		
124	2011304	20111216～20111216	広根Ⅰ区	2	2.0×2.0	なし	なし		
125	2011304	20111216～20111216	広根Ⅰ区	3	2.0×2.0	なし	なし		
126	2011304	20111216～20111216	広根Ⅰ区	4	2.0×2.0	なし	なし		
137	2012059	20120607～20120607	広根Ⅰ区	1	2.0×17.0	なし		江戸～明治	
138	2012059	20120607～20120607	広根Ⅰ区	2	2.0×11.0	溝・柱穴		中世以前・近世	
142	2012059	20120607～20120607	広根Ⅰ区	3	2.0×14.0	土坑・溝	土器	中世以前	
146	2012059	20120607～20120607	広根Ⅰ区	4	2.0×11.0	土坑	瓦器椀	中世	
135	2012059	20120607～20120607	広根Ⅰ区	5	2.0×11.0	なし	土器	中世～近世	
132	2012084	20120724～20120810	広根Ⅰ区	1	2.0×10.0	柱穴・土坑	瓦器	中世	
131	2012084	20120724～20120810	広根Ⅰ区	2	2.0×10.0	柱穴	なし		
134	2012084	20120724～20120810	広根Ⅰ区	3	2.0×10.0	なし	なし		
133	2012084	20120724～20120810	広根Ⅰ区	4	2.0×10.0	柱穴・土坑・溝	丹波焼		
136	2012084	20120724～20120810	広根Ⅰ区	5	2.0×10.0	柱穴			
140	2012084	20120724～20120810	広根Ⅰ区	6	2.0×10.0	なし	なし		
141	2012084	20120724～20120810	広根Ⅰ区	7	2.0×10.0	溝	瓦器		
143	2012084	20120724～20120810	広根Ⅰ区	8	2.0×10.0	なし	なし		
145	2012084	20120724～20120810	広根Ⅰ区	9	2.0×10.0	柱穴	瓦器		
144	2012084	20120724～20120810	広根Ⅰ区	10	2.0×10.0	なし	なし		
147	2012084	20120724～20120810	広根Ⅰ区	11	2.0×10.0	柱穴・焼土坑			
148	2012084	20120724～20120810	広根Ⅰ区	12	2.0×10.0	なし	なし		
150	2012084	20120724～20120810	広根Ⅰ区	13	2.0×10.0	なし	なし		
149	2012084	20120724～20120810	広根Ⅰ区	14	2.0×10.0	なし	なし		
127	2012084	20120724～20120810	広根Ⅰ区	15	2.0×10.0	なし	中世土器		
128	2012084	20120724～20120810	広根Ⅰ区	16	2.0×10.0	なし	中世土器		
129	2012084	20120724～20120810	広根Ⅰ区	17	2.0×10.0	なし	なし		
130	2012084	20120724～20120810	広根Ⅰ区	18	2.0×10.0	なし	なし		
139	2012084	20120724～20120810	広根Ⅰ区	19	2.0×10.0	土坑	瓦器		
156	2013004	20130415～20130419	観音寺跡	1	2.0×10.0	土坑	土師器・陶器	中世～近世	平坦面1
157	2013004	20130415～20130419	観音寺跡	2	2.0×10.0	なし	土器	中世～近世	ため池
158	2013004	20130415～20130419	観音寺跡	3	2.0×10.0	柱穴・土坑	瓦・土器	中世～近世	平坦面2
160	2013004	20130415～20130419	観音寺跡	4	2.0×10.0	整地土・土坑	土器	中世～近世	平坦面2
161	2013004	20130415～20130419	観音寺跡	5	2.0×10.0	柱穴	土器	中世～近世	平坦面5
162	2013004	20130415～20130419	観音寺跡	6	2.0×10.0	土坑	土器	中世～近世	平坦面5
163	2013004	20130415～20130419	観音寺跡	7	2.0×10.0	整地土・土坑・焼土坑	土器	中世～近世	平坦面6
164	2013004	20130415～20130419	観音寺跡	8	2.0×10.0	整地土	土器・鉄釘	中世～近世	平坦面6
159	2013004	20130415～20130419	観音寺跡	9	2.0×10.0	なし	土師器鍋・陶器	中世～近世	平坦面3・4間
170	2013025	20130516～20130625	観音寺跡	1	2.0×10.0	なし	瓦質土器、陶磁器	中世～近世	
168	2013025	20130516～20130625	観音寺跡	2	2.0×10.0	溝	瓦器・土師器	中世	稜線上
166	2013025	20130516～20130625	観音寺跡	3	2.0×10.0	なし	石鏃・陶磁器	縄文・中世	
165	2013025	20130516～20130625	観音寺跡	4	2.0×10.0	なし	なし		平坦面
169	2013025	20130516～20130625	観音寺跡	5	2.0×10.0	なし	青磁	中世	
167	2013025	20130516～20130625	観音寺跡	6	2.0×10.0	溝	土師器・陶器	中世	稜線上
172	2013025	20130516～20130625	観音寺跡	7	2.0×10.0	柱穴	土師器	中世	山裾
171	2013025	20130516～20130625	観音寺跡	8	2.0×10.0	包含層	土器	中世～近世	山裾
182	2013025	20130516～20130625	観音寺跡	9	2.0×10.0	焼土坑	土師器・陶器	中世	稜線上
181	2013025	20130516～20130625	観音寺跡	10	2.0×10.0	落ち込み	なし		稜線上
183	2013025	20130516～20130625	観音寺跡	11	2.0×10.0	焼土坑・集石土坑	土師器鍋	中世	頂上部
184	2013025	20130516～20130625	観音寺跡	12	2.0×10.0	焼土坑	瓦器	中世	頂上部
153	2013087	20130921～20130928	広根Ⅰ区	1	2.0×10.0	旧河道・溝	瓦器・土師器	近世	
155	2013087	20130921～20130928	広根Ⅰ区	2	2.0×10.0	焼土坑・土坑	陶磁器	近世	炭・焼土が広がる
152	2013087	20130921～20130928	広根Ⅰ区	3	2.0×10.0	旧河道			
151	2013087	20130921～20130928	広根Ⅰ区	4	2.0×10.0	柱穴・焼土坑・落ち込み・石列	瓦器・土師器	中世～近世	炭・焼土が広がる
154	2013087	20130921～20130928	広根Ⅰ区	5	2.0×10.0	なし			
180	2013088	20130902～20130927	観音寺跡	13	1.0×10.0	なし	なし		西斜面
179	2013088	20130902～20130927	観音寺跡	14	1.0×8.0	なし	なし		西斜面
178	2013088	20130902～20130927	観音寺跡	15	1.0×10.0	なし	なし		西斜面
176	2013088	20130902～20130927	観音寺跡	16	1.0×13.0	落ち込み	なし		尾根上
177	2013088	20130902～20130927	観音寺跡	17	1.0×10.0	近代墓	なし		尾根上
174	2013088	20130902～20130927	観音寺跡	18	2.0×12.0	なし	なし		北斜面
173	2013088	20130902～20130927	観音寺跡	19	2.0×15.0	なし	なし		北斜面
175	2013088	20130902～20130927	観音寺跡	20	2.0×5.0	近代墓	なし		尾根上

第４節　出土品整理事業

広根遺跡Ⅰ区及び観音寺跡については、遺跡内容の関連性が高いため１本の発掘調査報告書にまとめて成果を取りまとめることとし、平成 27 年度より３ヶ年で出土品整理事業を実施した。

［平成 27 年度］

水洗い、ネーミング、接合、補強、実測をおこなった。

実施期間　　平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

実施場所　　兵庫県立考古博物館

事業主体　　兵庫県教育委員会

整理担当者　（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

調査課　西口圭介・渡辺正子

整理保存課　菱田淳子・長濱誠司・岡本一秀

作業担当者　（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部　整理保存課

柏原美音・栗山美奈・宮田麻子・森本貴子・八木和子・門田諭佳・河合たみ

［平成 28 年度］

金属器の実測・拓本、復元、写真撮影、写真整理、図面補正、保存処理をおこなった。

実施期間　　平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

実施場所　　兵庫県立考古博物館

事業主体　　兵庫県教育委員会

整理担当者　（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

調査課　西口圭介

整理保存課　菱田淳子・池田征弘・岡本一秀

作業担当者　（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部　整理保存課

大前篤子・栗山美奈・友久伸子・桂　昭子・高瀬敬子・森本貴子・八木和子・太田泉穂

門田諭佳・佐伯純子・佐々木誓子・佐々木愛・東郷加奈子・池信和彦・中井　翠

［平成 29 年度］

トレース、レイアウト、分析鑑定、報告書の刊行をおこなった。

実施期間　　平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

実施場所　　兵庫県立考古博物館

事業主体　　兵庫県教育委員会

整理担当者　（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

調査課　西口圭介

整理保存課　菱田淳子・深江英憲・大本朋弥

作業担当者　（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部　整理保存課

池田悦子・宮田麻子・前田陽子・門田諭佳・佐々木誓子・柏木明子・河合たみ

第２章　位置と環境

地理的環境

兵庫県川辺郡猪名川町は、東は大阪府豊能郡、南は川西市、西は宝塚市と三田市に接し、北は篠山市に隣接する。町域は東西８㎞・南北 18 ㎞、周囲 71 ㎞、面積 90.33 ㎢、最高所の標高 753 ｍ・最低所の標高 66 ｍである。広根地区は猪名川の支流野尻川の下流域にあたり、東西２㎞・南北 0.5 ㎞を測る盆地である。

歴史的環境

広根が登場する文献記録は古く、『新撰姓氏録』左京皇別上 42 氏のうちに広根朝臣の名が見られ、『続日本紀』延暦６年２月５日条に、「光仁天皇の皇子諸勝に広根朝臣の姓を賜う」との記事があり、これを地名起源とする説がある。

中世には多田庄の内にある。多田に源満仲が武士団の本拠を置き、天禄元年（970）に多田庄を開創したが、満仲の曾孫　源頼綱の頃には摂関家に寄進され、以後、長く摂関家領後に近衛家領となる。多田庄は、仁平三（1153）年の藤原頼長と関連して記述があり、その頃には摂関家領になっていたと考えられる。広根村は多田院文書『応安元年金堂供養棟別銭注文』（1367）に『一　広根村　百十二〈本所マテ〉』とあり、多田院から棟別銭が課されている。また、永和元年（1374）にも広根村　百廿五家が多田院の法花堂などの造営に対し棟別銭を行っている。室町時代、嘉吉元年（1441）　には、多田院御家人の筆頭格　塩川氏の一族　源頼宗が田畠を寄進している。塩川氏は守護細川氏の被官・蓮如が広根地区の最徳寺に逗留したといわれる（教行寺縁起）。

近世に入り広根村は幕府天領として摂津一国御改帳・正保郷帳などに記載があり、江戸時代を通して幕府領として推移したと考えられる。

現代に入り広根遺跡の地形環境は大きく変化している。1970 年代に入り、日生ニュータウンを皮切りに丘陵上の開発が始まり、広根地区の南側についても丘陵上部が完全に削平されてしまった。

遺跡の位置と周辺の遺跡

今回報告した広根遺跡・観音寺跡はともに、新名神高速道路建設に伴う遺跡である。各遺跡の存在する地形は第５章　地形環境に詳しい。今回の調査では、旧石器時代・縄文時代の石器、平安時代中頃から近現代の遺構・遺物が見つかっている。旧石器時代の遺物は猪名川町域では初めての発見である。

広根遺跡は広根盆地全域が含まれる広範囲の遺跡であるが、今回の調査は遺跡の西端にあたる通称陀華山の南斜面を中心に中世から近代の集落遺跡の広根遺跡Ⅰ区を調査対象とした。

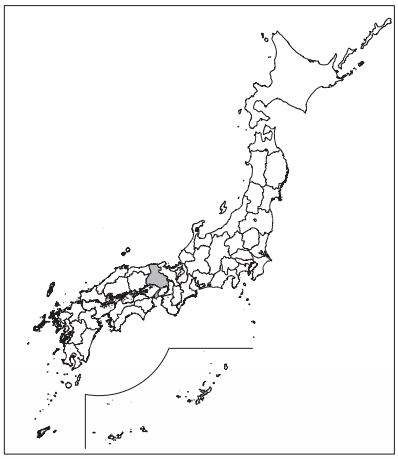
また、観音寺跡は、多田院三十三所巡り第６番札所　陀華山　観音寺跡にあたり、中世から近現代にいたる寺院・墓地遺跡である。

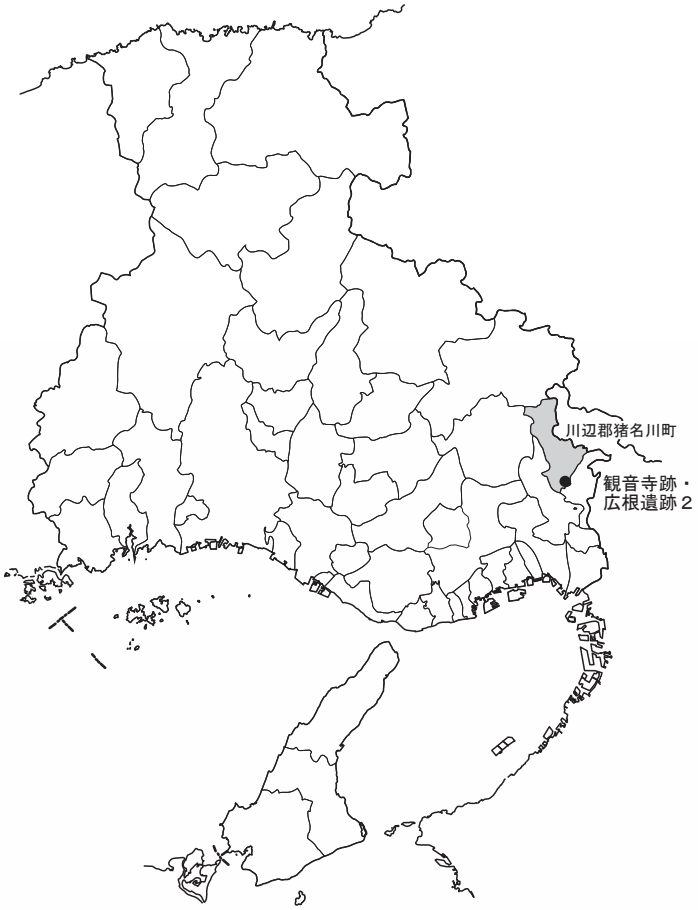
調査地点の更に西側の猪渕地区には中世の集落遺跡である猪渕遺跡があり、更に西側の八阪神社周辺には多田院三十三所巡り第５番札所　寶光山　瀧淵寺があったとされる。

【参考文献】

『摂州多田荘三十三所観音霊場』略縁起　『猪名川町教育委員会』蔵

森田千鶴　「猪名川町の墓制」『猪名川町の墓制』町史編集資料１　1985 年　猪名川町史編集室





1．広根遺跡　Ⅰ区　　2．観音寺跡　　3．広根遺跡　Ａ～Ｈ区　　4．猪渕遺跡（Ｈ24・25年度調査区）
5．和田山遺跡　　6．石道才谷・堂ノ後遺跡　　7．八阪神社

第１図　遺跡の位置

第３章　広根遺跡Ｉ区の調査

第１節　各調査区（小区）の概要

表２　広根遺跡Ｉ区　本発掘調査概要　（図版２～６参照）

遺跡調査番号	小区	主な調査担当者	調査面積	各区面積	遺構	遺物	時期	備考
2012120	Ｉ－１	渡辺・西口・中川・門田・菅澤	7487 ㎡	1557 ㎡	中世集落	近世陶磁・瓦器・須恵器・土師器	中世前期	図版９
2012120	Ｉ－２	中川・渡辺・門田		2350 ㎡	中世屋敷地・井戸・堀	近世陶磁・瓦器・須恵器・土師器	中世前期・後期	図版 10
2012120	Ｉ－３	中川・渡辺・門田		1791 ㎡	中世屋敷地・井戸・堀	近世陶磁・瓦器・須恵器・土師器	中世前期・後期	図版 11
2012120	Ｉ－４	中川・渡辺・門田		337 ㎡	中世集落・墓・柱穴	近世陶磁・瓦器・須恵器・土師器・金属器	中世前期	図版 12
2013006	Ｉ－５	多賀		(180 ㎡)	中世集落	近世陶磁・瓦器・須恵器・土師器	中近世	図版８
2013117	Ｉ－６	西口・渡辺・門田		1272 ㎡	旧河道・窯群・柱穴群・焼土坑・近世墓	近世～近代の陶磁・瓦器・須恵器・土師器・和鏡・石造品	古代・中世・近世から近代	図版 13

広根遺跡Ｉ区は調査区内の下水管・用地買収の進捗などの要因によって１～６区の小区に分かれて調査を実施している。各小区の概要は一覧に挙げたが、それぞれの小区には検出遺構の特色がある。

Ｉ－１区：中央を谷状地形が南北に貫き、その東西の微高地に遺構が存在する。現況は水田もしくは宅地によって大きく３段に造成されており、調査区は東側上・中・下段、西側上・中・下段に分かれる。ただし造成や住居の解体などによって遺構面は広い範囲で攪乱されており、遺構が良好に残る範囲は限られる。東半部の上段では掘立柱建物跡と集石土坑、下段では多数の柱穴と土坑・溝などを検出した。西半部の上段では東西方向の溝 SD1001・1002 と柱穴、下段では円形の焼土坑 SK1005 と柱穴群などを検出した。

Ｉ－２区:山の斜面部から山裾にまたがる東西約 100 ｍの細長い調査区である。山の斜面部を上段とし、山裾は東側中・下段、中央下段、西側下段に分かれる。上段では、集石土坑・溝・柱穴を検出したが、建物の復元にはいたらなかった。東側中段では中世の石積み井戸のほか、近世の石積み井戸などを検出した。東側下段では、胴木の上に石を積み上げて水溜め状のものを作った中世末頃のものとみられる集石遺構が２基並んで見つかっている。中央下段は低湿な状況で、Ｉ－３区との境と山裾部分に平行する東西方向の水路と、両者をつなぐ南北方向の水路が掘られ、排水が意識されていたようである。この南北水路は観音寺５区から延びる溝の延長である。このことから少なくともＩ－２区の上段は観音寺の一部と認識でき、３区を含めた周辺の同じ方向に規則性をもつ遺構もまた、観音寺に関連する可能性がある。西側下段では、２基の焼土坑があり、出土した丹波焼・備前焼・瓦器・東播系須恵器などから、14 世紀代とみられる。性格は不明である。周辺ではこのほか、掘立柱建物・集石土坑などが検出された。

Ｉ－３区：Ｉ－２区中央部の南側にある、ほぼ平坦な調査区である。東・南・西の３方を堀で囲まれた方形の屋敷地が見つかった。敷地内では数棟の掘立柱建物が復元でき、東南隅に方形の水溜めを伴う小型の石積み井戸が設けられていた。井戸の周辺からは焼土塊・炭片が多数出土した。堀は幅 2.5 ｍ、深

さ 1.2 mほどあり、下層より 15 世紀代の備前焼・丹波焼・土師器などが出土した。Ｉ－３区の南寄りには多数のピットが密集している。堀が設けられる以前の 13 ～ 14 世紀代の建物群が南へ広がっていた可能性はあるが、建物に復元できた柱穴はごく少なく、ピットの多くは樹木根痕であったと考えられる。

ピット群中には 4 基の土葬墓（木棺墓）が見つかっている。副葬品はなく、詳細な時期は不明であるが並列する木棺墓は 14 世紀前後に見受けられる。木棺墓群の存在は当該地が墓地として機能しており、ピット群の多くが建物の柱穴ではない可能性を補強するともとらえられる。下層確認トレンチから火山灰（AT）が見つかっている。

Ｉ－４区：Ｉ－１区から民家への進入路を挟んだ東側にある。上段と下段に分かれる。上段では掘立柱建物 2 棟と、焼土坑群・火葬墓・溝などが見つかった。焼土坑 SK4030・4031 はひょうたん形で炭層が堆積する土坑と、円形で焼土塊が入った土坑が並ぶ状況が、Ｉ－２区のものと共通している。やはり用途は不明だが、周辺からは鉄滓が出土している。また火葬墓からは、鉄刀が出土している。

Ｉ－５区：Ｉ－１区・Ｉ－２区間の農道部分の調査区である。調査前の状況は畑地と宅地の境に設けられた里道であり、南側の法面にはブロック積みの擁壁が設置されていた。幅 1 ～ 2 m、延長約 40 mの調査対象範囲について、ブロックを取り壊し、表土、盛土を除去したところ、1 ～ 2 mほどの幅で地山面が検出されたので、この面で遺構精査をおこなった。

遺構検出面は黄灰色極細砂の地山層であり、西端で標高 103.5 mをはかり、西から東に向かって低くなる。中央部に攪乱があり、その東側で幅 0.3 mほどの細長い溝 SD5002 ～ 5004 を検出した。これらの溝は近世以降の耕作に伴う鋤溝であろう。最も東側で検出した SD5005 は南肩部分を検出したのみであるが、深さ 0.3 m、幅は 0.4 m以上の規模をもつ。遺物は出土していないが、埋土から判断して鋤溝よりは古いものである可能性が高い。

調査区の西端は表土下に厚い砂礫層があり、その下で溝 SD5001 を検出した。溝の幅は約２mで、埋土からは中世の土器が出土している。

Ｉ－６区：平安時代前期の遺物、鎌倉時代と室町時代の遺構・遺物、江戸時代の遺構・遺物を検出した。

６区の北西端から蛇行しながらＩ－１区へと至る旧河道を検出しており、河道の底から下層には 9 世紀末から 10 世紀、『今□』と書かれた墨書土器（須恵器杯）や灰釉陶器椀が含まれている。上層からは鎌倉時代の遺物が出土している。旧河道の更に東側を中心に鎌倉時代～室町時代柱穴や焼土坑などを検出した。

同時代の集落が６区まで広がっていることが明らかとなった。旧河道と重複する位置からは、近世に下る方形石組を持つ水溜状遺構や石組溝、石組井戸２基などを検出した。調査区西半部からは、近代の円形の炭窯跡４基・楕円の炭窯跡２基・溝・近世墓・18 世紀代の石敷き遺構などを検出している。炭窯は 18 世紀後半から明治時代の初期にかけて営まれたと考えられる。近世墓は、観音寺の周辺に営まれた墓地の一部と考えられ、山の斜面際には一石五輪塔を伴うものも確認した。

以上、Ｉ区では古代・中世前期・中世中頃・中世後期・中世末から近世初頭・近世中頃・近世末期から近代の幅広い時期の遺構が検出された。次節以降、遺構を時期ごとに挙げてゆくが、特に断らない場合は１区から６区の順とする（図版７・８）。

第２節　古代の遺構

Ｉ区では９世紀末から 11 世紀にかけての遺物が出土しており、若干の遺構が検出されている。明確なものは、土師器小皿 20･21 が出土した３区のピット P3317、黒色土器 22･23 が出土した P3105 である。建物として復元できないが、やや径の大きなピットであり、11 世紀代の建物が存在した可能性が考えられる。以外には墨書土器・灰釉陶器が出土した６区の旧河道 SR6001 がある。

旧河道 SR6001 （図版 13・14　写真図版９）　６区の北端から南東に流れ出し、５区・１区を通り、調査区外へと流れ、おそらく現猪渕川へと流れ出す旧河道である。最大幅 6.80 ｍ・深さ１ｍ、検出全長 25.60 ｍ、調査区を縦断しており、北側に少し弧を描いて北東へ流れている。旧河道の断面形状は下半がＵ字形、上半は開く。断面図の 19 層以下は黒褐あるいは黒色調の堆積土であり、20 層以下は特にグライ化している。これらの層中からは須恵器杯Ａ・黒色土器Ａ類・土師器杯あるいは灰釉陶器椀が出土しており、９世紀から 10 世紀代の土器が出土している。また、流路の上層には瓦器椀片を含み、６区上段では中世末の SD6001 が重複している。流路の窪みは長く後代に継承されていたと考えられる。

第３節　中世の遺構

・13 世紀代の遺構　遺物から時期が明確な遺構は少なく、大半は４区 SB4001 に伴う遺構である。それ以外の遺構は、６区東端の焼土坑 6008、３区南端の SK3147・SK3150 である。

掘立柱建物跡 SB4001・柵列 SA4001・同 SA4002 （図版 15　写真図版 9・10）　４区上段において検出した。標高 100.4 ～ 100 ｍに位置する南北棟の建物跡である。桁行方位を N10°Ｅにとる総柱建物跡である。桁行南北５間（11.40 ｍ）・梁行東西２間（4.00 ｍ）以上、床面積 45.6 ㎡以上の規模である。建物の柱間は桁行 2.70 ｍと 2.40 ｍ、2.00 ｍ前後が基本である。東側の柱穴は造成・削平によって建物規模は不明である。柱穴は円形を基本とし掘方径 24 ～ 40 ㎝、深さは概ね 30 ㎝、最も深いものは約 1.24 ｍを測る。柱痕は径 20 ㎝を測る。建物の南２間分は総柱ではない。想定される建物範囲内には墓 SK4038・焼土坑 SK4026 などが存在しているが関係は不明である。柱穴 P4006 からは瓦器椀 34、P4009 からは土師器小皿 31 が出土している。また､南北方向に２本の柱列を検出している。SA4001 は４間(全長 7.0 ｍ)、SA4002 は３間（全長 6.2 ｍ）を測る。

火葬址・墓 SK4038（図版 16　写真図版 9・10）　標高 99.87 ～ 100.10 ｍ、SB4001 の南２間内にある。SX4026 の南側より検出されている。遺構は火葬址をそのまま火葬墓（納骨施設）として使用する荼毘墓である。ここでは火葬址・墓とした。火葬址は木棺墓をそのまま墓坑に埋置し、火葬したものである。木棺の痕跡は明らかではなかった。墓坑は隅円長方形、軸方向を N71°Ｗにとり、東西長軸約 148 ㎝・南北幅 60 ㎝前後・深さ 31 ㎝を測る。断面形状は丸みを帯びた箱形である。墓坑縁部分は被熱・赤変している。土坑壁際から腰刀が出土している。

土坑 SK4008（図版 16）　標高 100.20 ｍ前後に位置する。SB4001 の南２間内にある。土坑は長楕円形、軸方向を N3°Ｗにとり、長軸 94 ㎝・短軸 49 ㎝、断面形状は浅いＵ字形である。黒褐細砂・にぶい黄褐細礫混じり細砂が堆積している。

焼土坑 SX4026-a（図版 16、写真図版 9）　SB4001 の南２間内にある。標高 100.10 ｍ前後、SK4026b と切り合い新しい。土坑は長方形、軸方向を N11°Ｅ南北長辺 152 ㎝・東西短辺 132 ㎝・深さ 38 ㎝、断面

形状は箱形である。1層黒褐粗砂には、炭が含まれている。

焼土坑 SX4026-b（図版 16　写真図版 9） SB4001 の南 2 間内にある。標高 100.10 m前後、SK4026a と切り合い古い。土坑は長方形と考えられ、軸方向を N30°E にとり南北長辺 174 cm・東西短辺 106 cm以上・深さ 10 cm、断面形状は箱形である。黄灰粗砂混じり細砂・黒褐細砂が堆積する。

SX4026 からは土師器小皿 43・44、瓦器小皿 45・瓦器椀 46・47・48、土錘 50 が出土している。

土坑 SK3147（図版 14　写真図版 9） ３区南東隅、標高 100.65 m前後に位置する。南堀によって損壊され、規模・形状は不明である。南北長約 104 cm・東西残存幅 90 cm・深さ 25 cm、断面形状はU字形である。土師器小皿 37・瓦器椀 38 が出土した。

土坑 SK3150（図版 14　写真図版 9） ３区南東隅、標高 100.65 m前後に位置する。SK3147 の南西にある。卵形の土坑が重複している可能性があるが、詳らかではない。長軸を N33°E にとり、長軸 74 cm・東西幅 65 cm・深さ 29 cmを測る。断面形状は薬研状である。埋土は水平に堆積する。

焼土坑 SK6008（図版 16　写真図版 10） ６区東半にある隅円長方形の土坑である。長軸を N64°E にとり、長軸 142 cm・短軸 71 cm・深さ 22 cmを測る。断面形状はU字形で、暗灰黄・灰黄・にぶい黄色極細砂が堆積している。瓦器小椀 42 が出土している。土坑底に一辺 20 cm前後の亜角礫が 2 個残る。

・14 世紀代の遺構　遺物から時期が明確な遺構は少ない。１区の土坑 SK1007、２区西端の SK2039 と焼土坑 A・B、３区の土坑 SK3174、４区の焼土坑 SX4030・SX4031・SX4037・SX4032、溝 4025 である。概ね東・西端に遺構は集まっている。

集石土坑 SK1007（図版 17　写真図版 10） 標高 99.30 m前後、１区西端に位置する。長軸約 78 cm・短辺約 56 cm・深さ約 44 cmを測る長方形の集石土坑である。断面形状は深い箱形、10 ～ 20 cmの亜角礫が主に土坑の上層で密集する。瓦器椀片が出土し、14 世紀代と考えられる。性格は不明である。

集石遺構 SK2039（図版 17　写真図版 10） ２区南半、標高 101.50 m前後に位置する。南北約 2 m・東西 2 m程の範囲に径 10 ～ 30 cm前後の自然石が密集している。集石は 10 cm前後の盛り上がりの上に敷かれた状態で検出されている。集石を断ち割ったが土坑などの施設は確認できなかったが、集石中から土師器へそ皿 56、丹波焼甕 52、同底部 54 が出土している。14 世紀代と考えられる。集石は建物 SB2007 内に位置しており、同時存在した可能性が高い。

焼土坑 A（図版 17　写真図版 10・11） 焼土坑 B と共にＩ－２区西端、標高 101.60 m前後に位置する。長軸 1.95・短軸 1.50 m・深さ 60 cm程度、だるま型の土坑である。土坑は被熱し、焼土・炭・礫によって埋められている。

焼土坑 B（図版 17　写真図版 10・11） 長軸 1.05 m・短軸 0.80 m・深さ 35 cm程度、楕円形の土坑である。土坑は被熱し、焼土・炭・礫によって埋められている。土師器小皿 62 が出土している。

土坑 SK3174（図版 18　写真図版 11） ３区中央北よりにて検出された。標高 101.10 m前後に位置する。楕円形の土坑である。規模は長軸約 59 cm・短軸 51 cm・深さ約 32 cmを測る。

焼土坑 SX4030・SX4031・SX4032・SX4037（図版 18　写真図版 11） ４区上段北東端に位置する焼土坑群である。SX4030 は SX4037 と切り合う隅円方形の南半と 2 基の円形土坑が切り合う北半部に分かれる。SX4030 南半と SX4037 は土坑壁が焼け、炉であったと考えられる。SX4032 もまた焼土を多く含み、炉であったと考えられる。対して、SX4030 北半は厚く炭が堆積しており、炉として使用されたか否かは不明である。SX4030 より土師器鍋 70・71、瓦器椀 72、SX4031 からは瓦質土器小壺 73 が出土している。

溝 SD4025（図版 12　写真図版 9） SX4026 と切り合い新しく北側へ伸びる。北端は若干カーブを描く。

検出長 3.80 m・幅は 0.30m・深さ 7 ㎝、浅い皿状の断面形状を呈する。

・15 世紀代の遺構　遺物から時期が明確な遺構は少ない。15 世紀代の遺物を多く含む遺構として、３区の東・西・南・北堀がある。それ以外には１区の溝 SD1001、２区の集石土坑 SK2100、４区東端の炭土坑 4001 ～ 4003、６区の土坑 SK6009 がある。堀に囲まれた中から同時期の遺構は析出できていない。

東・西・南・北堀（図版 19・20　写真図版 12）　３区の大部分を囲むように堀が巡っている。規模は東西の堀で、幅 2.2 ～ 2.4 m・深さ１m前後の規模を持ち、西堀の全長 29 m、東堀の全長 26 m、南堀の内法約 45 mを測る。南堀は南肩が損壊されており、南肩と以南の状況は明らかではない。北堀は西堀北端が東へ屈曲する部分を指すが、規模が小さく大きく屋敷地を画する機能を持っていない。東・西・南堀からは 15 世紀から 17 世紀初頭の土器が出土しており、各断面からは大きく掘り替えられた形跡がある。当初は箱堀であったものがＶ字堀になった可能性が高く、その時期は西堀では 16 世紀前後と考えられるが詳らかではない。また、14 世紀代に遡る遺物が散見されるが、プライマリーな状態ではなく、周辺からの混入と判断している。西堀からは 17 ～ 18 世紀代の土器も出土しており、北堀とともに江戸時代まで継続して機能した可能性が高い。土器 75 ～ 123 が各堀出土土器である。

集石土坑 SK2100（図版 10）　２区西端部、上段・中段の境から検出された集石土坑である。南東半は削平されており規模は詳らかではないが、山側を径 2.7 m前後の半円形にカットしている。径 20 ㎝前後の亜角礫が密集する。土師器小皿 124・125 が出土している。性格は不明である。

土坑 SK6009（図版 21　写真図版 13）　６区の北東半に位置する。軸を N32°E にとる楕円形の焼土坑である。長軸約 50 ㎝・短軸 40 ㎝・深さ 23 ㎝、断面形状はＵ字形である。土師器小皿 126・陶器鍋 127 が出土している。

炭土坑 SK4001・4002・4003（図版 21　写真図版 13）　SB4001 の北側に点在する炭入り土坑で、何れも拳大の礫が入る。SK4001・4003 から丹波焼擂鉢片など、SK4002 からは土師器鍋 128 が出土した。

溝 SD1001・1002（図版 21　写真図版 13）　１区南端の南北方向の溝である。切り合い、場所によって断面形状が変化するが、SD1001 は幅約 65 ㎝・深さ 35 ㎝のＶ字溝である。丹波焼擂鉢 129 が出土した。

・その他　中世の遺構　出土遺物がなく時期が決定できないが、形態から中世、更には末期まで下らないと推測される遺構をここで述べる。掘立柱建物跡 13 棟、木棺墓 4 基である。

掘立柱建物跡 SB1002（図版 22　写真図版 14）　１区東端、標高 99.60 m付近に位置する。桁行を N48°E にとる建物跡である。未検出の柱穴が多いが、南北 4 間（8.12 m）・東西 3 間（4.96 m）、総床面積 40.27 ㎡の規模に復元できる。建物の北桁行 2 間分は総柱であるが、南桁行 2 間分の内側には柱穴がなく、土間であった可能性が高い。建物の柱間は、南北は 1 間が 1.50 m前後と 2.20 m、東西は 1 間約 1.50 m前後と 1.90 m前後である。柱穴からは図示できる遺物は出土していない。

掘立柱建物跡 SB1003（図版 22　写真図版 14）　１区、標高 99.50 m付近に位置する。軸を N57°W にとる建物跡である。最大、東西 4 間（8.60 m）・南北 2 間（4.80 m）、総床面積 41.28 ㎡の規模でに復元できる。建物は、西 1 間分が総柱であるが、東 3 間分については棟通りを支える柱が見当たらない。柱穴からは図示できる遺物は出土していない。

掘立柱建物跡 SB1004（図版 22　写真図版 14）　１区の北東隅、標高 100.90 m付近に位置する。軸を N57°E にとる建物跡である。南北１間（1.74 m）・東西 2 間（4.00 m）の規模である。建物の柱間は、東西は 1 間約 2.00 mである。柱穴は円形を基本とし掘方径 25 ㎝前後である。柱穴からは図示できる遺物は出土していない。

掘立柱建物跡 SB6005（図版 13・23　写真図版 15）　６区南東端、標高 103.90 m付近に位置する。東西軸を N77°E にとる建物跡である。最大南北２間（5.00 m）・東西３間（4.16 m）、総床面積 20.80 ㎡の規模に復元できる。建物の柱間は、東西は１間約 2.44 m・南北 2.44 m・2.56 mである。柱穴からは図示できる遺物は出土していない。

掘立柱建物跡 SB2006（図版 23　写真図版 15）　２区北東端、標高 101.90 m付近に位置する。南北軸を N47°E にとる建物跡である。南北３間（4.20 m）・東２間（3.60 m）、総床面積 15.12 ㎡の規模に復元できる。建物の柱間は南北１間約 1.30 mと 1.44 m・1.50 m、東西１間 1.80 mである。柱穴からは図示できる遺物は出土していない。建物内に土坑 SK2087 が存在した可能性がある。

掘立柱建物跡 SB2007（図版 23　写真図版 15）　２区南西隅、集石遺構 SK2039 を囲む南北軸を N42°W にとる建物である。南北２間（4.20 m）・東西２間（3.80 m）以上の規模である。建物の柱間は、南北１間約 2.10 m・東西１間 1.8 ～ 1.9 mである。柱穴は円形を基本とし掘方径 35 ㎝前後である。柱穴からは図示できる遺物は出土していないが集石と同じ 14 世紀の可能性が考えられる。

掘立柱建物跡 SB3008（図版 24　写真図版 15）　３区南西端、標高 100.80 m付近に位置する。南北軸を N44°E にとる建物跡である。南北３間（8.00 m）・東西３間（5.40 m）、総床面積 44 ㎡の規模である。建物の柱間は、東西は１間約 1.64 m・2.10 m、南北は 2.5 ～ 2.7 mと不揃いである。柱穴からは図示できる遺物は出土していない。東梁行の柱間は不ぞろいで１間分が廂あるいは土間であった可能性が高い。集石土坑 SK3099 が重複しており、機能していた可能性がある。

掘立柱建物跡 SB3009（図版 24　写真図版 16・17）　３区中央東端、標高 100.70 m付近に位置する。南北軸を N44°W にとる総柱建物跡である。東西梁行２間（3.74 m）・南北３間（6.10 m）、総床面積 22.8 ㎡の規模である。柱間は南北１間約 2.6 mと 1.60 m前後、東西１間約 2.14 mと 1.60 m前後である。建て替えが考えられる。柱穴からは図示できる遺物は出土していない。

掘立柱建物跡 SB3010（図版 25　写真図版 15・16）　３区南西隅、標高 101.00 m付近に位置する。南北軸を N43°W にとる側柱建物跡である。桁行３間（5.80 m）・梁行２間（4.60 m）の規模である。建物の柱間は、南北１間約 2.20 m・1.80 m、東西 2.20 m・2.40 mである。柱穴は円形を基本とし掘方径 40 ㎝前後である。柱穴からは図示できる遺物は出土していない。

掘立柱建物跡 SB3011（図版 25　写真図版 17）　３区南西端、標高 101.00 m付近に位置する。南北軸を N33°W にとる総柱建物跡である。南北２間（4.00 m）・東西２間（4.00 m）、総床面積 16.00 ㎡の規模である。柱穴からは図示できる遺物は出土していない。

掘立柱建物跡 SB3012（図版 25　写真図版 17）　３区南端、標高 100.50 m付近に位置する。南北軸を N42°E にとる側柱建物跡である。南北３間（3.00 m）・東西２間（2.50 m）、総床面積 7.50 ㎡の規模である。柱穴からは図示できる遺物は出土していない。

掘立柱建物跡 SB3013（図版 26　写真図版 17）　３区中央、標高 100.70 m付近に位置する。南北軸を N52°W にとる側柱建物跡である。南北４間（4.40 m）・東西１間（3.90 m）、総床面積約 17.1 ㎡の規模である。建物の柱間はばらつきがある。柱穴からは図示できる遺物は出土していない。

掘立柱建物跡 SB3014（図版 26　写真図版 17）　３区中央南側、標高 100.50 m付近に位置する。南北軸を N42°W にとる総柱建物跡である。南北２間（3.80 m）・東西２間（3.00 m）、総床面積 11.40 ㎡の規模である。建物の柱間はばらつきがある。柱穴からは図示できる遺物は出土していない。

木棺墓 SK3148（図版 27　写真図版 17）　３区中央、SK3149 と並行する木棺墓である。標高 100.60 m前

後に位置する。墓坑は不整な隅丸台形、全長 1.32 m・幅 70 cmを測る。断面は不定形な船底形で土坑底は棺底と共に長軸方向に丸みを持つ。木棺は隅丸長方形、全長 90 cm・幅 50 cm・深さ 25 cm、主軸を N27° E にとる。木棺墓上には標石と考えられる集石が認められる。明確な時期は不明である。

木棺墓 SK3149（図版 27　写真図版 17）　SK3148 と並行する木棺墓である。標高 100.60 m前後に位置する。調査区外もしくは側溝中に一部が入るため全容は詳らかではない。墓坑は不整な長方形を呈すると考えられ、残存長約 1.25 m・幅 55 cmを測る。断面は箱形を呈し、残存する深さ 10 cmを測る。土坑底は平坦である。木棺は北小口が損壊するが、長方形の棺痕跡が検出された。検出全長 90 cm・南小口幅 35 cmを測り、主軸を N27° E にとる。明確な時期は不明である。

木棺墓 SK3182（図版 27　写真図版 18）　SB3009 南側より検出された。標高 100.60 m前後に位置する。墓坑は台形を呈し、全長 1.78 m・幅は中央で 0.80 m、断面は浅い箱形を呈し、棺とされる部分が深く掘削されている。棺と認識される部分は逆かまぼこ状の形状になっており、棺底は丸い。全長 106 cm・北小口幅 60 cm・南小口幅 40 cm・深さ 36 cmを測る。主軸を N58° W にとる。断面形状から木棺ではなく、土坑墓の可能性も考えられる。

木棺墓 SK3183（図版 27　写真図版 18）　SK3182 の東側より検出された木棺墓である。標高 100.70 m前後に位置する。墓坑は長方形を呈する。全長 1.94 m・幅 98 cm・断面は浅い皿形を呈し、残存する深さ 13 cmを測る。土坑底は平坦であるが、一部窪みが認められる。土坑底は平坦である。棺は長方形、全長 1.50 m・幅 50 cm・深さ 8 cmを測る。主軸を N58° W にとる。

第４節　近世の遺構

・16 世紀から 17 世紀代の遺構　２区・３区・６区を中心に遺構が存在する。

土坑 SK2018（図版 28）　標高 101.00 m前後に位置する。直径約１m・深さ 63 cmを測る円形の土坑である。丹波焼甕 134 が出土した。土坑の性格は不明である。

井戸 SE2058（図版 28　写真図版 18）　標高 101.40 m前後、２区北端より検出した石組井戸である。掘方は楕円形を呈し、長軸 2.50 m・短軸 2.03 mである。掘方はU字形に、2.5 m前後の深さを掘削している。石組の井戸側は内法約 90 ～ 100 cmの不整円形に石材を積んでいる。石組は径 20 ～ 40 cm前後の自然石の小口面を内側に向けて積んでいる。土師器小皿 131 が出土している。

井戸 SE6002（図版 28　写真図版 18）　６区の旧河道肩部に掘られた石組井戸である。標高 93.30 m前後に位置する。掘方は楕円形を呈し、東西長軸 1.60 m・南北短軸 1.30 mである。石組の井戸側は六角形に近い不整円形に石材を積んでいる。内法の径約 80 cm、六角形とした場合、一辺が約 50 cm前後である。石組は径 20 ～ 30 cm前後の自然石（亜角礫）と径 10 cm前後の自然石（亜角礫）が使われ、高さ約１m、一辺１m前後の正方形の掘方に胴木を据え、その上に石積みを施している。掘方より青磁細蓮弁文碗 132 が出土している。

水溜遺構 SX6001・SD6001（図版 29　写真図版 19）　６区北端において検出した。SX6001 は東西幅 2.5 m・南北長約 4.0 mを測る方形の水溜と考えられ、石組を持つ溝 SD6001 が取りつき、一部東壁を共用する。水溜内には人頭大の石が充満しているが、当初はなく、桝形の石組から溝が南流していたと考えられる。溝 SD6001 は南へ流れ出るが流末は明らかではない。溝には当初石組はなく、出土した土師器小皿から推して江戸時代初期に遡るものと考えられる。

水溜遺構 SX6002（図版 29　写真図版 19）　６区、SX6001 の南側に位置する。東半を SD6001 によって切られている。もとは長軸５ｍ・短軸４ｍ・深さ 1.1 ｍを超える楕円形の水溜め遺構であったと考えられる。土坑の上面・中位には人頭大の礫が並ぶ部分があり、小規模な段が認められることから、螺旋に土坑底へ降りる溜め井であった可能性がある。

溝 SD6025（図版 13）　カマ６の北側を巡る幅 1.5 ｍ・深さ 30 ㎝の溝である。

・18 世紀代の遺構　１区～３区・６区と広範囲に遺構が出現している。２区・３区では井戸・水溜状遺構が多くみられ、６区では谷部を埋め立てている。この時期は後述する観音寺もまた遺構を形成しており、観音寺５区や１区平坦面１から延びる溝の延長がＩ－２区に伸びる（SD2050・SD2071）。観音寺の遺構と同じ北西‐南東方向に規則性をもつ遺構は、観音寺に関連する可能性がある。19 世紀代の遺構として扱った６区の窯の一部は 18 世紀代に遡る可能性がある。

土坑 SK2044（図版 30　写真図版 20）　２区中央西よりから検出した。標高 101.20 ｍ前後に位置する。不整な円形を呈し、長軸 1.15 ｍ・短軸 1.01 ｍ・深さ 30 ㎝、断面形状は箱形である。埋土には多量の炭・焼土塊を含み、土坑底には径 30 ～ 50 ㎝大の亜円礫を据える。土師器杯 140・337 ～ 340 が出土した。

土坑 SK2062（図版 30　写真図版 20）　２区中央より検出した。標高 101.20 ｍ前後に位置し、SK2043 と並列する。不整な円形を呈し、長軸 1.06 ｍ・短軸 1.02 ｍ・深さ 9 ㎝、暗灰黄色細砂～中砂を埋土とし、断面形状は浅い皿形である。施釉陶器椀 341 が出土した。

土坑 SK2049（図版 30　写真図版 20）　２区調査区西壁際より検出した。南隣の小土坑を損壊している。土坑の開口部はロート状に開き、下半は筒状に落ちる。土坑内には拳大から人頭大の礫が密集している。土坑形状から水溜め遺構であった可能性が高い。

井戸 SE2066（図版 30　写真図版 20）　２区北西半、標高 102.30 ｍ前後に位置する石組井戸である。掘方は楕円形を呈し、長軸 2.47 ｍ・短軸 2.15 ｍである。掘方は上部がラッパ状に開き、中位はほぼ真っすぐに、下部は水溜め部分の大きさで、遺構面から約 1.7 ｍの深さを掘削している。石組の井戸側は、内法約 65 ～ 70 ㎝の不整円形に石材を積んでいる。石材は径 20 ～ 60 ㎝前後、厚み 20 ㎝前後の自然石を使用しており小口面・側面両方を使用している。

水溜遺構 SX3103（図版 31・32　写真図版 20）　３区北東半に位置する。全長 6.9 ｍ・最大幅 3.8 ｍの台形の土坑に溝 SD3130 が流れ込んでいる。溝は全長５ｍを測るが、削平されており、更に上方に伸びていたものと考えられる。土坑部分は大きく石組が造りつけられている北半部分、コの字に石組が巡る中央部分、台形の土坑が突出する南半部に分かれる。南半の台形土坑が古く、石組遺構によって北半が損壊されていると考えられる。石組部分は径 20 ～ 30 ㎝の礫を３段以上に積み上げ内法長辺 2.8 ｍ・短辺 1.0 ｍ・深さ 50 ㎝の長方形の水溜を造りだしている。石組井戸を南東隅にもつ方形土坑はその南辺が、石組遺構の北壁を壊して造られており、南北幅 3.3 ｍ・東西長 3.8 ｍ・深さ 20 ㎝を測り、水が石組に集まるよう底面が傾斜している。

SX3103 内石組　SX3013 内の石組は円形の掘方を呈し、径約 1.3 ｍである。掘方はほぼ真っ直ぐに、95 ㎝の深さで掘り下げられ、中央に内径 53 ㎝の円形に石材を５段から６段積んでいる。底面に曲物などの水溜め施設はなく、小規模な施設であることから井戸ではなく、水溜であった可能性が高い。

水溜遺構 SX3001（図版 32）　SX3013 と類似する。方形土坑内に円形土坑がつく。方形土坑は南北長約 5.4 ｍ・東西幅 4.6 ｍ・深さ 18 ㎝を測り、北壁際に径約 1.95 ｍ・深さ約 27 ㎝の円形土坑が設けられている。明確ではないが、南西隅に開口部があり、方形土坑の西壁にクランクがあることから推して、溝が取り

付いていたことが推測される。溝は北堀から延びる石組溝が当たると考えられる。

埋桶群 SK2072 ～ 2074・SK2087・2088（図版 33　写真図版 21）　集石遺構の一部を損壊して円形土坑群を形成している。径は 1.4 ～ 1.8 m、深さは 50 ～ 90 ㎝を測る。土坑は何れも土坑底面の大半が平坦であり、SK2072・SK2088 では断面に埋桶状の土層が確認されており、埋桶群の可能性が考えられる。

集石遺構・不定形土坑 SX2080・SX2081・SX2090・SD2067（図版 33・34　写真図版 21）　石組に溝が取りつく水溜状遺構などが複合して検出された。当初は、SD2067 が南北 2 m以上・東西 1.5 m以上の石組をもった方形土坑に流れ込んでいたと考えられ、西側の石列を東寄りに積みなおした後、SX2081 に流れ込むよう旧土坑内の部分を石組溝に作り替え、最終的には埋没し、埋桶群に変わったと考えられる。

旧河道 SR2001（図版 10　写真図版 7）　２区の北端から南東に流れ出し、１区へと流れ込む自然流路である。幅は一定せず、流れ出す旧河道である。幅 2.3 ～ 2.8 m・深さ 90 ㎝前後を測る。18 世紀代に埋没している。

第５節　近代の遺構

・19 世紀代の遺構　一部、18 世紀代に遡る遺構も含めた。２区北端・３区北端の遺構、及び２区下段の南北・南西端の溝以外は６区に集中している。２区の溝は観音寺に伴う可能性がある。

６区の西半部では谷部を埋め立て、排水の溝を巡らせ炭焼き窯と考えられる施設を構築している。谷部埋め立て土やカマ１の灰原より下層の堆積土には 18 世紀代の遺物が含まれているが、その上部に営まれた石敷き遺構中には 19 世紀代の遺物が含まれている。この石敷き遺構を切って排水溝 SD6011 や SD6021 が営まれており、SD6020 もまた同時期に流れている。溝と前後するカマ４・２・１、SK6016 はほぼ同時期 - 19 世紀代の遺構と認識できる。これらの遺構に対し、SD6011 よりも山側のカマ５は SD6021 に取りついている。時期的には 19 世紀代に入るが、カマ４・２・１、SK6016 に先行する。カマ５に切られるカマ６は 17 世紀代の SD6025 を切り、出土遺物から 18 世紀代に遡る可能性が高い。また、カマ３についてもカマ２の下層にあり 18 世紀代に遡る可能性がある。

溝 SD6011（図版 35）　埋め立てられた谷部の中位を馬蹄形に巡り。カマ２・３・１を限る溝である。近世の石敷き遺構・カマ４を損壊しており新しい。標高 105.50 m付近を頂点に北から北東へ、南から南東へと巡る。溝幅は 1 m前後、深さ 50 ㎝を測るＵ字溝である。

溝 SD6021（図版 35）　谷部西肩沿いに北西から南東に走る溝である。カマ５の排水溝が合流する。石敷き遺構を切り SD6011 に切られる。溝幅は 1 m前後、深さ 40 ㎝を測るＵ字溝である。

溝 SD6020（図版 35・36　写真図版 22）　カマ群の北から東側を流れる溝である。溝は現地形にも残る段に沿って流れており、SE6001 付近から発し、南西に流れ、西上段裾部を南流し、クランクして調査区南壁へと流れ出す。SD6011 には切られる。規模は削平の程度によってばらつきがある。幅は 0.3 ～ 1.2 m、深さは 10 ～ 40 ㎝を測る。浅い皿状の断面形状を呈する。181 ～ 186 が出土している。

溝 SD6030（図版 35・36　写真図版 24・30）　カマ１の排水溝である。焚口から 7 m南東に走り調査区南壁に至る。溝幅 0.57 m・深さ 26 ㎝を測る。

石敷き遺構（図版 36　写真図版 22）　６区の南端で検出された径 10 ㎝前後の亜円礫を敷き詰めた遺構である。北向き緩斜面の裾部周辺に南北 5 m・東西 6.5 m以上の範囲に広がっている。南東の角には近世墓があり、墓地に伴う遺構の可能性がある。石敷きは SD6011・SD6021 に切られており、石敷きの下

層に後述するカマ群の灰原が存在する。石敷き間からは丹波焼甕 142 の一部、18 ～ 19 世紀の土器 164 ～ 175 が出土している。

集石土坑 SK2053（図版 37　写真図版 23）　２区中央西壁際より検出した。一部西壁に潜り込み形状・規模は判然としない。不整な楕円形であった可能性が高く、長軸 4.2 m以上・短軸 4.0 m・深さ 65 ㎝、断面形状は皿状であるが、南半には中位に段がつく。土坑底には固まって集石があり、水溜遺構であった可能性が高い。無釉陶器 55 が出土した。

集石土坑 SK3159（図版 37）　屋敷地状空間の北北西隅に位置する。丹波焼甕を埋納した土坑である。土坑底から丹波焼甕 196 が出土している。屋敷地の北西半、標高 97.20 m前後に位置する。土坑は楕円形を呈し、断面形状はU字形、全長約 76 ㎝・幅 54 ㎝・深さ 32 ㎝である。

土坑 SK2065（図版 37　写真図版 23）　２区北端に位置する。不整な隅円長方形を呈し、全長約 125 ㎝・幅 60 ㎝・深さ 35 ㎝、断面形状は箱形である。土坑底には径 20 ㎝前後の平石が据えられているが、性格は不明である。窯道具の焼台である鼓型土製品 190・陶製の五輪塔火輪 191・砥石 S4 が出土した。

土坑 3133（図版 37　写真図版 23）　SK3159 の西側に位置する。不整な隅円方形を呈し、一辺約 2.2 m・深さ約 90 ㎝、中位に段をもつ。礫・有機質を多く含み、性格は不明である。窯道具の焼台 193・軒丸瓦 194・軒平瓦 195・丹波焼甕 192・棒状木製品などが出土している。

土坑 SK6018（図版 38　写真図版 24）　６区カマ５・６間の北側に位置する。長軸 1.40 m・短軸 1.22 m・深さ 12 ㎝を測る楕円形土坑である。断面形状は浅い皿状、多量の焼土・炭を含む。

土坑 SK6016（図版 38　写真図版 24）　６区カマ１・３間の北側に位置する。SD6033・カマ３の焚口を損壊している。形状は洋梨形、断面形状は不整な逆台形、長軸約 2.35 m・短軸 2.25 m・深さ 52 ㎝を測る。染付磁器皿 197 が出土した。

土坑 SK6022・土坑 SK6023（図版 38　写真図版 24）　カマ２・３間、カマの盛り土下層から検出された。両者は切り合い SK6022 が新しい。ともに東西方向に長軸をもつ不整楕円形の土坑であったと考えられる。SK6022 の長軸は 2.27 m・幅 2 m前後、深さ 40 ㎝前後。SK6023 は長軸 2.93 m・幅 1.2 m以上、深さ 28 ㎝を測る。ともに炭・焼土を含む。

近代カマ跡群（図版 35　写真図版 22・24）　６基のカマ跡を６区南半部より検出した。カマは旧谷部を埋め立て構築したと考えられ､排水･排湿のため山側を中心に溝を巡らせている。カマは切り合いによって先後関係が把握できるものがある。カマ６はカマ５に、カマ３はカマ２に先行する。また、SD6021 の南西端には炭層と焼土が認められ、カマ６の南方、調査区外に更にカマが存在した可能性がある。カマは炭窯の可能性が高いが確証はなく、周辺地では岩絵の具の材料として鉱物を焼いていたとの記録もある。或いは大型の竈であった可能性も残る。このため暫定的に窯ではなくカマの用字を使用する。

カマ６（図版 39　写真図版 25・26）　調査区西端より検出されたカマで、軸を N87° W にとる。床面の標高 105.7 mを測る。東側に焚き口があり、カマ５によって損壊されている。窯体は円形で直径 2.35 mを測る。カマの床面は若干焚口側へ傾斜している。床面を断ち割ったが、貼り直しなどは認められなかった。煙道は西端にあり、左右に石を立て平石を架構した施設が確認でき、断ち割りによって煙出しも確認できた。カマ６の煙出しの北側には南北方向の幅 15 ㎝・全長 1.3 mの小溝が存在しており、カマ６とほぼ同時に機能していたと考えられるが、排水・排湿のための溝とは考え難い。また、SD6025 はカマ６の下層にあり、カマ６構築時には埋められていたと考えられる。

カマ５（図版 39　写真図版 25 ～ 27）　カマ６の東隣に位置し、軸を N3° E にとる。カマ６の焚口を壊

して構築している。窯体は円形で直径 2.3 mを測る。カマの床面はほぼ水平である。断ち割った所、硬化面の下に炭層が認められ、造り替えがあったことが判明した。煙道は北端にあり、カマ６同様左右に石を立て平石を架構した状況の施設が確認できた。煙出しは半円形の孔となっている。焚口は幅 1 mの溝状掘方の内に石材を左右に立て、内法 33 cmの焚口を造りだしている。前面には長さ 33 cm・幅 20 cmの平石を敷いている。焚口の溝は真っ直ぐ西へ延び SD6023 となって SD6021 と合流している。また分岐し SD6022 ともなり SD6021 と合流している。先後関係は不明である。

カマ２（図版 40　写真図版 28･29）　カマ３の南隣に位置し、カマ３の窯体の一部を壊して構築している。軸を N71°W にとる。窯体は新古 2 時期あり、新窯体は洋梨形で内法は長軸東西長 2.5 m、短軸南北幅 2.3 mを測る。カマの床面はほぼ水平である。窯壁は一部貼り直しが認められる。煙道は窯体の西端に、焚口は東端に造られている。煙道は床面近く低い位置に開き、外部に舌状に突き出している。焚口は石材を左右に立て、内法 40 cmの焚口を造りだしている。床面には平石 2 枚を敷いている。焚口からでた溝は真っ直ぐ 2.2 m東へ延びるが流末は定かでない。古窯体はひと回り大きく、楕円形で内法は長軸東西長 3.4 m、短軸南北幅 3.1 mを測る。煙出しは窯体から約 80 cm離れたところに開口している。

カマ３（図版 40　写真図版 28 ～ 30）　カマ２の北隣に位置し、窯壁の大半は削平されている。軸を N79°W にとる。窯体は楕円形で内法は長軸東西長 3.0 m、短軸南北幅 2.7 mを測る。カマの床面はほぼ水平であるが灰の掻き出し部分が舌状に窪む。床面を断ち割ったが、貼り直しなどは認められなかった。煙道は西端にあり、使用した石材が認められた。焚口は東端に造られている。焚口は幅 90 cmの溝状掘方の内に石材を左右に立て、内法 40 cmの焚口を造りだしている。床面には平石を敷いている。焚口の前庭部は袋状になっているが、土坑 SK6016 によって損壊されている。

カマ４（図版 41　写真図版 27・28）　カマ５・カマ２間に位置する。SD6011 に窯体を損壊されている。軸を N71°W にとる。窯体は新古 2 時期あり、新窯体は不整円形で内法は径約 2.7 mを測る。カマの床面は心持ち焚口に向かって傾斜する。また、窯体内北東側に径 30 ～ 40 cmの石材が並んでおり、性格不明の施設が造られていた。煙道は床面近くの低い位置に開き不整形の煙出しが開く。焚口は幅 80 cmの溝状掘方の内に石材を左右に立て、内法 33 cmの焚口を造りだしている。左右の石積みは焚口前庭部までラッパ状に施され、焚口を塞いだ石積みが残る。また、床面には舌状の掻き出しの溝が認められ、焚口床面部分には長 30 cm・幅 20 cmの平石を敷いている。焚口から真っ直ぐ幅 33 cmの排水溝が出るが、削平され流末は不明である。古窯体は不整円形形で内法は径約 3.0 mを測る。

カマ１（図版 42　写真図版 30・31）　SK6016 の南東に位置する。カマ跡群のなかでは最も下方にある。軸を N24°W にとる。窯体は幾度か作り替えられているが、その回数・規模は判然としない。平面・縦断面からは大きく 2 面、横断面からは古窯体の段階では 3 面、新窯体の段階では 2 面の存在が伺える。規模は、平面形から測って、新古 2 面で測った場合、不整楕円形で内法は長軸約 2.5 m、短軸 2.3 mを測る。カマの床面は心持ち焚口に向かって傾斜する。煙道は窯体外に 0.7 mほど突き出して煙り出しが開いている。焚口は幅 65 cmの溝状掘方の内に石材を左右に立て、内法 40 cmの焚口を造りだしている。左右の石積みは焚口前庭部までラッパ状に施されている。また、焚口床面部分には長 40 cm・幅 30 cmの平石を敷いている。古窯体は規模が明確ではないが、径約 3.0 mの円形であった可能性が高い。

焚口の前庭部は袋状になっており、古段階では真っ直ぐ幅 50 cm内外の排水溝が調査区外に出ている。

第６節　出土遺物

土　器

土器は、実測図を掲載したものに絞って述べる。写真のみの土器については、観察表を参照されたい。

１．古代の土器　（図版 43　写真図版 32・33）

1 ～ 19 は旧河道 SR6001 から出土した。1・2 は土師器杯。体部外面には顕著にユビオサエが残る。口縁部はヨコナデによって外反気味である。3 は土師器皿。1･2 に対して器高が低い。4･5 は黒色土器Ａ類。4 は器高の低い椀で、断面三角形の高台に浅い体部、短く外反する口縁端部を持つ。内面には横方向のヘラミガキと暗文を施す。5 は底部を欠く。口縁端部は直口する。内面には横方向のヘラミガキと暗文を施す。6 は土師器小壺の口縁部。短く外反する口縁部を持つ。器壁は極めて薄い。７は土師器長胴甕口縁部で、大きく外反し端部に面を持つ。8 ～ 11 は須恵器杯Ａである。何れも平底に短く外方へ開く杯部を持つ。10 は底部外面に墨書『今□』を持つ。12 ～ 15 は須恵器椀Ｂ。12 は底部を欠く。13・14 は厚い底部から外方に直線的に開く椀部を持つ。15 は体部が若干内湾し、口縁端部は外反する。16 は須恵器平瓶。口頸部を欠く。17 は須恵器双耳壺肩部。肩が張らず凸帯を持たない。9 世紀代後半である。18 は壺下半部で、腹径は底径の 2 倍を測る。19 は灰釉陶器椀。口縁端部は丸く収め、下半に沈線が巡る。

20 ～ 23 は３区のピットから出土した。20･21 は P3317 出土。20 は手捏ね成形の厚手土師器小皿である。口縁部は「て」の字状を呈し端部は摘み上げられる。11 世紀代前半と考えられる。21 は手捏ね成形の厚手土師器小皿で、短い口縁部が開く。22・23 は P3105 から出土。外面の口縁部以下に炭素を吸着していない黒色土器Ａ類である。22 は口縁部を欠く。断面三角形の高台を貼り付ける。23 は剥離により高台を欠く。口縁部は強いヨコナデにより外反気味。内外面ともに横方向のヘラミガキを施す。

２．中世の土器（図版 44 ～ 49　写真図版 33 ～ 39・48）

24 ～ 35 は各区ピット出土の土器である。24 は P2005 出土の瓦器椀である。内外面にヘラミガキを施し、断面三角形の低い高台が貼付される。25 は P3136 出土の瓦器小皿である。外面にヘラミガキはなく、内面には密にヘラミガキ、見込みに平行線の暗文を施す。26 は P3104 出土の瓦器椀。底部径は小さく断面三角形の高台を貼付する。外面のヘラミガキは口縁部下にまばらに施す。内面のヘラミガキも間隔が空く。見込みに螺旋状暗文を施す。27 は P2137 出土の土師器脚付き皿である。浅く、外方へ開く器形、口縁部はヨコナデによって外反する。底部外面に粘土塊による脚状の突起が貼付される。28 は P2137 出土の瓦器椀である。底部を欠く。外面のヘラミガキは口縁部下にまばらに施す。内面は横方向のヘラミガキも間隔が空く。見込みに螺旋状暗文を施す。29 は P3137 出土の瓦器椀。内外面ともに比較的密にヘラミガキを施す。30 ～ 34 は４区の柱穴出土土器である。30 は P4024 から出土した土師器小皿である。口縁部が短く外反する。13 世紀代と考えられる。31 は P4009 から出土した土師器小皿である。底部外面はヘラ切り後ユビオサエ後ナデ。口縁部は短く外方へ立ち上がる。13 世紀代前半。口縁部が短く外反する。32 は P4012 から出土した手捏ね成形のやや厚手の土師器小皿である。浅く内湾して立ち上がる。13 世紀代と考えられる。33 は P4029 から出土した鞴の羽口片である。34 は P4006 から出土した。かまぼこ状の退化した高台が貼付されるやや厚手の製品である。内面には間隔を空けた横方向のヘラミガキ、見込みには平行する暗文を施す。炭素吸着はまばらである。13 世紀前半の和泉型瓦器椀である。35 は P6020 から出土した。半球形の椀部に退化した低い高台が付く。内面は刷毛目を施した後、暗文を施す。13 世紀中頃の丹波型瓦器椀と考えられる。36 は SK3150 より出土した手捏ね成形の薄手の土師器小皿で

ある。底部は丸みを帯び、板状工具を使用しナデ調整を行っている。口縁部は短く外反し口縁端部は角頭である。内面には工具痕跡がある。37 は SK3147 から出土した手捏ね成形の薄手の土師器小皿である。底部は丸みを帯び、口縁部は短く内湾する。38 は口縁部が直線的に開くやや厚手の製品。口縁端部が肥厚し強いヨコナデによって外側に面をもつ。高台は低く扁平で外側へ拡張する。内外面ともに横方向のヘラミガキを行うが、粘土紐の痕跡が顕著である。39 は SK4038 より出土した須恵器捏鉢である。直線的な体部・口縁部を持ち、口縁端部を上方に拡張し、上端に鋭角の稜を持つ。外側には内傾する面を持つ。兵庫津編年Ｂ１類、12 世紀末から 13 世紀初頭と考えられる。40・41 は SK4048 から出土した。40 は瓦器小皿、底部にユビオサエが顕著である。41 はやや厚手の土師器小皿である。42 は小径で深い器形の瓦器椀である。内外面にヘラミガキが認められる。12 世紀代後半の丹波型瓦器椀と考えられる。43 ～ 50 は SX4026 から出土した。43 は土師器小皿である。36 と同様に内面に横方向の工具痕がある。44 は手捏ね成形の薄手の土師器小皿である。底部は丸みを帯び、口縁部は内湾気味に立ち上がる。底部はユビオサエが顕著である。45 は手捏ね成形の厚手の土師器小皿である。底部は丸みを帯び、口縁部は短く外方に立ち上がる。底部は厚くユビオサエが顕著である。46 は内面に炭素が吸着する厚手の瓦器椀である。内面にはヘラミガキを施す。47 は三角形の高台が貼付される焼成不良の瓦器椀である。内面にはヘラミガキを施す。13 世紀代の和泉型瓦器椀である。48 は三角形の高台が貼付される炭素の吸着が乏しい焼成不良の薄手の瓦器椀である。内面にはヘラミガキを施す。13 世紀初頭の和泉型Ⅲ－1 期の瓦器椀である。49 はかまぼこ型の退化した高台が貼付される焼成の良い硬質の瓦器椀である。内面には間隔を空けた横方向のヘラミガキが認められ、見込みには暗文を施す。外面口縁部下に若干のヘラミガキが認められる。12 世紀後半の和泉型Ⅱ－3 期の瓦器椀である。50 は土錘である。51 は SD3101 上面から出土した瓦器椀である。外方に体部が開きやや厚手の製品である。内面にはヘラミガキを施し鋸歯状の暗文を施している。

以下は 14 世紀代の遺構から出土した土器である。52 ～ 55 は SK2039 より出土した。52 は丹波焼甕である。口縁端部外側に面を持つ。14 世紀初頭前後の時期が考えられる。53 は小型の瓦質鉢である。口縁端部は内傾する。54・55 は無釉陶器甕である。55 は SK2053 出土破片と接合した。56 ～ 61 は２区焼土坑 A から出土している。56 は手捏ね成形の土師器小皿である。口縁部は一旦外方へ屈曲し､内湾する。兵庫津編年ⅡＢ２ａ類、14 世紀代後半と考えられる。57 は半球形の器形を持つ瓦器小椀である。小さな三角形の高台が貼付される。口縁部から内面には炭素が吸着している。58・59 は須恵器捏鉢である。58 は口縁部が肥厚し、玉縁を巻き込む形状である。14 世紀代前半と考えられる。59 は口縁端部が上下に肥厚する。14 世紀代後半と考えられる。60 は丹波焼壺である。口頸部は短く立ち上がり、口縁端部が外反し、上部に面を持つ。肩は丸い。61 は丹波焼甕である。口縁部は屈曲し水平に外方へ張り出す。端部上面には窪みを持ち、端部は外傾する。長谷川編年Ⅳ期、14 世紀代と考えられる。62 ～ 67 は２区焼土坑 B から出土している。62 は 56 と同様の形態である。63・64・65 は外方に開く体部・口縁部を持つ瓦器椀である。63・65 は断面三角形の高台を貼付している。高台径は口縁径の 1/2 を占め大きい。内外面にはヘラミガキが認められ､形態から 12 世紀代の丹波型瓦器椀と考えられる｡66 は須恵質の鍋類。短く外方へ口縁部は開き、端部は角頭である。67 は 61 と同様の形態をもつ丹波焼甕である。69 は焼土坑 A もしくは B から出土した丹波焼甕の底部である。大きく焼け歪んでいる。68 は土坑 SK3174 出土の須恵器捏鉢である。70 ～ 72 は SX4030 から出土した。70･71 は土師器鍋である。71 は硬質に焼成される。ともにやや外反した口縁端部が丸みをもち、肩の張りは乏しい。14 世紀代のものと考えられる。72 は

直線的に開く体部に直口する口縁部を持つ瓦器椀である。高台径は口縁径の 1/2 を占める。内面にはヘラミガキが認められ、形態から 12 世紀後半の丹波型瓦器椀と考えられる。73 は SK4031 から出土した瓦質短頸壺である。口縁は短く丸みを帯びる。74 は溝 SD4025 から出土した瓦器小椀である。内面にヘラミガキが認められる。

75 ～ 96 は３区東堀出土土器をあげた。75 ～ 77 は土師器小皿である。75･76 は堀下層から出土している。75 は歪みの激しい手捏ね成形の薄手の土師器小皿である。口縁部はヨコナデを施し、下位が肥厚し、底部との境に稜を持つ。76 は京都系土師器小皿である。厚手の製品、底部と体部の境は甘く、口縁部は外方に伸び、外反しない。15 世紀代と考えられる。77 は北端から出土している薄手の製品、底部と体部の境は甘く、口縁部は外方に伸び、端部は心持ち摘み上げる。78・79 は土師器羽釜である。78・79 は兵庫津編年Ⅲａ類、80 は瓦質土器羽釜で兵庫津編年Ⅲａ類、15 世紀代後半である。81 は無釉陶器須佐唐津製擂鉢である。時期は 16 世紀末から 17 世紀初頭である。82 は堀下層から出土、備前焼擂鉢ⅣＢ期（古）15 世紀後半と考えられる。83 は丹波焼擂鉢である。14 世紀代か。84 は丹波焼壺口頸部である。直立する頸部から外反する口縁部が付く。13 世紀代後半から 14 世紀代前半か。85 は北端から出土している。丹波焼甕である。長谷川分類甕Ｂ１、長谷川編年Ⅳ期、14 世紀代後半と考えられる。86 は同甕Ｂ２Ⅳ期、14 世紀代後半である。87 は 86 の下半と考えられる。88 は施釉陶器香炉、近世美濃焼系と考えられ、16 世紀後半もしくは以降の製品である。89 は 106 と形態が類似する。陶器製の燭台脚である。被熱する。90 は北端溝底から出土した丹波焼甕底部である。91 は龍泉窯系端反り青磁碗である。外面体部下半に列点文が入る。16 世紀代と考えられる。92 は龍泉窯系青磁碗底部である。高台裏は蛇の目釉剥ぎ、見込みには草花文が記される。93 は龍泉窯系青磁碗、堀下層より出土した。高台裏は部分的に施釉。見込みには草花文が捺される。94 は龍泉窯系青磁蓮弁文碗。高台裏は露胎、見込みには草花文が捺される。95 は堀下層より出土した青磁碗である。高台裏・畳付きは露胎、見込みには草花文が捺される。96 は龍泉窯系青磁碗底部である。高台裏は蛇の目釉剥ぎ、見込みには印花文がある。

97 ～ 103 は３区南堀出土土器をあげた。97 は上層から出土した手捏ね成形のやや厚手の土師器小皿である。口縁部はヨコナデを施す。14 世紀代の製品か。98 は上層から出土した手捏ね成形のやや厚手の土師器皿である。口縁部はヨコナデを施し若干外方に開く。14 世紀代の製品か。99 は須恵器椀である。相野窯椀Ｂ、10 世紀代の製品と考えられる。厚手の突出する底部、口縁端部は外反気味である。100 は備前焼系の擂鉢である。胎土に礫を多く含み、備前焼とは認められないが、備前焼擂鉢ⅣＢ期（古）の形態を持つ。15 世紀後半と考えられる。101 は備前焼系の擂鉢である。備前焼とは認められないが、備前焼擂鉢ⅣＢ期を模倣する形態を持つ。15 世紀後半～ 16 世紀代前半と考えられる。102 は中世後期の備前焼擂鉢下半部である。103 は丹波焼長谷川分類壺Ｅ２、長谷川編年Ⅲ期、14 世紀代と考えられる。

104 ～ 106 は北堀の出土土器である。104 は手捏ね成形の薄手の京都系土師器小皿である。口縁部はヨコナデによって大きく屈曲する。胎土は精良である。15 世紀末から 16 世紀初頭の時期と考えられる。105 は手捏ね成形の薄手の京都系土師器皿である。口縁端部は若干肥厚し、ヨコナデによって緩やかに外反する。15 世紀代後半と考えられる。106 は堀上層から出土した。瓦質土器燭台の脚部と考えられる。外面中位に連続した文様が捺される。15 世紀代の製品と考えられる。

107 ～ 123 は西堀出土土器をあげた。107 は手捏ね成形の土師器小皿、いわゆるへそ皿である。底部中央が大きく盛り上がり、口縁端部は厚く、心持ち外反する。兵庫津遺跡非ロクロ土師器Ⅳ類・Ⅴ期、15 世紀前半と考えられる。108・109 は瓦質土器羽釜である。108 は口縁部が若干内傾する兵庫津編年

ⅡＣ類、15 世紀中頃と考えられる。109 は口縁部が内傾する兵庫津編年ⅢＡ類、15 世紀後半から 16 世紀初頭と考えられる。110 ～ 113 は備前焼擂鉢である。110・111・112 は備前焼ⅣＢ期（古）、15 世紀末のものと考えられる。113 は備前焼ⅣＢ期（新）、16 世紀前葉である。114 は丹波焼擂鉢、16 世紀前葉と考えられる。115・116 は瀬戸美濃系天目茶椀である。ともに口縁部は直立し、端部は外側へ屈曲する。117 は胎土目唐津皿である。中層から出土している。118 は中層から出土した、美濃灰釉皿底部である。16 世紀後半である。119 は白磁玉縁口縁碗底部である。円盤型土製品に再加工されている。120 は龍泉窯系青磁細蓮弁文碗、15 世紀後葉～ 16 世紀前葉である。121 は龍泉窯系青磁蓮弁文碗である。花弁が大きなラマ式蓮弁であることから 15 世紀初頭前後と考えられる。122 は西堀中層から出土した青磁碗である。高台裏は露胎、内面見込みには草花文が不完全に捺されている。123 は西堀上層から出土した、肥前系染付青磁碗である。内面見込みに五弁蓮花が記されている。18 世紀前半である。

124 ～ 129 は 15 世紀代の各土坑出土土器。124・125 は SK2100 出土の手捏ねの土師器小皿。短い口縁部が外方に伸びる。ともに厚手で焼成が甘い。126・127 は SK6009 から出土した。126 は手捏ねの京都系土師器小皿である。底部は持ち上がり、内面の口縁部との境が深い溝状になる。短い口縁部は心持ち外反し、端部は若干肥厚する。127 は陶器鍋、口縁部が短く外反する。兵庫津編年Ⅴ類、15 世紀後半から 16 世紀初頭と考えられる。128 は炭土坑 4002 から出土した土師器鍋。口縁部は直立し端部は丸く兵庫津編年Ⅳ類、15 世紀前半から中頃と考えられる。129 は丹波焼擂鉢、擂目はヘラ描き一本引きである。

３．近世の土器（図版 49 ～ 52　写真図版 39 ～ 43）

130 ～ 139 は 16 ～ 17 世紀代の遺構出土土器である。130 は６区ピット P6026 から出土した瀬戸美濃系天目茶椀である。口縁部は直立し、端部は外側へ緩やかに屈曲する。131 は井戸 SE2058 から出土した手捏ね成形の土師器小皿である。底部が持ち上がり、体部との境は甘く窪む。口縁部は外反し、水平近く伸びる。端部は丸く収める。厚手の製品である。底部には焼成前に内外面から穿孔を施している。形態及び煤の状態から灯明皿と考えられる。132 は井戸 SE6002 掘方から出土した青磁細蓮弁文碗である。見込みには草花のスタンプ文が捺される。本個体は高台が剥がれており、砲弾型の底部となっている。133 は SK3159 から出土した手捏ね成形の土師器小皿である。底部が持ち上がり、体部との境は甘く窪む。口縁部は外方へ真っ直ぐ開く。134 は SK2018 から出土した丹波焼甕である。口縁端部は拡張し上部に面を持つ。17 世紀代後半の製品と考えられる。135 ～ 139 は SD6001 から出土した。135 は手捏ね成形の土師器小皿である。底部は丸みを帯び、体部との境は甘く、口縁部は直線的に外方へ伸びる。136 は 135 と類似した土師器小皿である。若干口径が大きく、端部を細かくユビオサエし、外傾する面を造りだしている。137 は手捏ね成形の京都系土師器小皿である。底部は平坦で、内面の体部との境は窪みをもつ。口縁部は直線的に外方へ開く。138 は小径の手捏ね成形の京都系土師器小皿である。底部が持ち上がり、体部との境は甘く窪む。口縁部は外方へ真っ直ぐ開く。内外面に線刻があるが、意味は不明である。139 は肥前系磁器製仏飯具である。高台裏が大きく窪む。1650 年から 1690 年の製品と考えられる。

140 ～ 162 は 18 世紀を中心とした近世遺構からの出土土器である。140 は SK2044 から出土した丹波焼擂鉢である。下相野編年のⅦ期、長谷川編年のⅡＢ 2a 類にあたり、18 世紀代の製品である。141 は SK2072 から出土した丹波焼擂鉢である。15 世紀代に遡ると考えられる。142 は SK2088 及び６区石敷き遺構から出土した丹波焼甕である。143 ～ 150 は井戸 SE2066 から出土した。143 は土師質土器火入れである。体部にユビオサエ痕が見られる。144 は丹波焼壺口頸部である。口縁端部は内側に巻き込み玉縁である。丹波焼長谷川編年Ⅶ期、16 世紀代と考えられる。145 は丹波焼甕上半部である。肩部が丸く、

口縁部は短く折り返す。146 は施釉陶器の尊型花入れ下半部である。147 は施釉陶器(唐津焼皿)である。内面に 4 ケ所の砂目痕がある。148 は筒形の肥前系青磁香炉である。18 世紀後半である。149 は肥前系染付磁器である。外面に二重網目文を施す。150 は肥前系染付磁器である。外面に雪輪文を描く。

151 ～ 157・160 は埋桶・集石・土坑が密集する部分から出土した。151・152 は溝状落ち込み SX2078 から出土した。151 は土師器炮烙である。底部は丸く、口縁部も内湾する。兵庫津編年Ⅳ B 類、18 世紀前半の製品である。152 は肥前系染付碗である。初期伊万里製品、外面に半截菊花文を描く。17 世紀代前半の製品である。153 ～ 155 は SX2080 から出土した。153 は手捏ね成形の薄手の土師器皿である。口縁部は内湾気味に立ち上がり心持ち肥厚する。154 は土師器炮烙である。底部は丸く、口縁部も内湾する。兵庫津編年Ⅳ B 類、18 世紀前半の製品である。155 は肥前系染付磁器である。外面に二重網目文を施す。156 は丹波焼柑口壺である。16 世紀後半の製品である。157 は丹波焼擂鉢、擂目はヘラ描き一本引きである。比較的密に引かれている。160 は SX2081 下層より出土した丹波焼擂鉢である。下相野編年の V 期、長谷川編年のⅡ B 1 b 類にあたる。年代観には幅があり、17 世紀後半～ 18 世紀代中頃の製品である。

158・159 は SX3001 から出土した土師器皿である。158 は手捏ね成形のやや厚手の小皿。丸底で深い。外面を乱方向に板状工具でナデ、底部外面に稲籾痕が残る。159 は手捏ね成形のやや厚手の小皿。径 9 cm・高さ 1.5 cm前後の扁平な器形である。口縁端部は若干肥厚する。161・162 は溝 SD2201 から出土した。161 は 19 世紀代前半の肥前系施釉陶器香炉である。162 は 18 世紀代前半の波佐見焼青白磁皿である。内面に蛇の目釉剥ぎを施し、片切り彫の文様をもつ。163 は 13 世紀代の東播系須恵器甕である。

164 ～ 175 は 6 区主に南端の石敷き遺構から出土している。164・165 は手捏ね成形のやや厚手の土師器皿である。164 は径 6.8 cm、2 寸程の小皿。底部から丸く立ち上がり、口縁端部に至る。165 は同じ造りの径 9.9 cm、3 寸程の小皿。底部から丸く立ち上がり、口縁端部に至る。166 は土製紡錘車と考えられる厚みのある円盤型土製品である。中央に下底から上面に穿孔している。167 は陶器皿である。口縁端部内面に小さく段を造り出している。内面には砂目痕があり、内面全体に鉄釉がかかる。168 は無釉陶器火入れである。169 は染付磁器蓋である。170 は初期伊万里焼染付磁器の輪花皿である。171 は施釉陶器小椀である。172 は肥前系染付青磁小杯である。見込みにコンニャク印判による五弁花を捺す。18 世紀代後半である。173 は肥前系青磁花器である。17 世紀代か。174 は施釉陶器擂鉢である。口縁端部が丸く肥厚する。175 は初期伊万里、染付磁器皿である。内面には水仙の文様、外面には唐草文を描く。

４．近代の土器（図版 52 ～ 54　写真図版 43 ～ 48）

176 ～ 180 は SD6011 から出土した。176 は割り高台を持った京都系の施釉陶器、ピラかけ椀である。19 世紀前半の製品である。177 は染付磁器で外面に柳の文様を描くそば猪口である。18 世紀代前半の製品と考えられる。178 は鉄絵を施した施釉陶器椀、19 世紀代前半と考えられる。179 は不遊環の付いた丹波焼陶器甕、18 世紀初頭前後である。180 は地蔵菩薩を象った土製品である。頭部を欠く。

181 ～ 186 は SD6020 から出土した。181 は断面三角形の口縁部に耳が貼り付けられた炮烙である。19 世紀代の製品である。182 は丹波焼徳利の口頸部である。表面に赤土べを施す。183 は肥前系染付青磁磁器蓋である。外面つまみ内側に角渦福文、蓋内面に四方襷文・五弁花文を施す。18 世紀末前後の時期である。184 は肥前系染付磁器筒碗である。185 は染付磁器碗である。19 世紀代の製品と考えられる。186 は肥前系染付磁器碗である。二重網目文を外面に描く。18 世紀初頭前後の時期と考えられる。

187・188 は溝 SD6032 出土土器である。187 は手捏ね成形、薄手の土師器皿である。底部が若干持ち上がり、底部と体部の境は甘く、口縁部は内湾気味に立ち上がる。188 は断面三角形の口縁部に耳が貼

り付けられた炮烙である。19 世紀代の製品である。

189 は SK2087 出土の備前焼徳利である。口頸部を欠く。外面底部付近はヘラ削りを施す。

190・191 は SK2065 から出土した。190 は鼓型土製品、窯道具の焼台である。191 は方形の無釉陶器で五輪塔の火輪に類似した製品である。天井部にスタンプ痕があり、裏面は被熱している。

192 ～ 195 は SK3133 出土土器である。192 は小型の丹波焼甕。193 は 190 と同形態、窯道具の焼台である。194 は軒丸瓦である。珠文は 12 個と考えられる。195 は軒平瓦である。196 は SK3159 出土の施釉陶器、丹波焼甕である。17 世紀代後半と考えられる。

以下は６区カマ周辺の土坑及びカマ・カマ周辺の包含層出土土器である。

197 は SK6016 出土の染付磁器皿で見込みに菊花文を施し、蛇の目高台を持つ。19 世紀代前半であろう。

198 ～ 202 はカマ６から出土した。198 は染付磁器の蓋、外面に蛸唐草文を施す。18 世紀代であろう。199 は口縁部が大きく外反し、水平になる丹波焼甕である。16 世紀後半から 17 世紀前半の時期が考えられる。200 は施釉陶器椀である。底部は非常に薄く、口縁端部は外反する。201 は染付磁器碗である。外面にコンニャク印版で丸に葵文を 3 ヶ所捺す。18 世紀中頃前後か。202 は肥前系染付磁器、そば猪口である。全体に器壁が薄く口縁端部は外反する。蛸唐草文を外面に描く、18 世紀代の製品である。

203 ～ 214 はカマ２周辺の谷部埋土からの出土土器である。203 は手捏ね成形の薄手土師器皿である。平底の底部と体部の境は若干窪みを見せる。口縁端部は外側が肥厚する。兵庫津編年Ⅲ類、14 世紀代後半と考えられる。204 は染付磁器、香合などの蓋であろう。205 は染付磁器丸碗である。19 世紀中頃と考えられる。206・209 は京焼系陶胎染付の土瓶とその蓋である。胴部に『道八』と書かれる。三田産である。207 は瓦質土器。コンロ等の脚部と考えられる。208 は龍泉窯青磁碗底部、見込みに退化したスタンプ文を捺す。210 は染付磁器碗蓋である。19 世紀代か。211 は染付磁器端反り碗である。高台裏に朱描きがある。焼つぎを行っている。212 は白磁端反り小杯である。底部と体部の境に明確な稜がある。213 は染付皿である。内面に蛇の目釉剥ぎを施す。18 世紀代後半の波佐見窯製と考えられる。214 は丹波焼柑口壺である。16 世紀後半の製品である。

215･216 はカマ４周辺から出土した。215 は丹波焼擂鉢である。下相野窯編年Ｘ期、18 世紀後半である。216 は瀬戸・美濃系染付磁器、外面に簡略化した草花文を施す。19 世紀前半以降の製品である。

217 はカマ５周辺から出土した。外面に雨降り文を施す染付磁器小碗である。19 世紀前半以降である。

218 ～ 220 はカマ群周辺から出土した。218 は肥前系染付磁器碗、二重網目文を外面に描く 18 世紀代の製品である。219 は施釉陶器の火入れである。口縁端部内外面には打痕が認められる。煙管の灰を落としたと考えられる。220 は道具瓦の一部と考えられる。

５．各区の包含層（図版 55　写真図版 37・48・49）

221 ～ 237 は各区の包含層出土土器である。222 は２区から出土した 16 世紀代後半の瀬戸・美濃系丸皿である。内面に木の葉文、高台裏には輪トチン痕が残る。221・223 ～ 227 は３区から出土した。221 は手捏ね成形の土師器小皿である。器高は低く、なだらかに立ち上がる。近世であろう。223 は施釉陶器の花瓶である。224 は不遊環の付いた丹波焼陶器甕である。18 世紀初頭前後と考えられる。225 は初期伊万里焼染付皿である。17 世紀前半。226 は青磁碗、外面口縁端部下に 2 本の沈線が巡る他は無文である。227 は明青花碗である。内外面に草花文を描き、高台裏に『大明年造』と記す。16 世紀末から 17 世紀初頭のものと考えられる。228 ～ 237 は６区包含層出土土器である。228 は手捏ね成形のやや厚手の土師器小皿（灯明皿）である。口縁部は内湾する。229 は備前焼擂鉢である。備前焼擂鉢ⅢＢ期、

14 世紀代後半と考えられる。230 は龍泉窯系青磁細連弁文碗底部である。見込みに草花文の一部が残るスタンプ文、高台裏は露胎である。231 は鞴の羽口。232 は近世墓周辺から出土した、手捏ね成形のやや厚手の土師器小皿である。口縁部は内湾する。丁寧にユビオサエ整形を行っている。233 は六弁輪花の三田青磁鉢である。234 は八角形の唐津焼鉄絵折縁皿である。内部にトチンの痕がある。17 世紀初頭の時期である。235 は肥前系染付碗である。236 は備前焼擂鉢である。備前焼擂鉢ⅣＢ期、16 世紀初頭と考えられる。237 は施釉陶器水滴である。京焼系、19 世紀以降に制作されたと考えられる。

金属製品

M1 ～ M34 及び写真のみ掲載の M35 ～ M37 は広根遺跡Ⅰ区から出土した金属製品である。

銅製品（図版 56　写真図版 50）

M1 はカマ１南東部の炭層から出土した銅鏡である。外区周縁のみ残存しており、直径 10.0 ㎝に復元できる。ほぼ直立する高さ 0.6 ㎝、幅 0.3 ㎝の周縁の上面や側面はやや丸く仕上げている。中縁鏡から厚縁鏡に分類される。鏡体本体は薄くなる。鏡背面には、周縁直下に直径 0.1 ㎝ほどの珠文を並べる連珠文帯、その内側に凸部の三角形頂点が内側を向く凸鋸歯文帯を巡らせ、0.1 ㎝幅の界線を挟んで斜格子文帯を配し、幅 0.2 ㎝弱のやや太めの界線を巡らせている。14 世紀初頭ごろから 16 世紀初めごろまで見られるいわゆる「擬漢式鏡」である。文様の精緻さが失われており、やや後出のものと思われる。

M2 はカマ２南側谷部から出土した飾金具である。直径 3.9 ㎝、高さ 0.9 ㎝、厚さ 0.1 ㎝の皿状を呈した銅製品で、中央に隅丸方形の孔が穿たれている。穴の周囲が歪んでいることから釘などが通されたものであろう。内面の器表面は平滑に仕上げているが、外面の穴を挟んで対向する位置に別の部品が貼り付けてあった痕跡と思われる細かい楔目が無数に観察できる。平象嵌状に箔を押したものか、蝋付けしたものかは不明である。形状は蝙蝠を思わせる。

M3 は６区下段南西隅の整地層から出土した銅製の燭台である。下端部を失うが、耳の付いた壷形を呈している。本体は鋳造品であり、中央に蝋燭を立てる先の尖った鉄製の針を埋め込んでいる。獣頭を模した飾を乗せた板状の耳を２方にもち、両耳間の本体には窓状の縁取りで囲まれた 2 対の花文を鋳出している。段を持って続く頸部には 4 方向に文様を鋳出し、大きく開いた上面は平坦で、中心に針状突起を配す。下端部は欠損している。

M4 は SD6011 の南西部出土の煙管雁首で、薄板を丸めて筒状にした先端に椀状の火皿をおそらく蝋付けしたものである。火皿内部の穿孔は非常に小さい。

M5～M11 は６区出土の銭である。M5 はカマ２南側谷部の炭層から出土した寛永通寶で、裏面上部に「元」を鋳出しており、「元字銭」と呼ばれる。大坂高津銭座で明和元（1741）年に鋳造されたとされる。カマ５西側谷部炭層から出土した M6 や、人力掘削の際に出土した M7 は新寛永である。M7 ～ M10 は 4 枚が銹着しており、残りの銭種は不明であるがほぼ同じ大きさである。M11 は寛永通寶鉄銭と思われる。

この他 P4044 から皇宋通寶他 1 点（M35・36）、鉄銭（M37）が出土しており、写真を掲載した。

鉄製品（図版 56・57　写真図版 51）

M12 は SR6001 出土の刀子である。茎端を欠くが、残存長 9.9 ㎝、刃部長 8.8 ㎝を測る。刃関は明瞭であるが、背関は不明瞭である。刃幅は 1.3 ㎝、厚さは 0.4 ㎝と比較的厚い。茎部には木質が残る。M13・M14 は同じく SR6001 出土の鉄釘である。両者とも下端を欠失するが、細くなっており、本来短いものと思われる。頭部はあまり打ち広げずに折り曲げている。

M15 は火葬木棺墓 SK4038 出土の鉄製の短刀で、全体の表面に木質が残る。現存長 26.6 ㎝、幅 4.15 ㎝で、

本体の長さは26㎝、刃部長19.4㎝、刃幅3.0㎝と思われる。X線写真で見ると茎には目釘孔はなく、背関は明瞭で、刃関は緩やかと思われる。木製の鞘に収めてあったものと思われ、柄は鞘内に一部挿入されている。刃部の厚さは0.8㎝と厚く、実用的である。

M16はSK3151出土の鉄片で、やや湾曲しており、刃は付いていない。

M17～M26は鉄製の角釘である。M17はSX4026から出土した。曲がっているがほぼ完形で短いものである。復元長5.3㎝を測る。M18はSK2083出土。全長5.95㎝を測る。ほぼ完形を保っており、折れ曲がってもいない。頭部は強く打たれた状態ではない。M19はⅠ－４区P4001出土。全長6.2㎝を測る。完形を保っており、折れ曲がってもいない。頭部も鈍角であることから未使用のものと思われる。M20はP4002出土。両端部を欠く。M21は集石出土。全長8.8㎝で、下端部は2方向のみから尖らせており、扁平である。頭部は平たく伸ばされて2段に折り曲げる。M22はカマ５西側炭溜出土。先端部を欠き、叩きつぶした頭部の直下で直角に曲がるが、やや捻れており意図的な折り曲げではなかろう。M23・24はSD6020の出土。M23は頭部のみ残存しているが、M20と同等の大きさを持つ。M24は両端部を欠く。M25はSD6030出土。ほぼ完形で、全長7.6㎝を測る。頭部は平たく伸ばされて2段に折り曲げる。M26は北堀上層から出土した。両端部を欠く。

M27は焼土坑B出土の鎌である。刃部の過半、茎部の下半を失うが木柄に固定する鉄輪は残存している。刃部幅は残存部で4.5㎝を測り、茎部とは小さな刃関でつながる。

M28はSD6001石組内で出土。細くなる部分の断面は丸く蒲鉾状であるが、本体部の両側面はやや薄くなるものの刃を付けたものではない。やや湾曲する鉄板であることから鍋などの破片の可能性もある。

M29は東堀出土の鉈である。先端部にかぎ爪の付いた形態で、先端部を欠く。茎部も短いため欠損しているものと思われる。残存長は19.8㎝、刃部幅4.9㎝を測る。

M30は機械掘削時に出土した。緩やかに弧を描く背から徐々に薄くなって刃部状となり、鎌の一部の可能性を示すが、明瞭な刃を研ぎ出したものではない。

M31はSD6011出土の帯状を呈した鉄製品で、厚さ0.35㎝、幅1.6㎝の鉄板を湾曲させているが、残存長11.2㎝で両端部を欠く。箍として用いられたものか。

M32は北西斜面から出土した。半月状の鉄板の両端部を細く折り曲げた形状で、幅5.6㎝、高さ3.8㎝を測る。両端部は本体に接するように折り曲げられている。弧状の部分は薄いが、刃は付いていない。本体の厚さも0.2㎝と薄く、工具としては華奢である。ベルトなどの先端に付けた蛇尾などが考えられる。

M33は上段出土の環状の製品で、径0.3～0.4㎝の鉄棒を縦2.2㎝、横2.1㎝の楕円形に丸め、接合部には別の鉄板を被せている。下面に方形の孔が空いており、方形の軸部と繋がっていたものであろう。

M34は北西斜面出土。厚さ0.5㎝、幅1.1㎝の細い鉄板を環状に丸め、その先端部を揃えて細く作っている。先端部を欠くが、尖らせて木材に打ち込めば、閂や扉の軸受けに利用できる。

木製品（図版59　写真図版53）

W2-1～2-8は広根遺跡Ⅰ区から出土した木製品である。全て近世に属すると考えられ、SE2066を除く遺構は近世の前半代に納まるものと思われる。

W2-1・2-6がSK2072、W2-2・2-3・2-7は石積み井戸SE2058から出土した。W2-4・2-5は集石土坑SK2073周辺からの出土である。写真のみ掲載したW2-8は19世紀頃の井戸SE2066から出土した。

W2-1は、針葉樹の板目材を用いた幅6.9㎝の板材で、一端は欠損している。木口面・側面の表側の角は面取りが施され、裏面は斜め方向に削って平滑に仕上げている。木口面には切断痕が残る。表面に

は直交方向に刃物が当たっており、溝ができている。

W2-2 は、針葉樹の半柾目板材の周囲を削って円盤状に作っているもので、外周は正円ではなく一部に直線部を残す。表から裏に向かって最大径 0.5 ㎝の穴が 3 ヶ所ランダムに空いており、表側が大きく釘孔の可能性がある。器表面には材を切り出した際の細かい傷の他、中心を通る鋭い刃物傷が観察できる。

W2-3 は、針葉樹の枝部の丸太材を用い、樹皮や枝は落としている。一端を斜めに削り、反対側にL字形の刻み目を入れて紐等で縛る足掛かりを作っている。柔軟な枝材を利用して輪を作り、綴じたもので、手網の枠と思われる。

W2-4 は、クリ材を用いた柱材で柱穴から検出された柱根である。直径約 13.8 ㎝の丸太材の下端を 2 方向から刃幅 3 ㎝程度の鋭い刃物を打ち込み、斜めに切り落とす。接地面は平坦ではない。49.1 ㎝の長さで残存し、上部は腐食している。W2-5 の杭とともに近隣の山で伐採された材を用いたものであろう。

W2-5 は、クリ材を用いた杭である。44 ㎝の長さで残存しているが、上端部は腐朽して細くなる。残存状態から 35 ㎝近く地中に打ち込まれたものと推測できる。下端部は 3 ㎝程の太さのミカン割材の一端を、5 方向から各 6 回ほど刃物を入れて尖らせている。

W2-6 は、広葉樹のミカン割材の一端を斜めに削って杭状に作るが、下端部は余り痛んでいない。残存長は 13.3 ㎝を測る。

W2-7 は、図化しなかったが一端が焼けた芯持材で、ウツギ属を用いている。当初、松明などの部品として付木としたが、樹種から見て意図的に松明の部材として用いられたものではなかろう。

W2-8 は、井戸 SE2066 の底付近から出土した漆器椀と思われる破片である。端部が残っていなかったため図化できなかった。木胎にはブナ属を用いている。内外面は赤色の漆によって仕上げており、下地は渋下地と思われる。SE2066 の埋土には 19 世紀までの遺物が含まれている。

石製品（図版 56　写真図版 52）

広根遺跡では、石鏃、硯、砥石、石臼、一石五輪塔、五輪塔が出土している。種別、材質、出土位置、法量等は広根遺跡Ⅰ区出土遺物観察表（7）石製品（表 15）に一括した。本文中において、個々の詳細は割愛する。

・石鏃（S1）　S1 は３区中央・南の面精査時で出土したサヌカイト製の凹基式石鏃である。

・硯（S2・S3）　S2 は６区の SD6011 で出土した凝灰岩製の風字硯である。全体の 1/3 程度が残存し、海部、陸部共に擦痕が顕著に認められる。S3 は、２区東下段の SD2078 で出土した粘板岩製の風字硯である。全体の 1/4 程度が残存し、陸部で擦痕が顕著に認められる。

・砥石（S4・S5）　S4 は２区 SK2065 から出土した凝灰岩製の扁平な砥石である。長方形状を呈する。片面で擦痕が顕著に認められる。S5 は３区の SK3133 で出土した砂岩製の砥石である。欠損により全体の形状は不明だが、端部より中央部にかけて厚みが薄くなっており、相当使用したことが窺える。

・石臼（S6）　S6 は６区カマ２前面谷部で出土した能勢石製の石臼の上臼側である。全体の１/3 程度が残存しており、上面でくぼみ部、供給口、下面で粉挽き部が認められる。

・一石五輪塔（S7・S8）　S7 は６区拡張部で出土した能勢石製の一石五輪塔である。空風輪、火輪、水輪の一部が残存する。特に水輪は本来の球体よりも著しく扁平な形状である。地輪部分が欠損し、埋め立て式か安置式かは不明である。S8 は６区拡張部で出土した能勢石製の一石五輪塔である。地輪部が長い完形の埋め立て式である。断面は風輪部が不正円形、水輪部が隅丸方形、地輪部が方形である。

第４章　観音寺跡の調査

第１節　各調査区の概要

観音寺跡は、県道篠山川西線より東側の丘陵部分、広根遺跡北側の丘陵上に存在した寺院・墓地遺跡である。新名神高速道路計画路線は、東西方向に丘陵を横断しており、観音寺跡のほぼ全域が調査対象となった。

観音寺跡は、『陀華山　観音寺』あるいは『陀華山　観音堂』と呼ばれる近世寺院（以下　観音寺とする。）跡である。江戸時代、巡拝に日数も費用もかかる西国三十三所巡りに対応して、北摂地方では近場で巡礼できるミニチュア版霊場巡りが複数出来た。その中でも有名な霊場巡りに、多田庄三十三所観音霊場巡りがある。元禄八年（1695）刊行の『多田庄巡礼三十三所略縁起』によれば多田院別当二十六世　尊光が元禄六年に発願開創したとされる。

調査区は、１区（平坦面１～４）・２区・３区・４区・５区の５区に分かれる。概要は一覧表にあげた。

表３　観音寺跡　本発掘調査概要（図版 2・60・61 参照）

遺跡調査番号	小区	主な調査担当者	調査面積	各区面積	遺構	遺物	時期	備考
2013086	１区	渡辺	6300 ㎡	2943 ㎡	近世寺院	近世陶磁・丹波焼	近世	平坦面１・２
2013086		西口・門田			中世寺院	瓦器・丹波焼・瀬戸・石造品	中近世	平坦面３・4
2013086	２区	渡辺・西口・門田		1380 ㎡	近世墓地	土師器皿・近世陶磁・丹波焼甕・土師器鍋・石造品・錫杖	中近世から現代	土・火葬骨
2013085	３区	渡辺		418 ㎡	焼土坑・溝			
2013086	４区	西口・門田		592 ㎡	中世墓地	土鍋・捏鉢・瓦器・土師器皿・銭・石造品	中世	火葬骨
2013118	５区	渡辺		967 ㎡	近世寺院		近世	

観音寺を構成する要素は、大きく１区・５区が対応する寺院跡と、２区・３区・４区が対応する中近世墓地跡に分かれる。以下、寺院の調査と墓地の調査に節を分け、区ごとに概要を述べてゆく。

第２節　寺院跡の調査

寺院跡は通称『獄山』（だけさん）の尾根上（中世墓地４区）直下から山裾にかけての南東斜面を中心に広がっている。即ち、南へ伸びる尾根（中近世墓地２区）と東へ伸びる尾根（５区上方）の間の懐部に寺院は存在した。主要部分は南東斜面の１区にあたり、階段状に大きく４つの平坦面から構成されている（平坦面４～１）。調査の結果、上部の平坦面が古く、下部の平坦面が新しいことが判明した。山裾の平坦面１の更に南東下方に広根遺跡Ｉ－２区、北方にＩ－６区が接続している。

また、これら平坦面の北西側には麓から頂上の４区に至る深く地表が抉れた幅２ｍに満たないＶ字溝状の山道が通っている。これは参道・墓参道として機能していたと考えられ、平坦面３・４の東では直線的に山頂へと向かっている。この山道を挟んで東尾根先端及びその南東斜面には大きく４つの平坦面があり、これらを５区として調査した。５区の直下が広根遺跡Ｉ－６区にあたる。

・１区平坦面４（図版 61・62　写真図版 54・55）　尾根直下の南東向き斜面を大きくコの字に掘削し、谷側に土を盛りだし、軸方位を N22°E にとる長方形の平坦面を造りだしている。標高約 129.00 m前後から掘り込み、遺構面は約 124.70 m前後を規模は南北長約 42 m・東西幅約 12 mを測る。北端は参道を挟み５区上段に至り、南端は２区上段とつながっている。この平坦面は下段の平坦面１・２と異なり石垣を伴っていない山側裾部に排水溝を巡らせ、平坦面の中を区画溝によって大きく南北に３分割している。一番東側の区画溝は石組を伴っており、火災による焼土で埋没したと思われる。このほか、素掘りの井戸 SX1411・1412 や石組溝よりも古い地山整形の痕跡 SX1409 などが見つかっている。

井戸 SK1411・SK1412（図版 61　写真図版 55）　平坦面４西端、標高 124.90 m前後に位置する。南北に並んだ素掘りの水溜状遺構である。SK1411 は円形、軸方位を N65°W にとり、長軸 0.83 m・短軸 0.77 m・深さ 1.13 mを測る。岩盤を垂直に掘り下げている。施釉陶器椀 601 が出土している。SK1412 は卵形、軸方位を N25°E にとり、長軸 1.62 m・短軸 1.35 m・深さ 0.70 mを測る。大きく開いた土坑である。共に礫を含んだ粗砂混じり細砂が堆積している。

SX2101 内不整形土坑（図版 62　写真図版 55）　平坦面４の南隅、標高 124.10 m前後に位置する。２区の遺構として調査を実施した。土坑は３方を溝で囲まれた中にあり、短辺 4.5 m・長辺 6.8 m・南北長 6.7 mの台形の落ち込みが存在する。断面形状は浅い皿状である。落ち込み南西寄りに土坑を検出した。軸方位を N50°E にとり、長軸 1.28 m・短軸 1.03 mを測る。

溝 SD1401（図版 61）　平坦面４の西側山裾を巡る排水溝である。幅約 40 ㎝・深さ 23 ㎝を測る。溝内から青磁碗 605、溝に伴う集石から備前焼擂鉢 604 が出土しており、16 世紀には平坦面４が機能していた。

下層の遺構　SX1409 ほか（図版 61　写真図版 54・55）　平坦面の北 1/3 では数度に亘って谷側に溝を巡らせ、整地土によって嵩上げを行っている。この部分を SX1409 とした。石組溝 SD1406 が最も新しい谷側の区画溝である。土器 602・603 が SX1409 の盛土内より出土している。

・１区平坦面３（図版 61　写真図版 56）　平坦面３においても大きく造成が行われたことが今回の調査で判明した。南東向き斜面を大きくコの字に掘削し、谷側に土を盛りだし、軸方位を N45°E にとる長方形の平坦面を造りだしている。標高約 121 m前後から掘り込み、遺構面は標高約 116.80 m前後、規模は南北長約 31 m・東西幅約 18 mを測る。この平坦面は下段の平坦面１・２と異なり石垣を伴っていないが、軸方位は平坦面２と近い。山側裾部に排水溝を巡らせ、何度か作り替えている。特に北端には石組の暗渠排水溝が初期に構築されている。

集石土坑 SX1304（図版 63　写真図版 57）　標高 116.70 m前後、平坦面３の南半に位置する。長軸約 4.08 m・短軸 3.45 m前後・深さ約 60 ㎝を測る隅丸方形の集石土坑である。土坑は上層に炭を含む黒褐粗砂混じり細砂、中層に集石、下層に褐シルト・黒シルトなどが入る。土坑は谷部に掘られており、更に外側に不整形な落ちが認められる。土坑内からは瓦器椀 624 も出土しているが、土師器鍋 623・丹波焼擂鉢 625・壺 626、瀬戸美濃系皿 627 から、15 世紀代後半頃と考えられる。

集石土坑 SX1303（図版 63　写真図版 57）　SX1304 の北側にある集石土坑である。長軸約 1.76 m・短軸 1.48 m・深さ約 18 ㎝を測る楕円形の集石土坑である。土坑内から土師器小皿 621・622 が出土している。

中層・下層の遺構（図版 65　写真図版 56）　東半部分では少なくとも 3 度の地業が行われている。中層では、北端コーナー部分には水溜遺構 SE1302 が、北東端には集石土坑が検出されている。また、下層では石組暗渠を複雑に通しており、この部分には古い谷部が存在しており、その窪みは平坦面４の上方に残っている。

井戸 SE1301・1304（図版 64　写真図版 58）　平坦面３西端、標高 117.00 m前後に位置する。長軸 2.45 m・短軸 1.95 mの楕円形の掘方の中に、南北に切り合った２基の水溜状遺構がある。SE1301 は長径 30 ㎝前後の石材を円形に巡らせ、内径 90 ㎝の井側を３段から５段積んでいる。井戸底は岩盤を垂直に掘り下げ、深さは 1.27 mである。SE1304 は SE1301 と切り合い古く、径 1.2 m前後の円形の掘方を持つ。

水溜遺構 SE1302（図版 64　写真図版 58）　平坦面３北端、標高 117.00 m前後に位置する。長軸 2.75 m・短軸 2.50 mの不整楕円形の掘方の中に、西～南縁に石列が残る。径 30 ㎝前後の石材を円形に巡らせ、内径 1.4 m程の円形の水溜を作っていたと考えられる。遺構は多量の礫によって埋没しており、中層の遺構と考えられる。

水溜遺構 SE1303（図版 64）　平坦面３南西端、標高 117.10 m前後に位置する。径 85 ㎝前後・深さ 15 ㎝の不整円形の土坑である。岩盤を皿状に掘り下げており、雨水を貯める遺構と考えられる。

溝 SD1301・SD1304・SD1310（図版 61・64）　山側を巡る溝は概ね幅 60 ～ 40 ㎝、深さ 10 ㎝程度、浅いＵ字形である。にぶい黄褐極細砂からシルトで埋没している。

集石土坑 SX1307（図版 65　写真図版 58）　平坦面３東端において東西長 4.3 m・南北幅 4.2 m以上の方形土坑に人頭大の亜円礫が多量に入れられている。同規模の土坑と切り合っており、水溜め遺構の可能性がある。周辺より石臼が出土している。

暗渠遺構（図版 66　写真図版 59）　平坦面３の北端下層には稲妻形に暗渠が検出されている。暗渠の西半部は比較的大型の石材を用い、一辺 40 ㎝近くの石材で蓋をしている。この部分の暗渠は地山を深く下げず、盛り土の中に暗渠を通している。東半分は、用材も小さく、蓋石についても小ぶりな石材を使用し、地山を深く掘り込んでいる。また、蓋石の上部には亜円礫を多量に入れている。

集石遺構 SX1301（図版 66　写真図版 58）　平坦面３の南南西端斜面際に位置する。平坦面のコーナー部分に径 15 ㎝前後の亜角礫が密集している。性格は不明である。

以上、平坦面３・４、二つの平坦面からは 15 世紀代の中国製青磁碗や国産の天目茶椀片・丹波焼擂鉢・丹波焼甕・瓦質風炉・小柄などが出土しており、15 世紀代に使用されていたことが明らかとなった。

・１区平坦面１・２（図版 67　写真図版 60）　平坦面２は平坦面３の南東下方に営まれた近世の区画である。南東向き斜面を大きくコの字に掘削し、谷側に土を盛りだし、軸方位を N35°E にとる平坦面を造りだしている。北端は調査の都合上５区の下段に一部含まれている。標高約 116 m前後から掘り込み、遺構面は約 112 m前後を規模は南北長約 35 m・東西幅約 16 mを測る不整平行四辺形の調査区である。この平坦面の丘陵裾部には溝が巡らされており、谷側には大規模な石垣を巡らせている。最も高いところで３mを測る。平坦面１との間には斜路（通路）や階段などの施設を伴っており、石垣の基礎も斜路に沿って斜めに築いている。石垣で囲まれた部分が寺院跡と考えられるが、寺院に直接関係する遺物は出土していない。

また、平坦面２では焼土・炭を伴う遺構が多く見られ、水甕も２基確認している。平坦面１の西側には土堤を３方に築いて池を作っており、近代以降の構築と思われる。池底には排水口を設け、南側谷部に排水する施設を伴う。

東埋甕（図版 67　写真図版 60）　平坦面２、北側に据えられている。径 1.25 m・深さ 80 ㎝の掘方に腹径 70 ㎝の無釉陶器甕 652 が据えられている。甕の上半は内部に崩れ落ち、更に上部に人頭大の石が多数内部に落ち込んでいる。

西埋甕（図版 67　写真図版 60）　平坦面２、南側に据えられている。掘方は正方形に近く一辺 65 ㎝・

深さ 53 ㎝を測る。甕は径 48 ㎝の丹波焼甕 653 である。甕の口縁部付近は内部に崩れ落ち込んでいる。

土坑 SK1104（図版 67 写真図版 61） 平坦面 1、北半石垣際にある。長軸約 0.54 m・短軸約 0.48 m・深さ約 34 ㎝の土坑である。断面形状から埋桶遺構であったと考えられる。

土坑 SK1204（図版 67　写真図版 60） 平坦面２、東端。斜路近くの石垣上にある楕円形の土坑である。長軸 1.15 m・短軸 0.84 m・深さ 37 ㎝を測る。性格は不明である。

落ち込み SX1202（図版 67　写真図版 61） 平坦面２、斜路の延長上にある。延長約 6.6 m・幅 2.0 m・深さ 35 ㎝を図る。舟底形であるが、斜路の続きにあることから通路の一部であった可能性が高い。

石垣と斜路（図版 68　写真図版 61・62） 近世観音寺に関わると考えられる石垣を平坦面１・２間中心に検出している。

平坦面１・２間の石垣部分は観音寺の通路と考えられる。斜路は平坦面２の南東角を曲がり、SX1202 へと続く。

平坦面２側の石垣の高さは最高 3.4 m、平坦面１側の高さは 1.6 m前後である。使用された石材は平坦面２側の石垣で大きく、一辺 50 ㎝を越える石材が多く認められる。

平坦面１側の用材は小さく一辺 20 ㎝前後の石材の使用が主である。斜路の幅は 1.4 m、東西方向の石列が斜路上から検出されている。斜路は斜度 15°を測り、歩行を補助する段であったと考えられる。

・５区（図版 69・70　写真図版 63） 調査対象地は急斜面であるが、僅かな平坦面が存在する。地形的に上段・中段・下段として調査を行った。中段だけ東西２箇所に分かれているので、中段東平坦面・西平坦面と呼称した。

上段平坦面には明確な遺構は検出されず、斜面で SD5001 が検出されたが、自然地形の可能性が高い。

中段東平坦面では溝状遺構２条と土坑３基と礫群が確認された。礫群は意図的に敷設されたかと考えたが、明確ではない。溝は東西方向（SD5004）と南北方向（SD5003）がある。意図的に方形に巡るようにされたと思われるが、内部に掘立柱建物などは確認されていない。

中段西平坦面では溝（SD5002）と土坑３基と石組遺構（SX5001）・ピットを調査した。SK5001 は炉跡の可能性があり、東側に平坦な石材が置かれていた。鍛冶遺構に伴う鉄床石と思われ、小規模な鍛冶を行っていたようである。

下段は近世墓である。斜面に一石五輪塔などが調査前まで残存していた。今回調査したところ土坑・石組が確認されたが明確な遺構は検出できなかった。陶磁器・土師器が出土している。

近世墓を調査したが土坑・石組がかろうじて残っているだけであった。平坦面も溝を巡らすが、建物などの遺構は確認されなかった。１基だけ鍛冶炉が検出された。

第３節　墓地跡の調査

墓地跡は通称『獄山』（だけさん）から南北方向に延びる尾根上（中世墓地４区）４区から南へ伸びる尾根（中近世墓地２区）と東へ伸びる尾根（５区上方）に存在した。主に４区と２区から検出されており、５区下段と広根遺跡Ｉ－６区にも若干の近世墓が検出されている。５区と広根遺跡Ｉ－６区の近世墓については前述した。

・４区の中世墓地（図版 71　巻頭写真 3　写真図版 64） 通称『獄山』（だけさん）の尾根上（中世墓地４区）において、14 ～ 15 世紀にかけての火葬墓群を検出した。

中世墓は標高 141.50 mの尾根上の頂部と東向き斜面に形成されている。尾根上は北北西から南南東の長軸約 23 m、東北東から西南西が短軸約 8 mの平坦面となっている。北西端には幅 3 m・深さ 30 ㎝の浅い箱形の溝があり、墓地の北端を限っている。これはトレンチ 176 によって確認した。

検出された墓の大半は火葬墓である。火葬を行った後、骨を拾い、その火葬址上や近接地に石囲いや集石、平石による納骨施設、須恵器捏鉢や土師器鍋を使用した蔵骨器を使用し、納骨・追善供養を行っている。取り分け火葬址の上部に集石を行い納骨していることが多い。火葬址（火葬土坑）は、円・楕円・長楕円・隅丸長方形の形状があるが、加えて楕円・長楕円の一端が角ばるもの - 方形に近いものがある。便宜的にこれを砲弾形とする。

土坑はにぶい黄褐細砂（地山土）によって埋め戻されていることが多く、火葬に伴う炭を火葬骨と共に丁寧に清掃している例がある。また、丁寧な清掃を行わず、厚い炭層を残すもの、植物根が多く入り込み、自然に埋没した可能性があるものも存在する。調査に際しては、まず上層の遺構として集石遺構の精査・記録を行い、下層の遺構として火葬址群の精査を行い、後に両者の関係を検討した。また、最も標高の低い斜面には数基、円形の浅い土坑が存在しており、これらは簡易な土葬墓の可能性も残る。

また、経塚に使用された可能性の高い瓦質の筒状土器が数個体分出土しており、経塚が遺跡内に存在した可能性が高い。

中世墓地は大きく２つの群に分かれ、北西半部の尾根上部にある一群を便宜上『北群』、尾根端と尾根東斜面に沿って展開する中世墓群を便宜上『南群』と呼称している。

両群は更に小規模な群（小支群）に分けることが可能である。以下、各墓について述べるに際し、上部の納骨が明確な火葬施設（火葬址）については火葬址・墓とし、上部の納骨施設が検出できず、火葬が概ね１回で終わるものについては火葬址、上部の納骨施設については集石・石囲いの文言を付加した。また、２区において言及する、複数回火葬を実施している火葬施設については火葬場あるいは共同火葬場の文言を使用する。

（北群） 尾根北西半の長辺８m×短辺４mの範囲から集石遺構 12 カ所、火葬址 12 カ所、土坑３カ所、焼土１カ所を検出した。遺構は２列になって南北方向に展開することから、東列をＡ群、西列をＢ群とした。**（図版 72　写真図版 65）**

A 支群：火葬址 SX4001・SX4002・SX4005・SX4007・SX4003・SX4004、集石 4025・4026・4027・4004・4028・4029・4030、土坑 SK4001・SK4002・SK4003 より構成される。各火葬址・墓に切り合いはない。

火葬址・墓 SX4001・集石 4026（図版 72　写真図版 65） 標高 141.50 m前後、SK4001 の南に位置する。

下層の火葬址は長軸を N50°E、隅丸長方形の土坑である。長軸 100 ㎝・短軸 50 ㎝・深さ 18 ㎝前後を測る。土坑壁は被熱し、断面形状はＵ字形で底面は平坦である。中層に炭が堆積し、黄褐砂で埋まる。火葬址内には径 15 ～ 20 ㎝の平石が 3 個検出され、床面に密着している。南半を中心に火葬骨が残る。上面には集石 4026 が乗る。円形に集石する部分は他例から推して納骨部分と考えられる。

火葬址・墓 SX4002・集石 4027（図版 72　写真図版 65） 標高 141.40 m前後、SX4001 の南側に位置する。下層の火葬址は長軸を N12°W、長楕円形の土坑である。長軸 100 ㎝・短軸 45 ㎝・深さ 21 ㎝前後を測る。土坑の壁・底は被熱し、明黄褐細砂～極細砂で埋まる。土坑底には径 15 ～ 20 ㎝の平石が 3 個検出され、南半を中心に火葬骨が残る。上面には集石 4027 が位置しており、標石と考えられる。

火葬址・墓 SX4005・集石 4004（図版 73　写真図版 65・66） 標高 141.50 m前後、SX4002 の南側に位置する。長軸を N19°W にもつ長軸 88 ㎝・短軸 44 ㎝・深さ 33 ㎝を測る不整な長楕円形の土坑である。断面形状

は深いＵ字形である。土坑底には炭・灰を多く含み、黄褐極細砂によって埋まる。火葬址内には径 15 ～ 20 ㎝の平石が 3 個あり、南半を中心に火葬骨が残る。平石の下面に炭・灰層があることから、火葬土坑は複数回使用された可能性がある。上面には集石 4004 が乗る。集石は人頭大の石を含み一辺 90 ㎝ × 60 ㎝の長方形に集中していることから方形区画を形成し上面に石塔が乗っていたとも考えられる。

火葬址・墓 SX4007・集石 4028（図版 73　写真図版 66）　標高 141.60 ｍ前後、SX4002・SX4005 間の西側に位置する非常に小型の火葬土坑である。長軸を N29° W に、長軸 40 ㎝・短軸 22 ㎝・深さ 18 ㎝前後を測る不整な長方形の土坑である。断面形状はかまぼこ形で底面は丸い。土坑壁が一部被熱している。褐細砂などによって埋められている。上面には集石 4028 が乗る。納骨施設であった可能性がある。

火葬址・墓 SX4003・集石 4029（図版 73　写真図版 66）　標高 141.50 ｍ前後、SX4005 の南方に位置する。長軸を N22° E・長軸 79 ㎝・短軸 27 ㎝・深さ 16 ㎝前後を測る不整な長楕円形の土坑である。断面形状は箱形である土坑埋土の上層には炭・焼土、中層には焼土を多く含む。土坑底には明黄褐粗砂が入る。土坑縁部が被熱する。上面には水平に集石 4029 が乗る。納骨施設の可能性がある。

火葬址 SX4004・集石 4030（図版 73　写真図版 67）　標高 141.50 ｍ前後、SX4003 の西方に位置する。間を置き、SK4002 と並列する。長軸を N20° E にもつ長軸 150 ㎝・短軸 61 ㎝・深さ 32 ㎝前後を測る不整な楕円形の土坑である。断面形状は箱形で底面は平坦である。土坑内には径 15 ～ 20 ㎝の平石が 3 個検出される。１層以外には多量に炭・灰を含んでおり、丁寧な清掃が行われていない。土坑縁部が被熱する。上面には被熱した集石 4030 が乗る。

土坑 SK4001（図版 73　写真図版 67）　標高 141.50 ｍ前後、SX4001 の北側に位置する。長軸を N85° W にもつ長軸 88 ㎝・短軸 52 ㎝・深さ 16 ㎝前後を測る不整な楕円形の土坑である。断面形状は皿形で底面は丸い。黄褐シルト質細砂で埋まる。被熱・炭がなく、火葬址と判断できない。

土坑 SK4002（図版 73　写真図版 67）　標高 141.50 ｍ前後、SX4004 と並行する。長軸を N17° W にもつ長軸 60 ㎝・短軸 46 ㎝・深さ８㎝前後を測る不整な楕円形の土坑である。断面形状は浅い箱形で底面は平坦である。土坑底に径 10 ～ 20 ㎝の石が２石検出されている。埋土には炭を含む。当初、性格不明であったが、類例から火葬址と判断される。

土坑 SK4003（図版 73　写真図版 67）　標高 141.40 ｍ前後、SX4004 の南方に位置する。径 78 ㎝・深さ 18 ㎝前後を測る不整な円形の土坑である。断面形状は箱形で底面は平坦である。

B 支群：火葬址 SX4008・SX4009・SX4010・SX4011・SX4012・SX4013、集石 4001・4002・4003・4024 より構成される。

火葬址・墓 SX4008・集石 4001（図版 73　写真図版 68）　標高 141.40 ｍ前後、B 支群の北西端にある。SX4009 に切られる。軸方位を N17° W にもつ長軸 150 ㎝以上・短軸 76 ㎝・深さ 30 ㎝前後を測る不整な楕円形土坑である。断面形状は深い箱形で底面は平坦である。土坑底には炭・骨灰が堆積し、上・中層は黄褐土・褐色土によって埋められている。火葬址内には径 15 ㎝前後の角礫が 2 個検出されるが原位置を保っていない。上面には集石 4001 が乗る。集石は人頭大の石を含み平石が連なることから上面に石塔が乗っていたとも考えられる。

火葬址・墓 SX4009（図版 73　写真図版 68）　標高 141.40 ｍ前後、軸方位を N5° W・長軸 118 ㎝・短軸 63 ㎝・深さ 48 ㎝前後を測る不整な洋梨形の土坑である。断面形状は深い箱形で底面は平坦である。内には床面に密着した径 15 ～ 20 ㎝の平石が 3 個検出される。土坑の壁はよく被熱している。土坑底には炭が堆積している。また１層の平石と 4 層は納骨施設であった可能性が高い。

火葬址・墓 SX4010・集石 4024（図版 74　写真図版 68・69・70）　標高 141.40 m前後、SX4011 を切る。軸方位を N33°E・長軸 110 cm・短軸 64 cm、深さ 35 cm前後を測る砲弾形の土坑である。断面形状は深い箱形で底面は平坦である。土坑底には棺台石として径 15 ～ 20 cmの平石が４個ある。棺台の石は３列で、南端の１列は石を２個並べている。土坑はよく被熱し、土坑下半には炭が堆積し、上半は灰黄褐土によって埋められている。また、上面には集石 4024 が乗る。集石は人頭大の石を含み平石が連なることから上面に石塔が乗っていたとも考えられる。

火葬址・墓 SX4011・集石 4003（図版 74　写真図版 69・70）　標高 141.40 m前後、SX4012 を切る。軸方位を N3°W・長軸 95 cm・短軸 62 cm・深さ 40 cm前後を測る不整な涙滴形の土坑である。断面形状は深い箱形で底面は平坦である。土坑底には径 21 ～ 32 cmの平石が 4 個検出される。その内の北の棺台は上下 2 石で構成されており、下の１石は切り合った SX4012 の棺台石を利用したものである。上面には集石 4003 が乗る。集石は人頭大の石を含み平石が SX4012 側から連なることから上面に石塔が乗っていたとも考えられる。

火葬址・墓 SX4012・集石 4003（図版 74　写真図版 69・70）　標高 141.50 m前後、SX4011 に切られる。軸方位を N6°E・長軸 98 cm・短軸 64 cm・深さ 61 cmを測る不整な長楕円形の土坑である。断面形状は深い箱形で底面は平坦である。土坑底には棺台石として径 15 ～ 20 cmの平石が４個ある。棺台の石は３列で、南端の 1 列は石を２個並べており、SX4010 と類似している。

集石 4002（図版 74　写真図版 69）　SX4009 と SX4012 の間、標高 141.60 m前後に位置する集石である。長辺 120 cm・短辺 70 cmの範囲で平石が集中する。上面に石塔が乗っていた可能性がある。

火葬址 SX4013（図版 72　写真図版 70）　標高 141.45 m前後、SX4011・4012 の東側に位置する。軸方位を N13°E・長軸 100 cm・短軸 45 cm・深さ 30 cm前後の不整な長楕円形土坑である。断面形状は深いＵ字形である。土坑は被熱が明瞭で底面に若干炭が残るが、にぶい黄褐細砂によって埋められている。

焼土（図版 72）　SX4004 の南西方向 1.2 mに 60 × 60 cmの範囲で焼土が検出された。焼土坑の底面の残欠である可能性がある。

（南群）尾根端及び尾根東斜面から集石遺構 17 カ所、火葬址と墓 47 カ所、土坑 9 カ所、焼土坑 2 カ所を検出した。遺構は大きくは尾根端にあり、溝と集石・土坑から構成される C 群、東斜面に南北方向に 3 ～ 4 列で営まれている墓群を D・E 群、南端にある西向き傾斜面にある 2 基を F 群、斜面下に離れて位置する３基を G 群とした。このうち、E 群は遺構群の粗密から、上層の集石（納骨施設）の分布をもとにＥ－１群・Ｅ－２群に分かれる。**（図版 75　写真図版 71）**

C 群　厳密には北群と南群の間に位置する遺構群である。尾根端から斜面にかけて存在する集石が主な遺構である。集石のうち集石 4018-a・b は形状から納骨に伴う集石の可能性が高い。

集石 4018-a（図版 74　写真図版 71）　標高 141.25 m前後、SD4001 の東側に位置する。長軸 37 cm・短軸 29 cm・厚さ 10 cm前後の平石とその周りに拳大の礫が散見される。他例から推して納骨部分と考えられる。下層には遺構はない。

集石 4018-b（図版 74　写真図版 71）　標高 141.00 m前後、集石 4018-a の南側に位置する。径 15 cm前後の礫と拳大の礫 3 個が認められる。下層には遺構はない。

集石 4019（図版 74　写真図版 71）　標高 141.30 m前後、SD4001 の北肩に認められる。径 15 cm内外の礫が集まる。

土坑 SX4038（図版 74　写真図版 71）　標高 140.50 m前後、長軸 36 cm・短軸 28 cm・深さ 18 cm前後を

測る不整な卵形の土坑である。断面形状は浅い擂鉢形である。埋土１層には炭を含む。２層は地山の可能性が高い。

溝 SD4001（図版 74　写真図版 71）　標高 141.10 m前後、尾根端に鋏形の溝を検出した。延長約 5 m・幅１m前後・深さ 15 cm前後を測る。断面形状は箱形で底面は平坦である。C－C´ 部分では径 60 ～ 70 cm・深さ 30 cmの土坑が切り込んでいる。

D 群　（図版 75　写真図版 73）　東斜面の北端に位置する火葬墓群である。集石を伴う。E 群との間に若干の空隙がある。火葬址 SX4015・SX4016・SX4017・SX4018・SX4019・SX4020・SX4021・SX4030・SX4031・SX4032・SX4046・SX4047・蔵骨器 SX4064 がある。また、集石は集石 4020・集石 4021・集石 4022・集石 4023 がある。このうち、集石 4022 の一部はコの字に組まれており、納骨施設と考えられ、周辺の平石もまた納骨に伴うものと推測される。集石は SX4046・4047 上には認められない。

火葬址・墓 SX4016・集石 4020（図版 76　写真図版 73）　標高 140.45 m前後、SX4019 の西側に位置する。軸方位を N23° W・長軸 87 cm・短軸 60 cm・深さ 28 cm前後の不整な長楕円形の土坑である。断面形状は箱形で底面は平坦である。土坑内には棺台に使用した径 15 ～ 20 cmの平石が５個検出される。中央に１石、南北に各２石配置する。土坑は東壁を中心に被熱が認められ、土坑底には炭が平石を覆って埋積する。中層は明褐粗砂混じり細砂によって埋められ、土坑中央に土師器鍋を据え、蔵骨器としている。上部の集石 4020 は蔵骨器を塞いでいたものと考えられる。

火葬址 SX4015（図版 76　写真図版 73）　標高 140.50 m前後、SX4064 の南側に位置する。樹木が一部損壊する。軸方位を N41° E・長軸（104）cm・短軸 68 cm・深さ 28 cm前後を測る三角おむすび形、断面形状は逆台形である。図示できる遺物は出土していない。内側が被熱しており、火葬骨が出土している。

火葬址・墓 SX4019（図版 76　写真図版 73）　標高 140.30 m前後、長軸を等高線に平行し、SX4017 の南側に位置する。軸方位を N27° E・長軸 52 cm・短軸 28 cm・深さ 18 cm前後を測る不整な隅丸長方形の土坑である。断面形状は深いU字形である。土坑壁に被熱が認められる。土坑は褐シルトで一旦埋めた後、掘り込み円礫を据えている。納骨を行ったと考えられる。

火葬址 SX4018・蔵骨器 SX4064・集石 4021（図版 76　写真図版 73・74）　SX4018 は標高 140.40 m前後、SX4020 の西側に位置する。軸方位を N36° W・長軸 95 cm・短軸 48 cm・深さ 43 cm前後を測る不整な砲弾形の土坑である。断面形状は深い箱形で底面は平坦である。土坑内には径 15 ～ 20 cmの平石が３個、土坑底に密着して検出された。土坑壁が被熱しており、土坑底付近に炭・灰層が堆積、中・上層を灰黄～にぶい黄シルトや細砂によって埋められている。土坑北端に土師器鍋を据え、蔵骨器 SX4064 としている。上部の集石 4021 の一部は蔵骨器の蓋となっている。蔵骨器 SX4064 は径 47 cm・深さ 16 cmの円形の掘方に土師器鍋を据え周囲をこぶし大の石で囲っている。蔵骨器の時期は 14 世紀前半である。

火葬址・蔵骨器 SX4017・蔵骨器集石 4020（図版 76　写真図版 74・75）　SX4017 は標高 140.50 m前後、SX4018 の南側に位置する。軸方位を N15° E・長軸 108 cm・短軸 67 cm・深さ 40 cm前後を測る不整な隅丸長方形の土坑である。断面形状は深い箱形で底面は平坦である。土坑底には径 25 cm内外の平石が 3 個検出され、炭層が若干残るが、概ね明褐細砂や極細砂によって埋められ、土坑中央に捏鉢を据え、蔵骨器としている。上部の集石 4020 は蔵骨器を覆う。蔵骨器は径 33 cm・深さ 14 cmの円形の掘方の上方に浮いた状態で捏鉢を据え周囲を拳大の石で囲む。時期は 14 世紀後半である。

火葬址 SX4030（図版 76　写真図版 75）　SX4030 は標高 140.30 m前後、SX4018 の北側に位置する。軸方位を N23° E・長軸 107 cm・短軸 61 cm・深さ 42 cm前後を測る不整な米粒形の土坑である。断面形状は

深い箱形で底面は平坦である。土坑内には石材がロの字型に据えられており、両小口は１石で、側板は２石で、石棺状に組み上げられている。内法で、長辺約 50 ㎝・幅約 30 ㎝を測る。形状から火葬炉と考えられる。土坑内外には炭・灰層が厚く堆積しており、ほぼ土坑の半ばまで埋積し、上半は明褐極細砂質細砂で埋められている。

火葬址 SX4047（図版 76　写真図版 76）　標高 140.20 ｍ前後、長軸を等高線に平行し、SX4020 の南側に位置する。軸方位を N4°E・長軸 105 ㎝・短軸 56 ㎝・深さ 24 ㎝前後を測る不整な長方形の土坑である。断面形状はかまぼこ形で底面は丸い。土坑底には礫が散乱し炭・灰層が堆積する。上半にはにぶい褐細砂が堆積する。上面に集石がなく、納骨の実態は不明である。

火葬址・墓 SX4020・集石 4022（図版 76　写真図版 76・77）　標高 140.10 ｍ前後、SX4021 の南隣に位置する。軸方位を N14°E・長軸 100 ㎝・短軸 56 ㎝・深さ 30 ㎝前後を測る一端が尖る不整な米粒形の土坑である。断面形状はＵ字形で底面はほぼ平坦である。火葬址内には径 15 ㎝内外の平石が 4 個検出されているが原位置は保っていない。土坑内の埋土は全体に炭を含んでおり、中層に植物根が多く入る。上部の集石 4022 はまばらであるが、SX4021 部分ではコの字の納骨施設を造りだしている。SX4021 との境の板石も同様に納骨に伴う平石である可能性が高い。

火葬址・墓 SX4021・集石 4022（図版 76　写真図版 76・77）　標高 140.10 ｍ前後、SX4020 の北隣に位置する。軸方位を N13°E・長軸 87 ㎝・短軸 50 ㎝・深さ 29 ㎝前後の砲弾形の土坑である。断面形状はＵ字形で底面はほぼ平坦である。土坑内には径 15 ㎝内外の平石が３個検出されている。土坑底は被熱し、棺台を炭、骨灰が覆っている。上層は灰黄褐細砂によって埋められる。土坑直上にある集石 4022 はコの字となっており納骨施設であったと考えられる。

火葬址 SX4031（図版 77　写真図版 77・78）　標高 140.20 ｍ前後、SX4032 に切られる。軸方位を N56°E・長軸 90 ㎝・短軸 70 ㎝以上・深さ 30 ㎝前後のおむすび形の土坑で、断面形状は箱形である。土坑内には径 15 ㎝内外の平石が 5 個あり、中央に１石、南北端に各２石配置する。棺台（燃焼台）に使用したと考えられるが埋土に炭・骨片は認められない。上面に明確な集石がなく、納骨施設は不明である。

火葬址・墓 SX4032・集石 4023（図版 77　写真図版 77・78）　標高 140.20 ｍ前後、SX4031 を切る。軸方位を N16°E・長軸 76 ㎝・短軸 39 ㎝・深さ 20 ㎝前後を測る不整な勾玉形の土坑である。断面形状は箱形で底面は平坦である。土坑内には径 15 ～ 20 ㎝の棺台の平石が３個検出されている。土坑底は被熱し（３層）、棺台を 2 層の炭・骨灰が覆っている。上層は灰黄褐細砂によって埋められる。

火葬址 SX4046（図版 77　写真図版 78）　標高 139.80 ｍ前後、SX4047 の東隣に位置する。径 85 ㎝前後・深さ 15 ㎝前後を測る不整円形の土坑。断面形状は浅い皿状である。図示できる遺物は出土していない。墓地内で炭層を伴うことから、E 群の SX4050・4051 と共に円形座棺に伴う火葬址の可能性が考えられる。

E 群（図版 75　写真図版 78・79）　東斜面の北端に位置する火葬墓群である。集石を伴う。D 群との間に若干の空隙がある。E 群は尾根端の東向き斜面のなかでも広く傾斜の緩慢な部分に広がっており、構築された火葬墓の基数が最も多い。概ね 36 基で構されているが、形状が不整なものもある。また、中央に微細な溝状の窪みがあり、特に集石の分布からは空隙がある。南北２支群に分けて考えられる。

E-1 支群　北半の火葬墓群をＥ－１支群とした。SX4022・SX4023・SX4024・SX4025・SX4026・SX4033・SX4034・SX4035・SX4036・SX4037・SX4043・SX4044・SX4045・SX4048・SX4049・SX4050・SX4051・SX4053・SX4054・SX4055・SX4058・SX4063・SX4065・SX4067・SX4068・SX4072・SX4075・SX4076、また集石 4011・集石 4012・集石 4013・集石 4014・集石 4015・集石 4016 がある。

火葬址・墓 SX4033・集石 4014（図版 77　写真図版 79） 標高 140.50 m前後、軸方位が N69°W、等高線と直交する不整な長方形の焼土坑である。SX4034・SX4035・SX4053・SX4054・SX4055 と切り合い新しい。長軸 132 cm・短軸 67 cm・深さ 23 cm前後を測る。断面形状は箱形で底面は平坦である。土坑中央底に平石が原位置を保っており、焼骨が認められる。直上の集石 4014 は散漫であり、性格は不明である。

火葬址 SX4034（図版 77　写真図版 80） 標高 140.50 m前後、SX4033 に切られる。軸方位を N30°E・長軸 77 cm・短軸 47 cm・深さ 26 cm前後を測る卵形の土坑である。断面形状はU字形である。土坑の規模から土坑底に残る 2 個の平石を棺台（燃焼台）に使用したと考えられる。埋土に火葬骨が認められる。

火葬址 SX4035（図版 77　写真図版 80） 標高 140.45 m前後、SX4033 に切られる。軸方位を N32°E・長軸 88 cm・短軸 42 cm・深さ 27 cm前後を測る砲弾形の土坑である。断面形状は箱形で底面は平坦である。土坑底に１個の平石が残る。

火葬址 SX4054（図版 77　写真図版 80） 標高 140.50 m前後、SX4033 に切られる。軸方位を N29°E・長軸 75 cm以上・短軸 50 cm・深さ 35 cm前後を測る長楕円形の土坑である。断面形状はなべ底形で底面は平坦である。土坑壁は良く被熱する。土坑底に１個の平石が残り、炭・骨灰に覆われている。

火葬址 SX4055（図版 77　写真図版 80） 標高 140.00 m前後、軸方位を N15°E・長軸 73 cm・短軸 54 cm・深さ 22 cm前後を測る不整長方形の土坑である。断面形状は箱形で底面は平坦である。土坑底に２個の平石が残る。検討する点は残るが、平石２石は水平にあり、棺台であった可能性が高い。

火葬址 SX4053・集石 4014（図版 77　写真図版 79） SX4033 に切られている。長軸 28 cm・短軸 43 cm以上・深さ 7 cm前後を測る楕円形の土坑である。SX4065・4067 などと同様の平面形、ボウル状の形態である。上層に集石 4014 の礫群が輪状に密集している。SX4053 に伴う納骨施設もしくは標石の残欠と考えられる。

火葬址 SX4022（図版 77　写真図版 81） 標高 140.60 m前後、SX4068 を切る。軸方位を N35°E・長軸 93 cm・短軸 74 cm・深さ 24 cm前後を測る楕円形の土坑である。断面形状は逆台形で底面は平坦である。土坑底に密着して１個の平石が残る。土坑の壁は良く被熱している（４層地山）。石材が動いていることから内部を掃除したものと考えられる。

火葬址 SX4068（図版 77　写真図版 81） 標高 140.50 m前後、SX4022 に切られる。軸方位を N8°E・長軸 118 cm・短軸（56）cm・深さ 24 cm前後を測る長楕円形あるいは茄子形の土坑である。断面形状は不整な片薬研である。土坑内に２個の平石が入る。棺台ではない。

火葬址・墓 SX4026・集石 4012（図版 78　写真図版 81） 標高 141.30 m前後、SX4053 の東側に位置する。軸方位を N13°E・長軸 100 cm・短軸 49 cm・深さ 42 cm前後を測る不整砲弾形の土坑である。断面は深い箱形を呈し、土坑壁は被熱する。また、土坑底付近には炭が堆積する。土坑の大半は明褐色シルト～極細砂で埋められ、上面に矩形の平石を２個並べ更に集石を行っている。集石 4012 は円礫を交えており、納骨施設（２石）とその上面を覆う集石の残欠であった可能性が高い。

火葬址・墓 SX4025・集石 4015（図版 78　写真図版 81・82） 標高 141.30 m前後、軸方位を N25°E・長軸 87 cm・短軸 52 cm・深さ 30 cm前後を測る不整楕円形の土坑である。断面は深い箱形を呈し、土坑壁は被熱する。また、土層断面からは一旦埋没後、掘り直したことが伺える。土坑底には５個の平石がＸ字形に検出されており、これらは火葬址の棺台と考えられるが、中央の１石は土坑底より浮いてしまっている。火葬土坑の中層には板石があり、１層を挟み、覆って集石 4015 がある。これらは納骨施設と考えられ、板石上からは火葬骨が出土している。板石が底石、集石 4025 が蓋石となり、30 cm四方・深さ 10 cm程度の規模であったと考えられる。これは SX4023 と同様の規模である。

火葬址・墓 SX4023・集石 4016（図版 78　写真図版 82・83）　軸方位を N2°E・長軸 117 cm・短軸 55 cm・深さ 27 cm前後を測る不整な長楕円形の土坑である。断面は深い箱形を呈し、土坑壁は被熱する。土坑底には３個の平石が一列に配されており、火葬址の棺台と考えられる。中央の１石は四周を板石で囲み、上部を径 35 cm前後の板石で覆い、空隙を径 10 ～ 20 cmの角礫で充填している。これは納骨施設であり、内部から多量の火葬骨が出土している。施設は 30 cm四方・深さ 10 cm程度の規模である。蓋石の上部は更に径 10 ～ 20 cmの角礫・板石で覆われており、地表に出ていたと考えられる（集石 4016）。

火葬址 SX4044・SX4049・火葬墓 SX4071（図版 78　写真図版 83）　標高 140.20 m前後、SX4058 の北側にあり、SX4058 を切る。SX4044・4049・4071 は切り合うためまとめて報告する。SX4044 は３基のなかで最も古く、SX4049 に切られる。軸方位を N24°E・長軸 97 cm・短軸 70 cm前後・深さ 24 cm前後を測る不整な楕円形の土坑である。土坑壁は被熱している。焼骨が出土した。SX4049 は SX4044 を切る火葬址である。軸方位を N8°W・長軸 96 cm・短軸 73 cm前後・深さ 14 cm前後を測る不整な楕円形の土坑である。土坑壁は被熱している。焼骨と共に鉄釘が出土している。SX4071 は SX4049 の上面から掘り込み、構築されている。軸方位を N20°W・長軸 67 cm・短軸 46 cm前後・深さ 20 cm前後の不整楕円形土坑を造り、上部に集石を行う。径 10 ～ 20 cmの礫が円形に集中する。納骨施設の可能性がある。

火葬址 SX4048（図版 78　写真図版 84）　標高 140.20 m前後、SX4049 と SX4063 の間に位置する。軸方位を N24°E・長軸 62 cm・短軸 34 cm・深さ 12 cm前後を測る米粒形、断面形状は浅い箱形の土坑である。土坑壁は被熱し、炭を含んだにぶい黄シルトが埋積している。土坑底はしっかりした地山まで掘り込んでいない。土坑底には６個の平石が配されており、これらは火葬址の棺台と考えられる。3 列を意識しており、南端は２石・中央は１石・北端に１石配し、中央・北間に２個の石を充填している。

火葬址 SX4043（SX4073・SX4074）・SX4058（図版 78　写真図版 84）　標高 140.20 m前後、SX4043 は SX4058 に切られ、SX4058 は SX4044・4049 よりも先行する。SX4043・SX4058 は深さが違い区別される。SX4058 は南北長 52 cm以上・幅 73 cm・深さ 23 cm・N29°E にとる。土坑の断面形状は浅い箱形で、よく被熱している。SX4043 は軸方位を N38°E にとり、残存長 77 cm・幅 72 cm・深さ 30 cmを測る。土坑の断面形状は深いＵ字形でよく被熱している。土坑底には棺台の抜き取り跡と考えられる全長 40 cm・幅 25 cmのピットが開いており、同規模のピットが 25 cm間を空けて SX4058 の下層からも検出されている。

火葬址 SX4024（図版 79　写真図版 84）　標高 140.30 m前後、SX4063 を切り、SX4045 の西側に位置する。軸方位を N29°E・長軸 128 cm・短軸 68 cm・深さ 33 cm前後を測る。土坑は南辺が丸く、北辺は隅丸方形の砲弾形である。断面は箱形を呈し、土坑壁は上部が被熱する。土坑底は中央が緩やかに窪む。５層は地山である。土坑底の被熱は局所で激しく、おそらく一辺 35 cm程度の部分がよく被熱している。また、被熱部分に凹凸がみられる。

火葬址 SX4045（図版 79　写真図版 84）　標高 140.15 m前後、SX4024 の東側に位置する。軸方位を N23°E・長軸 101 cm・短軸 61 cm・深さ 20 cm前後を測る。土坑は南辺が丸く、北辺が撥型に開く俵型の形状で断面は箱形を呈し、土坑底は中央が心持ち窪む。壁も被熱するが土坑底の被熱は局所で激しく、中央南寄りの箇所が径 40 cm程度の円形でよく被熱している。土坑底近くでは炭・骨灰が出土する。また、鉄釘が 25 本と多量に出土している。

火葬址 SX4063（図版 79　写真図版 85）　標高 140.20 m前後、SX4024 に切られる。軸方位を N20°E・長軸 104 cm・短軸（85）cm以上・深さ 24 cm前後を測る不整隅丸方形の土坑である。断面形状は箱形である。土坑底には径 30 cm前後の平石が据えられている。土坑壁に被熱痕跡が乏しく、火葬骨の出土もない。

平石が納骨施設の一部の可能性、その他の遺構の可能性もある。

火葬址・墓 SX4037・集石 4011（図版 79　写真図版 85） 標高 140.30 m前後、SX4035 と切り合い古く、南側は切り株によって損壊している。軸方位を N11°E・長軸推定 100 cm・短軸 62 cm・深さ 38 cm前後を測る。断面形状は深い箱形で底面は平坦である土坑壁は被熱している。土坑底には径 20 ～ 30 cmの平石が３個、原位置を保って残っている。土坑内の炭・灰層は平石を覆う程度残存しているが、土坑の大半は黄褐土によって埋められている。土坑の直上には集石 4011 がある。４個の石は一辺 50 cm程度の方形に集められており、標石の可能性が考えられる。

火葬址 SX4065（図版 79　写真図版 85） SX4069 と SX4036 の間にある。軸方位を N1°E・長軸 53 cm・短軸 45 cm・深さ 23 cm前後を測る不整円形の土坑である。断面形状は箱形である。土坑壁は弱く被熱するため火葬址とした。土坑を埋め戻し、中央に一辺 20 cm程度の割石を立てている。

火葬址 SX4036（図版 79　写真図版 86） SX4065 と SX4037 の間にある。軸方位を N63°E・長軸 36 cm・短軸 30 cm・深さ 20 cm前後を測る不整円形の土坑である。断面形状はＵ字形である。土坑壁は被熱するため火葬址とした。土坑を埋め戻し、中央に一辺 15 cm程度の礫を置く。

土坑 SX4072（図版 79　写真図版 86） SX4034 に切られる。軸方位を N75°W・東西径 39 cm・南北径 28 cm以上、深さ 11 cmを測る不整円形の土坑である。断面形状は浅い皿形である。土坑は被熱していない。

火葬址 SX4067（図版 79　写真図版 86） 標高 140.50 m前後、SX4054 の西側に位置する。軸方位を N20°W・長軸 55 cm・短軸 48 cm・深さ 17 cmを測る不整楕円形の土坑である。断面形状は浅いＵ字形である。

土坑 SX4075（図版 79　写真図版 86） 標高 140.50 前後、軸方位を N1°E・長軸 58 cm・短軸 28 cm・深さ７cm前後を測る不整楕円形の土坑である。断面形状は箱形である。土坑内に径 20 cm前後の石を縦に並べている。土坑が被熱したか否かは判然としない。

土坑 SX4050（図版 79　写真図版 87） 標高 140.20 m前後、SX4045 の南側に位置する。軸方位を N35°W・長軸 74 cm前後・短軸 58 cm・深さ 26 cm前後を測る。東向き斜面にかかり東側は判然としない。土坑断面は丸みを帯びるが底面は平坦である。埋土に若干炭を含むが被熱はない。遺構の性格は不明である。

土坑 SX4051（図版 79　写真図版 87） SX4045 の東側に位置する。軸方位を N13°E・長軸 73 cm・短軸 65 cm・深さ 28 cm前後を測る不整な方形の土坑である。断面形状は箱形で底面はやや東に傾斜するが、平坦である。上層の埋土に若干炭を含むが、被熱はない。遺構の性格は不明である。

E-2 群　南半の火葬墓群を E-2 支群とした。SX4014・SX4028・SX4029・SX4039・SX4040・SX4042・SX4065・SX4069・SX4070 また集石 4007・集石 4006・集石 4009・集石 4010 がある。

集石 4007・石組土坑 SX4070（図版 80　写真図版 88・89） 標高 140.60 m前後、SX4069 と切り合い新しい。遺構は上部の集石 4007 と下部の石組をもつ土坑に分かれる。火葬址・墓とする根拠はない。

石組土坑 SX4070：軸方位を N19°E・南北軸 117 cm・東西 114 cm・深さ 50 cm前後を測る不整方形の土坑である。断面形状は箱形である。土坑の東壁を生かし、南北 110 cm・東西 95 cm・深さ 10 cmの長方形の掘方を更に造り、土坑底に沿って一辺 30 ～ 50 cm内外の板石を据え、石囲いを構築していた。石囲いの壁石の高さは 25 cm前後である。土坑底から銭貨６枚が出土した。石材の一部は被熱していたが土坑壁・底には被熱はなく、炭・火葬骨も出土していない。土坑内には転石あるいは崩落した石囲いの石材が落ち込んでいる。土坑内の埋土は締まりに乏しく、人為的に埋められた可能性は低い。また、土坑内の下層に平石が水平に存在するが、その上面に納骨施設などが存在した可能性は低い。

集石 4007：SX4070 の上部に集石を行っている。径 30 cm前後の石材を南北辺に各１石東西辺には３石

程度で、石囲いを造り、更に集石を持って覆っており、上層面に露出し集石 4007 とした。

集石内から遺物は出土しなかった。遺構の性格は不明である。

集石土坑 SX4069（図版 80　写真図版 88）　標高 140.45 m前後、SX4070 に切られる。土坑は、軸方位を N19° E・長軸 67 cm以上・短軸 71 cm・深さ 21 cm前後を測る不整楕円形もしくは多角形の土坑である。断面形状は浅い皿形である。土坑には径 20 cm・幅 10 cm内外の石が４つ立てられている。性格は不明である。土坑の被熱、炭・灰・火葬骨の出土はない。

火葬址・墓 SX4029・集石 4010（図版 80　写真図版 89・90）　標高 140.40 m前後、SX4028 の北側にある。

火葬址：軸方位を N5° W に持つ。長軸 110 cm・短軸 64 cm・深さ 40 cm前後を測る隅丸方形に近い俵形の土坑である。断面形状は深いＵ字形、全体によく被熱する。土坑の中程まで炭・骨灰が充満する。土坑には径 30 cm前後の３個の平石があり、北の２石は土坑底に密着、南１石は巻き上げられた状態で浮いている。収骨のせいであろう。元は一列に配され火葬址の棺台となっていたと考えられる。

納骨施設と供養の土器：土坑の上半は灰黄シルトによって埋められ、30 × 25 cmほどの板石が置かれていた。また、ほぼ同じ高さで、瓦器椀・土師器小皿 672 ～ 680 が重なり正位置で出土した。平石上からは約 70 g の焼骨が出土している。平石は納骨施設の底板と考えられ、土器類は納骨に際し置かれた可能性が高い。焼骨・平石・土器類は集石 4010 によって覆われている。

集石 4010：平石の上部は径 30 cm内外の石などで覆われ、上層面に露出し集石 4010 としている。

時期：納骨祭祀の時期は 14 世紀初頭前後である。

火葬址 SX4042（図版 81　写真図版 91）　標高 140.20 m前後、SX4040 の南側に位置する。軸方位を N6° E・長軸 59 cm・短軸 41 cm・深さ 18 cm前後を測る不整楕円形の土坑である。断面形状は浅い皿形である。土坑壁、底面は被熱し、２層地山は赤変し脆い。土坑内には径 15 cmと径 20 cmの棺台石があり、石上面は被熱している。

火葬址 SX4039（図版 81　写真図版 91）　標高 140.30 m前後、軸方位を N64° W・長軸 49 cm・短軸 30 cm・深さ 22 cmを測る卵形土坑で、断面形状は深いＵ字形である。土坑壁は被熱している。棺台はない。

火葬址 SX4040（図版 81　写真図版 91）　標高 140.30 m前後、SX4014 を切っている。軸方位を N28° E・長軸 75 cm・短軸 47 cm・深さ 23 cm前後を測る不整な俵形の土坑である。土坑壁はよく被熱している。土坑内には 4 個の石が検出されているが、北側の一辺 30 cmの石材は人為的に割られ投入されたものである。他 3 個は径 15 cm内外で、棺台であった可能性が高い。

火葬址 SX4014（図版 81　写真図版 90）　標高 140.30 m前後、SX4039・SX4040 に切られる。軸方位を N21° E・長軸 66 cm以上（推定 70 cm）・短軸 43 cm・深さ 27 cm前後を測る不整な砲弾もしくは隅丸方形の土坑である。土坑底に棺台と考えられる径 30 cm前後の石１個を検出した。土坑の規模から推して棺台は 2 石であった可能性がある。

集石 4006（図版 81　写真図版 90）　SX4014 と SX4040 に跨り、集石・平石が検出されている。SX4040 上には被熱によって破断した礫が集まっている。また、SX4040 と SX4042 の間、SX4039 と SX4014 の間には、集石・川原石・平石がある。これらは、火葬墓の標石もしくは納骨施設の残欠と考えられる。

火葬址 SX4028（図版 81　写真図版 92）　標高 140.30 m前後、SX4029 の南側に位置する。軸方位を N18° E・長軸 91 cm・短軸 50 cm・深さ 32 cm前後を測る砲弾形の土坑である。断面形状は箱形である。土坑壁・底面は被熱し、３層地山は赤変し脆い。土坑内に径 15 cmと径 30 cmの平石合わせて３個を並べているが、

いずれも土坑底より浮き、下層も炭・灰が堆積している。

火葬址 SX4027（図版 81　写真図版 92） SX4029 の東側に位置する。一部を株によって損壊している。軸方位を N14°E・長軸 104 cm・短軸 46 cm・深さ 20 cm前後を測る砲弾形の土坑である。断面形状は船底形で底面は丸みを帯びる。土坑壁は被熱し、壁際に沿って炭層が残る。土坑はにぶい黄褐細砂によって埋められ、土坑底には褐細砂が堆積し被熱が認められる。土坑底には径 10 ～ 20 cmの石が認められるが、原位置は保っていない。

火葬址 SX4041（図版 81　写真図版 91） 標高 140.30 m前後、SX4070 に切られ、SX4014 を切る。軸方位を N37°W・長軸 65 cm以上（推定 70 cm）・短軸 29 cm・深さ 13 cm前後を測る長楕円形の土坑である。断面形状はU字形である。土坑底に径 10 ～ 15 cmの小径の石３石を一列に並べて棺台としている。南の 1 石は高さを 2 石と合わせるために土坑底を掘り込み据えている。土坑壁は被熱し、埋土に炭を含む。

集石 4009（図版 81　写真図版 93） 標高 140.40 m前後、SX4029 の南隣に位置する。長軸 30 cm・短軸 20 cm・厚さ８cm前後の平石とその西縁に重なって２個の礫がある。平石と集石が重なっており、他例から推して納骨施設であったと考えられる。下層には遺構はない。

F 支群　E-2 支群の南側の２基をＦ支群とした。尾根南端斜面をコの字型にカットしている。カットは南北長辺約 2.9 m・東西約 1.1 m・深さ約 10 cmを測る。SX4057 はその中央にある。

石蓋土坑 SX4056（図版 81　写真図版 93） 標高 139.90 m前後、軸方位を N25.5°W・長軸 54 cm・短軸 44 cm・深さ 50 cmを測る不整な楕円形の土坑である。土坑内に施設は認められない。断面形状は深い箱形・バケツ形である。土坑は全長 50 cm・幅 34 cm・厚さ 14 cm前後の板石によって蓋をされていた。図示できる遺物は出土していない。土坑はコの字型にカットした面の北端を切って造られている。

石組土坑 SX4057（図版 81　写真図版 93・94・95） 標高 139.90 m前後、軸方位を N19°W にもつ。長軸 144 cm・短軸 68 cm・深さ 43 cm前後の長楕円形の土坑を更に長軸 88 cm・短軸 54 cm・深さ 40 cmほどの楕円形に掘り込み石組遺構を構築している。石組は北端に径 30 cm前後の石を置き、東西土坑壁際に石材を立て石組とし、上部に蓋石を架構し、内法長 30 cm× 20 cm・高さ 35 cm程度の空間を造り出し、更に径 30 cm前後の石を被せている。本図版では、蓋石が斜めに落ち込んだと考えた。但し、北半の石を石組の底石と考え、中央の蓋石とみた板石が倒れた仕切りと考えるならば、土坑を２室に区切る石組と理解する余地も残されている。その様な例は但馬地域にあり、経塚と捉えられている。SX4057 の性格については、更に検討する必要がある。遺物は出土しなかった。

G 支群（土坑群） E-1 支群斜面下に４基の浅い不整円形の土坑を検出した。

土坑 SX4059（図版 81　写真図版 96） 標高 138.50 m前後、東向き斜面に位置する。軸方位を N16°W・長軸 73 cm・短軸 70 cm・深さ 8 cmを測る不整円形の土坑である。断面形状は浅い皿形で、床面は傾斜する。埋土に焼土・炭粒を含む。遺物は出土していない。時期・性格は不明である。

土坑 SX4060（図版 81　写真図版 96） 標高 138.30 m前後、SX4059 に隣接し、東向き斜面に位置する。軸方位を N16°W・長軸 84 cm・短軸 77 cm・深さ 6 cmを測る不整円形の土坑である。断面形状は浅い皿形で、床面は傾斜する。遺物は出土していない。時期・性格は不明である。

土坑 SX4061（図版 81　写真図版 96） 標高 138.10 m前後、SX4059・SX4060 の下方に隣接し、東向き斜面に位置する。軸方位を N21°W・長軸 108 cm・短軸 103 cm・深さ６cmを測る不整円形の土坑、断面形状は浅い皿形で、床面は傾斜する。埋土は黒褐細砂が入る。遺物はなく、時期・性格は不明である。

土坑 SX4062（図版 81　写真図版 96） 標高 137.80 m前後、SX4061 の南側に位置する。谷側が流れ、形

状・規模は明確ではない。現状で長軸 100 ㎝・短軸 60 ㎝・深さ 16 ㎝を測る楕円形の土坑、断面形状は皿形で土坑底は平坦である。土坑内に亜円礫が２個ある。出土遺物はなく時期・性格は不明である。

・２区（図版 82　写真図版 97・98）　４区から南へ伸びる尾根筋を下った標高 126 ｍから 120 ｍにかけ、尾根上とその東斜面の南北 30 ｍ・東西 15 ｍ前後の舌状の範囲に墓地が造られている。

墓地は中世後期から現代まで機能しており、概ね、古くは尾根筋と先端を墓地とし、後世に山腹の平坦面に広がってゆく。この尾根上を便宜的に上段と呼称している。上段は更に尾根最上部（頂部）とその直下高さ約１ｍの小段下に巡る平坦部(西半部)、小段と東斜面までの間の平坦部(東半部)に分かれる。頂部には遺構はなく、西半部の南端を中心に円形棺が営まれている。

小段下には SD2011 が巡っており、西半部と東半部の境となっているが、南東半部では若干の円形棺(早桶）と方形棺（竪棺）・長方形棺（寝棺）が密集して営まれている。この部分が現代まで墓地造営が行われていた堂の上墓地にあたる。東半部の東端から南端にかけては円形棺が多く検出され、南端には共同火葬場 SX2004 がある。また、東斜面際を中心に近世から近代の蔵骨器が見つかっている。SX2004 周辺より南は複数回盛り上げられており、下層には SX2004 に先立つ共同火葬場が数基存在している。

上段に対して、東斜面中位と下位には段が造成されているが、溝以外の遺構は殆ど検出されていない。

今回の調査では、石塔が多く見られ、近くで切り出される凝灰岩（波豆石）と神戸から運ばれた六甲花崗岩があるが、和泉砂岩は認められなかった。

土葬墓に伴う副葬品は銭貨・煙管・鎌などの金属器と陶磁器・土師器が確認された。

一方火葬墓は、中世に遡り土師質鍋、近世に入り須佐唐津擂鉢、丹波焼小型甕、土師質火消壺の使用が認められる。近代には無釉陶器の円筒形骨壺も確認されている。火葬施設は、小規模な火葬址に加え、共同火葬場が中世末から近代にかけて稼働している。

以下、土葬・火葬の区分と主体部の形状、使用する棺の区分によって分けて述べて行く。

土葬墓及びその他の調査　土葬墓は調査区全域に出土している。埋葬法は大きく２つに分かれる。座葬（座棺）と伸展葬（寝棺）である。早桶による座棺（円形棺）と直方体の棺－竪棺による座棺（方形棺）及び丹波焼甕を主体とした陶器甕を使用する棺がある。

一方、伸展葬（寝棺）は長方形の寝棺で、これは近代から現代にかけて使用される棺である。

・円形棺（図版 83 ～ 85　写真図版 99・100 ～ 104）　21 基検出した。このうち SX2001・SX2002・SX2003・SX2006・SX2007（SX2108）・SX2009・SX2068・SX2072・SX2073・SX2079・SX2098・SX2099 は尾根端東斜面に固まっており、SX2051 は尾根東斜面、SX2029・SX2058・SX2064・SX2069・SX2086・SX2081 は尾根端上面、SX2030・SX2061・SX2062 は尾根上部（墓地最上部）に位置する。径は概ね 70 ㎝内外のものと 100 ㎝を前後するものに分かれ、深さは削平状況によって分かれるが 50 ㎝から 80 ㎝と、30 ㎝前後の浅いものに分かれる。概要は一覧に譲るが、尾根端東斜面に集まるものは径が 70 ㎝内外と小さく、深さも浅く、SX2001・SX2002 のごとく上部に五輪塔片あるいは一石五輪塔を持つものがある。また、SX2009 では集石を持つ。また、尾根最上部の SX2030 は一石五輪塔を上部に持っており、２基が切り合っていた可能性がある。断面から径 60 ㎝前後であった可能性が高い。これに対し、尾根上の SX2029・SX2058・SX2064・SX2086・SX2087 はその幾つかが方形棺・長方形棺と切り合い、損壊されている。これらの円形棺の掘方は深く、径も大きい。方形棺と相前後して、概ね近代に営まれたものであろう。

・方形棺（図版 85・86　写真図版 99・104・105）　11 基挙げた。SX2008・SX2016・SX2019・SX2026・SX2033・SX2034・SX2063・SX2066・SX2087・SX2092・SX2093 である。概ね幅 80 ㎝もしくは 100 ㎝前後・

深さ 50 ㎝から 1.1 ｍ前後を測るものである。SX2008 を除き概ね尾根上東向き斜面上にある。SX2008 は円形棺群に近く、上部に石塔を乗せたと考えられる方形の石組をもつ。概ね近代に営まれたものであろう。

・長方形棺（図版 86・87　写真図版 106・107） 6 基挙げた。SX2010・SX2021・SX2028・SX2040・SX2053・SX2113 である。方形棺と混在している。幅 60 ～ 80 ㎝、深さ 60 ～ 80 ㎝を測る。全長が詳らかなものは、SX2053 で 224 ㎝、SX2040 で 155 ㎝を測る。これらの棺は錫杖をともなった SX2028 を含め近現代のものである。このうち SX2010 と SX2021 の上部には人頭大の集石が認められる。

SX2028（図版 87　写真図版 107） 標高 124.00 ｍ前後に位置する。長軸を正方位 N9°W にとる長軸 95 ㎝以上・短軸 90 ㎝・深さは山側から 110 ㎝、谷側から 44 ㎝を測る長方形棺である。断面形状は深い箱形である。本遺構は南半を方形棺（SX2027）によって損壊されている。棺の規模は SX2038 や SX2040 と同じく 140 ㎝前後であったと考えられる。また、SX2027 が方形棺であることから方形棺より古い近世墓と当初考えていたが、近現代の寝棺である。棺内には頭部から腹部までの人骨が良好に残り、両腕は胸元に持ち上げた状態で検出された。副葬品に錫杖・金具・帽子・数珠がある。錫杖は右肩側から左ひじ下側に向けて持っている。右肩上に布を挟み込んだ飾金具、頭と右肩の間にフェルト製の山折れ帽子を副葬している。また、棺内からは数珠玉（水晶・ガラス製）７個（J1 ～ J7）が出土している。被葬者は錫杖の存在から宗教者と考えられるが、観音寺の僧侶か否かを含め、詳細は不明である。

・その他の遺構　集石土坑、動物墓と考えられる土坑をあげた。

集石土坑 SX2015（図版 87　写真図版 107） 径約 92 ㎝、深さ 15 ㎝を測る円形の集石土坑、断面形状は皿形である。１辺 10 ～ 20 ㎝の角礫が密に入る。図示できる遺物はなく時期・性格は不明である。

土坑 SX2049（図版 87　写真図版 107） 長軸 77 ㎝・短軸 43 ㎝・深さ 36 ㎝を測る楕円形の土坑である。断面形状は深いＵ字形である。図示できる遺物は出土していない。時期・性格は不明であるが、近隣にある同規模の SX2054 からは犬の骨が出土している。

土坑群 SX2035（図版 87　写真図版 107） 径 30 ～ 50 ㎝の円形、深さ 50 ㎝前後の逆台形の断面形を持つ。性格・時期は不明である。

火葬墓・火葬址・火葬場の調査　２区の墓地調査は、調査区南端を除き１面で検出している。南端（SX2004）以南は複数回の嵩上げが行われており、大きく上層・中層・下層に分かれている（写真図版 97）。

上層は近現代の火葬場 SX2004 が稼働する層である。対応する蔵骨器（741・742）も出土している。

中層は上層の盛土の下に厚み 15 ㎝程の炭層を持つ。被熱した状態の 18 世紀代の土器が多量に炭層に含まれている。共同火葬場と考えられる不定形の掘り込み群 SX2114 ～ SX2117 が検出されており火葬が活発に行われたことが推測できる近世～近代の層である。この時期の火葬墓（蔵骨器 - 火消壺 722 ～ 725）や火を受けた土器類が多量に出土している。

更に中層の盛土と 30 ｍを超える厚い炭層の下には SX2131 と大型の火葬炉 SX2132 が営まれている。これは、近世（前半）の共同火葬場と推測できる。（図版 88　写真図版 97・108 ～ 110）。

火葬址はこれら大型の火炉以外に中世に遡る火葬址 SX2121 等が尾根端の盛土が施される範囲の縁辺から検出されている。これらは後述するが、中世に遡る火葬址・火葬墓と考えられる。また、この時期の火葬墓（蔵骨器　土師器鍋・須佐唐津擂鉢）も出土している（図版 89　写真図版 111）。

中世から近現代の火葬墓・火葬址（図版 88 ～ 90　写真図版 108 ～ 113）

２区からは近世の土師器火消壺・丹波焼甕・須佐唐津擂鉢による蔵骨器、近代の蔵骨器に加え蔵骨器に使用したと考えられる中世の土師器鍋が出土している。

火葬址は集石遺構 SX2122 のほか、４区と同様の１度使用と考えられる小型の火葬土坑 SX2097・2119・2121 が検出されている。

火葬墓 SX2005（図版 89　写真図版 110）　径 53 ㎝前後・深さ 34 ㎝前後の円形の土坑に丹波焼甕の蔵骨器を据えている。2 個体出土した。

火葬墓 SX2039（図版 89　写真図版 111）　径 65 ㎝・深さ 45 ㎝、深い断面Ｕ字形の土坑である。

火葬址 SX2129（図版 89　写真図版 111）　SX2118 に切られ全貌は明らかではない。軸方位を N29°W・長軸 80 ㎝・短軸 66 ㎝・深さ 26 ㎝、箱形の断面形状を持つ隅円長方形の焼土坑である。火葬骨が出土した。台石はないが、火葬址と考えられる。

火葬墓 SX2120（図版 89　写真図版 111）　径 50 ㎝・深さ 26 ㎝、深い断面Ｕ字形の土坑である。銭貨が出土している。

火葬址・墓 SX2097（図版 89　写真図版 111）　標高 106.20 ｍ前後、軸方位を N69°E・長軸 86 ㎝・短軸 50 ㎝・深さ 15 ㎝前後を測る隅円長方形の火葬土坑である。断面形状はＵ字形である。土坑東半に須佐唐津擂鉢 721 による蔵骨器を据える。時期は江戸初期である。

火葬址 SX2121（図版 89　写真図版 112）　標高 106.20 ｍ前後、軸方位を N9°E・長軸 94 ㎝・短軸 70 ㎝・深さ 29 ㎝前後を測る隅円長方形の焼土坑である。断面形状は箱形である。土坑底に棺台（燃焼台）と考えられる石材が 2 個 3 列で並べられ、間を小礫で埋めている。上面に集石を持っていた可能性がある。火葬址と考えられる。

火葬址 SX2119（図版 89　写真図版 112）　標高 106.20 ｍ前後、軸方位を N51°E・長軸 93 ㎝・短軸 69 ㎝・深さ 27 ㎝前後を測る隅丸長方形の焼土坑である。断面形状は船底形である。土坑底に棺台はないが、焼土を埋土とし、SX2121 とほぼ同規模である。火葬址と考えられる。

火葬址 SX2096（図版 89　写真図版 112）　SX2010 に半分を損壊されている。径 95 ㎝・深さ 62 ㎝の円形土坑の最上層の窪みを火葬址としている。火葬骨が出土しており、円形座棺を火葬したと考えられる。土坑下半は深く落ち込んでおり、円形棺（早桶）を埋葬した土葬墓であった可能性が高い。

集石遺構 SX2122（図版 89　写真図版 111）　中層から検出されている。長辺 135 ㎝・短辺 80 ㎝、北側は段落ちで損壊しているが長方形の石敷きと考えられる。火葬骨が出土し火葬墓の可能性がある。時期は不明である。

火葬墓 SX2135（図版 90　写真図版 113）　径約 30 ㎝の墓壙に丹波焼甕 726 を据えている。17 世紀後半～ 18 世紀初頭と考えられる。

火葬墓 SX2136・SX2137（図版 90　写真図版 113）　尾根東斜面端に 2 基並べて検出された。ともに土師質製火消壺を蔵骨器としている。SX2136 の蓋（724）の裏には墨書がある。時期はともに 18 世紀前半と考えられる。『□月廿一日』『休』の文字が判読できる。

共同火葬場の調査

SX2004 の南東側の中層～下層には共同火葬場 SX2109・SX2114 ～ SX2117・SX2131・SX2132 が見つかっている。これらは南北長 5.3 ｍ・東西幅 2.3 ｍの範囲で帯状に広がっており、長２ｍ内外の円・楕円・方あるいは不定形土坑が概ね北から南へ繰り返し造られている。土坑の埋土からは炭・焼土・火葬骨・銭・鉄釘が出土しており、繰り返し使用された火葬土坑 - 共同火葬場と考えられる。火葬場から発生した炭・灰層内からは被熱した肥前系陶磁器が数多く出土しており、18 世紀代に盛期があったと考えられる。また、炭・灰層は大きく２層に分かれ、下層には 17 世紀代の京都系の土師器が含まれている。

火葬場と考えられる大型焼土坑は他に平坦面４区近くにSX2100が見つかっている。

共同火葬場SX2100（図版90　写真図版114）　１区平坦面４との境目近くより検出された大型の焼土坑である。土坑は不整形なおむすび形をしており、軸方位をN13°E・長軸2.20ｍ・底辺25㎝・深さ約20㎝、浅い皿状の断面を持つ。中央より北側に径１ｍ前後の被熱面が存在しており、径15㎝と20㎝のピット各１個が近接して開いている。また、土坑内からは釘・土師器小皿・銭貨などが出土している。本遺構が複数回使用する火葬施設－共同火葬場であった可能性がある。遺構の時期は中世末から近世前期にかけて稼働したと考えられ、AMS（放射性炭素年代測定）の結果もそれを支持する値がでている。

共同火葬場SX2132（図版88　写真図版108・109）　南端上段・中段間の最下層より検出された大型の焼土坑である。南半が損壊され、全貌は明らかではないが、卵形の土坑の中央に方形の掘方をもつ石敷きがある。土坑は長軸2.8ｍ以上・幅2.4ｍ・深さ約29㎝、浅い皿状の断面を持つ。中央に１辺0.75ｍ前後の方形の掘方を造り五輪塔残欠などで、方形の石敷きを造りだしている。石材は被熱しており、燃焼台に使用されていることは明らかである。また、土坑底には焼土が堆積し、石敷きとは別の被熱個所が検出されている。石敷きはその上層にあることから複数回面構築が行われ、複数回燃焼作業が行われたことも判明した。土坑内からは火葬骨・銭などが出土しており、本遺構が複数回使用する火葬施設－共同火葬場であったと考えられる。直接時期を示す遺物の出土はないが、本遺構が埋没する灰原内から京都系土師器が出土していること、組み立て式五輪塔の部材を使用していること、上層の共同火葬場が江戸中期以降であることなどから、時期は中世末から近世前期にかけて稼働したと考えられる。

共同火葬場SX2131（図版88　写真図版108）　下層の火葬場である。SX2132と切り合い新しく、SX2115が約30㎝上層に造られている。標高121.70ｍ前後に位置し、15㎝前後の深さをもつ。遺構の形状は不定形で、径85㎝前後の円形に窪む部分もある。複数回燃焼作業がおこなわれたと考えられる。

共同火葬場SX2114・SX2115・SX2116（図版88　写真図版110）　SX2004の南東側下層から検出された不整形焼土坑群である。切り合い、SX2115→SX2114→SX2116の順に造られたと考えられる。SX2116は標高122.00m前後に土坑底、SX2114は121.95ｍ前後、SX2115は121.80～121.50ｍ。これらの土坑はSX2114で長軸約1.3ｍ・短軸1.2ｍ・深さ20㎝、土坑内より空風輪・火葬骨が出土している。SX2116は不整楕円形を呈し、長軸約1.1ｍ・短軸0.85ｍ・深さ10㎝を測る。銭貨が出土している。

共同火葬場SX2109・SX2117（図版88　写真図版110）　標高121.80ｍ前後、SX2117は不整長方形を呈し、南北長辺1.85ｍ・東西短辺0.8ｍ以上の大きさを測る。SX2109はSX2117と重複するが先後関係は不明である。両遺構内には径10～30㎝の礫が多数認められるが、これらの殆どは廃絶時に投棄したものと考えられる。銭貨・火葬骨・石塔片が出土している。

近代の共同火葬場SX2004（図版90　写真図版113）　尾根南端近くから検出された石組を持つ、大型の焼土坑である。遺構は水溜め状の円形の石組を造っている。内径約1.4ｍ・底辺1.1ｍ前後・深さ約40㎝前後の漏斗状の形状である。自然石・割石を２段から３段積み上げている。土坑の南側の一部は開き、長さ2.6ｍ・幅20㎝・深さ20㎝余りの溝が斜面下へ向かって流れだしている。また、土坑底中央には径70㎝前後の被熱面が存在しており、土坑内からは五輪塔・火葬骨・銭が出土している。本遺構は最終的にはゴミ捨て場と化し尿瓶・ホーローの洗面器などが投棄されていた。本遺構はその形態と遺構面の最上層であることから近代の共同火葬場と考えられ、中国地方にみられる『丸三昧』に類似している。但し、地元では年配者にいたっても記憶がなく、戦前に稼働した可能性が考えられる。

近代の蔵骨器SX2138（図版82　写真図版113）　２区上段東斜面際より出土している蔵骨器（741・

742)である。円筒形で現在の蔵骨器の形態に近く、素焼き硬質の無釉陶器を使用している。SX2004によって火葬されたと考えられる。

溝 SD2011（図版 91 写真図版 114） 東半部の中央を南北に流れる全長約 30 m・幅 30 ㎝～１m、深さ 30 ㎝を測る丸底の溝である。１区平坦面４側から出現し、SX2100 を切っている。

東斜面中段の状況（図版 91　写真図版 114） 上段から 3 m前後の落差をもって東斜面に中段がある。標高 120.00 m前後、南北長約 30 m・幅７mの長方形の平坦面で、山際に溝 SD2002 が通っている。

溝 SD2002（図版 91　写真図版 114） 全長約 30 m・幅 50 ㎝～１m、深さ 20 ㎝を測る。丸底である。

・３区（図版 92　写真図版 115） ２区の尾根斜面下方にあたる。標高約 107.00 m前後、丘陵地ではあるが、近世以降の開発が及んでおり、畑地化・宅地化し、それによる削平・撹乱も多く見られた。調査区は中央に尾根の張り出しによる遺構が存在しない部分を挟み、東区と西区に分かれる。

西区では落ち込み５基・土坑 14 基・溝３条とピットを検出した。柱痕跡を確認したものもあるが、掘立柱建物となるようなピット列は確認されなかった。落ち込みの多くは風倒木と思われる。SX3003 は不定方形の落ち込みである。北辺 4.2 mで南に向かって台形に広がり、南側は斜面で削平されている。南北の残存長 3.1 mを測り、最大の深さ 0.3 m、南端の幅は 5.0 mである。床面は平坦でなく、中央部分が 0.1 m前後低くなっている。伴うピットは１基だけ認められる。SX3004・3007 は浅い不定形の落ち込みで自然地形の可能性もある。SX3005 は最大径 1.7 m不定円形の落ち込みで明瞭な痕跡は確認出来ないが、埋桶の可能性がある。深さ 0.5 mを測り、底は平坦である。

土坑は 0.4 ～ 1.7 mと規模はまちまちで不定形のものが多い。図示した SK3014 が焼土坑である。隅円長方形の土坑で、東西 0.8 m・南北 1.45 m・深さ 0.15 mを測る。焼土・炭が埋土に充満しており、床面に残る角礫も被熱していた。溝は３条検出している。SD3001 は調査区西側にあり、遺跡西側を画する溝の可能性もある。直線でなく、蛇行する。最大幅 0.5 mで深さ 0.3 mを測る。

東区では、落ち込み１基・土坑４基・溝４条・ピットを検出している。ピットは東側平坦部に集中するが、掘立柱建物とはならない。落ち込みは SX3011 をあげた。最大長 2.1 m・深さ 0.25 mを測る。埋土に焼土・炭を含む。土坑は西側斜面に並んで検出している。土坑は楕円もしくは不定形、深さ 0.3 ～ 0.45 mを測り僅かに炭を含む。溝は地形に沿って走っており、自然流路の可能性も残る。

遺構の時期は 15 世紀後半から 16 世紀末の遺構として、焼土坑 SK3014・溝 SD3001 があり、埋桶 SX3005 と溝の一部は近世に下るものである。包含層からは近世から現代にいたる遺物が出土している。

第４節　遺　物

土　器

土器は、実測図を掲載したものに絞って述べる。写真のみの土器については、観察表を参照されたい。

１．１区平坦面４出土土器　（図版 93　写真図版 118）

601 は施釉陶器椀である。SK1411 より出土した。非常に器壁が薄い。19 世紀代と考えられる。602 は SX1409 から出土した丹波焼壺口頸部である。口縁端部が上下に拡張する。丹波焼編年壺Ｅ１のⅢ期、14 世紀初頭前後と考えられる。603 は瓦質の菊花である。仏具の一部であろう。604・605 は SD1401 の集石より出土した。604 は備前焼擂鉢である。備前焼編年ⅣＢ（古）、15 世紀後半である。605 は龍泉窯系細蓮弁文碗底部である。16 世紀代と考えられる。606 ～ 615 は包含層から出土した。606 は手捏ね

表４　観音寺跡４区墓一覧表

地区	支群	小支群	遺構No.	立地	種別	火葬施設など下層遺構の概要						納骨施設など上層遺構		副葬品他	火葬骨	時期	備考
						規模（m）				棺台・底面などの状況	軸方位	形態	遺構No.				
						土坑形状	長径	短径	深さ						火葬骨総量（納骨分）		
4区	北群	A	SX4001	尾根上	火葬址・墓	隅丸長方形	1.00	0.50	0.18	棺台３石３列　土坑被熱	N50°E	円形集石	集石 4026		火葬骨 437g		
		A	SX4002	尾根上	火葬址・墓	長楕円形	1.00	0.45	0.21	棺台３石３列　土坑被熱	N12°W	標石	集石 4027		火葬骨 177g		
		A	SX4003	尾根上	火葬址・墓	長楕円形	0.79	0.27	0.16	土坑縁部被熱	N22°E	納骨施設ヵ	集石 4029		火葬骨 1g		
		A	SX4004	尾根上	火葬址	不整楕円形	1.50	0.61	0.32	土坑壁被熱	N20°E	被熱石材	集石 4030		火葬骨 330g		収骨後の清掃不十分
		A	SX4005	尾根上	火葬址・墓	長楕円形	0.88	0.44	0.33	棺台３石３列　土坑被熱	N19°W	石塔土台ヵ	集石 4004		火葬骨 145g		複数回使用ヵ
		A	SX4007	尾根上	火葬址・墓	不整長方形	0.40	0.22	0.18	土坑壁被熱	N29°W	納骨施設ヵ	集石 4028				小型火葬土坑
		A	SK4001	尾根上	火葬址ヵ	不整楕円形	0.88	0.52	0.16		N85°E						被熱・炭なし
		A	SK4002	尾根上	火葬址	不整楕円形	0.60	0.46	0.08		N17°W						
		A	SK4003	尾根上	土坑	不整円形	0.81	0.78	0.18		N67°E						
		B	SX4008	尾根上	火葬址・墓	不整楕円形	1.52	0.76	0.30	角礫２個・炭骨灰充満	N17°W	石塔土台ヵ	集石 4001		火葬骨 20g		埋土に炭
		B	SX4009	尾根上	火葬址・墓	洋梨形	1.18	0.63	0.48	土坑壁被熱　平石３個	N5°W	納骨施設ヵ	平石・土坑状落ち		火葬骨 73g		土坑形状 SX4004 と類似
		B	SX4010	尾根上	火葬址・墓	砲弾形	1.10	0.64	0.35	棺台４石３列　土坑被熱	N33°E	石塔土台ヵ	集石 4024		火葬骨 220g		
		B	SX4011	尾根上	火葬址・墓	不整涙滴形	0.95	0.62	0.40	棺台４石３列　土坑被熱	N3°W	石塔土台ヵ	集石 4003		火葬骨 175g		
		B	SX4012	尾根上	火葬址・墓	不整長楕円形	0.98	0.64	0.61	棺台４石３列　土坑被熱	N6°W				火葬骨 150g		SX4010 と類似
		B	SX4013	尾根上	火葬址	不整長楕円形	1.00	0.45	0.30	土坑被熱	N13°E				火葬骨 25g		
		B	集石 4002	尾根上	墓ヵ		1.20	0.70	—			石塔土台ヵ	集石 4002				平石集中部分
		B	焼土	尾根上	焼土坑カ		0.60	0.60	—	底面被熱							焼土坑底部カ
	南群	C	集石 4018a	尾根端	墓		0.37	0.29	—			納骨施設ヵ	集石 4018a（平石）				
		C	集石 4018b	尾根端	墓		—	—	—			納骨施設ヵ	集石 4018b				
		C	集石 4019	尾根端	不明		—	—	—			不明	集石 4019				
		C	SX4038	尾根端	土坑	卵形	0.36	0.28	0.18	炭含む	N46°W			鉄片			
		C	SD4001	尾根端	溝	コ字形	5.30	1.00	0.15								土坑切り込む
		D	SX4015	東斜面	火葬址	おむすび形	(1.04)	0.68	0.28	土坑被熱	N41°E				火葬骨 77g		
		D	SX4016	東斜面	火葬址・墓	長楕円形	0.87	0.60	0.28	棺台５石３列　土坑被熱	N23°W	納骨施設	集石 4020・蔵骨器	土師器鍋底部 684	火葬骨 265g（納骨 105g）		集石は蔵骨器の蓋石
		D	SX4017	東斜面	火葬址・墓	隅丸長方形	1.08	0.67	0.40	棺台３石３列　土坑被熱	N15°E	納骨施設	集石 4020・蔵骨器	須恵器捏鉢 685	火葬骨 250g（納骨 190g）	14 世紀後半	集石は蔵骨器の蓋石
		D	SX4018	東斜面	火葬址・墓	砲弾形	0.95	0.48	0.43	棺台３石３列　土坑被熱	N36°W	納骨施設	SX4064・集石 4021				
		D	SX4019	東斜面	火葬址・墓	隅丸長方形	0.52	0.28	0.18	土坑被熱	N27°E	納骨施設ヵ	円礫・土坑状落ち				
		D	SX4020	東斜面	火葬址・墓	米粒形	1.00	0.56	0.30	平石４個（棺台の一部ヵ）	N14°E	納骨施設ヵ	集石 4022（平石）		火葬骨 65g		
		D	SX4021	東斜面	火葬址・墓	砲弾形	0.87	0.50	0.29	棺台３石３列ヵ　土坑被熱	N13°E	納骨施設	集石 4022（コの字）		火葬骨 100g		
		D	SX4030	東斜面	火葬址	米粒形	1.07	0.61	0.42	ロの字形石組・炭灰埋積	N23°E				火葬骨 330g		
		D	SX4031	東斜面	火葬址	おむすび形ヵ	0.90	(0.70)	0.30	棺台５石３列	N56°E				火葬骨 17g		
		D	SX4032	東斜面	火葬址	勾玉形	0.76	0.39	0.20	棺台３石３列　土坑被熱	N16°E			集石 4023	火葬骨 25g		
		D	SX4046	東斜面	火葬址	不整円形	0.88	0.82	0.15	炭層	N21°W			鉄釘片	火葬骨 15g		円形座棺を火葬ヵ
		D	SX4047	東斜面	火葬址	不整長方形	1.05	0.56	0.24	礫散乱・炭灰埋積	N4°E				火葬骨 28g		
		D	SX4064	東斜面	墓	円形掘方	0.48	0.46	0.16	土師器鍋蔵骨器	N41°W	納骨施設	蔵骨器	土師器鍋 683	火葬骨（納骨）325g	14 世紀前半	
		E－1	SX4022	東斜面	火葬址	楕円形	0.93	0.74	0.24	平石１個　土坑被熱	N35°E				火葬骨 10g		SX4068 を切る
		E－1	SX4023	東斜面	火葬址・墓	長楕円形	1.17	0.55	0.27	棺台３石３列　土坑被熱	N2°W	納骨施設	集石 4016（石囲い）		火葬骨 675g（納骨 640g）		
		E－1	SX4024	東斜面	火葬址	砲弾形	1.28	0.68	0.33	土坑壁・底の一部被熱	N29°E						土坑底被熱部に凹凸
		E－1	SX4025	東斜面	火葬址・墓	不整楕円形	0.87	0.52	0.30	棺台５石３列ヵ・土坑被熱	N25°E	納骨施設	集石 4015		火葬骨 167g（納骨 57g）		集石 4015 が蓋石
		E－1	SX4026	東斜面	火葬址・墓	不整砲弾形	1.00	0.49	0.42	土坑被熱	N13°E	納骨施設	集石 4012		火葬骨 160g（納骨 130g）		
		E－1	SX4033	東斜面	火葬址・墓	不整長方形	1.32	0.67	0.23	平石１個・土坑被熱	N69°W	散漫な集石	集石 4014	鉄釘 M332	火葬骨 470g		
		E－1	SX4034	東斜面	火葬址	卵形	0.77	0.47	0.26	棺台２石２列ヵ　土坑被熱	N18°E				火葬骨 32g		SX4072 を切る
		E－1	SX4035	東斜面	火葬址	砲弾形	0.88	0.42	0.27	平石１個・土坑被熱	N32°E				火葬骨 15g		
		E－1	SX4036	東斜面	火葬址	不整円形	0.36	0.30	0.20	土坑被熱	N63°E	角礫１個					
		E－1	SX4037	東斜面	火葬址・墓	不整楕円形	(0.82)	0.62	0.38	底に平石１個・土坑被熱	N11°E	標石ヵ	集石 4011		火葬骨 210g		火葬骨 160g は中層石下から
		E－1	SX4043	東斜面	火葬址	不整楕円形ヵ	(0.86)	0.68	0.30	台石痕・土坑被熱	N29°E			無釉陶器甕 686	火葬骨 77g		台石は抜き取りか。
		E－1	SX4044	東斜面	火葬址	楕円形	0.97	(0.68)	0.24	土坑壁被熱	N24°E				火葬骨 148g		
		E－1	SX4045	東斜面	火葬址	俵形～砲弾形	1.01	0.61	0.20	円形の被熱痕	N23°E			鉄釘 307 ～ 331	火葬骨 115g		
		E－1	SX4048	東斜面	火葬址	米粒形	0.62	0.34	0.12	棺台６石３列　土坑被熱	N24°E				火葬骨 16g		
		E－1	SX4049	東斜面	火葬址	不整楕円形	0.96	0.73	0.14	土坑被熱	N8°W			鉄釘 M333 ～ 335・銭貨 M126 ～ 131	火葬骨 62g		SX4044 を切る SX4071 が納骨施設
		E－1	SX4050	東斜面	土坑	楕円形ヵ	(0.64)	0.58	0.26	炭含む・被熱なし	N35°W						
		E－1	SX4051	東斜面	土坑	不整方形	0.73	0.65	0.28	炭含む・被熱なし	N13°E						
		E－1	SX4053	東斜面	火葬址	楕円形	(0.28)	0.43	0.07	被熱は不明	N70°W	納骨施設ヵ	集石 4023 礫群		火葬骨 275g		
		E－1	SX4054	東斜面	火葬址	長楕円形	(0.75)	0.50	0.35	平石１個・土坑被熱	N29°E			瓦器椀 682	火葬骨 155g	14 世紀初ヵ	炭灰埋積
		E－1	SX4055	東斜面	火葬址	不整長方形	0.73	0.54	0.22	平石２個・土坑被熱	N15°E				火葬骨 335g		
		E－1	SX4058	東斜面	火葬址	砲弾形ヵ	0.73	(0.52)	0.23	台石痕・土坑被熱	N29°E				火葬骨 50g		SX4043 と重複
		E－1	SX4063	東斜面	火葬址	隅丸方形	1.04	(0.85)	0.24	平石１個	N20°E	納骨施設ヵ	平石				
		E－1	SX4065	東斜面	火葬址	不整円形	0.53	0.45	0.23	土坑壁弱く被熱	N1°E						
		E－1	SX4066	東斜面	火葬址	不整楕円形	(0.35)	0.38	0.16		N29°W						
		E－1	SX4067	東斜面	火葬址	不整楕円形	0.55	0.48	0.17	被熱なし	N20°W						
		E－1	SX4068	東斜面	火葬址	長楕円形	1.18	(0.56)	0.24	平石２石（棺台ではない）	N8°E						
		E－1	SX4071	東斜面	墓	不整楕円形	0.67	0.46	0.20		N20°W	納骨施設	礫が円形に集中				
		E－1	SX4072	東斜面	火葬址	不整円形	(0.28)	0.39	0.11		N75°W				火葬骨 10g		
		E－1	SX4073	東斜面	棺台抜き痕	不整楕円形	—	—	—	SX4043 の棺台石抜き痕							
		E－1	SX4074	東斜面	棺台抜き痕	不整楕円形	—	—	—	SX4043 の棺台石抜き痕							
		E－1	SX4075	東斜面	土坑	不整楕円形	0.58	0.28	0.07	被熱は不明	N1°E						
		E－2	SX4014	東斜面	火葬址	砲弾形ヵ	(0.66)	0.43	0.27	平石１個・土坑被熱	N21°E				火葬骨 120g		棺台は２石で構成ヵ
		E－2	SX4027	東斜面	火葬址	砲弾形	1.04	0.46	0.20	土坑被熱	N14°E						
		E－2	SX4028	東斜面	火葬址	砲弾形	0.91	0.50	0.32	棺台３石３列・土坑被熱	N18°E						複数回使用ヵ
		E－2	SX4029	東斜面	火葬址・墓	俵形	1.10	0.64	0.40	棺台３石３列・土坑被熱	N5°W	納骨施設	集石 4010 上に火葬骨	土師器小皿・瓦器椀	火葬骨 160g（納骨 145g）	14 世紀初	
		E－2	SX4039	東斜面	火葬址	卵形	0.48	0.30	0.22	土坑被熱	N64°W				火葬骨 5g		
		E－2	SX4040	東斜面	火葬址	不整な俵形	0.75	0.47	0.23	平石３個他・土坑被熱	N28°E				火葬骨 97g		SX4014 火葬骨 50g 混じる。

地区	支群	小支群	遺構No.	立地	種別	火葬施設など下層遺構の概要						納骨施設など上層遺構		副葬品他	火葬骨	時期	備考
						規模（m）				棺台・底面などの状況	軸方位	形態	遺構No.				
						土坑形状	長径	短径	深さ						火葬骨総量（納骨分）		
4区	南群	E－2	SX4041	東斜面	火葬址	長楕円形	(0.65)	0.29	0.13	土坑被熱	N37°W						
		E－2	SX4042	東斜面	火葬址	不整楕円形	0.59	0.41	0.18	棺台２石・土坑被熱	N6°E						
		E－2	SX4069	東斜面	集石土坑	多角形	(0.67)	0.71	0.21		N19°E						
		E－2	SX4070	東斜面	石組土坑	不整方形	1.17	1.14	0.50		N19°E	不明集石	集石 4007	銭貨 M120 ～ M125			土坑内石材若干被熱
		E－2	集石 4006	東斜面	—	—	—	—	—		—	遺構残欠ヵ	集石 4006				SX4014 ～ SX4040 間
		E－2	集石 4009	東斜面	—	—	—	—	—		—	納骨施設	集石 4009 石囲い		火葬骨 30g		
		F	SX4056	南斜面	石蓋土坑	不整楕円形	0.54	0.44	0.50		N26°W						
		F	SX4057	南斜面	石蓋土坑	長楕円形	1.44	0.68	0.43		N19°W						
		G	SX4059	東斜面下	焼土坑	不整円形	0.73	0.70	0.08		N16°W						
		G	SX4060	東斜面下	土坑	不整円形	0.84	0.77	0.06		N16°W						
		G	SX4061	東斜面下	土坑	不整円形	1.08	1.03	0.06		N21°W						
		G	SX4062	東斜面下	土坑	楕円形	1.00	0.60	0.16		N14°E						
			SX4006		欠番												
			SX4052		欠番												

表５　観音寺跡　２区墓一覧表

地区	種別	遺構No.	立地	棺形状	埋葬形態	検出形状	長軸	短軸	深さ	軸方位	副葬品他	時期	備考
2区	土葬墓	SX2001	尾根端	円形棺	座棺	円形	0.60	0.53	0.34	N10°W	一石五輪塔・火葬骨		
	土葬墓	SX2002	尾根端	円形棺	座棺	円形	0.67	0.65	0.35	N9°W	水輪		
	土葬墓	SX2003	尾根端	円形棺	座棺	円形	0.68	0.58	0.49	N4°W			
	土葬墓	SX2006	尾根端	円形棺	座棺	円形	0.90	0.84	0.50	N10°W	磁器碗	19 世紀前半	
	土葬墓	SX2007	尾根端	円形棺	座棺	円形	0.65	0.59	0.70	N10°W	一石五輪塔		
	土葬墓	SX2009	尾根端	円形棺	座棺	不定円形	0.73	0.70	0.57	N11°W			
	土葬墓	SX2012	尾根端	円形棺	座棺	不定形	0.70	0.60	0.25		釘・風空輪・銭３		集石
	土葬墓	SX2015	尾根上南斜面	円形棺	座棺ヵ	不定円形	0.92	0.87	0.15	N12°W			集石
	土葬墓	SX2018	尾根端	円形棺	座棺	不定方形	0.70	(0.55)	0.20		火葬骨		
	土葬墓	SX2029	尾根上南斜面	円形棺	座棺	不定楕円形	1.13	1.00	1.24	N85°E	数珠・石仏・人骨・染付皿	近代	
	土葬墓	SX2030	尾根上	円形棺	座棺	楕円形	0.98	0.84	0.31	N15°W	一石五輪塔・人骨・陶器椀	近代	
	土葬墓	SX2044	尾根東斜面	円形棺	座棺	不定形	0.50	0.45	0.45		火葬骨		
	土葬墓	SX2051	尾根東斜面	円形棺	座棺	不定円形	1.13	1.00	0.65	N41°W	銭６・人骨		
	土葬墓	SX2058	尾根上南斜面	円形棺	座棺	不定円形	0.83	0.78	0.35	N44°E	銅板刷り皿	近代	
	土葬墓	SX2061	尾根上	円形棺	座棺	不定方形	1.05	1.00	0.31	N83°W	筒碗・櫛	近代	
	土葬墓	SX2062	尾根上	円形棺	座棺	円形	0.83	0.73	0.21	N13°E	染付碗蓋	近代	
	土葬墓	SX2064	尾根上南斜面	円形棺	座棺	不定楕円形	0.84	0.74	0.76	N79°E	人骨・樹脂製玉	近現代	
	土葬墓	SX2068	尾根端東斜面	円形棺	座棺	隅丸方形	0.87	0.84	0.83	N79°E	水輪・火輪・土師器・染付碗	近代	
	土葬墓	SX2069	尾根端	円形棺	座棺	隅丸方形	0.74	0.71	0.33	N10°W			
	土葬墓	SX2070	尾根端	円形棺	座棺	円形	0.60	0.60	0.75		土師器		
	土葬墓	SX2071	尾根端	円形棺	座棺	円形	0.55	0.55	0.35	N90°E	土師器・陶磁器		
	土葬墓	SX2072	尾根端	円形棺	座棺	不定円形	0.73	0.68	0.77	N10°W	人骨頭・土師器		
	土葬墓	SX2073	尾根端	円形棺	座棺	不定円形	0.73	0.59	0.65	N80°E	紅皿	19 世紀後半	
	土葬墓	SX2076	尾根東斜面	円形棺	座棺	不定円形	0.35	0.30	0.35				
	土葬墓	SX2077	尾根東斜面	円形棺	座棺	不定円形	0.50	0.45	0.80		丸釘・空風輪		
	土葬墓	SX2078	尾根東斜面	円形棺	座棺	不定円形	0.45	0.40	0.70		土師器・陶磁器		
	土葬墓	SX2079	尾根端	円形棺	座棺	不定円形	0.45	0.41	0.76	N80°E	鳩笛・土師器		
	土葬墓	SX2081	尾根端	円形棺	座棺	不定円形	0.99	0.99	0.56	N10°W	煙管・土師器・火葬骨		SX2018 に切られる
	土葬墓	SX2083	尾根東斜面	円形棺	座棺	不定円形	0.40	0.35	0.25				
	土葬墓	SX2085	尾根上	円形棺	座棺	不定形							
	土葬墓	SX2086	尾根上南斜面	円形棺	座棺	不定形	0.90	0.68	0.21	N89°E	陶磁器・人骨	近現代	
	土葬墓	SX2088	尾根端東斜面	円形棺	座棺	不定円形	0.80	0.80	0.30				
	土葬墓	SX2089	尾根南端	円形棺	座棺	不定円形	0.85	0.80			土師器・人骨		
	土葬墓	SX2098	尾根端	円形棺	座棺	円形	(0.32)	0.50	0.14	N80°E		19 世紀前半以降	中層で検出
	土葬墓	SX2099	尾根端	円形棺	座棺	円形	1.04	1.00	0.20	N80°E			中層で検出
	土葬墓	SX2104	尾根東斜面	円形棺	座棺	不定円形	0.75	0.70	0.30				
	土葬墓	SX2105	尾根東斜面	円形棺	座棺	不定円形	0.80	0.80	0.35				中層で検出
	土葬墓	SX2106	尾根東斜面	円形棺	座棺	不定円形	0.75	0.70	0.30				中層で検出
	土葬墓	SX2107	尾根東斜面	円形棺	座棺	不定円形	1.20	1.00	0.35		火葬骨	17 世紀後半代	中層で検出
	土葬墓	SX2108	尾根東斜面	円形棺	座棺	円形	0.65	0.65	0.25		銭６　煙管		中層で検出
	土葬墓	SX2118	尾根南端	円形棺	座棺	楕円形	0.90	0.85	0.55	N0°E	刀・煙管・人骨		
	土葬墓	SX2123	尾根端	円形棺	座棺	円形	0.60	0.60	0.20		銭６・染付碗	18 世紀後半	
	土葬墓	SX2134		円形棺	座棺	円形	0.80	0.75	0.55		人骨・人骨頭		
	土葬墓	SX2008	尾根端	方形棺	座棺	不定方形	1.22	1.04	0.45	N4°W			
	土葬墓	SX2013	尾根上南斜面	方形棺	座棺	不定形	1.25	(0.65)	0.55		銭４・人骨頭		
	土葬墓	SX2014	尾根上	方形棺	座棺	不定方形	1.20	(0.90)	0.70		火輪		
	土葬墓	SX2016	尾根上南斜面	方形棺	座棺	不定形	1.03	0.97	0.67	N20°W	人骨・火葬骨		SX2045 他に切られる
	土葬墓	SX2017		方形棺	座棺	隅丸方形	1.10	1.00	0.80		銭５・火葬骨		
	土葬墓	SX2019	尾根端	方形棺	座棺	不定方形	(1.20)	1.00	0.56	N65°E	白磁皿	近現代	
	土葬墓	SX2020	尾根上南斜面	方形棺	座棺	不定形	0.95	0.90	0.80				
	土葬墓	SX2022	尾根上南斜面	方形棺	座棺	長方形	1.40	1.10	0.55				
	土葬墓	SX2023	尾根上南斜面	方形棺	座棺	不定方形	0.86	0.83	0.90	N16°E	人骨頭・火葬骨		
	土葬墓	SX2024	尾根端	方形棺	座棺	長方形	1.40	1.20	0.60				SX2022 に切られる
	土葬墓	SX2025	尾根上南斜面	方形棺	座棺	長方形	(1.10)	1.25	0.85		土師器・陶磁器・火葬骨	近代	SX2022･2024 に切られる
	土葬墓	SX2026	尾根上南斜面	方形棺	座棺	不定方形	0.87	0.84	1.05	N80°E	火葬骨		
	土葬墓	SX2027	尾根上南斜面	方形棺	座棺	不定方形	1.30	(0.80)	0.60		丸釘		
	土葬墓	SX2031	尾根上	方形棺	座棺	不定形	1.30	0.80			鉄器（鍋？）		
	土葬墓	SX2032									銭６（大銭２）	近代	
	土葬墓	SX2033	尾根上南斜面	方形棺	座棺	方形	(0.60)	0.60			銭２・人骨頭	近世	SX2084 に切られる
	土葬墓	SX2034	尾根上南斜面	方形棺	座棺	不定方形	1.15	1.10	0.74	N26°W	人骨		
	土葬墓	SX2041	尾根上	方形棺	座棺	不定形	(1.35)	1.00			銭 12（近代）・人骨	近代（戦前）	
	土葬墓	SX2042	尾根上南斜面	方形棺	座棺	不定形	(1.60)	(1.00)			青磁瓶・白磁骨壺蓋・陶器鉢	近現代	
	土葬墓	SX2043	尾根東斜面	方形棺	座棺	方形	(0.70)	0.80	0.60		筒碗	近代以降	
	土葬墓	SX2045	尾根上南斜面	方形棺	座棺	不定方形	1.10	0.90	0.55		釘・煙管・入歯・火葬骨頭	近代	ガラス製薬瓶

地区	種別	遺構No.	立地	棺形状	埋葬形態	検出形状	長軸	短軸	深さ	軸方位	副葬品他	時期	備考
2区	土葬墓	SX2047	尾根東斜面	方形棺	座棺	方形	(0.80)	0.70	0.60	N80°E			
	土葬墓	SX2055	尾根東斜面	方形棺	座棺	不定方形	0.80	0.70	0.76	N75°E			SX2035 内
	土葬墓	SX2056	尾根東斜面	方形棺	座棺	不定方形	1.00	0.85	0.80	N75°E		近現代	
	土葬墓	SX2057	尾根上南斜面	方形棺	座棺	不定方形	1.30	0.85	1.00		丸釘・人骨	近代	SX2058 に切られる
	土葬墓	SX2059	尾根上南斜面	方形棺	座棺	不定方形	(0.90)	0.80	1.00				
	土葬墓	SX2063	尾根上南斜面	方形棺	座棺	不定方形	1.04	0.96	0.55	N80°E	銅板刷り皿	近代	
	土葬墓	SX2065	尾根上	方形棺	座棺	不定方形	1.30	1.00	0.24	N88°E			
	土葬墓	SX2066	尾根上	方形棺	座棺	方形	1.05	0.85	0.86	N74°E	銭 6・丸釘・人骨頭・染付小杯	近代	
	土葬墓	SX2067	尾根上	方形棺	座棺	不定方形	1.50	1.05	0.30	N75°E	柿釉小皿	19 世紀	
	土葬墓	SX2074	尾根端	方形棺	座棺	不定円形	0.70	0.60	0.15				
	土葬墓	SX2075	尾根上南斜面	方形棺	座棺	方形	(0.80)	0.80	0.06				
	土葬墓	SX2080	尾根端	方形棺	座棺	不定形	(1.15)	1.10	0.45				SX2019 に切られる
	土葬墓	SX2080b	尾根端	方形棺	座棺	方形	0.65	0.55	0.40				
	土葬墓	SX2082	尾根端	方形棺	座棺	不定形	(0.80)	0.50	0.08		土師器・火鉢・染付碗	18 世紀後半以降	
	土葬墓	SX2084	尾根上南斜面	方形棺	座棺	不定形	1.10	0.65	0.42	N70°E			
	土葬墓	SX2087	尾根上	方形棺	座棺	不定方形	(1.00)	(0.90)		N10°E	銭 6（近代）・丸釘・土師器・陶磁器・人骨	近代（戦前）	近代
	土葬墓	SX2090	尾根端	方形棺	座棺	方形	1.05	1.00			銭 1（文久永寶大銭）	19 世紀後半以降	文久
	土葬墓	SX2091		方形棺	座棺								
	土葬墓	SX2092	尾根上	方形棺	座棺	不定方形	1.10	0.98	0.47	N82°W	陶磁器		
	土葬墓	SX2093	尾根上	方形棺	座棺	不定方形	(0.89)	0.90	1.13	N80°E			
	土葬墓	SX2094	尾根上	方形棺	座棺	不定方形	(0.80)	0.90	1.15				SX2065 に切られる
	土葬墓	SX2095	尾根上	方形棺	座棺	不定方形	1.20	(0.90)	0.25	N70°W			
	土葬墓	SX2103	尾根端	方形棺	座棺	不定方形	1.25	0.80	0.30				中層で検出
	土葬墓	SX2110	尾根上南斜面	方形棺	座棺	不定形	(0.75)	0.80	0.65		土師器皿・陶磁器・人骨		
	土葬墓	SX2124		方形棺	座棺	不定形	(0.80)	(0.60)			火葬骨・柿釉小皿	19 世紀	
	土葬墓	SX2125	尾根上南斜面	方形棺	座棺	不定方形	1.00	(0.65)			人骨頭・丹波焼	18 世紀末～19 世紀	
	土葬墓	SX2126	尾根上	方形棺	座棺	方形	0.60	0.55			数珠・銭 2（近代）・丸釘・1 円・人骨・染付皿	近現代	
	土葬墓	SX2127	尾根上	方形棺	座棺	方形	(0.50)	(0.50)			人骨頭		
	土葬墓	SX2130	尾根上	方形棺	座棺	不定形	2.50	1.60					
	土葬墓	SX2133	尾根上	方形棺	座棺	方形	1.55	1.10	0.65				SX2087・2041・2092 に切られる
	土葬墓	SX2010	尾根端	長方形棺	寝棺（伸展葬）	不定方形	1.23	0.64	0.24	N83°E	丸釘・銅製品・土師器・陶磁器・火葬骨	19 世紀後半	集石
	土葬墓	SX2010b	尾根端	長方形棺	寝棺（伸展葬）	長方形	1.25	0.65	0.85		人骨		
	土葬墓	SX2021	尾根上南斜面	長方形棺	寝棺（伸展葬）	長方形	(1.18)	0.54	0.54	N6°E	丸釘・人骨		
	土葬墓	SX2028	尾根上南斜面	長方形棺	寝棺（伸展葬）	長方形	(0.95)	0.90	1.11	N9°W	錫杖・帽子・数珠・飾り金具・丸釘・人骨	近代	僧侶墓。SX2027 に切られる
	土葬墓	SX2037	尾根東斜面	長方形棺	寝棺（伸展葬）	長方形	(0.50)	0.80	0.60		棺材		
	土葬墓	SX2038	尾根上	長方形棺	寝棺（伸展葬）	長方形	(0.65	0.60	0.84	N1°E			
	土葬墓	SX2040	尾根上	長方形棺	座棺	長方形	1.55	0.54	0.57	N8°W	釘・煙管・銅製品・白磁骨壷	近現代	
	土葬墓	SX2046	尾根上	長方形棺	寝棺（伸展葬）	不定長方形	1.10	0.65	0.65	N19°W	草履・櫛・丸釘・人骨頭・ゴム底	近現代	子供
	土葬墓	SX2048	尾根東斜面	長方形棺	寝棺（伸展葬）	長方形	2.20	0.80	1.15	N75°E	銭 2（近代）布・丸釘・10 円・人骨頭	近現代	
	土葬墓	SX2052	尾根上南斜面	長方形棺	寝棺（伸展葬）	長方形	(0.75)	0.77	0.75	N1°W			SX2053 に切られる
	土葬墓	SX2053	尾根上南斜面	長方形棺	寝棺（伸展葬）	長方形	2.24	0.78	0.75	N1°W	筆箱・草履・人骨	近代	
	土葬墓	SX2060	尾根上	長方形棺	寝棺（伸展葬）	長方形	1.30	0.60	0.25	N20°W			
	土葬墓	SX2111	尾根上南斜面	長方形棺	寝棺（伸展葬）	長方形	1.20	(0.60)	0.20		数珠	近現代	SX2017・2064 に切られる
	土葬墓	SX2112	尾根上南斜面	長方形棺	寝棺（伸展葬）	長方形	(0.90)	(0.30)	0.15		数珠・煙管・陶磁器	近代	SX2111 他に切られる
	土葬墓	SX2113	尾根上南斜面	長方形棺	寝棺（伸展葬）	長方形	(1.10)	0.83	0.81	N19°E	丸釘・土師器・陶磁器・人骨頭	近代	SX2029 他に切られる
	土葬墓	SX2049	尾根東斜面	土坑	動物墓	楕円形	0.77	0.43	0.36	N10°W		近現代ヵ	
	土葬墓	SX2050	尾根東斜面	土坑	動物墓	不定形	0.50	0.50	0.35			近現代ヵ	
	土葬墓	SX2054	尾根東斜面	箱ヵ	動物墓	長方形	0.65	0.35	0.20	N30°E	丸釘・犬骨	近現代	
	家族墓	SX2035	尾根東斜面		座棺群	不定方形	2.00	(0.70)	0.50	N14°W	人骨頭	近現代	
	家族墓	SX2036	尾根東斜面		座棺群	不定方形	2.00	1.80	1.45		丸釘	近現代	
	土坑	SX2101	平坦面４西端		—	円形	1.28	1.03	0.12	N50°W			墓でない
	火葬場	SX2004	尾根端		火葬石組	円形	1.94	1.73	0.40	N0°	五輪塔・土師器皿・銭 1・尿瓶・琺瑯製品・火葬骨	近代	
	火葬場	SX2100	尾根東斜面		火葬土坑	おむすび形	2.40	2.50	0.20	N13°E	土師器・釘・鉄鏃？	中世末～近世	焼土坑
	火葬場	SX2109	尾根南端		火葬土坑	不定形	(1.00)	(0.90)	0.25	N33°E	火葬骨	中世末～近世	SX2117 に切られる中層
	火葬場	SX2114	尾根南端		火葬土坑	不整形	1.30	1.20	0.20	N90°E	土師器・空風輪・火葬骨	近世 18 世紀ヵ	中層
	火葬場	SX2115	尾根南端		火葬土坑	不定形	1.05	(0.90)	0.15	N90°E	銭・石仏・火葬骨	近世	SX2114 に切られる中層
	火葬場	SX2116	尾根南端		火葬土坑	不整楕円形	1.10	0.85	0.10		銭	近世	SX2114 に切られる中層
	火葬場	SX2117	尾根南端		火葬土坑	不整長方形	1.85	(0.80)	0.28	N38°E	土師器・銭 1・火葬骨	近世	中層
	火葬場	SX2131	尾根南端		火葬土坑	不定形	(0.80)	(0.45)	0.15	N40°W	火葬骨		SX2114 に切られる下層
	火葬場	SX2132	尾根南端		火葬土坑	卵形	(2.80)	(2.40)	0.29	N18°W	銭・火輪・地輪・火葬骨	近世前半	中央方形石組　下層
	火葬址	SX2096	尾根東斜面		火葬土坑	円形	0.95	(0.52)	0.62	N89°W	火葬骨		SX2010 に切られる
	火葬址・墓	SX2097	尾根南端	蔵骨器	火葬土坑	隅丸長方形	0.86	0.50	0.15	N69°W	須佐唐津擂鉢・丹波焼擂鉢・土師器・火葬骨	江戸初期	
	火葬址	SX2119	尾根南端		火葬土坑	隅丸方形	0.93	0.69	0.27	N51°W	骨灰		
	火葬址	SX2121	尾根南端		火葬土坑	隅丸長方形	0.94	0.70	0.29	N9°W	火葬骨		
	火葬址	SX2129	尾根南端		火葬土坑	隅丸長方形	(0.80)	0.66	0.26	N29°W	火葬骨		SX2118 に切られる
	火葬墓	SX2039	尾根東斜面	土坑		楕円形	0.65	0.65	0.45	N39°W	染付小杯	近代	
	火葬墓	SX2120	尾根南端			円形	0.50	0.45	0.26	N2°W	銭 2		
	火葬墓カ	SX2122	尾根端	—	集石群	不定方形	1.35	0.80	1.40	N10°W	土師器皿・火葬骨	中世末～近世	土葬？
	火葬墓	SX2005	尾根端	蔵骨器	丹波甕棺	不定形	0.55	0.52	0.34	N10°W	丹波焼甕	19 世紀前半	箍付き埋葬用
	火葬墓	SX2135	尾根東斜面	蔵骨器	丹波焼甕	不定円形	0.35	0.31	0.19	—	丹波焼甕・火葬骨	18 世紀前半	
	火葬墓	SX2136	尾根東斜面	蔵骨器	火消壷	不定形	0.35	0.30	0.40	—	土師質・火葬骨	19 世紀前半代	蓋に墨書
	火葬墓	SX2137	尾根東斜面	蔵骨器	火消壷	不定形	0.30	0.30	0.40	—	土師質・火葬骨	19 世紀前半代	
	火葬墓	SX2138	尾根東斜面	蔵骨器	骨壷						陶器骨壷	近代	
	不明	SX2128											
	欠番	SX2011											

成形の土師器小皿である。底部・体部境は丸く、口縁端部は肥厚する。607 は京都系土師器皿である。口縁端部は肥厚し、外方へ伸びる。内外に煤が付着している。16 世紀代と考えられる。608 は土師器羽釜である。兵庫津編年ＢタイプⅢＡ類、15 世紀後半～ 16 世紀代前半と考えられる。609 は土師質香炉体部である。胴部に沈線が巡る。北斜面より出土した。610 は瓦質香炉である。口縁部下に摩滅した文様の痕跡があり、三足脚の痕跡も認められる。611 は瓦質風炉の口縁部である。円形貼文が巡る。612 は備前焼擂鉢である。備前焼編年ⅣＢ（新）、16 世紀前半である。613 は丹波焼甕である。胴部以下を欠く。口縁部内側に凹線を持つ。丹波焼編年甕Ｂ１のⅣ期、14 世紀代と考えられる。614 は龍泉窯系青磁細蓮弁文碗である。蓮弁は簡略化されつつあり、内面に草花文のスタンプが捺される。16 世紀前半である。615 は青磁無文碗である。口縁端部は若干外反気味、釉の発色は良くない。

２．１区平坦面３出土土器（図版 94・95　写真図版 118 ～ 121）

616 ～ 620 は SE1302 から出土した。616 は施釉陶器、瀬戸・美濃窯の黄瀬戸小皿である。617 は唐津焼皿である。内面に胎土目痕が認められる。618 は瓦質土器、奈良火鉢である。体部に径 2 ㎝前後の孔があく。風炉Ⅲに分類され、16 世紀代の製品である。619 は軒平瓦の瓦当である。620 は丹波焼擂鉢である。口縁部は丸く肥厚する。16 世紀代後半である。621・622 は SX1303 から出土した。共に京都系の手捏ね成形の土師器小皿である。底部が持ち上がり、口縁部は外反する。兵庫津編年のⅣＣ１類、15 世紀末葉から 16 世紀前葉と考えられる。623 ～ 627 は SX1304 から出土した。623 は土師器鍋である。口縁端部は上部に面をもつ。兵庫津編年Ｖ類、15 世紀後半～ 16 世紀初頭と考えられる。624 は瓦器椀である。底部には三角形の貼り付け高台、内面にのみヘラミガキと平行線の暗文を施す。13 世紀代であろう。625 は丹波焼擂鉢下半部である。626 は丹波焼壺である。算盤玉状の体部に短く屈曲する口縁部がつく。627 は施釉陶器、瀬戸・美濃窯の折皿である。628・629・630 は集石溝 SD1310 から出土した。628 は手捏ね成形の土師器小皿である。薄手の造り、底部は平底、口縁部は心持ち外反する。629 は瓦器小椀である。外面にヘラミガキは見られない。薄く、型造りか。630 は須恵器捏鉢である。口縁部は下方に肥厚し丸い。14 世紀代と考えられる。631 は SD1301 から出土した須恵器捏鉢である。口縁部は屈曲し、端部は肥厚する。14 世紀代と考えられる。632 は丹波焼擂鉢である。山際の SD1304 周辺から出土した。14 世紀代と考えられる。

633 ～ 639 は包含層出土土器である。633 は手捏ね成形の厚手の土師器小皿である。口縁部はヨコナデを施し肥厚する。底部と体部の境は甘く、口縁部は外反しない。634 は瓦器椀で、体部・口縁部は丸みを帯びる。内面にのみヘラミガキと鋸歯状暗文を施す。13 世紀代であろう。635 は黄瀬戸丸皿、高台裏に輪トチンが融着している。636 は備前焼擂鉢ⅢＢ期、15 世紀初頭前後である。637 は備前焼擂鉢ⅣＢ期（新）、16 世紀前葉である。638・639 は丹波焼甕である。長谷川編年甕Ａ、Ⅲ期と考えられ、13 世紀後葉～ 14 世紀前葉である。640・641 は瀬戸・美濃窯天目椀である。17 世紀前後と思われる。642 は龍泉窯系青磁蓮弁文碗である。口縁部を欠く。蓮弁の間隔は広く、見込みに草花文が捺される。

３．１区平坦面１出土土器（図版 95　写真図版 122・137）

643 ～ 649 は平坦面１からの出土土器である。643 は備前焼壺である。肩部より上が残る。短い口縁部が付く。17 世紀前後のものと思われる。644 は施釉陶器の小型の三足香炉である。筒形の本体には輪高台が付くが、その外側に脚が貼付される。645 は染付磁器の仏飯具である。脚が短く、畳付きの削り込みは浅い。18 世紀以降の製品と考えられる。以下は池堤周辺から出土した。646 は瓦質土器脚部である。647 は軒平瓦の瓦当である。648・649 は池底埋土から出土した。648 は土師器羽釜である。兵庫津

編年ⅡＣ類、15 世紀中頃前後である。649 は無釉陶器盤である。

４．１区平坦面２出土土器（図版 96　写真図版 121）

650 は遺構面精査時に出土した手捏ね成形の土師器小皿で、やや厚手の造りである。器高は低く、口縁部は立ち上がる。651 は西埋甕から出土した。軒丸瓦瓦当である。652 東埋甕の甕本体である。備前焼甕Ⅴ期（古）、16 世紀は中頃である。653 は西埋甕本体の無釉陶器甕（丹波焼甕）、17 世紀代前半である。

５．５区出土土器（図版 97　写真図版 123）

654 ～ 658 は瓦溜めから出土した。654 は施釉陶器蓋である。鉢・行平などの蓋であろう。655 は瓦質土器火鉢である。656 は軒丸瓦の瓦当、657 は鳥衾瓦である。658 は軒平瓦である。以下は包含層から出土した。659 ～ 663 は手捏ね成形による土師器小皿である。何れも丸底から内湾して口縁部に至る。659・661・663 はナデによってユビオサエ痕を消す。660 と 662 は底部がやや平たく、ユビオサエ痕が顕著である。664 は平底で、器高が低く扁平な器形である。口縁端部は丸みを持つ。665 は手捏ね成形による土師器皿である。丸底から内湾し、口縁は開く内面に右回りのナデアゲ痕が顕著である。また、孔の補修痕がある。666 は鞴の羽口である。一端に融着物が認められる。667 は土師器擂鉢である。口縁端部上面は内側に拡張し、面を持つ。体部はボウル状、一本引きの擂り目を持つ。668 は土師器鍋、兵庫津編年Ⅲ類、14 世紀代後半と考えられる。669 は無釉陶器盤である。670 は施釉陶器（黄瀬戸）椀である。671 は龍泉窯系青磁碗底部である。見込みに草花文のスタンプが捺される。

６．４区出土土器（図版 98・99　写真図版 124・125）

672 から 674 は SX4009、675 ～ 680 は SX4029 出土土器である。672 ～ 676 は底部が持ち上がり、口縁部が外反する手捏ね成形の、京都系土師器小皿である。677・678 は平底、口縁部は内湾気味に立ち上がる。679・680 は瓦器椀である。外面にはヘラミガキを施さず、かまぼこ型の貼り付け高台は底部と高さが変わらない。679 は横方向のヘラミガキ、鋸歯状の暗文を施す。680 は横方向のヘラミガキ、下半は斜格子状に暗文を施す。暗文は櫛描きに近い調整である。14 世紀代に入る時期と考えられる。681 は口縁部が外反する手捏ね成形の土師器小皿である。底部は平坦、口縁部は外方に直線的に開き、器高は非常に低い。682 は SX4054 から出土した瓦器椀。退化した低い三角形の高台が貼付される。高台は底部と高さが変わらない。炭素は内外面に吸着する。暗文は外面にまばらに、内面は口縁部にまばらに見られる。14 世紀代に入ると考えられる。683 は SX4064 の蔵骨器である。土師器鍋、兵庫津編年Ⅱ類、14 世紀代前半と考えられる。684 は SX4016 出土の土師器鍋底部である。最大径は中位にあると考えられる。685 は SX4017 の蔵骨器、須恵器捏鉢である。口縁は若干外反し、端部は巻き込み玉縁状である。14 世紀後半前後と考えられる。686 は SX4043、SX4064 の掘方から出土した無釉陶器甕体部である。肩部に沈線が巡っていたと考えられる。丹波焼か。687 ～ 693 は瓦質土器である。経筒と考えられる。687 は瓦質土器蓋である。頂部周辺を欠く。丸く盛り上がり口縁端部は端部を折り曲げ、断面は三角形である。外面はユビオサエ整形、内面には一部ハケメ調整が認められる。688 は瓦質土器、経筒の身である。687 に対応すると考えられる。口縁端部は上部に面を持ち、内側に拡張する。胴部は筒形、底部との境は丸く、底部は平底。胴部は粘土ひも巻き上げ痕が顕著である。内面は粗いヨコハケを施す。689 は瓦質土器蓋である。687 よりも器壁が厚い。口縁部の一部以外を欠く。端部を折り曲げ断面は三角形である。外面はユビオサエ整形、内面には一部ハケメ調整が認められる。690 は瓦質土器、経筒の身である。689 に対応すると考えられる。口縁端部は上部に面を持ち、内側に拡張する。胴部は筒形、底部との境は丸く、底部は平底。胴部は粘土ひも巻き上げ痕が顕著である。内面は粗いヨコハケを施す。691 は瓦

質土器、経筒の蓋の一部である。蓋部の天井部もしくは筒底部片である。692 は瓦質土器、経筒の身である。口縁部まで、真っ直ぐ伸び、端部は段を持って内傾する。内面の調整はヨコナデである。693 は瓦質土器、経筒の底部片である。境は丸みを帯びる。以下はトレンチ、包含層出土土器である。694 は底部が持ち上がり、共に口縁部が大きく外反し水平に伸びる手捏ね成形の、京都系土師器小皿である。16 世紀初頭前後と考えられる。696 は瓦質風炉胴部片である。2 列の凸帯の間に珠点文を施し、珠点文列上に透かし孔が開く。15 世紀前後か。697 は無釉陶器である。若干外反する短い口縁部が厚めの底部につく。楕円形であった可能性が高く、盤、鬢盥などの可能性がある。698・699 は丹波焼甕である。ともに、口縁端部が若干垂下する。14 世紀後半と考えられる。699 には斜格子の窯印がある。700 は施釉陶器、瀬戸美濃産の黄瀬戸丸椀である。

７．２区出土土器（図版 100 ～ 106　写真図版 126 ～ 136）

701 ～ 716 は土葬墓から出土した。701 は SX2006 から出土した施釉陶器小椀、ピラかけ椀である。19 世紀代前半である。702 は SX2010 から、703 は SX2073 から出土した白磁紅皿である。共に 19 世紀代後半の製品である。704 は SX2079 から出土した鳩笛である。705 は SX2098 から出土した端反り染付磁器碗である。外部に簡易な草花文、19 世紀前半以降の製品である。706・707 は SX2107 から出土した。706 は瀬戸美濃産天目茶椀である。17 世紀代の製品か。707 は染付磁器碗である。薄手の造り、見込みに界線と五弁花文を描く。17 世紀代後半。708 は SX2123 から出土した染付磁器碗である。波佐見産のくらわんか手碗で、外面に二重網目文を描く。18 世紀代後半である。709 は SX2042 から出土した。肥前系青磁瓶である。710・711 は SX2043 から出土した。710 は土師器小皿である。ロクロ整形、底部は回転糸切り離しである。711 は染付磁器小杯である。硬質、近代以降の製品と考えられる。713 は SX2067 から出土した。ロクロ整形、底部は回転糸切り離しである。712 は SX2066 から出土した染付磁器小杯である。コンニャク印判によるカエデが描かれている。18 世紀前半と考えられる。714 は SX2081 から出土した手捏ね成形の土師器小皿である。外面にはユビオサエ痕が顕著である。内面には櫛描きもしくは板ナデ状の痕跡が残る。715 は SX2082 より出土した染付磁器碗である。波佐見産のくらわんか手碗で、外面に二重網目文を描く。18 世紀代後半である。716 は SX2025 と SX2082 から出土した瓦質行火炬燵である。天井が丸みを帯び、2 重構造になっている。小口面には楕円と円形の孔があき側面にも開口部がある。内面はヨコハケを施す。717 は SX2092 から出土した染付磁器小皿（手塩皿）である。718 は SX2124 から出土した染付磁器碗（広東碗）である。719 は SX2127 から出土した染付磁器碗である。720 は SX2125 から出土した丹波焼甕である。18 世紀末から 19 世紀前半の時期と考えられる。

721 ～ 728 は近世の蔵骨器を図示した。721 は SX2097 より出土した須佐唐津擂鉢である。16 世紀末から 17 世紀初頭と考えられる。722・723 は SX2137 の蔵骨器の身と蓋である。土師器火消壺を使用している。723 は非ロクロによって造られ、肩部にはヘラミガキを施す。有岡城後・伊丹郷町分類Ｉ類、18 世紀代前半と考えられる。724・725 は SX2136 の蔵骨器の身と蓋である。土師器火消壺を使用している。725 は非ロクロによって造られ、有岡城後・伊丹郷町分類Ｉ類、18 世紀前半と考えられる。724 の内面には『休』『□月二十一日』の墨書がある。726 は２区上段から検出された。丹波焼甕である。有岡城跡・伊丹郷町分類ⅢＡ１類、17 世紀後半～ 18 世紀初頭と考えられる。727・728 は SX2005 出土の丹波焼甕である。727 は体部の全域にカキ目を施し、底部との境に箍を造り出している。728 はカキ目、箍はなく釉を流し掛ける。

729 ～ 737・738 は火葬場出土土器である。729 は SX2100 から出土した手捏ね成形の土師器小皿であ

る。口縁部は肥厚し外方へ短く開く。730 は SX2109 上面から出土した手捏ね成形の土師器小皿である。薄手の造り、口縁部は内湾する。731 ～ 736 は SX2114 下層から出土した手捏ね成形の土師器小皿である。731 は薄い造り、底部が丸みを帯び、内湾して口縁部にいたる。732 は平坦な底部に肥厚する口縁部を持つ。733 は 729 に近く、底部は平らである。734 は 730 と同様の造りである。735 は京都系の手捏ね成形の土師器小皿である。底部は丸みを帯び、口縁部は外反して水平に伸びる。端部は肥厚する。15 世紀代後半と考えられる。736 は染付磁器小杯である。18 世紀代と考えられる。737 は手捏ね成形の土師器皿である。底部は丸みを帯び、口縁端部は外反して水平に伸びる。15 世紀代後半と考えられる。738 は SX117 から出土している。734 に近い器形の手捏ね成形の土師器皿である。布状のものの上で整形している。灯明皿に使用されている。739 は 730 に近い器形の手捏ね成形の土師器皿である。740 は共同火葬場（SX2004）から出土した柏葉形の青磁皿である。741・742 は円筒形の容器に扁平な蓋が付く無釉陶器の蔵骨器である。硬質に焼き上げられた近現代の骨壺である。SX2004 によって火葬された可能性が考えられる。

743 ～ 761 は２区上段の包含層出土土器である。表土から第１面までの土器をあげた。743 ～ 752 までは手捏ね成形の土師器皿をあげた。743 は径 2 寸ほどの小皿である。ユビオサエによって全体を作りだす。底部は尖り、口縁部は外方に直線的に開く。744 は小皿である。底部はユビオサエ、口縁部はヨコナデ調整を施す。745 は灯明皿に使用された小皿である。口縁部までユビオサエ痕が残る。746・747 は径 3 寸前後の皿である。丸底から内湾気味に立ち上がる口縁部を持つ。748 は底部が平坦、内湾気味に立ち上がる口縁部を持つ。口縁端部までユビオサエ痕が残る。749 ～ 751 は丸底で器高が高い径 3 寸ほどの皿である。750 はやや薄手の造り、灯明皿に使用されている。749・751 はやや器壁が厚い。752 は径 3 寸足らずの小皿である。底部は若干盛り上がり、口縁部は心持ち外反する。やや薄い造りである。753・754 はロクロ整形の小皿である。ともに底部は回転糸切り離し、口縁部は外反する。753 は柿釉を口縁部から内面にかけて施す。19 世紀代と考えられる。755 は土師器三足脚付き香炉もしくは火入れである。外面は底部外面以外密に横方向のヘラミガキを施す。内面は丁寧にヨコナデを施す。756 は施釉陶器、肥前系刷毛目唐津焼である。17 世紀後半～末頃の製品である。757 ～ 761 は染付磁器碗である。757 は一重の網目文、見込みに宝珠を描く肥前系染付磁器である。17 世紀後半～末頃の製品である。758 は 2 次焼成を受けている。丸文を描く波佐見（くらわんか手）の製品である。19 世紀前半と考えられる。759 は 2 次焼成を受けている。口縁が開く、肥前系染付磁器碗で、連続唐草文を外面に描く。760 は口縁部が直線的に開く染付青磁碗である。火葬場の炭層の破片と接合している。内面に口縁部内面に四方襷文を施す。18 世紀代後半と考えられる。761 は 19 世紀前半の染付磁器碗（広東碗）である。

762 ～ 777 は第１面以下、中層の炭層（下層第２層）までの人為的盛り土（下層第１層）内出土土器である。762 ～ 772 は土師器皿類である。何れも手捏ね成形の土師器皿である。762 ～ 764 は口縁部をヨコナデ調整しない。762 は 2 寸半前後の薄手の小皿である。灯明皿として利用している。外面はユビオサエ痕が顕著、底部は平底、口縁部に緩やかに内湾する。強いユビオサエ整形によって外面には圧痕がつく。外面は赤く。赤色顔料もしくは赤色泥を塗布している。763 は 762 に類似する。薄手の造り、灯明皿として使用される。強いユビオサエと赤色顔料は認められない。764 は扁平な器形の 3 寸ほどの小皿である。口縁部は短く上方に立ち上がる。全体をユビオサエによって整形する。765・766 は平底から斜め上方に短く口縁部が伸びる器形である。器高は低く扁平な器形である。口縁部はヨコナデ調整を施す。765 は口縁部が肥厚する。767 ～ 770 は口縁部をヨコナデ調整する小皿である。767・768 は底部が平坦、口

縁部との境は甘い。769・770 は丸底、深い器形である。771 は底部から一旦屈曲し、内湾する口縁部を持つ厚手の製品である。口縁部は外側肥厚にし、端部は内側に面をもつ。772 は京都系土師器皿である。口縁部は外反し水平に伸びる。端部上部に面をもつが、端部の摘み上げはない。15 世紀の後半か。773 は土師器甕タイプの鍋である。兵庫津編年Ⅲ類、14 世紀代後半と考えられる。774・775 は内面に透明釉を掛けた土師質の紅皿である。776 は土製品、18 世紀前半の丹波焼擂鉢を模したミニチュアである。透明釉は認められない。777 は染付磁器小碗である。外面に草花文を描く。18 世紀代前半。

778 ～ 781 は下層第 2 層（上灰層）から出土した。中層の火葬址に伴う炭・灰層中の遺物である。何れも 18 世紀後半の肥前系染付磁器碗である。778 は外面に梅花文を施す。779 は内外面とも被熱している。外面に草花文を施す。780 は波佐見焼くらわんか手の染付磁器碗である。外面は被熱している。崩れた丸文が 3 カ所に記されている。781 は波佐見焼くらわんか手の染付磁器碗である。外面は被熱している。コンニャク印判による潰れた桐文が記される。

782 ～ 792 は下層第 3 層（上下灰間層）から出土した。上下の灰原の間の盛土内である。782 ～ 791 は土師器皿類である。何れも手捏ね成形の土師器皿である。782 は薄手の土師器小皿、底部は若干盛り上がる。口縁端部外面から口縁部の内面はヨコナデ、底部内面はヨコナデを施す。783 は薄手の土師器小皿、焼成は堅緻である。底部は平坦、口縁部は内湾して立ち上がる。口縁端部外面から口縁部の内面はヨコナデ、底部内面はヨコナデを施す。焼成時の黒斑が口縁部にある。784 はやや厚手で胎土が粗い製品である。底部外面のユビオサエは顕著、口縁端部外側から口縁部の内面はヨコナデ、底部内面はヨコナデを施す。785 は薄手、歪みの激しい個体である。底部外面は指ナデによって平坦にしている。786 は京都系土師器小皿、へそ皿に近い形態をとる。口縁部は若干外反する。内面には左上方へのナデアゲ痕が顕著である。兵庫津編年土師器皿ⅢＣ２類に対応する。16 世紀代前半か。792 は土師器鍋である。兵庫津編年の鍋タイプⅣ類、15 世紀前半～中頃と考えられる。

793 ～ 809 は下層第 4 層（灰層）から出土した。SX2131・SX2132 に伴う炭・灰層である。793 ～ 805 までの土師器皿は何れも手捏ね成形の土師器皿である。793 は径 2 寸の土師器小皿である。底部は盛り上がるが小破片のため詳らかではない。口縁部は緩やかに外反し端部は肥厚する。内外面ともに、ナデアゲの痕跡がみとめられる。794 は丸い器形である薄手の造り。底部はユビオサエ整形、口縁部はヨコナデ、口縁部は肥厚する。内外面ともにナデアゲの痕跡が顕著である。795・796 は 794 と同じく薄手の造り、丸みを帯びた器形、ナデアゲの痕跡が顕著な個体である。795 は底部外面に掌紋がよく残る。796 は底部のナデを丁寧に行っており、ユビオサエ痕は顕著ではない。797・799 は平坦な底部から外方へ口縁部が直線的に伸び、端部は肥厚し外側に弱い面を持つ。下半にユビオサエ痕が残り、口縁部はヨコナデである。799 は薄い製品。底部外面に板目状圧痕が残る。798 は扁平な器形の 3 寸ほどの小皿である。口縁部は浅く外方に立ち上がる。口縁部端までユビオサエによって整形する。口縁部は波状に凹凸を持つ。800 は平坦な広い底部から短い口縁部が外方に低く伸びる。口縁端部は水平に拡張し、上部に凹部を持つ。801 は薄手の製品。丸底から口縁部は外方に伸びる。底部に板目状圧痕を残す。799 と調整は類似する。802 は厚手の製品。平坦な底部から外方へ口縁部が伸びる。下半にはユビオサエ痕が残る。口縁部はヨコナデ。803 ～ 805 は京都系土師器皿である。803 は 3 寸弱の小皿、底部と体部の境に凹部を持つ。口縁部は大きく外反し肥厚する。兵庫津編年の非ロクロ土師器Ⅳ類､16 世紀前葉と考えられる。804 は細片のため法量は不明であるが、径 13 ㎝前後の可能性が高い個体である。器高は低い。口縁部は若干外反しながら外方へ伸びる。端部は上方に向けて肥厚する。805 は厚手の製品である。底部は若干

丸みを持ち、口縁部は外反し、端部は肥厚し、内湾する。兵庫津編年の非ロクロ土師器ⅡB 3b 類に対応するとして、15 世紀末葉～ 16 世紀前葉と考えている。806 は丹波焼擂鉢である。下相野窯B類、16 世紀中葉～ 17 世紀前葉の時期と考えられる。807 は染付磁器碗、草花文を描く。18 世紀代後半である。808 は染付磁器小杯、口縁部は端反り、草花文を描く。18 世紀代前半か。809 は青磁猪口である。

810 ～ 825 は２区中・上段間斜面の包含層から出土した土器である。810 ～ 818 までの土師器皿は何れも手捏ね成形の土師器皿である。810 ～ 812 は丸底、口縁端部は紡錘形に肥厚する。ユビオサエの痕跡が顕著、口縁端部までナデ調整を施す。813 ～ 818 は口縁端部にヨコナデを施す。814・815 はやや厚手、顕著な丸底である。816･817 は薄手の造り、口縁部は内湾気味に立ち上がり、817 は心持ち外反する。818 は京都系土師器皿である。底部は心持ち持ち上がる。体部との境は明らかではなく、口縁部は外反し、端部は肥厚する。819 は染付青磁碗蓋である。内面にコンニャク印判の五弁蓮花を捺す。820 は施釉陶器椀、刷毛目唐津である。見込みは蛇の目釉剥ぎを行っている。時期は 18 世紀代前半である。821 ～ 825 は染付磁器碗である。821 は染付青磁碗である。内面見込みに 5 弁蓮花、口縁部に四方襷文、高台裏に渦福を描く。18 世紀代後半と考えられる。822 は染付小碗である。内外面ともに被熱している。外面に笹を描く。823 は青磁碗である。内外面ともに被熱している。824 は肥前系染付磁器碗である。外面にはコンニャク印判の菊花文を捺す。18 世紀代前半と考えられる。825 は波佐見焼くらわんか手の染付磁器碗、内面に蛇の目釉剥ぎを行い、外面には草花文を描く。18 世紀代後半である。

826 ～ 855 は２区中段包含層出土の土器である。内、840 までは表土から出土した。826 ～ 838 までの土師器皿は何れも手捏ね成形の土師器皿である。これらは基本的にユビオサエ成形を行い、口縁部をヨコナデする。826・827 はやや厚手の製品、ユビオサエ整形によって丸底を造り出し、口縁端部はヨコナデ調整。827 は外面を丁寧になで上げている。828 はやや厚手の製品、826・827 と同様の形態である。灯明皿に使用している。829・831・832 はやや薄手、830・833・834 は厚手の製品。口縁部は角度を持って外上方に伸びる。830・831・834 は灯明皿に使用している。835・836・837 は厚手の製品、829 ～ 834 に比べ底部は丸みを持ち、深い器形である。838 は底径が大きく、器高が低い薄手の土師器皿である。802 などと類似している。839・840 は染付磁器碗である。839 は外面に雪輪文・梅花文を描く波佐見産くらわんか手の碗である。18 世紀代後半と考えられる。840 は波佐見産くらわんか手の碗である。二重網目文を描く。18 世紀代後半と考えられる。

841 ～ 847 は灰層直上までの出土である。841 ～ 843 は何れも手捏ね成形の土師器皿。841 は 827 と類似し、外面を丁寧になで上げている。842 は 835・836 と類似する。ユビオサエ痕は丁寧にナデ消す。843 は丸底から口縁部は外方へ開き、心持ち外反し、端部上面は若干窪む。京都系土師器皿の形態に類似する。兵庫津編年ⅡB 2b 類に類似し、15 世紀前半とも考えられる。844 は施釉陶器の菊皿である。内面に目跡が認められ、灰白色釉が掛かる。美濃窯、18 世紀初頭前後か。845 は白磁小杯である。非常に器壁が薄く 19 世紀代前半と考えられ、被熱する。846 は染付磁器端反り小杯である。外面に草花文を描く。847 は波佐見産くらわんか手の碗である。二重網目文を描く。18 世紀代後半と考えられる。

848 ～ 851 までは灰層内の出土である。848 はユビオサエ痕が顕著な個体である。763 と類似する。849 は瀬戸美濃産、丸皿である。高台は低く、高台裏に輪トチンの痕跡がある。850 は染付青磁碗、口縁部内面に四方襷文が巡る。18 世紀後半～末と考えられる。851 は染付磁器碗である。被熱しているためか文様は残っていない。

852 ～ 855 は石造品精査に伴う出土である。852 はユビオサエ痕が顕著な個体である。763・848 と

類似する。853 は丸底の土師器皿、ユビオサエ整形の後口縁部はヨコナデ、端部は内傾した面をもつ。854 は平底の土師器小皿である。底部外面は板状工具によってナデている。855 は施釉陶器の筒形椀である。高台裏に『小松吉』の刻印がある。また、墨書が書かれている。

856 ～ 862 は２区中段東斜面出土の土器である。856 ～ 858 は何れも手捏ね成形の土師器皿である。ユビオサエ成形の後口縁部はヨコナデ調整を行っている。856・857 ともに底部は若干持ち上がり、口縁端部は 857 で一部外反する。856 は灯明皿に使用している。858 は底部は持ち上がらない。859 はロクロ成形による土師器小皿である。底部は回転糸切り離し、口縁部は若干内湾し端部は丸く収める。860・861 は施釉陶器の皿である。860 は口径 3 寸、861 は 4 寸を指向している。口縁部端から内面に施釉する。高台はともに碁笥底である。規格性を持った製品であり、近代と考えられる。862 は丹波焼甕である。口縁部は屈曲し水平に伸びる。17 世紀代と考えられる。蔵骨器・甕棺としての使用が考えられる。

863 ～ 873 は２区中段南斜面出土の土器である。863 は手捏ね成形の土師器小皿である。底部が尖った形態をする。凹凸から掌上で成形した可能性がある。743 と類似している。864 は 863 と類似するユビオサエ痕が残る土師器小皿である。底面はユビオサエ後ナデ調整を施す。865 ～ 868 は何れも手捏ね成形の土師器皿である。ユビオサエ成形の後口縁部はヨコナデ調整を行っている。これらは何れも 831 ～ 836、801 に類似した形状の土師器皿である。

869・872・873 は染付磁器、870・871 は施釉陶器である。870 は美濃産と考えられる施釉陶器椀である。外面口縁部から内面に灰釉、外面下半に黒褐釉を施す。19 世紀代後半のものと考えられる。871 は肥前系陶器、刷毛目唐津椀である。外面は被熱している。18 世紀代と考えられる。872 は波佐見産くらわんか手の碗である。被熱している。二重網目文を描く。18 世紀代後半と考えられる。873 は肥前系染付磁器である。外面に笹文様を描く。

874 ～ 882 は２区中段北斜面出土の土器である。874 は土師器小皿、厚手の造りである。外面はユビオサエ痕が顕著、口縁端部から口縁部内面にヨコナデを施す。875 は厚手の造り、口縁部は内湾気味に肥厚する。口縁部は内外面ヨコナデを施す。876 は施釉陶器の片口もしくは行平である。877 は波佐見産くらわんか手の碗である。被熱していない。二重網目文を描く。18 世紀代後半と考えられる。878 は波佐見産くらわんか手の碗である。被熱している。二重網目文を描く。879 は染付磁器碗である。外面に蛸唐草を描く。被熱している。19 世紀代前半か。880 は刷毛目唐津椀である。被熱を受ける。18 世紀代と考えられる。881 は染付磁器碗である。外面に草花文を描く。被熱している。882 は染付磁器碗（広東碗）である。外面に楼閣と草花文を描く。被熱する。18 世紀末から 19 世紀初頭と考えられる。

８．３区出土土器（図版 107　写真図版 137・138）

883 ～ 887 は SX3011 から出土した。883 は施釉陶器椀である。884 は無釉陶器擂鉢、堺・明石産である。19 世紀代の製品である。885 は粗製の施釉陶器の小椀である。くらわんか手の可能性もある。886 は無釉陶器徳利である。887 は染付磁器小瓶である。888 は無釉陶器丹波焼盤である。889 は胎土目唐津皿である。高台裏の削り込みは浅い。16 世紀末～ 17 世紀初頭である。890 は丹波焼甕である。近代以降の製品か。891 は施釉陶器、天目椀底部である。高台裏のヘラ削りは浅い。892 は龍泉窯系青磁細蓮弁文碗である。底部を欠く。蓮弁は退化するが鎬は表現される。15 世紀中頃と考えられる。893 は龍泉窯系青磁碗である。見込みに草花文が彫られる。894 は確認調査トレンチ 171 から出土した青磁三足香炉である。895 は備前焼擂鉢、備前焼編年ⅣＢ（古）、15 世紀後葉である。896 は丹波焼擂鉢である。口縁端部は内傾する面を持つ。丹波焼長谷川編年擂鉢ＣのⅦ期、16 世紀前半の時期である。897 は確認

調査トレンチ 171 から出土した。備前焼擂鉢、備前焼編年ⅣＢ（古）、15 世紀後葉である。898 は確認調査トレンチ 171 から出土した。無釉陶器、須佐唐津の擂鉢で、16 世紀末から 17 世紀初頭のものである。

金属製品

１．銭貨（図版 108 ～ 113　写真図版 139 ～ 142・145・146）

観音寺跡遺跡からは、種々多くの銭貨が出土している。そのほとんどが現位置からの出土ではないが、遺跡の性格から見て、いわゆる六道銭として用いられたものであろう。2 枚から 6 枚が重なるように錆着して出土したものが多く、中央の穴に紙縒りや紐状の繊維が残存するものや、側面に布の痕跡が残るものがあることから、銭縄を通したものや布に包んで埋納されたことがわかる。写真のみの掲載も含めて合計 187 枚の銭貨を報告する。

銭種は北宋銭を中心として、唐の開元通寶（初鋳年 621 年）や𠮟元重寶（初鋳年 758 年）から明の洪武通寶（初鋳年 1368 年）や永楽通寶（初鋳年 1408 年）までの中国銭や、朝鮮の常平通寶（初鋳年 1678 年）などの渡来銭、日本の寛永通寶から昭和に入る 1 銭アルミ貨幣まで出土している。アルミ貨幣を除くとほとんどが銅銭であるが、寛永通寶と思われる鉄銭も見られる。

①　渡来銭

渡来銭は１・２・４区から 26 種、76 枚出土しており、常平通寶を除くと基本的に渡来銭のみが共伴している。

１区 SX1304 からは、M101. 景德元寶（初鋳年 1004 年）、M102. 元豊通寶（初鋳年 1078 年）、M103. 天禧通寶（初鋳年 1017 年）が出土している。いずれも北宋銭で元豊通寶の 1078 年がもっとも新しい初鋳年となる。

２区 SX2012 からは、M104. 治平元寶（初鋳年 1064 年）、M105. 皇宋通寶（初鋳年 1038 年）、M106. 熙寧元寶（初鋳年 1068 年）が出土している。いずれも北宋銭で熙寧元寶の 1068 年がもっとも新しい初鋳年となる。同じく２区 SX2042 からは、M107. 熙寧元寶が出土している。２区 SX2044 からは 6 枚重なった状態で、M108. 紹聖元寶（初鋳年 1094 年）などが出土しているが、錆着が著しいため外せていない。２区 SX2120 からは、M114. 治平元寶と M115. 開元通寶（初鋳年 621 年）が出土しているが、後者は模鋳銭と思われる。また、２区 SX2132 からは 4 枚重なった状態で、M116. 天聖元寶（初鋳年 1023 年）などが出土しているが、錆着が著しいため外せていない。

４区 SX4070 からは 6 枚重なった状態で、M120. 紹聖元寶、M121. 元祐通寶（初鋳年 1086 年）、M122. 聖宋元寶（初鋳年 1101 年）、M123. 皇宋通寶、M124. 元豊通寶、M125. 嘉祐元寶（初鋳年 1056 年）が出土している。４区 SX4049 からは重なった状態で M126. 嘉祐元寶、M127. 天聖元寶、M128. 𠮟元重寶（初鋳年 758 年）、M129. 景德元寶、M130. 治平元寶、M131. 祥符通寶（初鋳年 1009 年）が出土している。

この他２区・４区の包含層出土のもの（M132 ～ 170）には、M139. 洪武通寶（明初鋳年 1368 年）、M140. 元符通寶（初鋳年 1098 年）、M141. 景祐元寶（初鋳年 1034 年）、M145. 祥符元寶（初鋳年 1009 年）、M146. 永楽通寶（明初鋳年 1408 年）、M149. 至和元寶（初鋳年 1054 年）か、M150. 淳化元寶（初鋳年 990 年）、M154. 咸平元寶（初鋳年 998 年）、M155. 治平元寶などの渡来銭が含まれている。

②　和銭

銅銭では寛永通寶・文久永寶が出土している。

２区 SX2017 からは、M171. 寛永通寶文銭と寛永通寶と思われる 2 枚（M172-1・2）が銭名を合わせて錆着している。２区 SX2117 下層からは、寛永通寶古寛永（M178 ～ 181）と寛永通寶文銭（M173 ～

175)、M176. 景祐元寶（初鋳年 1034 年)、M177. 熙寧元寶（初鋳年 1068 年）が出土している。全てが共伴するかは不明である。２区 SX2032 からは、寛永通寶（M185 ～ 187）と同四文銭（M183・184　11 波）が出土している。２区石組からは、古寛永（M188・M192・M193）と文久永寶（M191　11 波)、洪武通寶 M189（初鋳年明 1368 年)、珍しいものとして朝鮮の常平通寶　M190（初鋳年 1778 年背平五右二）が 1 点出土している。２区 SX2033 からは状態が悪いものの M194・M195. 寛永通寶 2 枚が出土している。１区 SX1203 出土のものも M196. 寛永通寶であろう。２区 SX2090 からは、M197. 文久永寶、SX2115 からは M198. 寛永通寶文銭が出土している。

③　鉄銭

２区 SX2123 からは銅銭 3 枚と鉄銭 2 枚が付着し、横に布の痕跡が残るもの（M282 ～ 285）や 2 枚付着した鉄銭（M260・261）が出土しており、銭名は不明であるが、寛永通寶と思われる。

④　アルミ貨幣

M262 ～ 267 は２区 SX2087 から出土したアルミ製の一銭硬貨である。大正八年（M267)、大正十二年(M266)、大正十三年（M263）の年号が読み取れる。２区 SX2041 からはアルミ製の小型一銭硬貨が 6 枚出土した。M268 では昭和□四年の文字が見える。

２．金属製品（図版 114 ～ 117　写真図版 143 ～ 145）

①　銅製品他

M290・291 は、２区の SX2028 からフェルト製の帽子とともに出土した。M290 は錫杖である。木製の杖部は八角に面取りし、上端部を細くした後、段を持って断面円形に成形して袋穂形の杖頭部に差し込まれる。木質が細く、脆い材質であることから、手錫杖であろう。石突も出土していない。銅合金製の杖頭部は､すりわり付きの銅製ねじ釘で 2 方向から木柄に固定される。軸部下端の断面は円筒形を呈し、三重の段を作り出す。上部では直径を徐々に減じ、段をつけて六角形断面となり、徐々に細くなって輪部と繋がる。六角形の各面には草葉様の文様が刻まれている。心葉形の輪部には 4 ヶ所に括れが表現され、上 2 ヶ所の外側には三日月形突起が付く。両側の蕨手形の上にはパルメット様の突起が伸びる。蕨手の上部の軸部には宝塔を作り出している。輪頂は十字形を呈し、面の中央に刻みを入れる。輪部には切れ目のある遊環を６点組み合わせている。輪頂部や遊環にはやや粗いやすり目が残る。一部に金色の鍍金が施されている。M291 は布を挟み込んだ飾金具で、帯状の布の端を装飾するものである。長方形の金属板の短辺角を切り落とし、３方の縁を折り返したもので、折り返しのない部分は文様に沿って切り込んでいる。表面には魚々子地に草花文を刻んだ文様を施している。折り返し内に金襴の布を挟んで表側から割りピンで留め、薄い裏板をはめ込んでいる。裏板の隅 1 ヶ所に円形の小孔がある。金属表面は鍍金状に金色を呈するが、裏板の内面や傷部分は銀色を呈しており、また表面の薄い皮膜が剥がれた部分も色が異なる。鍍金ではなく銀色の金属に透明のニスを塗ったものであろう。

M292 は、1 区平坦面３出土の小柄の柄で、刃部を失う。真鍮色の銅板を合わせて叩いて作っており、表面を削って仕上げている。内面の繰り込みは端近くまで到達しており、端部に小さな穿孔が抜けている。同様の穿孔は上端部の刃側にも見られる。刃部を挿入する部分は波形に装飾している。下半部表面に鮑貝様の文様が浮き上がる。成形前に内側から叩き出したか、鋳出したものであろう。

M293 は、1 区平坦面３出土の鉛製の歪な形状をもつ円球で、鉄砲玉であろう。6.8g の重量である。

M294 ～ 302 は煙管である。M295 ～ 300 は羅宇煙管の雁首、M301 ～ 302 は同吸口である。各々は薄い銅板を巻き込んで作っており、縦方向に継ぎ目の痕跡が残る。雁首の火皿は別に作って筒部と接合して

いる。羅宇の木質が残るもの（M295・M296）や表面にやや粗い布が付着するもの（M300）がある。M294は、SX2040出土の延べ煙管である。SX2040からは釘M353やコハゼM345も出土している。雁首、羅宇、吸口に分かれ、接合部は別造りの細かい螺旋を中に挿入して接合する。羅宇部は竹を模している。M295は２区SX2081出土。M296は２区SX2108出土。M297～299は２区中段出土。M300とM301は２区SX2118出土の雁首・吸口である。同一個体に属するものかもしれない。M301の羅宇接合部には表面に5条の筋を入れているが、内面では見られない。内部に紙のような繊維が付着している。吸口のM302は２区SX2117出土のものである。雁首は２区SX2045からも出土している。

②　鉄製品

M303はM300・M301の煙管と同様、SX2118から出土した短刀である。切っ先のふくらはやや丸くゆたかで、幅が広い。明瞭な背関を有すが、刃関は不明瞭である。目釘孔１ヶ所を有する茎へと続く。現存長28.8㎝、幅2.7㎝で、刃部長18.2㎝、茎幅2.0㎝である。茎部･刃部ともに表面に木質が付着し、柄･鞘を装着したものであろう。

M304は２区SX2126出土の鉄製品で、細い棒状の製品だが、断面がＵ字状を呈しており、縁金状をなす。

M305は１区SX1304焼土坑出土の釘状の鉄製品だが、頭部は完全には折り曲げていない。未使用であろうか。SX1304からはM101～103の宋銭が出土している。

M304は２区SX2031出土の鋤鍬先の破片である。幅5㎝ほどの断面がＶ字形をしており、基部付近の内繰りの部分と思われる。内繰り部の断面は蒲鉾状を呈している。Ｘ線撮影画像では、鬆が多く見られ、鋳鉄と思われる。

M307～331は４区SX4045出土の鉄釘である。先端を欠くものが多いが、長さ9.3cmまでの長さを持ち、比較的細く作られる。使用によって折れ曲がったものが少なく、木質がほとんど観察できない。その中でM307は下端部を環状に丸めて曲げており、意図的に作ったものと思われる。

M332～335も鉄釘で、M332は４区SX4033から、M333～335は４区SX4049から出土している。SX4049からはM126～131の渡来銭が出土している。

M336は５区中段から出土した楔状の鉄製品である。残存長16.5cm、幅2.3cmを測り、頭部は叩かれてつぶれている。馬鍬の刃かもしれない。

M337は２区SX2019墓坑内出土の鎌である。柄は失われているが、木質が残存しており、２本の目釘と締め金具によって装着された木柄付きのまま副葬されたものと思われる。目釘は丸釘かもしれない。刃部は柄部から幅を広げて緩やかに湾曲し、直線気味に伸びる。

M338・M339は２区包含層出土の鎌である。M338は直線的な柄部から幅を広げ、関をもたずに屈曲して刃部へと続いている。刃幅は広いが、薄造りである。

M339は柄部端を失うが、柄部に木質がわずかに残存している。目釘も１本残っており、角釘と思われる。刃部は、直線的な柄部から関をもたずに幅を広げて緩やかに湾曲するが、刃先に向かって細くなっており、使用・研磨による摩耗かもしれない。

M340は２区上段出土の斧である。刃部はやや丸く湾曲しており、柄部側に刃幅を広げている。柄孔は台形を呈しており、内部には木質が残存している。

【参考文献】

永井久美男　1996「日本出土銭総覧」兵庫埋蔵銭調査会
大和久震平　1991「古式錫杖の形状」帝京短期大学紀要
戸原和人　2008「中山城跡第４次・中山近世墓発掘調査報告」京都府遺跡調査報告書第128冊

石製品（図版 118 ～ 120　写真図版 146 ～ 149）

使用痕のある剥片、石鏃、石臼、一石五輪塔、五輪塔が出土している。種別、材質、出土位置、法量等は観音寺跡出土遺物観察表（10）石製品（表 16）に一括した。本文中において、個々の詳細は割愛する。

・使用痕のある剥片（S101）　S101 は、平成 25 年度の確認調査トレンチ 171 で出土したもので、チャート製の剥片である。刃部に細かな加工痕が認められ、削器としての使用が考えられる。

・石鏃(S102)　S102 は、平成 25 年度確認調査トレンチ 158 で出土したサヌカイト製の凹基式石鏃である。

・石臼（S103）　S103 は、１区で出土した六甲花崗岩製の石臼の下臼側である。完形であり、上面の粉挽き部は断面がやや凸曲を成し、下面の断面は芯棒孔に向かって大きく凹曲を成す。芯棒孔は、二次加工により下面に向かってラッパ状に開いており、何らかの再利用があったと考えられる。

・一石五輪塔（S104 ～ S112）　S104 は、２区上段 SX2007 で出土した能勢石製の一石五輪塔である。ほぼ完形で、長い地輪の埋め立て式である。断面は、風輪部が円形、水輪部と地輪部が隅丸方形である。地輪底面付近は粗く加工され、二次的に被熱している。S105 は、２区 SX2030 で出土した六甲花崗岩製の一石五輪塔である。ほぼ完形で、長い地輪の埋め立て式である。断面は、風輪部が不正円形、水輪部と地輪部が隅丸方形である。地輪底面付近は粗く加工され、縦断面は底面に向かって薄くなりＶ字状になる。S106 は、２区 SX2030 で出土した波豆石製の一石五輪塔である。全体に形状が歪み、火輪の上部から空風輪が欠損している、長い地輪の埋め立て式である。断面は、水輪部が隅丸方形、地輪部がやや不正な方形である。地輪底面付近は粗く加工され、縦断面は底面に向かって薄くなりＶ字状になる。S107 は、２区 SX2001 で出土した六甲花崗岩製の一石五輪塔である。ほぼ完形で、空輪の宝珠部分が僅かに欠損する、安置式である。組み立て式五輪塔の形態に近く、断面は、風輪部が円形、水輪部が隅丸方形である。S108 は、２区上段北側の表土内で出土した波豆石製の一石五輪塔である。ほぼ完形で、空輪の宝珠部分が僅かに欠損する、安置式である。組み立て式五輪塔の形態に近いが水輪が扁平である。断面は、風輪部が円形、水輪部が隅丸方形である。S109 は、２区上段南側の墓坑上面で出土した波豆石製の一石五輪塔である。ほぼ完形だが、全体に風化が著しい、安置式である。水輪は扁平な形状を呈し、断面は、風輪部が円形、水輪が隅丸方形である。S110 は、２区 SX2077 で出土した六甲花崗岩製の一石五輪塔である。空風輪部のみ残存しており、空輪の宝珠部分は欠損している。風輪部の断面は円形である。S111 は、２区上段南端（SX2012 上面）西壁沿いで出土した六甲花崗岩製の一石五輪塔である。空風輪部及び火輪の上端部のみ残存しており、空輪の宝珠部分は欠損している。風輪部の断面は円形である。S112 は、２区 SX2114 で出土した六甲花崗岩製の一石五輪塔である。空風輪部及び火輪の上端部のみ残存しており、空輪の宝珠部分は欠損している。風輪部の断面は円形である。

・組み立て式五輪塔（S113 ～ S143）　S113 は、４区尾根上から出土した波豆石製の組み立て式五輪塔の空風輪である。風輪の上部が僅かに欠損しているが、完形である。基部には、やや低いが明確な突出部がある。風輪部の断面は円形である。S114 は、１区平坦面３南東石組上で出土した能勢石製の組み立て式五輪塔の空風輪である。風輪の一部が若干欠損しているが、完形であり、空輪の宝珠の突出が小さいものである。基部には、やや低いが明確な突出部がある。風輪部の断面は円形である。S115 は、２区上段３層（黄褐色土）で出土した能勢石製の組み立て式五輪塔の空風輪である。風輪の一部が僅かに欠損しているが、完形であり、空輪の宝珠の突出が著しく大きいものである。基部には、大きく明確な突出部がある。風輪部の断面は円形である。S116 は、２区中段 SD2001 で出土した能勢石製の組み立て式五輪塔の空風輪である。完形であり、空輪の宝珠の突出が比較的大きいものである。基部には、大

きく明確な突出部がある。風輪部の断面は円形である。S117 は、２区南端下層で出土した能勢石製の組み立て式五輪塔の空風輪である。ほぼ完形であり、空輪の宝珠の突出が著しく大きいものだが端部は欠損している。基部には、大きく明確な突出部がある。風輪部の断面は円形である。S118 は、２区 SX2068 で出土した能勢石製の組み立て式五輪塔の火輪である。ほぼ完形だが、笠の軒反り部が欠損している。軒反りは上端部にかけて比較的低く立ち上がり、軒口は垂直に切る。空風輪の差し込み孔は、深さ約 1.4 ㎝と浅い。S119 は、２区 SX2014 で出土した能勢石製の組み立て式五輪塔の火輪である。ほぼ完形だが、笠の軒反り部が欠損している。軒反りは上端部にかけてやや高く立ち上がり、軒口は垂直に切る。空風輪の差し込み孔は、深さ約 2.3 ㎝と比較的深い。また、底面には、中央部に水輪の差し込み孔と思われる深さ約 1.0 ㎝の凹みがあり、一部被熱痕が残る。S120 は、２区南端下灰層で出土した能勢石製の組み立て式五輪塔の火輪である。ほぼ完形だが、笠の軒反り部の一部が欠損している。軒反りは上端部にかけて比較的高く立ち上がり、軒口は垂直に切る。空風輪の差し込み孔は、深さ約 3.3 ㎝と比較的深い。また、底面は、中央部に水輪の差し込み孔と思われる深さ約 1.0 ㎝の凹みがある。S121 は、２区中段北斜面灰層で出土した能勢石製の組み立て式五輪塔の火輪である。笠の上面の大半と軒反り部の一部が欠損している。軒反りは上端部にかけて比較的低く立ち上がり、軒口は垂直に切る。空風輪の差し込み孔は、残存部分で深さ約 2.5 ㎝と比較的深い。また、底面は、中央部に水輪の差し込み孔と思われる深さ約 1.2 ㎝の凹みがあり、全体に激しく被熱している。S122 は、２区 SX2132 で出土した能勢石製の組み立て式五輪塔の火輪である。ほぼ完形だが、笠の上面の一部と軒反り部の一部が欠損している。軒反りは上端部にかけて比較的低く立ち上がり、軒口は垂直に切る。空風輪の差し込み孔は、深さ約 2.3 ㎝と比較的深い。また、底面は、全体に被熱している。S123 は、２区中段西斜面表土中で出土した能勢石製の組み立て式五輪塔の火輪である。笠の上面の一部と軒反り部の一部が欠損している。軒反りは上端部にかけて比較的高く立ち上がり、軒口は垂直に切る。空風輪の差し込み孔は、深さ約 3.5 ㎝と比較的深い。また、底面は、中央部に水輪の差し込み孔と思われる深さ約 1.1 ㎝の凹みがある。S124 は、２区南端下層の灰層で出土した能勢石製の組み立て式五輪塔の火輪である。笠の上面の一部と軒反り上端部が欠損している。軒反りは上端部にかけてやや高く立ち上がり、軒口は垂直に切る。空風輪の差し込み孔は、深さ約 2.2 ㎝と比較的深い。また、底面は、中央部に水輪の差し込み孔と思われる深さ約 1.3 ㎝の凹みがある。S125 は、２区 SX2068 で出土した能勢石製の組み立て式五輪塔の水輪である。塔身の上半部は肩張りで、下半部にかけて窄まる壺状を呈し、断面は円形である。上下面は平坦に加工され、それぞれに据え付けのための突起が加工される。S126 は、２区 SX2002 で出土した能勢石製の組み立て式五輪塔の水輪である。塔身の上半部は肩張りで、下半部にかけて窄まる壺状を呈し、断面は円形である。上下面は平坦に加工され、それぞれに据え付けのための突起が加工されるが、下面側の突起が低い。S127 は、２区中段南斜面で出土した能勢石製の組み立て式五輪塔の水輪である。塔身の上半部は肩張りで、下半部にかけて窄まる壺状を呈し、断面は円形である。上下面は平坦に加工され、それぞれに据え付けのための突起が加工される。S128 は、２区上中段間斜面で出土した能勢石製の組み立て式五輪塔の水輪である。塔身の上半部は肩張りで、下半部にかけて窄まる壺状を呈し、断面は円形である。上下面は平坦に加工され、それぞれに据え付けのための突起が加工される。S129 は、２区上段西壁で出土した能勢石製の組み立て式五輪塔の水輪である。塔身の上半部は肩張りで、下半部にかけて窄まる壺状を呈し、断面は円形である。上下面は平坦に加工され、それぞれに据え付けのための突起が加工されるが、上面側の突起がやや低い。S130 は、２区灰層で出土した能勢石製の組み立て式五

輪塔の水輪である。塔身はやや拉げた球形を呈し、断面は円形である。上下面は平坦に加工され、それぞれに据え付けのための低い突起が加工される。側面の一部には被熱痕が認められる。S131 は、２区上段の表土内で出土した能勢石製の組み立て式五輪塔の水輪である。塔身はやや拉げた球形を呈し、断面は円形である。上下面は皿状の凹んだ形に加工されるが、据え付けのための突起等の加工は認められない。S132 は、２区中段西斜面で出土した能勢石製の組み立て式五輪塔の水輪である。塔身はやや拉げた球形に近い壺状を呈し、断面は円形である。上下面は浅い皿状の凹んだ形に加工されるが、据え付けのための突起等の加工は認められない。側面の一部には被熱痕が僅かに認められる。S133 は、２区上段 SX2002 と SX2006 の間で出土した能勢石製の組み立て式五輪塔の地輪である。基礎は立方体を呈し、下面の加工が粗い。上面には水輪の差し込み孔が加工され、深さ約 1.3 ㎝を測る。S134 は、２区上段南端 SX2007 東で出土した波豆石製の台座であり、組み立て式五輪塔の地輪と考えられる。基礎はやや低い立方体を呈し、下面の加工が粗い。上面に水輪の差し込み孔等の加工は認められない。S135 は、２区 SX2132 で出土した能勢石製の台座であり、組み立て式五輪塔の地輪と考えられる。基礎はやや低い立方体を呈し、下面の加工がやや粗い。上面に水輪の差し込み孔等の加工は認められない。上半部には激しい被熱痕が認められる。S136 は、２区上段南側墓坑上面で出土した能勢石製の台座である。組み立て式五輪塔の地輪の可能性が考えられる。基礎は低い立方体を呈し、下面は加工が殆どない平滑な自然面である。上面に差し込み孔等の加工は認められない。S137 は、２区上段遺構面で出土した能勢石製の台座である。基礎はやや丸みを帯びた低い立方体状を呈するが、下面が割れているため全体の形状は不明である。上面に差し込み孔等の加工は認められない。S138 は、２区西北側の最も低い所の平坦面で出土した能勢石製の方形台座である。五輪塔の台座もしくは宝篋印塔の基礎と考えられる。低い立方体を呈し、外縁には連弁を施す。また、上端部には地輪もしくは塔身が設置された痕跡が認められる。S139 は、２区上段表土（西斜面）内で出土した能勢石製の方形台座である。五輪塔の台座もしくは宝篋印塔の基礎と考えられる。やや丸みを帯びた低い立方体を呈すると考えられるが、下面が欠損しており、全体の形状は不明である。外縁には連弁を施す。また、上端部には地輪もしくは塔身が設置された痕跡が認められる。

・石仏（S140 ～ 143）　S140 は、２区南端１層で出土した能勢石製の石仏である。後面が丸く、帆先の尖った舟形の光背に、座像を浮刻する。仏像の表現は簡略化されているが、手は定印を結んでいる。S141 は、２区 SX2117 下層で出土した能勢石製の石仏である。後面が丸く、帆先の尖りがやや丸みを帯びた舟形の光背に、座像を浮刻する。仏像の表現は簡略化されているが、手は定印を結んでいる。S142 は、２区上段南端表土内で出土した能勢石製の石仏である。後面がやや平らで、帆先の尖りが丸みを帯びた舟形の光背に、座像を浮刻する。仏像の表現はやや簡略化されているが、袈裟を羽織っている状態が認められる。また、下半部の一部が赤変しており、被熱痕と考えられる。S143 は、２区 SX2029 で出土した能勢石製の石仏である。後面がやや平らで、帆先の尖りが丸みを帯びた舟形の光背に、座像を浮刻するものだが、下半部を含め欠損しており、全体は不明である。仏像の表現はやや簡略化されているが、袈裟を羽織っている状態が認められる。また、一部には被熱痕が認められる。

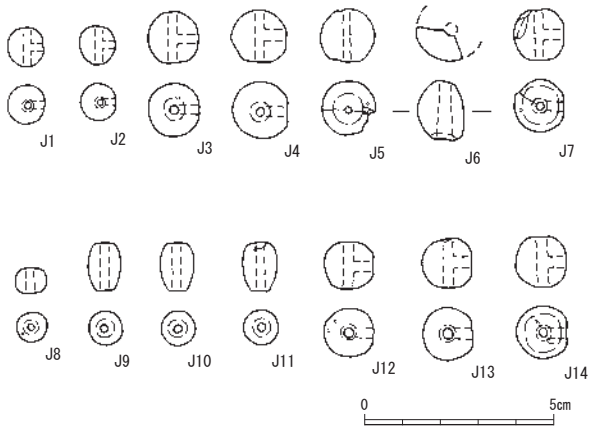
・その他の石製品（S144 ～ S155）　以下の 12 点の石製品については、写真のみを掲載したものである。S144・S145 は、使用痕のある剥片である。S144 は、２区上段北側表土中から出土した珪質頁岩製の剥片である。S145 は、２区中段表土中でしたサヌカイト製の剥片である。S146 は、平成 25 年度確認調査トレンチ 171 で出土した泥岩製の黒色の碁石である。S147 は、２区南端上部灰層より上の第１層

で出土した砂岩製の敲石と考えられる。やや扁平で不正円形の縁辺部に敲打痕らしき凹凸が認められる。S148 は、１区平坦面４SX1409 内で出土した細粒砂岩製の石庖丁である。半分が欠損しており、紐孔は認められない。全体に丸味がかっており、刃部も鈍い。S149 ～ S154 は、砥石である。S149 は、１区平坦面３SE1301 の断ち割り時に出土した頁岩製の砥石である。S150 は、１区平坦面３・４間崖の北斜面で出土した砂岩製の砥石である。S151 は、１区平坦面４の人力掘削時に出土した細粒砂岩製の砥石である。S152 は、１区平坦面２東埋甕内で出土した珪質粘板岩製の砥石である。S153 は、平成 25 年度確認調査トレンチ 182 で出土した緑色凝灰岩製の砥石である。S154 は、５区下段の人力掘削時に出土した珪質粘板岩製の砥石である。S155 は、１区平坦面４の北斜面で出土した能勢石製の台座の一部と考えられ、方形台座の隅部分の破片であろう。

玉類（第２図　写真図版 143）

観音寺跡では、22 点の玉類が出土しており、全て数珠玉である。法量等の詳細は観音寺跡出土遺物観察表（表 16）玉類（10）に一括した。このため、本文中において、個々の詳細は割愛する。

Ｊ１～Ｊ７は、２区 SX2028 で出土したＪ１、Ｊ３、Ｊ７はガラス製、Ｊ２、Ｊ４～Ｊ６は水晶の玉製と考えられる。Ｊ８は、２区 SX2048 で出土したガラス製の玉である。Ｊ９は、２区 SX2126 で出土したガラス製の玉である。J10 は、２区 SX2029 で出土したもので、ガラス製の玉である。J11、J12 は、２区 SX2112 で出土した J11 はガラス製、J12 は水晶製の玉と考えられる。J13、J14 は、２区で出土した共にガラス製の玉である。J15 は、２区 SX2126 で出土したもので、樹脂製の玉である。J16 ～ J22 は、２区 SX2064 で出土した樹脂製の玉である。



第２図　出土玉類

第５章　広根遺跡Ｉ区と観音寺跡の地形環境

青　木　哲　哉（立命館大学非常勤講師）

１．はじめに

人間は、自然環境に影響され、またそれを利用しながら活動してきた。中でも地形は、人間の生活舞台であり、活動の場となってきただけに、地形環境と人間生活との間には密接な関係が存在する。地形環境は、第四紀に変化を続け、現在に至っている。そのため、過去の人間生活を浮き彫りにするには、各時期の地形環境とその変化を明らかにすることが必要と考えられる。

人間生活の解明につながる地形環境は、数万年や数千年オーダーでの考察だけでなく、それより細かいオーダーで捉えなければならない。これには、考古遺跡の発掘調査区における地形・地質調査が有効な方法となる。調査区では、微地形とそれを構成する堆積物が直接観察され、堆積物については詳細な区分が行える。このため、堆積物ごとの細かいオーダーで地形環境を復原し、その変化を辿ることができる。しかも、堆積物には編年された考古遺物がしばしば含まれる。復原された地形環境の時期はそれを通して明確にすることが可能となる。また調査区では、人間活動の痕跡である遺構が検出されるため、過去の人間生活が知られる。そこでは、地形環境と人間生活の係わりをも分析できるのである。

本稿では、広根遺跡Ｉ区と観音寺跡の地形環境について明らかにし、それと人間活動との関係を考察したい。調査では、調査区付近における地形の分類と堆積物の把握を試みた。地形分類では、まず20,000分の１と5,000分の１空中写真の判読から調査区周辺の地形を区分した。ついで、5,000分の１空中写真の判読と現地踏査によって調査区付近の平野における微地形分類を行った。堆積物に関しては、平野を中心にボーリング資料を解析するとともに、調査区での地質断面を詳細に観察した。地質断面の観察は、遺構検出面より上位だけでなく、広根遺跡Ｉ－１区、Ｉ－３区、Ｉ－６区、及び観音寺跡１区で掘削したトレンチの断面によって遺構検出面以深についても行った。こうして得られた地形と堆積物の調査結果に、遺構の分布や時期などの発掘調査成果を加えて、調査区付近の地形環境ならびにそれと人間活動との係わりを考察した。

２．調査区周辺の地形

広根遺跡Ｉ区と観音寺跡は、猪名川の支流である野尻川とさらにその支流にあたる猪渕川の合流点付近に位置する。野尻川は猪名川中流域の山間部を概ね南東へ潜入蛇行しながら流れる。猪渕川との合流点付近には、500ｍ前後の幅と約２㎞の長さをもつやや開けた盆地がみられ、その周辺には山地が分布する。盆地内には平野が発達し、これは更新世段丘、完新世段丘、現氾濫原、ならびに支流性扇状地に区分される（第３図）。さらに完新世段丘は２面に、支流性扇状地は３面に分けられ、本稿ではこれらを高位のものから完新世段丘ＩとⅡ、支流性扇状地ＩからⅢと呼ぶ。各地形の特徴は次のとおりである。

〔山地〕　盆地周辺の山地は140～230ｍの標高をもつ。そこでは近年主に宅地の開発に伴う人工改変が著しい。野尻川と猪渕川の合流点より約500ｍ西方の山地には観音寺跡がみられ、標高143ｍを有する山地の南東斜面に観音寺跡１区の北東端と南西端ならびに２区から５区が位置する。

〔更新世段丘〕　調査区周辺には、この段丘が１面しか認められない。これは河川による侵食のため発達があまりよくなく、広根遺跡Ｉ区付近やＡ区の南東方にみられるのみである。この段丘は完新世段丘Ｉ

山地　更新世段丘　完新世段丘Ⅰ　完新世段丘Ⅱ　現氾濫原

支流性扇状地Ⅰ　支流性扇状地Ⅱ　支流性扇状地Ⅲ　人工改変地　河川・ため池

第３図　調査区周辺の地形分類図

と比高２ｍ前後の段丘崖で接している。更新世段丘Ｉには、広根遺跡Ｉ－１区、Ｉ－２区南半部、Ｉ－３区、及びＩ－４区が位置する。

〔完新世段丘Ｉ〕　これは、調査区周辺において比較的よく発達し、野尻川の北岸や広根遺跡Ｇ区の西にみられる。段丘面は、完新世段丘Ⅱより約１ｍ高く、下流へ緩やかに傾斜する。段丘崖は下流に向かって比高を減じ、野尻川北岸の段丘東端では比高がほとんどない。

〔完新世段丘Ⅱ〕　この段丘は完新世段丘Ｉと同様に比較的広い範囲で認められる。これは、野尻川沿いで連続性がよいものの、猪渕川に沿っては断続的に分布する。段丘面はほぼ平坦で、下流へ緩やかに高度を下げる。段丘崖の比高は、調査区より上流で1.5～２ｍを有するものの、下流に向かって減少し、広根遺跡Ａ－１・２区の北では30～40㎝となる。

〔現氾濫原〕　この地形面は最も低く、河川の氾濫時には冠水する可能性が大きい。これは、野尻川と猪渕川の合流点を中心に比較的連続してみられるものの、幅が最大で約110ｍと狭長である。地表は完新世段丘ＩやⅡより緩やかな傾斜で下流へ高度を減じる。

〔支流性扇状地Ｉ〕　支流性扇状地は、背後の山地から堆積物が供給されてできた小規模な扇状地である。これは山地を刻む谷の中から山麓にかけて発達する。そのうち、支流性扇状地Ｉは調査区周辺の３か所に散在し、広根遺跡Ｉ区付近、Ｄ－３区の南、及びＡ区の東方にみられる。いずれも約9.3％の傾斜で地表高度を下げ、更新世段丘と傾斜変換線で接する。この扇状地は段丘化しており、支流性扇状地Ⅱとの境界には比高３～４ｍの段丘崖が認められる。支流性扇状地Ｉには広根遺跡Ｉ－２区北半部とＩ－６区が立地し、またそれは観音寺跡１区中央付近を北西から南東へ細長く延びる。

〔支流性扇状地Ⅱ〕　これは支流性扇状地の中で最もよく発達している。この扇状地は野尻川の北岸や猪渕川の南岸に多く分布し、大部分は複合扇状地をなす。地表傾斜は約5.6％で、完新世段丘Ｉと傾斜変換線で接する。この扇状地も段丘化しており、完新世段丘Ⅱとの間には比高２～３ｍの段丘崖が認められる。

〔支流性扇状地Ⅲ〕　この扇状地は調査区周辺に点々とみられる。多くは面積が小さいものの、調査区より上流の猪渕川沿いには複合扇状地をなす大規模なものが発達する。地表は約12.4％の急傾斜で高度を減じ、完新世段丘Ⅱと傾斜変換線で接している。この扇状地では、支流の下刻によって形成される谷が認められない。

３．調査区における微地形と遺構の分布

（１）更新世段丘の微地形と遺構

更新世段丘には、広根遺跡Ｉ－１区、Ｉ－２区南半部、Ｉ－３区、ならびにＩ－４区が位置する。これは主に猪渕川によってつくられた扇状地が埋没後に段丘化したものである。このため、各調査区では扇状地の微地形である旧中州と旧河道が埋没した状態で認められる（第４図）。

更新世段丘に位置する調査区付近では、埋没旧中州が４か所に分布する。これらの埋没旧中州上では、地下に埋もれた旧中州の影響で地表がわずかに高い。埋没旧中州上からはＩ－１区北東部で13世紀から14世紀ころの掘立柱建物跡が２棟、Ｉ－４区で13世紀のそれが１棟検出され、Ｉ－３区南半部の埋没旧中州上では主に13世紀から14世紀ころの掘立柱建物跡が数棟と木棺墓が４基認められる。また、Ｉ－２区東端では13世紀から14世紀ころ、Ｉ－２区南西部では14世紀の掘立柱建物跡が各１棟検出されている。

第４図　調査区付近の微地形分布

埋没旧河道はⅠ－２区南部からⅠ－１区南部、Ⅰ－２区東部、及びⅠ－１区西部に認められる。Ⅰ－２区南部からⅠ－１区南部にかけての埋没旧河道は、猪渕川の流路跡に相当し、西南西－東北東方向に延びる。これにつながるⅠ－２区東部とⅠ－１区西部の埋没旧河道は、北西側の支流性扇状地Ⅰから連続するもので、小規模な支流の流路跡に該当する。これらの埋没旧河道上では顕著な遺構がみられない。

（２）支流性扇状地Ⅰの微地形と遺構

支流性扇状地Ⅰには、広根遺跡Ⅰ－２区北半部、Ⅰ－６区、ならびに観音寺跡１区中央付近が位置する。この扇状地は、山地を刻む狭長な谷の中から発達し、山麓で扇形に広がる。広根遺跡Ⅰ－６区と観音寺跡１区中央付近、広根遺跡Ⅰ－２区北半部とは、それぞれ異なる谷から発達する支流性扇状地Ⅰに位置し、これらは山麓で複合扇状地をなす。

こうした支流性扇状地Ⅰには、埋没旧中州と埋没旧河道が認められる（第４図）。埋没旧河道は、二つの谷中にみられる支流性扇状地Ⅰそれぞれに存在し、南東に隣接する更新世段丘へ続く。これらは猪渕川の支流跡で、概ね北西－南東方向に延びる。中でも広根遺跡Ⅰ－６区を通過する埋没旧河道は、複数の旧河道が密集するため全体の幅が広い。埋没旧河道上からは、それに沿う石組溝がⅠ－６区北西部

で検出され、また観音寺跡１区では 15 世紀末から 16 世紀初頭の井戸がみられる。

埋没旧中州は基本的に埋没旧河道の両側（北東側と南西側）に分布する。埋没旧中州上からは、広根遺跡Ｉ－６区北東部で 13 世紀の火葬墓が１基、南西部では 13 世紀ころの掘立柱建物跡１棟や 19 世紀ころのカマ６基が検出されている。

観音寺跡１区では、主に支流性扇状地Ｉを人為的に改変して造成された平坦面が認められる。平坦面は支流性扇状地Ｉの発達する谷中から麓にかけて階段状に４面分布する。これらの造成では、支流性扇状地Ｉだけでなく付近の山地斜面も削り取られている。

低位の２面にあたる平坦面１と平坦面２は、標高およそ 107 m及び 112 m付近にみられる。そこには江戸時代の元禄年間から昭和 12 年まで続いた観音寺が立地していた。平坦面３は標高 117 m前後、最高位の平坦面４は標高 125 m付近に位置する。平坦面３には 14 世紀後半から 16 世紀、平坦面４には 15 世紀末から 16 世紀初頭の寺院が存在したとされる。これらのうち、最も古い時期につくられた平坦面３は幅がおよそ 30 m、奥行が約 16 mで、背後の崖は比高６m前後である。また、最も大規模な改変によって造成された平坦面２は約 40 mの幅と 16 m前後の奥行を有し、背後には比高４～５mの崖がみられる。

（３）山地の地形改変と遺構

観音寺跡付近の山地斜面には観音寺跡２区から５区が位置する。これらのうち２区、３区、及び５区には、人為的につくられた平坦面が認められる。平坦面は主に山地表層の風化土壌にあたる黄褐色のシルトを削り取って造成されたものである。

観音寺跡２区と３区には平坦面が７～８面分布し、これらは等高線に沿って細長く延びる。観音寺跡２区ではこうした平坦面のうち２面で 16 世紀から 19 世紀の土葬墓、火葬墓、ならびに火葬場などが数多く検出され、それより標高の低い３区では１面の平坦面から 18 世紀の墓が確認されている。

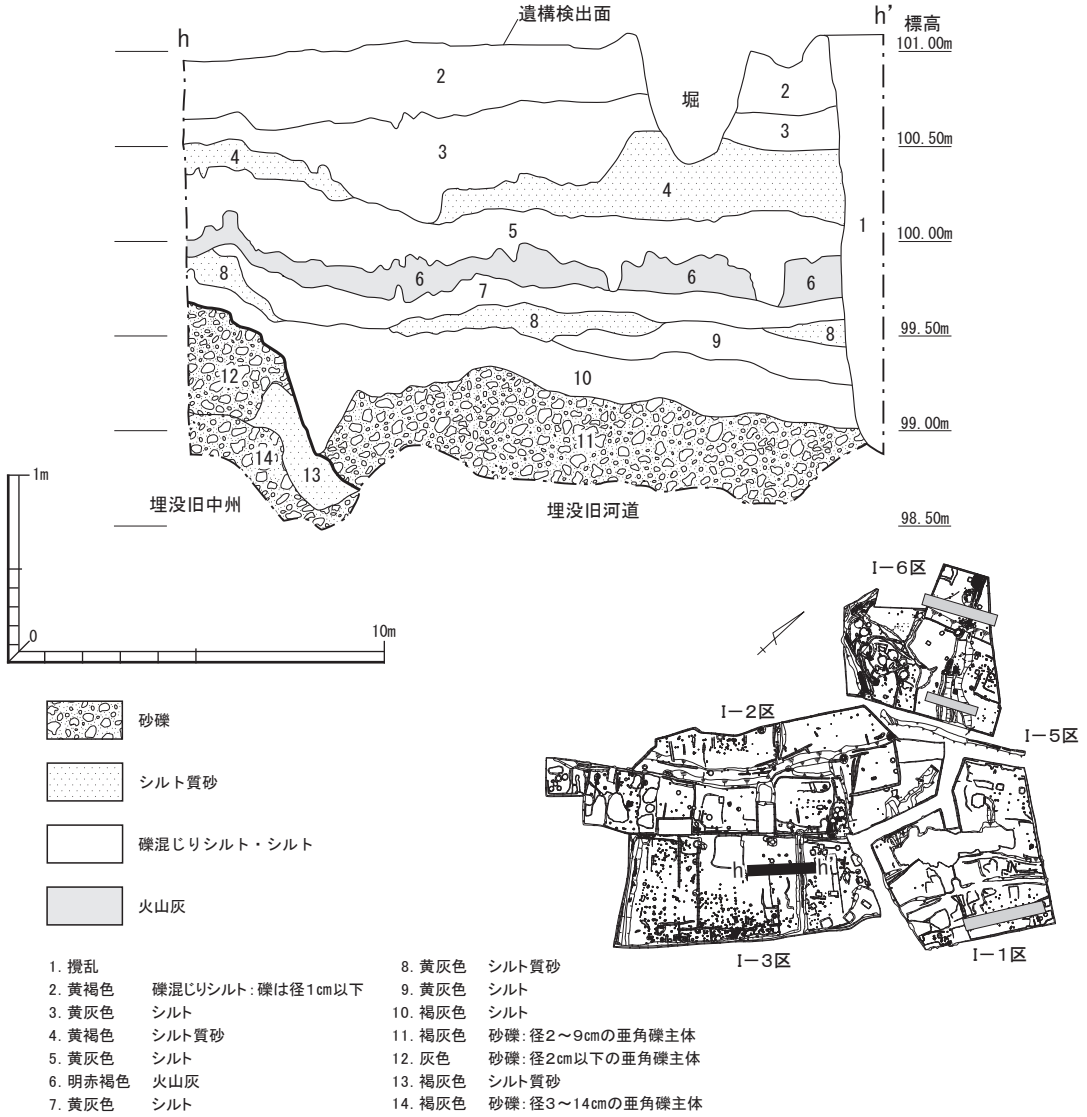
観音寺跡５区では５面の平坦面が認められる。中でも、中位の２面では 15 世紀から 16 世紀と 18 世紀から 19 世紀の寺院跡、低位の１面からは江戸時代の墓が検出されている。なお、これらの調査区が位置する山地斜面では、山崩れや地すべりなどの痕跡が確認されない。

４．調査区における堆積物の特徴

（１）更新世段丘の堆積物

更新世段丘に位置する広根遺跡Ｉ－１区とＩ－３区では、基本的に砂礫とそれを覆う細粒堆積物が認められる（第５図・第６図）。調査区付近のボーリング資料によると、現地表下およそ３m以深に基盤岩がみられるため、これらの堆積物は薄いと推定される。

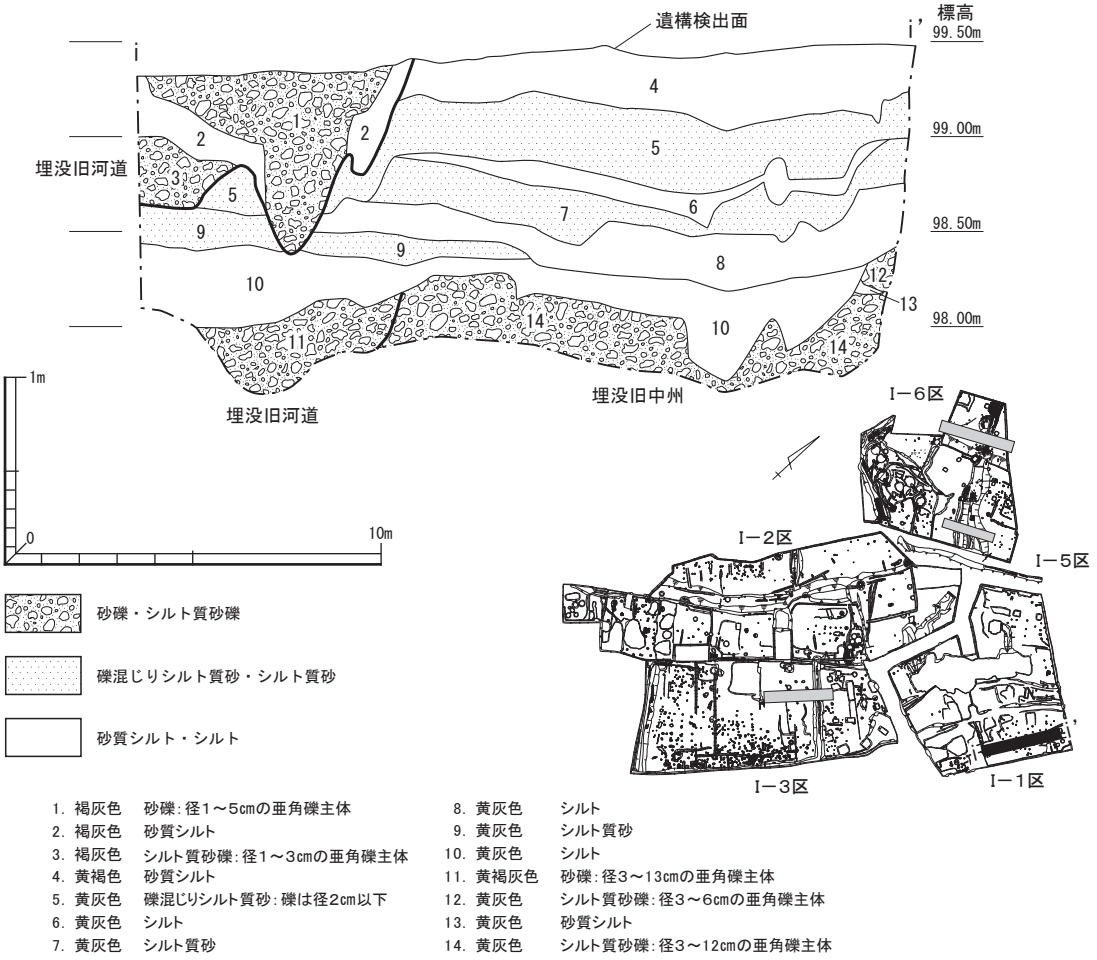
砂礫は扇状地堆積物に相当し、トレンチ断面ではその上部が観察できる。中でも旧中州堆積物は少なくとも２層に分けられる。下位のそれは褐灰色や黄灰色を呈する砂礫とシルト質砂礫（第５図の堆積物 14、第６図の堆積物 14）である。これらは、径３～ 13 ㎝の亜角礫を主体とし、最大で径 25 ㎝の比較的大きい礫を含む。上位の旧中州堆積物は灰色や黄灰色の砂礫とシルト質砂礫（第５図の堆積物 12、第６図の堆積物 12）である。これらは、径６㎝以下の亜角礫を主体とし、20 ～ 60 ㎝の厚さで下位の砂礫を被覆する。上位と下位の旧中州堆積物間には、褐灰色のシルト質砂（第５図の堆積物 13）や黄灰色の砂質シルト（第６図の堆積物 13）がレンズ状に挟まれる。



第５図　広根遺跡Ｉ－３区のトレンチ断面図

砂礫の上位にみられる細粒堆積物は、2.7ｍ前後の厚さをもち、表土を除いて層前後に細分される。これらは黄灰色や黄褐色などを呈するシルト質砂（第５図の堆積物４・8、第６図の堆積物５・7・9）、砂質シルト（第６図の堆積物4）、及びシルト（第５図の堆積物2・3・5・7・9・10、第６図の堆積物6・8・10）である。とくに砂質シルトとシルトは締まっており、連続性が比較的よい。広根遺跡Ｉ－３区では、こうした細粒堆積物の中位にＡＴ火山灰（第５図の堆積物6）[1] が挟まれる。これは10～40㎝の厚さでほぼ連続的にみられる。細粒堆積物の最上位には褐灰色のシルトが30～40㎝の厚さで観察され、その下面からは13世紀以降の遺構が検出される。

こうした堆積物を切る旧河道が２種類認められる。一つは砂礫を切る旧河道で、広根遺跡Ｉ－２区南部からＩ－１区南部にかけて延びる。これは猪渕川の流路跡に相当し、十数ｍの幅を有する。旧河道堆積物は径２～13㎝の亜角礫を主体とする褐灰色の砂礫や黄褐灰色の砂礫（第５図の堆積物11、第６図の堆積物11）などである。他の一つは、細粒堆積物の上部を切る旧河道で、広根遺跡Ｉ－１区中央部を東南東へ延びる。これは支流性扇状地Ｉから続く支流跡に該当し、7.3ｍ以上の幅をもつ。旧河道堆



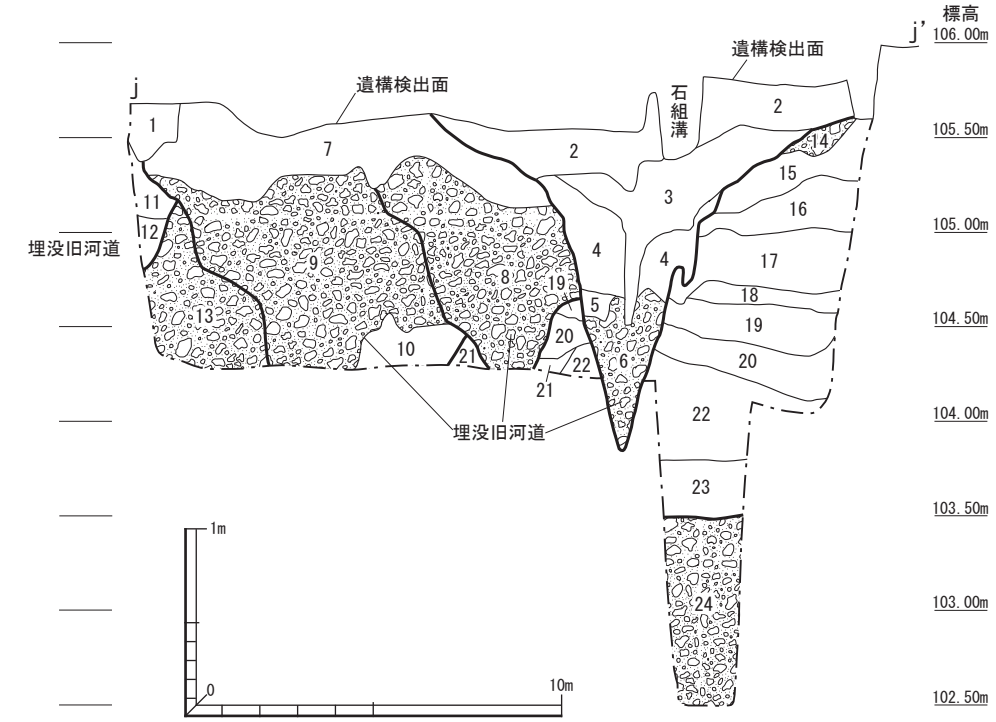
第６図　広根遺跡Ｉ－１区のトレンチ断面図

積物は褐灰色の砂礫、シルト質砂礫、ならびに砂質シルト（第６図の堆積物１～３）で、砂礫とシルト質砂礫は径１～５㎝程度の亜角礫からなる。この旧河道は、細粒堆積物の最上位にみられる褐灰色のシルトによって薄く覆われる。

（２）支流性扇状地Ｉの堆積物

支流性扇状地Ｉに位置する広根遺跡Ｉ－６区では、大きくみてシルト質砂礫とそれを被覆する細粒堆積物が観察される（第７図・第８図）。シルト質砂礫（第７図の堆積物 24）は扇状地堆積物に相当し、現地表下約 2.5 ｍ以深に認められる。これは径３～６㎝の亜角礫を主体とし、黄灰色の砂質シルトをレンズ状に多数挟む。このシルト質砂礫は更新世段丘堆積物の砂礫とほぼ同じ時期に堆積したと考えられる。

シルト質砂礫を覆う細粒堆積物は、全体的に締まりがよく、表土を除いて 10 層前後に細分される。細粒堆積物の多くは黄灰白色や灰黄色の砂質シルト（第７図の堆積物 15・17・19・21・23、第８図の堆積物 7・11・14）とシルト（第７図の堆積物 16・18・22、第８図の堆積物 4・6・9・12）である。ただし、支流性扇状地の扇端付近にあたる広根遺跡Ｉ－６区南東部では、このような堆積物の間に黄灰色や黄褐色のシルト質砂礫（第８図の堆積物 3・5・8・10・13）が５層薄く挟まれる。これらはいずれも径１～３㎝程度の亜角礫を主体とし、10 ～ 40 ㎝の厚さで堆積する。細粒堆積物の最上位には、褐灰色

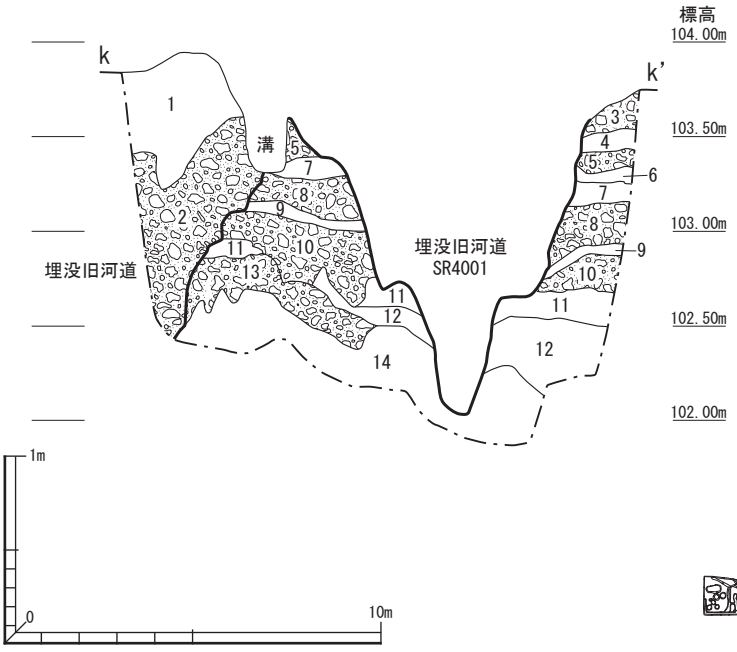


砂礫・シルト質砂礫

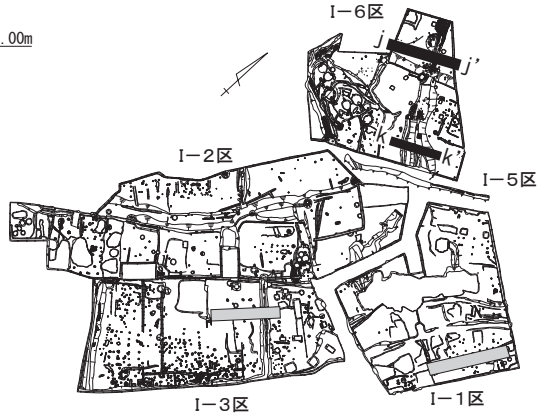
礫混じりシルト・
砂質シルト・シルト

1. 攪乱
2. 暗褐灰色　シルト
3. 暗灰黄色　シルト
4. 黒褐色　砂質シルト
5. 黄灰色　シルト
6. 灰色　シルト質砂礫：径3～11cmの亜角礫主体
7. 暗灰褐色　シルト
8. 暗灰褐色　シルト質砂礫：径2～5cmの亜角礫主体
9. 暗灰褐色　シルト質砂礫：径2～6cmの亜角礫主体
10. 灰褐色　砂質シルト
11. 黄灰色　シルト
12. 黄灰色　砂質シルト
13. 黄褐灰色　砂礫：径3～7cmの亜角礫主体
14. 灰色　シルト質砂礫：径1～2cmの亜角礫主体
15. 黄灰色　砂質シルト
16. 黄灰白色　シルト
17. 黄灰白色　砂質シルト
18. 黄灰白色　シルト
19. 黄灰白色　砂質シルト
20. 灰黄色　礫混じりシルト：礫は径1～3cmの亜角礫
21. 灰黄色　砂質シルト
22. 灰黄色　シルト
23. 黄灰色　砂質シルト
24. 黄灰色　シルト質砂礫：径3～6cmの亜角礫主体

第７図　広根遺跡Ｉ－６区北西部のトレンチ断面図



1. 褐灰色　砂質シルト
2. 褐灰色　シルト質砂礫：径2～6cmの亜角～亜円礫主体
3. 黄灰色　シルト質砂礫：径1～2cmの亜角礫主体
4. 黄灰色　シルト
5. 黄灰色　シルト質砂礫：径1～2cmの亜角礫主体
6. 黄灰色　シルト
7. 黄灰色　砂質シルト
8. 黄灰色　シルト質砂礫：径1～2cmの亜角礫主体
9. 黄灰色　シルト
10. 黄褐色　シルト質砂礫：径1～3cmの亜角礫主体
11. 黄褐色　砂質シルト
12. 黄灰白色　シルト
13. 黄灰白色　シルト質砂礫：径1～2cmの亜角礫主体
14. 黄灰白色　砂質シルト



シルト質砂礫

砂質シルト・シルト

第８図　広根遺跡Ｉ－６区南東部のトレンチ断面図

のシルトがみられる。これは約 15 ㎝の厚さをもち、９世紀以降の遺構はその下面から検出される。

広根遺跡Ｉ－６区北西部では、こうした細粒堆積物の上部を切る旧河道が認められる。これらは、少なくとも４本観察され、部分的に重複する。いずれも北西の山地から流下する支流の流路跡で、これらの上には細粒堆積物の最上位に位置する褐灰色のシルトが薄く覆う。４本のうち南西端のものを除く３本は５～ 10 ｍ程度の幅と１ｍ以上の深さをもつ。

このような３本のうち古い時期に形成された２本の旧河道は、下部から中部を暗灰褐色や褐灰色のシルト質砂礫（第７図の堆積物８・9、第８図の堆積物 2)、上部を暗灰褐色のシルト（第７図の堆積物 7）や褐灰色の砂質シルト（第８図の堆積物 1）に埋積されている。下部から中部にみられるシルト質砂礫は径２～６㎝の亜角礫を主体とする。一方、最も新しい旧河道の基本的な堆積物は、下部が灰色のシルト質砂礫（第７図の堆積物 6)、中部から上部が黒褐色や暗褐灰色などを呈する砂質シルトとシルト（第７図の堆積物２～ 5）である。下部のシルト質砂礫は主に径３～ 11 ㎝の亜角礫からなる。旧河道堆積物には９世紀から 11 世紀の遺物が混入し、広根遺跡Ｉ－６区南東部ではこの旧河道が検出されている。

他方、観音寺跡１区中央付近を北西－南東に延びる支流性扇状地Ｉでも、広根遺跡Ｉ－６区と同様に砂礫とその上位にみられる細粒堆積物が基本的に認められる（第９図・第 10 図)。これらの堆積物はよく締まっており、下位には基盤岩（第 10 図の堆積物 10）が観察される。砂礫は扇状地堆積物に相当し、観音寺跡１区北西部で 2.4 ｍ以上の厚さをもつ。これはさらに２層に細分され、下位には赤灰色の砂礫（第９図の堆積物 4）と黄褐色のシルト質砂礫（第 10 図の堆積物 9）がみられる。これらに含まれる礫は径２～16 ㎝の角礫や亜角礫を主体とする。上位の砂礫は黄灰色のシルト質砂礫（第９図の堆積物 3）で、主に径１～５㎝の角礫と亜角礫からなる。これは下位の砂礫を約 60 ㎝の厚さで部分的に被覆する。

砂礫の上位に位置する細粒堆積物は、標高の高い観音寺跡１区北西部で薄く、標高が低くなる南東部ほど厚い。１区中央部の平坦面３では、表土を除く細粒堆積物が 80 ㎝～１ｍの厚さで認められ、４層に分けられる。これらは黄灰色や暗灰色の砂質シルトとシルトなど（第 10 図の堆積物１～ 4）である。中でも、最上位にみられる黄灰色の礫混じり砂質シルト（第 10 図の堆積物 1）は、この付近が人為的に改変された際の盛土（整地層）にあたり、局所的に分布する。

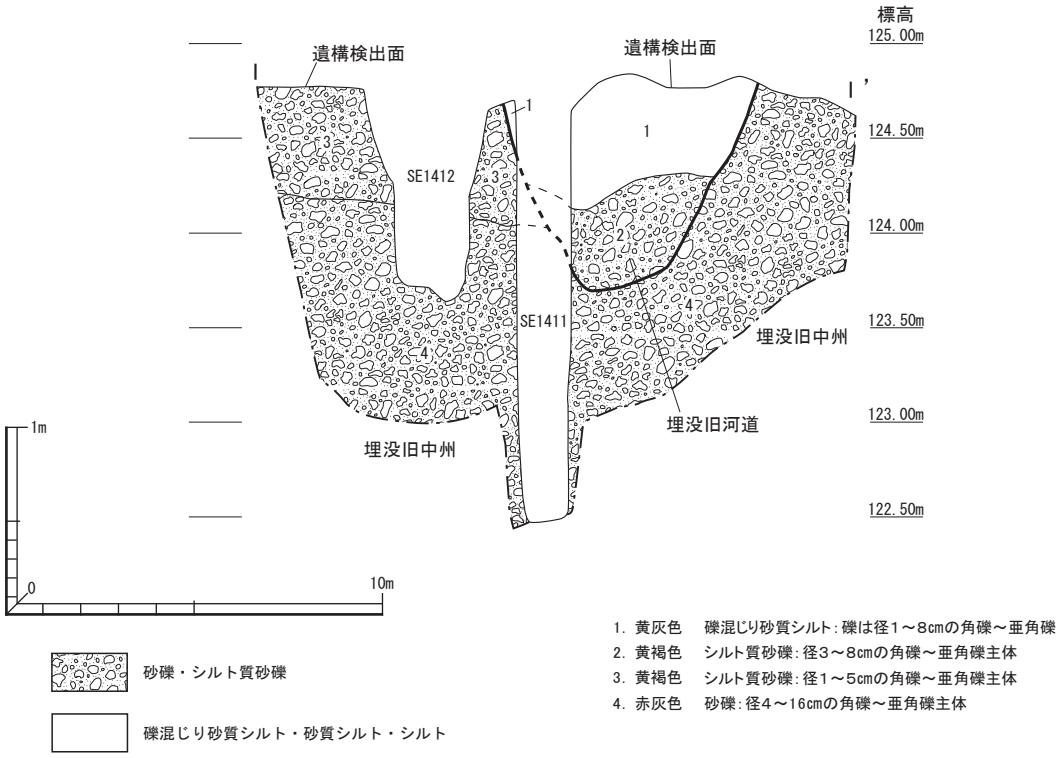
観音寺跡１区では、このような堆積物のうち砂礫（第９図の堆積物 3・4、第 10 図の堆積物 9）を切る旧河道がみられる。これは、幅が７ｍあるいはそれ以上、深さが１～ 1.5 ｍで、山地斜面の谷中を流れる支流跡に相当する。旧河道堆積物の下部は黄褐色や暗黄灰色のシルト質砂礫（第９図の堆積物 2、第 10 図の堆積物 8）であり、これらは主に径２～８㎝の角礫や亜角礫からなる。上部は細粒堆積物（第９図の堆積物 1、第 10 図の堆積物５～ 7）に埋積されており、観音寺跡１区中央部ではそれが黄灰色や黄褐色の砂質シルトとシルトに細分される。

観音寺跡１区の平坦面は、主にこうした支流性扇状地Ｉの堆積物を削り取って造成されたものである。平坦面のうち、最も大きい地形改変がみられた平坦面２では、北東部に基盤岩が露呈しており、造成の際に山地の尾根末端を大きく削り取ったことが知られる。各平坦面では、造成時の盛土上面またはその層位から 14 世紀後半以降の遺構が検出されている。

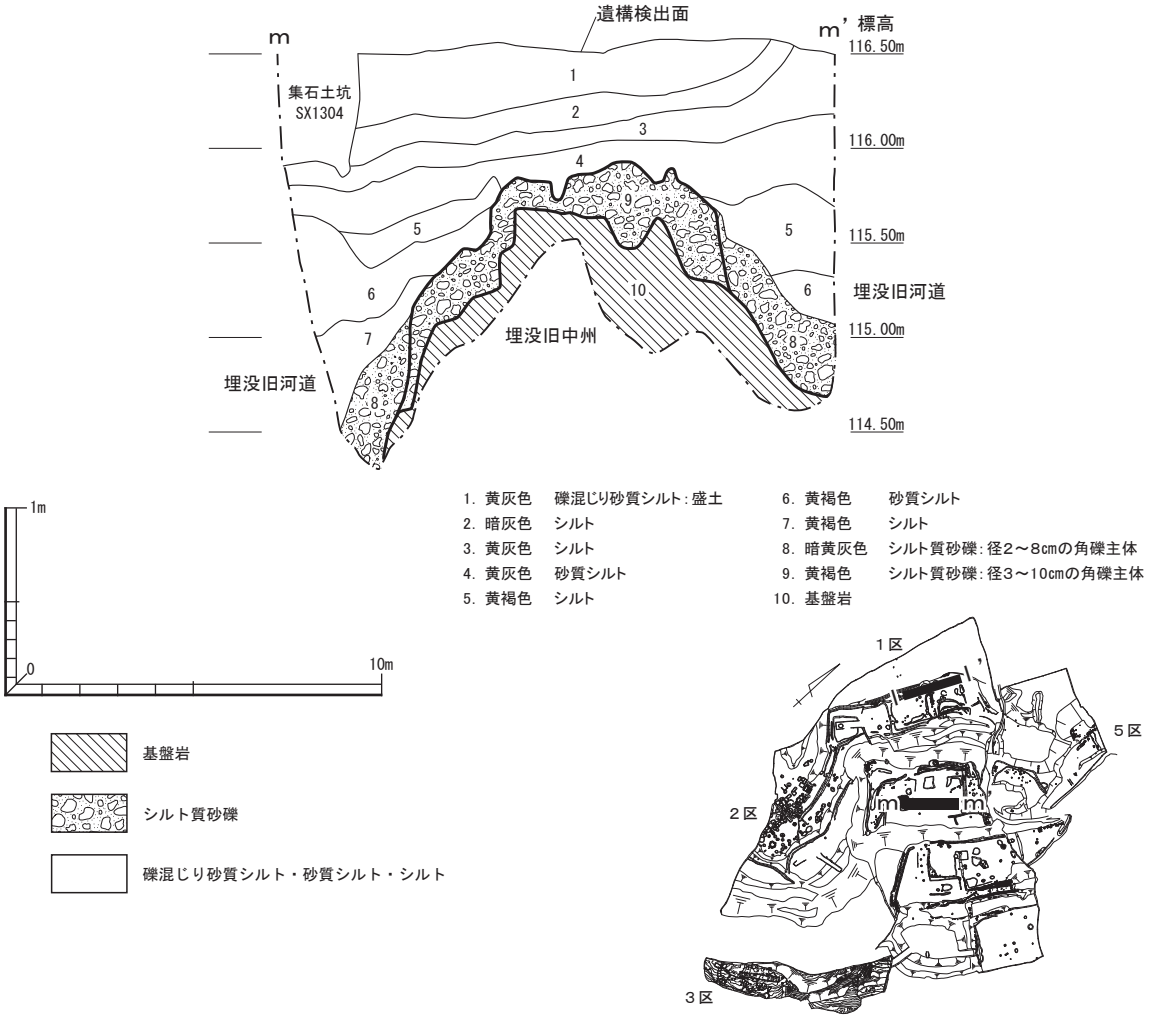
５．地形環境の変遷

これまでに述べた事柄からみて、調査区付近では次のような地形環境の変遷が考察される。

〔ステージ１〕 広根遺跡Ｉ－１区から４区付近では、主として猪渕川によって砂礫がもたらされ、扇状



第９図　観音寺跡１区北西部（平坦面４）のトレンチ断面図



第 10 図　観音寺跡１区中央部（平坦面３）のトレンチ断面図

地が形成された。これとほぼ同じころ、北西側の山地を刻む谷から山麓にかけて支流による砂礫の堆積がみられ、広根遺跡Ｉ－６区や観音寺跡１区付近には急な傾斜の扇状地が発達した（支流性扇状地Ｉの形成)。広根遺跡Ｉ区と観音寺跡１区付近では、こうした扇状地の形成に伴って複数の中州がつくられた。中州間にみられる流路は、その後主に砂礫によって埋積され、旧河道となった。

〔ステージ２〕　ＡＴ火山灰の降灰期（約３万年前）前後、猪渕川やその支流が氾濫を繰り返し、扇状地は主に砂質シルトやシルトなどによって覆われていった。これらの堆積によって旧中州と旧河道は埋没した。

〔ステージ３〕　ＡＴ火山灰の降灰期以降およそ１万年前までのある時期、猪渕川や野尻川が下方侵食を行った。このため、広根遺跡Ｉ区付近では埋没した扇状地が段丘化し（更新世段丘の形成)、段丘面は洪水のほとんど発生しない安定した環境となった。

〔ステージ４〕　広根遺跡Ｉ－６区付近を流れる小規模な支流が少なくとも４度の流路変更を行った。これに伴って旧河道が形成され、その際には流路が基本的に砂礫、続いて細粒堆積物によって埋積された。広根遺跡Ｉ－６区では、最終的な流路の埋積が９世紀から 11 世紀にみられた。

〔ステージ５〕　13 世紀に入ると、安定した環境下にあった更新世段丘と支流性扇状地Ｉでは人間が生活するようになった。更新世段丘の埋没旧中州上では、13 世紀に広根遺跡Ｉ－４区で掘立柱建物が建てられた。また 13 世紀から 14 世紀ころには、Ｉ－１区北東部とＩ－２区東端で掘立柱建物、Ｉ－３区南半部で掘立柱建物と木棺墓が埋没旧中州上に築造された。さらに 14 世紀にもＩ－２区南西部の埋没旧中州上に掘立柱建物が建てられた。一方、広根遺跡Ｉ－６区が位置する支流性扇状地Ｉでも 13 世紀に埋没旧中州上で掘立柱建物と火葬墓がつくられた。

〔ステージ６〕　14 世紀後半には、それまで環境がとくに安定していた観音寺跡１区中央付近で支流性扇状地Ｉを中心に人為的な地形改変がなされた。これによって平坦面３が造成され、そこには寺院が建てられた。造成の際、支流性扇状地Ｉの堆積物や付近にみられる山地の基盤岩などが削り取られ、平坦面上には盛土が施された。15 世紀末になると、同様の地形改変がそれより高所で行われ、平坦面４の造成と寺院の建立が行われた。さらに 18 世紀には、支流性扇状地Ｉの低所に平坦面が２面（平坦面１と平坦面２）つくられ、それぞれに寺院（観音寺）の立地をみた。中でも平坦面２の造成では、北東側の尾根末端が大規模に削り取られた。14 世紀から 19 世紀には、こうした寺院の建立に伴って周囲の山地斜面でも平坦面が造成され、そこには火葬墓や土葬墓などがつくられた。また 19 世紀ころには、広根遺跡Ｉ－６区で６基のカマが支流性扇状地Ｉの埋没旧中州上に築造された。

〔ステージ７〕　19 世紀以降、広根遺跡Ｉ－６区が位置する支流性扇状地Ｉから更新世段丘にかけて洪水が発生した。これは広根遺跡Ｉ－６区付近を流れる小規模な支流によるものであった。その結果、支流性扇状地Ｉと更新世段丘ではシルトが薄く堆積した。

６．おわりに

広根遺跡Ｉ区と観音寺跡は、更新世段丘ならびにその北西側に存在する支流性扇状地Ｉと山地に位置する。これらのうち、更新世段丘には広根遺跡Ｉ－１区からＩ－４区、支流性扇状地Ｉには広根遺跡Ｉ－６区と観音寺跡１区中央付近がみられる。更新世段丘は、更新世末期に形成された扇状地がＡＴ火山灰の降灰期前後に埋没し、段丘化した地形である。また支流性扇状地Ｉは、更新世段丘の形成とほぼ同じ時期に山地を刻む谷中から麓にかけて発達したものにあたる。

いずれの地形にも、埋没旧中州と埋没旧河道が分布する。埋没旧中州は扇状地の形成期につくられた微高地がその後埋没したものである。その上は埋没旧河道上と比べてわずかに高く、比較的高燥な環境を呈する。他方、埋没旧河道には扇状地の形成期と埋没の最終段階につくられた２種類が認められる。後者は小規模な支流跡で、広根遺跡Ⅰ－６区が位置する支流性扇状地Ⅰに分布する。広根遺跡Ⅰ－６区では、こうした旧河道のうち最も新しい９世紀から 11 世紀の流路跡が確認されている。更新世段丘と支流性扇状地Ⅰでは、段丘化の後この支流による数度の流路変更と 19 世紀以降の洪水が広根遺跡Ⅰ区付近でみられただけである。そこでは、洪水のほとんど発生しないほぼ安定した環境が３万年間近く継続したと考えられる。

このような環境の下、調査区では 13 世紀以降に人間生活がみられ、埋没旧中州上が居住域や墓域に利用されるようになった。更新世段丘の埋没旧中州上では、掘立柱建物が 13 世紀に広根遺跡Ⅰ－４区、13 世紀から 14 世紀ころにⅠ－１区北東部やⅠ－２区東端、Ⅰ－３区南半部、14 世紀にはⅠ－２区南西部に建てられ、広根遺跡Ⅰ－３区南半部では 13 世紀から 14 世紀に木棺墓が築造された。また、支流性扇状地Ⅰの埋没旧中州上には、広根遺跡Ⅰ－６区で 13 世紀ころの掘立柱建物と火葬墓がつくられた。

14 世紀後半から 19 世紀には、環境がとくに安定していた観音寺跡１区中央付近の支流性扇状地Ⅰと周囲の山地斜面で人為的な地形改変が行われた。これによって平坦面が多く造成され、そこには寺院や墓域がつくられた。中でも支流性扇状地Ⅰは、山地に比して起伏が小さく、堆積物も軟らかいため、平坦面の造成に適していた。一定の区画と面積が必要な寺院は、そこを中心につくられた平坦面に建立された。

以上のような広根遺跡Ⅰ区と観音寺跡がみられる盆地には、広根遺跡Ａ区、Ｇ区、及びＨ区なども存在する[2)]。広根遺跡Ｈ区が位置する支流性扇状地Ⅱは、約 9,500 年前から縄文時代後期までのある時期に段丘化し、その後安定した環境が続いた。また、広根遺跡Ａ区とＧ区が分布する完新世段丘Ⅱの段丘化は 14 世紀以降にみられ、遅くとも縄文時代後期から 14 世紀ならびに段丘化した時期以降の環境が比較的安定していた。いずれの地形も埋没した扇状地が段丘化したもので、そこには旧中州と旧河道が埋没した状態で存在する。

これらの調査区では、ほぼ安定した環境が続いた後、人間活動が微地形を利用して行われた。埋没旧中州上は居住域と墓域に使われた。そこには、広根遺跡Ｈ区で縄文時代中期末の竪穴住居、12 世紀から 13 世紀の掘立柱建物からなる集落、12 世紀から 14 世紀の木棺墓や火葬墓などがつくられ、Ａ区で９世紀と 13 世紀、Ｇ区で 13 世紀に掘立柱建物が建てられた。他方、埋没旧河道上は生産域に利用され、その付近では 13 世紀に広根遺跡Ａ区とＨ区で、15 世紀から 16 世紀にＡ区で水田稲作が営まれた。

今回報告した広根遺跡Ⅰ区と観音寺跡１区中央付近は、これらに比べて古い時期に形成された更新世段丘と支流性扇状地Ⅰに位置する。こうした地形でも、支流性扇状地Ⅱや完新世段丘Ⅱと同様に、ほぼ安定した環境下で微地形を利用した人間活動が認められた。環境の安定性や微地形に係わる地形環境は、形成時期の異なる地形においても人間活動と深い関係をもつといえるのである。

注

１）火山灰の分析は（株）加速器分析研究所が（株）パリノサーヴェイの協力を得て行ったものである。

２）拙稿「広根遺跡の地形環境－Ａ区、Ｄ区、Ｇ区、及びＨ区を中心に－」、『広根遺跡』（兵庫県教育委員会）所収、2017 年

第６章　自然科学分析

第１節　観音寺跡における放射性炭素年代（AMS 測定）

（株）加速器分析研究所

１　測定対象試料

観音寺跡は、兵庫県川辺郡猪名川町広根に所在する。測定対象試料は、２区（北緯 34°　53′　25″、東経 135°　21′　53″）の２基の焼土坑からそれぞれ１点ずつ、４区（北緯 34°　53′　28″、東経 135°　21′　50″）の８基の火葬址からそれぞれ１点ずつ出土した、合計 10 点の木炭である（表６）。

想定年代は、２区の 2013086-1 が 15 世紀から 17 世紀、2013086-2 が 16 世紀から 17 世紀、４区の 2013086-3 ～ 2013086-10 はいずれも 13 世紀末から 15 世紀である。

２　測定の意義

出土遺物の乏しい遺構の年代を明らかにする。

３　化学処理工程

（１）メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。

（２）酸－アルカリ－酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表６に記載する。

（３）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

（４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（５）精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

（６）グラファイトを内径１mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

４　測定方法

加速器をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し、^{14}C の計数、^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）、^{14}C 濃度（$^{14}C/^{12}C$）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

５　算出方法

（１）$\delta^{13}C$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表６）。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（２）^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使

用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C 年代は δ^{13}C によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表６に、補正していない値を参考値として表７に示した。^{14}C 年代と誤差は、下１桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、^{14}C 年代の誤差（±１σ）は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。

（３）pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい（^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上（^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も δ^{13}C によって補正する必要があるため、補正した値を表６に、補正していない値を参考値として表７に示した。

（４）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差（1 σ＝68.2%）あるいは２標準偏差（２σ＝95.4%）で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ^{13}C 補正を行い、下１桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCalv4.3 較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表７に示した。暦年較正年代は、^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

６　測定結果

測定結果を表６、７に示す。

２区の焼土坑から出土した木炭 2013086-1 の ^{14}C 年代は 350 ± 20yrBP、暦年較正年代（1 σ）は、1480 ～ 1625cal AD の間に２つの範囲で示される。15 世紀から 17 世紀の想定年代と一致する。2013086-2 の ^{14}C 年代は 140 ± 20yrBP、暦年較正年代（1 σ）は、1682 ～ 1936cal AD の間に６つの範囲で示される。想定年代と一致する範囲もあるが、全体的に新しい結果となった。なお、2013086-2 の較正年代については、記載された値よりも新しい可能性がある点に注意を要する（表７下の警告参照）。

４区の火葬址から出土した木炭の ^{14}C 年代は、680 ± 20yrBP(2013086-3)から 550 ± 20yrBP(2013086-5、2013086-6、2013086-10）の間にある。暦年較正年代（1 σ）は、最も古い 2013086-3 が 1280 ～ 1380cal AD の間に２つの範囲、最も新しい 2013086-6 が 1330 ～ 1419cal AD の間に２つの範囲で示される。いずれも想定年代に一致する。

試料の炭素含有率は 64%～ 75%の適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51 (1) , 337-360

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55 (4) , 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19 (3) , 355-363

表６　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C 補正値）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ^{13}C (‰) (AMS)	δ ^{13}C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-170384	2013086-1	２区 焼土坑 SX100　土坑内	木炭	AAA	-24.65 ± 0.33	350 ± 20	95.71 ± 0.21
IAAA-170385	2013086-2	２区 焼土坑 SX114 下層　土坑内	木炭	AAA	-27.84 ± 0.35	140 ± 20	98.33 ± 0.24
IAAA-170386	2013086-3	４区 火葬址 SX01　土坑内	木炭	AAA	-25.37 ± 0.32	680 ± 20	91.88 ± 0.25
IAAA-170387	2013086-4	４区 火葬址 SX47E　土坑内の東半	木炭	AAA	-22.92 ± 0.31	600 ± 20	92.75 ± 0.21
IAAA-170388	2013086-5	４区 火葬址 SX05S　土坑内の南半	木炭	AAA	-28.48 ± 0.28	550 ± 20	93.33 ± 0.23
IAAA-170389	2013086-6	４区 火葬址 SX10　土坑内南西半	木炭	AAA	-24.20 ± 0.28	550 ± 20	93.40 ± 0.22
IAAA-170390	2013086-7	４区 火葬址 SX30W　土坑内西半	木炭	AAA	-22.72 ± 0.26	600 ± 20	92.79 ± 0.21
IAAA-170391	2013086-8	４区 火葬址 SX28W　土坑内西半	木炭	AAA	-26.88 ± 0.27	560 ± 20	93.22 ± 0.23
IAAA-170392	2013086-9	４区 火葬址 SX20W　土坑内西半	木炭	AAA	-26.89 ± 0.32	590 ± 20	92.93 ± 0.23
IAAA-170393	2013086-10	４区 火葬址 SX48E　土坑内東半	木炭	AAA	-29.28 ± 0.30	550 ± 20	93.34 ± 0.24

［#8573］

表７　放射性炭素年代測定結果（δ ^{13}C 未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）(1)

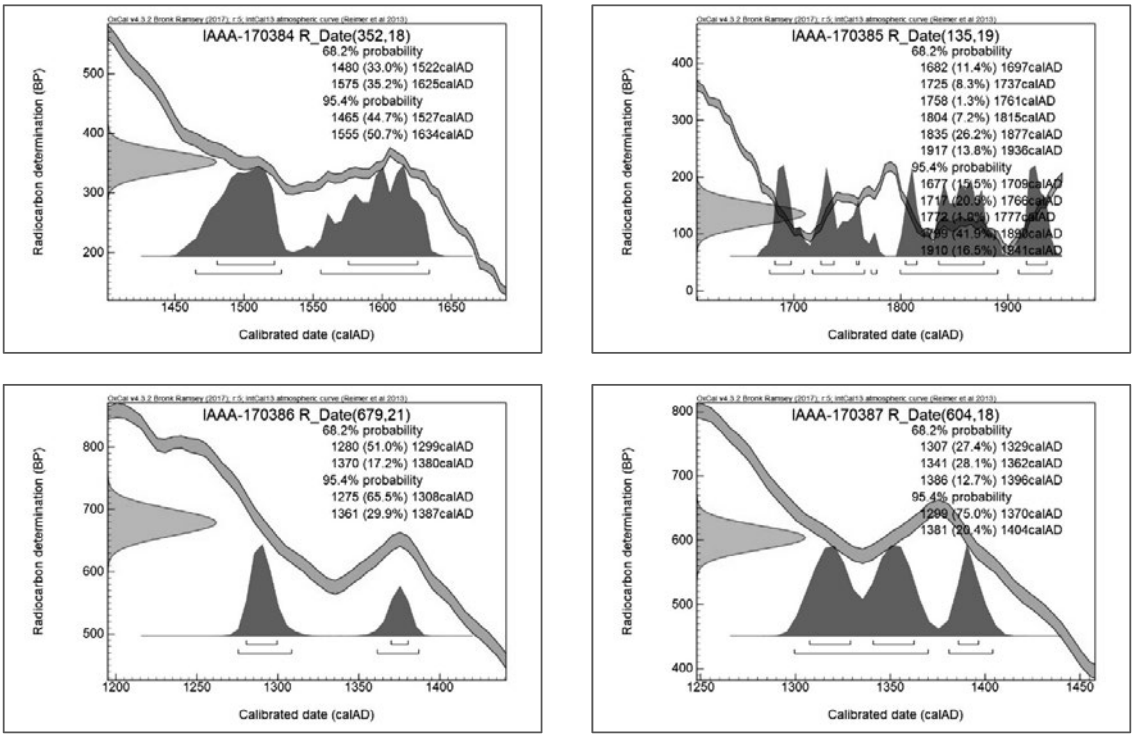
測定番号	δ ^{13}C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-170384	350 ± 20	95.77 ± 0.20	352 ± 18	1480calAD - 1522calAD (33.0%) 1575calAD - 1625calAD (35.2%)	1465calAD - 1527calAD (44.7%) 1555calAD - 1634calAD (50.7%)
IAAA-170385	180 ± 20	97.75 ± 0.23	135 ± 19	1682calAD - 1697calAD (11.4%) * 1725calAD - 1737calAD (8.3%) * 1758calAD - 1761calAD (1.3%) * 1804calAD - 1815calAD (7.2%) * 1835calAD - 1877calAD (26.2%) * 1917calAD - 1936calAD (13.8%) *	1677calAD - 1709calAD (15.5%) * 1717calAD - 1766calAD (20.5%) * 1772calAD - 1777calAD (1.0%) * 1799calAD - 1890calAD (41.9%) * 1910calAD - 1941calAD (16.5%) *
IAAA-170386	690 ± 20	91.81 ± 0.24	679 ± 21	1280calAD - 1299calAD (51.0%) 1370calAD - 1380calAD (17.2%)	1275calAD - 1308calAD (65.5%) 1361calAD - 1387calAD (29.9%)
IAAA-170387	570 ± 20	93.15 ± 0.20	604 ± 18	1307calAD - 1329calAD (27.4%) 1341calAD - 1362calAD (28.1%) 1386calAD - 1396calAD (12.7%)	1299calAD - 1370calAD (75.0%) 1381calAD - 1404calAD (20.4%)
IAAA-170388	610 ± 20	92.66 ± 0.22	554 ± 19	1329calAD - 1341calAD (21.3%) 1396calAD - 1415calAD (46.9%)	1319calAD - 1351calAD (37.4%) 1391calAD - 1424calAD (58.0%)
IAAA-170389	540 ± 20	93.54 ± 0.22	548 ± 19	1330calAD - 1340calAD (14.3%) 1397calAD - 1419calAD (53.9%)	1321calAD - 1349calAD (28.4%) 1391calAD - 1427calAD (67.0%)
IAAA-170390	560 ± 20	93.23 ± 0.20	600 ± 18	1310calAD - 1330calAD (26.6%) 1339calAD - 1360calAD (28.8%) 1387calAD - 1397calAD (12.8%)	1301calAD - 1369calAD (74.1%) 1381calAD - 1405calAD (21.3%)

表７　放射性炭素年代測定結果（δ ^{13}C 未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）(2)

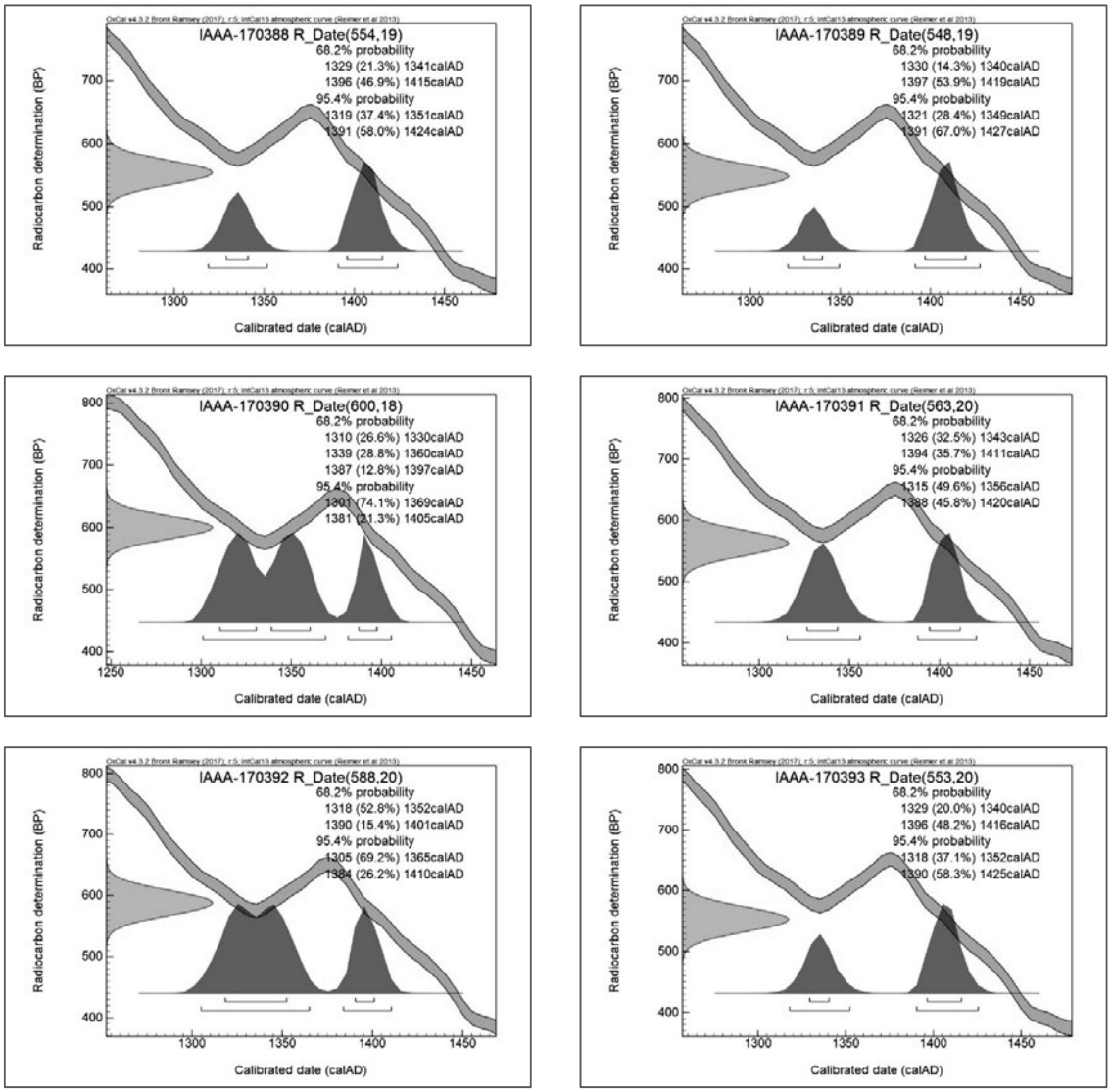
測定番号	δ ^{13}C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-170391	590 ± 20	92.86 ± 0.23	563 ± 20	1326calAD - 1343calAD (32.5%) 1394calAD - 1411calAD (35.7%)	1315calAD - 1356calAD (49.6%) 1388calAD - 1420calAD (45.8%)
IAAA-170392	620 ± 20	92.57 ± 0.23	588 ± 20	1318calAD - 1352calAD (52.8%) 1390calAD - 1401calAD (15.4%)	1305calAD - 1365calAD (69.2%) 1384calAD - 1410calAD (26.2%)
IAAA-170393	620 ± 20	92.52 ± 0.23	553 ± 20	1329calAD - 1340calAD (20.0%) 1396calAD - 1416calAD (48.2%)	1318calAD - 1352calAD (37.1%) 1390calAD - 1425calAD (58.3%)

［参考値］

＊ Warning! Date may extend out of range
　Warning! Date probably out of range
（この警告は較正プログラム OxCal が発するもので、試料の ^{14}C 年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。）



第 11 図　暦年較正年代グラフ（参考１）



第 11 図　暦年較正年代グラフ（参考２）

第２節　広根遺跡における火山灰分析

（株）加速器分析研究所

はじめに

広根遺跡（兵庫県川辺郡猪名川町広根所在）では、中世とされる柱穴群や堀跡が検出された遺構面の下位に、火山灰とされる堆積層が認められた。本報告では、確認された火山灰層について、その砕屑物の特性を明らかにすることにより、既知の火山灰との対比を行い、その噴出年代や給源火山の同定を行う。

１　試料

試料は、I- ３区で掘削された I- ３区下層断割りトレンチ断面より採取された火山灰とされる堆積物１点である。断面では、中世の遺構検出面から深度約 2.5 ｍまでの堆積層が確認され、上位より１層から 12 層までの分層がなされている。最下層の 11 層と 12 層は、旧中洲とされる砂礫層および砂層であり、その上位に旧河道とされる 10 層の砂礫層が堆積する。９層以上の堆積層は、シルト層またはシルト質砂層であるが、それらの中で５層が火山灰層とされ、試料はそこから採取された。

試料の外観は、明黄褐色を呈する均質な砂質シルトである。

２　分析方法

試料に水を加え、超音波洗浄装置を用いて粒子を分散し、250 メッシュの分析篩上にて水洗して粒径が 1/16㎜ より小さい粒子を除去する。水洗後に乾燥させた後、篩別して得られた粒径 1/4㎜1/8㎜ の砂分を、ポリタングステン酸ナトリウム（比重約 2.96 に調整）により重液分離し、得られた重鉱物を偏光顕微鏡下にて同定する。同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒は「その他」とする。

一方、重液分離により得られた軽鉱物分については、火山ガラスとそれ以外の粒子を、偏光顕微鏡下にて 250 粒に達するまで計数し、火山ガラスの量比を求める。火山ガラスは、その形態によりバブル型、中間型、軽石型の３つの型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分であるＹ字状の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く延びた繊維束状のものとする。

屈折率の測定は、処理後に得られた軽鉱物分から摘出した火山ガラスを対象とする。測定は、古澤（1995）の MAIOT を使用した温度変化法を用いる。

３　結果

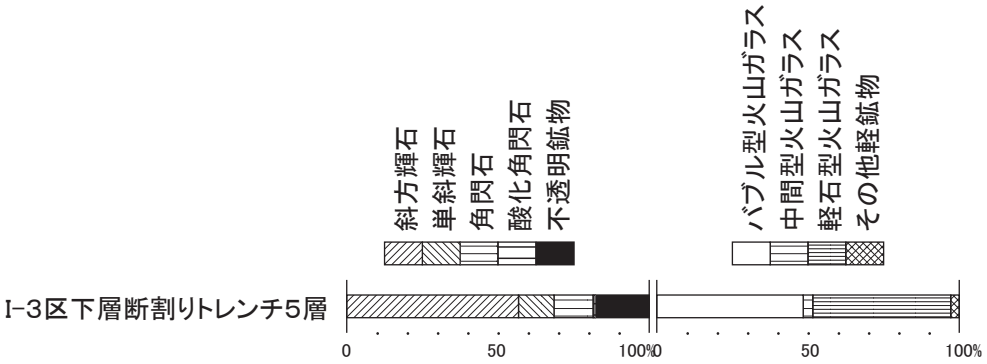
重鉱物組成および火山ガラス比を表８、第 12 図に示す。重鉱物組成は、斜方輝石が最も多く、60% 近くを占める。次いで不透明鉱物が 20% 程度、単斜輝石と角閃石がそれぞれ 10% 程度含まれる。

火山ガラス比は、軽鉱物分のほとんどが無色透明の火山ガラスであったが、形態別ではバブル型と軽石型がほぼ同量程度で多数を占め、微量の中間型が含まれる。

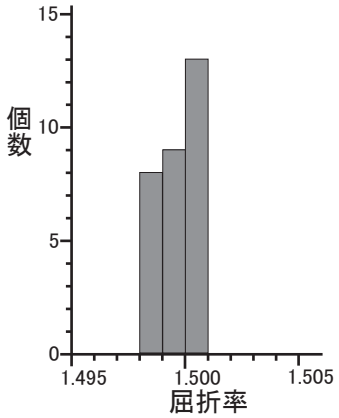
火山ガラスの屈折率を第 13 図に示す。n1.498-1.500 の狭いレンジに集中する。

表８　重鉱物・火山ガラス比分析結果

試料名	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	不透明鉱物	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他軽鉱物	合計
I-3 区下層断割りトレンチ５層	92	19	21	1	29	162	121	8	114	7	250



第 12 図　重鉱物組成および火山ガラス比



第13図　火山ガラスの屈折率

4　考察

試料は、多量の火山ガラスにより構成されることと、堆積層の記載から、火山ガラス質テフラの降下堆積層であると考えられる。無色透明のバブル型と軽石型とからなる火山ガラスの形態組成と、それが示す狭いレンジの屈折率とから、テフラは姶良 Tn 火山灰（AT: 町田・新井 , 1976）に同定される。なお、AT は輝石流紋岩質のテフラであり、その重鉱物組成は、斜方輝石を主体とし、角閃石は含まれない。試料から検出された少量の角閃石は、AT に由来するものではなく、AT の上位や下位に堆積する沖積層中に含まれる砕屑物が混入した可能性がある。猪名川水系流域には、白亜紀後期の流紋岩質の凝灰岩などからなる有馬層群が広く分布しており（松浦ほか , 1995）、角閃石の鉱物粒はこれらの岩石に由来すると考えられる。

AT は、鹿児島湾北部の姶良カルデラを給源とする巨大噴火で噴出した火砕流から発生した火山灰であるとされ、火砕流堆積物本体は広大なシラス台地を形成し、細粒火山灰となった AT は青森県以南の日本列島ほぼ全域で確認されている。その噴出年代は、関連する堆積物の放射性炭素年代測定や海底コアの分析などから、暦年代で 2.8 ～ 3.0 万年前頃とされる（町田・新井 , 2011）。

文献

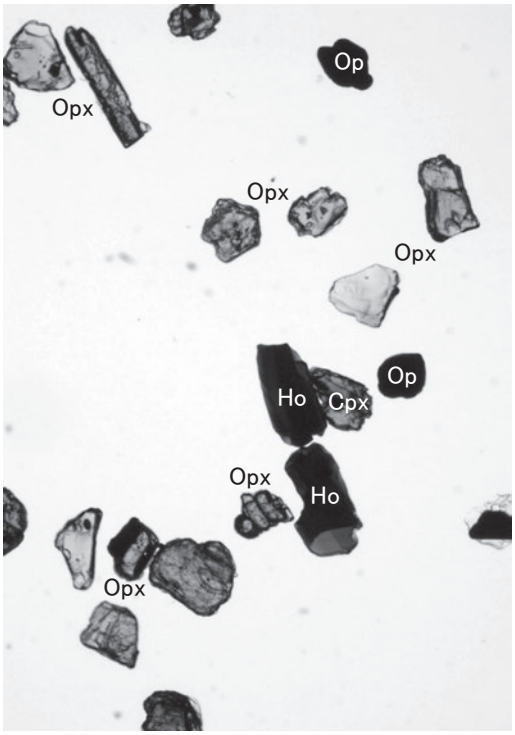
古澤明 , 1995, 火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別 . 地質学雑誌 , 101, 123-133.

町田洋・新井房夫 , 1976, 広域に分布する火山灰－姶良 Tn 火山灰の発見とその意義－ . 科学 , 46, 339-347.

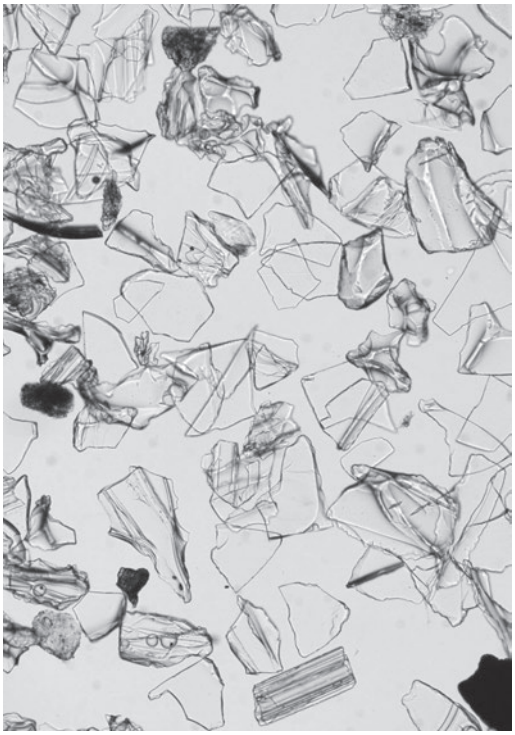
町田洋・新井房夫 , 2011, 新編　火山灰アトラス（第２刷）. 東京大学出版会 , 336p.

松浦浩久・栗本史雄・寒川旭・豊遙秋 , 1995, 広根地域の地質 . 地域地質研究報告（５万分の１図幅）. 地質調査所 , 110p.

パリノ・サーヴェイ株式会社の協力を得て行った



1.重鉱物（I-3区下層断割りトレンチ5層）



2.火山ガラス（I-3区下層断割りトレンチ5層）

Opx:斜方輝石. Cpx:単斜輝石. Ho:角閃石. Op:不透明鉱物.

0.5mm

第14図　重鉱物・火山ガラス

第３節　観音寺跡から出土した人骨

安部みき子（安部考古動物学研究所、大阪市立大学）
長岡　朋人（聖マリアンナ医科大学）

はじめに

兵庫県猪名川町に位置する観音寺跡はNEXCO西日本による新名神高速道路箕面～神戸間（兵庫県域）建設工事に伴い発掘調査が行われた寺院・墓地遺跡である。本遺跡は中世から近代までの複合遺跡であり、この地域の葬制は時代によって異なり、主に中世は火葬であり近世から近代は土葬である。

方法

性別判定は，頭蓋における項稜・乳様突起・眼窩上縁・眼窩上隆起・オトガイ隆起の発達の５つの特徴（Walker, 2008），寛骨における腹側弧・恥骨下陥凹・恥骨下枝内側面隆起（Phenice, 1973），耳状面前溝・大坐骨切痕の輪郭・大坐骨切痕弧と耳状面前縁の重なり・寛骨下端・坐骨恥骨示数の５つの特徴（Bruzek, 2002）に基づいた。また，人骨の死亡年齢の推定は，腸骨耳状面（Lovejoy et al., 1985; Buckberry and Chamberlain, 2002），恥骨結合面（Todd, 1920, 1921; Brooks and Suchey, 1990; Sakaue, 2006），寛骨臼（Calce, 2012）に基づいた。補助的に蝶形後頭軟骨結合、鎖骨胸骨端、四肢長骨端の軟骨骨化（Brothwell, 1981）を年齢推定に用いた。

骨の計測はマルチン法（Martin and Knussmann, 1988）に従ったが，上顔高はハウエルズ法（Howells, 1973）の定義に従った。推定身長は，藤井（1960）と佐宗・埴原（1998）の日本人に基づく身長推定式により算出した。

中世の火葬人骨（４区）

中世の墓から出土した人骨は全て焼骨である。焼骨の多くは白色で焼成温度（池田　1981）は800度以上であるが灰白色や黒色のものも少数ではあるが混在しており、なかには400～500度で火葬されたものもあったと推察される。長骨骨幹は緻密質で形成されているが内部が空所であり、また、頭骨の扁平骨は内側板と外側板で形成されているため、これらは亀裂やゆがみが大きくなりやすく小片となる。一方、海面質で形成されている部位は比較的形態をとどめやすい。このため頭骨や長骨は部位の同定ができるものは少なかった。

同定できた部位は、側頭骨、後頭骨、下顎骨、頭骨の破片、歯、頚椎、胸椎、部位不明の椎骨、肩甲骨、大腿骨、距骨、足の舟状骨、手や足の指骨、膝蓋骨である。最も多く同定できた部位は側頭骨で、錐体や下顎窩周辺の８片である。次いで下顎骨が多く、下顎頭１片と歯槽の一部が４片みられた。また、大腿骨の骨幹は小片であったが特徴のある部位が遺存しているため、長骨の骨幹のなかでは大腿骨のみ同定できた。椎骨や距骨、指の骨は海面質で形成されているため部位の同定が可能であった（表９）。

近世から近代の出土人骨の構成（２区）

全体で48遺構から人骨が出土し、焼骨と非焼骨からなる。11遺構からは焼骨片のみが検出された。焼骨は白色がほとんどであり、骨には亀裂や歪みが残るため、焼成温度は高温であることが示唆された。

残り 37 遺構の非焼骨についても保存状態はきわめて不良であるが、16 遺構の人骨の性別・死亡年齢が推定できた。成人が 14 体（男性 6 体、女性 7 体、不明 1 体）、未成人が 2 体（性別不明）であった。成人は若年から中高年に及び、未成人は 3 歳と 6 歳である。男女比の偏りはない（表 10）。

（形態的特徴）

頭蓋計測を行った結果、頭蓋長幅示数は男性では 80.3（1 体）、女性では 78.6（3 体）であった。この値は近畿地方の江戸時代人の平均値（79.0）と同程度である一方、関東地方（76.9）や九州（75.6）の江戸時代人より短頭傾向が強く（長岡ほか、2009）、あらためて江戸時代人の頭蓋形態の地域差を特徴付けるものであった（表 11）。

四肢長骨の計測値から身長推定を行った結果、男性では 161.7cm、女性では 145.1cm であり、江戸庶民の平均値（平本，1972）と比較すると男性では 6 cm 高めであるが、女性では同程度であった（表 12・13）。

（歯科疾患）

歯が観察できる男性 2 体、女性 5 体のすべてに生前喪失歯を認めた。また、男性では 32 点中 5 点の歯に齲蝕を認め、女性では 31 点中 1 点の歯に齲蝕を認めた。齲歯率は男性で 15.6%、女性で 3.2%、男女合わせて 9.5%である。

（変形性脊椎症）

SX2048 遺構から出土した中高年の女性の頸椎に変形性脊椎症を認めた。第 2 頚椎の歯突起はリッピングによって輪郭全体が変形するほどであった。

（骨折）

SX2028 の左第 2 ～ 4 中手骨に骨折を認めた。いずれも治癒済みである。第 2、4 中手骨は骨体中央が掌側に曲がり、ともに第 3 中手骨を向いて回旋していた。第 3 中手骨は骨体中央部に偽関節を形成しているが、偽関節よりも遠位部は欠損していた。これらは掌側に外力が加わって中手骨が折れたものの、第 3 中手骨を中心に手掌全体を固定したため回旋して治癒した結果と考えられる。

（その他の所見）

SX2028 の椎体全体には数mmから数cmの大きさの孔を多数認めた。色調は周囲と同一であるため発掘過程で付いたものではない。加齢変化に伴ってできた可能性がある。

表９　４区出土人骨の分析結果（1）

台帳No.	遺構名	取り上げ位置と層位	遺構の性格	出土人骨部位	備考
B 1	SX4001	火葬土坑内	火葬址	頭骨片　多数、左右不明大腿骨　骨幹、長骨片　多数	
B 2		火葬土坑内	火葬址	歯の細片、小骨片　多数	
B 3		土坑内南西端	火葬址	下顎骨　オトガイ棘周辺、長骨片　6	図・写真にあり
B 4		南西半部	火葬址	長骨片　多数	
B 5		主に南西半部	火葬址	長骨片　約 10	
B 6		中央セクション内	火葬址	細片　多数	
B 7	SX4002	中央セクション内	火葬址	頭骨片　1、長骨片　10	
B 8		北半部	火葬址	細片　多数	
B 9		南半部	火葬址	長骨片　多数	
B 10		南半部	火葬址	長骨片　多数	
B 11	SX4003	北半部	火葬址	細片　2	
B 12	SX4004	北半部	火葬址	頭骨片　多数、長骨　骨頭、長骨片　多数	
B 13		南半部	火葬址	歯根　1、骨片　9	
B 14		中央から南半部	火葬址	長骨片　多数	
B 15	SX4005	北半部	火葬址	小骨片　多数	
B 16		南半部	火葬址	長骨片　14	
B 17		中央セクション部分	火葬址	左右不明足の舟状骨、長骨片　多数	中央と南台石間（図にあり）
B 18		火葬土坑内	火葬址	頭骨片　13、長骨片　少量	詳細な取り上げ位置不明
B 19		中央セクション部分	火葬址	左右不明側頭骨　錐体、頭骨片　2、長骨片　多数	
B 20	SX4008	北半部	火葬址	骨片　2	
B 21	SX4009	北半部	火葬址	部位不明　歯、長骨片　少数	
B 22		南半部	火葬址	長骨片　多数	
B 23		中央セクション部分	火葬址	長骨片　多数	

表９　４区出土人骨の分析結果（2）

台帳No.	遺構名	取り上げ位置と層位	遺構の性格	出土人骨部位	備考
B 24	SX4010	北半部	火葬址	左側頭骨　岩様部と鼓室部、下顎骨　オトガイ周辺、骨片　多数	
B 25		南西部	火葬址	長骨片　多数	
B 26		南西部	火葬址	長骨片　6	写真あり南西端棺台周辺
B 27	SX4011	北半部	火葬址	下顎骨　左下顎骨頭、長骨骨端、骨片　多数、　黒色に近い	
B 28		南半部	火葬址	骨片　多数	
B 29		主に南半部　炭層	火葬址	骨片　多数	
B 30		中央セクション部	火葬址	長骨片　多数	
B 31	SX4012	北半部	火葬址	長骨片　多数	
B 32		黒褐色土	火葬址	歯根　1、骨片　多数	
B 33		茶色土	火葬址	歯根　2、骨片	埋め戻し土
B 34	SX4013	北半部	火葬址	頭骨片	
B 35		南半部	火葬址	長骨片　多数	
B 36	SX4014	主に北半部	火葬址	長骨片　多数	
B 37		中央セクション部分	火葬址	長骨片　多数	SX4039 との切り合い部分
B 38	SX4015	北半部	火葬址	骨片　多数	
B 39		南半部	火葬址	長骨片　多数	
B 40	SX4016	北半部	火葬址	長骨片　小数	
B 41		南半部	火葬址	左右不明上顎小臼歯　1、歯根　1、長骨片　多数	
B 42		土師器鍋	蔵骨器	頭骨片　多数、骨片　多数、	
B 43	SX4017	北半部	火葬址	頭骨片　多数、長骨片　多数、	
B 44		須恵器こね鉢	蔵骨器	頭骨片　多数、長骨片　多数、	
B 45		主に南半部	火葬址	長骨片　多数	
B 46	SX4018	北半部	火葬址	左右不明側頭骨　下顎窩、胸椎　椎体、長骨片　多数	
B 47		南半部	火葬址	長骨片　多数	
B 48		SX4064 との切り合い部分	火葬址	頭骨片　多数、長骨片　多数	北半部にあたる。
B 66	SX4019	面精査時	火葬址	長骨片　2	
B 49	SX4020	北半部	火葬址	頭骨片　多数	
B 50		南半部	火葬址	長骨片　多数	
B 51		棺台下	火葬址	骨片　2	
B 52	SX4021	北半部	火葬址	長骨片　小数	
B 53		南半部	火葬址	長骨片　多数	
B 54		中央セクション	火葬址	歯根　1、長骨片　多数	
B 55	SX4022	北半部	火葬址	骨片　4	
B 56		南半部	火葬址	細片　少数	
B 57	SX4023	石組遺構	納骨施設	部位不明大臼歯　1、歯根　10、手の指骨　1、左右不明大腿骨　外側 or 内側遠位端、左距骨、足の中節骨　2	
B 58	SX4024	北半部	火葬址	骨片　多数	
B 59	SX4025	上面精査	火葬址	骨片　少数	
B 60		納骨石組内（平石上）	石組み蔵骨施設	骨片　少数	
B 61		北半部	火葬址	長骨片　多数	
B 62		南半部	火葬址	骨片　少数	
B 135		集石 4015 の下	納骨施設	長骨片　多数（約 35）	SX402 5の納骨施設
B 63	SX4026	北半部	火葬址	骨片　少数	
B 64		南半部	火葬址	骨片　少数	
B 65		下層中央セクション	火葬址	骨片　少数	
B 134		集石 4012 の下	納骨施設	頭骨片　8、長骨片　多数	SX4026 の納骨施設
B 67	SX4027	北半部	火葬址	骨片　多数	
B 68		北半部	火葬址	頭骨片　多数	北半２石の台石間
B 69	SX4028	北半部	火葬址	頭骨片　多数、長骨片　多数	
B 70		南半部	火葬址	長骨片　多数	
B 71		北端の棺台石上	火葬址	頭骨片　多数、長骨片　多数	
B 72	SX4029	北半部	火葬址	細片　少数	
B 73		南半部	火葬址	細片　少数	
B 74		平石上	集石下の納骨施設	頭骨片　多数、長骨片　多数	集石 4010 内の納骨施設
B 75		平石直下	納骨施設の平石下	長骨片　14	集石 4010 内納骨施設の下
B 132		上部納骨施設　集石 4010	納骨施設の集石	右側頭骨　下顎窩周辺、左右不明側頭骨　錐体、頭骨片　多数、長骨片　多数	SX4029 の納骨施設
B 76	SX4030	北半部	火葬址	長骨片　多数	
B 77		南半部　炭層中	火葬址	長骨片　多数	
B 78		炭層中	火葬址	長骨片　多数	
B 79	SX4031	北半部	火葬址	骨片　5	
B 80		東半部	火葬址	骨片　多数	SX4032 との切り合う、控え部分
B 81	SX4032	南半部	火葬址	長骨片　多数	
B 82		北半部	火葬址	骨片　多数	
		詳細な取り上げ位置不明	火葬址	頭骨片（厚い）　1	
B 83	SX4033	中央棺台付近主	火葬址	大腿骨　骨幹、長骨片　多数	
B 84		東半部	火葬址	大腿骨　骨幹　3、大腿骨　遠位部　1	
B 85		中央セクション内	火葬址	長骨片　多数	
B 86		中央棺台付近	火葬址	歯根　1、手の指骨　2、骨片　多数	
B 87		中央棺台付近	火葬址	指骨　1、細片　多数	図にあり
B 88	SX4034	北半部	火葬址	骨片　多数	
B 89		南半部	火葬址	骨片　多数	
B 90	SX4035	北半部	火葬址	骨片　多数	
B 91		南半部	火葬址	長骨片　5	

表９　４区出土人骨の分析結果（3）

台帳№	遺構名	取り上げ位置と層位	遺構の性格	出土人骨部位	備考
B 92	SX4037	北半部	火葬址	長骨片　多数	
B 93		北半部　中層の石の下	納骨石組ヵ	下顎骨片　1、頭骨片　少数、長骨片　小数	北棺台石と中層の石の間
B 94	SX4039	西半部	火葬址	骨片　1	
B 95	SX4040	中央棺台石付近	火葬址	長骨片　多数	図にあり
B 96		台石除去時	火葬址	長骨片　多数	切り合うSX4014の火葬骨ヵ
B 97		南半部	火葬址	長骨片　多数	
B 98		北半部	火葬址	骨片　3	
B 99	SX4043	ＳＸ4058との切り合い部分	火葬址	骨片　1	SX4043・SX4058間除去時
B 100		北半部	火葬址	骨片　8	
B 101		南半部	火葬址	長骨片　多数	
B 102	SX4044	北半部	火葬址	長骨片　多数	濁黄褐色土中
B 103		南半部	火葬址	長骨片　多数	
B 104		一段下げ	火葬址	長骨片　多数	
B 105		全掘時	火葬址	長骨片　多数	
		詳細な取り上げ位置不明	火葬址	頭骨片　4、長骨片　多数	
B 106	SX4045	北半部	火葬址	長骨片　小数	
B 107		南半部	火葬址	頚椎　1、歯根　1、頭骨片　多数、長骨片　多数	
B 108		南半部	火葬址	右側頭骨　外耳孔から錐体	
B 109		中央セクション内	火葬址	骨片　多数	
B 110	SX4046	主に南半部の炭層	火葬址	骨片　多数	
B 111		北半部　黄褐色土	火葬址	細片　小数	
B 112	SX4047	南半部　炭層中	火葬址	細片　多数	
B 113		北半部　炭層中	火葬址	骨片　多数	
B 114	SX4048	北半部	火葬址	頭骨片　5	
B 115		中央セクション	火葬址	細片　小数	
B 116	SX4049	集石下全掘	火葬址	頭骨片　多数、長骨片　多数	
B 117	SX4053	土坑全掘	火葬址	右側頭骨　乳様突起の一部、歯の細片　3、指骨　3、頭骨片　多数、長骨片　多数	
B 118	SX4054	北半部	火葬址	頭骨片　多数、長骨片　多数	
B 119		南半部	火葬址	長骨片　多数	
B 120		中央セクション断面	火葬址	頭骨片（厚い）　6、指骨　6、長骨片　多数	
B 121	SX4055	北半部	火葬址	頭骨片　6、長骨片　多数	
B 122		西半部	火葬址	頭骨片　多数、椎骨　4、指骨片　3、左膝蓋骨、長骨片　多数	SX4054間土手部分
B 123		北半部	火葬址	頭骨片（厚い）　多数、長骨片　11	北棺台石上
B 124	SX4058	北半部	火葬址	細片　多数	
B 125		南半部	火葬址	後頭骨　右後頭顆、頭骨片　1、中足骨　骨頭、長骨片　多数	南半半掘時
B 126	SX4064	土師器鍋	蔵骨器	頭骨片　2、下顎骨　左舌側第１切歯～第１大臼歯歯槽、左側頭骨　錐体、左右不明、側頭骨　錐体の一部、肋骨片　6、肩甲骨片　3、長骨片　多数	
B 127	SX4072	円形土坑	火葬址	骨片　4	
B 133	集石 4009	納骨施設	石囲い蔵骨施設	頭骨片　2、長骨片　15	
B 128			集石間	長骨片　少数	骨出土位置②
B 129	東西トレンチ	東西トレンチ２内		長骨片　3	南群対象地点
B 130		東西セクション②　東斜面		長骨片　2	南群対象地点
B 131		東西セクション②　集石		頭骨片　3、長骨片　7	南群対象地点

注　調査時及び台帳作成時の方位認識は不適切であるため、Ｅは北に、Ｗは南に変更した。

表 10　２区出土人骨の分析結果（1）

標本番号	性別	年齢	残存部位	所見	身長(cm)	頭蓋長幅示数
SX2001	不明	不明	焼骨片あり。	焼骨のみ、色調は白である。		
SX2010	不明	不明	頭蓋冠あり。他にの焼骨片あり。	頭蓋冠のほかに焼骨片あり。		
SX2016	不明	不明	胸椎、腰椎、肋骨、左上腕骨、右橈骨、手骨あり。他に焼骨片あり。16下段からは脛骨骨体片あり。	焼骨の色調は白である。		
SX2017	不明	不明	骨片の焼骨片あり。	焼骨のみ、色調は白である。		
SX2018	不明	不明	頭蓋冠のみ。	破片のみである。		
SX2021	男性	成人	頭蓋、歯、左右寛骨、左肩甲骨、左右上腕骨、左尺骨、右橈骨、左右大腿骨、右大腿骨が２点あり重複する。	骨端癒合しているため成人である。３主縫合の癒合は半分以下である。		
SX2023	女性？	成人	頭蓋、下顎骨、歯、環椎、軸椎、頚椎１点、肋骨、右肩甲骨、右鎖骨、右橈骨、手骨、左右寛骨、左右大腿骨、左右脛骨、左右腓骨、左右距骨、右踵骨右第１中足骨、右第３中足骨、左右不明中足骨１点。他に焼骨片あり。	生前喪失歯あり。粗線や殿筋粗面は未発達である。焼骨片の色調は白色、黒色である。	143.7	79.3
SX2025	不明	不明	骨片あり。			
SX2026	不明	不明	骨片あり。			
SX2028	男性	成人	頭蓋、下顎骨、歯、第１～５頸椎、胸椎11点、肋骨、左右肩甲骨、左右鎖骨、左右上腕骨、左右橈骨、右尺骨、右第1,4,5中手骨、左第１～５中手骨、左右不明手の舟状骨、左右不明月状骨、左右不明手の第１基節骨、左右不明手の第２～５基節骨８点、左右不明手の中節骨４点、左右不明足の第１末節骨、左右不明腓骨あり。	生前喪失歯、齲蝕あり。蝶形後頭軟骨結合癒合済みである。グラベラが発達している。左第２～４中手骨骨幹骨折。		
SX2029	不明	不明	右脛骨、足骨あり。			
SX2030	不明	不明	四肢骨片であるが、おそらく大腿骨か脛骨の骨体である。	緻密骨はすべて剥離しているため同定不可である。		
SX2033	女性	成人	頭蓋、左寛骨、四肢骨が残るが、四肢骨は２体分が混じる。左右不明上腕骨１点、右大腿骨２点、左大腿骨２点、右脛骨１点、左脛骨２点、左右不明脛骨１点、左右不明腓骨１点残る。	骨端癒合しているため成人である。四肢骨表面が剥離している。		
SX2034	不明	不明	左肩甲骨あり。			
SX2035	不明	不明	頭蓋冠、左上腕骨、左右不明橈骨あり。			
SX2040	不明	３歳	頭蓋、下顎骨、歯、左上腕骨あり。他に焼骨片あり	焼骨の色調は灰色～黒である。		
SX2041	女性	若年	右寛骨、右大腿骨、右脛骨、左脛骨遠位、足骨あり。			

表 10　２区出土人骨の分析結果（2）

標本番号	性別	年齢	残存部位	所見	身長(cm)	頭蓋長幅示数
SX2044	不明	不明	四肢骨片の焼骨片あり。	焼骨のみである。色調は白である。		
SX2045	不明	不明	頭蓋片あり。	他に焼骨あり。焼骨も頭蓋片である。		
SX2046	不明	不明	頭蓋片あり。			
SX2048	女性	中高年	頭蓋、下顎骨、歯、第1,2頚椎、第4～7頸椎、第1～3胸椎、胸椎9点、第2～5腰椎、仙骨、肋骨、左右肩甲骨、左鎖骨、左右上腕骨、左右橈骨、左右尺骨、右大菱形骨、左右有頭骨、右第2～5中手骨3点、左第1～5中手骨、手の基節骨7点、手の中節骨4点、手の末節骨、左右寛骨、左右大腿骨、左右脛骨、左右腓骨、右膝蓋骨、左右足根骨、左右第1～5中足骨、足の左右第1基節骨2点、足の第2～第5基節骨7点、足の中節骨1点。	生前喪失歯、齲蝕あり。頸椎にはリッピングがあり、第2頚椎の歯突起はリッピングによって輪郭全体が変形していた。頭蓋は女性的な特徴を持つ。頭蓋縫合は3主縫合とも半分以上消失している。上腕骨に滑車上孔あり。下顎骨に下顎隆起あり。	148.1	76.5
SX2051	不明	成人	頭蓋、下顎骨、歯、第1,2頸椎、肋骨、左右肩甲骨、左鎖骨、左上腕骨、左右大腿骨、左右不明脛骨片、右膝蓋骨あり。	第3大臼歯の歯槽が残るため成人である。		
SX2053	不明	不明	左上腕骨、左右大腿骨、左右脛骨あり。	すべて骨体のみで年齢性別不明である。		
SX2057	不明	不明	左右大腿骨、左右脛骨あり。			
SX2062	不明	不明	左肩甲骨あり。			
SX2064	不明	不明	頭蓋片、四肢骨片あり。			
SX2066	女性	中高年	頭蓋、下顎骨、歯、第2頚椎、頚椎1点、仙骨、肋骨、左右肩甲骨、左右鎖骨、左右上腕骨、右橈骨、左右尺骨、左右寛骨、左右大腿骨、左右脛骨、左腓骨、左右不明腓骨、左右膝蓋骨、左右距骨、左右不明踵骨、中手骨 or 中足骨2点、手の基節骨1点。	生前喪失歯あり。		80
SX2072	女性	成人	頭蓋、下顎骨、第1～3頚椎、第7頸椎、胸椎9点、腰椎3点、肋骨、左右肩甲骨、左右鎖骨、左右上腕骨、左右橈骨、左右尺骨、左右手の舟状骨、右有頭骨、左右第1～5中手骨、手の基節骨5点、手の中節骨2点、手の末節骨1点、右寛骨、左右大腿骨、左右脛骨、左右不明腓骨、左膝蓋骨、右踵骨、左距骨。	生前喪失歯あり。頭蓋は華奢である。	143.4	
SX2081	不明	不明	左右不明大腿骨片（遠位）、脛骨片（近位）あり。			
SX2086	不明	不明	左大腿骨あり。			
SX2087	男性	若年	第7～12胸椎、第1～5腰椎、仙骨、胸骨、肋骨、左右上腕骨、左右橈骨、左右尺骨、右大菱形骨、右小菱形骨、右有頭骨、左右第1～5中手骨、手の基節骨5点、手の中節骨5点、左右寛骨、左右大腿骨、左右脛骨、左右腓骨、左右膝蓋骨、左右距骨、左右踵骨、左右足の舟状骨、左右内側楔状骨、左右中間楔状骨、左右第1中足骨、右第5中足骨、左第2～4中足骨、足の第1基節骨1点、足の末節骨1点。		161.7	
SX2089	不明	不明	手骨、左右不明大腿骨片、左右脛骨、右腓骨、足骨あり。			
SX2096	不明	不明	四肢骨片の焼骨片あり。	焼骨のみ、色調は白である。		
SX2097	不明	不明	骨片の焼骨片あり。	焼骨のみ、色調は白である。		
SX20107	不明	不明	四肢骨片の焼骨片あり。	焼骨のみ、色調は白である。		
SX20109	不明	不明	頭蓋片、四肢骨片の焼骨片あり。	焼骨のみ、色調は白である。		
SX20110	不明	不明	左右不明脛骨片（？）あり。			
SX20113	男性？	成人？	頭蓋冠あり。	骨は厚いため成人男性か？		
SX20115	不明	不明	頭蓋片、四肢骨片の焼骨片あり。	焼骨のみ、色調は白である。		
SX20117	不明	不明	四肢骨片の焼骨片あり。	焼骨のみ、色調は白である。		
SX20118	男性？	成人？	頭蓋、下顎骨、頸椎、左上腕骨、左右大腿骨、左脛骨あり。	下顎枝は頑丈傾向、下顎骨は破損しているが生前喪失歯がある。おそらく成人である。		
SX20121			四肢骨片の焼骨片あり。	焼骨のみ、色調は白である。		
SX20122	不明	不明	頭蓋片、左右不明大腿骨片、左右不明脛骨片あり。			
SX20124	不明	6歳	頭蓋、歯、頸椎、右脛骨あり。			
SX20125	男性	成人	頭蓋、下顎骨、歯、第1～7頸椎、第1～7胸椎、胸骨、肋骨、左右肩甲骨、左右鎖骨、左上腕骨。	生前喪失歯、齲蝕あり。鎖骨胸骨端癒合しているため成人である。		80.3
SX20126	不明	不明	足骨あり。別袋に四肢骨片あり。			
SX20127	女性？	成人？	頭蓋、下顎骨、歯、椎骨2点、肋骨、左右肩甲骨、左右上腕骨、左右不明中手骨1点、手の基節骨1点、、左右大腿骨、左右脛骨、左右不明腓骨1点あり。	生前喪失歯あり。グラベラは未発達で女性的である。		
SX20134	不明	不明	頭蓋冠片あり。			
遺構外	不明	不明	全身骨の焼骨片あり。	焼骨のみ、色調は白である。		

表 11　２区出土人骨の頭蓋計測値（㎜）と示数（1）

	標本番号	SX2021	SX20125	SX2023	SX2048	SX2066	SX2072	SX20127	男性		女性	
	性別	男性	男性	女性？	女性	女性	女性	女性？	個体数	平均	個体数	平均
1	脳頭蓋最大長	188.0	178.0	179.0	170.0	175.0			2	183.0	3	174.7
5	頭蓋基底長		98.0	106.0	99.0	97.0	100.0		1	98.0	4	100.5
8	脳頭蓋最大幅		143.0	142.0	130.0	140.0	137.0		1	143.0	4	137.3
8/1	頭蓋長幅示数		80.3	79.3	76.5	80.0			1	80.3	3	78.6
9	最小前頭幅		100.2	115.0	92.1	91.1	86.1	102.4	1	100.2	5	97.3
11	両耳幅		132.0	136.0	118.0	125.0	123.0		1	132.0	4	125.5
13	乳様突起間幅						102.8				1	102.8
16	大後頭孔幅		30.0	32.8	26.6	32.7	26.6		1	30.0	4	29.7
17	バジオン・ブレグマ高		139.0	150.0	133.0	129.0	128.0		1	139.0	4	135.0
17/1	頭蓋長高示数		78.1	83.8	78.2	73.7			1	78.1	3	78.6
17/8	頭蓋幅高示数		97.2	105.6	102.3	92.1	93.4		1	97.2	4	98.4
23	脳頭蓋水平周			514.0	482.0	513.0					3	503.0
24	横弧長			325.0	302.0	305.0	298.0				4	307.5
25	正中矢状弧長		381.0	381.0	350.0	369.0			1	381.0	3	366.7
26	正中矢状前頭弧長		120.0	131.0			122.0		1	120.0	2	126.5
27	正中矢状頭頂弧長			115.0							1	115.0
28	正中矢状後頭弧長			134.0							1	134.0
29	正中矢状前頭弦長		108.0	117.0			107.3		1	108.0	2	112.1

表 11　２区出土人骨の頭蓋計測値（mm）と示数（2）

		標本番号 性別	SX2021 男性	SX20125 男性	SX2023 女性？	SX2048 女性	SX2066 女性	SX2072 女性	SX20127 女性？	男性 個体数	平均	女性 個体数	平均
30	正中矢状頭頂弦長				105.5							1	105.5
31	正中矢状後頭弦長				105.5							1	105.5
48	上顔高			69.1						1	69.1		
51	眼窩幅	右				42.9						1	42.9
51	眼窩幅	左					41.0					1	41.0
52	眼窩高	右				33.5						1	33.5
52/51	眼窩示数	右				78.0						1	78.0
54	鼻幅			23.4						1	23.4		
55	鼻高			50.8						1	50.8		
54/55	鼻示数			46.1						1	46.1		
57	鼻骨最小幅			5.4			10.3			1	5.4	1	10.3
60	上顎歯槽幅			62.0						1	62.0		
65	頤高			37.9						1	37.9		
70	下顎枝高	左		59.7		58.7				1	59.7	1	58.7
71	下顎枝幅	左		35.4	32.5	33.0	38.8			1	35.4	3	34.8

表 12　２区出土人骨の四肢骨計測値（mm）と示数（1）

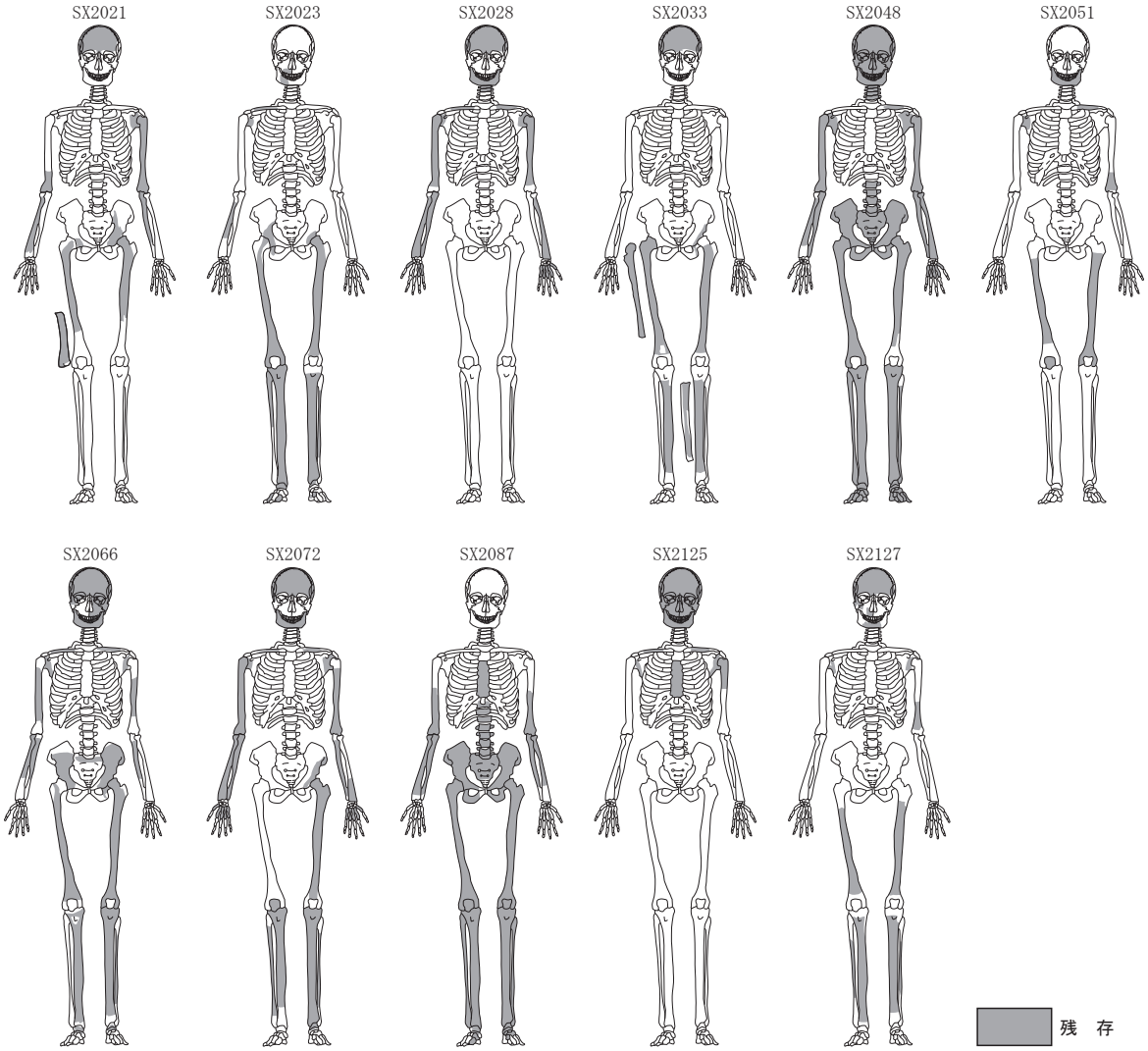
		標本番号 性別	SX2087 男性	SX20118 男性？	SX20125 男性	SX2023 女性？	SX2041 女性	SX2048 女性	SX2066 女性	SX2072 女性	SX2029 不明	男性 個体数	平均	女性 個体数	平均
鎖骨															
1	鎖骨最大長	右			139.4							1	139.4		
上腕骨															
1	上腕骨最大長	右						274.0						1	274.0
1b	生理学長	右						273.0						1	273.0
2	上腕骨全長	右						270.0						1	270.0
5	中央最大径	右						20.4						1	20.4
6	中央最小径	右						16.4						1	16.4
6/5	骨体横断示数	右						80.5						1	80.5
7	骨体最小周	右						54.0						1	54.0
7/1	長厚示数	右						19.7						1	19.7
7a	中央周	右						61.0						1	61.0
8	頭周	右						123.0						1	123.0
9	頭最大横径	右						34.6						1	34.6
10	頭最大矢状径	右						39.1						1	39.1
上腕骨															
1	上腕骨最大長	左						274.0						1	274.0
1b	生理学長	左						271.0						1	271.0
2	上腕骨全長	左						274.0						1	274.0
5	中央最大径	左						20.2						1	20.2
6	中央最小径	左						16.0						1	16.0
6/5	骨体横断示数	左						79.5						1	79.5
7	骨体最小周	左						55.0						1	55.0
7/1	長厚示数	左						20.1						1	20.1
7a	中央周	左						60.0						1	60.0
8	頭周	左						121.0						1	121.0
9	頭最大横径	左						34.9						1	34.9
10	頭最大矢状径	左						41.3						1	41.3
橈骨															
4	骨体横径	右				12.0		13.9						2	13.0
5	骨体矢状径	右				8.9		9.9						2	9.4
橈骨															
1	橈骨最大長	左						214.0						1	214.0
2	橈骨機能長	左						204.0						1	204.0
3	骨体最小周	左						38.0						1	38.0
4	骨体横径	左						14.6						1	14.6
5	骨体矢状径	左						10.0						1	10.0
尺骨															
11	骨体矢状径	右	11.8					10.9				1	11.8	1	10.9
12	骨体横径	右	16.3					14.3				1	16.3	1	14.3
尺骨															
1	尺骨最大長	左						229.0						1	229.0
2	尺骨機能長	左						202.0						1	202.0
2a	生理学長	左						207.0						1	207.0
3	骨体最小周	左						35.0						1	35.0
11	骨体矢状径	左	12.9					9.6				1	12.9	1	9.6
12	骨体横径	左	14.0					15.1				1	14.0	1	15.1
大腿骨															
1	大腿骨最大長	右	428.0					403.0				1	428.0	1	403.0
2	自然位全長	右	423.0					399.0				1	423.0	1	399.0
6	骨体中央矢状径	右	27.7				24.5	28.5		23.0		1	27.7	3	25.3

表 12　２区出土人骨の四肢骨計測値（mm）と示数（2）

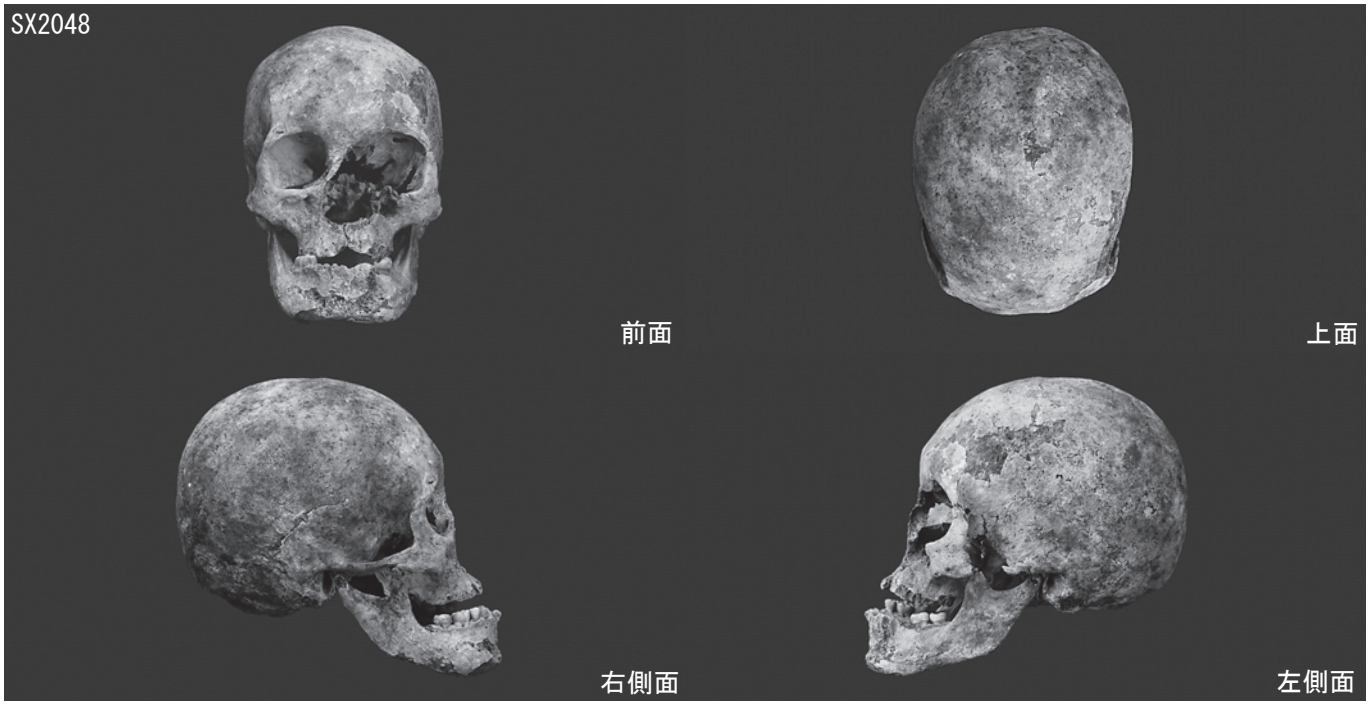
		標本番号	SX2087	SX20118	SX20125	SX2023	SX2041	SX2048	SX2066	SX2072	SX2029	男性		女性	
		性別	男性	男性？	男性	女性？	女性	女性	女性	女性	不明	個体数	平均	個体数	平均
7	骨体中央横径	右	28.8				23.9	24.6		21.4		1	28.8	3	23.3
6/7	骨体中央断面示数	右	96.1				102.5	115.9		107.2		1	96.1	3	108.5
8	骨体中央周	右	87.0				76.0	81.0		69.0		1	87.0	3	75.3
8/1	長厚示数	右	20.3					20.1				1	20.3	1	20.1
9	骨体上横径	右	32.7			31.1	31.3	29.3	28.2			1	32.7	4	29.9
10	骨体上矢状径	右	25.8			20.2	21.8	23.6	21.7			1	25.8	4	21.8
10/9	骨体上断面示数	右	78.9			65.2	69.7	80.6	76.8			1	78.9	4	73.1
15	頚垂直径	右	31.8			28.7		29.3	29.9			1	31.8	3	29.3
16	頚矢状径	右	27.0			23.1		25.9				1	27.0	2	24.5
16/15	頚断面示数	右	84.9			80.6		88.6				1	84.9	2	84.6
17	頭周	右	104.0			88.0		93.0				1	104.0	2	90.5
18	頭垂直径	右	47.0					39.8				1	47.0	1	39.8
19	頭横径	右						39.7						1	39.7
19/18	頭断面示数	右						99.8						1	99.8
20	頭周	右						127.0						1	127.0
大腿骨															
1	大腿骨最大長	左	433.0					404.0				1	433.0	1	404.0
1-01	大腿骨投影最大長	左													
2	自然位全長	左	427.0					399.0				1	427.0	1	399.0
6	骨体中央矢状径	左	26.7	29.4	22.8	21.9		28.2		24.0		3	26.3	3	24.7
7	骨体中央横径	左	28.0	31.2	23.7	25.2		24.4		21.2		3	27.6	3	23.6
6/7	骨体中央断面示数	左	95.4	94.2	96.1	87.2		115.9		113.1		3	95.2	3	105.4
8	骨体中央周	左	84.0	94.0		75.0		81.0		70.0		2	89.0	3	75.3
8/1	長厚示数	左													
9	骨体上横径	左	32.2		29.6	29.2		30.4	28.1			2	30.9	3	29.3
10	骨体上矢状径	左	25.9		20.5	20.2		23.9	21.8			2	23.2	3	21.9
10/9	骨体上断面示数	左	80.3		69.3	69.0		78.5	77.4			2	74.8	3	75.0
15	頚垂直径	左	33.0					29.2				1	33.0	1	29.2
16	頚矢状径	左	29.1					28.4				1	29.1	1	28.4
16/15	頚断面示数	左	88.1					97.4				1	88.1	1	97.4
17	頭周	左	101.0					92.0				1	101.0	1	92.0
18	頭垂直径	左	46.6					39.7				1	46.6	1	39.7
19	頭横径	左						39.2						1	39.2
19/18	頭断面示数	左						98.9						1	98.9
20	頭周	左						125.0						1	125.0
脛骨															
1	脛骨全長	右	356.0			303.0		327.0				1	356.0	2	315.0
1a	脛骨最大長	右	359.0			306.0		331.0				1	359.0	2	318.5
8	中央最大矢状径	右	29.5			23.0		27.7				1	29.5	2	25.4
8a	栄養孔位最大径	右	33.9			26.9	28.9	33.1	26.9	28.1	30.4	1	33.9	5	28.8
9	中央横径	右	23.7			17.5		19.8				1	23.7	2	18.6
9/8	中央断面示数	右	80.3			75.8		71.4				1	80.3	2	73.6
9a	栄養孔位横径	右	26.3			19.3	21.9	23.0	21.4	20.0	26.1	1	26.3	5	21.1
9a/8a	栄養孔位断面示数	右	77.6			71.6	76.0	69.5	79.3	71.1	86.0	1	77.6	5	73.5
10	骨体中央周	右	82.0			64.0		76.0				1	82.0	2	70.0
10a	栄養孔位周	右	91.0			72.0	81.0	85.0	76.0	75.0	87.0	1	91.0	5	77.8
10b	骨体最小周	右	77.0			63.0		74.0			71.0	1	77.0	2	68.5
10 b /1	長厚示数	右	21.6			20.8		22.6				1	21.6	2	21.7
脛骨															
1	脛骨全長	左						328.0		298.0				2	313.0
1a	脛骨最大長	左						331.0		304.0				2	317.5
8	中央最大矢状径	左						27.3						1	27.3
8a	栄養孔位最大径	左	32.6	35.1		27.6		30.9		29.2		2	33.8	3	29.2
9	中央横径	左						19.4						1	19.4
9/8	中央断面示数	左						71.1						1	71.1
9a	栄養孔位横径	左	26.2			18.9		22.7		20.0		1	26.2	3	20.5
9a/8a	栄養孔位断面示数	左	80.3			68.3		73.3		68.7		1	80.3	3	70.1
10	骨体中央周	左						73.0						1	73.0
10a	栄養孔位周	左	93.0	98.0		74.0		85.0		77.0		2	95.5	3	78.7
10b	骨体最小周	左				62.0		72.0		66.0				3	66.7
10 b /1	長厚示数	左						22.0		22.1				2	22.0
腓骨															
1	最大長	右	353.0					319.0				1	353.0	1	319.0
2	中央最大径	右	13.4					11.9				1	13.4	1	11.9
3	中央最小径	右	10.1					10.6				1	10.1	1	10.6
3/2	中央断面示数	右	75.4					89.3				1	75.4	1	89.3
4	中央周	右	38.0					38.0				1	38.0	1	38.0
4a	最小周	右	37.0					32.0				1	37.0	1	32.0

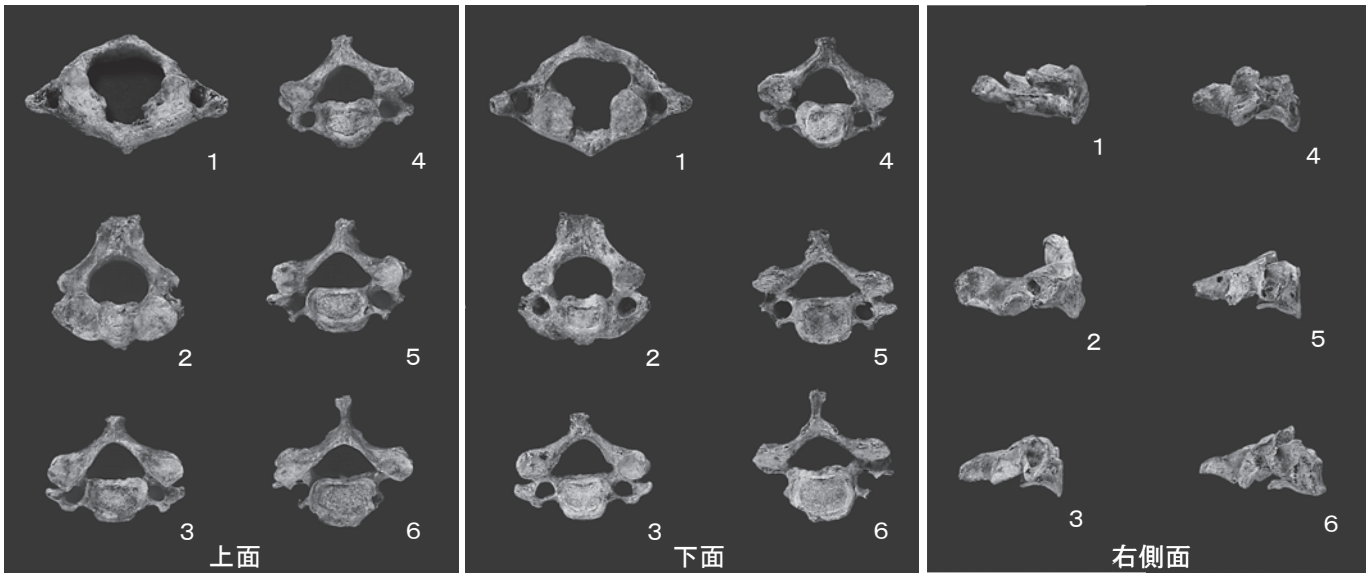
表 13　２区出土人骨の推定身長

		標本番号 性別	SX2087 男性	SX2023 女性？	SX2048 女性	SX2072 女性	女性 個体数	平均
最大長	上腕骨	右			274.0		1	274.0
（mm）	上腕骨	左			274.0		1	274.0
	橈骨	左			214.0		1	214.0
	大腿骨	右	428.0		403.0		1	403.0
	大腿骨	左	433.0		404.0		1	404.0
	脛骨	右	359.0	306.0	331.0		1	318.5
	脛骨	左			331.0	304.0	2	317.5
身長推定	上腕骨	右			144.8		1	144.8
（ｃｍ）	上腕骨	左			145.0		1	145.0
	橈骨	左			149.2		1	149.2
	大腿骨	右	160.6		149.0		1	149.0
	大腿骨	左	161.8		149.1		1	149.1
	脛骨	右	162.7	143.7	149.7		1	146.7
	脛骨	左			150.2	143.4	2	146.8
平均身長（ｃｍ）			161.7	143.7	148.1	143.4	3	145.1

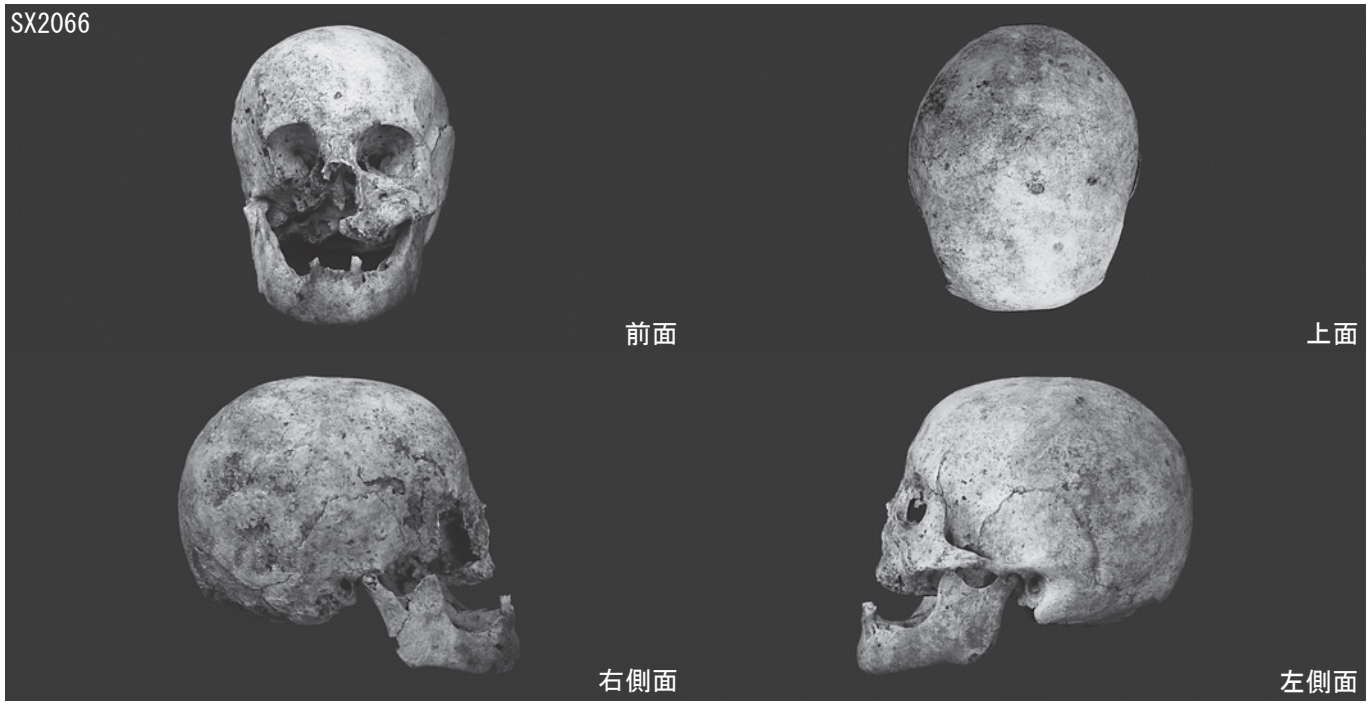


第 15 図　残存する人骨の部位





1　第１頚椎（環椎）　2　第２頚椎（軸椎）　3　第４頚椎　4　第５頚椎　5　第６頚椎　6　第７頚椎



第 16 図　SX2048 頭蓋骨・頚椎　SX2066 頭蓋骨写真

【参考文献】

Brooks S. and Suchey J.M. (1990) Skeletal age determination based on the os pubis: a comparison of the Acsadi-Nemeskeri and Suchey-Brooks methods. Human Evolution, 5:227-238.

Brothwell D. (1981) Digging up Bones. Cornel University Press, Ithaca.

Bruzek J. (2002) A method for visual determination of sex using the human hip bone. American Journal of Physical Anthropology, 117: 157-168.

Buckberry J.L. and Chamberlain A.T. (2002) Age estimation from the auricular surface of the ilium: A revised method. American Journal of Physical Anthropology, 119: 231-239.

Calce S.E. (2012) A new method to estimate adult age-at-death using the acetabulum. American Journal of Physical Anthropology, 148: 11-23.

藤井明 (1960) 四肢長骨の長さと身長の関係について. 順天堂大学体育学部紀要, 3 : 49-61.

樋口祐助 (1983) 浸解骨標本によるヒト頚椎椎間関節の加齢に伴う形態変化に関する研究. 札幌医学雑誌, 52: 181-204.

平本嘉助 (1972) 縄文時代から近代に至る関東地方人身長の時代的変化. 人類学雑誌, 80 : 221-236.

Howells W.W. (1973) Cranial Variation in Man. Papers of the Peabody Museum of Archaeology and Ethnology, Harvard University, Cambridge, Massachusetts, U.S.A., Volume 67.

池田次郎 (1981) 出土火葬骨について.「太安萬侶墓」奈良県史跡名勝天然記念物調査報告. 43:79-88

Lovejoy C.O., Meindl R.S., Pryzbeck T.R., Mensforth R.P. (1985) Chronological metamorphosis of the auricular surface of the illium: a new method of determining adult age at death. American Journal of Physical Anthropology, 68: 15-28.

Martin R. and Knussmann R. (1988) Anthropologie. Band I. Gustav Fischer Verlag, Stuttgart.

長岡朋人・嶋谷和彦・安部みき子・平田和明・熊倉博雄 (2009) 大阪府堺市から出土した近世人頭蓋の計測的特徴. Anthropological Science (Japanese Series) , 117: 89-97.

Phenice T.W. (1969) A newly developed visual method of sexing the os pubis. American Journal of Physical Anthropology, 30: 297-301.

Sakaue K. (2006) Application of the Suchey-Brooks system of pubic age estimation to recent Japanese skeletal material. Anthropological Science, 114: 59-64.

佐宗亜衣子・埴原恒彦 (1998) 日本人女性の新しい身長推定式. Anthropological Science (Japanese Series) , 106: 55-66.

Todd T.W. (1920) Age changes in the pubic bone, 1. The male White pubis. American Journal of Physical Anthropology, 3: 285-339.

Todd T.W. (1921) Age changes in the pubic bone, 2. The pubis of the male Negro-White hybrid. American Journal of Physical Anthropology, 4: 1-26.

Walker PL (2008) Sexing Skulls Using Discriminant Function Analysis of Visually Assessed Traits. American Journal of Physical Anthropology, 136: 39-50.

第７章　まとめ

紙数の関係から、両遺跡の成果と変遷を以下、簡単にふれておく。

1. **広根遺跡Ｉ区の調査成果と変遷**　Ｉ区は観音寺跡の南東緩斜面に広がる集落遺跡である。主な遺構は２・３区に集中するが、中央部には遺構がまばらで、後世に削平を受けた可能性がある。

平安時代中期の遺構・遺物：６区の北端より東へ流れでる旧河道を検出し、9 世紀～ 10 世紀代の墨書土器や灰釉陶器などが出土した。旧河道は瓦器椀を含まないことから、中世に至るまでに埋没していたことが明らかである。山裾部において平安時代中期の遺物が確認できたことは、広根地区の南向き斜面の開発が 9 世紀代に遡ることを示唆しており興味深い。旧河道は２区へと延びおそらく猪渕川へと流れ込んでいたと考えられる。猪渕川沿いにあけたトレンチ 127・128 では中世と考えられる水田土壌が認められ、猪渕川の河床が下がった中世には旧河道も干上がり耕作地となったものと考えられる。３区においても柱穴などから黒色土器が出土しており、当該期の集落がＩ区内に存在していた可能性は高い。平安時代の遺構・遺物は、広根遺跡の西方にある猪渕遺跡や広根遺跡Ａ－３地区・Ｆ－１地区でも山裾際に形成された極狭い支流性扇状地から平安時代中期の掘立柱建物跡や土坑群が見つかり、旧河道と同時期の遺物が出土している。これらの事象は、広根地区の扇状地上に点在する中世前期の集落遺跡よりも更に立地条件の悪い地点に平安時代の遺跡が点在することを示している。６区の旧河道からは墨書土器や灰釉陶器、緑釉陶器が出土しており、猪名川内陸部の土地開発に伴って出現した初期の開発拠点であった可能性が考えられる。同様の集落の出現は丹波地域の田ノ口遺跡・土井遺跡・平野遺跡、新名神高速道路に伴う調査においても、神戸市北区日下部遺跡や大阪府茨木市千堤寺西遺跡において検出されている。各地において山裾に住居を営み低湿地の水田開発や陸田耕作などあるいは林業などを行ったものと考えられる。

13 世紀代の屋敷地について：出土遺物には 13 世紀代の遺物が多く認められたが、時期が特定できた遺構は、北東端４区の掘立柱建物と近接する火葬土坑墓のみである。火葬土坑墓は広根遺跡Ｈ－２区に類似例があり、腰刀を持つ点も同じである。家屋に伴い、屋敷墓と考えられ、名主あるいは在地領主クラスの被葬者の存在が考えられる。柱穴群は３区において密に検出され、幾つかの掘立柱建物を復元しているが、出土遺物から時期を決定できるものは乏しい。ここで注目されるのは、木棺墓 SK3148・SK3149、SK3182・SK3183 である。これらは 2 基セットで分布しており、特に SK3148・SK3149 は並列する状態を見せる。中世の屋敷墓を考察した橘田正憲氏はこれら並列する屋敷墓を屋敷墓Ⅲ類に分類し、12 世紀後半～ 13 世紀前半を盛期とみている（橘田 2014）。SK3148 には標石があり、13 世紀代に入るものと考えられる。橘田氏は、屋敷墓Ⅲ類は屋敷地の外周に存在すると位置付けており、その点から推して中世前期の屋敷地外周に木棺墓群が位置していた可能性が考えられる。

14 世紀代の遺構：Ｉ区において遺構の存在が色濃くなるのは 14 世紀代である。１区西端と４区東端から焼土坑群が見つかっており、工房址が存在した可能性が高い。集石遺構 2039 と関連する SB2007 の存在から３区に点在する建物群は 14 世紀代の可能性も考えられる。

15 世紀の遺構：３区の東・西・南を囲み堀が巡る。堀で囲まれた屋敷地は南北 45 m・東西 30 mと名主クラスの規模である。堀は掘り替えられ、掘り替え後は幅 1.5 m程度の規模であったと考えられる。堀からは 15 世紀～ 16 世紀代の土器が纏まって出土しており中世後期に構築された可能性が高い。14

世紀代の遺物についても図示したが、少量で、層序に伴わないことから後世の流れ込みと考えている。堀内からは香炉・燭台といった仏具が出土しており、後述する観音寺の創建時期と密接な関係を持つものと考えられる。堀は16世紀前半には廃絶し、一部が近世の観音寺に伴う溝区画となる。

16世紀～17世紀の遺構：６区及び２区の山際に遺構が営まれる。何れも水溜遺構及び水溜に取りつく溝である。これらはH区においても多数見つかっている。

18世紀の遺構:16世紀代に構築される水溜遺構は、I区では18世紀代に入り、２区・３区で多数造られる。また、屋敷地（堀区画）と向きを同じくする溝が営まれる。また、６区では山際において石敷き遺構と近世墓が造られる。近世墓が構築された斜面は観音寺跡１区平坦面１・観音寺跡５区の斜面裾に当たっており、この時期の広根遺跡の一部が観音寺跡に関連することは明らかである。また、２区のSD2071は観音寺跡１区平坦面１から延びており、２区の南北方向の石組溝、合流する西堀と共に観音寺に関連する区画形成をしていたものと考えられる。18世紀には６区では谷部を埋め、炭窯を造り始めている。炭窯、水溜遺構は近代の遺構へと継続して行く。

19世紀の遺構:２区・３区の埋桶遺構、６区の炭窯群がある。これらは、近世から継続する遺構である。

２．観音寺跡の調査成果と変遷

観音寺跡の調査は、寺院跡と中近世墓地の調査からなる。近世寺院跡、周囲に営まれた中近世～近代墓地､近世観音寺跡の背後には中世後期の造成地や14世紀代の墓地跡が発見された。加えて旧石器（石刃)、縄文時代の石鏃が見つかっている。

寺院跡の調査

観音寺跡は、『陀華山（だけさん）　観音寺』あるいは『陀華山　観音堂』と呼ばれる近世寺院跡である。江戸時代、巡拝に日数も費用も掛かる西国三十三所巡りに対応して、北摂地方では、近場で巡礼できるミニチュア版霊場巡りが出来た。その中でも有名な霊場巡りに、多田庄三十三所観音霊場巡りがある。元禄八年（1695）年刊行の『多田庄巡礼三十三所略縁起』によれば多田院別当二十六世　尊光が元禄六年に発願開創したとされ、広根地区には、第六番陀華山　観音堂と第七番慈光寺がある。今回の調査によって大規模な石垣が姿を現し、第六番陀華山　観音堂に関わる遺構の可能性が非常に高くなった。

中世後期の造成地－寺院跡の調査　尾根下の南向き斜面を大きくコの字に掘削した２つの大きな平坦面4・3が存在する。平坦面4では山裾に排水溝を巡らせ、平坦面の中を区画溝によって大きく３分割している。この他、素掘りの井戸などが見つかった。平坦面3でも大きく造成が行われ、山裾に排水溝を巡らせ、石組井戸、集石焼土坑、石組暗渠などが見つかっている。二つの平坦面からは中国製青磁碗や瀬戸美濃天目茶椀片、丹波焼擂鉢・甕、備前焼擂鉢、瓦質風炉、小柄などが出土しており、15世紀代後半から16世紀前半代に使用された中世寺院の可能性が高い。

近世・近代の寺院跡の調査：下方の平坦面１・平坦面２には高さ約３ｍの石垣が築かれ、山側には溝が巡る。平坦面２では焼土・炭を伴う遺構が多く見られ、埋甕を２基確認している。出土遺物は18世紀代のものが多く、江戸時代の寺院「陀華山　観音寺跡」に当たると考えられる。

墓地跡の調査

４区　尾根上－中世後期の火葬墓地の調査:４区の尾根上からは14世紀～15世紀にかけての火葬墓(址)を約80基検出した。火葬墓群は２群に分かれ、北群は13基、南群は67基より構成される。南群は規模が大きく南向き斜面に５列～６列の火葬墓群を構成している。火葬墓はその多くが、土坑にて火葬を行った後、骨を拾い、埋め戻している。また、幾つかは、その火葬址の上に石組や須恵器捏鉢・土師器

鍋の蔵骨器を納め、上部に石を積み、集石墓としている。

火葬土坑は概ね南北方向に長軸をむけ、全長 1.1 m・幅 0.7 m前後・深さ 0.3 m前後の楕円形の土坑を掘り、土坑底に棺台（燃焼台）となる石を並べている。また、小規模な火葬土坑も幾つか見受けられ、子供を火葬した可能性が考えられる。火葬土坑の幾つかは円形であり、南群の中でも最も斜面側に位置している。

また、周囲からは経筒と考えられる瓦質土器も出土している。これは 13 世紀代のものと考えられ、墓地に先行して経塚が存在した可能性がある。また、14 世紀後半の丹波焼甕片が出土している。経筒外容器か、大甕納骨など合葬に伴う容器の可能性がある。

以下に火葬の手順を復元する。

① **火葬する**：楕円形の火葬土坑に台石を基本 3 石置く。棺は下肢を折り曲げ葬った小型棺もしくは座棺、あるいは、そのまま火葬したと考えられる。（棺釘が非常に少ない。）今回、火葬土坑の埋土を 2 分あるいは中央を含め 3 分し、3 ～ 4mm のメッシュによって水洗選別を行い、火葬骨を回収した。頭骨や顎骨は 25 例中 15 例が北半にあり、5 例が南半、中央が 4 例、不明が 1 例である。北枕をある程度意識していた可能性がある。

② **収骨する**：一部を収骨する。一部は取り残している。

③ **納骨する**：土坑を埋め戻し石組み・蔵骨器などを置き納骨する。火葬土坑は基本的に一度使用し、石組みは平石（底石）を置き周囲を囲む。

④ **供養品を置く**：土師器皿・瓦器椀を置く。SX4023 において確認された。

⑤ **石を積む**：石組み・蔵骨器の上に石を積み、集石墓を構築する。

⑥ **（石塔を立てる）**：石塔片が出土している。

４区の火葬墓の時期は、出土した土器から 14 世紀前半～後半と考えられる。この年代観は、AMS 測定によっても齟齬が生じなかった。

２区　支尾根上の中世後期以降の墓地

２区は、４区から尾根筋を下った支尾根上とその東斜面を調査区とする。中世後期から現代まで継続した墓地が造られている。２区は概ね、中世・近世寺院に伴う墓地として成立、変遷してゆくことが判明した。墓地に伴う埋葬・葬送の施設として、土葬墓、火葬墓、火葬施設が検出された。

土葬墓：座棺は、円形棺と方形棺が認められる。円形棺は、いわゆる早桶による埋葬である。一石五輪塔を墓標とする SX2001・2002 などが最も古いと考えられ、江戸時代初期に遡ると考えられる。円形棺は副葬品からは 18 世紀前半から 19 世紀前半頃までは使用が認められる。方形棺は 18 世紀末頃から近現代にかけて使用されている。円形棺と一部並行して使用される。長方形棺は所謂寝棺である。近代以降、現代まで使用されている。方形棺と並行して使用される。

火葬墓・火葬址・共同火葬場：土葬に対して、火葬は、火葬施設と蔵骨器からなる。火葬施設は、1 回使用の火葬土坑墓と、複数回使用する規模の大きな共同火葬場が存在する。大型の火葬土坑（共同火葬場）は平坦面４区との境にある SX2100 が中世末から江戸初期と考えられ、AMS 測定によっても齟齬が生じなかった。また､尾根南端では盛土が施され下層･中層･上層の 3 層で共同火葬場が検出されている。下層の SX2132 は用材に五輪塔が使用しており、被覆する炭層から 16 世紀初頭前後～ 18 世紀前葉の土器が出土している。中層には、SX2109 ～ 2117 があり、被覆する炭層からは被熱した 18 世紀後半代のくらわんか手の染付碗が多量に出土している。火消壺の蔵骨器 SX136・137 は中層の火葬場によって焼

かれたと考えられる。上層の火葬場 SX2004 は近現代のゴミ捨て場となっており、近代に稼働していたと考えられ、SX2138 の火葬骨は SX2004 によって火葬されたと考えられる。火葬墓の内、江戸初期の火葬墓 SX2097 は須佐唐津擂鉢の蔵骨器を埋納している。周辺の火葬址についても同時期の可能性が高い。また、下層の火葬灰の中から 14 世紀代の土師器鍋が出土している。２区においても当該期の中世墓が存在した可能性が考えられ、SX2132 の用材はこれらの中世墓を破壊して使用したことが推測される。

墓地の変遷：２区では①４区とほぼ同時期に石塔を伴う火葬墓が営まれた可能性が高く（14 世紀～ 15 世紀）、②中世末～江戸初期には共同火葬場が出現し、同時に個別の火葬址・墓、一石五輪塔を据える土葬墓が営まれる。③ 18 世紀代には、早桶の土葬墓が営まれる一方、共同火葬場が稼働している。④ 19 世紀代に入り、早桶が一部残るが、方形棺土葬墓と共同火葬場 SX2004 が稼働する。更に⑥現代に向け寝棺となり、火葬場は使用されなくなる。この様な変遷が考えられる。

広根遺跡との関連は以下の表にまとめた。

観音寺の墓地では、19 世紀以降に火葬から土葬への回帰が起こっている（森田千鶴 1985）。この現象は、近隣の差組において、燃料代の負担から昭和 6 年に土葬への回帰が行われていることを考え合わせると興味深い。広根遺跡Ｉ－６区の炭窯（カマ）群が廃絶する時期にもあたり、薪炭の枯渇の影響は考慮すべきであろう。加えて川辺郡公報では、公設火葬場の使用を 1920 年頃に呼び掛けていることから、個別の集落での露天火葬は急激に衰退したとも考えられる。昭和 12 年には観音寺自体が廃寺となっていることに加え、これらの複数の要因が重なって土葬への回帰が促進されたものと考えられる。

表 14　遺構の変遷

時期	広根遺跡	観音寺跡			変遷
	山裾～平地の集落（Ｉ区）	斜面の寺院（１区）	支尾根上の墓地（２区）	尾根上の墓地（４区）	
13 世紀	集落・屋敷墓			経塚	居住地と一族墓と経塚
14 世紀	屋敷地・工房址	（寺院）	火葬墓・火葬址群	火葬墓群・火葬址群	一族墓（大規模化）
15 世紀	堀をもつ屋敷地か寺院	寺院遺構	不明	（火葬墓・火葬址群）座棺の火葬か	一族の寺院と墓地
16 世紀	堀をもつ屋敷地か寺院	寺院遺構	共同火葬場		地縁による墓地化
16 世紀末～17 世紀	水溜遺構群	不明	円形座棺・火葬墓・共同火葬場		墓地の大衆化
17 世紀末～18 世紀	近世墓地	観音寺	円・方形座棺共同火葬場		地域の寺院墓地
19 世紀～現代	炭窯群	観音寺（1937 年に廃寺）	共同火葬場火葬墓・土葬墓（方形座棺と寝棺）	方形座棺	地域の墓地と火葬場

【参考文献】

橋田正徳　『中世的社会の形成：集落・墓地・流通・開発からみた中世前期の社会』2014 年滋賀県立大学学術情報リポジトリ

森田千鶴　「猪名川町の墓制」『猪名川町の墓制』町史編集資料１　1985 年　猪名川町史編集室

表 15　広根遺跡Ⅰ区　出土遺物観察表（1）

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）			残存率			出土地区	出土遺構・層位	備考
					口径	器高	底径	口縁	底	他			
1	43	32	土師器	杯	(12.3)	(2.9)		1/4 弱			I-6	SR6001 中央下層 青灰砂	
2	43	33	土師器	杯	(12.9)	3.3		3/4	完存		I-6	SR6001 南端 茶褐色砂	
3	43	32	土師器	皿	(13.8)	(2.55)		1/4			I-6 中段	SR6001 旧河道 最下層	
4	43	32	黒色土器	椀	(16.8)	(4.45)	(8.0)	若干	1/4		I-6	SR6001 下層　青灰色シルト混じり砂	
5	43	32	黒色土器	椀	(13.75)	(2.7)		1/9			I-6	旧河道 底	
6	43	32	土師器	小壺		(3.9)		若干			I-6	SR6001 最下層　青灰粘土混じり砂	
7	43	32	土師器	甕		(5.5)		若干			I-6	旧河道 底	
8	43	32	須恵器	杯A	(13.0)	3.45	7.6	1/4	1/4		I-6	SR6001 下層暗灰砂	
9	43	32	須恵器	杯A	(13.3)	3.25	(7.8)	1/6	1/6		I-6	SR6001 下層　青灰色シルト混じり砂	
10	43	32	須恵器	杯A	(14.5)	3.25	7.8	1/4	1/2		I-6	SR6001 下層　青灰色シルト混じり砂	墨書「今□」
11	43	32	須恵器	杯A	(14.4)	3.8	(8.2)			1/2 弱	I-6	SR6001 茶褐～青灰砂	
12	43	32	須恵器	杯B	(13.8)	(6.5)		1/4			I-6	SR6001 茶褐～青灰砂	
13	43	32	須恵器	椀B	(15.8)	5.55	(8.55)	1/6	1/4		I-6	SR6001 下層暗灰砂	
14	43	32	須恵器	椀B	(15.5)	5.8	(8.2)	1/4	1/4		I-6	旧河道 底	
15	43	32	須恵器	椀B	(15.8)	5.8	(7.5)	1/5	1/2 弱		I-6	SR6001 茶褐～青灰砂	
16	43	33	須恵器	平瓶		(8.1)	(14.3)		3/4 高台 1/2	体部わずか	I-6	SR6001 茶褐～青灰砂	
17	43	32	須恵器	双耳壺		(6.5)				体部 1/8 把手部	I-6	SR6001 下層暗灰砂	
18	43	32	須恵器	壺		(7.9)	6.5		4/5	体部わずか	I-6	SR6001 南端 茶褐色砂	
19	43	32	灰釉陶器	椀	(19.6)	(4.8)		若干	1/12		I-6	旧河道 底	
20	43	33	土師器	小皿	(8.0)	1.1		1/4			I-3	P3317	
21	43	33	土師器	小皿	(8.4)	1.3				1/5	I-3	P3317	
22	43	33	黒色土器	椀		(3.7)	(6.0)		1/4		I-3	P3105	
23	43	33	黒色土器	椀	14.1	(5.2)		3/4	3/4	高台欠	I-3	P3105	
24	44	33	瓦器	椀	(11.7)	(4.1)	(5.1)	1/3	1/3	体部 1/3	I-2 西下段	P2005	
25	44	33	瓦器	小皿	(8.9)	1.8		2/5	若干		I-3	P3136	
26	44	33	瓦器	椀	16.2	6.3	3.7	3/4	ほぼ完存		I-3 中央南	P3104 検出面	
27	44	33	土師器	脚付き皿	(16.5)	2.8	(6.0)	1/3		高台わずか	I-3	P3137	
28	44	33	瓦器	椀	(15.9)	(4.6)		1/10			I-3	P3137	
29	44	33	瓦器	椀	(15.8)	(3.2)		若干			I-3	P3137	
30	44	33	土師器	小皿	(7.6)	(1.2)		1/6	1/5		I-4	P4024	
31	44	33	土師器	小皿	(7.9)	(1.65)		3/4			I-4	P4009	
32	44	33	土師器	小皿	(10.2)	1.7		1/8 以下	1/4		I-4	P4012	
33	44	33	土製品	羽口	長 2.75	幅 2.7				若干	I-4	P4029	
34	44	33	瓦器	椀	(16.2)	4.2	(5.4)	1/3	1/2		I-4	P4006 断ち割り	
35	44	33	瓦器	椀	(11.2)	(4.3)	(4.7)	1/3	1/2 強	体部 1/3 高台 1/2 強	I-6	P6020 全掘	
36	44	34	土師器	小皿	(8.7)	1.35	(7.45)	1/3	1/3		I-3	SK3150	
37	44	34	土師器	小皿	(7.2)	1.2	5.4	1/6			I-3	SK3147	
38	44	34	瓦器	椀	(13.8)	4.7	(4.8)	1/3			I-3	SK3147	
39	44	34	須恵器	捏鉢	(29.8)	(5.0)		1/18			I-4	SK4038	
40	44	34	瓦器	小皿	(8.05)	1.45		1/5	2/5		I-4	SK4048	
41	44	34	土師器	小皿	(8.15)	(1.25)	(7.1)	1/4	1/4		I-4	SK4048	
42	44	34	瓦器	小椀	(11.4)	(3.4)		1/6			I-6	SK6008 拡張時	
43	44	34	土師器	小皿	(8.0)	1.15				1/4	I-4	SX4026	
44	44	34	土師器	小皿	(8.9)	1.8				1/2 弱	I-4	SX4026	
45	44	34	土師器	小皿	(7.1)	1.4		1/6			I-4	SX4026	
46	44	34	瓦器	椀	(15.0)	(3.4)		1/6			I-4	SX4026	
47	44	34	瓦器	椀	(14.4)	4.1	(5.0)	1/8	1/6		I-4	SX4026	
48	44	34	瓦器	椀	(15.6)	4.6	(4.0)	1/16	1/5		I-4	SX4026	
49	44	34	瓦器	椀	(15.8)	5.0	(5.2)	1/4	1/4 弱		I-4	SX4026	
50	44	34	土製品	土錘	長 3.9	幅 1.1	厚 1.1			ほぼ完存	I-4	SX4026	
51	44	34	瓦器	椀	(12.75)	(3.3)		1/12			I-3 中央南端	SD3101 上面	
52	45	34	無釉陶器	甕	(47.0)	(20.5)		1/7 弱		体部 1/7 弱	I-2 西下段	SK2039 集石の下	16C 代　丹波焼
53	45	34	瓦質土器	鉢	(15.6)	(3.5)		1/6 弱			I-2 下段	SK2039	
54	45	34	無釉陶器	甕（底部）		(5.8)	(24.0)		1/10		I-2 西下段	SK2039 集石遺構	
55	45		無釉陶器	甕		(12.1)	24.3		1/2		I-2	SK2053 下層	
56	45	34	土師器	へそ皿	(10.3)	3.1	(4.8)	1/6 弱	若干		I-2	焼土坑 A	
57	45	34	瓦器	小椀	(10.0)	3.4				小片	I-2 西下段	焼土坑 A 1 区	
58	45	34	須恵器	捏鉢	(27.8)	(7.0)		1/15			I-2 西下段	焼土遺構 A	
59	45	34	須恵器	捏鉢	(30.4)	(3.9)		1/7			I-2 西下段	焼土坑 A 2 区	
60	45	34	無釉陶器	壺	(13.7)	(8.8)		1/2 弱			I-2	焼土坑 A	
61	45	34	施釉陶器	甕	(26.0)	(6.8)		1/9			I-2 西下段	焼土遺構 A	№.67 と同一か 丹波焼
62	45	35	土師器	へそ皿	(11.9)	2.7	(6.7)	1/6	若干		I-2	焼土坑 B	
63	45	34	瓦器	椀	(11.6)	(3.6)	(4.5)	1/2 弱	1/2 弱		I-2 西下段	焼土坑 B 西半 下層	
64	45	35	瓦器	椀	(12.0)	(3.4)		1/6			I-2	焼土坑 B	
65	45	35	瓦器	椀	(11.2)	(5.1)	(4.4)	1/5	若干		I-2 西下段	焼土坑 B 西半 焼土塊層	
66	45	35	須恵器	鍋	(18.2)	(4.6)		若干			I-2 西下段	焼土坑 B 西半 焼土塊層	丹波焼
67	45	35	施釉陶器	甕		(8.2)		若干			I-2	焼土坑 B	№.61 と同一か　丹波
68	45	35	須恵器	捏鉢		(8.1)	(10.8)		1/4		I-3	SK3174	
69	45	35	無釉陶器	甕 (底部)						若干	I-2 西下段	焼土坑	№. 61 と №. 67 の底部か　丹波焼
70	45	35	土師器	鍋	(19.3)	(8.7)		1/6			I-4	SX4030	
71	45	35	土師器	鍋	(20.0)	(8.8)		1/4			I-4	SX4030	
72	45	34	瓦器	椀	(11.0)	(3.7)		1/5			I-4	SX4030	
73	45	35	瓦質土器	短頸壺	(8.8)	(3.7)		1/3			I-4	SX4031	
74	45	35	瓦器	小椀	(10.8)	(2.7)		1/4 弱			I-4	SD4025	
75	46	36	土師器	小皿	9.9	(2.03)	(6.2)	1/2	3/4	体部 1/2	I-3	東堀 下層	
76	46	36	土師器	小皿	(11.0)	(2.5)	(5.1)	1/4	1/4 弱	体部 1/4	I-3	東堀 下層	京都系
77	46	36	土師器	小皿	(13.7)	(2.4)		1/4			I-3 東	東堀 溝底の落込み内	
78	46	36	土師器	羽釜	(17.9)	(4.7)		1/4			I-3 東	東堀 上層と下層混在	
79	46	36	土師器	羽釜	(25.2)	(6.15)		1/8 以下			I-3 東	東堀と南堀の隅	
80	46	36	瓦質土器	羽釜	(21.8)	(6.1)	鍔径 (28.0)	1/8 弱		体部わずか 鍔 1/12 弱	I-3	東堀 下層	
81	46	36	無釉陶器	擂鉢	(23.7)	(6.0)		1/14			I-3 東	東堀 上層下層混在	須佐系唐津製
82	46	36	無釉陶器	擂鉢	(30.0)	(7.4)		1/12			I-3 東	東堀 主に下層	備前Ⅳ B 期（古）
83	46	36	無釉陶器	擂鉢		(10.2)		若干			I-3 東	東堀 上層下層混在	14C か　丹波焼
84	46	36	陶器	壺	(30.8)	(8.65)		1/8 以下			I-3 東	東堀と南堀の角	13C 後～ 14C 前半
85	46	36	無釉陶器	甕	(38.0)	(10.9)		若干		肩部わずか	I-3 北東隅	東堀 北セクション内	14C 後半 丹波焼
86	46	36	無釉陶器	甕	上 (5.9) 下 (7.4)	(14.2)			1/4	頸部 1/3	I-3 東	東堀 上層下層混在	14C 後半 丹波焼
87	46	36	無釉陶器	甕		(7.4)					I-3 東	東堀 上層下層混在	№. 86 の下半か
88	46	36	施釉陶器	香炉	(12.55)	4.7		1/2	1/2	2 脚残	I-3 東	東堀 上層下層混在	近世美濃焼
89	46	36	陶器	燭台の脚		(5.5)	(11.2)	7/9			I-3 東	東堀 上層下層混在	
90	46	36	無釉陶器	甕（底部）		(16.4)	(39.4)		若干		I-3 東	東堀 溝底の落込み内	丹波焼
91	47	37	青磁	碗	(14.7)	(4.1)		1/9			I-3 東	東堀 上層下層混在	
92	47	37	青磁	碗		(2.35)			完存		I-3 中央の中央付近	東堀	龍泉窯系
93	47	37	青磁	碗		(4.1)	(5.7)		1/3		I-3 東	東堀 主に下層	龍泉窯系
94	47	37	青磁	碗		(3.2)	5.85		完存		I-3 中央の中央付近	東堀	龍泉窯系
95	47	37	青磁	碗		(2.9)	(5.1)		1/2	体部下半 1/3 高台 1/2	I-3	東堀 下層	
96	47	37	青磁	碗		(2.7)	(4.0)		底のみ	高台 1/2 弱	I-3 東	東堀 上層下層混在	龍泉窯系
97	47	37	土師器	小皿	(9.2)	(1.45)		1/3	1/4		I-3 中央	南掘 上層（一部下層含む）	
98	47	37	土師器	皿	(13.0)	(2.0)	(8.7)	1/5	1/6		I-3 中央	南掘 上層（一部下層含む）	
99	47	38	須恵器	椀B	(16.3)	(5.0)	(8.2)	1/8 以下	1/2		I-3 中央南	南堀　一部上層含と下層混在	相野窯
100	47	37	陶器	擂鉢	(28.8)	(10.8)	(14.7)	1/6	1/4		I-3 中央南	南堀　下層	備前焼系
101	47	37	陶器	擂鉢	(35.8)	(9.5)		1/8 以下			I-3 中央南	南堀　一部上層と下層混在	備前焼系
102	47	37	陶器	擂鉢		(7.2)	(13.1)		1/7		I-3 中央南	南堀　一部上層含と下層混在	備前焼系
103	47	37	陶器	甕		(7.3)		若干			I-3 中央	南掘 上層（一部下層含む）	14C 代　丹波焼
104	47	37	土師器	小皿	(9.1)	(1.4)		1/5			I-3 北西隅	堀のコーナー、外側の堰状石組下層の埋土	京都系

表 15　広根遺跡Ⅰ区　出土遺物観察表（2）

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）			残存率			出土地区	出土遺構・層位	備考
					口径	器高	底径	口縁	底	他			
105	47	37	土師器	皿	(14.4)	(2.05)		1/5			I-3 北西隅	堀のコーナー、外側の堰状石組 下層の埋土	
106	47	38	瓦質土器	燭台（脚）		(6.85)	(11.9)		1/5		I-3	北堀・北西隅 上層	15C 代か
107	48	38	土師器	へそ皿	6.8	1.6	2.8			ほぼ完形	I-3	西堀・南	
108	48	38	瓦質土器	羽釜	(23.6)	(9.4)	鍔径（31.6）	1/9			I-3	西堀・南	15C 中頃か
109	48	38	瓦質土器	羽釜	(29.5)	(7.1)	鍔径（37.1）	1/10			I-3	西堀・北	15C 後～ 16C 初
110	48	48	無釉陶器	擂鉢	(25.7)	(9.25)		1/7			I-3	西堀・北	備前Ⅳ B（古）
111	48	38	無釉陶器	擂鉢	(31.9)	(5.0)		若干			I-3	西堀・中央 中層	備前Ⅳ B（古）
112	48	38	無釉陶器	擂鉢	(29.7)	(5.6)		1/12			I-3	西堀・北	備前Ⅳ B（古）
113	48	38	無釉陶器	擂鉢	(29.1)	(5.7)		若干			I-3	西堀・南 中層	備前Ⅳ B（新）
114	48	38	無釉陶器	擂鉢	(31.6)	(4.7)		若干			I-3	西堀・南 中層	丹波焼
115	48	38	施釉陶器	天目碗	(11.6)	(5.3)		1/7			I-3	西堀・中央 中層	瀬戸・美濃系
116	48	38	施釉陶器	天目碗	(12.4)	(4.3)		1/8			I-3	西堀・南 中層	瀬戸・美濃系
117	48	38	施釉陶器	皿		(2.9)	4.6		2/3	体部わずか	I-3	西堀・南 中層	胎土目唐津
118	48	38	施釉陶器	皿		(1.25)	6.2		2/3		I-3	西堀・中央 中層	16C 後半 美濃 灰釉皿
119	48	38	白磁	碗		(1.9)	(7.5)		1/2		I-3	西堀・南	
120	48	38	青磁	碗	(14.6)	(4.75)		1/18			I-3	西堀・南	龍泉窯
121	48	38	青磁	碗		(3.2)	6.25		1/2		I-3	西堀・南	龍泉窯
122	48	38	青磁	碗		(2.6)	(4.6)		2/3		I-3	西堀・北 中層	
123	48	39	染付青磁	碗		(4.7)	(4.6)		完	高台 1/2	I-3	西堀 上層（北側）	18C 後　肥前系
124	49	35	土師器	小皿	(8.05)	(1.65)	(6.5)	1/4	1/4		I-2 中・下段	SK2100 下層	
125	49	35	土師器	小皿	(8.15)	1.9	3.7	若干	1/2		I-2 中・下段	SK2100 下層	
126	49	35	土師器	小皿	8.0	1.55	(4.45)	ほぼ完存	ほぼ完存		I-6	SK6009	京都系
127	49	35	陶器	鍋	(20.6)	(6.4)		1/4			I-6	SK6009	15C 後～ 16C 初
128	49	35	土師器	鍋	(19.35)	(7.1)		1/9			I-4	炭土坑 4002	
129	49	35	無釉陶器	擂鉢	(5.25)	(5.25)	(12.7)		1/4 弱	体部若干	I-1 西中段	SD1001	丹波焼
130	49	39	施釉陶器	天目碗	(11.3)	(6.6)	3.94	1/4	ほぼ残存	体部 1/4	I-6	P6026 埋土	瀬戸・美濃系
131	49	39	土師器	小皿	(8.8)	(1.5)	(3.9)			完形	I-2 東上段	SE2058 下層	
132	49	40	青磁	碗		(2.6)	5.6		ほぼ残存	体部下半若干	I-6	SE6002 掘り方内	
133	49	39	土師器	小皿	(8.55)	(1.5)		1/3			I-3	SK3159	
134	49	40	無釉陶器	甕	39.3	45.8	20.9	3/4	完存		I-2 西半部	SK2018	丹波焼
135	49	40	土師器	小皿	(7.8)	1.65		2/3	7/8		I-6 上段	SD6001 南半 褐灰色土	
136	49	40	土師器	小皿	(9.0)	1.9		1/3	1/3		I-6 上段	溝最下層の砂から出土 SD6001-a	
137	49	40	土師器	小皿	(9.2)	2.1		1/3	1/3		I-6	SD6001	京都系
138	49	39	土師器	小皿	7.45	1.45		4/5	完形		I-6 上段	溝最下層の砂から出土 SD6001-a	京都系
139	49	39	染付	仏飯具	(7.75)	6.4	4.4	1/3	7/8		I-6	SD6001	肥前系
140	50	40	無釉陶器	擂鉢	(29.6)	(11.9)	(11.6)	1/8	1/3		I-2 中・下段	SK2044	丹波焼
141	50	40	無釉陶器	擂鉢		(7.6)		若干			I-2 東下段	SK2072	丹波焼
142	50	40	無釉陶器	甕	(30.5)	31.4	20.3	1/3	完存		I-2 東下段	SK2088	丹波焼
143	50	40	土師器	火入れ	(24.0)	(5.8)		若干		体部 1/5 弱	I-2 下段	SE2066	
144	50	40	施釉陶器	壺	(17.8)	(5.7)		1/4		頸部 1/4	I-2 下段	SE2066	丹波焼　16C 代
145	50	40	無釉陶器	甕	(37.0)	(11.7)		1/12 強			I-2 下段	SE2066	丹波焼
146	50	40	施釉陶器	尊型花入れ		(5.0)	(7.4)		1/3 強		I-2 下段	SE2066	
147	50	40	施釉陶器	皿		(2.5)	4.9		完形	その他若干	I-2 下段	SE2066	唐津
148	50	40	青磁	香炉	(9.2)	(7.1)	(6.4)	1/4 弱		体部 1/4 弱	I-2 下段	SE2066	18C 後半　肥前系
149	50	40	染付磁器	碗	(10.1)	(5.15)	(4.2)	1/3 強	完形	体部 1/3 強	I-2 下段	SE2066	肥前系
150	50	40	染付磁器	碗	(9.6)	(4.4)	(3.7)	1/3	1/4	体部 1/3	I-2 下段	SE2066	肥前系
151	51	41	土師器	焙烙	(24.0)	(5.2)		1/12		体部 1/2 弱	I-2 東下段	SX2078（1 区）上層	18C 前半
152	51	41	染付磁器	碗	(10.6)	(6.6)		1/5 弱		体部 1/5 弱	I-2 東下段	SX2078（1 区）上層	17C 前半 初期伊万里
153	51	41	土師器	小皿	(9.7)	1.5	(4.4)	1/4	1/3		I-2 東下段	SX2080 埋土	
154	51	41	土師器	焙烙	(23.3)	(6.4)	(23.8)	1/2 弱		体部 1/3	I-2 東下段	SX2080 埋土	18C 前半
155	51	41	染付磁器	碗	(9.7)	5.2	(3.8)	1/3	1/2	体部 1/3	I-2 東下段	SX2080 埋土	肥前
156	51	41	無釉陶器	柑口壺	(9.4)	(16.5)		1/4		体部 1/4	I-3 東北隅	I-2 区の SX2081 の続き 黄色整地土	16C 後半 丹波焼
157	51	41	無釉陶器	擂鉢		(6.85)	(13.7)	1/6 弱			I-2 東下段	SX2081（下層）	
158	51	41	土師器	皿	7.1	1.7	4.1			完形	I-3	SX3001	
159	51	41	土師器	皿	(9.3)	(1.5)		3/8			I-3	SX3001	
160	51	41	無釉陶器	擂鉢	(44.4)	(7.2)		1/8 弱			I-2 西下段	SX2081 下層　集石遺構 石の下	17C 後～ 18C 中 丹波焼
161	51	44	施釉陶器	香炉	(9.5)	(6.5)	(4.1)	1/2 弱	1/2 弱		I-2 西拡張部	SD2201	19C 前半　肥前
162	51	44	青白磁	皿	(22.9)	(4.4)	(7.6)	1/8	1/2	体部 1/8	I-2 西拡張部	SD2201	18C 前半 波佐見
163	51	44	須恵器	甕	(17.8)	(6.4)		1/6			I-6	西谷カマ 6 西に回る溝	
164	52	42	土師器	小皿	(6.8)	1.6				1/2 弱	I-6	石敷遺構（東側）外し時	
165	52	42	土師器	小皿	9.9	2.0				ほぼ完存	I-6	石敷遺構（東側）外し時	
166	52	42	土製品	紡錘車	長 6.2	幅 6.3	厚 1.8			ほぼ完存 （表面欠多）	I-6	石敷遺構（東側）外し時	
167	52	42	無釉陶器	皿	(11.4)	2.6	(4.9)	1/4	1/2		I-6	石敷遺構（東側）外し時	
168	52	42	無釉陶器	火入れ	(10.5)	5.25	(8.0)	1/3			I-6	石敷遺構（東側）外し時	
169	52	43	染付磁器	蓋	(9.7)	3.0	つまみ径 (4.0)	1/5		天井部 2/3	I-6	石敷遺構（東側）外し時	
170	52	43	染付磁器	皿		(2.9)	(5.4)		1/2 弱	高台 1/4	I-6	石敷遺構（東側）外し時	初期伊万里
171	52	42	施釉陶器	小椀	(9.1)	5.0	(3.4)	1/2	3/4		I-6	石敷遺構（近世墓側）下層	
172	52	43	染付青磁	小杯	(7.2)	6.6	(4.0)	1/4	1/3		I-6	石敷遺構 東側 外し時	18C 後　肥前系
173	52	43	青磁	花器		(8.8)	5.2		完存	体部わずか	I-6	石敷遺構 東側 外し時	17C 代か 肥前系
174	52	42	施釉陶器	擂鉢	(29.1)	(8.0)		1/8 以下			I-6	石敷遺構（近世墓側）下層	
175	52	43	染付磁器	皿	(19.0)	3.8	11.0	1/5	1/2		I-6	石敷遺構（近世墓側）下層	初期伊万里
176	52	43	施釉陶器	ビラか寸碗	(6.6)	4.5	(3.0)	1/8	1/2		I-6	SD6011 の南西部　西の谷落部、東側	19C 前半　京都系
177	52	43	染付磁器	そば猪口	6.5	5.8	4.4	ほぼ完存	2/3		I-6	東テラス SD6011 の西側検出時	18C 前半か
178	52	43	施釉陶器	碗	(14.2)	6.0	(5.7)	1/5	1/2		I-6	SD6011 の南西部　西の谷落部、東側	19C 前半 鉄絵椀
179	52	44	陶器	甕	(33.6)	(20.4)	最大径 (44.2)	1/8			I-6	SD6011 焼土中	18C 初頭　丹波焼
180	52	44	土製品	地蔵菩薩	長（6.8）	幅 3.35	厚 2.85			胴体完 頭部欠損	I-6	SD6011 焼土中	土人形
181	52	44	土師器	焙烙	(33.6)	(4.95)				若干	I-6	SD6020 カーブしている所	19C 代
182	52	44	施釉陶器	徳利	3.0	(10.4)		完存		体部若干	I-6	SD6020 カーブしている所	丹波焼
183	52	44	染付青磁	蓋	(10.1)	(3.4)	つまみ径 3.95	若干	若干	体部若干 つまみ若干	I-6	SD6020 セクション②	18C 末前後 肥前系
184	52	44	染付磁器	筒碗	(7.5)	4.85		1/4	1/4		I-6	SD6020 カーブしている所	肥前系
185	52	44	染付磁器	碗	7.8	4.35	(4.3)	1/3		体部 1/3	I-6	SD6020 カーブしている所	19C 代
186	52	44	染付磁器	碗	(10.2)	4.8		1/3		体部 1/3	I-6	SD6020 カーブしている所	18C 初 頭 前 後 肥前系
187	52	44	土師器	小皿	(8.5)	(1.3)				若干	I-6	SD6032	
188	52	44	土師器	炮烙	(35.6)	(4.7)		若干			I-6 拡張部	山際の溝	19C 代
189	53	46	無釉陶器	徳利		(9.9)	6.1		完存	体部 1/2	I-2 東下段	SK2087	備前焼
190	53	45	土師器	窯道具・焼台	6.8	5.9	6.9			ほぼ完存	I-2 東半中段	SK2065	
191	53	45	無釉陶器	不明	長 17.62	幅 17.45	厚 4.45			完存	I-2 東半中段	SK2065	
192	53	46	無釉陶器	甕	(8.7)	9.4	7.15	1/8	完存		I-3	SK3133	丹波焼
193	53	45	土製品	窯道具・焼台	(6.85)	5.8	(6.65)			全体の 5/6	I-3 中央	SK3133	
194	53	46	瓦	軒丸瓦	長（6.7）		厚 2.0			瓦当 1/3	I-3 中央	SK3133	
195	53	46	瓦	軒平瓦	長（10.0）	高（4.2）				瓦当 1/2	I-3 中央	SK3133	
196	53	46	施釉陶器	甕	(38.8)	(49.0)	21.3	若干	ほぼ残存	胴部～体部上半若干 体部下半 1/2 強	I-3	SK3159	17C 後半　丹波焼
197	54	47	染付磁器	皿	13.85	3.65	8.3	1/3	完形		I-6	SK6016	19C 前半
198	54	47	染付磁器	蓋	(6.6)	(1.65)		1/3			I-6	カマ 1 埋土	18C 代
199	54	47	無釉陶器	甕	(33.55)	(12.4)		若干		体部 1/8	I-6	カマ 6 埋土　黄褐色地山ブロック	丹波焼
200	54	47	施釉陶器	椀	8.9	5.1	3.2	1/3	完存		I-6	カマ 6	
201	54	47	染付磁器	碗	(9.65)	5.15	4.0	1/4	完存		I-6	カマ 6	18C 中頃か
202	54	47	染付磁器	そば猪口	(9.05)	5.95	4.9	1/4	完存		I-6	カマ 6	18C 代　肥前系
203	54	47	土師器	皿	(12.0)	2.2	(8.75)	1/2	1/2		I-6	カマ 2 の南側　焼土層～炭層まで	

表 15　広根遺跡Ⅰ区　出土遺物観察表（3）

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）			残存率			出土地区	出土遺構・層位	備考
					口径	器高	底径	口縁	底	他			
204	54	47	染付磁器	香合の蓋	内径（4.35） 外径（5.6）	1.25		1/4			I-6	カマ 1･2 間 焼土・炭層中	
205	54	47	染付磁器	碗	(9.7)	6.15	3.7	1/4 強	ほぼ完存		I-6	カマ 1･2 間 落込み	19C 中頃
206	54	47	陶胎染付	土瓶	(5.2)	(6.1)		1/3			I-6	カマ 1･2 間 落込み	№209 とセット京焼系 三田産
207	54	47	瓦質土器	コンロ（脚）		(6.0)	(18.0)		1/8 以下		I-6	カマ 2 前面谷部　主に下半炭層	
208	54	47	青磁	碗		(2.45)	(5.4)		7/8		I-6	カマ 2 南側谷部 炭層	龍泉窯
209	54	47	陶胎染付	土瓶の蓋	(8.8)	3.7	最大径（11.6）	不接と合 1/2 強		つまみのみ	I-6	カマ 2 の西側谷部	№206 とセット
210	54	43	染付	蓋	9.9	2.8		3/4		天井部完形	I-6	カマ 2 の西側谷部	
211	54	47	染付磁器	端反り碗	(9.6)	5.3	4.0	1/3	1/2 弱		I-6	カマ 2 西側谷部 上半	
212	54	47	白磁	端反り小杯	(7.7)	(5.9)		1/4			I-6	カマ 2 西側谷部 上半	
213	54	47	染付	皿	(13.0)	3.15	(6.4)	3/4	2/3		I-6	カマ 2 の西側谷部	18C 後 波佐見窯製
214	54	48	無釉陶器	壺	(7.6)	(14.9)		1/6		体部わずか	I-6	カマ 2 西側谷部 上半	16C 後　丹波焼
215	54	48	施釉陶器	擂鉢	(17.2)	(16.15)	(20.7)	1/8	1/5		I-6	カマ 4 の西南	丹波焼
216	54	48	染付	碗	(8.1)	4.15	3.0	1/2	2/3		I-6	カマ 4 の西南 上層埋土	瀬戸・美濃系
217	54	48	染付磁器	小碗	(7.5)	5.7	(3.5)	1/2 弱	1/4		I-6 西上段	カマ 5 西側谷部 黄色土中	19C 前以降
218	54	48	染付磁器	碗	(9.85)	(5.0)	4.3	1/5	完存		I-6 中段中央	カマ 1 の南東部分　遺構面まで人力	18C 代 肥前系
219	54	48	施釉陶器	火入れ	(9.6)	5.55	(7.8)	1/6	2/5		I-6 中段中央	カマ 1 の南東部分　遺構面まで人力	
220	54	48	瓦	道具瓦	長（14.1）	幅（8.6）	厚 3.1			不明 （破片）	I-6 中段中央	カマ 1 の南東部分　遺構面まで人力	
221	55	48	土師器	皿	(9.4)	1.85	5.4	1/4			I-3		
222	55	49	施釉陶器	皿	(10.0)	2.75	5.8	1/5	7/8		I-2 東		16C 後半 瀬戸・美濃
223	55	49	施釉陶器	花瓶		(7.95)	8.25		完存	体部ほぼ完	I-3		
224	55	48	無釉陶器	甕	(29.8)	(12.1)		1/8			I-3		丹波焼
225	55	48	染付磁器	皿		(2.8)	5.5		完存		I-3		17C 前 初期伊万里
226	55	48	青磁	碗	(14.1)	(5.0)		1/6			I-3	東半部 堀西落込み部	
227	55	37	染付磁器	碗		(2.7)	(4.2)		2/3		I-3		16C 末～ 17C 初 明青花
228	55	48	土師器	灯明皿	(7.1)	1.5	(4.9)	1/3	3/4		I-6 西部	谷部	
229	55	48	無釉陶器	片口擂鉢	(33.6)	(8.4)		1/8			I-6 西部	谷部	14C 後　備前焼
230	55	47	青磁	碗		(2.6)	5.2		完存	体部わずか	I-6 西部	谷部	龍泉窯
231	55	48	土製品	羽口	長（6.6）	幅（7.0）	厚（3.0）			小片	I-6 西部	谷部	重量 106.3 g
232	55	49	土師器	小皿	(8.02)	(1.4)	6.5	1/6	完存		I-6	南隅近世墓張り出し部	
233	55	43	青磁	鉢	(15.5)	(3.25)		1/4			I-6 南西隅	墓集石周辺 ベースまで	三田青磁
234	55	49	施釉陶器	椀	(13.0)	(4.0)		1/7			I-6 中段東半	遺構面まで	17C 初　唐津焼
235	55	47	染付磁器	碗	(9.5)	5.45	3.6	1/5	完		I-6	東テラス部 焼土上層	肥前系
236	55	48	無釉陶器	擂鉢	(26.4)	12.1	(13.2)	若干		体部若干	I-6	北西部 焼土抗周辺	備前焼
237	55	49	施釉陶器	水滴	7.1	(3.6)				体部 1/2	I-6 拡張部	表土はぎ～面直上まで	19C 代以降 京焼

表 15　広根遺跡Ⅰ区　出土遺物観察表（5）

報告番号	写真図版番号	種別	器種	出土地区	出土遺構・層位	備考
238	32	土師器	小皿	I-6	SR6001 南端 茶褐色砂	写真のみ
239	32	土師器	杯	I-6	SR6001 茶褐～青灰砂	写真のみ
240	32	土師器	椀	I-6	SR6001 下層　暗灰砂	写真のみ
241	32	須恵器	椀	I-6	SR6001 南端 茶褐色砂	写真のみ
242	32	須恵器	椀	I-6	SR6001 下層　青灰砂 シルト混じり砂	写真のみ
243	32	須恵器	杯身	I-6	SR6001 下層　青灰砂 シルト混じり砂	写真のみ
244	32	須恵器	杯	I-1 東半上段	谷部砂レキ	写真のみ
245	32	灰釉陶器	椀	I-6	SR6001 中央 暗灰シルト	写真のみ
246	32	須恵器	壺	I-6	SR6001 下層　青灰砂 シルト混じり砂	写真のみ
247	32	須恵器	甕	I-6	SR6001	写真のみ
248	33	黒色土器	杯	I-3	SK3148	写真のみ
249	33	瓦質土器	椀	I-3	P3121	写真のみ
250	33	須恵器	壺	I-2 上段東半	褐色土	写真のみ
251	33	須恵器	甕	I-6 西部	谷部	写真のみ
252	33	須恵器	甕	I-3 中央南端	包含層	写真のみ
253	33	須恵器	甕	I-1 東拡 Tr138	Tr138 中央の焼土 Pit	写真のみ
254	33	須恵器	甕	I-3 中央南端	包含層	写真のみ
255	33	須恵器	甕	I-3 中央南端	包含層	写真のみ
256	33	瓦器	椀	I-4	P4021	写真のみ
257	33	瓦器	椀	I-4	P4009	写真のみ
258	33	瓦器	椀	I-4	P4021	写真のみ
259	33	瓦器	椀	I-4	P4007	写真のみ
260	33	瓦器	椀	I-4	P4045	写真のみ
261	34	瓦器	椀	I-4	SK4031	写真のみ
262	34	土師器	小皿	I-3 中央南端	SD3101 上面	写真のみ
263	34	瓦器	小皿	I-4	SX4026	写真のみ
264	34	青磁	碗	I-4	SX4026	写真のみ
265	34	瓦器	椀	I-2 西下段	焼土坑 A 1 区	写真のみ
266	34	瓦器	椀	I-4	SX4026	写真のみ
267	34	無釉陶器	壺	I-2 西下段	SK2039 集石の下	写真のみ
268	34	無釉陶器	壺	I-2 西下段	SK2039 集石の下	写真のみ
269	34	無釉陶器	壺	I-2 西下段	SK2039 集石の下	写真のみ
270	34	無釉陶器	壺	I-2 下段	SK2039	写真のみ
271	34	施釉陶器	壺	I-2	焼土坑 A	写真のみ
272	34	無釉陶器	壺	I-2 西下段	焼土遺構 A	写真のみ
273	34	無釉陶器	壺	I-2 西下段	焼土遺構 A	写真のみ
274	34	無釉陶器	壺	I-2 西下段	焼土遺構 A	写真のみ
275	34	無釉陶器	壺	I-2 西下段	焼土遺構 A 2 層	写真のみ
276	34	無釉陶器	壺	I-2	焼土坑 A	写真のみ
277	35	無釉陶器	碗	I-2	焼土坑 B	写真のみ
278	35	無釉陶器	甕	I-2	焼土坑 A	写真のみ
279	35	無釉陶器	甕	I-2	焼土坑 A	写真のみ
280	35	無釉陶器	甕	I-2 下段西半	焼土と土器	写真のみ
281	35	無釉陶器	甕	I-2 東半下段	焼土坑	写真のみ
282	35	無釉陶器	甕	I-2	焼土坑 A	写真のみ
283	35	青磁	碗	I-3	SK3174	写真のみ
284	35	土師器	鍋	I-2 中・下段	SK2100 下層	写真のみ
285	35	土師器	鍋	I-4	炭土坑 4001	写真のみ
286	36	土師器	小皿	I-3 東	東堀 溝底の落込み内	写真のみ
287	36	土師器	鍋	I-3 東	東堀 上層と下層混在	写真のみ
288	36	瓦質土器	羽釜	I-3 東	東堀 上層と下層混在	写真のみ
289	36	無釉陶器	甕	I-3 東	東堀 上層と下層混在	写真のみ
290	36	無釉陶器	擂鉢	I-3 東	東堀 上層と下層混在	写真のみ
291	36	無釉陶器	擂鉢	I-3 東	東堀と南堀の隅	写真のみ
292	37	青磁	碗	I-3 東	東堀と南堀の隅	写真のみ
293	37	青磁	碗	I-3 東	東堀と南堀の隅	写真のみ
294	37	無釉陶器	甕	I-3 中央南	南堀　一部上層と 下層混在	写真のみ
295	37	無釉陶器	甕	I-3 中央南	南堀　一部上層と 下層混在	写真のみ
296	37	無釉陶器	壺	I-3 中央南	南堀　一部上層と 下層混在	写真のみ
297	37	無釉陶器	壺	I-3 中央南	南堀　下層	写真のみ
298	37	無釉陶器	鉢	I-3 中央南	南堀　一部上層と 下層混在	写真のみ
299	37	無釉陶器	鉢	I-3 中央南	南堀　一部上層と 下層混在	写真のみ
300	37	無釉陶器	擂鉢	I-3 中央南	南堀　一部上層と 下層混在	写真のみ
301	37	無釉陶器	擂鉢	I-3	堀・南	写真のみ
302	37	土師器	小皿	I-3 北西隅	堀のコーナー 外側の堰状石組 下層の埋土	写真のみ
303	37	無釉陶器	甕	I-3	北堀・北西隅	写真のみ
304	37	青磁	碗	I-3	北堀・北西隅　上層	写真のみ
305	37	土師器	皿	I-3 北西隅	堀のコーナー 外側の堰状石組 下層の埋土	写真のみ
306	37	無釉陶器	甕	I-3	北堀・北西隅　上層	写真のみ
307	37	施釉陶器	皿	I-3	北堀・北西隅　上層	写真のみ
308	37	無釉陶器	擂鉢	I-3	北堀・北西隅　上層	写真のみ
309	37	無釉陶器	鉢	I-3	北堀・北西隅　上層	写真のみ
310	37	土製品	面子	I-3	北堀・北西隅　上層	写真のみ
311	37	染付磁器	碗	I-3	北堀・北西隅　上層	写真のみ
312	37	染付磁器	碗	I-3	北堀・北西隅　上層	写真のみ
313	37	瓦器	軒丸瓦	I-3	北堀・北西隅　上層	写真のみ
314	38	瓦質土器	不明	I-3	西堀・南	写真のみ
315	38	瓦質土器	羽釜	I-3	西堀・南　中層	写真のみ
316	38	無釉陶器	擂鉢	I-3	西堀・北　中層	写真のみ
317	38	無釉陶器	擂鉢	I-3	西堀・南	写真のみ
318	38	無釉陶器	壺	I-3	西堀・中央　中層	写真のみ
319	38	無釉陶器	甕	I-3	西堀・北　中層	写真のみ
320	38	無釉陶器	甕	I-3	西堀・北　中層	写真のみ
321	38	無釉陶器	甕	I-3	西堀・北　中層	写真のみ
322	38	無釉陶器	甕	I-3	西堀・南	写真のみ
323	38	施釉陶器	皿	I-3	西堀・北	写真のみ
324	38	施釉陶器	椀	I-3	西堀・南	写真のみ
325	38	施釉陶器	椀	I-3	西堀　上層（北側）	写真のみ
326	38	青磁	碗	I-3	西堀・南	写真のみ
327	39	染付磁器	碗	I-3		写真のみ
328	39	染付磁器	碗	I-3		写真のみ
329	39	染付磁器	碗	I-3	西堀・北　中層	写真のみ
330	39	磁器	碗	I-3	西堀・北	写真のみ
331	39	染付磁器	碗	I-3	西堀・北　中層	写真のみ
332	40	土師器	小皿	I-6 上段	SD6001 北端	写真のみ
333	40	瓦質土器	香炉	I-6 上段	溝 SD6001-b	写真のみ
334	40	無釉陶器	擂鉢	I-6 上段	SD6001 北端	写真のみ
335	40	丹波焼	擂鉢	I-6 北端	濁褐色土	写真のみ
336	40	染付磁器	碗	I-6 上段	SD6001 南端　石組内	写真のみ
337	40	施釉陶器	御神酒徳利	I-2 中下段	SK2044	写真のみ
338	40	磁器	仏飯具	I-2 中下段	SK2044	写真のみ
339	40	土師器	十能 脚	I-2 中下段	SK2044	写真のみ
340	40	染付磁器	皿	I-2 中下段	SK2044	写真のみ
341	40	施釉陶器	椀	I-2 下段	SK2062	写真のみ
342	40	染付磁器	碗	I-2 東上段	SK2049	写真のみ
343	40	染付磁器	皿	I-2	SK2053 下層	写真のみ
344	40	磁器	仏飯具	I-2 東下段	SK2072	写真のみ
345	40	瓦質土器	鉢	I-2 下段	SE2066	写真のみ
346	40	施釉陶器	鉢	I-2 下段	SE2066	写真のみ
347	40	染付磁器	碗	I-2 下段	SE2066	写真のみ
348	40	染付磁器	碗	I-2 下段	SK2065	写真のみ
349	41	土師器	炮烙	I-2 東下段	SX2078（1 区）上層	写真のみ
350	41	無釉陶器	擂鉢	I-2 東下段	SX2078（2 区）上層	写真のみ
351	41	施釉陶器	皿	I-3 東	南掘	写真のみ
352	41	施釉陶器	椀	I-3 東北隅	SX2080 の続き	写真のみ
353	41	土師器	焙烙	I-3 東北隅	SX2081 の続き 整地土	写真のみ
354	41	施釉陶器	鍋	I-3 東北隅	SX2081 の続き 整地土	写真のみ
355	41	陶器	碗	I-3	SX3081	写真のみ
356	41	染付磁器	仏飯具	I-3	SX3081	写真のみ
357	41	無釉陶器	甕?	I-2 東下段	SX2081（下層）	写真のみ
358	41	無釉陶器	擂鉢	I-2 東下段	SX2080 埋土	写真のみ
359	41	無釉陶器	擂鉢	I-2 東下段	SX2081（下層）	写真のみ
360	41	瓦	丸瓦	I-3 東北隅	SX2081 の続き 整地土	写真のみ
361	41	土師器	小皿	I-3 東北隅	SX2081 の続き 整地土	写真のみ
362	41	染付磁器	仏飯具	I-3	SK3134	写真のみ
363	41	青磁	碗	I-3 東　北半	SK3190	写真のみ
364	41	陶器	蓋	I-3 東　北半	SK3190	写真のみ
365	41	陶器	甕	I-6 上段	SX6001　茶褐色埋土	写真のみ
366	41	染付磁器	鉢	I-6 西端	集石間	写真のみ
367	42	土師質	壁土	I-3	東半　堀西落込み部	写真のみ
368	42	土師質	壁土	I-3 中央南側	包含層	写真のみ
369	42	土師質	壁土	I-3	東半　堀西落込み部	写真のみ
370	42	土師質	壁土	I-3	東半　堀西落込み部	写真のみ
371	42	土師質	壁土	I-3	SX3103 南北アゼ	写真のみ
372	42	土師質	壁土	I-3	SX3103 南北アゼ	写真のみ
373	42	土師質	壁土	I-3	東半　堀西落込み部	写真のみ
374	42	土師器	焙烙	I-6	石敷遺構 東側外し時	写真のみ
375	42	土師器	焙烙	I-6	石敷遺構 東側外し時	写真のみ
376	42	土師器	焙烙	I-6		写真のみ
377	42	土師質		I-6	近世墓地石敷　下層	写真のみ
378	42	土師質		I-6	近世墓地石敷　下層	写真のみ
379	42	無釉陶器	甕	I-6	近世墓地石敷　下層	写真のみ
380	42	無釉陶器	甕	I-6　西端	集石間	写真のみ
381	42	無釉陶器	甕	I-6	カマ 5	写真のみ
382	42	無釉陶器	甕	I-6 西上段	カマ 5 西側谷部 黄色土中	写真のみ
383	42	施釉陶器	皿	I-6 南西端	集石間	写真のみ
384	42	施釉陶器	椀	I-6 南西端	集石間	写真のみ
385	42	施釉陶器	椀	I-6	SD6021 南側 礫群上面	写真のみ
386	42	施釉陶器	椀	I-6	近世墓地石敷　下層	写真のみ
387	42	施釉陶器	椀	I-6	近世墓地石敷　下層	写真のみ
388	43	青磁	碗	I-6 南西端	集石間	写真のみ
389	43	青磁	碗	I-6	石敷遺構　東側	写真のみ
390	43	青磁	香炉	I-6 南西端	集石間	写真のみ
391	43	染付磁器	碗	I-6	近世墓地石敷　下層	写真のみ
392	43	染付磁器	碗	I-6 南西隅	墓集石周辺ベースまで	写真のみ
393	43	染付磁器	碗	I-6	カマ 2 南側の集石	写真のみ
394	44	染付磁器	碗	I-6	SD6011　南 西～西の 谷部	写真のみ
395	44	染付磁器	碗	I-6	SD6011　焼土～溝底 まで	写真のみ
396	44	ガラス	瓶	I-6	SD6011	写真のみ
397	44	施釉陶器	ひょうそく	I-6	SD6011（カマ 2 西側）	写真のみ
398	44	磁器	碗	I-6	SD6011	写真のみ

表 15　広根遺跡Ⅰ区　出土遺物観察表（6）

報告番号	写真図版番号	種別	器種	出土地区	出土遺構・層位	備考
399	44	陶器	把手	I-6	SD6011（カマ２西側）	写真のみ
400	44	陶器	徳利	I-6	SD6011 焼土中	写真のみ
401	44	無釉陶器	壺	I-6	SD6011 焼土～溝底まで	写真のみ
402	44	瓦	丸瓦	I-6	SD6011（カマ２西側）	写真のみ
403	44	瓦		I-6	SD6011 焼土～溝底まで	写真のみ
404	44	染付磁器	碗	I-6 拡張部	SD6032	写真のみ
405	44	無釉陶器	?	I-6 拡張部	SD6032	写真のみ
406	44	磁器	皿	I-2 区	SD2201	写真のみ
407	44	施釉陶器	皿	I-6	カマ５西に回る溝	写真のみ
408	44	施釉陶器	皿	I-6	SD6020	写真のみ
409	44	須恵器	甕	I-6	SD6030 埋土	写真のみ
410	44	無釉陶器	擂鉢	I-6	SD6030 埋土	写真のみ
411	44	染付磁器	碗	I-6	南隅近世墓張出し	写真のみ
412	44	染付磁器	碗	I-6	南隅近世墓張出し	写真のみ
413	44	須恵器	捏鉢	I-6	南隅近世墓張出し	写真のみ
414	45	染付磁器	碗	I-2 下段	SK2063 埋土	写真のみ
415	45	磁器	小碗	I-2 東半中段	SK2063・2064 埋土	写真のみ
416	45	磁器	皿	I-2 東半中段	SK2063・2064 埋土	写真のみ
417	45	土師器	小皿	I-2 東半中段	SK2063・2064 埋土	写真のみ
418	45	瓦質土器	?	I-2 下段	SK2064 埋土	写真のみ
419	45	磁器	碗	I-2	SK2064	写真のみ
420	45	染付磁器	水滴	I-2 東半中段	SK2063・2064 埋土	写真のみ
421	45	陶器	蓋	I-2 下段	SK2064 埋土	写真のみ
422	45	陶器	花瓶	I-2 下段	SK2064 埋土	写真のみ
423	45	磁器	鉢	I-2 東半中段	SK2063・2064 埋土	写真のみ
424	45	染付磁器	鉢	I-2 東半中段	SK2063・2064 埋土	写真のみ
425	45	染付磁器	鉢	I-2 東半中段	SK2063・2064 埋土	写真のみ
426	45	瓦	丸瓦	I-2 下段	SK2064 埋土	写真のみ
427	45	染付磁器	蓋	I-2 中下段	SK2043	写真のみ
428	45	染付磁器	小碗	I-2 中下段	SK2043	写真のみ
429	45	染付磁器	碗	I-2	SK2053 下層	写真のみ
430	45	染付磁器	碗	I-2 下段	SK2065	写真のみ
431	45	染付磁器	紅皿	I-1 中央下段	面精査	写真のみ
432	45	染付磁器	碗	I-2 東半中段	SK2065	写真のみ
433	45	染付磁器	皿	I-2 下段	SK2065	写真のみ
434	46	施釉陶器	椀	I-2 東・下段	SK2087	写真のみ
435	46	染付磁器	碗	I-2 東下段	SK2087	写真のみ
436	46	土師器	小皿	I-2	SE2066 底付近	写真のみ
437	46	土師器	炮烙	I-2	SE2066 底付近	写真のみ
438	46	土師器	炮烙	I-2	SE2066 底付近	写真のみ
439	46	土師器	炮烙	I-2	SE2066 底付近	写真のみ
440	46	施釉陶器	火入れ	I-2	SE2066 底付近	写真のみ
441	46	染付磁器	皿	I-2	焼土坑 A	写真のみ
442	46	染付磁器	皿	I-2	SE2066 底付近	写真のみ
443	46	染付磁器	碗	I-2	SE2066 底付近	写真のみ
444	46	磁器	小碗	I-3 中央	SK3133	写真のみ
445	46	無釉陶器	擂鉢	I-3 中央	SK3133	写真のみ
446	46	染付磁器	碗	I-3 中央	SK3133	写真のみ
447	46	染付磁器	碗	I-3 中央	SK3133	写真のみ
448	46	染付磁器	碗	I-3	SK3133	写真のみ
449	46	施釉陶器	皿	I-3 中央	SK3133	写真のみ
450	46	磁器	碗	I-3 中央	SK3133	写真のみ
451	46	土師器	炮烙	I-3	SK3154	写真のみ
452	46	施釉陶器	椀	I-3	SK3176	写真のみ
453	46	土製品	泥面子	I-3	SK3176	写真のみ
454	46	染付磁器	碗	I-3	SK3176	写真のみ
455	46	磁器		I-3	SK3176	写真のみ
457	46	施釉陶器	徳利	I-3	SK3176	写真のみ
458	46	施釉陶器	ひょうそく	I-2 東上段	包含層	写真のみ
459	47	土師器	小皿	I-6	カマ１ 焼土層～炭層	写真のみ
460	47	染付磁器	碗	I-6	カマ１ 焼土層～炭層	写真のみ
461	47	染付磁器	鉢	I-6	カマ 2-a　埋土	写真のみ
462	47	磁器	仏飯具	I-6	カマ１ 床面まで	写真のみ
463	47	陶器	蓋	I-6	カマ１ セクション外し	写真のみ
464	47	染付磁器	碗	I-6	カマ３	写真のみ
465	47	施釉陶器	鍋	I-6	カマ２ 下層　土坑	写真のみ
466	47	施釉陶器	椀	I-6	カマ５	写真のみ
467	47	施釉陶器	椀	I-6	カマ５	写真のみ
468	47	施釉陶器	椀	I-6	カマ５ 埋土 黄褐色 地山土ブロック	写真のみ
469	47	施釉陶器	椀	I-6	カマ５	写真のみ
470	47	施釉陶器	椀	I-6	カマ５	写真のみ
471	47	土師器	小皿	I-6 西上段	カマ５西側谷部 黄色土	写真のみ
472	47	土師器	小皿	I-6 西上段	カマ５西側谷部 黄色土	写真のみ
473	47	施釉陶器	椀	I-6 西上段	カマ５西側谷部 黄色土	写真のみ
474	47	施釉陶器	椀	I-6 西上段	カマ５西側谷部 黄色土	写真のみ
475	47	染付磁器	碗	I-6 西上段	カマ５西側谷部 黄色土	写真のみ
476	47	染付磁器	碗	I-6 西上段	カマ５西側谷部 黄色土	写真のみ
477	47	染付磁器	碗	I-6 西上段	カマ５西側谷部 黄色土	写真のみ
478	47	施釉陶器	椀	I-6 西上段	カマ５西側谷部 黄色土	写真のみ
479	47	磁器	碗	I-6 西南端	谷部西肩 地山岩盛土	写真のみ
480	47	染付磁器	碗	I-6 西上段	カマ５西側谷部 黄色土	写真のみ
481	47	無釉陶器	鉢	I-6 西上段	カマ５西側谷部 黄色土	写真のみ
482	47	無釉陶器	甕	I-6 西端	谷部盛土中 谷部を埋める地山岩	写真のみ
483	47	土師器	小皿	I-6	１トレ西 焼土抗上面	写真のみ
484	47	施釉陶器	小椀	I-6	カマ２南側谷部 炭層	写真のみ
485	47	青磁	瓶	I-6 西半上～中段	焼土層中（主）	写真のみ
486	47	染付磁器	碗	I-6	カマ２南側谷部 炭層	写真のみ
487	47	染付磁器	碗	I-6	カマ２南側谷部 炭層	写真のみ
488	47	染付磁器	碗	I-6	カマ 1･2 間 落込み	写真のみ
489	48	土師器	小皿	I-6 中段中央	カマ１南東部 遺構面まで	写真のみ
490	48	土師器	小皿	I-6	カマ４の西南	写真のみ
491	48	施釉陶器	皿	I-6	SD6011 の西側	写真のみ
492	48	土師器	鍋	I-6	カマ４の西南	写真のみ
493	48	磁器	碗	I-2 下段	包含層	写真のみ
494	48	染付磁器	蓋	I-2 西拡張部	カクラン内	写真のみ
495	48	染付磁器	碗	I-2 西拡張部	カクラン内	写真のみ
496	48	染付磁器	碗	I-2 東		写真のみ
497	48	染付磁器	碗	I-2 西拡張部	カクラン内	写真のみ
498	48	無釉陶器	盤	I-2	調査区中央カクラン	写真のみ
499	48	青磁	香炉	I-2		写真のみ
500	48	無釉陶器	皿	I-1 西下段	面精査	写真のみ
501	48	土師器	小皿	I-2 下段		写真のみ
502	48	土師器	小皿	I-2 下段		写真のみ
503	48	施釉陶器	皿	I-2 下段東部		写真のみ
504	48	土師器	炮烙	I-2 西拡張部	カクラン内	写真のみ
505	48	無釉陶器	擂鉢	I-2 西上段		写真のみ
506	48	施釉陶器	小壺	I-2	調査区中央の谷状 落込み	写真のみ
507	48	施釉陶器	底部	I-2 下段		写真のみ
508	48	瓦質土器	コンロ	I-2 西拡張部	カクラン内	写真のみ
509	48	土師器	小皿		包含層	写真のみ
510	48	土師器	小皿	I-3 中央南側	包含層	写真のみ
511	48	無釉陶器	擂鉢	I-3		写真のみ
512	48	瓦質土器	羽釜	I-3 南西隅		写真のみ
513	48	須恵器	捏鉢	I-3 中央南端	中世包含層	写真のみ
514	48	無釉陶器	擂鉢	I-3 中央南側	包含層	写真のみ
515	48	無釉陶器	甕	I-3		写真のみ
516	48	無釉陶器	瓶	I-3		写真のみ
517	48	白磁	碗	I-3 中央南端	包含層	写真のみ
518	48	青磁	碗	I-3		写真のみ
519	48	青磁	碗	I-3		写真のみ
520	48	染付磁器	皿	I-3 西～中央部	人力掘削	写真のみ
521	48	無釉陶器	甕	I-3		写真のみ
522	49	土師器	小皿	I-6 西部	谷部	写真のみ
523	49	土師器	鍋	I-6 西部	谷部	写真のみ
524	49	施釉陶器	椀	I-6	カマ２の西側谷部	写真のみ
525	49	染付磁器	盃	I-6	カマ２の西側谷部	写真のみ
526	49	染付磁器	碗	I-6 西南端	谷部西肩 地山岩盛土	写真のみ
527	49	染付磁器	皿	I-6	カマ２の西側谷部	写真のみ
528	49	土師器	小皿	I-6	北西斜面部 暗褐砂	写真のみ
529	49	土師器	小皿	I-6	北西斜面部 暗褐砂	写真のみ
530	49	土師器	小皿	I-6 拡張部	表土はぎ～ 面直上まで	写真のみ
531	49	無釉陶器	擂鉢	I-6 北端	濁褐色土	写真のみ
532	49	無釉陶器	擂鉢	I-6	北西斜面部 暗褐砂	写真のみ
533	49	青磁	瓶	I-6 拡張部	表土はぎ～ 面直上まで	写真のみ
534	49	染付磁器	湯呑	I-6	南側溝	写真のみ
535	49	染付磁器	仏飯具	I-6	南側溝	写真のみ
536	49	無釉陶器	擂鉢	I-6	Tr128	写真のみ
537	49	瓦器	椀	I-6	土坑	写真のみ
538	49	瓦質土器	火鉢	I-6	Tr151 北側	写真のみ
539	49	三田青磁	脚のみ	I-6	カマ２西側谷部 上半	写真のみ
540	49	染付磁器	蓋	I-6 上段	中層の掘削	写真のみ
541	49	染付磁器	小碗	I-6	カマ 1･2 間 落込み	写真のみ
542	49	染付磁器	碗	I-6	カマ４の西南	写真のみ
543	49	染付磁器	碗	I-6 中段中央	カマ１南東部 遺構面まで	写真のみ
544	49	染付青磁	碗	I-6	カマ４の西南	写真のみ
545	49	染付磁器	碗	I-6	カマ 1･2 間 落込み	写真のみ
546	49	染付磁器	碗	I-6	カマ４の西南	写真のみ
547	49	染付磁器	碗	I-6	カマ４の西南	写真のみ

表 15　広根遺跡Ⅰ区　出土遺物観察表（7）

金属製品

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）					出土地区	出土遺構・層位	備考
					長さ	幅	厚み	重量（g）	残存率			
M1	56	50	銅製品	鏡	(5.9)	(2.2)	0.6	11.2	破片	I-6 中段	カマ 1 南東部 炭層内	
M2	56	50	銅製品	飾金具	高　0.9	3.9	0.1	14.6	完存？	I-6	カマ 2 南側 谷部炭層	
M3	56	50	銅製品	燭台	高（11.9）	6.9		200.8		I-6 下段 南西隅	墓地部 整形	
M4	56	50	銅製品	煙管（雁首）	6.0	1.05	0.7	2.8	雁首完存	I-6	SD6011 の南西部 西の谷落部 東側	
M5	56	50	銅銭	寛永通寶	2.26	2.27	0.10	1.5		I-6	カマ 2 南側 谷部炭層	
M6	56	50	銅銭	寛永通寶	2.41	2.35	0.11	1.9		I-6 西端	カマ 5 西側谷部 炭層直上	
M7	56	50	銅銭	寛永通寶	2.53	2.55	0.45	11.2		I-6	西部 谷部	M7 ～ 10 付着
M8	56	50	銅銭	-								
M9	56	50	銅銭	-								
M10	56	50	銅銭	-								
M11	56	50	鉄銭	-	2.48	2.47	0.22	2.2		I-6	SD6020 南端 細くなっている所	
M12	56	51	鉄製品	刀子	(9.9)	1.4	0.6	12.4	刃部ほぼ完	I-6	SR6001 下半 茶褐色土	
M13	56		鉄製品	釘	(7.3)	0.7	0.45	2.5	頭・下端欠	I-6	SR6001 南端	
M14	56		鉄製品	釘	(3.6)	0.9	0.8	5.0	下端欠	I-6	SR6001 下半 茶褐色土	
M15	56	51	鉄製品	短刀	26.6	4.15	1.4　1.35	274.8	ほぼ完	I-4	SK4038	
M16	56	51	鉄製品	板状製品	(2.2)	1.55	0.35	2.3	一部残	I-3	SK3151	
M17	56	51	鉄製品	釘	4.0	0.85	0.55	3.0	ほぼ完	I-4	SX4026	
M18	56	51	鉄製品	釘	5.95	0.85	0.55	3.3	ほぼ完	I-2 東下段	SK2083	
M19	56	51	鉄製品	釘	6.2	0.85	0.5	4.0	ほぼ完	I-4	P4001	
M20	56	51	鉄製品	釘	(3.35)	0.7	0.6	2.6	頭・下端欠	I-4	P4002	
M21	57	51	鉄製品	釘	8.8	1.25	0.7	8.5	完存	I-6	南西端 集石内	
M22	57	51	鉄製品	釘	(8.3)	1.7	0.7	9.8	下端欠	I-6	カマ 5 西側 炭溜	
M23	57	51	鉄製品	釘	(2.1)	1.45	0.7	2.5	頭部のみ	I-6	SD6020 南端 細くなっている所	
M24	57	51	鉄製品	釘	(4.75)	0.6	0.4	2.1	頭・下端欠	I-6	SD6020 南端 細くなっている所	
M25	57	51	鉄製品	釘	7.6	1.3	1.0	10.0	完存	I-6	SD6030 埋土	
M26	57	51	鉄製品	釘	(6.05)	0.85	0.6	4.7	頭・下端欠	I-3 西	堀（北）上層	
M27	57	51	鉄製品	鎌	(12.35)	(6.25)	0.55　0.45	42.7	両端欠損	I-2	焼土坑 B	
M28	57	51	鉄製品	板状製品	タテ（6.0）	ヨコ（9.1）	0.4	30.4	破片	I-6 上段	SD6001 石組内	
M29	57	51	鉄製品	鉈	(19.8)	(7.2)	1.0　0.9	252.2	両端欠	I-3 東	東堀 上層・下層混在	
M30	57	51	鉄製品	板状製品	(5.6)	(3.3)	0.45	10.3	一部残	I-1	キカイ	
M31	57	51	鉄製品	帯状金具	(11.2)	1.6	0.35	17.5	一部残	I-6	SD6011 カマ 4・5 間	
M32	57	51	鉄製品	不明製品	3.8	5.6	0.2	14.2	ほぼ完	I-6	北西斜面部 暗褐砂	
M33	57	51	鉄製品	環状製品	(2.2)	2.1	0.7	1.8	一部残	I-6 上段 東南半	遺構面直上まで	
M34	57	51	鉄製品	扉の軸受け	(4.6)	1.7	1.1	10.4	下部欠	I-6	北西斜面部 暗褐砂	
M35		50	銅銭	皇宋通寶	1.92	2.19	0.35	1.7		I-4	P4044	M35・M36 付着 写真のみ
M36		50	銅銭	-						I-4	P4044	写真のみ
M37		50	鉄銭	-	(2.00)	(2.20)	0.19	(1.0)		I-6 南西隅	墓集石周辺 ベースまで	写真のみ
M38		51	鉄製品	釘								写真のみ

石製品

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）					出土地区	出土遺構・層位	備考
					長さ	幅	厚み	重量（g）	残存率			
S1	56	52	石器	石鏃	1.93	1.5	0.39	1.2		I-3 中央南	面精査	サヌカイト
S2	56	52	石製品	硯	8.25	7.13	3.24	225.6	全体の 1/3	I-6	SD6011	凝灰岩
S3	56	52	石製品	硯	8.4	4.3	1.23	53.0	全体の 1/4	I-2 東下段	SX2078（1 区）上層	粘板岩
S4	56	52	石器	砥石	17.55	6.85	1.36	353.8		I-2 東半中段	SK2065	凝灰岩
S5	56	52	石器	砥石	10.8	8.61	4.05	349.3		I-3	SK3133	砂岩
S6	56	52	石製品	石臼（上石）	20.7	24.1	7.5		体 1/3 強残	I-6	カマ 2 前面谷部	能勢石
S7	56	52	石造品	一石五輪塔	24.7	15.0	11.0		水輪の一部と地輪欠損	I-6	拡張区	能勢石
S8	56	52	石造品	一石五輪塔	44.7	13.2	10.4　7.35		完形	I-6	拡張区	能勢石

木製品

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）					出土地区	出土遺構・層位	備考
					長さ	幅	厚み	重量（g）	残存率			
W2-1	59	53	木製品	板材	(5.7)	6.9	2.15		一端残	I-2 東下段	SK2072	
W2-2	59	53	木製品	曲物	13.9	13.3	1.45		ほぼ完形	I-2 東下段	石積み井戸 SE2058	マツ属複維管束亜属
W2-3	59	53	木製品	網の枠	(70.0)	(21.5) 2.3	1.8 2.1 1.75		上部欠損	I-2 東下段	石積み井戸 SE2058	針葉樹
W2-4	59	53	木製品	柱	(49.1)	13.8	11.35		下部残存	I-2 東下段	集石土坑②	樹種同定　クリ
W2-5	59	53	木製品	杭	(44.05)	5.0	2.5 ～ 3.2		上部欠損 下部裏欠損	I-2 東下段	集石土坑②	樹種同定　クリ
W2-6	59	53	木製品	杭	(13.3)	5.2	2.1		下端のみ残	I-2 東下段	SK2072	
W2-7		53	木製品	付け木？						I-2 東下段	石積み井戸 SE2058	樹脂同定 ウツギ属 写真のみ
W2-8		53	木製品	漆器椀						I-2	SE2066 底付近	樹種同定 ブナ属 写真のみ

表 16　観音寺跡　出土遺物観察表（1）

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）			残存率			出土地区	出土遺構・層位	備考
					口径	器高	底径	口縁	底	他			
601	93	118	施釉陶器	椀	(11.16)	4.5	(4.4)	1/4 強	1/3	体部 1/4 強 高台 1/2 弱	1 区平坦面 4	SK1411	
602	93	118	無釉陶器	壺	(22.9)	(5.6)		1/4 弱			1 区平坦面 4	方形落込みセクションより西上層	14C 初頭前後 丹波焼
603	93	118	瓦	仏具の一部	長 3.1		厚 2.5+ α				1 区平坦面 4	東側 方形落込み内 遺構面	瓦当幅 10.8 cm
604	93	118	無釉陶器	擂鉢	(19.4)	(8.0)	(10.0)	1/8		体部 1/8	1 区平坦面 4	西半部 北斜面　集石内	15C 後 備前ⅣB（古）
605	93	118	青磁	碗		(3.85)	5.2		3/5	体部下半 1/4 高台 3/5	1 区平坦面 4	SD1401 西端集石中	16C 代 龍泉窯
606	93	118	土師器	小皿	(7.8)	1.5	(5.0)	1/4	1/4 強		1 区平坦面 4		
607	93	118	土師器	皿	(13.6)	(1.85)		1/7 強			1 区	平坦面 4 と平坦面 3 の間	
608	93	118	土師器	羽釜	(19.9)	(10.3)		1/4 弱		体部上半 1/4 弱 鍔 1/4 弱	1 区	平坦面 4 と平坦面 3 の間	15C 後～ 16C 前 兵庫津ⅢA類
609	93	118	土師質	香炉		(6.5)				体部 1/4	1 区平坦面 4	北斜面	
610	93	118	瓦質土器	香炉	(9.9)	(4.7)	(7.3)	1/8	若干		1 区平坦面 4		三足脚の痕跡あり
611	93	118	瓦質土器	風炉	(26.2)	(2.4)		1/8			1 区平坦面 4	東半部	
612	93	118	無釉陶器	擂鉢	(31.8)	12.2	(11.8)	1/6	1/3	体部 1/6	1 区平坦面 4		16C 前半 備前ⅣB（新）
613	93	118	無釉陶器	甕	(49.2)	(16.95)		小片		体部小片	1 区平坦面 4		14C 代　丹波焼
614	93	118	青磁	碗	(13.3)	7.27	(4.4)	1/4 弱	1/2 強	体部 1/2 弱 高台 1/2 強	1 区	平坦面 4 と平坦面 3 の間	16C 前 龍泉窯

表 16　観音寺跡　出土遺物観察表（2）

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）			残存率			出土地区	出土遺構・層位	備考
					口径	器高	底径	口縁	底	他			
615	93	118	青磁	碗	(12.3)	(4.75)		1/9		体部 1/4	1 区平坦面 4	北端 中世の旧地表中 下層断ち割り次	
616	94	118	施釉陶器	小皿	(8.7)	2.0	(4.4)	1/7	1/4		1 区平坦面 3	SE1302	瀬戸・美濃 (黄瀬戸)
617	94	118	施釉陶器	皿	(14.6)	3.65	(6.8)	若干	若干	体部 1/6	1 区平坦面 3	SE1302（仮）集石間 北東隅 集石	唐津
618	94	118	瓦質土器	奈良火鉢	(20.8)	(5.6)		1/10		体部若干	1 区平坦面 3	SE1302	16C 代　風炉Ⅲ
619	94	118	瓦	軒平瓦	長 3.5	高 4.45	厚・瓦当 2.25				1 区平坦面 3	SE1302	
620	94	118	無釉陶器	擂鉢	(28.3)	(4.35)		1/7			1 区平坦面 3	SE1302（仮）集石間 北東隅 集石	16C 後半　丹波焼
621	94	119	土師器	小皿	9.2	1.8	4.2	ほぼ完存	ほぼ完存		1 区平坦面 3	SX1303	
622	94	119	土師器	小皿	8.9	2.0	3.4	2/3 弱	ほぼ残存	体部 2/3 弱	1 区平坦面 3	SX1303	
623	94	119	土師器	鍋	(22.4)	(10.1)		1/4		体部若干	1 区平坦面 3	SX1304	15C 後半～16C 初頭 兵庫津Ⅳ類か
624	94	119	瓦器	椀	(12.7)	4.75	(5.4)	1/12	ほぼ完存		1 区平坦面 3	SX1304 中層	13C 代
625	94	119	無釉陶器	擂鉢		(8.65)	(14.5)		1/8		1 区平坦面 3	SX1304	丹波焼
626	94	119	無釉陶器	壺	(11.7)	27.85	15.4	1/2	7/8	体部 1/6	1 区平坦面 3	SX1304	丹波焼
627	94	119	施釉陶器	皿	(10.6)	2.55	(4.7)	1/4	1/2		1 区平坦面 3	SX1304	瀬戸・美濃
628	94	119	土師器	小皿	(9.4)	(1.95)		1/8		体部 1/8	1 区平坦面 3	集石溝中	薄手
629	94	119	瓦器	小椀	(10.9)	(2.8)		1/5			1 区平坦面 3	SD1310 対応？ 集石溝内	
630	94	119	須恵器	捏鉢	(30.4)	(4.05)		1/7		体部若干	1 区平坦面 3	集石溝中	
631	94	120	須恵器	捏鉢	(35.7)	(6.25)		小片			1 区平坦面 3	SD1301 section ②中	14C 後半？ 兵庫津Ⅰ1 類
632	94	120	無釉陶器	擂鉢	(31.9)	(8.5)		1/6 弱			1 区平坦面 3	北側の雨落ち溝	丹波焼
633	95	120	土師器	小皿	(9.6)	(2.3)	体部との境が不明瞭	1/8	1/4	体部 1/6	1 区平坦面 3	南東半　遺構検出	
634	95	120	瓦器	椀	(12.7)	(4.3)		1/8 弱		体部 1/4	1 区平坦面 3	東半　北山面までの掘削	13C 代
635	95	120	施釉陶器	丸皿	(10.7)	3.1	6.1	1/6	ほぼ完存 高台 3/5	体部 1/6	1 区平坦面 3	北東スミ　流土中	黄瀬戸
636	95	120	無釉陶器	擂鉢	(33.2)	(5.4)		若干		体部若干	1 区平坦面 3	北東半　流土中	15C 初頭前後 備前Ⅲ B 類
637	95	120	無釉陶器	擂鉢	(31.6)	(7.3)		小片		体部小片	1 区平坦面 3	北東ｺｰﾅｰ　遺構面上 流土	16C 前 備前Ⅳ B（新）
638	95	120	無釉陶器	甕	(26.3)	(10.1)		1/8		肩部 1/8	1 区平坦面 3	東側谷筋	13C 後～14C 前 丹波焼
639	95	120	無釉陶器	甕	(35.5)	(7.55)		1/11			1 区平坦面 3	北東半～中央　流土 直下～遺構面まで	13C 後～14C 前 丹波焼
640	95	120	施釉陶器	天目椀	(12.3)	(5.85)		1/4 強		体部 1/4 強	1 区平坦面 3	北東半～中央　流土 直下～遺構面まで	17C 前後 瀬戸・美濃
641	95	120	施釉陶器	天目椀		(4.3)	3.84		ほぼ完存	体部下半 1/2 弱	1 区平坦面 3	南東半　表土下 流土中	17C 前後 瀬戸・美濃
642	95	121	青磁	碗		(5.5)	(4.4)		1/8	体部若干	1 区平坦面 3	西半　遺構面直上まで	細線蓮弁文 龍泉窯
643	95	122	無釉陶器	壺	(10.8)	(5.95)		1/3			1 区平坦面 1		17C 前後　備前焼
644	95	122	施釉陶器	三足香炉	(6.2)	4.9	(3.7)	5/12	1/3		1 区平坦面 1		
645	95	122	染付	仏飯具	(7.0)	5.75	(4.4)	1/12		脚部 1/3	1 区平坦面 1	南側石列検出時	18C 以降
646	95	122	瓦質土器	脚部	長 7.2	高 7.2	厚 5.98			脚部 4/5	1 区 池東側堤	池東側堤	
647	95	122	瓦	軒平瓦	長 11.8	高 4.45	厚 1.6				1 区 池東側堤	池東側堤	
648	95	122	土師器	羽釜	(17.7)	(13.0)		1/9		体部 1/4	1 区　池	池　底埋土	15C 中頃前後 兵庫津ⅢC 類
649	95	137	無釉陶器	盤	(41.4)	4.6	(31.4)	1/10	若干		1 区　池	池　底埋土	
650	96	121	土師器	小皿	7.7	1.5	体部との境が不明瞭	1/4 強	ほぼ残存	体部ほぼ残存	1 区平坦面 2	面精査	
651	96	121	瓦	軒丸瓦	長 7.12					瓦当一部欠	1 区平坦面 2	西　埋甕周辺	瓦当直径） 14.85
652	96	121	無釉陶器	便甕	61.0	83.6	27.6	ほぼ完存		ほぼ完形 (体部若干欠)	1 区平坦面 2	東埋甕	16C 中頃 備前Ⅴ（古）
653	96	121	無釉陶器	甕	47.5	51.35	18.45	1/2	完存	体部完	1 区平坦面 2	西埋甕	17C 前半　丹波焼
654	97	123	施釉陶器	蓋	(13.1)	3.7	つまみ径 3.6	1/3		天井 1/3 強	5 区下段	瓦だめ	
655	97	123	瓦質土器	火鉢	(16.05)	8.95	16.1	1/3	4/5	体 1/3	5 区下段	瓦だめ	
656	97	123	瓦	軒丸瓦	長 17.3	高 16.8	厚 1.8	瓦当完存		体 1/3 ？	4 区	尾根上（西部）表土中	
657	97	123	瓦	鳥衾瓦	長 13.6	高 12.8	厚 1.6	瓦当周縁 1/2		体不明	4 区	尾根上（西部）表土中	
658	97	123	瓦	軒平瓦	長 13.95	高 4.3	厚 2.0	瓦当 3/4		体 1/3	4 区	東の尾根上 (五輪塔の周辺)	
659	97	123	土師器	小皿	(7.2)	(1.6)	(2.15)	1/2 強	1/2 強		5 区下段	SX5002 周辺	やや厚手
660	97	123	土師器	小皿	(8.1)	1.8		1/2			5 区下段	暗褐砂	
661	97	123	土師器	小皿	(7.3)	1.4				1/3	5 区下段	暗褐砂	
662	97	123	土師器	灯明皿	(8.1)	1.9		1/2	1/2		5 区中下段間	斜面	
663	97	123	土師器	小皿	(9.9)	2.1		1/2	1/2		5 区中下段間	斜面	
664	97	123	土師器	小皿	(10.2)	(1.65)	(6.2)	1/4	1/4		5 区下段	SX5002 周辺	厚手
665	97	123	土師器	小皿	(12.7)	2.5		1/4			5 区下段	表土 2 層	
666	97	123	土師質	羽口	長（3.7）	厚 1.45	幅（6.75）			一部残	5 区中段	黄褐砂	
667	97	123	土師器	擂鉢	(21.6)	(4.2)		1/7			5 区中段	黄褐砂	17C 代～18C 代か
668	97	123	土師器	鍋	(19.8)	(7.25)		1/4		体部若干	5 区中段	東平坦面　黄褐砂	14C 後半代 兵庫津Ⅲ類
669	97	123	無釉陶器	盤	(23.8)	5.8	(16.4)	1/8	1/8		5 区中下段間	斜面　表土下	
670	97	123	施釉陶器	椀	(15.8)	(4.4)		1/8			5 区中下段間	斜面　表土下	黄瀬戸
671	97	123	青磁	碗		(3.65)	5.1		完存	高台 2/3	5 区中段	地山上№ 0 R15 周辺	8 弁蓮花　龍泉窯
672	98	124	土師器	小皿	7.95	1.95		2/5 欠損			4 区	SX4009 北側	
673	98	124	土師器	小皿	7.8	1.55		1/2	1/5		4 区	SX4009 北側	
674	98	124	土師器	小皿	7.5	(1.5)		3/4			4 区	SX4009 北側	
675	98	124	土師器	小皿	8.05	1.75		2/3 欠損			4 区	SX4029	
676	98	124	土師器	小皿	7.7	1.75				ほぼ完形	4 区	SX4029	
677	98	124	土師器	小皿	7.8	1.6				ほぼ完形	4 区	SX4029	
678	98	124	土師器	小皿	7.4	1.6				ほぼ完形	4 区	SX4029	
679	98	124	瓦器	椀	12.7	3.8	5.65	1/4	完存		4 区	SX4029	
680	98	124	瓦器	椀	12.0	(3.9)	5.55	1/2	2/3		4 区	SX4029	
681	98	124	土師器	小皿	(8.5)	1.25	(4.6)	1/3	若干		4 区	SX4051-Ⅷ	
682	98	124	瓦器	椀	(12.4)	3.85	(5.0)	1/6	若干		4 区	SX4054-E	14C 代
683	98	124	土師器	鍋	(21.1)	(13.9)	(10.0)	1/2 強	2/3	体部 2/3	4 区	SX4064 蔵骨器	14C 前 兵庫津Ⅲ類
684	98	124	土師器	鍋		(6.4)	(22.0)		1/5	体部 1/3	4 区	SX4016 蔵骨器	蔵骨器
685	98	124	須恵器	捏鉢	(27.2)	8.3	11.6	1/4	完形	体部 2/3	4 区	SX4017 こね鉢	15C 初前後　蔵骨器
686	98	124	無釉陶器	甕		(29.25)				体部小片	4 区	SX4043-Ⅶ	丹波焼か
687	99	125	瓦質土器	経筒（蓋）	(18.1)	(4.5)		1/9		天井部 1/8	4 区平坦面	表土中	
688	99	125	瓦質土器	経筒	(15.9)	24.4	(13.8)	若干	若干	体部 1/8	4 区	南西斜面　流土中	
689	99	125	瓦質土器	経筒（蓋）	(17.0)	(2.5)		小片			4 区	南西斜面　流土中	
690	99	125	瓦質土器	経筒	(14.4)	23.4	(15.0)	1/4	1/8	体部若干	4 区平坦面	表土中	
691	99	125	瓦質土器	経筒（蓋）		(0.9)				天井部若干	4 区平坦面	表土中	
692	99	125	瓦質土器	経筒	(16.9)	(4.9)		1/7 (端部欠)			4 区	尾根上（西部）表土中	
693	99	125	瓦質土器	経筒		(4.3)	(14.0)		小片		4 区南斜面	表土中	
694	99	125	土師器	小皿	8.45	1.5	4.1	1/2	3/4 強		Tr9		16C 初頭前後
695	99	125	土師器	へそ皿	(7.65)	(1.3)				1/4（口縁～体部）	4 区	南北 Tr157 の西側 (Tr171 付近）表土中	
696	99	125	瓦質土器	風炉	(39.0)	(9.3)				腹部わずか	4 区	尾根南斜面表土か	
697	99	125	無釉陶器	盤 or 鬢盥		(3.95)		若干		体部若干	4 区	西斜面　表土中	15C 前後か
698	99	124	無釉陶器	甕	(23.4)	(5.05)		1/4 強		体部若干	4 区北斜面	表土中	14C 後半　丹波焼
699	99	124	無釉陶器	甕	(23.8)	(13.9)		1/5		体部若干	4 区平坦面	表土中	14C 後半　丹波焼
700	99	125	施釉陶器	椀	(14.3)	(4.2)				1/5 弱（口縁～体部）	4 区	流土中	瀬戸・美濃 黄瀬戸丸碗
701	100	126	施釉陶器	ピラかけ椀	7.2	5.2	3.15	2/3	完存	体部 2/3	2 区上段	SX2006	19C 前半
702	100	126	白磁	紅皿	4.8	1.45	1.15	3/4	完存		2 区	SX2010	19C 後半
703	100	126	白磁	紅皿	4.6	1.3	1.25			ほぼ完存	2 区上段	SX2073	19C 後半
704	100	126	土製品	鳩笛	長 6.15	高 3.87.4	幅 2.5			完存	2 区	SX2079	近世
705	100	126	染付磁器	碗	10.25	6.0	3.4			ほぼ完形	2 区	SX2098	19C 前半以降

表 16　観音寺跡　出土遺物観察表（3）

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）			残存率			出土地区	出土遺構・層位	備考
					口径	器高	底径	口縁	底	他			
706	100	126	施釉陶器	天目椀	(11.85)	6.6	5.05	若干	完存	体部 1/4	2 区	SX2107	瀬戸・美濃系
707	100	126	染付磁器	碗		(5.5)	(3.4)		1/3	体部 1/6	2 区	SX2107	17C 後半代
708	100	126	染付磁器	碗	9.6	5.45	3.8	5/6	ほぼ完存		2 区	SX2123	波佐見産
709	100	126	青磁	瓶		(8.1)	(5.9)			体～底 1/4 弱	2 区	SX2042	肥前系
710	100	127	土師器	小皿	(8.4)	2.0	3.3	端部わずか	完存		2 区	SX2043	
711	100	127	染付磁器	小杯	(5.6)	3.0	2.7	1/2 弱	完存		2 区	SX2043	近代以降
712	100	126	染付磁器	小杯	(7.4)	4.9	(3.2)	若干	1/2 弱		2 区	SX2066	18C 前半
713	100	126	土師器	小皿	(6.7)	1.4	(3.9)			1/2 弱	2 区	SX2067	
714	100	126	土師器	小皿	8.6	1.9		1/2 強	1/3		2 区	SX2081	
715	100	126	染付磁器	碗	9.95	5.4	4.05			完形	2 区	SX2082	波佐見産
716	100	127	瓦質土器	行火		(9.5)	幅（18.6）			天井部 1/3	2 区	SX2025	
717	100	127	染付磁器	小皿	(7.8)	2.55	4.25	1/8	7/8		2 区	SX2092	手塩皿
718	100	127	染付磁器	碗	10.15	6.0	4.75	5/6	完	高台 1/3 欠	2 区	SX2124	広東碗
719	100	127	染付磁器	碗	10.95	5.95	4.5	ほぼ完形	ほぼ完形		2 区	SX2127	
720	100	127	施釉陶器	甕	(17.2)	(20.2)		2/5			2 区	SX2125	18C 末～19C 前 丹波
721	101	128	陶器	擂鉢	(25.3)	11.2		2/5	1/3		2 区	SX2097	16C 末～17C 初 須佐唐津
722	102	128	土師器	蓋	(17.2)	3.5		1/6		天井部 1/3	2 区	南西部　表土中	骨壺に転用
723	101	128	土師器	火消壺	16.15	26.9	(18.2)	3/4	5/6	体部 7/8	2 区上段	北側西斜面 木の根間　北骨壺　SX2136	骨壺に転用
724	101	128	土師器	火消壺 (蓋)	(22.8)	4.75		1/4 弱		天井部 1/8 つまみ端部 1/2	2 区上段	北側　蔵骨器　SX2136	骨壺に転用 墨書あり
725	101	128	土師器	火消壺	(1.94)	29.95	21.4	1/3	完存	体部 1/2	2 区上段	中央西斜面　南骨壺　SX2137	骨壺に転用
726	101	128	施釉陶器	甕	19.4	19.5	9.0	7/8	完存		2 区上段	中央東　SX2135 骨壺	丹波焼
727	101	128	陶器	鉢	29.3	24.7	17.3			ほぼ完存	2 区上段	SX2005	丹波焼
728	101	128	施釉陶器	甕	(24.8)	25.0	15.9	1/8	ほぼ完存		2 区上段	SX2005	丹波焼
729	102	129	土師器	小皿	9.75	2.15		3/4	完存		2 区と平坦面 4 の間	SX2100 の上層の 整地層から	
730	102	129	土師器	小皿	(9.8)	1.95		2/5	1/2		2 区	SX2109　上面　火葬場	
731	102	129	土師器	小皿	(6.9)	1.4		2/5	1/3		2 区	SX2114　下層 SX2116 までの層	
732	102	126	土師器	小皿	(9.2)	1.3		1/4	1/2		2 区	SX2114　下層 SX2116 までの層	
733	102	129	土師器	小皿	(10.3)	1.85		2/5			2 区	SX2114　下層 SX2116 までの層	
734	102	129	土師器	小皿	(10.4)	1.75		1/4	1/4		2 区	SX2114　下層 SX2116 までの層	
735	102	129	土師器	小皿	(9.0)	2.05		1/3	2/3		2 区	SX2114　下層 SX2116 までの層	
736	102	129	染付磁器	小杯	5.35	4.0	2.35			ほぼ完存	2 区	SX2114　下層 SX2116 までの層	18C 代
737	102	129	土師器	皿	13.35	2.35		1/3	完存		2 区	SX2117　下層	15C 後半代
738	102	130	土師器	灯明皿	(10.9)	1.8				2/5	2 区上段	南端　風空輪出土石組	
739	102	127	土師器	小皿	(10.6)	1.9		1/3			2 区中段	SD2002 中段の南東端	
740	102	129	青磁	皿	タテ（7.4）	2.8	ヨコ 10.8			2/3	2 区	SX2010	三田青磁
741	102	128	無釉陶器	骨壺（蓋）	10.4	5.05				天井部 1/6 欠	2 区	現代骨壺	蔵骨器
742	102	128	無釉陶器	骨壺（身）	16.0	15.8	15.4			ほぼ完存	2 区	現代骨壺	蔵骨器
743	102	130	土師器	小皿	6.6	1.4				ほぼ完存	2 区上段	南西おちかかり	
744	102	130	土師器	小皿	7.3	1.4				3/5	2 区上段	南端　表土 2 層目	
745	102	130	土師器	灯明皿	7.4	1.5		端部 5/6	完存		2 区	南西部　表土中	
746	102	130	土師器	小皿	9.1	1.7				1/2 強	2 区上段	南側	
747	102	130	土師器	灯明皿	9.2	2.1		3/4	完存		2 区	南西部　表土中	
748	102	130	土師器	小皿	8.8	1.8		2/3	1/5		2 区上段	南端　表土 2 層目	
749	102	130	土師器	小皿	(10.0)	2.5		端部 1/2	完存		2 区	南西部　表土中	
750	102	130	土師器	灯明皿	(10.6)	2.6		1/2 強			2 区	南西部　表土中	
751	102	131	土師器	小皿	(11.0)	(2.55)		1/4			2 区上段	南端　表土 2 層目	
752	102	130	土師器	小皿	(8.7)	1.5				1/2	2 区上段	南西おちかかり	
753	102	130	土師器	灯明皿	7.85	1.5	3.0	1/2 強	完存		2 区上段	南西おちかかり	19C 代　柿釉
754	102	130	土師器	灯明皿	8.5	1.6	5.5			完形	2 区上段	西段際	
755	102	130	土師器	火入れ	(11.5)	7.5	10.6		完存	口～体 1/3 脚 2/3	2 区上段	西段際	
756	102	130	施釉陶器	椀	(10.4)	5.1	3.9	1/6	完存		2 区上段	南側	肥前系 刷毛目唐津
757	102	130	染付磁器	碗	(10.2)	6.1	4.35	1/12	完存		2 区上段	南西おちかかり	17C 後～末 肥前系
758	102	130	染付青磁	碗	(11.5)	(4.05)		1/4 強			2 区	南西部　表土中	19C 前半　波佐見
759	102	130	染付磁器	碗	(11.2)	(5.9)		1/3			2 区	南西部　表土中	肥前系
760	102	130	染付青磁	碗	10.8	(3.6)		3/4			2 区	南西部　表土中	18C 後半
761	102	130	染付磁器	碗	11.3	6.5	6.3	ほぼ完存		高台 3/4	2 区上段	南端　表土中	19C 前半　広東碗
762	103	131	土師器	灯明皿	7.5	1.4				3/5	2 区	南端　にぶい黄褐細砂	1 層
763	103	131	土師器	小皿	7.3	1.5				3/4	2 区	南端上部灰層より上 1 層	1 層
764	103	131	土師器	小皿	(9.2)	1.2				1/6	2 区	南端上部灰層より上 1 層	1 層
765	103	131	土師器	小皿	(8.7)	(1.2)		1/5			2 区	南端　にぶい黄褐細砂	1 層
766	103	131	土師器	小皿	(10.4)	1.4		1/5			2 区	南端　にぶい黄褐細砂	1 層
767	103	131	土師器	小皿	(9.4)	1.9		1/5	1/4		2 区	南端　にぶい黄褐細砂	1 層
768	103	131	土師器	小皿	(9.5)	(1.75)		1/4 弱			2 区	南端　にぶい黄褐細砂	1 層
769	103	131	土師器	小皿	(9.5)	2.0				1/4	2 区	南端上部灰層より上 1 層	1 層
770	103	131	土師器	小皿	(9.0)	2.1		1/5			2 区	南端上部灰層より上 1 層	1 層
771	103	131	土師器	小皿	(8.9)	1.6		1/10			2 区	南端　にぶい黄褐細砂	1 層
772	103	131	土師器	小皿	(12.5)	(1.1)		1/7			2 区	南端　にぶい黄褐細砂（1 層）	15C 後半か 京都系
773	103	131	土師器	鍋	(21.7)	14.9		1/4	ほぼ完存	体部 1/3	2 区	南端上部灰層より上 1 層	14C 後半代 兵庫津Ⅲ類
774	103	131	土師器	紅皿	6.5	1.8	2.4			ほぼ完存	2 区	南端　にぶい黄褐細砂	下層第 1 層
775	103	131	土師器	紅皿	6.6	1.7	2.4			完存	2 区	南端　にぶい黄褐細砂	下層第 1 層
776	103	131	土製品	ミニチュア 擂鉢	(10.8)	3.9	3.7	1/4	完存		2 区	南端　にぶい黄褐細砂	下層第 1 層
777	103	131	染付磁器	小碗	7.8	3.6	3.4			ほぼ完存	2 区	南端　にぶい黄褐細砂	18C 前半
778	103	131	染付磁器	碗	9.4	5.2	3.9			ほぼ完存	2 区上段	南端　上灰層（2 層）	肥前系
779	103	131	染付磁器	碗	10.3	5.7	4.0	3/4	完存		2 区上段	南端　上灰層（2 層）	肥前系
780	103	131	染付磁器	碗	10.3	5.3	4.0	若干欠損		ほぼ完存	2 区上段	南端　上灰層（2 層）	肥前系　波佐見
781	103	131	染付磁器	碗	9.8	5.05	4.7	7/8	完存		2 区上段	南端　上灰層（2 層）	肥前系　波佐見
782	103	132	土師器	小皿	(7.2)	1.3		1/4	2/3		2 区	南端 3 層　灰層間層	
783	103	132	土師器	小皿	(7.3)	1.3		1/3	若干		2 区	南端 3 層　灰層間層	
784	103	132	土師器	小皿	7.8	1.7		3/4	完存		2 区	南端 3 層　灰層間層	やや厚手
785	103	132	土師器	小皿	8.2	1.85		11/12	完存		2 区	南端 3 層　灰層間層	薄手
786	103	132	土師器	へそ皿	(8.0)	1.85		1/4	1/3		2 区	南端 3 層　灰層間層	京都系
787	103	132	土師器	小皿	(10.0)	1.9		1/4	1/3		2 区	南端 3 層　灰層間層	
788	103	132	土師器	小皿	(10.6)	1.6		1/4	若干		2 区	南端 3 層　灰層間層	
789	103	132	土師器	小皿	(10.4)	1.65		1/2	1/2		2 区	南端 3 層　灰層間層	
790	103	132	土師器	小皿	(11.3)	1.8		1/2	1/2		2 区	南端 3 層　灰層間層	
791	103	132	土師器	皿	(13.0)	1.75		1/12			2 区	南端 3 層　灰層間層	京都系？
792	103	132	土師器	鍋	(21.4)	(13.4)		1/4		体部 1/8	2 区	南端 3 層　灰層間層	15C 前半～中 兵庫津Ⅳ類
793	104	132	土師器	小皿	(6.8)	(1.2)	(3.1)	1/4	若干		2 区	南端　下灰層（4 層）	
794	104	132	土師器	小皿	7.1	1.6	4.2		若干欠損	ほぼ完形	2 区	南端　下灰層（4 層）	
795	104	132	土師器	小皿	7.9	1.8	体部との境が不明瞭	若干欠損		ほぼ完形	2 区	南端　下灰層（4 層）	
796	104	132	土師器	小皿	(8.2)	1.5	(5.6)	1/4	1/2 弱		2 区	南端　下灰層（4 層）	
797	104	132	土師器	小皿	(8.9)	(1.6)	(4.7)	1/4	若干	体部 1/4	2 区	南端　下灰層（4 層）	
798	104	132	土師器	小皿	(9.8)	1.4	体部との境が不明瞭	1/6 強	1/6 強 (中心は欠)		2 区	南端　下灰層（4 層）	
799	104	132	土師器	皿	(10.8)	(2.1)	(7.4)	1/2	1/2		2 区	南端　下灰層（4 層）	薄手
800	104	132	土師器	小皿	(10.6)	1.1	(8.3)	1/8	1/8 (中心は欠)		2 区	南端　下灰層（4 層）	
801	104	132	土師器	皿	(12.7)	(2.4)	(9.1)	1/3	1/4		2 区	南端　下灰層（4 層）	薄手
802	104	132	土師器	皿	(13.0)	(2.1)	(8.7)	1/5	若干	体部 1/5	2 区	南端　下灰層（4 層）	厚手

表 16　観音寺跡　出土遺物観察表（4）

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）			残存率			出土地区	出土遺構・層位	備考
					口径	器高	底径	口縁	底	他			
803	104	132	土師器	へそ皿	(8.4)	1.7	(3.8)	1/6	若干	体部 1/4	2 区	南端 下灰層（4 層）	京都系
804	104	132	土師器	皿		(2.6)		小片	若干		2 区	南端 下灰層（4 層）	京都系
805	104	132	土師器	皿	13.4	(2.9)	8.3	3/4	3/4 (中心は欠)	体部 3/4	2 区	南端 下灰層（4 層）	京都系
806	104	132	陶器	擂鉢	(29.8)	14.3	(11.2)	1/8	1/3		2 区	南端 3 層 灰層間層	丹波
807	104	132	染付磁器	碗	10.1	5.8	4.1			ほぼ完存	2 区	南端 3 層 灰層間層	
808	104	132	染付磁器	小杯	6.9	4.6	3.3			完形	2 区	南端 3 層 灰層間層	18C 前半か
809	104	132	青磁	猪口	8.0	5.4	4.2	3/4	完存		2 区	南端 3 層 灰層間層	
810	104	133	土師器	小皿	(7.3)	1.5		1/2	1/2		2 区上中段間	南斜面	
811	104	133	土師器	小皿	7.7	1.6		1/7	1/3		2 区上中段間	南斜面	
812	104	133	土師器	小皿	8.2	1.7		3/4	ほぼ完存		2 区上中段間	南斜面と東斜面の境の辺 木の根から	
813	104	133	土師器	小皿	(9.8)	2.0		1/3	7/8		2 区上中段間の南斜面	炭原埋土	
814	104	133	土師器	灯明皿	9.9	2.4		1/2	ほぼ完存		2 区上中段間	南斜面と東斜面の境の辺 木の根から	やや厚手
815	104	133	土師器	小皿	(8.3)	2.4		1/4	1/4		2 区上中段間	南斜面	やや厚手
816	104	133	土師器	小皿	(10.4)	(2.1)		1/4	1/3		2 区上中段間	南斜面	薄手
817	104	133	土師器	小皿	10.2	1.9		3/4	完存		2 区上中段間	南斜面と東斜面の境の辺 木の根から	薄手
818	104	133	土師器	小皿	8.8	1.9		ほぼ完形	ほぼ完形		2 区上中段間	南斜面	京都系
819	104	133	染付青磁	蓋	9.5	3.15	つまみ径 4.1	端部 1/2		天井部完存	2 区	上中段間斜面 西端	
820	104	133	施釉陶器	椀	(11.3)	5.5	4.1	1/2	ほぼ完存		2 区上中段間の南斜面	炭原埋土	刷毛目唐津
821	104	133	染付青磁	碗	(11.6)	6.9	4.8	1/5	5/6		2 区上中段間	南斜面	18C 後半
822	104	133	染付	小碗	7.5	4.4	3.45	若干欠損	完形		2 区上中段間	南斜面	
823	104	133	青磁	碗	9.7	5.6	4.5			完形	2 区上中段間の南斜面	炭原埋土	
824	104	133	染付磁器	碗	9.7	5.4	4.0	ほぼ完形	ほぼ完形		2 区上中段間	南斜面	18C 前半　肥前系
825	104	133	染付磁器	碗	10.6	5.6	4.3	1/2	完形		2 区上段	南斜面 精査時	18C 後半　波佐見
826	105	133	土師器	小皿	7.1	1.7	4.6			ほぼ完形	2 区中段	表土中	
827	105	133	土師器	小皿	7.9	1.7	体部との境が不明瞭			ほぼ完形	2 区中段	表土中	
828	105	134	土師器	灯明皿	7.4	1.6				1/3	2 区中段	表土中	やや厚手
829	105	134	土師器	小皿	(8.9)	1.9				1/3	2 区中段	表土中	
830	105	133	土師器	灯明皿	8.5	2.1	7.4			ほぼ完形	2 区中段	表土中	厚手
831	105	133	土師器	灯明皿	9.04	1.7	8.3	11/12	完存		2 区中段	表土中	
832	105	134	土師器	小皿	(8.4)	1.7		1/2 弱	2/3		2 区中段	表土中	
833	105	133	土師器	小皿	9.22	2.0	6.6	8/9	完存		2 区中段	表土中	厚手
834	105	133	土師器	灯明皿	9.6	1.9	5.9			完形	2 区中段	表土中	厚手
835	105	133	土師器	小皿	10.1	2.2	6.3			ほぼ完形	2 区中段	表土中	厚手
836	105	133	土師器	小皿	9.6	2.2	4.1			ほぼ完形	2 区中段	表土中	厚手
837	105	133	土師器	皿	12.04	3.0	6.2	5/8	1/2	体部 3/4	2 区中段	表土中	厚手
838	105	134	土師器	皿	(12.4)	1.8				2/5	2 区中段	表土中	
839	105	134	染付磁器	碗	9.6	5.8	3.6			ほぼ完存	2 区中段	表土中	18C 後半　波佐見
840	105	134	染付磁器	碗	9.7	5.1	4.0			ほぼ完存	2 区中段	表土中	18C 後半　波佐見
841	105	135	土師器	小皿	(8.0)	1.55	4.2	1/4	完存	体部 1/4	2 区中段	西端 炭層上面	薄手
842	105	134	土師器	小皿	(9.8)	1.5	(5.7)	3/4	3/4	体部 3/4	2 区中段	西端 炭層上面	
843	105	135	土師器	皿	(11.8)	(1.45)	(3.4)	1/2		体部 1/2	2 区中段	西端 炭層上面	やや厚手 京都系
844	105	135	施釉陶器	菊皿	(12.65)	(3.4)	(7.3)	1/5	1/4	体部 1/5	2 区中段	西端 炭層上面	18C 初頭前後 美濃窯
845	105	134	白磁	小杯	(7.95)	5.95	4.8	2/3	完存	体部 2/3	2 区中段	西端 炭層上面	19C 前半
846	105	134	染付磁器	小杯	(7.4)	5.3	3.65	若干	完存	体部わずか	2 区中段	西端 炭層上面	
847	105	134	染付磁器	碗	(9.6)	5.25	3.9	1/2	完存	体部 1/2	2 区中段	西端 炭層上面	18C 後半　波佐見
848	105	135	土師器	小皿	(8.0)	1.6		1/4	1/3		2 区中段	炭層	
849	105	135	施釉陶器	丸皿	(9.6)	1.9	(6.3)			1/3	2 区中段	炭層	瀬戸・美濃産
850	105	135	染付青磁	碗	(10.7)	5.8	4.5	1/4	完存		2 区中段	炭層	18C 後半～末
851	105	135	染付磁器	碗	(9.3)	6.25	3.75	1/3	完存	体部 1/3	2 区中段	炭層	
852	105	135	土師器	小皿	7.2	1.6				1/2 強	2 区中段	石造物 精査時	
853	105	135	土師器	小皿	9.25	2.2		4/5	完存		2 区中段	石造物 精査時	
854	105	135	土師器	小皿	(9.3)	1.55	(5.8)	1/3	2/3	体部 1/3	2 区中段	西部 石造群の東	薄手
855	105	135	施釉陶器	筒形椀	(7.5)	5.5	(4.4)	若干	3/4		2 区中段	石造物 精査時	刻印・墨書あり
856	106	135	土師器	へそ皿	7.6	1.5				ほぼ完形	2 区中段	東斜面	灯明皿
857	106	135	土師器	へそ皿	8.9	1.65				完形	2 区中段	東斜面	
858	106	135	土師器	小皿	9.05	1.8				ほぼ完形	2 区中段	東斜面	
859	106	135	土師器	小皿	7.75	1.6				ほぼ完形	2 区中段	東斜面	灯明皿
860	106	136	施釉陶器	皿	8.9	1.9	3.9			完形	2 区中段	東斜面	近代
861	106	136	施釉陶器	皿	12.25	2.9	5.1			完形	2 区中段	東斜面	近代
862	106	135	無釉陶器	甕	(37.9)	35.4	(18.0)	1/4	2/3	体部 2/3	2 区中段	東斜面	17C 代　丹波
863	106	136	土師器	小皿	7.15	1.75				完形	2 区中段	南端	
864	106	136	土師器	小皿	7.0	1.3	2.45	ほぼ完存	ほぼ完存	完存	2 区中段	南端	
865	106	136	土師器	皿	9.65	1.75	4.0	完存	完存	完存	2 区中段	南端	厚手
866	106	136	土師器	皿	9.6	1.95	3.65	完存	完存	完存	2 区中段	南端	厚手
867	106	136	土師器	皿	9.0	1.45	4.15	完存	完存	完存	2 区中段	南端	厚手
868	106	136	土師器	皿	(10.2)	2.3	5.1	2/3		2/3 体部	2 区中段	南端	やや薄手
869	106	136	染付磁器	碗	(10.6)	(4.9)	(3.8)	2/3	2/3	体部 2/3	2 区中段	南端	
870	106	136	施釉陶器	椀	(9.7)	(5.65)	(4.4)	6/7	完存	完存	2 区中段	南端	19C 後半　美濃産
871	106	136	施釉陶器	椀	(10.9)	5.25	3.55	2/3	完存	完存	2 区中段	南端	肥前系 刷毛目唐津
872	106	136	染付磁器	碗	(9.8)	5.25	(4.0)	1/4 強		体部 1/4 強	2 区中段	南端	波佐見産
873	106	136	染付磁器	碗	(9.8)	(5.05)	(3.6)	ほぼ完存	完存	完存	2 区中段	南端	肥前系
874	106	136	土師器	小皿	9.8	2.2				完形	2 区中段	北斜面	厚手
875	106	135	土師器	小皿	(9.4)	1.95		1/4	1/2		2 区中段	北斜面	
876	106	136	施釉陶器	片口か行平		(5.4)	5.8		若干		2 区中段	北斜面	
877	106	136	染付磁器	碗	9.8	5.1	3.85			ほぼ完形	2 区中段	北斜面	波佐見産
878	106	136	染付磁器	碗	(10.0)	5.3	(3.8)	1/3	3/4		2 区中段	北斜面	波佐見産
879	106	135	染付磁器	碗	(10.9)	5.7	(4.2)	1/5	1/2		2 区中段	北斜面	
880	106	136	施釉陶器	椀	10.7	5.9	4.2			ほぼ完形	2 区中段	北斜面	刷毛目唐津
881	106	136	染付磁器	碗	(11.0)	6.7	(4.5)	1/3	若干	高台 1/3	2 区中段	北斜面	
882	106	136	染付磁器	碗	11.3	5.9	6.2	2/3	若干	高台 1/3	2 区中段	北斜面	18C 末～ 19C 初 広東碗
883	107	137	施釉陶器	椀	(20.4)	(7.5)		若干		体部 1/8	3 区東区	SX3011	
884	107	137	無釉陶器	擂鉢	(30.1)	12.1	(14.7)	1/6		体部 1/2 強	3 区東区	SX3011	19C 代　堺・明石産
885	107	137	陶器？	小椀	(11.2)	5.6	(3.4)	1/4	若干		3 区東区	SX3011	
886	107	137	無釉陶器	徳利		(14.7)	(8.6)		若干	体部 1/4 弱	3 区東区	SX3011	
887	107	137	染付磁器	小瓶		(8.7)	(4.3)		若干	体部 1/2	3 区東区	SX3011	
888	107	137	無釉陶器	盤		5.8				若干	3 区東区	SD3006	丹波
889	107	137	陶器	皿		(2.15)	4.3		3/4 強	体部小片	3 区東区	SD3006	16C 末～ 17C 初 唐津焼
890	107	137	無釉陶器	甕	(24.7)	31.5	(22.5)	1/4	若干	体部わずか	3 区東区	人力掘削	近代以降　丹波
891	107	138	施釉陶器	天目椀		(2.8)	4.5		径の 5/6	体部下半 1/2 高台 5/6	3 区東区	人力掘削	
892	107	138	青磁	碗	(12.8)	(4.7)		1/4 弱				人力掘削	15C 中頃　龍泉窯
893	107	138	青磁	碗		(2.5)	5.4		完存	体部わずか	3 区東区	人力掘削	13C 後半～ 14C 前半　龍泉窯
894	107	138	青磁	香炉（三足）		(4.0)	(4.4)		1/2 弱	体部 1/4	3 区 Tr171		
895	107	138	無釉陶器	擂鉢	(27.1)	(6.7)		1/6		体部上半 1/6 片口部若干	3 区東区	人力掘削	15C 後 備前Ⅳ B（古）
896	107	138	無釉陶器	擂鉢	(31.6)	(13.3)		ごくわずか		体部 1/5 程度	3 区東区	人力掘削	16 前半　丹波
897	107	138	無釉陶器	擂鉢	(28.8)	11.95	(12.5)	1/4 強	若干	体部 1/6	3 区 Tr171		15C 後 備前Ⅳ B（古）
898	107	138	無釉陶器	擂鉢	(26.4)	10.0	(13.3)	1/6	若干	体部 1/6	3 区 Tr171		16C 末～ 17C 初 須佐唐津

表 16　観音寺遺跡　出土遺物観察表（6）

報告番号	写真図版番号	種別	器種	出土地区	出土遺構・層位	備考
899	118	土師器	鍋	1 区平坦面 4	石列溝（SX1409 内）焼土中	写真のみ
900	118	土師器	鍋	1 区平坦面 4		写真のみ
901	118	無釉陶器	甕	1 区	平坦面 4 と 3 の間	写真のみ
902	118	無釉陶器	甕	1 区平坦面 4	北山裾　流土中	写真のみ
903	118	無釉陶器	甕	2 区と平坦面 4 の間	地山直上	写真のみ
904	118	無釉陶器	甕	2 区	南端　下灰層（4 層）	写真のみ
905	118	無釉陶器	甕	1 区平坦面 3	SD1301 集石土坑上面	写真のみ
906	118	無釉陶器	甕	1 区	平坦面 4 と 3 の間	写真のみ
907	118	無釉陶器	甕	1 区平坦面 3	SD1301 集石土坑上面	写真のみ
908	118	無釉陶器	擂鉢	1 区平坦面 4	東半部	写真のみ
909	118	灰釉陶器	壺	1 区平坦面 4	東半　整地土中	写真のみ
910	118	青磁	碗	1 区平坦面 4	遺構面直上まで	写真のみ
911	118	無釉陶器	甕？壺？	1 区平坦面 4		写真のみ
912	118	土師器	皿	4 区	SX4029	写真のみ
913	118	施釉陶器	小皿	1 区平坦面 3	SE1302	写真のみ
914	118	須恵器	甕	1 区平坦面 3	SE1302　集石より下	写真のみ
915	118	無釉陶器	甕	1 区平坦面 3	東側谷筋	写真のみ
916	119	土師器	皿	1 区平坦面 3	SX1303	写真のみ
917	119	無釉陶器	甕	1 区平坦面 3	SX1303	写真のみ
918	119	施釉陶器	椀	1 区平坦面 3	SX1305	写真のみ
919	119	施釉陶器	天目椀	1 区平坦面 3	南東端　石垣際	写真のみ
920	119	染付磁器	碗	1 区平坦面 3	北西端集石 1	写真のみ
921	119		？	1 区平坦面 3	SX1304　焼土②	写真のみ
922	119	無釉陶器	擂鉢	1 区平坦面 3	SX1304　土手№ 5	写真のみ
923	119	瓦器	椀	1 区平坦面 3	SD1307-E	写真のみ
924	119	染付磁器	皿	1 区平坦面 3	南東　石垣際 SD1308	写真のみ
925	119	瓦器	椀	1 区平坦面 3	東半部下層 暗渠埋甕	写真のみ
926	119	瓦器	椀	1 区平坦面 3	暗渠　下層	写真のみ
927	120	施釉陶器	椀	1 区平坦面 3	SD1301 集石土坑上面	写真のみ
928	120	無釉陶器	擂鉢	1 区平坦面 3	SD1301 集石土坑上面	写真のみ
929	120	無釉陶器	擂鉢	1 区平坦面 3	SD1304　北東コーナー	写真のみ
930	120	土師器	小皿	1 区平坦面 3		写真のみ
931	120	土師器	小皿	1 区平坦面 3	東側谷筋	写真のみ
932	120	瓦器	椀	1 区平坦面 3	北半下層 掘り下げ時	写真のみ
933	120	瓦器	椀	1 区平坦面 3	西半　遺構面まで	写真のみ
934	120	瓦質土器	鉢	1 区平坦面 3	東側谷筋	写真のみ
935	120	無釉陶器	鉢	1 区平坦面 3	東半　北山面までの掘削	写真のみ
936	120	施釉陶器	天目椀	1 区平坦面 3	東半西部　表土直下	写真のみ
937	120	施釉陶器	椀	1 区平坦面 3	北東コーナー～北西際 遺構面まで	写真のみ
938	120	施釉陶器	天目椀	1 区平坦面 3	西半遺構面直上まで	写真のみ
939	121	施釉陶器	鉢	1 区平坦面 3	北西スミ	写真のみ
940	121	施釉陶器	壺	1 区平坦面 3	南東半表土下 流土中	写真のみ
941	121	染付磁器	碗	1 区平坦面 3	西半 遺構面直上まで	写真のみ
942	121	青磁	碗	1 区平坦面 3	南北中央トレンチ 褐灰色土	写真のみ
943	121	青磁	碗	1 区平坦面 3	北東半～中央　表土 直下～遺構面まで	写真のみ
944	121	白磁	壺？	1 区平坦面 3	西半遺構面直上まで	写真のみ
945	121	青磁	碗	1 区平坦面 3	西半遺構面直上まで	写真のみ
946	121	染付磁器	花瓶	1 区平坦面 2	西半	写真のみ
947	121	施釉陶器	徳利	2 区上段	南西おちかかり	写真のみ
948	121	瓦器	椀	1 区平坦面 2		写真のみ
949	121	灰釉陶器	壺？	1 区平坦面 2		写真のみ
950	121	青磁	碗	1 区平坦面 2		写真のみ
951	121	無釉陶器	蓋	1 区平坦面 2		写真のみ
952	121	青磁	碗	1 区平坦面 2	西半	写真のみ
953	121	施釉陶器	壺 （底部）	1 区平坦面 1・2 間階段		写真のみ
954	121	無釉陶器	擂鉢	1 区平坦面 2	面精査	写真のみ
955	121	土師器	鍋	1 区	石垣③南側	写真のみ
956	121	施釉陶器	擂鉢	1 区	石垣 4	写真のみ
957	121	施釉陶器	蓋	1 区	石垣③南側	写真のみ
958	121	無釉陶器	鍋	1 区	石垣 4	写真のみ
959	121	染付磁器	碗	1 区	石垣③南側	写真のみ
960	121	染付磁器	壺	1 区	石垣③南側	写真のみ
961	121	青磁	鉢	1 区	石垣③南側	写真のみ
962	121	青磁	壺？	1 区	石垣③南側	写真のみ
963	121	施釉陶器	猪口	1 区平坦面 2		写真のみ
964	121	染付磁器	蓋	1 区平坦面 2	西半	写真のみ
965	121	染付磁器	蓋	1 区平坦面 2	西半	写真のみ
966	121	染付磁器	蓋	1 区平坦面 2	西側	写真のみ
967	121	赤絵磁器	小碗	1 区平坦面 2		写真のみ
968	121	染付磁器	小碗	1 区平坦面 2		写真のみ
969	121	染付磁器	蓋	1 区平坦面 2	西半	写真のみ
970	121	染付磁器	蓋	1 区平坦面 2	西側	写真のみ
971	121	青磁	皿	1 区平坦面 2	西半	写真のみ
972	121	染付磁器	碗	1 区平坦面 2	西　埋甕周辺	写真のみ
973	121	染付磁器	碗	1 区平坦面 2	SX1203	写真のみ
974	122	土師器	鍋	1 区平坦面 1	池の中	写真のみ
975	122	施釉陶器	鉢	1 区平坦面 1	南側石列検出時	写真のみ
976	122	施釉陶器	？	1 区平坦面 1		写真のみ
977	122	染付磁器	猪口	1 区平坦面 1		写真のみ
978	122	青磁	碗	1 区平坦面 1	池の中	写真のみ
979	122	青磁染付	碗	1 区平坦面 1	西側石列検出時	写真のみ
980	122	染付磁器	碗	1 区平坦面 1	池周辺	写真のみ
981	122	施釉陶器	鍋	1 区平坦面 1		写真のみ
982	122	染付磁器	碗	1 区平坦面 1		写真のみ
983	122	染付磁器	碗	1 区平坦面 1		写真のみ
984	122	染付磁器	鉢	1 区平坦面 1		写真のみ
985	122	染付磁器	碗	1 区平坦面 1		写真のみ
986	122	染付磁器	茶碗	1 区平坦面 1		写真のみ
987	122	白磁	皿	1 区平坦面 1		写真のみ
988	122	染付磁器	鉢	1 区平坦面 1		写真のみ
989	122	染付磁器	鉢	1 区平坦面 1	池周辺	写真のみ
990	122	施釉陶器	水差し？	1 区	池東側堤	写真のみ
991	122	施釉陶器	猪口	1 区	池の周りの清掃時	写真のみ
992	122	染付磁器	碗	1 区	池東側堤	写真のみ
993	122	瓦質土器	羽釜	1 区	池底　埋甕	写真のみ
994	122	施釉陶器	天目椀	1 区	池の周りの清掃時	写真のみ
995	122	染付磁器	仏飯具	1 区	池西側堤　断ち割り	写真のみ
996	122	施釉陶器	蓋	1 区	池東側堤	写真のみ
997	122	染付磁器	碗	1 区	池東側堤	写真のみ
998	122	染付磁器	小鉢	1 区平坦面 1		写真のみ
999	122	赤絵磁器	碗	1 区平坦面 1		写真のみ
1000	122	ガラス製品	薬瓶	1 区平坦面 1		写真のみ
1001	122	ガラス製品	化粧瓶	1 区平坦面 1		写真のみ
1002	122	白磁	化粧瓶	1 区平坦面 1		写真のみ
1003	122	土師器	皿	平坦面 1・2 Tr162	ベース面上 黄白色土	写真のみ
1004	122	瓦器	椀	平坦面 1・2 Tr158		写真のみ
1005	122	無釉陶器	皿	平坦面 1・2 Tr157		写真のみ
1006	123	土師器	皿	5 区下段	暗褐砂	写真のみ
1007	123	土師器	小皿	5 区下段	斜面	写真のみ
1008	123	土師器	小皿	5 区下段	表土 2 層	写真のみ
1009	123	須恵器	壺	5 区下段	表土 2 層	写真のみ
1010	123	青磁	碗	5 区上段	黄褐砂	写真のみ
1011	123	青磁	碗	5 区	包含層	写真のみ
1012	123	施釉陶器	？	5 区下段	表土	写真のみ
1013	123	施釉陶器	椀	5 区上段	黄褐砂	写真のみ
1014	123	染付磁器	広東碗	5 区上段	SK5004	写真のみ
1015	123	施釉陶器	蓋	5 区中段	西平坦面　暗褐砂	写真のみ
1016	123	染付磁器	碗	5 区上段	黄褐砂	写真のみ
1017	123	瓦	鳥衾瓦	5 区下段	瓦だめ	写真のみ
1018	123	瓦	軒平瓦	5 区下段	瓦だめ	写真のみ
1019	123	瓦	軒平瓦	5 区下段	瓦だめ	写真のみ
1020	124	瓦器	椀	1 区 or4 区	表採	写真のみ
1021	124	無釉陶器	甕	4 区	SX4064　掘方土器①	写真のみ
1022	124	無釉陶器	甕	4 区北斜面	表土中（人力掘削）	写真のみ
1023	124	無釉陶器	甕	4 区	尾根上　Tr171 集石付近	写真のみ
1024	124	無釉陶器	甕	4 区平坦面	人力掘削　表土中	写真のみ
1025	124	無釉陶器	甕	4 区	SX4064　掘方土器②	写真のみ
1026	124	無釉陶器	甕	4 区平坦面	表土中	写真のみ
1027	125	瓦器	椀	4 区	Tr171 集石付近 表土中	写真のみ
1028	125	瓦器	椀	4 区 Tr184		写真のみ
1029	125	土師器	小皿	4 区	東西 Tr184 内	写真のみ
1030	125	土師器	小皿	4 区	尾根上　Tr171 集石付近	写真のみ
1031	125	瓦器	椀	4 区 Tr184		写真のみ
1032	126	白磁	皿	2 区	SX2010	写真のみ
1033	126	染付磁器	蓋	2 区	SX2010	写真のみ
1034	126	青磁	皿	2 区	SX2010	写真のみ
1035	126	染付磁器	小碗	2 区	SX2010	写真のみ
1036	126	染付磁器	碗	2 区	SX2010	写真のみ
1037	126	磁器	湯呑	2 区上段	SX2006	写真のみ
1038	126	無釉陶器	皿	2 区上段	SX2029	写真のみ
1039	126	染付磁器	皿	2 区上段	SX2029	写真のみ
1040	126	染付磁器	皿	2 区	SX2062	写真のみ
1041	126	染付磁器	皿	2 区上段	SX2029	写真のみ
1042	126	施釉陶器	椀	2 区上段	SX2030	写真のみ
1043	126	べっ甲？	櫛	2 区	SX2061	写真のみ
1044	126	染付磁器	皿	2 区	SX2061	写真のみ
1045	126	染付磁器	碗	2 区中段	東斜面	写真のみ
1046	126	土師器	小皿	2 区	SX2072	写真のみ
1047	126	土師器	小皿	2 区	SX2107	写真のみ
1048	126	色絵磁器	猪口	2 区	SX2086	写真のみ
1049	126	染付磁器	小皿	2 区	SX2058	写真のみ
1050	126	染付磁器	小皿	2 区上段	西階段	写真のみ
1051	126	土師器	小皿	2 区	SX2124	写真のみ
1052	126	土師器	小皿	2 区	SX2124	写真のみ
1053	126	施釉陶器？	小皿	2 区	SX2110	写真のみ
1054	126	染付磁器	蓋	2 区	SX2126	写真のみ
1055	126	土師器	小皿	2 区	SX2110	写真のみ
1056	126	白磁	皿	2 区中段	SX2019	写真のみ
1057	126	無釉陶器	皿	2 区	SX2068	写真のみ
1058	126	色絵磁器	皿	2 区	SX2025	写真のみ
1059	126	無釉陶器	皿	2 区	SX2025	写真のみ
1060	126	染付磁器	碗	2 区	SX2043	写真のみ
1061	126	染付磁器	湯呑	2 区	SX2043	写真のみ
1062	126	無釉陶器	皿	2 区	SX2056	写真のみ
1063	126	染付磁器	碗	2 区	SX2056	写真のみ
1064	126	ガラス製品	薬瓶	2 区	SX2045	写真のみ
1065	127	染付磁器	猪口	2 区	SX2053	写真のみ
1066	127	白磁	杯	2 区	SX2112	写真のみ
1067	127	白磁	皿	2 区	東斜面付近	写真のみ
1068	127	施釉陶器	小皿	2 区上段	SX2032	写真のみ
1069	127	土師器	小皿	2 区中段	SD2002 中段の南東端	写真のみ
1070	127	施釉陶器	椀	2 区	SD2011	写真のみ
1071	129	染付磁器	杯	2 区上段	SX2039	写真のみ
1072	129	無釉陶器	鉢	2 区	SX2097	写真のみ
1073	129	無釉陶器	擂鉢	2 区	SX2097	写真のみ

表 16　観音寺遺跡　出土遺物観察表（7）

報告番号	写真図版番号	種別	器種	出土地区	出土遺構・層位	備考
1074	129	土師器	小皿	2 区	SX2122	写真のみ
1075	129	土師器	皿	2 区と 平坦面 4 の間	SX4100 上の整地土	写真のみ
1076	129	土師器	皿	2 区	SX2117　下層	写真のみ
1077	129	土師器	小皿	2 区	SX2109 上面　火葬場	写真のみ
1078	129	土師器	小皿	2 区	SX2109 上面　火葬場	写真のみ
1079	129	土師器	小皿	2 区	SX2109 上面　火葬場	写真のみ
1080	129	土師器	鍋	2 区	SX2109 上面　火葬場	写真のみ
1081	129	乙壁	壁土	2 区	SX2109 上面　火葬場	写真のみ
1082	129	土師器	皿	2 区	SX2114 ～ SX2116 までの層	写真のみ
1083	129	施釉陶器	鉢	2 区	SX2042	写真のみ
1084	129	無釉陶器	急須	2 区上段	SX2029	写真のみ
1085	129	白磁	骨壺	2 区上段	SX2040	写真のみ
1086	129	白磁	骨壺・蓋	2 区	SX2042	写真のみ
1087	129	無釉陶器	皿	2 区上段	SX2004　火葬場	写真のみ
1088	129	無釉陶器	皿	2 区上段	SX2004　火葬場	写真のみ
1089	129	施釉陶器	し瓶	2 区上段	SX2004　火葬場	写真のみ
1090	129	青磁	湯呑？	2 区上段	SX2004　火葬場	写真のみ
1091	129	染付磁器	皿	2 区上段	SX2004　火葬場	写真のみ
1092	129	染付磁器	碗	2 区上段	SX2004　火葬場	写真のみ
1093	129	染付磁器	碗	2 区上段	SX2004　火葬場	写真のみ
1094	129	染付磁器	皿	2 区上段	SX2004　火葬場	写真のみ
1095	129	染付磁器	碗	2 区上段	SX2004　火葬場	写真のみ
1096	130	色絵磁器	湯呑	2 区上段	表土中	写真のみ
1097	130	色絵磁器	湯呑	2 区上段	表土中	写真のみ
1098	130	染付磁器	湯呑	2 区上段	表土中	写真のみ
1099	130	染付磁器	碗	2 区上段	表土中	写真のみ
1100	130	色絵磁器	湯呑	2 区上段	表土中	写真のみ
1101	130	色絵磁器	カップ	2 区上段	南端　表土 2 層目	写真のみ
1102	130	色絵磁器	皿	2 区上段	表土	写真のみ
1103	130	色絵磁器	猪口	2 区上段	表土	写真のみ
1104	130	色絵磁器	猪口	2 区上段	表土	写真のみ
1105	130	施釉陶器	皿	2 区上段	表土	写真のみ
1106	130	染付磁器	皿	2 区上段	表土	写真のみ
1107	130	施釉陶器	皿	2 区上段	南端　表土 2 層目	写真のみ
1108	130	青磁	香炉	2 区上段	表土～遺構面	写真のみ
1109	130	無釉陶器	皿	2 区南	表土～遺構面	写真のみ
1110	130	瓦器	椀	2 区	表土～遺構面	写真のみ
1111	130	無釉陶器	皿	2 区上段	南側　表土 2 層	写真のみ
1112	130	土師器	蓋	2 区上段	表土 2 層	写真のみ
1113	130	無釉陶器	皿	2 区上段	南西おちかかり	写真のみ
1114	130	無釉陶器	皿	2 区上段	南西おちかかり	写真のみ
1115	130	無釉陶器	擂鉢	2 区南	表土～遺構面	写真のみ
1116	130	無釉陶器	擂鉢	2 区南	表土～遺構面	写真のみ
1117	130	無釉陶器	擂鉢	2 区南	表土～遺構面	写真のみ
1118	130	無釉陶器	甕	2 区南	表土～遺構面	写真のみ
1119	130	無釉陶器	鉢？	2 区南	表土～遺構面	写真のみ
1120	130	無釉陶器	甕？	2 区南	表土～遺構面	写真のみ
1121	130	無釉陶器	甕	2 区南	表土～遺構面	写真のみ
1122	130	無釉陶器	火入れ	2 区上段	南端　表土 2 層目	写真のみ
1123	130	施釉陶器	皿	2 区南	南端　表	写真のみ
1124	130	施釉陶器	皿	2 区上段	南端　表	写真のみ
1125	130	染付青磁	碗	2 区上段	南斜面　精査時	写真のみ
1126	130	施釉陶器	皿	2 区南	表土 2 層	写真のみ
1127	130	施釉陶器	皿	2 区上段	南端　表土中	写真のみ
1128	130	染付磁器	碗	2 区	上中段間斜面　西端	写真のみ
1129	130	染付磁器	碗	2 区上段		写真のみ
1130	130	染付磁器	碗	2 区上段		写真のみ
1131	130	染付磁器	碗	2 区	上中段間斜面　西端	写真のみ
1132	130	染付磁器	碗	2 区上段		写真のみ
1133	130	染付磁器	碗	2 区上段		写真のみ
1134	131	土師器	小皿	2 区	南端上部灰層より上 1 層	写真のみ
1135	131	土師器	小皿	2 区	南端にぶい黄褐細砂	写真のみ
1136	131	土師器	小皿	2 区	南端上部灰層より上 1 層	写真のみ
1137	131	土師器	皿	2 区	南端にぶい黄褐細砂	写真のみ
1138	131	土師器	皿	2 区	南端上部灰層より上 1 層	写真のみ
1139	131	土師器	皿	2 区	南端にぶい黄褐細砂	写真のみ
1140	131	土師器 （柿釉）	紅皿	2 区	南端にぶい黄褐細砂 （1 層）	写真のみ
1141	131	染付磁器	碗	2 区	南端にぶい黄褐細砂	写真のみ
1142	131	白磁	小皿	2 区	南端 1 層　にぶい黄褐	写真のみ
1143	131	染付磁器	碗	2 区中段	南端 1 層	写真のみ
1144	132	土師器	小皿	2 区	南端 3 層　灰層間層	写真のみ
1145	132	土師器	皿	2 区	南端 3 層　灰層間層	写真のみ
1146	132	土師器	皿	2 区	南端 3 層　灰層間層	写真のみ
1147	132	土師器	皿	2 区	南端 3 層　灰層間層	写真のみ
1148	132	土師器	小皿	2 区	南端　下灰層（4 層）	写真のみ
1149	132	土師器	皿	2 区	南端　下灰層（4 層）	写真のみ
1150	132	染付磁器	碗	2 区	南端　下灰層（4 層）	写真のみ
1151	132	施釉陶器	皿	2 区	南端　下灰層（4 層）	写真のみ
1152	133	土師器	皿	2 区上中段間	南斜面	写真のみ
1153	133	土師器	皿	2 区上中段間	南斜面	写真のみ
1154	133	土師器	皿	2 区上中段間	南斜面	写真のみ
1155	133	染付磁器	碗	2 区上中段間	南斜面	写真のみ
1156	133	染付磁器	碗	2 区上中段間	南斜面	写真のみ
1157	133	染付磁器	猪口	2 区上中段 間の南斜面	炭原埋土	写真のみ
1158	133	施釉陶器	椀	2 区上中段 間の南斜面	炭原埋土	写真のみ
1159	133	染付磁器	碗	2 区上中段間	南斜面	写真のみ
1160	133	染付磁器	碗	2 区上中段間	南斜面	写真のみ
1161	134	土師器	皿	2 区中段	表土中	写真のみ
1162	134	土師器	皿	2 区中段	表土中	写真のみ
1163	134	土師器	皿	2 区中段	表土中	写真のみ
1164	134	土師器	皿	2 区中段	表土中	写真のみ
1165	134	土師器	皿	2 区中段	表土中	写真のみ
1166	134	土師器	皿	2 区中段	東斜面	写真のみ
1167	134	土師器	皿	2 区中段	表土中	写真のみ
1168	134	土師器	皿	2 区中段	表土中	写真のみ
1169	134	土師器	皿	2 区中段	表土中	写真のみ
1170	134	土師器	皿	2 区中段	表土中	写真のみ
1171	134	土師器	壺（口縁）	2 区中段	東斜面	写真のみ
1172	134	施釉陶器	天目椀	2 区中段	表土中	写真のみ
1173	134	染付磁器	碗	2 区中段	東斜面	写真のみ
1174	134	染付磁器	碗	2 区中段	東斜面	写真のみ
1175	134	白磁	碗	2 区中段	東斜面	写真のみ
1176	134	染付磁器	湯呑	2 区中段	東斜面	写真のみ
1177	134	無釉陶器	急須	2 区上段	中央東斜面	写真のみ
1178	134	染付磁器	皿	2 区上段	中央東斜面	写真のみ
1179	134	色絵磁器	皿	2 区中段	東斜面	写真のみ
1180	134	色絵磁器	皿	2 区上段	南側	写真のみ
1181	134	染付磁器	碗	2 区上段	中央東斜面	写真のみ
1182	134	白磁	碗	2 区上段	南側	写真のみ
1183	134	染付磁器	小皿	2 区中段	東斜面	写真のみ
1184	134	染付磁器	碗	2 区上段	南側	写真のみ
1185	134	色絵磁器	軍隊盃	2 区	南西部　表土中	写真のみ
1186	134	白磁	蓋	2 区中段	東斜面	写真のみ
1187	134	無釉陶器	皿	2 区中段	東斜面	写真のみ
1188	134	無釉陶器	皿	2 区中段	東斜面	写真のみ
1189	134	ガラス製品	小瓶	2 区上段	南側	写真のみ
1190	134	プラスチック	位牌の 台	2 区中段	東斜面	写真のみ
1191	134	色絵磁器	湯呑	2 区上段	中央東斜面	写真のみ
1192	134	色絵磁器	湯呑	2 区上段	中央東斜面	写真のみ
1193	134	磁器	花生	2 区上段	南側	写真のみ
1194	134	無釉陶器	甕	2 区中段	東斜面	写真のみ
1195	135	土師器	皿	2 区中段	西端　炭層上面	写真のみ
1196	135	無釉陶器	擂鉢	2 区中段	西端　炭層上面	写真のみ
1197	135	無釉陶器	壺	2 区中段	西端　炭層上面	写真のみ
1198	135	無釉陶器	甕	2 区中段	西端　炭層上面	写真のみ
1199	135	染付磁器	碗	2 区中段	炭層	写真のみ
1200	135	青磁	碗	2 区中段	炭層	写真のみ
1201	135	土師器	小皿	2 区中段	北斜面	写真のみ
1202	135	土師器	小皿	2 区中段	北斜面	写真のみ
1203	135	土師器	皿	2 区中段	南端	写真のみ
1204	135	染付磁器	碗	2 区中段	南端	写真のみ
1205	135	染付磁器	碗	2 区中段	南端	写真のみ
1206	135	染付磁器	碗	2 区中段	北斜面	写真のみ
1207	135	染付磁器	碗	2 区中段	北斜面	写真のみ
1208	137	無釉陶器	擂鉢	3 区東区	SX3011	写真のみ
1209	137	無釉陶器	擂鉢	3 区東区	SX3011	写真のみ
1210	137	無釉陶器	擂鉢	3 区東区	里道　表土	写真のみ
1211	137	染付磁器	碗	3 区東区	SX3011	写真のみ
1212	137	土師器	鍋	3 区西区	P3001	写真のみ
1213	137	無釉陶器	皿？	3 区東区	人力掘削	写真のみ
1214	137	須恵器	甕	3 区東区	晴褐細砂	写真のみ
1215	137	須恵器	甕	3 区東区	晴褐細砂	写真のみ
1216	138	土師器	炮烙	3 区東区	人力掘削	写真のみ
1217	138	施釉陶器	椀	3 区東区	人力掘削	写真のみ
1218	138	施釉陶器	大皿か鉢	3 区東区	人力掘削	写真のみ
1219	138	須恵器	鉢	3 区東区	人力掘削	写真のみ
1220	138	施釉陶器	椀	3 区東区	人力掘削	写真のみ
1221	138	施釉陶器	甕	3 区東区	人力掘削	写真のみ
1222	138	無釉陶器	擂鉢	3 区東区	人力掘削	写真のみ
1223	138	無釉陶器	擂鉢	3 区東区	人力掘削	写真のみ
1224	138	無釉陶器	火入れ	3 区東区	人力掘削	写真のみ
1225	138	無釉陶器	擂鉢	3 区東区	機械掘削	写真のみ
1226	138	無釉陶器	甕か壺	3 区東区	人力掘削	写真のみ
1227	138	青磁	鉢	3 区東区	機械掘削	写真のみ
1228	138	青磁	碗	3 区東区	人力掘削	写真のみ
1229	138	青磁	碗	3 区東区	人力掘削	写真のみ
1230	138	染付磁器	碗	3 区東区	人力掘削	写真のみ
1231	138	染付磁器	壺	3 区東区	人力掘削	写真のみ
1232	138	ガラス製品	化粧瓶	3 区東区	人力掘削	写真のみ
1233	138	ガラス製品	化粧瓶	3 区 Tr171		写真のみ
1234	138	ガラス製品	化粧瓶	3 区 Tr171		写真のみ
1235	138	ガラス製品	化粧瓶	3 区 Tr171		写真のみ
1236	138	ガラス製品	化粧瓶	3 区	機械掘削	写真のみ
1237	138	ガラス製品	化粧瓶	3 区東区	里道　表土	写真のみ
1238	138	ガラス製品	化粧瓶	3 区東区	里道　表土	写真のみ
1239	138	ガラス製品	化粧瓶	3 区東区	里道　表土	写真のみ
1240	138	ガラス製品	目薬瓶	3 区 Tr171		写真のみ
1241	138	ガラス製品	薬瓶	3 区 Tr171		写真のみ
1242	138	施釉陶器	徳利	3 区東区	里道　表土	写真のみ
1243	138	無釉陶器	植木鉢	3 区東区	里道　表土	写真のみ
1244	138	無釉陶器	植木鉢	3 区東区	里道　表土	写真のみ
1245	138	施釉陶器	水注	3 区	機械掘削	写真のみ
1246	138	染付磁器	鉢	3 区	機械掘削	写真のみ
1247	138	無釉陶器	火入れ？	3 区東区	里道　表土	写真のみ
1248	138	磁器	小壺	3 区東区	里道　表土	写真のみ
1249	138	染付磁器	碗	3 区	機械掘削	写真のみ
1250	138	染付磁器	碗	3 区東区	里道　表土	写真のみ
1251	138	色絵磁器	鉢	3 区東区	里道　表土	写真のみ
1252	138	施釉陶器	蓋	3 区東区	人力掘削	写真のみ
1253	138	色絵磁器	皿	3 区東区	里道　表土	写真のみ
1254	138	色絵磁器	皿	3 区東区	里道　表土	写真のみ
1255	138	施釉陶器	小皿	3 区	機械掘削	写真のみ
1256	138	色絵磁器	皿	3 区東区	里道　表土	写真のみ

表 16　観音寺跡　出土遺物観察表（8）

金属製品（1）

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）					出土地区	出土遺構・層位	備考
					長さ	幅	厚み	重量（g）	残存率			
M101	108	139	銅銭	景徳元寶	2.49	2.49	0.16	2.2		1 区平坦面 3	SX1304	
M102	108	139	銅銭	元豊通寶	2.50	2.54	0.18	2.3		1 区平坦面 3	SX1304	
M103	108	139	銅銭	天禧通寶	2.51	2.53	0.10	(1.7)		1 区平坦面 3	SX1304	
M104	108	139	銅銭	治平元寶	2.32	2.34	0.15	3.2		2 区上段	SX2012	
M105	108	139	銅銭	皇宋通寶	2.39	2.36	0.13	3.2		2 区上段	SX2012	
M106	108	139	銅銭	熙寧元寶	2.43	2.42	0.14	3.5		2 区上段	SX2012	
M107	108	139	銅銭	熙寧元寶	2.39	2.44	0.16	3.2		2 区	SX2042	
M108	108	145	銅銭	紹聖元寶	2.56	2.73	0.77	14.1		2 区	SX2044	M108 ～ 113 付着
M109	108	145	銅銭	－								
M110	108	145	銅銭	－								
M111	108	145	銅銭	－								
M112	108	145	銅銭	－								
M113	108	145	銅銭	－								
M114	108	139	銅銭	治平元寶	2.38	2.40	0.14	1.9		2 区	SX2120	
M115	108	139	銅銭	開元通寶	2.14	2.27	0.12	1.7		2 区	SX2120	
M116	108	145	銅銭	天聖元寶	2.44	2.49	0.45	11.5		2 区	SX2132	M116 ～ 119 付着
M117	108	145	銅銭	－								
M118	108	145	銅銭	－								
M119	108	145	銅銭	－								
M120	108	139	銅銭	紹聖元寶	2.43	2.43	0.15	2.7		4 区	SX4070	
M121	108	139	銅銭	元祐通寶	2.43	2.43	0.12	2.6		4 区	SX4070	
M122	108	139	銅銭	聖宋元寶	2.36	2.36	0.14	3.6		4 区	SX4070	
M123	108	139	銅銭	皇宋通寶	2.46	2.44	0.12	3.6		4 区	SX4070	
M124	108	139	銅銭	元豊通寶	2.47	2.45	0.12	3.4		4 区	SX4070	
M125	108	139	銅銭	嘉祐元寶	2.35	2.37	0.13	3.7		4 区	SX4070	
M126	108	139	銅銭	嘉祐通寶	2.45	2.43	0.14	2.4		4 区	SX4049・SX4044 のセクション外し	
M127	108	139	銅銭	天聖元寶	2.43	2.42	0.12	3.2		4 区	SX4049・SX4044 のセクション外し	
M128	108	139	銅銭	乾元重寶	2.39	2.40	0.10	1.8		4 区	SX4049・SX4044 のセクション外し	
M129	108	139	銅銭	景徳元寶	2.45	2.46	0.11	3.0		4 区	SX4049・SX4044 のセクション外し	
M130	108	139	銅銭	治平元寶	2.44	2.43	0.12	3.6		4 区	SX4049・SX4044 のセクション外し	
M131	108	139	銅銭	祥符通寶	2.45	2.44	0.11	3.1		4 区	SX4049・SX4044 のセクション外し	
M132	108	139	銅銭	紹聖元寶	2.39	2.40	0.23	5.1		2 区	東斜面 表土ハギ	M133・M132 付着
M133	108	139	銅銭	聖宋元寶								
M134	108	140	銅銭	景徳元寶	2.48	2.51	0.12	2.1		2 区	南端 1 層	
M135	108	140	銅銭	天禧通寶	2.41	2.43	0.12	2.9		2 区	南端 4 層（下層灰層）	
M136	108	140	銅銭	熙寧元寶	2.41	2.41	0.11	3.1		2 区	南端 4 層（下層灰層）	
M137	108	140	銅銭	元祐通寶	2.44	2.43	0.15	3.5		2 区	南端 4 層（下層灰層）	
M138	108	140	銅銭	皇宋通寶	2.46	2.45	0.14	3.4		2 区	南端 4 層（下層灰層）	
M139	108	140	銅銭	洪武通寶	2.31	2.31	0.15	2.9		2 区上段	表土	
M140	108	140	銅銭	元符通寶	2.54	2.49	0.12	3.2		2 区上段 上	東側 表土中	
M141	108	140	銅銭	景祐元寶	2.44	2.46	0.13	3.1		2 区上段 上	東側 表土中	
M142	108	140	銅銭	嘉祐元寶	2.47	2.49	0.10	2.8		2 区上段 上	東側 表土中	
M143	108	140	銅銭	元祐通寶	2.38	2.38	0.11	2.7		2 区上段 上	東側 表土中	
M144	109	140	銅銭	元祐通寶	2.47	2.49	0.11	2.5		2 区上段	南側 墓壙上面	
M145	109	140	銅銭	祥符元寶	2.41	2.35	0.12	2.2		2 区上段	南側 墓壙上面	
M146	109	140	銅銭	永楽通寶	2.50	2.51	0.13	3.5		2 区上段	南側 墓壙上面	
M147	109	140	銅銭	熙寧元寶	2.37	2.39	0.14	3.5		2 区上段	中央 墓壙上面	
M148	109	139	銅銭	皇宋通寶	2.49	2.49	0.18	4.2		2 区上段	中央西側 墓壙上面？	
M149	109	139	銅銭	至和元寶か	2.32	2.37	0.15	2.8		2 区上段	中央西側 墓壙上面？	
M150	109	139	銅銭	淳化元寶	2.44	2.41	0.14	3.3		2 区上段	中央西側 墓壙上面？	
M151	109	139	銅銭	天聖元寶	2.47	2.49	0.14	3.2		2 区上段	中央西側 墓壙上面？	
M152	109	139	銅銭	天禧通寶	2.34	2.30	0.15	2.2		2 区上段	中央西側 墓壙上面？	
M153	109	139	銅銭	皇宋通寶	2.39	2.37	0.14	2.5		2 区上段	中央西側 墓壙上面？	
M154	109	139	銅銭	咸平元寶	2.43	2.44	0.13	3.2		2 区上段	南斜面 精査時	
M155	109	140	銅銭	治平元寶	2.39	2.38	0.14	3.4		2 区上段	南斜面 精査時	
M156	109	140	銅銭	皇宋通寶	2.46	2.45	0.13	2.5		2 区上段	3 層 黄褐土	
M157	109	140	銅銭	元豊通寶	2.36	2.28	0.15	3.6		2 区上中段間 斜面	火葬跡 灰原	
M158	109	140	銅銭	皇宋通寶	2.47	2.46	0.13	2.8		2 区中段	北斜面（中央）	
M159	109	140	銅銭	景徳元寶	2.39	2.43	0.13	2.7		2 区中段	北斜面（中央）	
M160	109	140	銅銭	熙寧元寶	2.38	2.39	0.13	2.9		2 区中段	北斜面	
M161	109	140	銅銭	皇宋通寶	2.48	2.48	0.11	3.1		2 区中段	北斜面	
M162	109	140	銅銭	元豊通寶	2.47	(2.33)	0.14	(2.3)		2 区中段	炭層	
M163	109	140	銅銭	天聖元寶か	2.47	2.47	0.18	3.5		2 区中段	炭層	
M164	109	140	銅銭	天聖元寶か	2.40	2.41	0.19	3.5		2 区中段	炭層	
M165	109	140	銅銭	嘉祐通寶	2.36	2.38	0.12	2.7		2 区中段	炭層	
M166	109	140	銅銭	熙寧元寶	2.39	2.40	0.1	2.7		2 区中段	炭層	
M167	109	140	銅銭	元豊通寶	2.39	2.39	0.11	2.1		2 区中段	炭層	
M168	109	140	銅銭	元豊通寶	2.35	2.35	0.10	2.3		2 区中段	炭層	
M169	109	140	銅銭	天聖元寶	2.49	2.50	0.12	2.7		2 区中段	炭層	
M170	109	140	銅銭	熙寧元寶	2.47	2.38	0.12	2.6		4 区	西斜面 表土下	
M171	110	141	銅銭	寛永通寶 文	2.54	2.52	0.13	2.8		2 区上段	SX2017 東側	
M172-1	110	141	銅銭	寛永通寶か	2.43	2.43	0.26	6.0		2 区上段	SX2017 東側	M172-1・M172-2 付着
M172-2	110	141	銅銭	－								
M173	110	141	銅銭	寛永通寶 文	2.56	2.54	0.17	3.6		2 区	SX2117 下層	
M174	110	141	銅銭	寛永通寶 文	2.54	2.54	0.16	4.5		2 区	SX2117 下層	
M175	110	141	銅銭	寛永通寶 文	2.54	2.53	0.15	2.5		2 区	SX2117 下層	
M176	110	141	銅銭	景祐元寶	2.51	2.48	0.16	3.5		2 区	SX2117 下層	
M177	110	141	銅銭	熙寧元寶	2.39	2.37	0.13	2.5		2 区	SX2117 下層	
M178	110	141	銅銭	寛永通寶	2.34	2.32	0.12	1.6		2 区	SX2117 下層	
M179	110	141	銅銭	寛永通寶 古	2.46	2.45	0.12	2.7		2 区	SX2117 下層	
M180	110	141	銅銭	寛永通寶 古	2.48	2.48	0.14	3.2		2 区	SX2117 下層	
M181	110	141	銅銭	寛永通寶 古	2.45	2.44	0.16	2.4		2 区	SX2117 下層	
M182	110	141	銅銭	寛永通寶 古	(1.79)	(2.33)	0.13	(1.0)		2 区	SX2117 下層	
M183	110	141	銅銭	寛永通寶 波	2.83	2.86	0.12	3.7		2 区	SX2032	
M184	110	141	銅銭	寛永通寶 波	2.86	2.88	0.23	5.2		2 区	SX2032	
M185	110	141	銅銭	寛永通寶	2.52	2.48	0.16	2.0		2 区	SX2032	
M186	110	141	銅銭	寛永通寶	2.23	2.21	0.13	2.4		2 区	SX2032	
M187	110	141	銅銭	寛永通寶	2.38	2.36	0.16	2.5		2 区	SX2032	
M188	110	141	銅銭	寛永通寶	2.39	2.40	0.14	4.0		2 区上段	南側 風空輪出土石組	
M189	110	141	銅銭	洪武通寶	2.08	2.06	0.14	2.7		2 区上段	南側 風空輪出土石組	
M190	110	141	銅銭	常平通寶	2.52	2.52	0.15	4.6		2 区上段	南側 風空輪出土石組	
M191	110	141	銅銭	文久永寶 波	2.72	2.70	0.13	3.2		2 区上段	南側 風空輪出土石組	
M192	110	141	銅銭	寛永通寶	2.45	2.43	0.10	2.5		2 区上段	南側 風空輪出土石組	
M193	110	141	銅銭	寛永通寶	2.51	2.53	0.14	4.1		2 区上段	南側 風空輪出土石組	
M194	110	141	銅銭	寛永通寶	2.45	2.50	0.21	3.5		2 区	SX2033	
M195	110	141	銅銭	寛永通寶	2.53	2.51	0.22	3.9		2 区	SX2033	
M196	111	142	銅銭	寛永通寶	2.39	2.38	0.15	1.5		1 区平坦面 2	SX1203	
M197	111	142	銅銭	文久永寶 波	2.69	2.70	1.01	3.3		2 区	SX2090 b 下層	
M198	111	142	銅銭	寛永通寶 文	2.50	2.47	0.13	2.3		2 区	SX2115	
M199	111	142	銅銭	寛永通寶 文	2.49	2.51	0.13	3.2		1 区平坦面 3 西	表土下流土中	
M200	111	142	銅銭	寛永通寶 文	2.51	2.50	0.15	3.6		2 区	南端 4 層（下層灰層）	
M201	111	142	銅銭	寛永通寶 文	2.53	2.54	0.13	3.4		2 区	南端 4 層（下層灰層）	
M202	111	142	銅銭	寛永通寶 文	2.54	2.54	0.15	4.2		2 区	南端 4 層（下層灰層）	
M203	111	142	銅銭	寛永通寶 波	2.84	2.84	0.15	5.3		2 区上段	表土	
M204	111	142	銅銭	寛永通寶 文	2.54	2.54	0.13	3.5		2 区上段	南端 上灰層	
M205	111	142	銅銭	寛永通寶 古	2.47	2.45	0.11	3.0		2 区上段	南端 上灰層	
M206	111	142	銅銭	寛永通寶 文	2.52	2.50	0.14	2.8		2 区上段	3 層 黄褐土	
M207	111	142	銅銭	寛永通寶 文	2.49	2.50	0.12	3.3		2 区上中段間斜面	火葬跡 灰原	
M208	111	142	銅銭	寛永通寶 文	2.54	2.55	0.12	2.9		2 区中段	北斜面	
M209	111	142	銅銭	寛永通寶 文	2.48	2.48	0.15	2.8		2 区中段	北斜面	
M210	111	142	銅銭	寛永通寶 文	2.51	2.51	0.12	3.2		2 区	2 層	
M211	112	142	銅銭	寛永通寶	2.42	2.41	0.1	2.7		1 区平坦 2 の上段部	表土はぎ	
M212	112	142	銅銭	寛永通寶	2.31	2.32	0.11	1.8		1 区平坦面 3	北東半 流土中	
M213	112	142	銅銭	寛永通寶	2.52	2.51	0.13	3.1		2 区	南端 3 層（下層灰層）	
M214	112	142	銅銭	寛永通寶	2.48	2.47	0.14	2.7		2 区	南端 4 層（下層灰層）	
M215	112	142	銅銭	寛永通寶	2.47	2.47	0.15	4.1		2 区	南端 4 層（下層灰層）	
M216	112	142	銅銭	寛永通寶	2.53	2.50	0.12	3.7		2 区	南端 4 層（下層灰層）	
M217	112	142	銅銭	寛永通寶	2.31	2.33	0.14	2.9		2 区	南西部 表土中	
M218	112	142	銅銭	－（小片）						2 区上段	南側 表土	M218・M219 付着
M219	112	142	銅銭	寛永通寶	2.55	2.51	0.14	3.5				
M220	112	142	銅銭	寛永通寶	2.45	2.43	0.15	3.3		2 区上段	上段南端 上灰層	
M221	112	142	銅銭	寛永通寶	2.43	2.44	0.17	3.6		2 区上段	北側	
M222	112	142	銅銭	寛永通寶	2.30	2.29	0.12	2.7		2 区上段	北側	
M223	112	142	銅銭	寛永通寶 古	2.50	2.47	0.16	3.4		2 区上段	南斜面 精査時	

表 16　観音寺跡　出土遺物観察表（9）

金属製品（2）

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）					出土地区	出土遺構・層位	備考
					長さ	幅	厚み	重量（g）	残存率			
M224	112	142	銅銭	寛永通寶 古	2.44	2.47	0.13	3.3		2区上中段間の南斜面	炭原埋土	
M225	112	142	銅銭	寛永通寶 古	2.43	2.43	0.11	2.9		2区中段	北斜面	
M226	112	142	銅銭	寛永通寶	2.58	2.56	0.12	3.6		2区中段	炭層	
M227	112	142	銅銭	寛永通寶	2.40	2.44	0.12	2.4		2区中段	炭層	
M228	112	142	銅銭	寛永通寶	2.52	2.51	0.19	3.3		2区中段	炭層	
M229	112	142	銅銭	寛永通寶	2.65	2.65	0.11	3.2		2区中段	炭層	
M230	112	142	銅銭	寛永通寶 古	2.54	2.53	0.14	3.6		2区中段	炭層	
M231	112	142	銅銭	寛永通寶 古	2.51	2.50	0.11	3.0		2区	南端 4層（下層灰層）	
M232	112	142	鉄銭		2.45	2.39	0.42	3.1		2区中段西部	石造群の東	
M233	112	142	銅銭	寛永通寶	2.44	2.43	0.14	3.0		4区	北斜面	
M234	112	142	銅銭	寛永通寶	2.56	2.51	0.21	5.3		2区	南端 下層　1層(にぶい黄褐細砂)	
M235	112	142	銅銭	寛永通寶	2.50	2.48	0.14	4.9		2区	南端 下層　1層(にぶい黄褐細砂)	
M236	112	142	銅銭	寛永通寶	2.29	2.30	0.09	1.6		5区下段	2層	
M237	112	145	銅銭	寛永通寶	3.03	2.61	0.66	17.4		2区	SX2051	M237～241付著
M238	112	145	銅銭	－								
M239	112	145	銅銭	－								
M240	112	145	銅銭	－								
M241	112	145	銅銭	－								
M242	112	145	銅銭	寛永通寶	2.83	2.70	0.71	17.2		2区	SX2066	M242～247付著 布,紐
M243	112	145	銅銭	－								
M244	112	145	銅銭	－								
M245	112	145	銅銭	－								
M246	112	145	銅銭	－								
M247	112	145	銅銭	－								
M248	112	145	銅銭	寛永通寶	2.78	2.92	0.71	16.1		2区	SX2108	M248～253付著
M249	112	145	銅銭	－								
M250	112	145	銅銭	－								
M251	112	145	銅銭	－								
M252	112	145	銅銭	－								
M253	112	145	銅銭	－								布
M254	112	145	銅銭	寛永通寶 古	2.65	2.60	0.78	21.3		2区	南端 3層（灰層間層）	M254～259付著
M255	112	145	銅銭	－								
M256	112	145	銅銭	－								
M257	112	145	銅銭	－								
M258	112	145	銅銭	－								
M259	112	145	銅銭	－								
M260	112	145	鉄銭		2.70	2.78	0.66	5.1		2区中段西部	SX2123	M260・M261付著
M261	112	145	鉄銭									
M262	113	146	銭貨	一銭	2.33	2.32	0.14	3.7		2区	SX2087	
M263	113	146	銭貨	一銭	2.30	2.29	0.15	3.6		2区	SX2087	
M264	113	146	銭貨	一銭	2.30	2.31	0.15	3.5		2区	SX2087	
M265	113	146	銭貨	一銭	2.31	2.31	0.14	3.7		2区	SX2087	
M266	113	146	銭貨	一銭	2.33	2.34	0.15	3.8		2区	SX2087	
M267	113	146	銭貨	一銭	2.33	2.31	0.14	3.7		2区	SX2087	
M268	113	146	銭貨	一銭	1.74	1.76	0.15	0.9		2区上段	SX2041	
M269	113	146	銭貨	一	1.59	1.63	0.17	0.6		2区上段	SX2041	
M270		139	銅銭	天禧通寶	2.53	2.49	0.11	1.8		2区	SX2116 下	写真のみ
M271		140	銅銭	?	2.39	2.40	0.25	1.6		2区上中段間斜面	火葬跡 灰原	写真のみ
M272		141	銅銭	寛永通寶	2.38	2.31	0.18	2.5		2区上段	SX2017 東側	写真のみ
M273		141	銅銭	寛永通寶	2.38	2.38	0.19	2.6		2区	SX2117 下層	写真のみ　布
M274		141	銅銭	?	(2.12)	(2.16)	0.14	(1.2)		2区	SX2117 下層	写真のみ
M275		141	銅銭	寛永通寶	2.20	2.28	0.24	1.9		2区	SX2032	写真のみ 布・紐
M276		141	銅銭	口祐通寶	(1.89)	2.44	0.14	(2.0)		2区上段	南側 風空輪出土石組	写真のみ
M277		142	鉄銭		2.44	2.36	0.26	2.5		5区下段	石造群の東	写真のみ
M278		142	銅銭	寛永通寶	2.53	2.48	0.28	6.4		2区中段	南端 下層1層（にぶい黄褐細砂）	M278・M279付著 写真のみ
M279		142	鉄銭	－						2区	南端 下層1層（にぶい黄褐細砂）	
M280		142	鉄銭		2.61	2.57	0.31	2.4		2区	南端 下層1層（にぶい黄褐細砂）	写真のみ
M281		142	鉄銭		2.61	2.59	0.41	2.2		2区	南端 下層1層（にぶい黄褐細砂）	写真のみ
M282		145	銅銭	－	2.48	2.71	0.53	11.3		2区	SX2123	M282～285付著 写真のみ
M283		145	銅銭	－								
M284		145	銅銭	－								
M285		145	銅銭	－								
M286		146	銭貨		1.66	1.61	0.23	1.3		2区上段	SX2041	写真のみ
M287		146	銭貨		1.70	1.75	0.33	0.9		2区上段	SX2041	写真のみ
M288		146	銭貨		(1.33)	(1.57)	0.26	(0.8)		2区上段	SX2041	写真のみ
M289		146	銭貨		(1.59)	1.61	0.27	1.2		2区上段	SX2041	写真のみ
M290	114	143	金銅製品	錫杖	(20.9)	6.8	2.0	231.8	錫杖頭完存	2区	SX2028	
M291	114	143	銅製品	飾金具	6.7	5.1	0.8	39.4	完存	2区	SX2028	
M292	114	144	銅製品	小柄	(9.0)	1.3	0.4	20.5	柄完存	1区	平坦面3 北東半～中央　表土直下～遺構面まで	
M293	114	144	鉛製品	鉄砲玉	1.3	1.2	0.85	6.8	完存	1区平坦面3	北東スミ 流土中	
M294	115	144	銅製品	煙管	19.3	1.1	0.1	36.9	完存	2区	SX2040	
M295	115	144	銅製品	煙管（雁首）	5.0	1.3	0.1	8.2	完存	2区	SX2081	
M296	115	144	銅製品	煙管（雁首）	4.7	1.3	0.1	12.1	完存	2区	SX2108	
M297	115	144	銅製品	煙管（雁首）	5.8	1.7	0.1	7.0	完存	2区中段	炭層	
M298	115	144	銅製品	煙管（雁首）	4.7	1.5	0.1	6.2	完存	2区中段	北斜面	
M299	115	144	銅製品	煙管（雁首）	4.6	1.8	0.1	8.9	完存	2区中段	北斜面	
M300	115	144	銅製品	煙管（雁首）	5.0	1.4	0.1	9.3	完存	2区	SX2118	
M301	115	144	銅製品	煙管（吸口）	5.2	1.0	0.1	5.3	完存	2区	SX2118	
M302	115	144	銅製品	煙管（吸口）	6.0	1.2	0.1	4.3	ほぼ完存	2区	SX2117 下層	
M303	115	144	鉄製品	小刀	28.8	2.7	0.5	118.0	ほぼ完存	2区	SX2118	
M304	115	145	鉄製品	?	(3.6)	(0.55)	0.4　0.15	0.7	両端欠	2区	SX2126	
M305	115	145	鉄製品	釘	(9.75)	1.6	0.7	13.8	下端若干欠		平坦面3 焼土坑 SX1304	
M306	115	145	鉄製品	鋤先	(11.8)	5.1	0.45	129.3	一部残	2区	SX2031	
M307	116	145	鉄製品	釘	(6.65)	1.8　0.9	0.45	5.8	頭部欠	4区	SX4045	
M308	116	145	鉄製品	釘	(9.15)	1.25	0.5	7.0	頭部若干下部欠	4区	SX4045	
M309	116	145	鉄製品	釘	9.1	1.4	0.5	8.0	完存	4区	SX4045	
M310	116	145	鉄製品	釘	9.2	1.3	0.45	7.0	完存	4区	SX4045	
M311	116	145	鉄製品	釘	(6.15)	(1.05)	0.45	5.1	両端欠	4区	SX4045	
M312	116	145	鉄製品	釘	9.3	1.1	0.35	6.8	頭部先端欠	4区	SX4045	
M313	116	145	鉄製品	釘	(8.55)	(1.1)	0.4	6.6	両端欠	4区	SX4045	
M314	116	145	鉄製品	釘	(7.4)	1.15	0.6	5.3	頭部先端下端欠	4区	SX4045	
M315	116	145	鉄製品	釘	(6.2)	1.25	0.5	4.8	下端欠	4区	SX4045	
M316	116	145	鉄製品	釘	(8.15)	(0.7)	0.4	5.9	完存	4区	SX4045	
M317	116	145	鉄製品	釘	7.25	1.3	0.5	4.9	頭部先端欠	4区	SX4045	
M318	116	145	鉄製品	釘	(6.05)	(1.3)	0.5	4.2	両端欠	4区	SX4045	
M319	116	145	鉄製品	釘	(7.4)	1.05	0.45	5.2	下端欠	4区	SX4045	
M320	116	145	鉄製品	釘	(6.2)	1.25	0.45	3.7	下端欠	4区	SX4045	
M321	116	145	鉄製品	釘	(5.7)	(0.7)	0.45	3.2	両端欠	4区	SX4045	
M322	116	145	鉄製品	釘	(5.85)	1.2	0.45	4.0	頭部先端下部欠	4区	SX4045	
M323	116	145	鉄製品	釘	(4.9)	(1.1)	0.5	2.2	両端欠	4区	SX4045	
M324	116	145	鉄製品	釘	(4.75)	(1.2)	0.5	3.5	両端欠	4区	SX4045	
M325	116	145	鉄製品	釘	(4.05)	1.6	0.5	3.7	頭部先端下端欠	4区	SX4045	
M326	116	145	鉄製品	釘	(6.9)	(0.6)	0.5	4.6	両端欠	4区	SX4045	
M327	116	145	鉄製品	釘	(5.0)	(2.65) (0.65)	0.4	3.6	両端欠	4区	SX4045	
M328	117	145	鉄製品	釘	(3.05)	(0.7) (0.4)	0.35	1.1	両端欠	4区	SX4045	
M329	117	145	鉄製品	釘	(3.15)	(0.55)	0.35	1.3	両端欠損	4区	SX4045～SX4046の残土中	
M330	117	145	鉄製品	釘	(2.55)	0.6	0.4	0.9	両端欠	4区	SX4045～SX4046の残土中	
M331	117	145	鉄製品	釘	(4.35)	(0.6)	0.35	1.1	両端欠	4区	SX4045～SX4046の残土中	
M332	117	145	鉄製品	釘	(4.85)	(0.65)	0.45	3.4	両端欠	4区	SX4033	
M333	117	145	鉄製品	釘	(2.05)	0.4	0.4	0.5	下半欠	4区	SX4049	
M334	117	145	鉄製品	釘	(2.35)	1.2	0.4	1.2	下部欠	4区	SX4049	
M335	117	145	鉄製品	釘	(2.3)	1.0	0.55	1.2	頭部先端下半欠	4区	SX4049	
M336	117	145	鉄製品	釘	16.5	2.3	1.0	81.8	ほぼ完存	5区中段	黄褐砂	

表 16　観音寺跡　出土遺物観察表（10）

金属製品（3）

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）					出土地区	出土遺構・層位	備考
					長さ	幅	厚み	重量（g）	残存率			
M337	117	144	鉄製品	鎌	13.9	14.6	0.7	144.0	完存	2 区上段南側	SX2019 墓壙内	
M338	117	144	鉄製品	鎌	10.55	10.0	0.3	49.6	一部残	2 区	上・中段間の南斜面 炭原埋土	
M339	117	144	鉄製品	鎌	14.6	12.2	0.4	68.4	ほぼ完存	2 区上段中央	東斜面	
M340	117	144	鉄製品	斧	15.3	7.6	2.8	659.9	完存	2 区上段	表土はぎ墓壙上面	
M341		144	鉄製品	鎌	16.4	5.2	1.4			3 区	里道表土	写真のみ
M342		144	銅製品	引手金具	11.0	5.9	1.0			1 区平坦面 2 東区	人力掘削	写真のみ
M343		144	銅製品	板状製品	2.9	1.3	0.9			2 区	SX2010	写真のみ
M344		144	銅製品	小はぜ	1.8	1.4	0.1			2 区	SX2029	写真のみ
M345		144	銅製品	小はぜ	1.3	1.4	0.1			2 区	SX2040	写真のみ
M346		144	銅製品	煙管	5.5	1.1	1.1			2 区	SX2045	写真のみ
M347		144	銅製品	煙管	5.4	1.2	1.3			2 区	SX2112	写真のみ
M348		144	銅製品	円盤状製品	3.6	2.2	1.8			2 区	SX2114 と SX2115 の間の土	写真のみ
M349		144	鉄製品	板状製品	8.5	6.5	3.1			1 区平坦面 2	人力掘削	写真のみ
M350		145	鉄製品	板状製品	6.7	1.5	0.8			1 区平坦面 1	北側石列前	写真のみ
M351		145	鉄製品	板状製品	4.2	1.5	0.7			1 区平坦面 3	SE1302	写真のみ
M352		145	鉄製品	板状製品	10.2	2.6	1.7			1 区平坦面 3	南東端 石垣際	写真のみ
M353		145	鉄製品	釘	3.3	1.8	0.8			2 区上段	SX2040	写真のみ
M354		145	鉄製品	板状製品	7.8	2.2	1.2			2 区と平坦面 4 の間の下斜面		写真のみ
M355		144	鉄製品	鎌	8.0	2.4	1.5			2 区 Tr172		写真のみ
X1		143		服飾具								写真のみ

石製品（1）

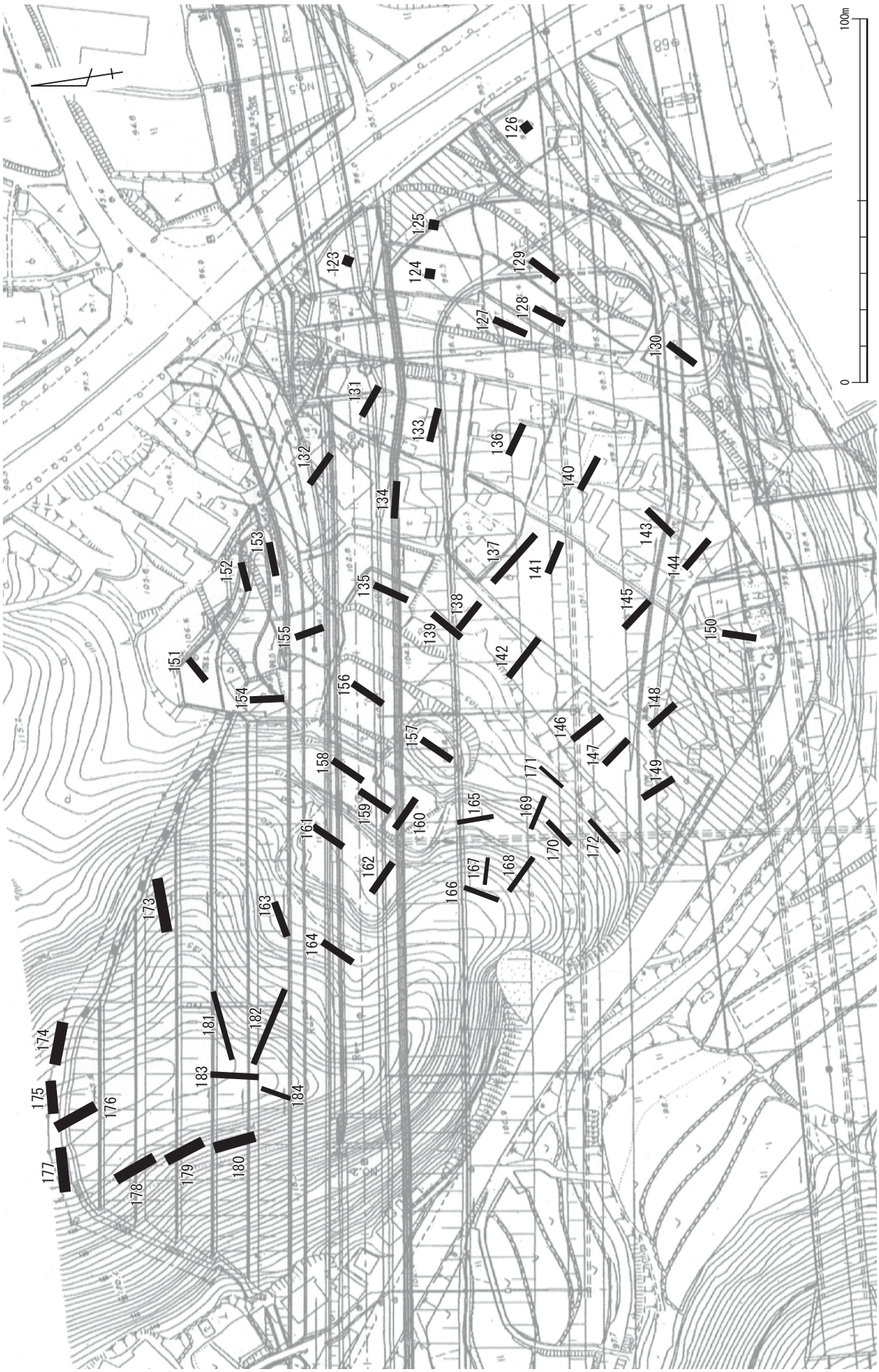
報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）					出土地区	出土遺構・層位	備考
					長さ	幅	厚み	重量（g）	残存率			
S101	118	146	石器	剥片ＵＦ	3.0	2.0	0.37	1.9g		Tr171		使用痕あり
S102	118	146	石器	石鏃ＡＨ	1.85	1.62	0.2	0.5g		Tr158	ベース層の赤土？	
S103	118	146	石造品	石臼	29.6	30.1	7.55	10.4kg	完形	1 区平坦面 3	SX1307 内	
S104	118	147	石造品	一石五輪塔	53.85	14.25	13.15	16.2kg	完形	2 区上段		能勢石
S105	118	147	石造品	一石五輪塔	57.0	15.2	風）11.6 水）15.6	18.8kg	完形	2 区	SX2030	六甲花崗岩
S106	118	147	石造品	一石五輪塔	42.9	13.8	13.0	11.6kg	火輪上部～空風輪欠	2 区	SX2030	波豆石
S107	118	147	石造品	一石五輪塔	48.3	16.7	16.3	22.8kg	完形	2 区	SX2001	六甲花崗岩
S108	118	147	石造品	一石五輪塔	37.6	14.7	14.5	10.4kg	完形	2 区上段 北側	表土ハギ	波豆石 全体に風化激しい
S109	118	147	石造品	一石五輪塔	39.45	15.75	風）11.15 水）14.95	13.8kg	空輪火輪若干欠	2 区	上段南側 墓抗上面	波豆石
S110	118	147	石造品	一石五輪塔	(15.9)	11.8	12.1	3.24kg	風空輪のみ	2 区	SX2077	六甲花崗岩
S111	118	147	石造品	一石五輪塔	(14.2)	11.5	11.3	2.05kg	風空輪のみ	2 区	上段南端（SX2012 上面）西壁沿い	六甲花崗岩 頂部欠損
S112	118	147	石造品	一石五輪塔	(11.4)	8.9	8.05	1.03kg	空風輪のみ		SX2114	六甲花崗岩
S113	119	147	石造品	空風輪	18.8 空）10.9 風）7.9	12.4	12.3	3.82kg	完形	4 区平坦面	五輪塔	波豆石
S114	119	147	石造品	風空輪	18.1	13.5	13.1	4.01kg	完形	1 区平坦面 3 南東石組上		一覧表№ 40 能勢石
S115	119	147	石造品	空風輪	13.0	12.7	空）12.9 風）10.0	4.64kg	完形	2 区上段	3 層黄褐土	
S116	119	147	石造品	風空輪	19.4	13.0	13.0	4.02kg	完形	2 区中段	SD2001	能勢石 b
S117	119	147	石造品	空風輪	26.5	16.4	15.25	8.8kg	完存	2 区南端	下灰層	能勢石 b
S118	119	148	石造品	火輪	22.0	22.4	13.0	9.6kg	ほぼ完形 一角欠損	2 区	SX2068	能勢石 b
S119	119	148	石造品	火輪	13.0	21.55	21.2	9.2kg	軒先のみ欠	2 区	SX2014	能勢石
S120	119	148	石造品	火輪	21.8	21.8	12.8	9.4kg	完形	2 区南端	下灰層	能勢石
S121	119	148	石造品	火輪	11.6	19.3	19.0	6.6kg	5/6	2 区	中段北斜面 灰層	能勢石 b
S122	119	148	石造品	火輪	11.9	20.4	20.4	7.2kg	完形	2 区	SX2132	能勢石 b
S123	119	148	石造品	火輪	20.7	20.2	13.2	9.4kg	完形	2 区中段 西斜面	表土	能勢石
S124	119	148	石造品	火輪	16.45	25.25	25.2	15.8kg	一部欠損	2 区南端	下灰層	能勢石
S125	119	148	石造品	水輪	20.2	24.0	23.8	15.6kg	完形	2 区	SX2068	能勢石
S126	119	148	石造品	水輪	19.7	25.2	25.5	18.2kg	完形	2 区	SX2002	能勢石 b
S127	119	148	石造品	水輪	20.9	25.3	24.9	17.4kg	完形	2 区中段 南斜面		能勢石 b
S128	119	148	石造品	水輪	21.7	24.2	24.6	17.4kg	完形	2 区上・中段間 斜面		能勢石 b
S129	119	148	石造品	水輪	19.65	23.6	23.45	14.8kg	完形	2 区上段 西壁		能勢石 b
S130	119	148	石造品	水輪	20.05	25.7	25.2	18.4kg	完形	2 区	上・中段間斜面 灰層	能勢石
S131	119	148	石造品	水輪	16.1	22.2	21.4	11.0kg	完形	2 区上段	表土	能勢石 b
S132	119	148	石造品	水輪	17.5	22.8	21.5	12.0kg	完形	2 区中段 西斜面		能勢石
S133	120	149	石造品	地輪	18.3	21.9	21.2	20.0kg	完形	2 区上段	SX2002 と SX2006 の間	能勢石
S134	120	149	石造品	台座	16.1	23.7	22.1	16.4kg	底部欠損？	2 区上段南端 (SX2007 東)		波豆石
S135	120	149	石造品	台座	15.7	25.6	26.2	20.6kg	完形	2 区	SX2132	能勢石 b
S136	120	149	石造品	台座	12.6	27.9	26.1	20.6kg	完形	2 区	墓抗上面	能勢石 b
S137	120	149	石造品	台座	13.5	28.0	28.4	16.8kg	上面 2/3 底部欠損？	2 区上段	遺構面	能勢石
S138	120	149	石造品	台座	25.2	24.9	9.3	9.8kg	完形	2 区下段	西端 西北側	能勢石
S139	120	149	石造品	台座	10.0	28.1	27.7	12.8kg	底部欠損？	2 区上段	表（西斜面）	能勢石 b
S140	120	149	石造品	石仏	39.5	16.1	10.5	10.2kg	完形	2 区南端	1 層	能勢石
S141	120	149	石造品	石仏	37.75	16.95	11.45	10.4kg	ほぼ完形	2 区	SX2117 下層	能勢石
S142	120	149	石造品	石仏	36.0	20.2	13.75	14.8kg	完形	2 区上段	南端 表土	能勢石
S143	120	149	石造品	石仏	18.0	17.7	11.3	4.72kg	一部欠損	2 区	SX2029	能勢石
S144		146	石製品	剥片	5.9	3.1	1.6	22.5 g		2 区	上段北側 表土	写真のみ
S145		146	石製品	剥片	5.5	2.8	0.9	12.7g		2 区	中段 表土	写真のみ
S146		146	石製品	碁石	2.1	2.1	0.4	3.1g		3 区 Tr171		写真のみ
S147		146	石製品	敲石	8.0	6.3	3.2	252.3g		2 区南端	上部灰層より上（1 層）	写真のみ
S148		146	石製品	石包丁	8.7	4.2	1.4	66.3g		1 区平坦面 4	SX1409 内	写真のみ
S149		146	石製品	砥石	10.0	4.7	2.1	151.7g		1 区平坦面 3	SE1301	写真のみ
S150		146	石製品	砥石	9.0	6.4	2.3	149.5g		1 区	平坦面 3 と 4 の間	写真のみ
S151		146	石製品	砥石	11.8	12.9	3.7	515.3g		1 区	平坦面 4	写真のみ
S152		146	石製品	砥石	8.3	2.8	1.1	46.1g		1 区平坦面 2	東埋甕	写真のみ
S153		146	石製品	砥石	5.7	2.2	1.3	21.3g		4 区 Tr182		写真のみ
S154		146	石製品	砥石	5.5	4.1	1.1	48.0g		5 区	下段	写真のみ
S155		149	石製品	台座	14.6	8.3	5.05	95.19g		1 区	平坦面 4 北斜面	写真のみ 能勢石

玉類

報告番号	図版番号	写真図版番号	種別	器種	法量（cm）					出土地区	出土遺構・層位	備考
					長さ	幅	厚み	重量（g）	残存率			
J1		143	玉　ガラス	数珠玉	1.31	1.31	1.31	3.3		2 区上段	SX2028	透明
J2		143	玉　水晶？	数珠玉	1.37	1.32	1.25	3.0		2 区	SX2028	透明
J3		143	玉　ガラス	数珠玉	1.28	1.28	1.22	2.6		2 区	SX2028	透明
J4		143	玉　水晶？	数珠玉	0.9	0.9	1.2	1.4		2 区	SX2028	透明
J5		143	玉　水晶？	数珠玉	0.88	0.88	1.26	1.3		2 区	SX2028	透明
J6		143	玉　水晶？	数珠玉	0.87	0.87	1.23	1.2		2 区	SX2028	透明
J7		143	玉　ガラス？	数珠玉	0.8	0.8	0.65	0.6		2 区	SX2028	半透明
J8		143	玉　ガラス	数珠玉	1.37	1.32	1.29	3.2		2 区	SX2048	透明
J9		143	玉　ガラス	数珠玉	1.6	1.25	0.9	2.2	1/4 残	2 区	SX2126	橙
J10		143	玉　ガラス	数珠玉	1.4	1.4	1.36	4.0+ α	一部欠け	2 区	SX2029	緑
J11		143	玉　ガラス？	数珠玉	1.47	1.43	1.29	3.2		2 区	SX2112	白
J12		143	玉　水晶？	数珠玉	1.37	1.33	1.29	3.2		2 区	SX2112	透明
J13		143	玉　ガラス	数珠玉	0.95	0.92	0.97	1.3		2 区	SX2124	白
J14		143	玉　ガラス	数珠玉	1.0	0.95	0.99	1.4		2 区	SX2124	白
J15		143	玉　樹脂製	数珠玉	1.35	1.34	1.35		完形	2 区	SX2126	透明　写真のみ
J16		143	玉　樹脂製	数珠玉	4.9	5.0	4.0			2 区	SX2064	橙　写真のみ
J17		143	玉　樹脂製	数珠玉	5.3	5.3	4.7			2 区	SX2064	橙　写真のみ
J18		143	玉　樹脂製	数珠玉	5.4	5.4	4.5			2 区	SX2064	橙　写真のみ
J19		143	玉　樹脂製	数珠玉	5.3	5.4	4.3			2 区	SX2064	橙　写真のみ
J20		143	玉　樹脂製	数珠玉	5.3	5.3	4.7			2 区	SX2064	橙　写真のみ
J21		143	玉　樹脂製	数珠玉	5.4	5.3	4.6			2 区	SX2064	橙　写真のみ
J22		143	玉　樹脂製	数珠玉	5.3	5.3	4.7			2 区	SX2064	橙　写真のみ

図　　版

観音寺跡・広根遺跡Ⅰ区



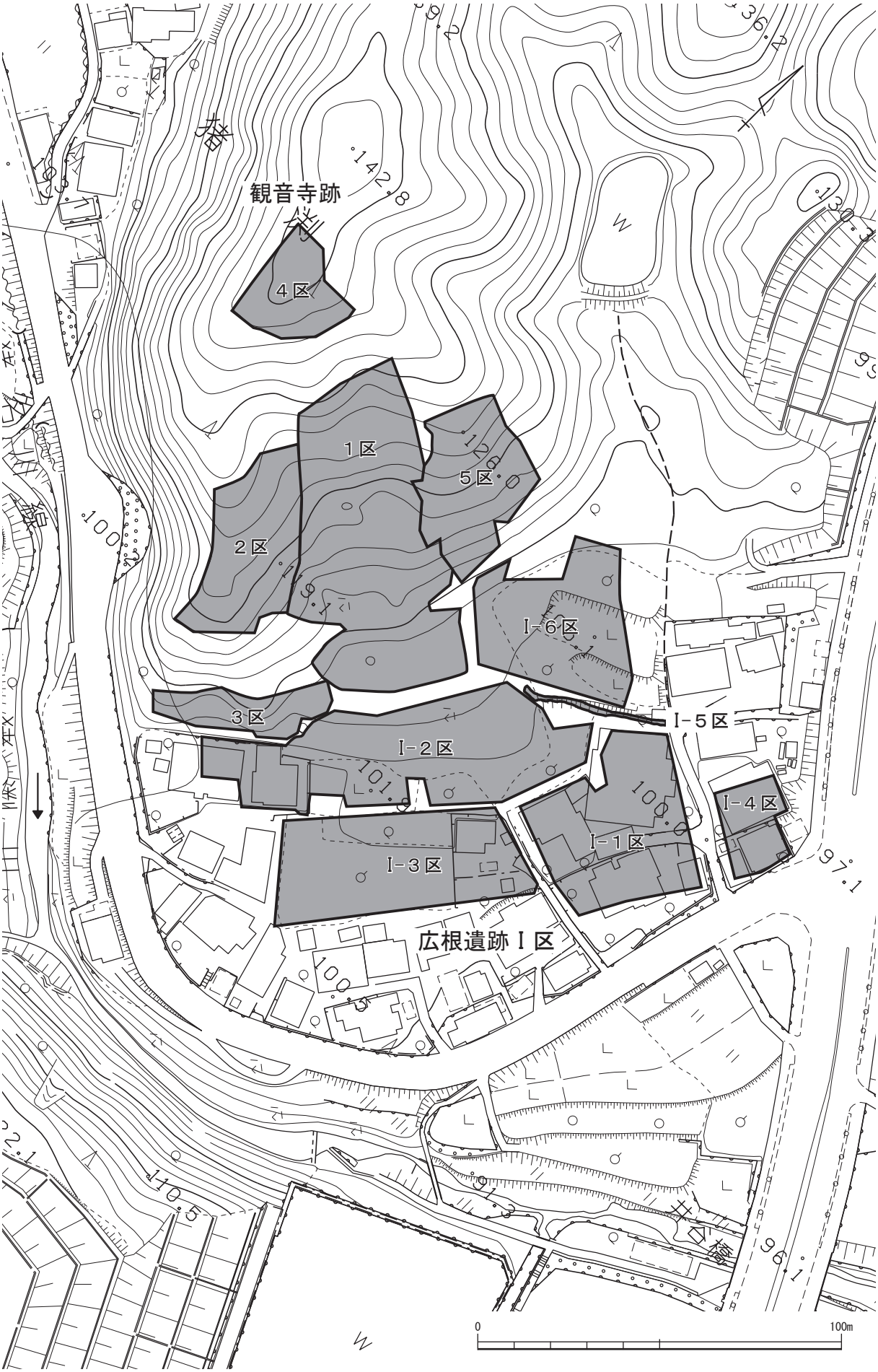
観音寺跡・広根遺跡Ⅰ区他　トレンチ図

観音寺跡・広根遺跡Ⅰ区

広根遺跡・観音寺跡・猪渕遺跡　調査位置図

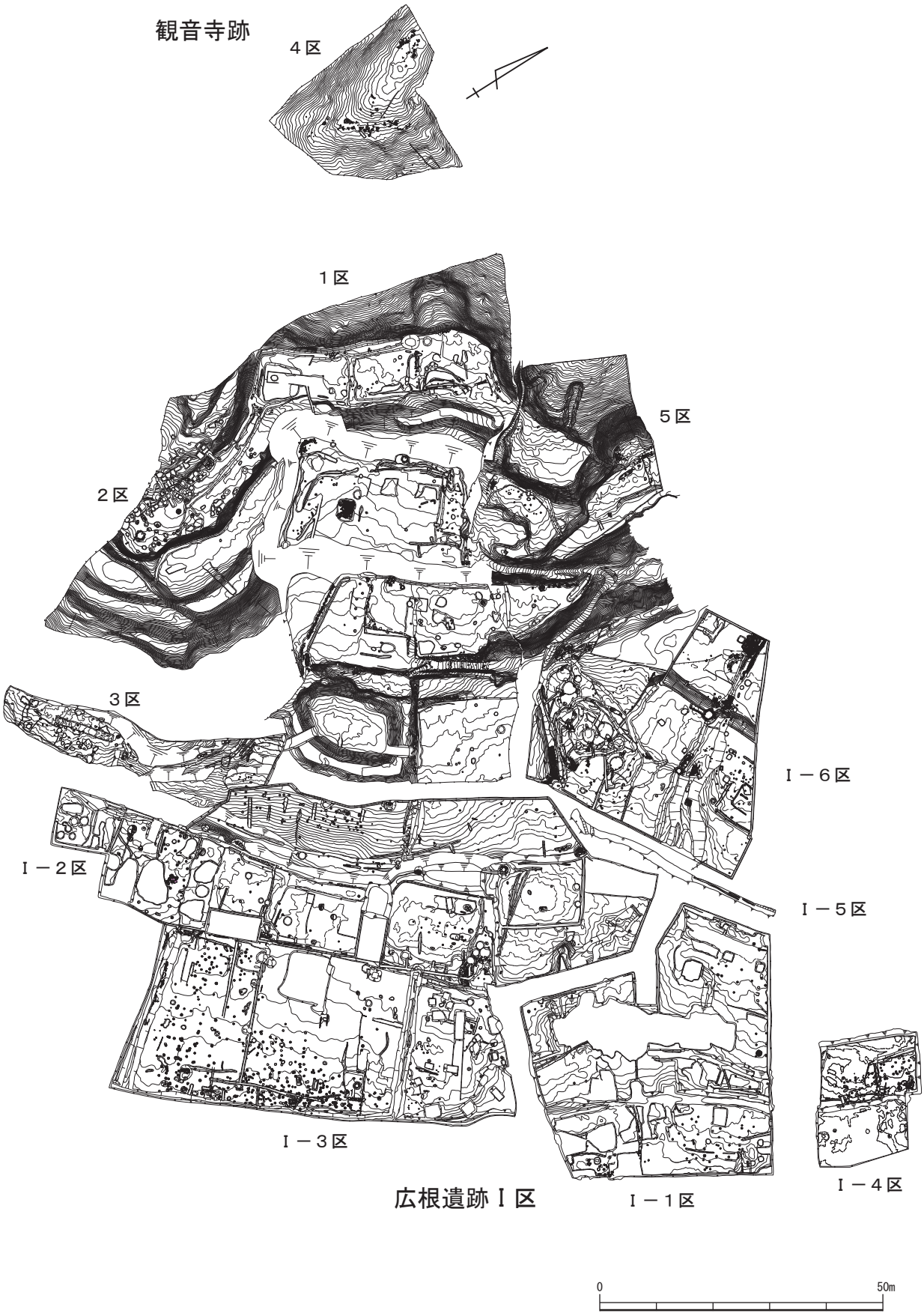
観音寺跡・広根遺跡Ⅰ区

広根遺跡・観音寺跡・猪渕遺跡　遺構配置図



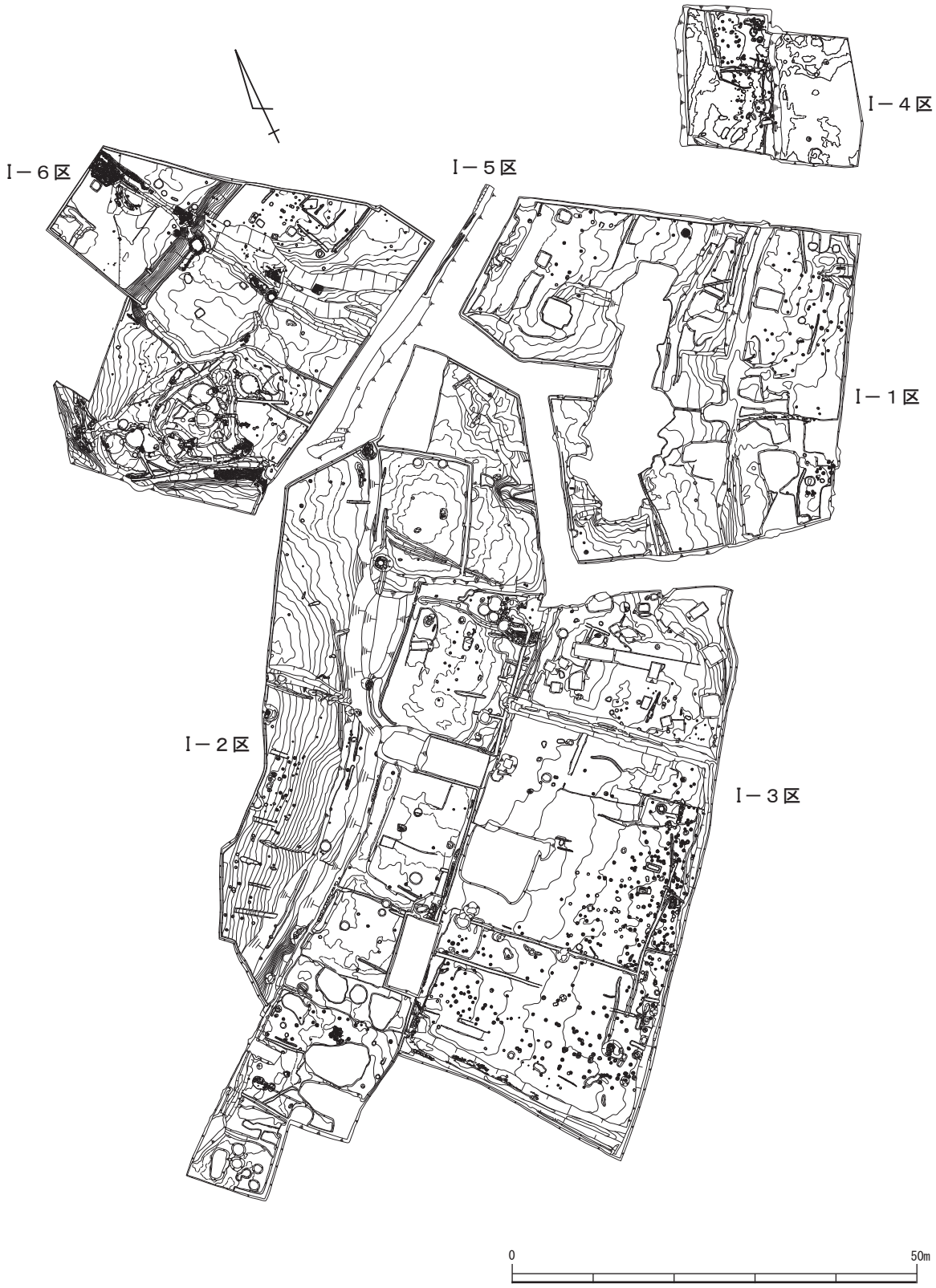
観音寺跡・広根遺跡Ⅰ区　本発掘調査区位置図

観音寺跡・広根遺跡Ⅰ区



観音寺跡・広根遺跡Ⅰ区　全体図

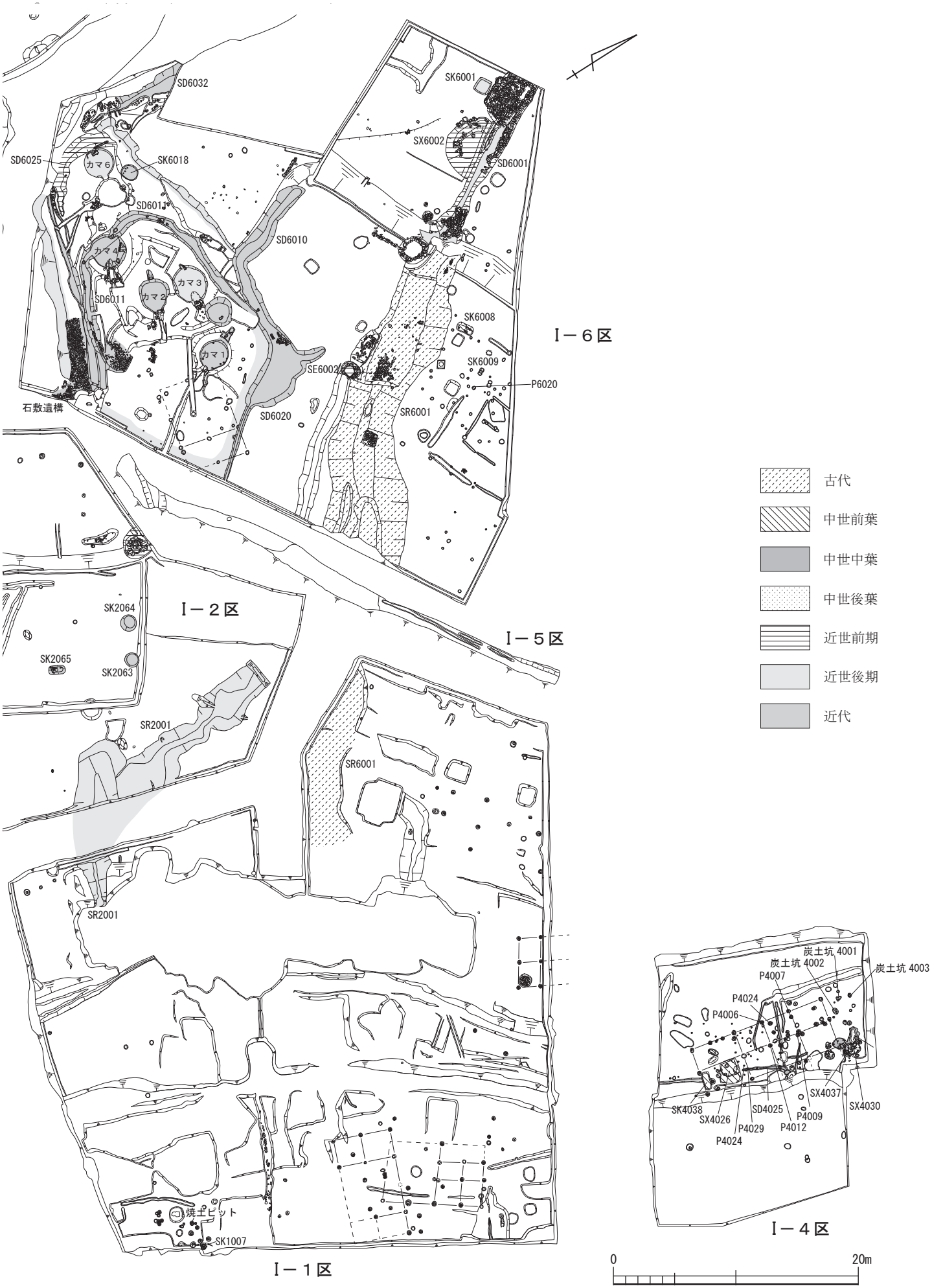
広根遺跡Ⅰ区



広根遺跡Ⅰ区　全体図

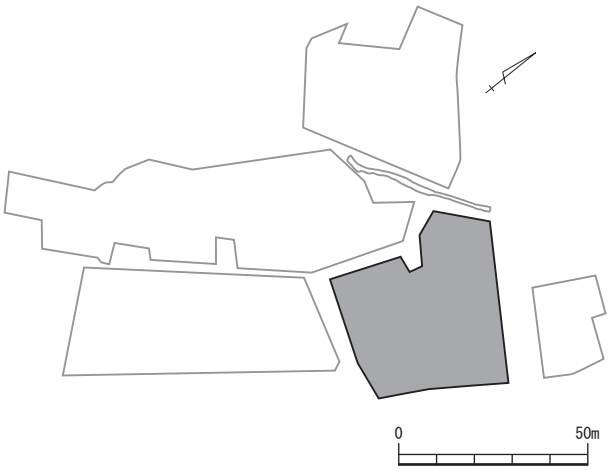
観音寺跡・広根遺跡Ⅰ区

広根遺跡Ⅰ区　遺構平面詳細図1



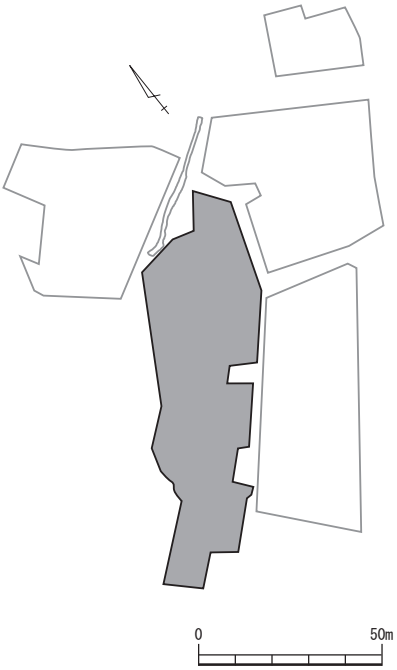
広根遺跡Ⅰ区　遺構平面詳細図２

広根遺跡Ⅰ区



広根遺跡Ⅰ－１区　全体図

広根遺跡Ⅰ区

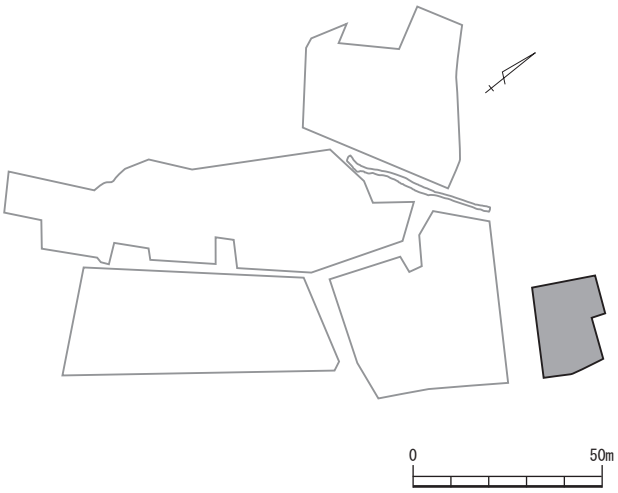


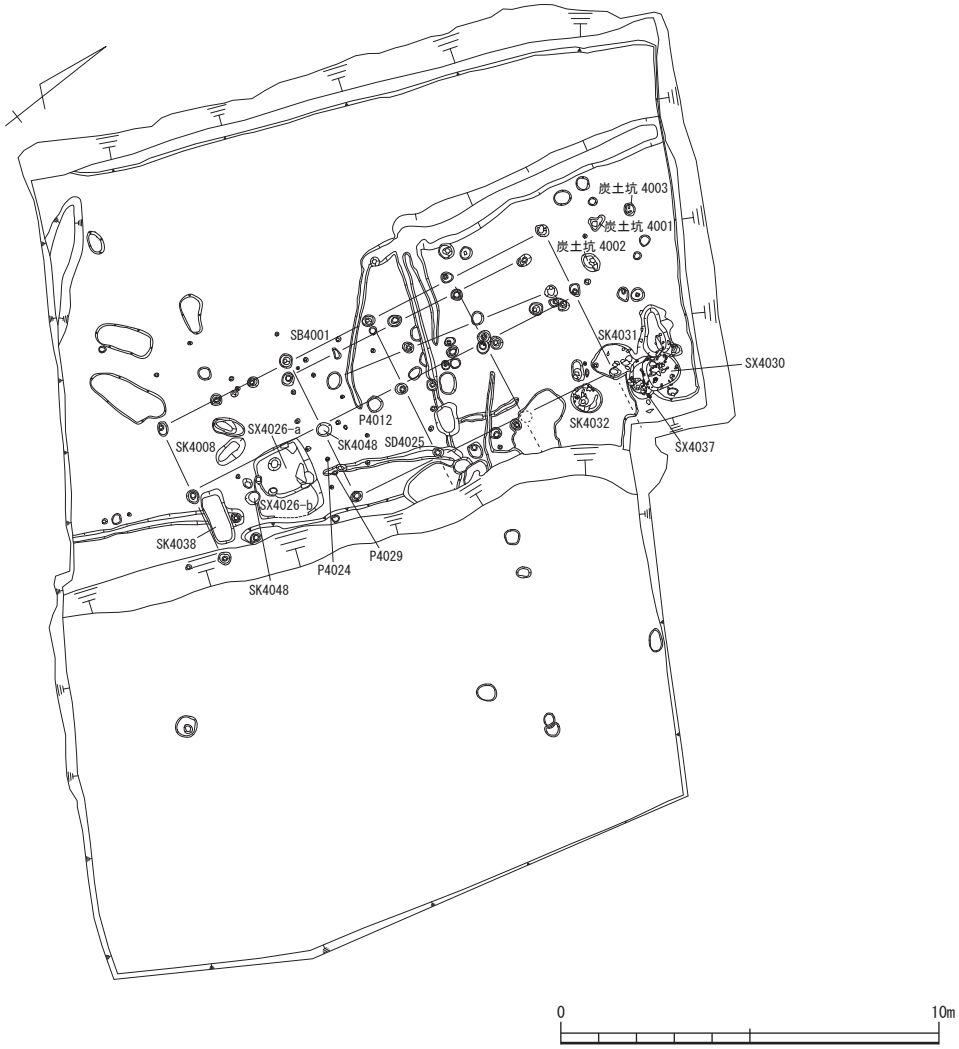
広根遺跡Ⅰ－２区　全体図

広根遺跡Ⅰ区

広根遺跡Ⅰ－３区　全体図

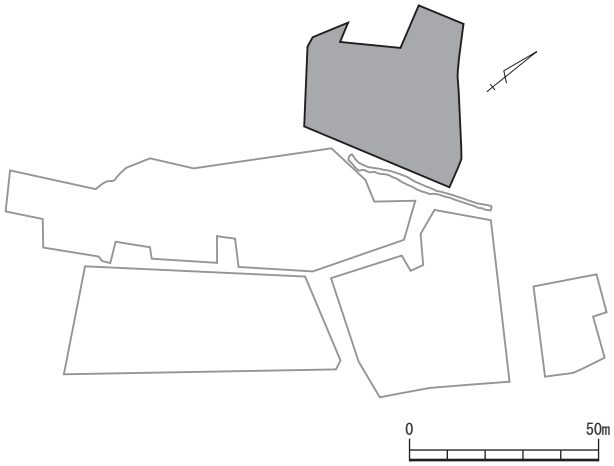
広根遺跡Ⅰ区

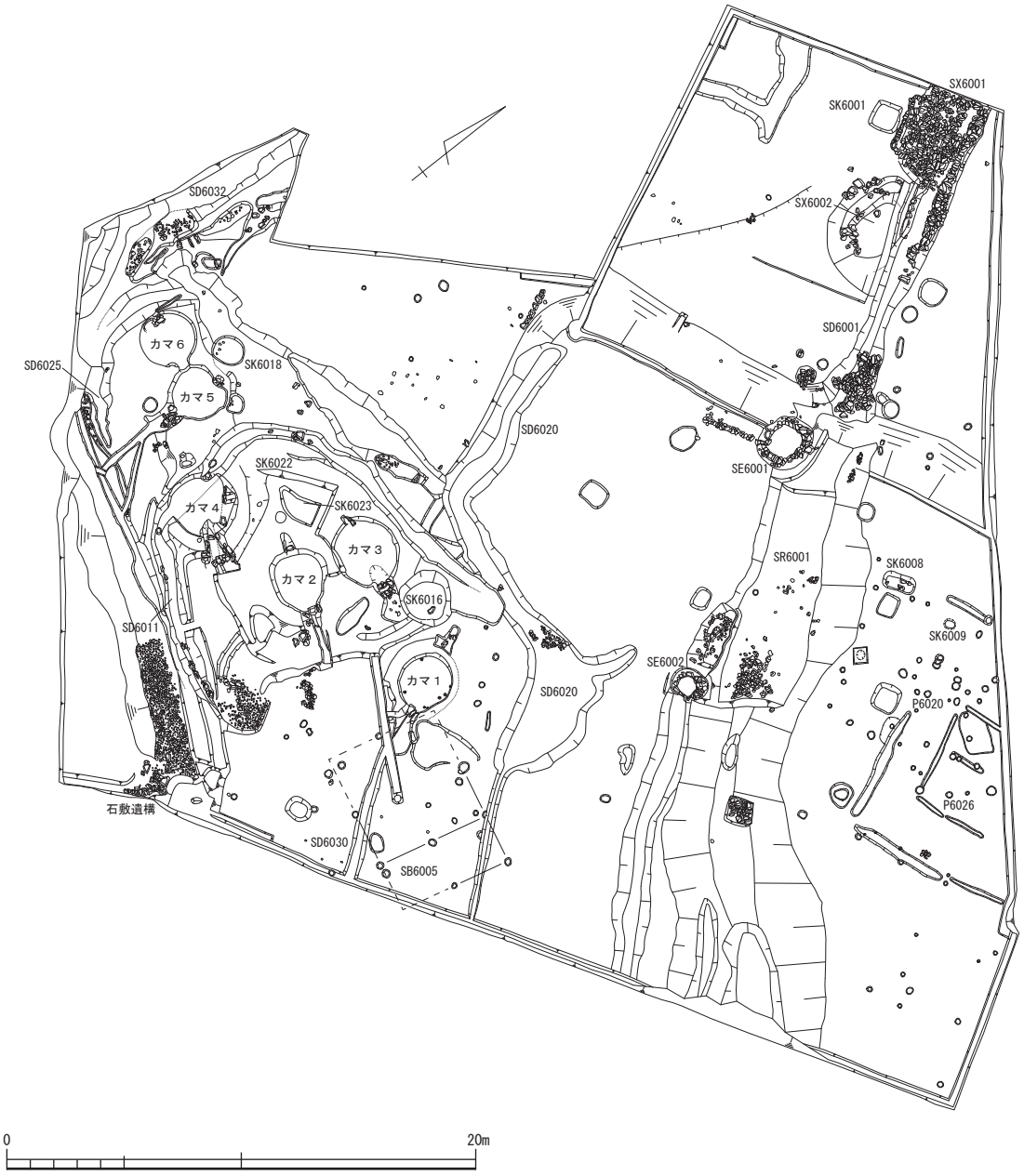




広根遺跡Ⅰ－４区　全体図

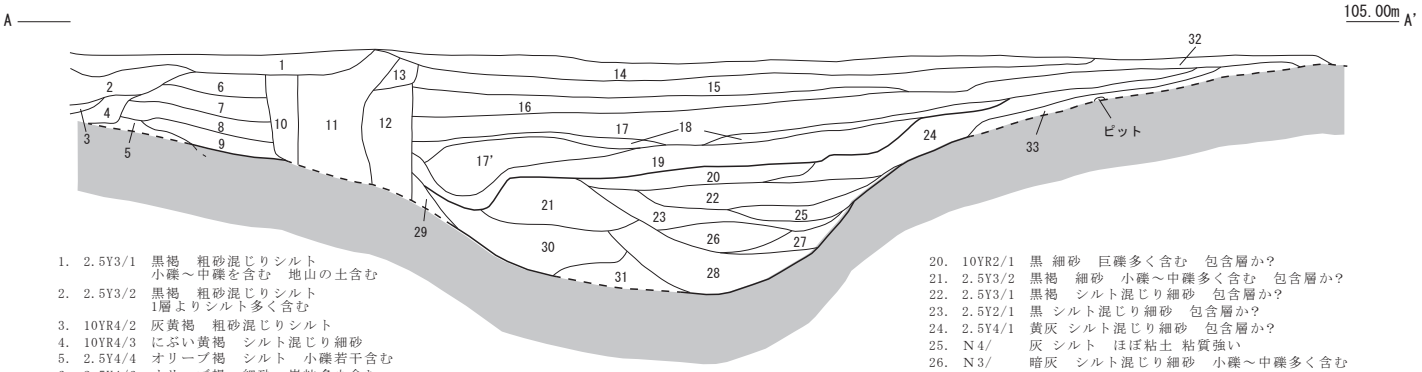
広根遺跡Ⅰ区



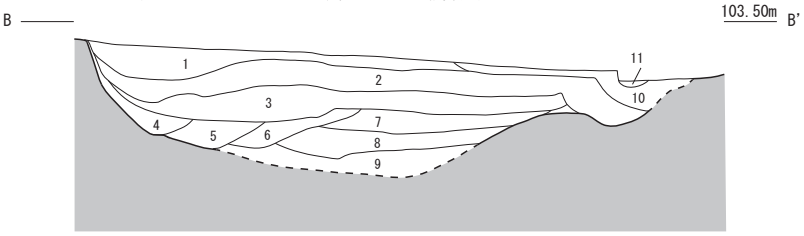


広根遺跡Ⅰ－６区　全体図

SR6001

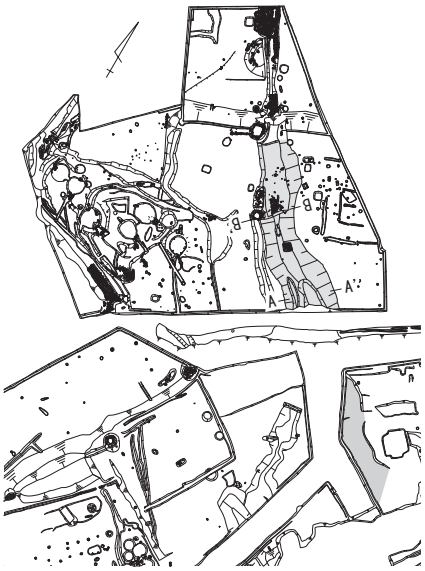


1. 2.5Y3/1 黒褐 粗砂混じりシルト 小礫～中礫を含む 地山の土含む
2. 2.5Y3/2 黒褐 粗砂混じりシルト 1層よりシルト多く含む
3. 10YR4/2 灰黄褐 粗砂混じりシルト
4. 10YR4/3 にぶい黄褐 シルト混じり細砂
5. 2.5Y4/4 オリーブ褐 シルト 小礫若干含む
6. 2.5Y4/6 オリーブ褐 細砂 炭粒多少含む
7. 2.5Y4/3 オリーブ褐 細砂 炭粒多少含む
8. 2.5Y4/2 暗灰黄 細砂 炭粒多少含む
9. 2.5Y4/4 オリーブ褐 細砂 炭粒多少含む
10. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐 細砂 溝の埋土
11. 2.5Y5/2 暗灰黄 礫混じり細砂 巨礫多く含む 溝の埋土
12. 10層と同じ 溝の埋土
13. 10YR4/1 褐灰 粗砂混じり細砂 溝の埋土
14. 10YR3/2 黒褐 細砂 小礫多く含む 炭粒含む
15. 10YR3/3 暗褐 細砂 小礫多く含む 炭粒含む
16. 10YR3/4 暗褐 細砂 小礫多く含む 炭粒含む
17. 5Y5/3 黄褐 シルト 粘質若干強い 整地層
17'. 17層と同じ
18. 5Y3/1 オリーブ黒 シルト混じり細砂 土壌化している
19. 2.5Y3/2 黒褐 シルト混じり細砂 土壌化している 粘質若干強い
20. 10YR2/1 黒 細砂 巨礫多く含む 包含層か?
21. 2.5Y3/2 黒褐 細砂 小礫～中礫多く含む 包含層か?
22. 2.5Y3/1 黒褐 シルト混じり細砂 包含層か?
23. 2.5Y2/1 黒 シルト混じり細砂 包含層か?
24. 2.5Y4/1 黄灰 シルト混じり細砂 包含層か?
25. N4/ 灰 シルト ほぼ粘土 粘質強い
26. N3/ 暗灰 シルト混じり細砂 小礫～中礫多く含む
27. N2/ 黒 シルト 炭粒多少含む
28. 5B2/ 青黒 粗砂混じりシルト 小礫～中礫多く含む
29. 5Y4/3 暗オリーブ シルト
30. 2.5Y3/1 オリーブ黒 粗砂混じり細砂 小礫～中礫多く含む
31. 5Y4/4 暗オリーブ シルト 粘質かたい
32. 2.5Y3/2 オリーブ褐 細砂
33. 2.5Y4/3 オリーブ褐 細砂



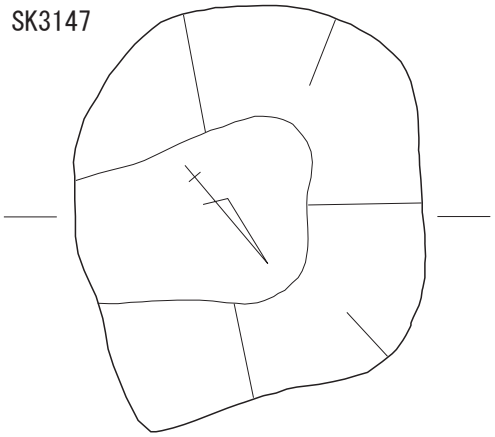
1. 2.5Y4/1 黄灰 細砂 小礫～中礫混じる 炭粒含む
2. 2.5Y4/2 暗灰黄 細砂 小礫～中礫混じる 炭粒含む
3. 2.5Y3/1 黒褐 シルト混じり細砂 小礫～中礫混じる 粘質強い
4. 2.5Y3/2 黒褐 粗砂混じりシルト 小礫～中礫混じる 炭粒含む 粘質強い
5. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐 粗砂混じりシルト 小礫～中礫混じる 炭粒含む 4層より粘質弱い
6. 2.5Y4/3 オリーブ褐 シルト 小礫～中礫混じる 炭粒含む 粘質強い
7. 5Y3/1 オリーブ黒 粗砂混じりシルト 小礫～巨礫含む 炭粒含む 粘質弱い
8. 5Y3/1 オリーブ黒 シルト 小礫～巨礫含む 炭粒含む
9. 5Y2/2 オリーブ黒 シルト 小礫～中礫含む 炭粒含む
10. 2.5Y5/3 黄褐 極砂混じりシルト 粘質強い 整地層
11. 10YR2/1 黒褐 細砂 小礫～中礫混じる 炭粒含む 溝の埋土

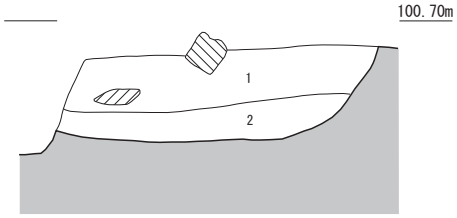
0 1m



0 20m

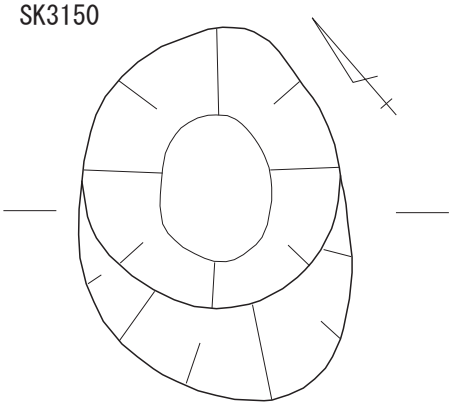
SK3147

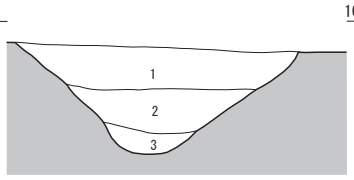




1. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐 極細砂質シルト 細礫～巨礫含む 地山ブロック多く含む 埋め戻し土
2. 2.5Y4/6 オリーブ褐 細砂質シルト 細礫含む

SK3150



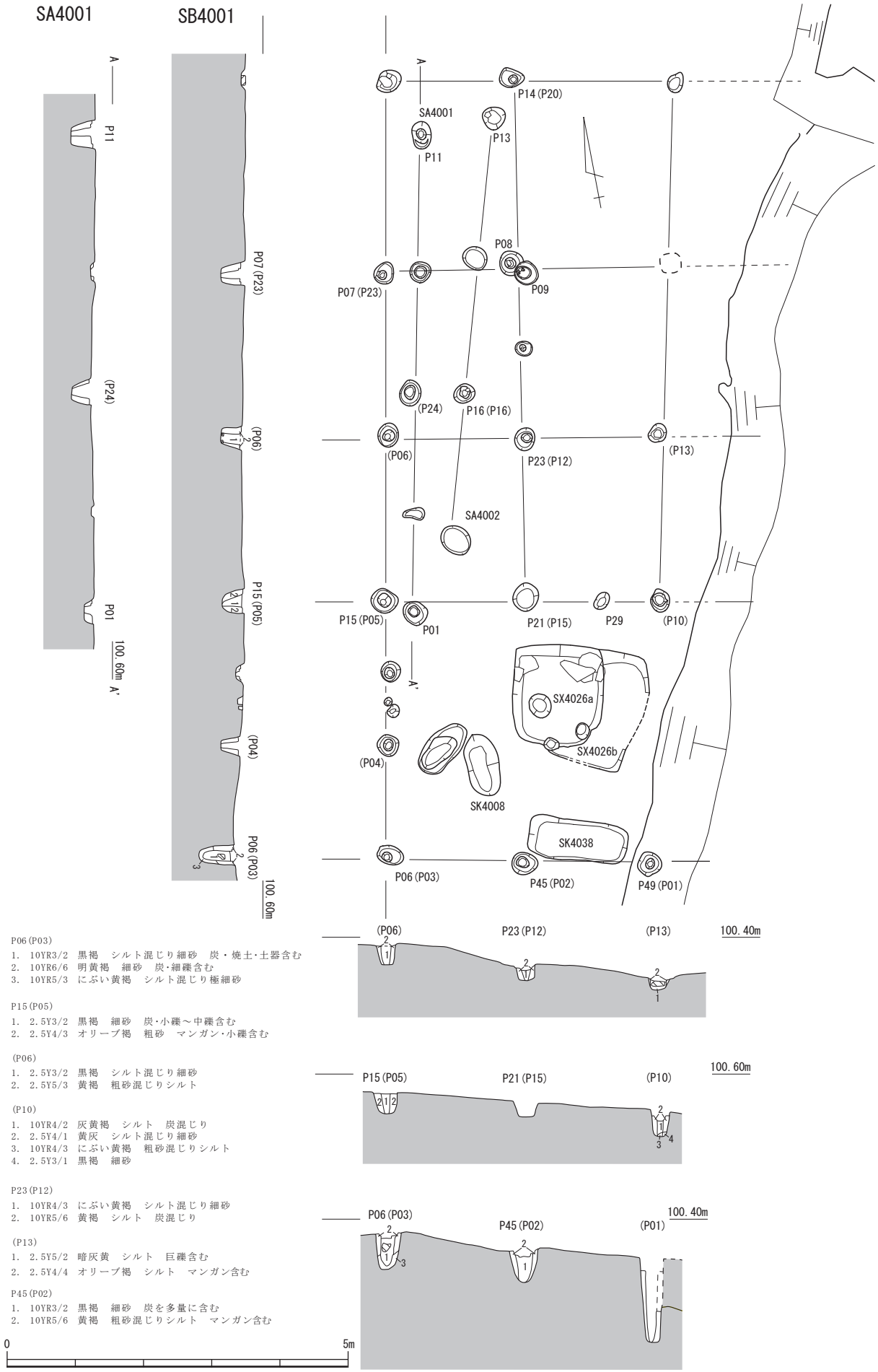


1. 2.5Y3/1 黒褐 極細砂
2. 2.5Y4/4 オリーブ褐 シルト
3. 2.5Y4/6 オリーブ褐 細砂

0 1m

古代の河道・中世前期の遺構 1

広根遺跡Ⅰ区



P06(P03)
1. 10YR3/2 黒褐 シルト混じり細砂 炭・焼土・土器含む
2. 10YR6/6 明黄褐 細砂 炭・細礫含む
3. 10YR5/3 にぶい黄褐 シルト混じり極細砂

P15(P05)
1. 2.5Y3/2 黒褐 細砂 炭・小礫～中礫含む
2. 2.5Y4/3 オリーブ褐 粗砂 マンガン・小礫含む

(P06)
1. 2.5Y3/2 黒褐 シルト混じり細砂
2. 2.5Y5/3 黄褐 粗砂混じりシルト

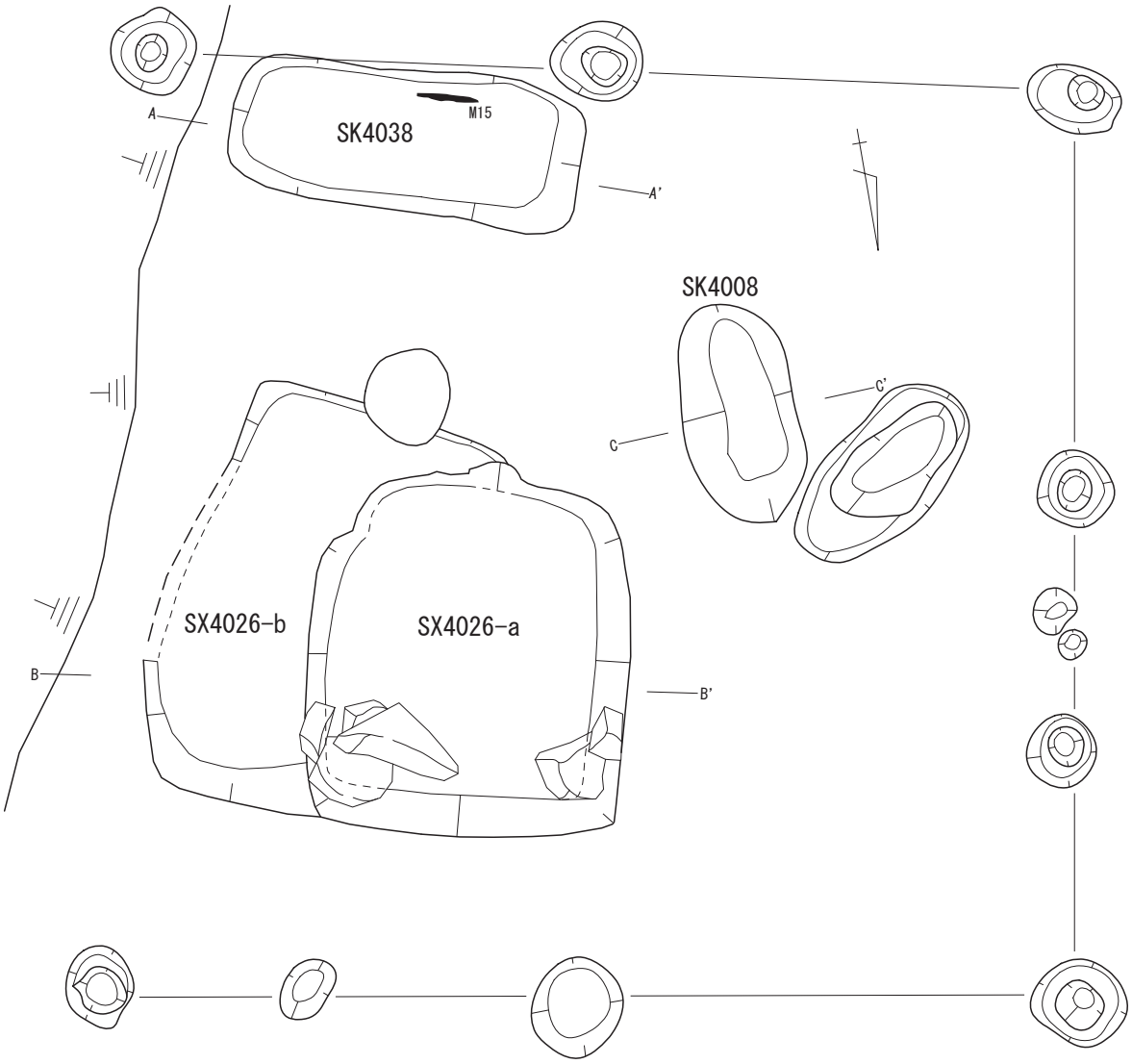
(P10)
1. 10YR4/2 灰黄褐 シルト 炭混じり
2. 2.5Y4/1 黄灰 シルト混じり細砂
3. 10YR4/3 にぶい黄褐 粗砂混じりシルト
4. 2.5Y3/1 黒褐 細砂

P23(P12)
1. 10YR4/3 にぶい黄褐 シルト混じり細砂
2. 10YR5/6 黄褐 シルト 炭混じり

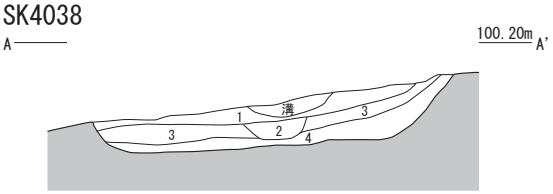
(P13)
1. 2.5Y5/2 暗灰黄 シルト 巨礫含む
2. 2.5Y4/4 オリーブ褐 シルト マンガン含む

P45(P02)
1. 10YR3/2 黒褐 細砂 炭を多量に含む
2. 10YR5/6 黄褐 粗砂混じりシルト マンガン含む

中世前期の遺構 2（掘立柱建物跡）

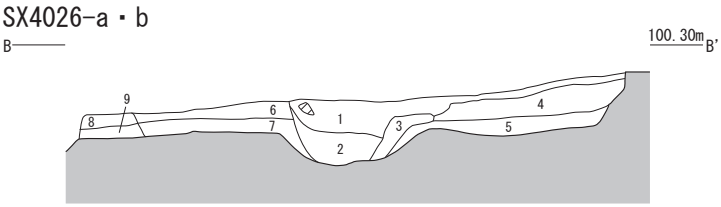


SK4038



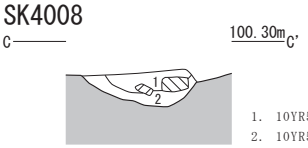
1. 2.5Y5/3 黄褐 細砂(小礫～中礫)炭を含む
2. 2.5Y4/2 暗灰黄 粗砂混じり細砂 地山ブロック含む
3. 2.5Y4/3 オリーブ褐 シルト混じり細砂 炭と地山ブロック含む
4. 2.5Y4/4 オリーブ褐 シルト 中砂を含む

SX4026-a・b



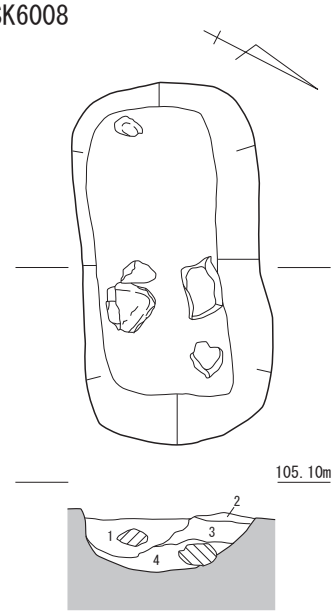
1. 2.5Y3/1 黒褐 粗砂 若干炭混じり 土器含む
2. 5Y3/2 オリーブ黒 粗砂混じりシルト
3. 2.5Y4/3 オリーブ褐 粗砂混じりシルト
4. 2.5Y4/2 暗灰黄 粗砂混じり細砂
5. 2.5Y5/2 暗灰黄 細砂
6. 2.5Y4/1 黄灰 粗砂混じり細砂
7. 2.5Y3/2 黒褐 細砂
8. 5Y3/1 オリーブ黒 シルト 小礫混じる
9. 5Y4/1 灰 シルト混じり細砂

SK4008



1. 10YR5/2 黒褐 細砂 マンガン・巨礫含む
2. 10YR5/3 にぶい黄褐 細礫混じり細砂 炭少量含む

SK6008

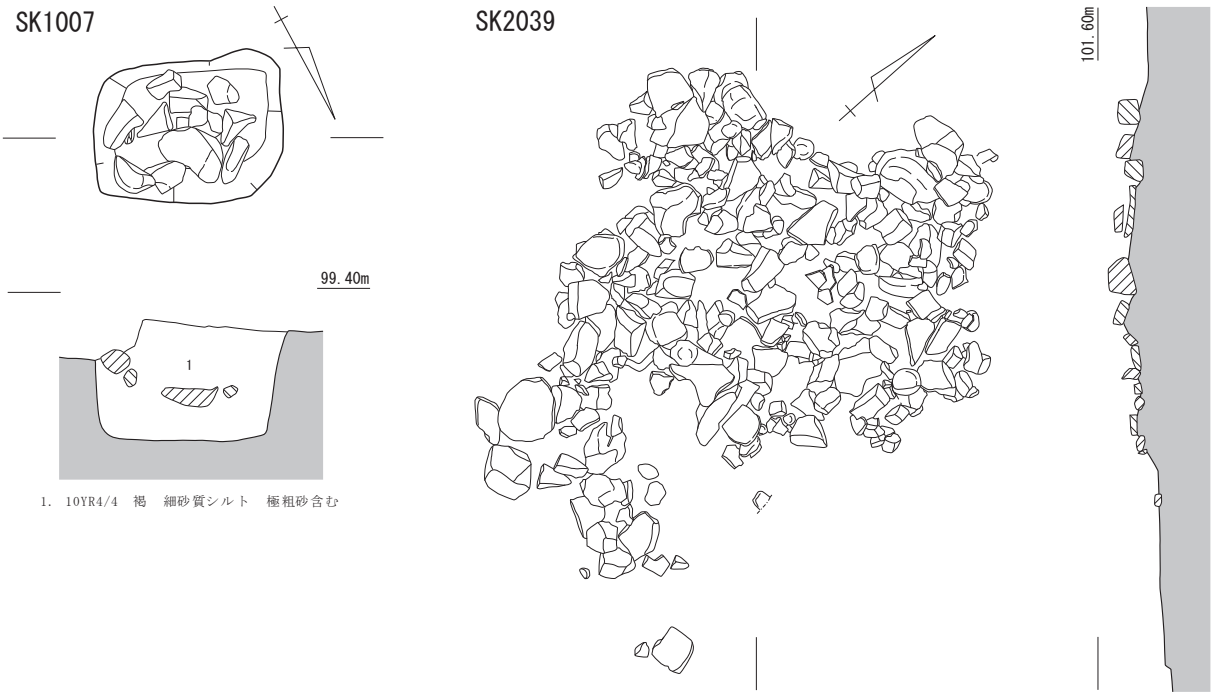


1. 10YR3/1 黒褐 細砂 焼土粒・炭粒・巨礫含む
2. 2.5Y4/2 暗灰黄 シルト混じり細砂
3. 2.5Y4/3 オリーブ褐 シルト混じり細砂 巨礫含む
4. 2.5Y4/1 黄灰 粗砂混じり細砂 小礫～中礫含む

0 2m

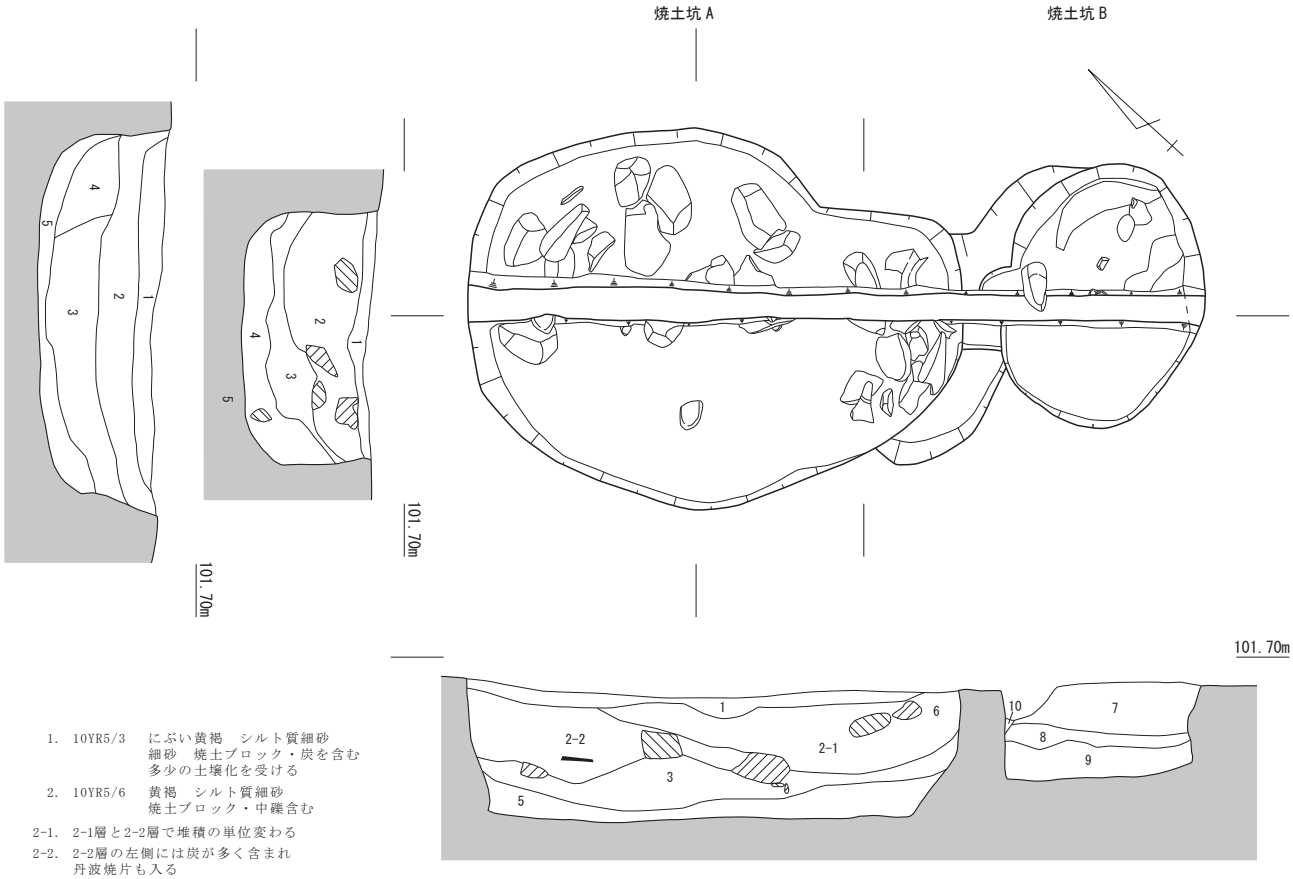
中世前期の遺構 3（墓・土坑）

広根遺跡Ⅰ区



1. 10YR4/4　褐　細砂質シルト　極粗砂含む

Ⅰ－２区　焼土坑A・B



1. 10YR5/3　にぶい黄褐　シルト質細砂
　細砂　焼土ブロック・炭を含む
　多少の土壌化を受ける
2. 10YR5/6　黄褐　シルト質細砂
　焼土ブロック・中礫含む

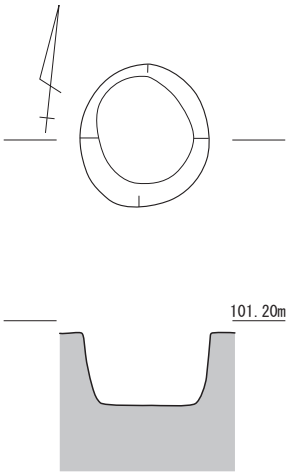
2-1. 2-1層と2-2層で堆積の単位変わる
2-2. 2-2層の左側には炭が多く含まれ
　丹波焼片も入る

3. 10YR4/2　灰黄褐　シルト　焼土ブロック・炭・地山ブロック　大礫～巨礫・土器含む　下面に炭層あり
4. 10YR5/6　黄褐　シルト質細砂　下面に炭層
5. 10YR5/6　黄褐　極細砂質シルト　地山ブロック層　炭を含む
6. 10YR5/6　黄褐　極細砂～細砂　細礫含む　大礫（亜円礫）で埋めた部分の裏込
7. 5YR4/6　赤褐　極細砂　焼土ブロック・細礫含む
8. 10YR4/2　灰黄褐　極細砂　炭・焼土・土器を含む
9. 10YR5/4　にぶい黄褐　極細砂　炭・中礫含む
10. 2.5YR4/6　赤褐　極細砂　焼土壁

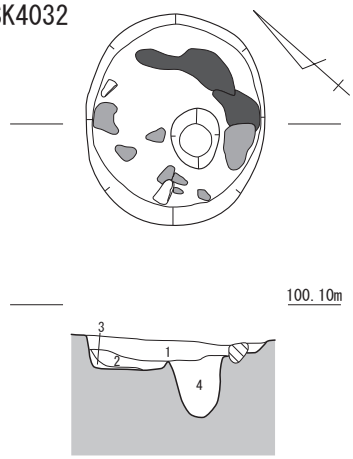
0　1m

14世紀の遺構１（集石・焼土坑他）

SK3174

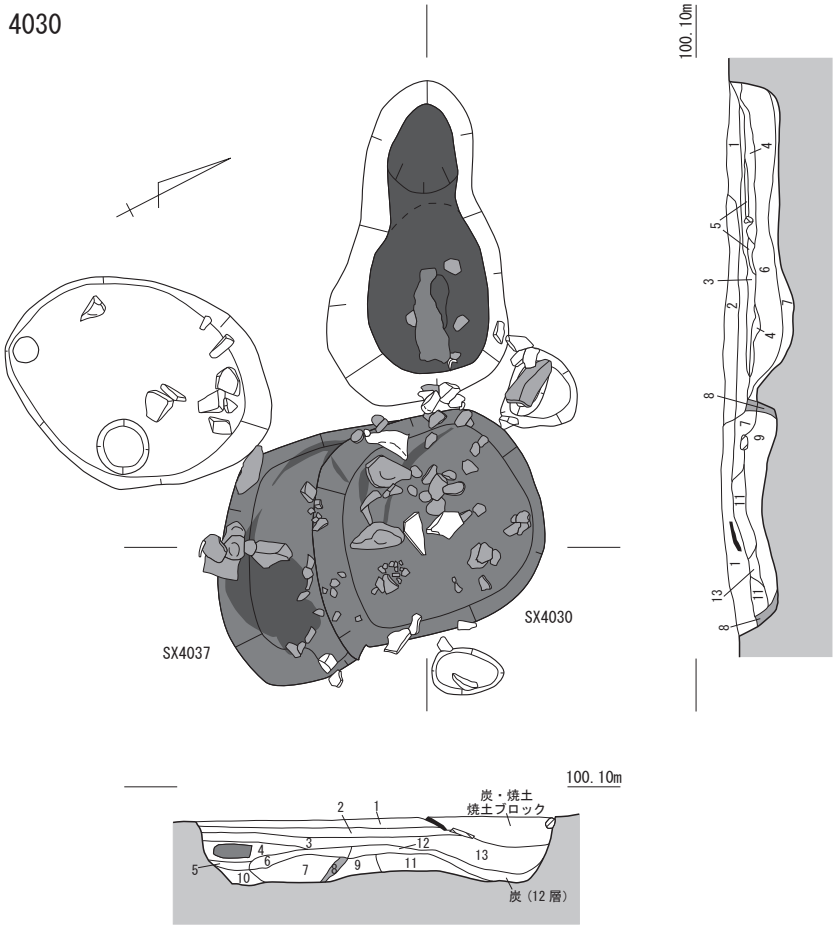


SK4032



1. 2.5Y4/2 暗灰黄 細砂 焼土塊と炭少量含む
2. 2.5Y2/1 黒 シルト 炭層
3. 2.5Y4/3 オリーブ褐 シルト 地山
4. 2.5Y4/1 黄灰 細砂 細礫～中礫 炭若干混じる

SX4037・4030



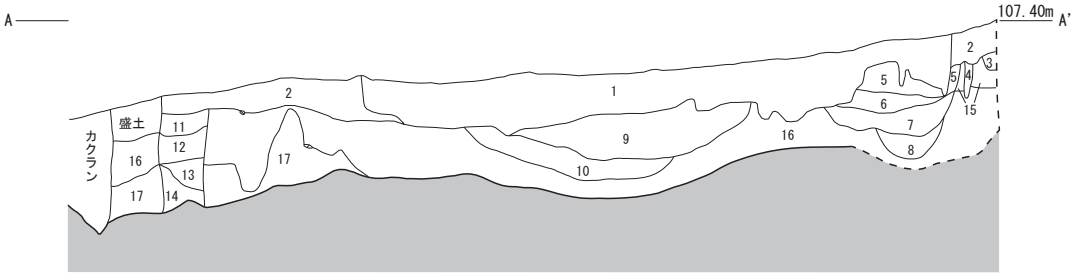
1. 2.5Y6/2 灰黄 細砂 炭・焼土
2. 5YR4/6 赤褐 細砂 小礫含む 焼土ブロック多く含む
3. 10YR6/6 明黄褐 シルト混じり粗砂 焼土多少含む
4. 2.5YR4/6 赤褐 シルト混じり細砂 焼土ブロック含む
5. 5Y6/3 オリーブ黄 シルト混じり細砂 地山か
6. 5YR6/3 にぶい赤褐 シルト 炭少量含む
7. 2.5Y4/1 黄灰 シルト 焼土ブロック含む
8. 5YR6/3 にぶい赤褐 6層と同一
9. 2.5YR4/6 赤褐 シルト 焼土ブロック含む
10. 2.5YR4/8 赤褐 シルト 焼土ブロック・地山ブロック含む
11. 5YR6/3 にぶい赤褐 細砂
12. N4/ 灰 炭層
13. 10YR6/6 明黄褐 シルト混じり粗砂 焼土多少含む

0 2m

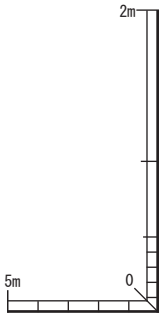
14 世紀の遺構 2（焼土坑他）

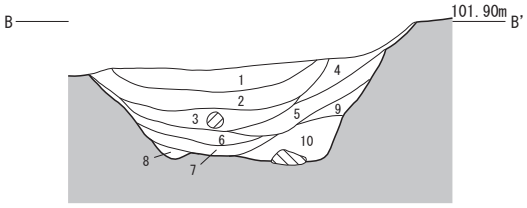
広根遺跡Ⅰ区

西堀

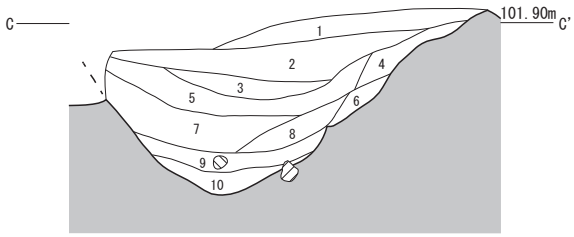


1. 攪乱
2. 耕土（表土）
3. 2.5Y5/3　黄褐　シルト質細砂　細礫～中礫含む　炭
4. 10YR4/3　にぶい黄褐　シルト質極細砂　細礫含む　炭
5. 5Y4/1　灰　極細砂質シルト　細礫含む
6. 5Y3/2　オリーブ黒　極細砂質シルト　シルト分強い
7. 5Y3/2　オリーブ黒　極細砂質シルト～粗砂　細礫～中礫含む　ガラス片
8. 5Y2/1　黒　シルト　中礫含む
9. 2.5Y6/4　にぶい黄　シルト質極細砂～細砂　細礫含む
10. 2.5Y4/6　オリーブ褐　シルト質極細砂
11. 10YR4/4　褐　シルト質極細砂～細砂　細礫・炭含む
12. 10YR4/4　褐　シルト質極細砂～細砂　やや砂質っぽい
13. 10YR4/5　にぶい黄褐　シルト質極細砂～細砂　砂礫・中礫含む　炭
14. 10YR4/4　褐　シルト質細砂　中礫含む　φ10㎝大の大礫入る　灰色シルトブロック含む
15. 10YR5/4　にぶい黄褐　シルト質極細砂～細砂　細礫含む
16. 10YR5/6　黄褐　シルト質極細砂　細礫含む　上面やや土壌化
17. 10YR6/8　明黄褐　シルト質極細砂

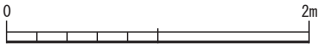




1. 10YR4/3　にぶい黄褐　極細砂質シルト　粗砂～中礫含む　土器・炭
2. 10YR4/2　灰黄褐　極細砂質シルト　シルト分強い　細礫～中礫含む　炭
3. 2.5GY4/1　暗オリーブ灰　極細砂質シルト　粗砂～中礫含む　巨礫
4. 10YR5/4　にぶい黄褐　極細砂～細礫　中礫含む
5. 10YR5/3　にぶい黄褐　細砂～中砂　細礫～中礫含む
6. 5Y4/1　灰　シルト　細礫～大礫含む
7. 5Y3/2　オリーブ黒　極細砂質シルト　細礫含む
8. 7.5Y4/1　灰　細礫～中礫　シルト含む
9. 10YR5/4　にぶい黄褐　細砂～粗砂混じりシルト　細礫含む
10. 2.5Y5/3　黄褐　細砂質シルト　細礫含む　巨礫

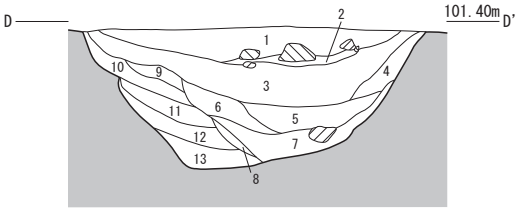


1. 10YR4/3　にぶい黄褐　極細砂質シルト　粗砂～中礫含む　土器・炭
2. 10YR4/2　灰黄褐　極細砂質シルト　シルト分強い　炭
3. 2.5Y4/3　オリーブ褐　極細砂～細砂　細礫含む
4. 10YR4/4　褐　細砂～中砂　細礫含む
5. 10YR5/4　にぶい黄褐　細砂～粗砂　細礫～中礫含む
6. 10YR4/4　褐　シルト質極細砂～細礫　細礫～大礫含む
7. 2.5Y5/4　黄褐　極細砂～細砂　大礫を含む
8. 2.5Y5/3　黄褐　極細砂～細砂　細礫～中礫を含む　焼土・炭
9. 7.5YR4/2　灰褐　シルト質細砂～中砂　中礫を含む　焼土・炭多い
10. 7.5YR4/1　褐灰　粗砂混じりシルト

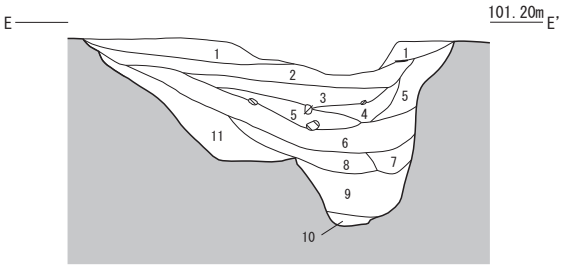


15 世紀の遺構 1（各堀跡）

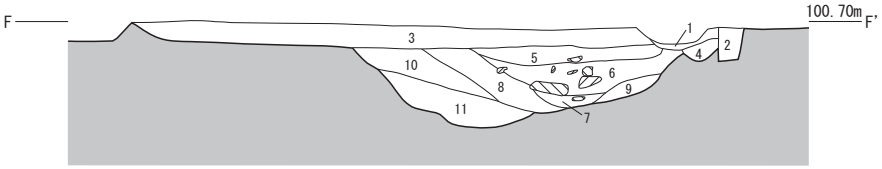
東堀



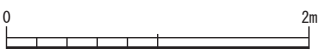
1. 2.5Y5/3 黄褐 極細砂～細砂 極粗砂～中礫含む 層の中央下部にφ5～20cm台の大礫～巨礫含む 亜角礫・炭
2. 2.5Y5/4 黄褐 極細砂～細砂 極粗砂～細礫含む
3. 2.5Y4/3 オリーブ褐 極細砂～細砂 極粗砂～細礫含む 層の中央上部にφ10cm台の亜角礫 土器・炭
4. 10YR4/4 褐 細砂～中砂 細礫含む
5. 2.5Y4/4 オリーブ褐 細砂～細礫 中礫含む ラミナ
6. 10YR5/4 にぶい黄褐 細砂～粗砂 細礫～中礫含む
7. 2.5Y4/2 暗灰黄 シルト質極細砂～粗砂 細礫含む
8. 2.5Y4/2 暗灰黄 細砂～細礫 細礫含む φ20cm台の亜円礫含む
9. 2.5Y5/2 暗灰黄 細砂～細礫 酸化第二鉄
10. 10YR6/6 明黄褐 中砂～極粗砂 細礫含む 酸化第二鉄
11. 2.5Y6/3 にぶい黄 細砂～極粗砂 細礫含む
12. 2.5Y5/3 黄褐 中砂～極粗砂 細礫含む 酸化第二鉄
13. 2.5Y5/2 明灰黄 シルト質極細砂～細礫 グレーディング



1. 10YR5/3 にぶい黄褐 極細砂～細砂 細礫～中礫含む 備前焼、土壌化受ける
2. 10YR5/2 灰黄褐 シルト質細砂～中砂 極粗砂～細礫含む シルトブロック含む
3. 10YR4/4 褐 シルト質細砂 細礫～中礫含む 焼土・炭
4. 10YR4/3 にぶい黄褐 シルト質細砂 細礫含む 焼土・炭シルト質細砂 細礫含む 焼土・炭
5. 10YR4/4 褐 シルト質極細砂～細砂 細礫～大礫含む 焼土・炭
6. 10YR4/2 灰黄褐 シルト質細砂 細礫～大礫含む シルトブロック含む、焼土
7. 2.5Y4/3 オリーブ褐 中砂混じりシルト質極細砂 細礫含む
8. 5Y5/1 灰 細砂混じり極細砂シルト 炭・締まりよい ラミナ
9. 5Y5/2 灰オリーブ シルト 極細砂～細礫含む ラミナ 図の右側を中心に撹拌状 グライ化
10. 7.5YR4/1 灰 粗砂混じりシルト グライ化
11. 10YR5/6 黄褐 シルト質細砂～中砂 細礫～中礫含む ブロック状の埋め戻し土



1. 2.5Y4/3 オリーブ褐 シルト質細砂～粗砂 細礫を含む
2. 10YR5/4 にぶい黄褐 極細砂～細砂 細礫～中礫含む 土器有り
3. 10YR5/3 にぶい黄褐 シルト質細砂～粗砂 細礫を含む 土器有り 土壌化
4. 10YR5/4 にぶい黄褐 細砂～粗砂 細礫を含む
5. 10YR4/4 褐 細砂～極粗砂 細礫～大礫を含む ラミナ・焼土・炭
6. 10YR4/3 にぶい黄褐 細砂～粗砂 細礫～巨礫を含む 焼土・炭
7. 2.5Y5/4 黄褐 極細砂～細砂 大礫を含む
8. 2.5Y5/3 黄褐 極細砂～細砂 細礫～中礫を含む 焼土・炭
9. 7.5Y4/2 暗灰黄 シルト質細砂～中砂 中礫を含む 焼土・炭多い
10. 10YR5/6 黄褐 シルト質細砂～中砂 細礫を含む 黄色土ブロックがマーブル状 埋め戻し土 焼土・炭含む
11. 10YR4/2 灰黄褐 細砂～中砂質シルト 中礫を含む 焼土・炭多い

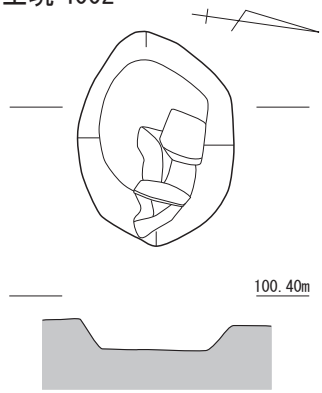


15 世紀の遺構 2（各堀跡）

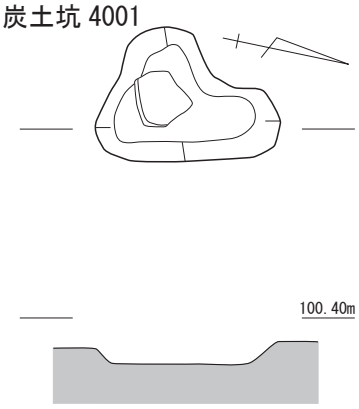
広根遺跡Ⅰ区

Ⅰ－４区

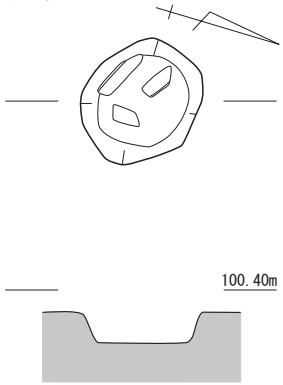
炭土坑 4002



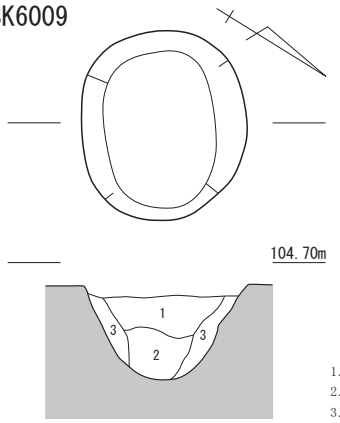
炭土坑 4001



炭土坑 4003

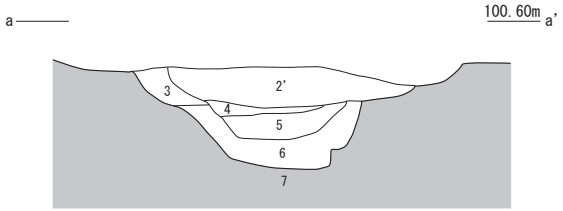


SK6009

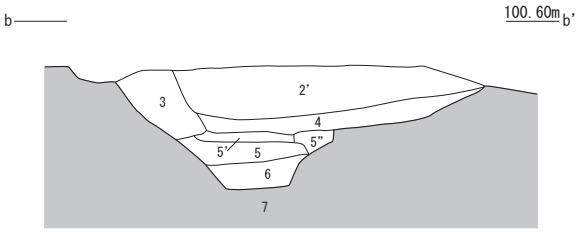


1. 7.5YR2/2　黒褐　細砂混じりシルト質極細砂　焼土・炭混じり
2. 10YR5/3　にぶい黄褐　極細砂質シルト　中砂含む
3. 10YR6/4　にぶい黄褐　シルト質極細砂　中砂・細砂含む

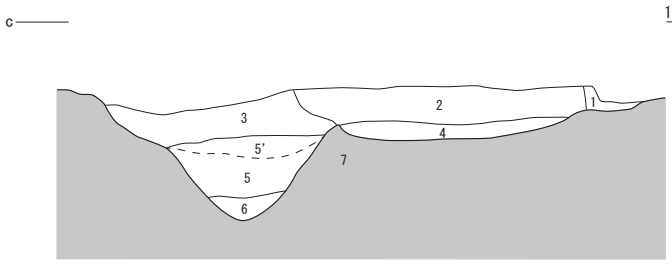
SD1001・1002



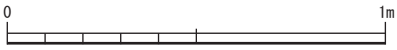
SD1001・1002



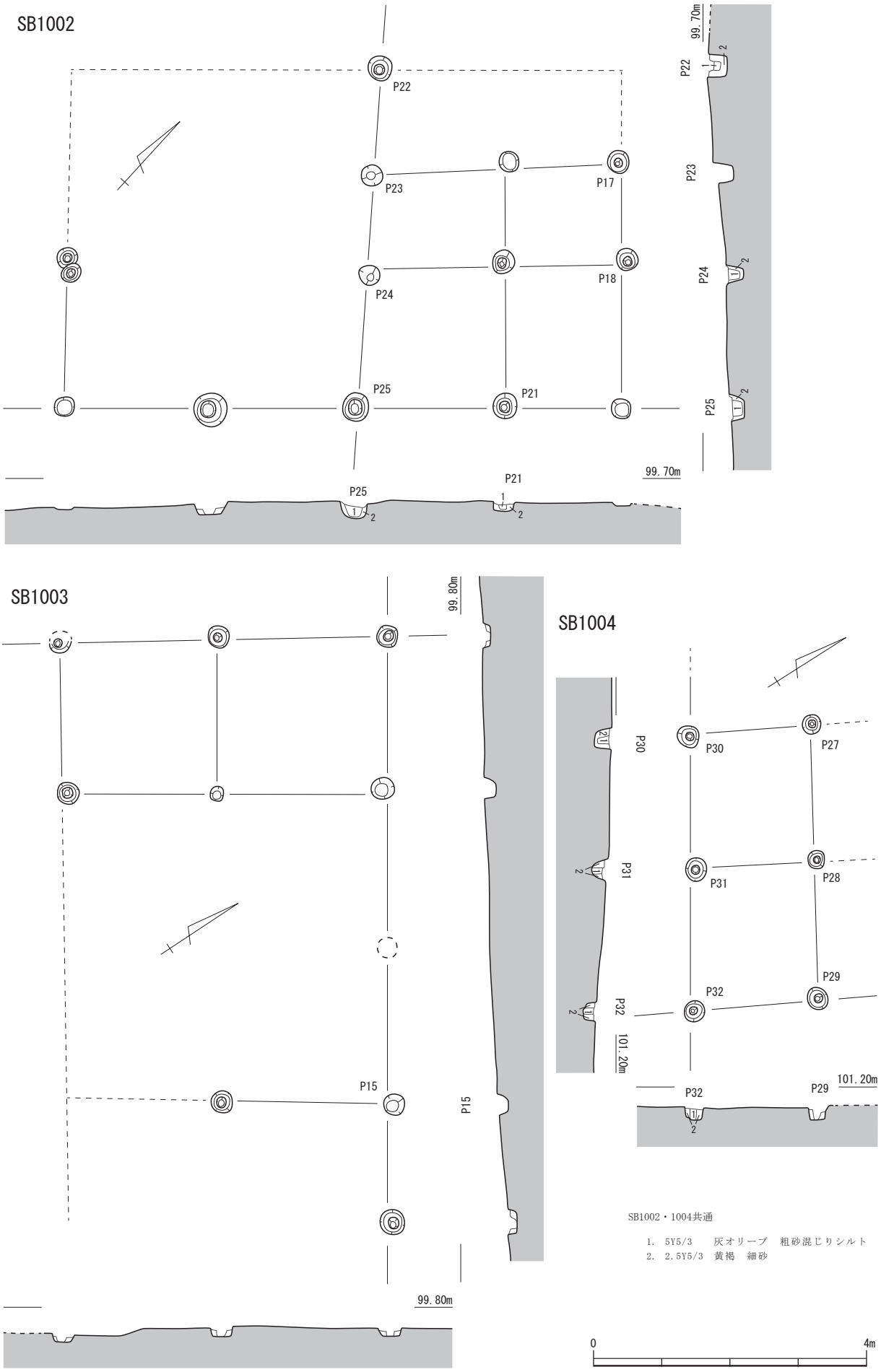
SD1001・1002



1. 7.5YR4/3～10YR4/3　褐～にぶい黄褐　シルト混じり中砂
2. 7.5YR5/6　明褐　粗砂混じり粘土　整地土
2'. 10YR5/3　にぶい黄褐　シルト・粘土混じり細砂　φ2mm内外粗砂多い
3. 10YR4/3　にぶい黄褐　粗砂混じり細砂質極細砂　Mn斑あり　土壌化
4. 7.5YR5/3　にぶい褐　シルト混じり粗砂　土壌化
5. 7.5YR4/3～5/3　褐～にぶい褐　シルト混じり粗砂　φ5cm内外円礫含む
5'. 10YR5/3　にぶい黄褐　粗砂混じりシルト（粒子細かい）　Mn斑あり
5". 7.5YR4/3～5/3　褐～にぶい褐　粗砂混じりシルト　φ3mm内外の粗砂多く含む
6. 7.5YR4/4　褐　中砂混じりシルト　鉄分含む
7. 10YR6/6　明黄褐　粘土　φ1mm以下の砂粒含む　地山



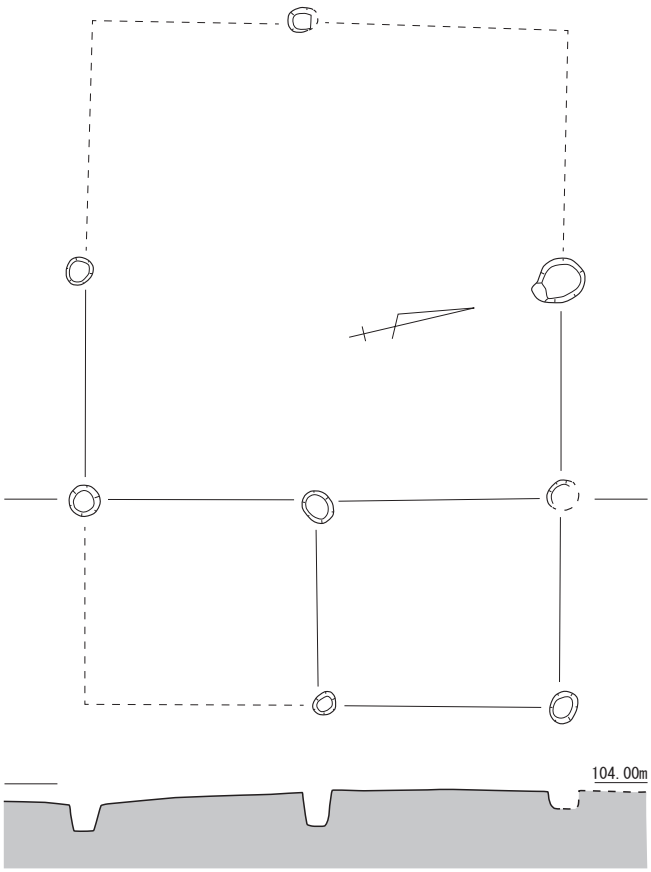
15 世紀の遺構 3（炭土坑・溝）


SB1002
P22
P23
P17
P24
P18
P25
P21
99.70m
SB1003
P15
99.80m
SB1004
P30
P27
P31
P28
P32
P29
101.20m
SB1002・1004共通
1. 5Y5/3 灰オリーブ 粗砂混じりシルト
2. 2.5Y5/3 黄褐 細砂
0
4m

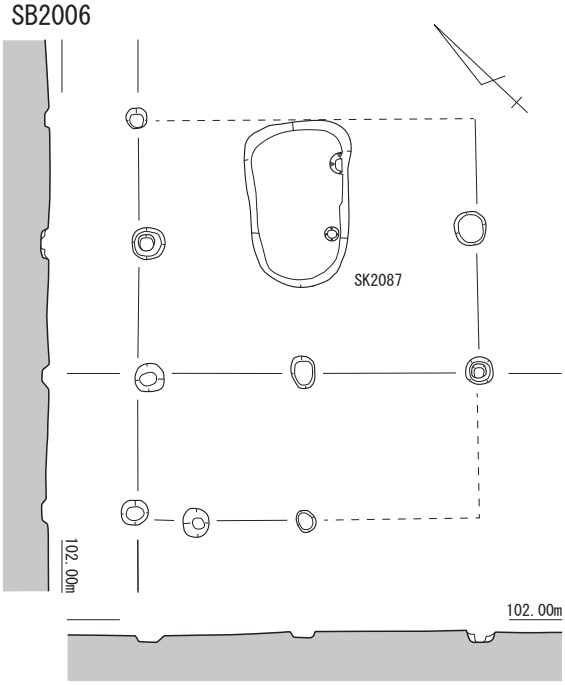
中世の掘立柱建物跡 1

広根遺跡Ⅰ区

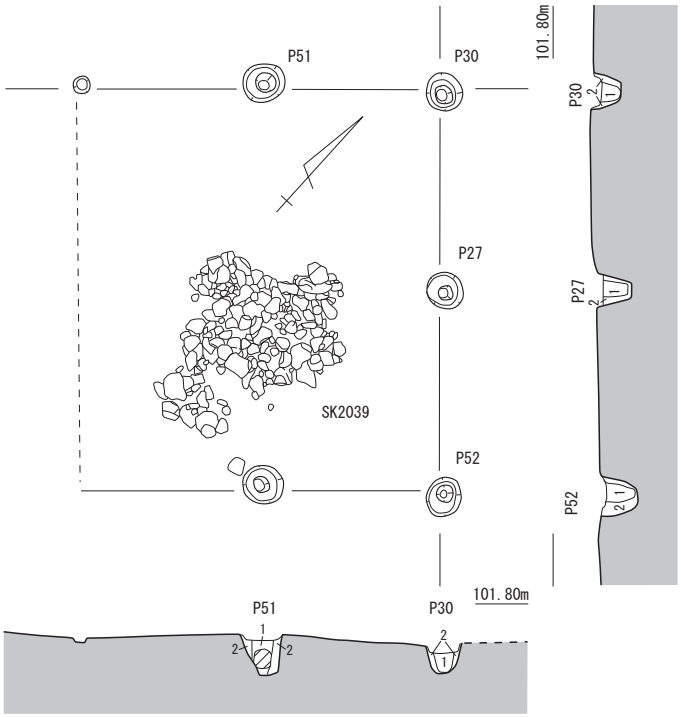
SB6005



SB2006



SB2007



P51
1. 2.5Y4/2 暗灰黄 細砂 巨礫含む
2. 2.5Y5/2 暗灰黄 細砂混じり粗砂

P30
1. 2.5Y4/2 暗灰黄 細砂
2. 2.5Y3/1 黒褐 粗砂混じり極細砂

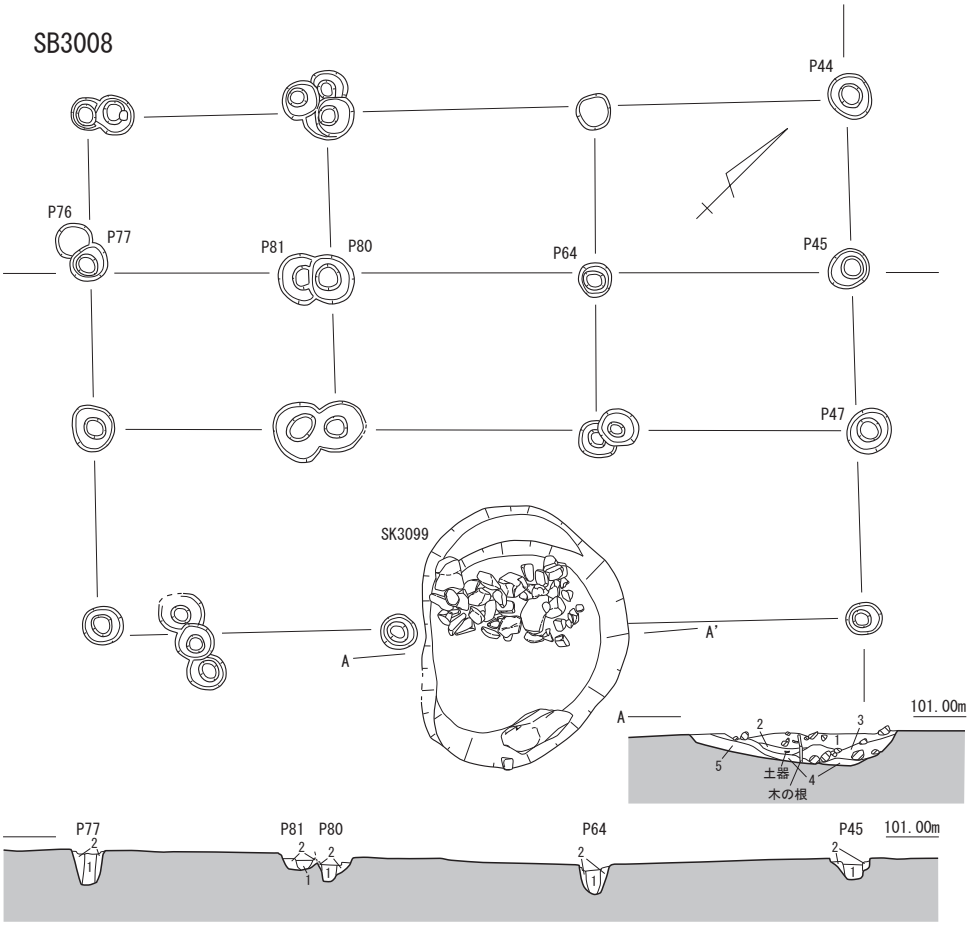
P27
1. 2.5Y4/3 オリーブ褐 極細砂混じり細砂
2. 2.5Y4/1 黄灰 中礫～細礫含む

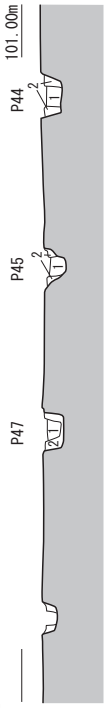
P52
1. 2.5Y4/2 暗灰黄 細砂
2. 2.5Y4/3 オリーブ褐 粗砂混じり細砂

0 4m

中世の掘立柱建物跡 2

SB3008





P44
1. 10YR5/3 にぶい黄褐 シルト質極細砂～細砂 細礫・くさり礫含む 下面に酸化第二鉄沈着
2. 10YR6/4 にぶい黄橙 極細砂～細砂 細礫含む

P45
1. 2.5Y4/2 暗灰黄 シルト質極細砂 細礫含む
2. 10YR5/6 黄褐 シルト質細砂 炭・細礫含む

P47
1. 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト質極細砂～細砂 細礫・くさり礫含む
2. 10YR5/6 黄褐 シルト質細砂 細礫含む

SK3099
1. 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト質細砂～中砂 細礫～大礫含む 土坑の北半部に巨礫落ち込む
2. 2.5Y5/3 黄褐 シルト質細砂 細礫～大礫含む 土器
3. 10YR5/6 黄褐 細砂質シルト 細礫～大礫含む
4. 10YR5/3 にぶい黄褐 シルト質極細砂 細礫～中礫含む
5. 10YR5/6 黄褐 シルト質極細砂～細砂 中礫含む

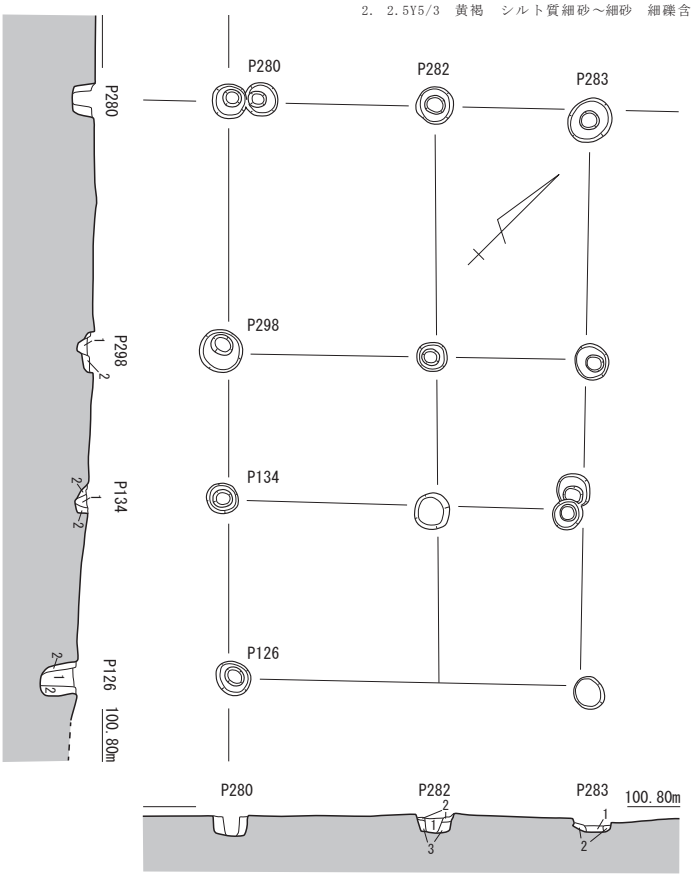
P77
1. 2.5Y5/4 黄褐 細砂 細礫含む
2. 2.5Y5/3 黄褐 極細砂～細礫 細礫含む

P81
1. 2.5Y5/2 暗灰黄 細砂 焼土・炭・細礫含む
2. 2.5Y5/3 黄褐 シルト質細砂～細砂 細礫含む

P80
1. 2.5Y4/2 暗灰黄 シルト質極細砂 焼土・炭・細礫含む
2. 2.5Y5/3 黄褐 シルト質細砂～細砂 細礫含む

P64
1. 2.5Y4/2 暗灰黄 シルト質極細砂 細礫含む
2. 10YR5/6 黄褐 シルト質細砂 細礫含む

SB3009



P298
1. 10YR5/3 にぶい黄褐 シルト質極細砂～細砂 細礫・くさり礫含む 底にシルトブロック
2. 10YR6/4 にぶい黄橙 極細砂～細砂 細礫含む

P134
1. 10YR5/2 灰黄褐 シルト質極細砂 くさり礫・中礫含む シルト分強い
2. 10YR6/4 にぶい黄橙 極細砂～細砂

P126
1. 10YR3/3 暗褐 シルト質極細砂～細砂 炭・焼土・細礫含む
2. 10YR5/4 にぶい黄褐 細砂 細礫含む

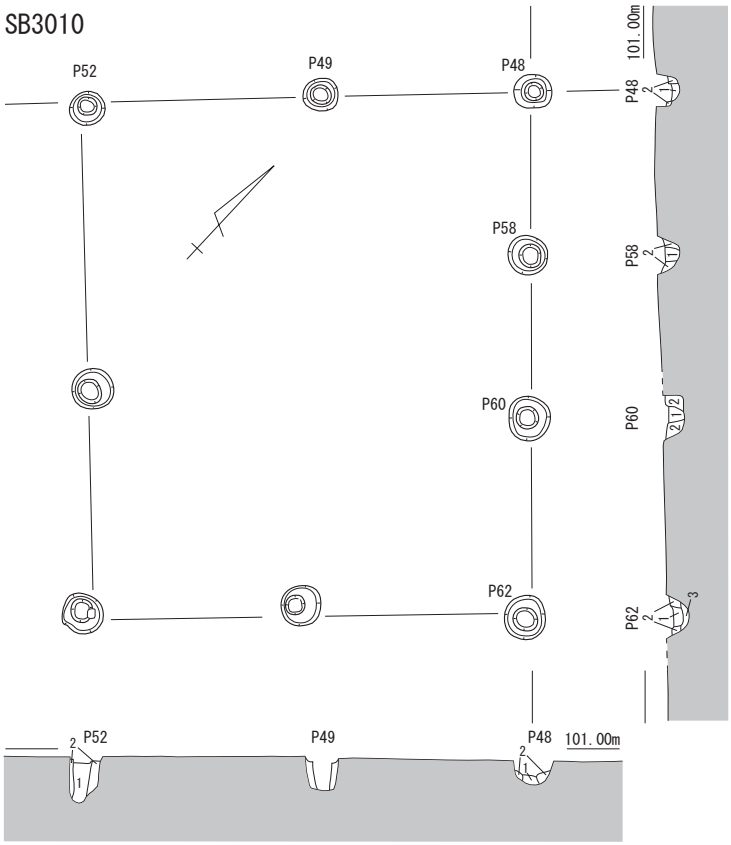
P282
1. 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト質極細砂 細礫含む
2. 10YR6/4 にぶい黄橙 極細砂～細砂 細礫含む
3. 10YR5/6 黄褐 シルト質細砂 細礫含む

P283
1. 2.5Y5/4 黄褐 極細砂～中砂 極粗砂～細礫含む
2. 2.5Y5/6 黄褐 極細砂～細砂 細礫・くさり礫含む

中世の掘立柱建物跡 3

広根遺跡Ⅰ区

SB3010



P52
1. 2.5Y5/3 黄褐 極細砂～細砂 細礫～中礫含む 焼土・炭含む
2. 10YR6/4 にぶい黄橙 シルト質極細砂～細砂 細礫含む

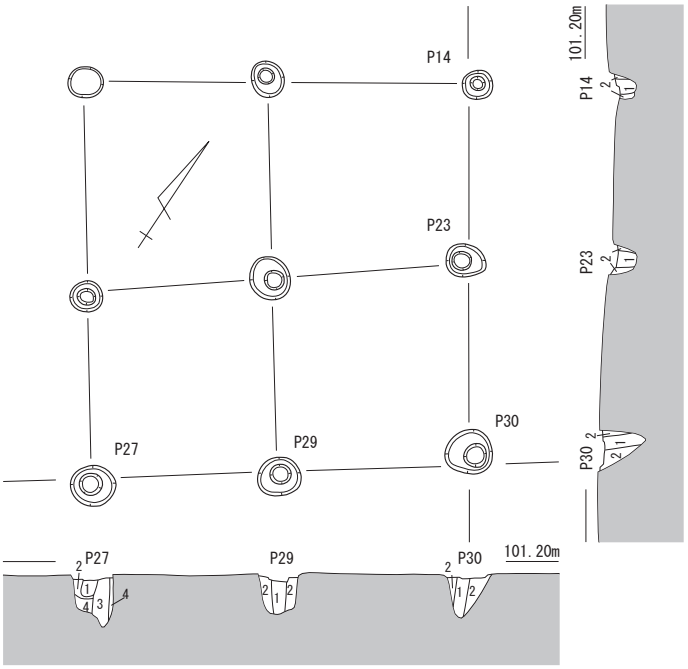
P48
1. 10YR4/3 にぶい黄褐 シルト質細砂 細礫含む
2. 10YR5/4 にぶい黄褐 細砂 細礫含む

P58
1. 10YR4/3 にぶい黄褐 シルト質細砂 細礫含む
2. 10YR5/4 にぶい黄褐 細砂 細礫含む

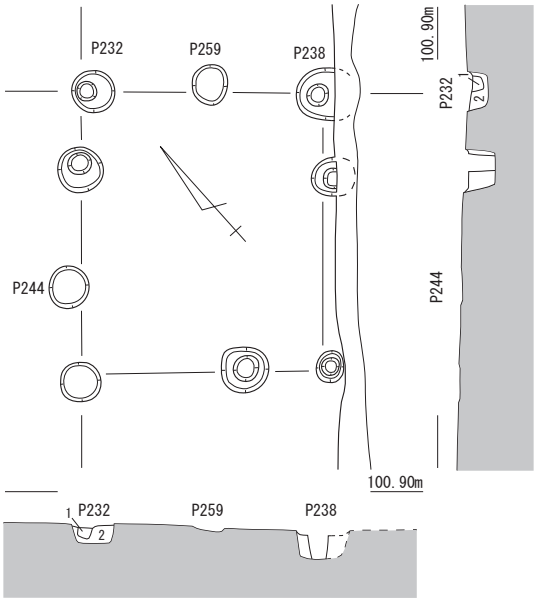
P60
1. 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト質極細砂 細礫含む シルト分強い
2. 10YR5/6 黄褐 シルト質細砂 細礫含む

P62
1. 2.5Y4/2 暗灰黄 シルト質極細砂 細礫・炭含む
2. 10YR6/4 にぶい黄橙 極細砂～細砂 細礫含む
3. 10YR5/4 にぶい黄褐 細砂 細礫含む

SB3011



SB3012



P232
1. 10YR5/6 黄褐 細砂～中砂 細礫含む
2. 10YR5/6 黄褐 シルト質細砂 細礫含む

P27
1. 10YR5/3 にぶい黄褐 細砂～粗砂 細礫含む
2. 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト質細砂 細礫・くさり礫含む 下面に灰色シルト層
3. 2.5Y5/3 黄褐 シルト質細砂～中礫 細礫・炭・鉄分含む 下面に灰色シルト層
4. 10YR5/6 黄褐 シルト質極細砂～細砂 細礫・くさり礫含む

P29
1. 2.5Y4/4 オリーブ褐 シルト質細砂～中砂 細礫・炭含む
2. 2.5Y5/4 黄褐 シルト質細砂 細礫含む

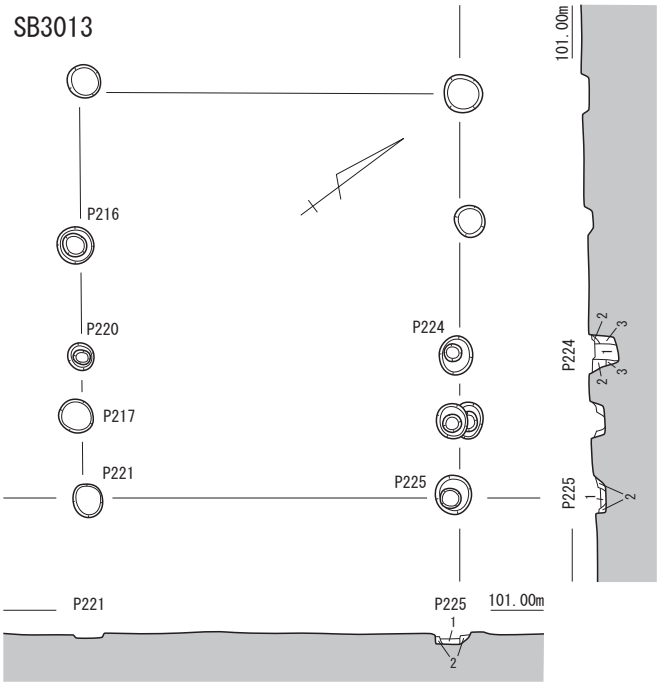
P30
1. 2.5Y4/4 オリーブ褐 シルト質極細砂～細砂 細礫含む 下面に灰色シルト層
2. 2.5Y4/6 オリーブ褐 極細砂～中砂 細礫含む

P14
1. 2.5Y4/3 オリーブ褐 シルト質細砂 細礫含む 下面に灰色シルト層
2. 2.5Y4/3 オリーブ褐 シルト質細砂～中砂 細礫含む

P23
1. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐 シルト質細砂 細礫・炭含む
2. 2.5Y5/4 黄褐 シルト質細砂 細礫含む

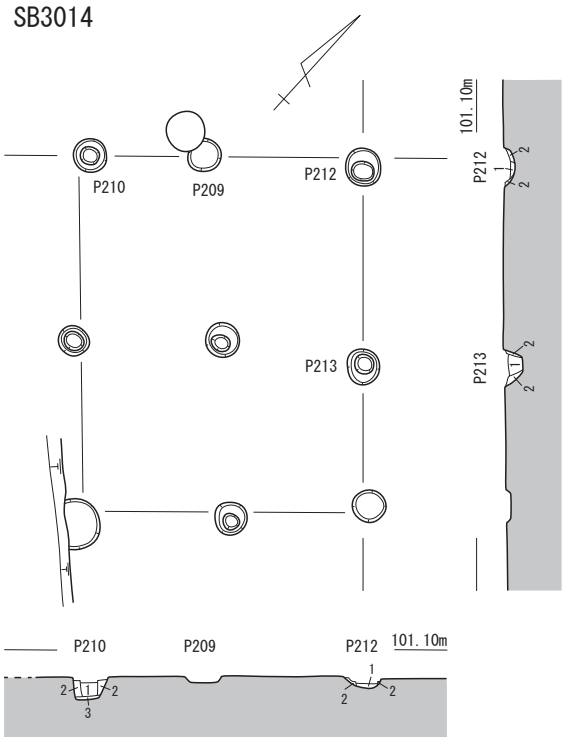
0 4m

中世の掘立柱建物跡 4



P224
1. 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト質極細砂 細礫含む
2. 10YR5/6 黄褐 シルト質細砂 細礫含む
3. 10YR5/6 黄褐 シルト質細砂 細礫含む シルト分強い

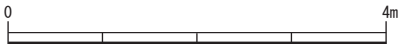
P225
1. 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト質極細砂 細礫含む
2. 10YR6/4 にぶい黄橙 極細砂～細砂 細礫含む



P212
1. 10YR5/3 にぶい黄褐 シルト質極細砂～細砂 細礫・くさり礫含む
2. 10YR5/4 にぶい黄褐 細砂 細礫含む

P213
1. 10YR5/6 黄褐 細砂～中砂 細礫含む 上半にシルトブロック含む
2. 10YR5/4 にぶい黄褐 細砂

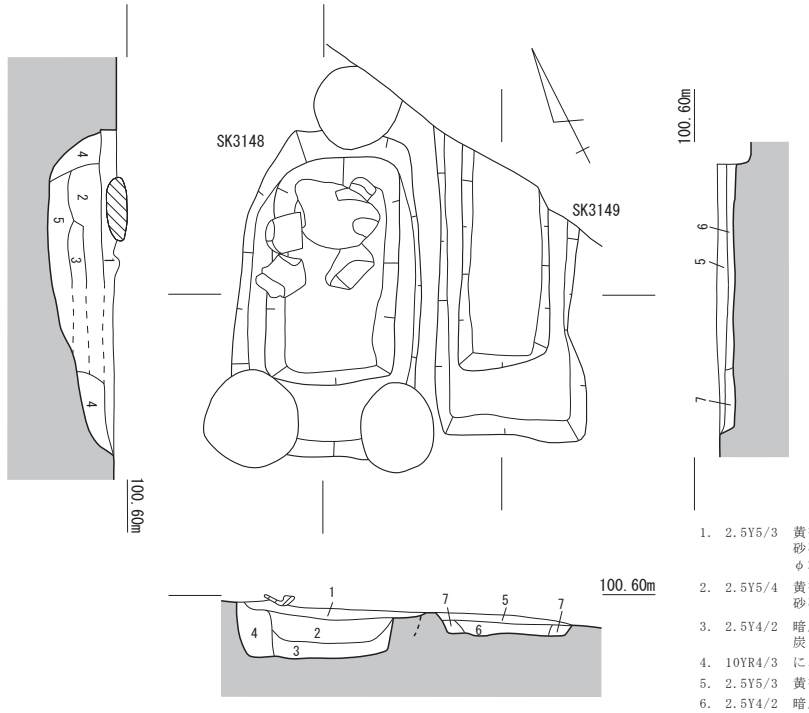
P210
1. 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト質極細砂 細礫含む
2. 10YR5/6 黄褐 シルト質細砂 細礫含む
3. 10YR4/6 褐 シルト質極細砂 くさり礫含む



中世の掘立柱建物跡 5

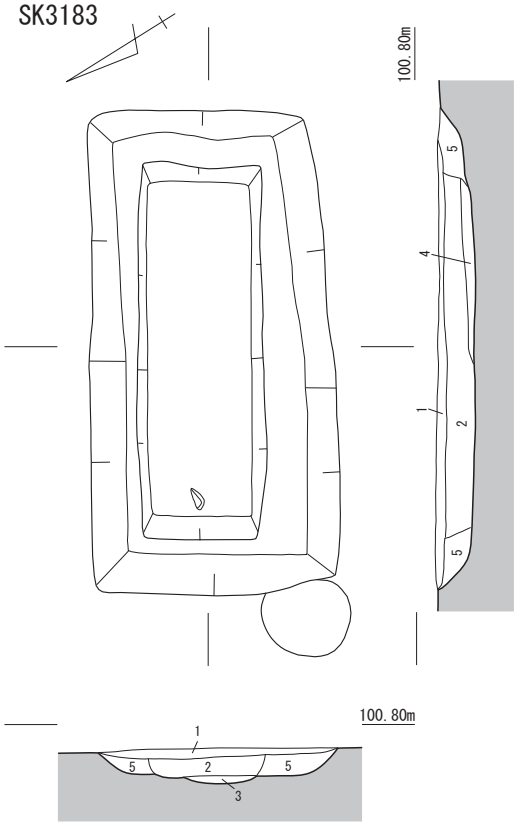
広根遺跡Ⅰ区

SK3148・3149



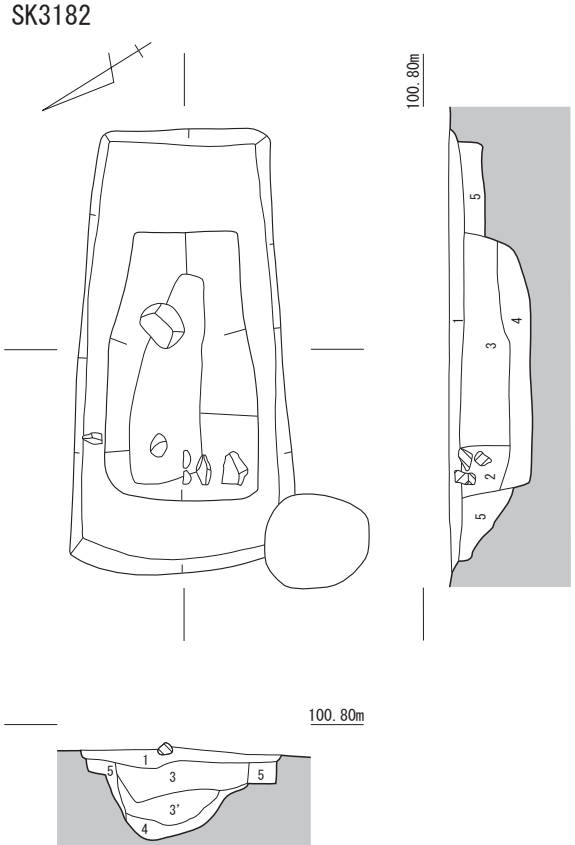
1. 2.5Y5/3 黄褐 シルト質極細砂～細砂
   砂礫含む 上面に墓標か
   φ20～40㎝大の平石が乗る
2. 2.5Y5/4 黄褐 シルト質極細砂～細砂
   砂礫含む 黄色土ブロック含む
3. 2.5Y4/2 暗灰黄 シルト質細砂
   炭・黄色土小ブロック含む
4. 10YR4/3 にぶい黄褐 シルト質極細砂～細砂 砂礫含む
5. 2.5Y5/3 黄褐 シルト質極細砂～細砂 炭・砂礫含む
6. 2.5Y4/2 暗灰黄 シルト質極細砂～細砂
   炭・砂礫含む 粘性強い
7. 掘方埋土

SK3183

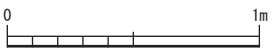


1. 10YR5/3 にぶい黄褐 シルト質細砂 極細砂含む
   上面にφ7～8㎝大の礫1点含む
2. 10YR5/6 黄褐 極細砂質シルト シルトブロック多く含む
3. 10YR4/6 褐 シルト質細砂
4. 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト 粗砂含む 粘性強い
5. 10YR4/6 褐 シルト質細砂

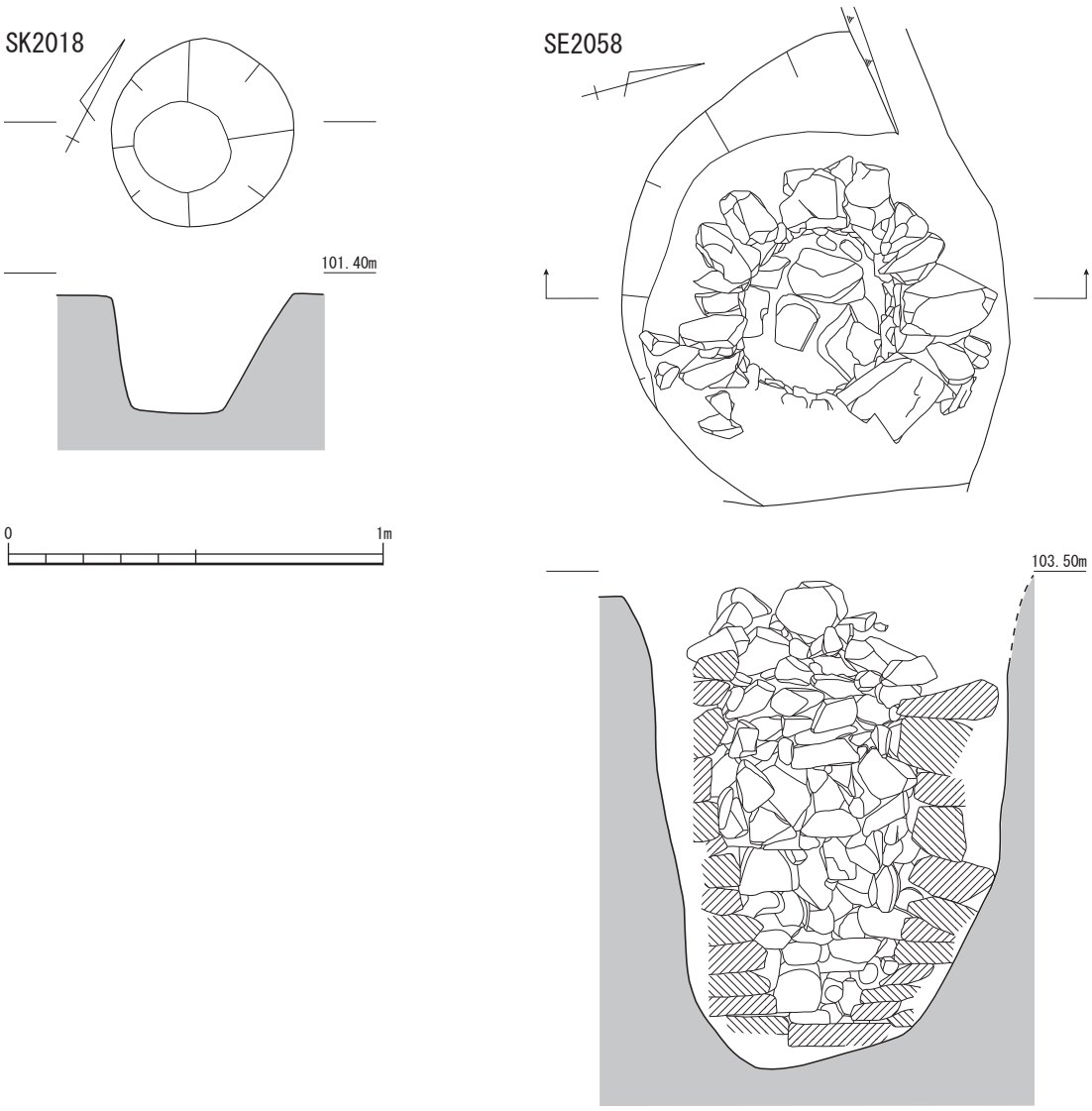
SK3182

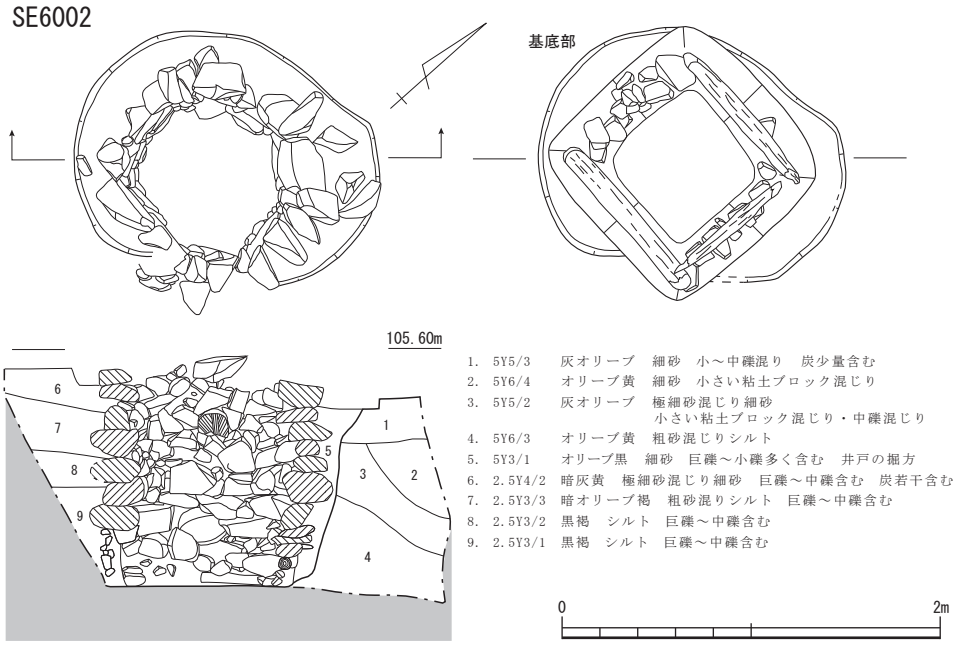


1. 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト質極細砂～細砂 細礫含む
2. 10YR5/3 にぶい黄褐 細砂質シルト 粗砂含む
   φ7～8㎝大の亜角礫落ち込む
3. 10YR4/2 灰黄褐 細砂質シルト シルトブロック多く含む
3'. 10YR4/6 褐 極細砂質シルト 細礫少量含む
4. 10YR4/4 褐 シルト 粘性強い
5. 墓坑埋土



中世の木棺墓

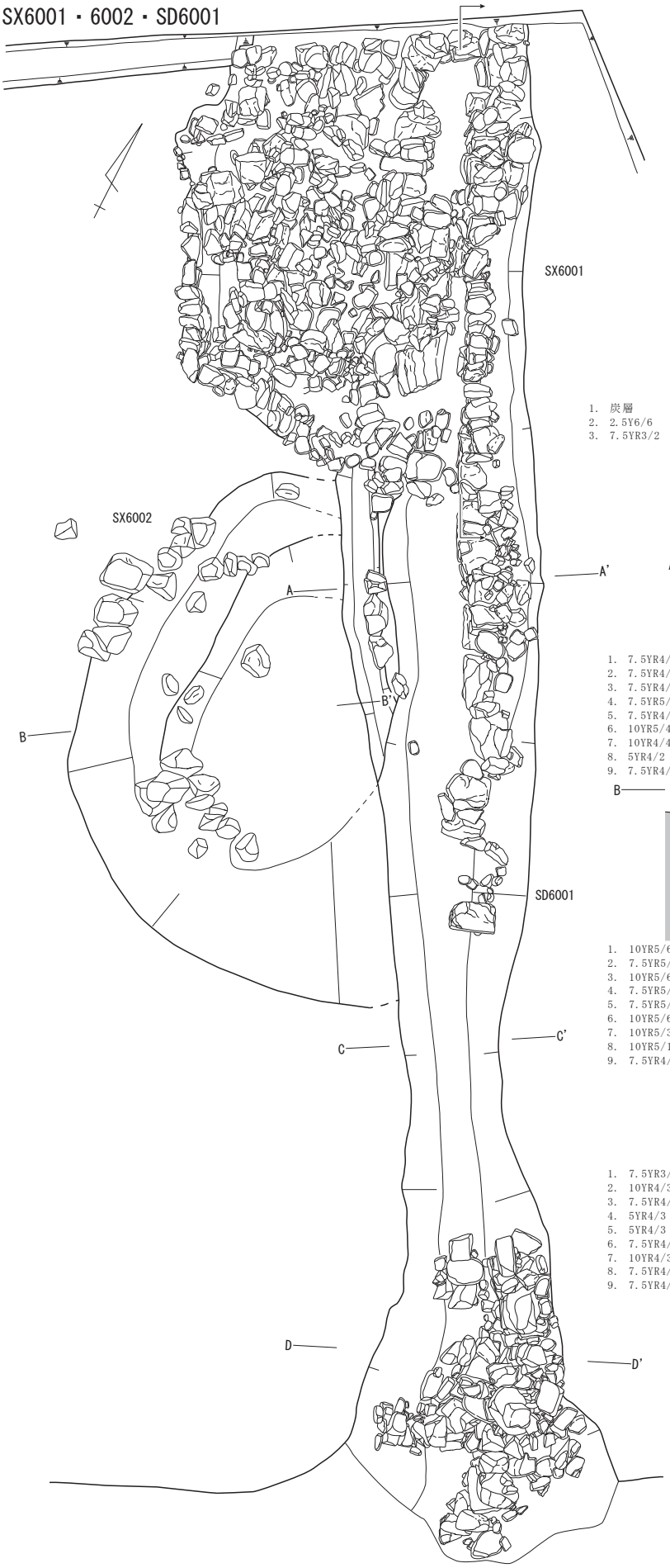


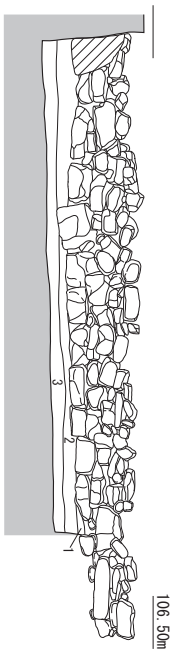


16・17 世紀の遺構 1（土坑・井戸）

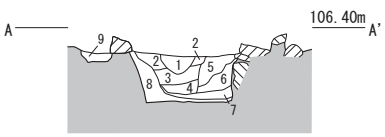
広根遺跡Ⅰ区

SX6001・6002・SD6001

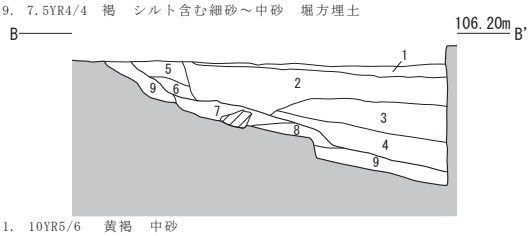




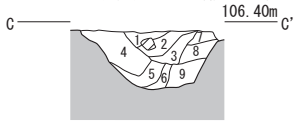
1. 炭層　　2層上面
2. 2.5Y6/6　明黄褐　シルト質細砂 地山土置土
3. 7.5YR3/2　黒褐　細砂　焼土・炭含む



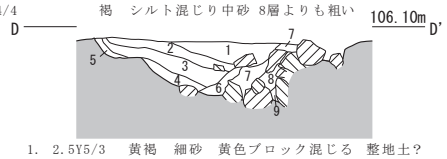
1. 7.5YR4/4　褐　細砂　地山ブロック混じり
2. 7.5YR4/3　褐　細砂
3. 7.5YR4/2　灰褐　細砂混じりシルト
4. 7.5YR5/2　灰褐　中砂
5. 7.5YR4/3　褐　細砂・中砂混じりシルト　地山ブロック含む
6. 10YR5/4　にぶい黄褐　シルト混じり中～細砂 焼土・炭混じり
7. 10YR4/4　褐　細砂～中砂混じりシルト
8. 5YR4/2　灰褐　シルト混じり細砂質中砂　マンガン含む
9. 7.5YR4/4　褐　シルト含む細砂～中砂　堀方埋土



1. 10YR5/6　黄褐　中砂
2. 7.5YR5/4　にぶい褐　シルト混じり中砂　φ3mm内外地山層岩含む
3. 10YR5/6　黄褐　シルト混じり中砂　φ3～5mm内外亜角礫含む
4. 7.5YR5/4　にぶい褐　シルト混じり極細砂 地山層岩ブロック含む
5. 7.5YR5/6　明褐　細砂混じり極細砂 堀方埋土か
6. 10YR5/6　黄褐　シルト混じり中砂 堀方埋土か
7. 10YR5/3　にぶい褐黄　礫混じり極細砂
8. 10YR5/1　褐灰　シルト混じり中砂～粗砂 グライ化
9. 7.5YR4/1　褐灰　細砂まじり腐植物シルト（粘性強し）



1. 7.5YR3/3　暗褐　シルト混じり粗砂　φ5mm内外地山礫含む
2. 10YR4/3　にぶい黄褐　中砂混じりシルト 地山シルトブロック含む
3. 7.5YR4/3　褐　シルト混じり中砂　地山土（細砂）ブロック含む
4. 5YR4/3　にぶい赤褐　シルト・極細砂混じり中砂質細砂
5. 5YR4/3　にぶい赤褐　シルト混じり中砂　φ5mm内外礫多し
6. 7.5YR4/3　褐　粗砂混じり中砂　φ3～5mm礫多し
7. 10YR4/3　にぶい黄褐　中砂混じりシルト質極細砂
8. 7.5YR4/3～10YR4/3　褐～にぶい黄褐　シルト混じり中砂
9. 7.5YR4/4　褐　シルト混じり中砂 8層よりも粗い

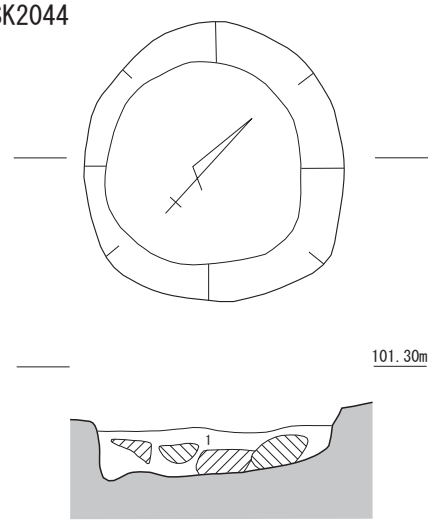


1. 2.5Y5/3　黄褐　細砂　黄色ブロック混じる　整地土？
2. 10Y4/1　灰　細砂
3. 10Y3/1　オリーブ黒　細砂 炭若干混じる
4. 7.5Y4/1　灰　シルト混じり細砂
5. 7.5Y4/2　灰オリーブ　シルト混じり細砂
   4層よりシルト多い
6. N4/　灰　細砂 小礫～巨礫多く含む
7. 2.5GY4/1　暗オリーブ灰　細砂 小礫～巨礫多く含む
8. 5GY4/1　暗オリーブ灰　細砂 小礫～巨礫多く含む
9. 7.5GY4/1　暗緑灰　細砂 小礫～巨礫多く含む

0　3m

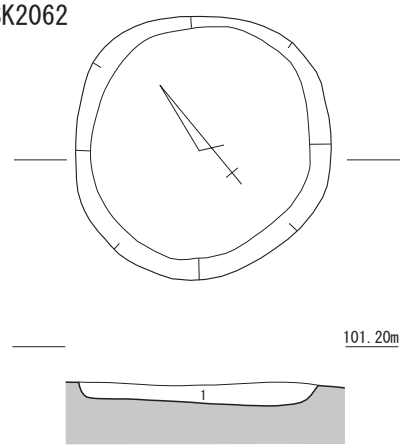
16・17 世紀の遺構 2（水溜・石組溝）

SK2044



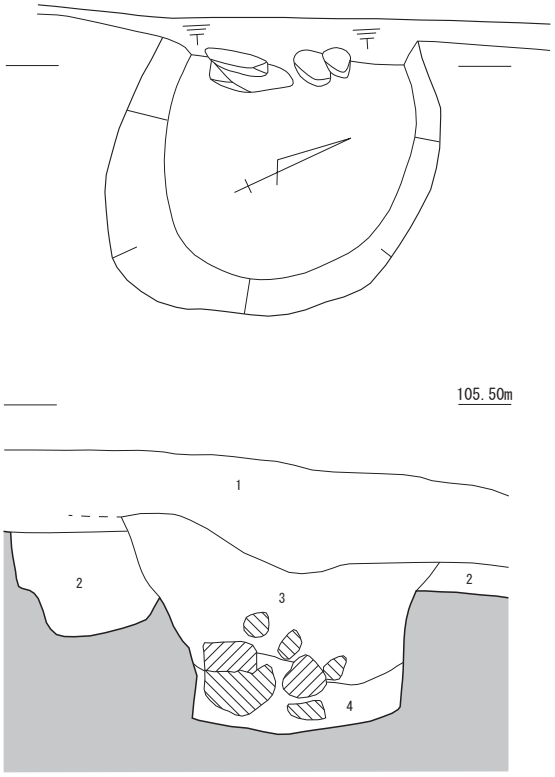
1. 7.5YR5/4　にぶい褐　細砂～中砂　極粗砂～細礫　炭を含む
　φ0.5～1㎝大の焼土塊多量に含む
　φ30～50㎝大の石を5石据え、間にφ10㎝大の石を詰める

SK2062



1. 2.5Y4/2　暗灰黄　細砂～中砂　細礫含む

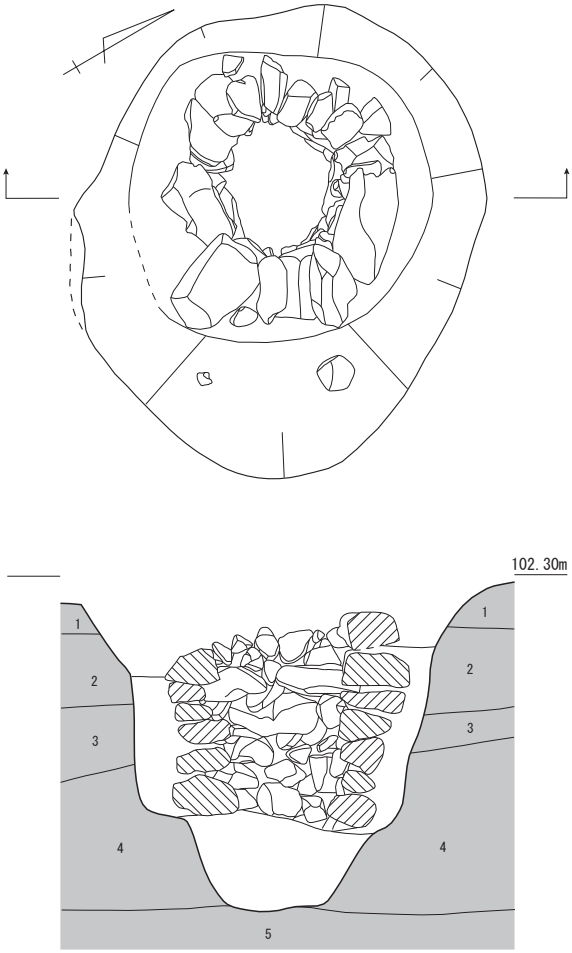
SK2049



1. 盛土
2. 2.5Y5/3　黄褐　細砂
3. 2.5Y4/2　暗灰黄　シルト混じり粗砂　小礫～こぶし大の礫を含む
4. 10YR6/4　にぶい黄橙　シルト混じり粗砂　小礫～こぶし大の礫を含む

0　2m

SE2066

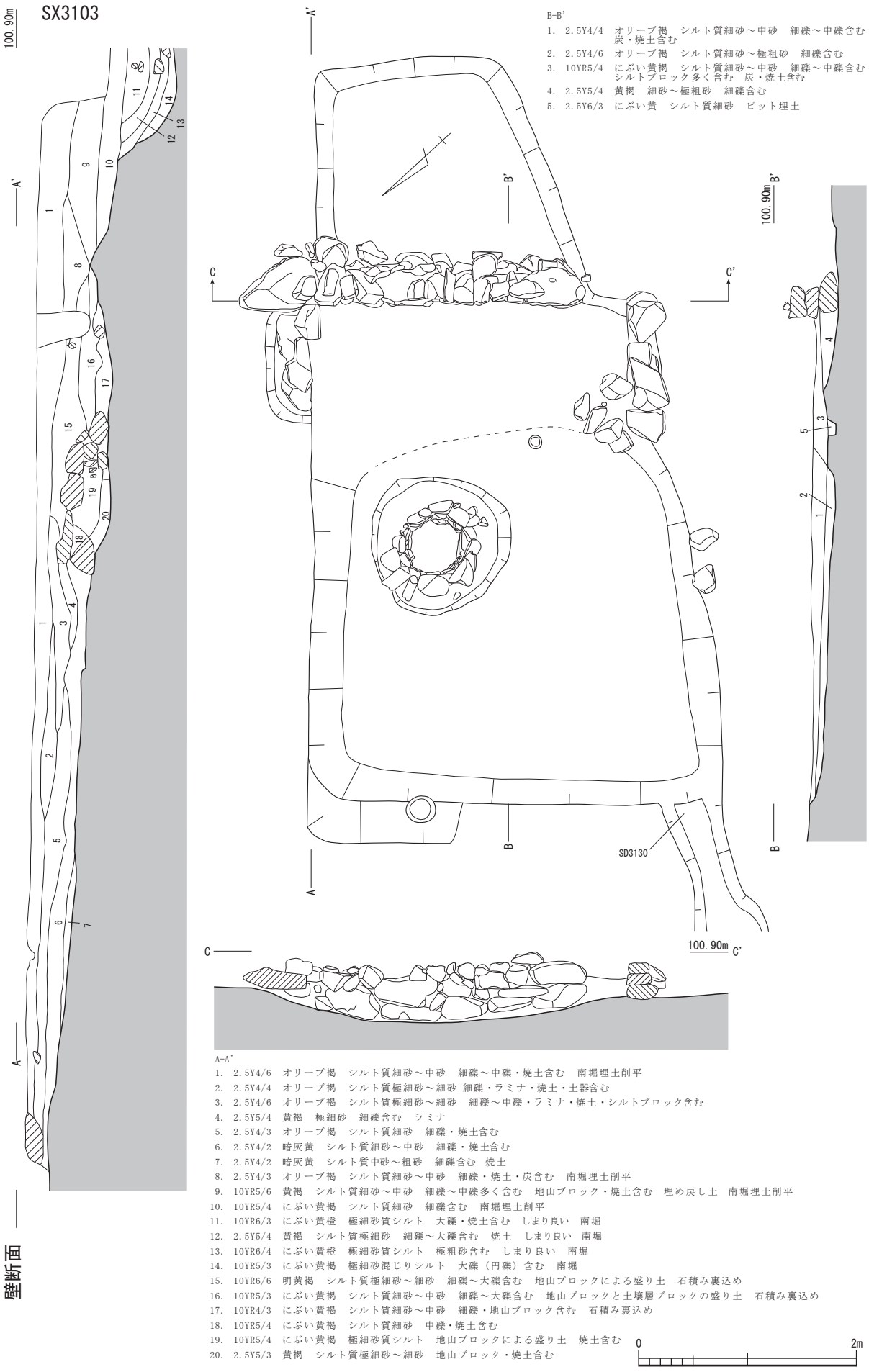


1. 2.5Y5/2　暗灰黄　シルト混じり細砂～中砂
2. 2.5Y4/3　オリーブ褐　1～20㎝大の亜角礫　マトリックスは細砂～中砂
3. 2.5Y6/4　にぶい黄　シルト混じり細砂～中砂　極細砂含む　一部ラミナ状
4. 2.5Y7/2　灰黄　1～40㎝大亜角礫　マトリックスは中砂～粗砂
5. 軟質岩盤

0　2m

18 世紀の遺構 1（土坑・井戸）

広根遺跡Ⅰ区



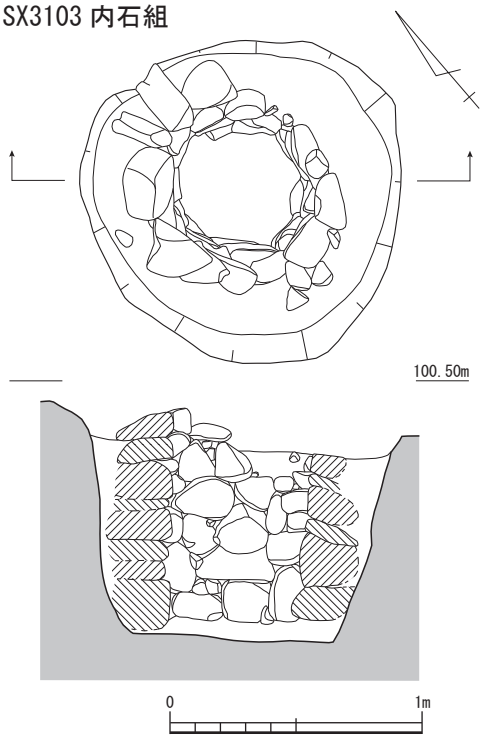
B-B'
1. 2.5Y4/4 オリーブ褐 シルト質細砂～中砂 細礫～中礫含む 炭・焼土含む
2. 2.5Y4/6 オリーブ褐 シルト質細砂～極粗砂 細礫含む
3. 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト質細砂～中砂 細礫～中礫含む シルトブロック多く含む 炭・焼土含む
4. 2.5Y5/4 黄褐 細砂～極粗砂 細礫含む
5. 2.5Y6/3 にぶい黄 シルト質細砂 ピット埋土

A-A'
1. 2.5Y4/6 オリーブ褐 シルト質細砂～中砂 細礫～中礫・焼土含む 南堀埋土削平
2. 2.5Y4/4 オリーブ褐 シルト質極細砂～細砂 細礫・ラミナ・焼土・土器含む
3. 2.5Y4/6 オリーブ褐 シルト質極細砂～細砂 細礫～中礫・ラミナ・焼土・シルトブロック含む
4. 2.5Y5/4 黄褐 極細砂 細礫含む ラミナ
5. 2.5Y4/3 オリーブ褐 シルト質細砂 細礫・焼土含む
6. 2.5Y4/2 暗灰黄 シルト質細砂～中砂 細礫・焼土含む
7. 2.5Y4/2 暗灰黄 シルト質中砂～粗砂 細礫含む 焼土
8. 2.5Y4/3 オリーブ褐 シルト質細砂～中砂 細礫・焼土・炭含む 南堀埋土削平
9. 10YR5/6 黄褐 シルト質細砂～中砂 細礫～中礫多く含む 地山ブロック・焼土含む 埋め戻し土 南堀埋土削平
10. 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト質細砂 細礫含む 南堀埋土削平
11. 10YR6/3 にぶい黄橙 極細砂質シルト 大礫・焼土含む しまり良い 南堀
12. 2.5Y5/4 黄褐 シルト質極細砂 細礫～大礫含む 焼土 しまり良い 南堀
13. 10YR6/4 にぶい黄橙 極細砂質シルト 極粗砂含む しまり良い 南堀
14. 10YR5/3 にぶい黄褐 極細砂混じりシルト 大礫（円礫）含む 南堀
15. 10YR6/6 明黄褐 シルト質極細砂～細砂 細礫～大礫含む 地山ブロックによる盛り土 石積み裏込め
16. 10YR5/3 にぶい黄褐 シルト質細砂～中砂 細礫～大礫含む 地山ブロックと土壌層ブロックの盛り土 石積み裏込め
17. 10YR4/3 にぶい黄褐 シルト質細砂～中砂 細礫・地山ブロック含む 石積み裏込め
18. 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト質細砂 中礫・焼土含む
19. 10YR5/4 にぶい黄褐 極細砂質シルト 地山ブロックによる盛り土 焼土含む
20. 2.5Y5/3 黄褐 シルト質極細砂～細砂 地山ブロック・焼土含む

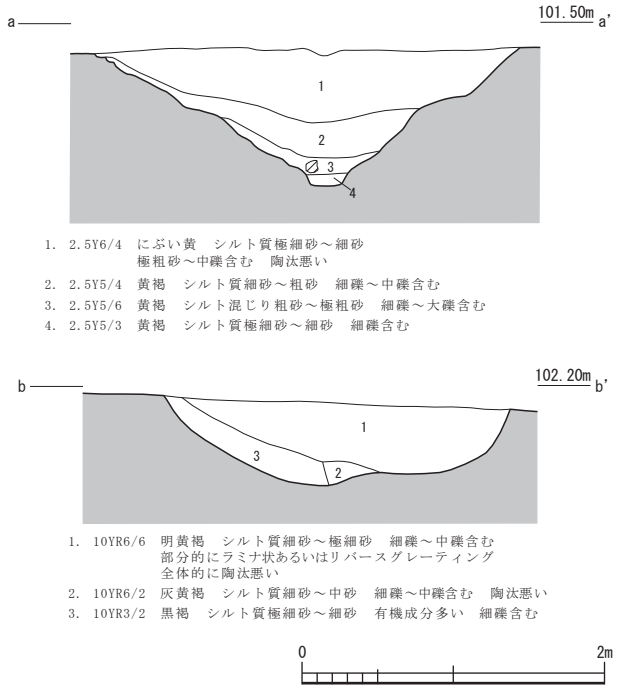
0 2m

18 世紀の遺構 2（SX3103）

SX3103 内石組



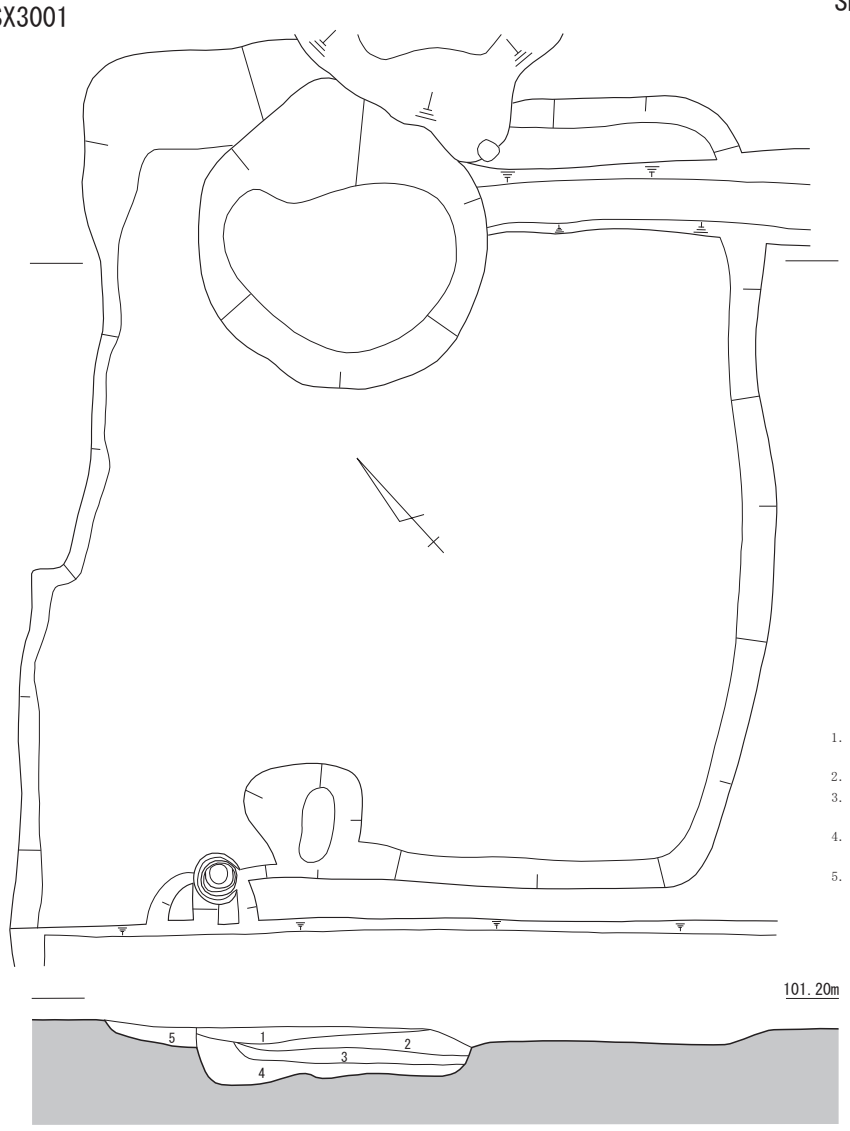
SR2001（谷状落ち）



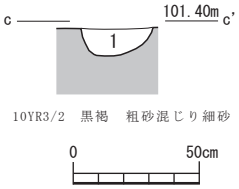
1. 2.5Y6/4 にぶい黄 シルト質極細砂～細砂
極粗砂～中礫含む 陶汰悪い
2. 2.5Y5/4 黄褐 シルト質細砂～粗砂 細礫～中礫含む
3. 2.5Y5/6 黄褐 シルト混じり粗砂～極粗砂 細礫～大礫含む
4. 2.5Y5/3 黄褐 シルト質極細砂～細砂 細礫含む

1. 10YR6/6 明黄褐 シルト質細砂～極細砂 細礫～中礫含む
部分的にラミナ状あるいはリバースグレーティング
全体的に陶汰悪い
2. 10YR6/2 灰黄褐 シルト質細砂～中砂 細礫～中礫含む 陶汰悪い
3. 10YR3/2 黒褐 シルト質極細砂～細砂 有機成分多い 細礫含む

SX3001



SD2201

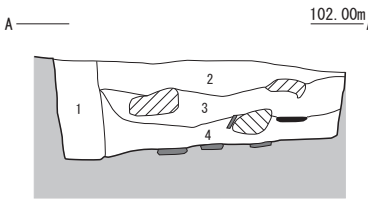


1. 10YR3/2 黒褐 粗砂混じり細砂

1. 10YR5/3 黄褐 極細砂～細砂
細礫～中礫含む
2. 2.5YR4/2 暗灰黄 極細砂～中砂 細礫含む
3. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐
シルト質極細砂～中砂 細礫含む
4. 2.5Y3/2 黒褐 極細砂質シルト 中礫含む
木片・有機質含む
5. 2.5Y3/2 黒褐 極細砂質シルト
φ3～20cm大の岩屑
マトリックスは2.5Y5/2暗灰黄の細砂

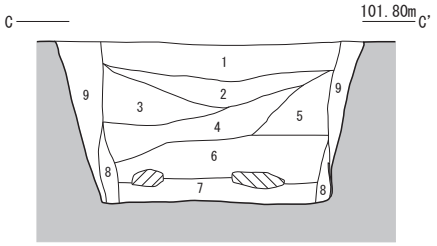
18 世紀の遺構 3（井戸・水溜）

広根遺跡Ⅰ区



1. 10YR5/6　黄褐　細砂混じりシルト　シルトブロック混じる
2. 10YR4/4　褐　粗砂混じりシルト
3. 10YR4/3　にぶい黄褐　細砂混じりシルト
φ20cm大の礫含む
4. 2.5Y4/2　暗灰黄　シルト　土器・木材・φ20cm大の礫含む

1. 2.5Y5/4　黄褐　シルト質細砂～中砂　細礫～中礫含む
2. 2.5Y4/2　暗灰黄　細砂　大礫～巨礫（亜円礫）
3. 2.5Y6/2　灰黄　シルト質中砂～極粗砂
4. 10Y4/1　灰　グライ化　桶のたが部分

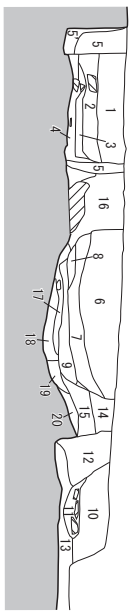


1. 2.5Y5/4　黄褐　細砂質シルト　細礫～中礫含む
2. 2.5Y5/3　黄褐　シルト質細砂～粗砂　細礫～中礫
シルトブロック含む
3. 2.5Y6/3　にぶい黄　細砂～中砂質シルト　細礫～中礫
シルトブロック含む
4. 2.5Y6/2　灰黄　中砂～極細砂　細礫～中礫
シルトブロック含む
5. 2.5Y6/2　灰黄　シルト質極細砂～中砂　シルトブロック含む
6. 5Y6/2　灰オリーブ　粗砂混じりシルト　中礫～巨礫
シルトブロック含む
7. 7.5Y6/1　灰　シルト　木片含む
8. N6/　灰　シルト　桶のたが部分
9. 2.5Y6/1　黄灰　シルト～中砂質シルト　シルトブロック含む
桶の裏込め

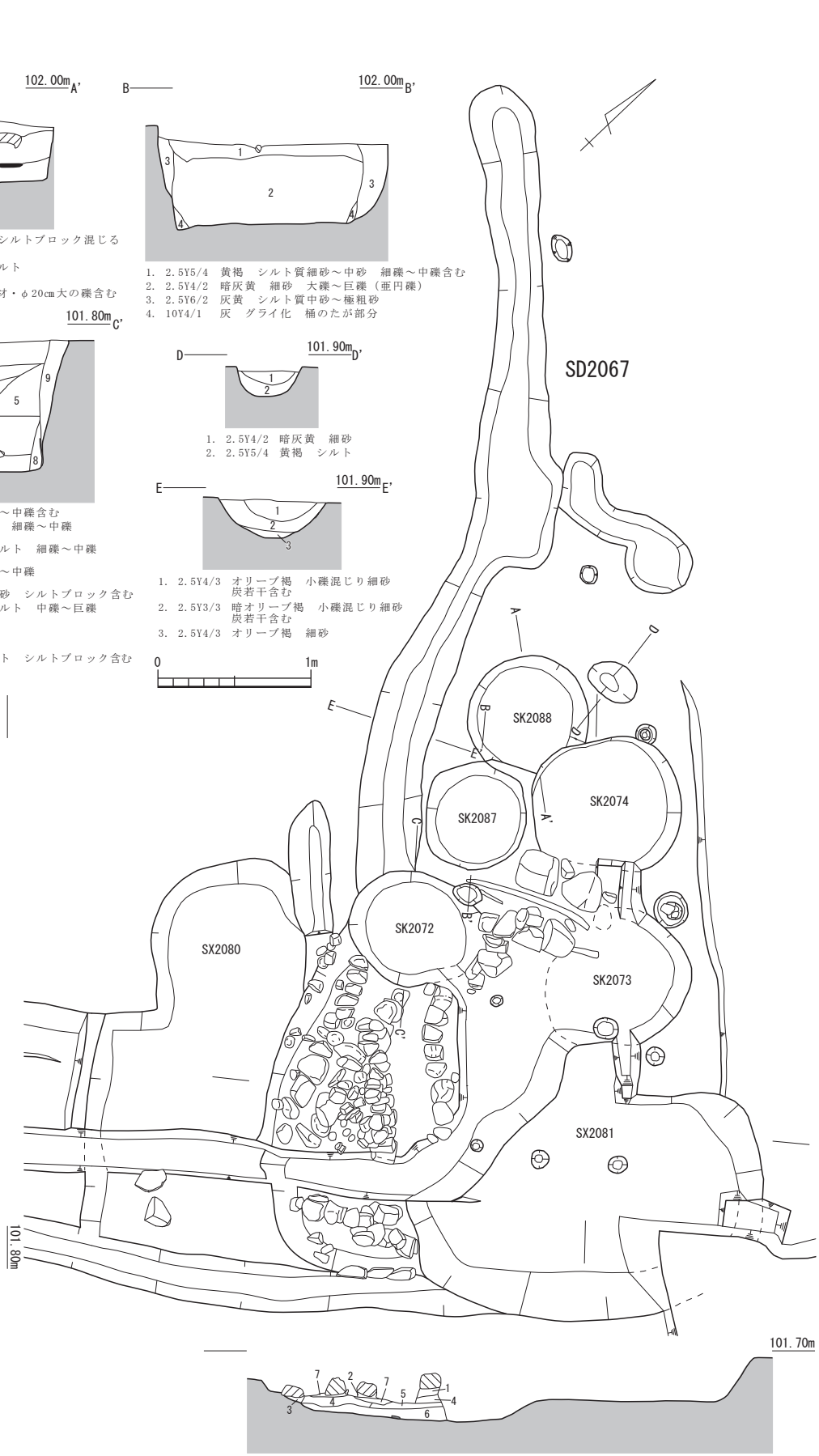
1. 2.5Y4/2　暗灰黄　細砂
2. 2.5Y5/4　黄褐　シルト

1. 2.5Y4/3　オリーブ褐　小礫混じり細砂
炭若干含む
2. 2.5Y3/3　暗オリーブ褐　小礫混じり細砂
炭若干含む
3. 2.5Y4/3　オリーブ褐　細砂

0　1m



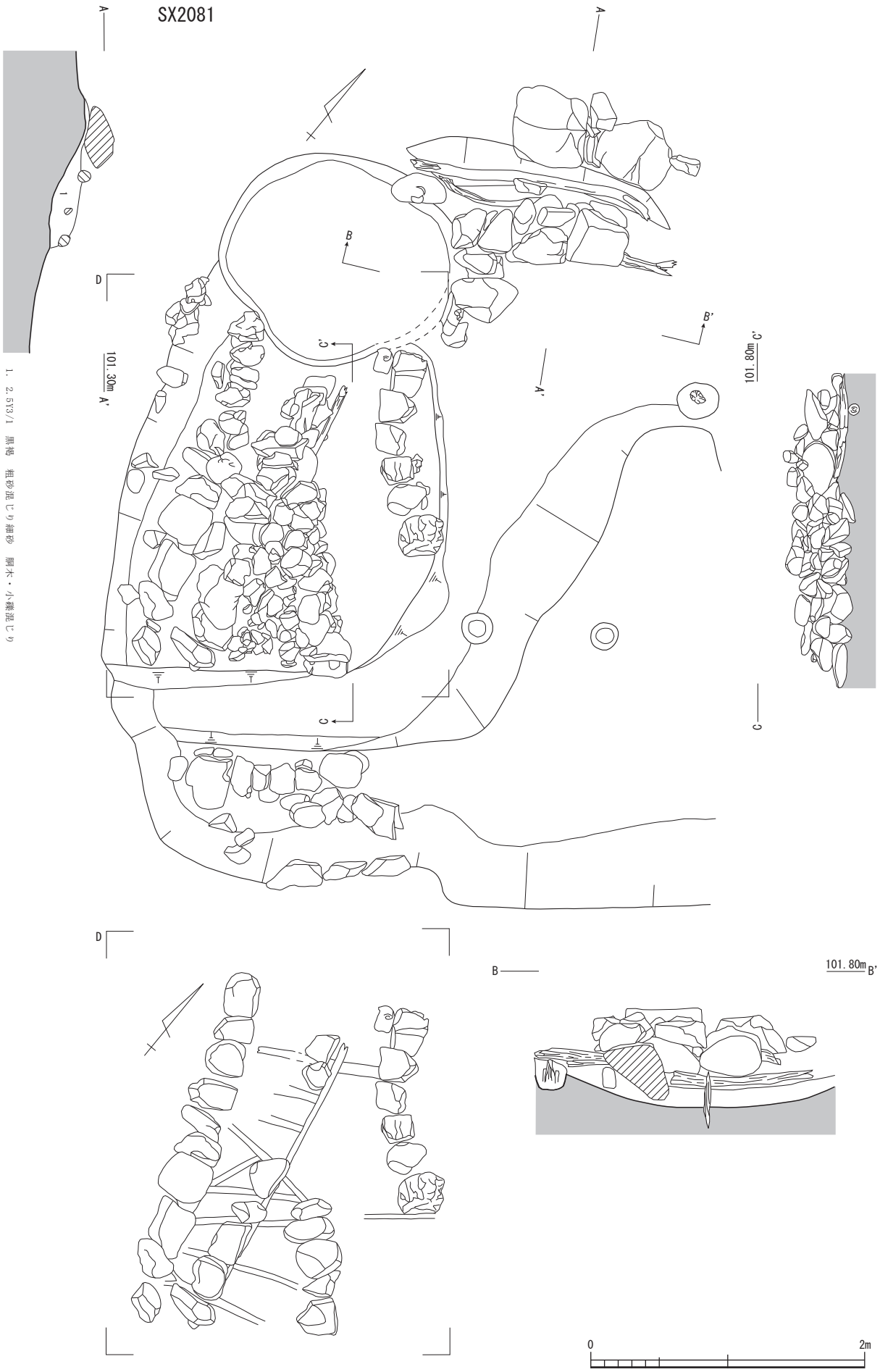
1. 2.5Y5/6　黄褐　シルト質細砂～粗砂　細礫～中礫　シルトブロック含む
2. 2.5Y5/3　黄褐　シルト質細砂（シルトブロック 2.5Y6/6黄褐）パッチ状、大礫～巨礫
3. 2.5Y6/3　にぶい黄　細砂質シルト　鉄分含む
4. 7.5Y6/1　灰　極細砂質シルト～極粗砂　細礫含む　桶の底材　有機成分多い
5. 2.5Y6/4　にぶい黄　シルト質細砂～中砂　細礫～くさり礫含む
6. 2.5Y4/6　オリーブ褐　シルト質細砂～中砂　細礫～大礫含む
7. 2.5Y6/4　にぶい黄　シルト質細砂～粗砂　細礫～大礫含む
8. 2.5Y6/2　灰黄　極細砂シルト混じり　粗砂～中砂　中礫～大礫含む
9. 2.5Y6/3　にぶい黄　シルト混じり極細砂～細礫
下面有機物のシルト層
10. 10YR6/8　明黄褐　シルト質細砂～中砂　細礫含む
11. 2.5Y4/4　地山の鹿沼層
オリーブ褐　細砂～中砂質シルト　細礫・鉄分含む
12. 2.5Y5/3　黄褐　シルト質細砂～中砂
上面に平石並べる
13. 2.5Y4/2　暗灰黄　シルト質細砂・黄色ブロック含む　固め　焼し土
14. 2.5Y5/3　黄褐　シルト質細砂　極細砂～細礫含む
15. 2.5Y4/4　暗オリーブ褐　シルト質細砂・地山の鹿沼土含む
16. 2.5Y5/4　黄褐　極細砂～細砂質シルト　細礫含む
17. 2.5Y3/1　黄褐　細砂　細礫及びくさり礫含む
18. 2.5Y3/2　黒褐　粗砂混じりシルト　有機分強い　炭含む
19. 2.5Y5/2　暗灰黄　シルト質細砂～粗砂　くさり礫含む
20. 2.5Y6/2　灰黄　粗砂混じりシルト　細礫～中礫含む



1. 5Y5/1　灰　粗砂～細礫混じりシルト　灰・焼土をわずかに含む(右側列石の下)
2. 2.5Y4/2　暗灰黄　粗砂～砂礫混じりシルト質極細砂　(中央集石の下)
3. 2.5Y5/2　暗灰黄　極細砂質シルト細礫含む　(左側列石の堀方埋土)
4. 2.5Y6/3　にぶい黄　シルト混じり細砂～粗砂　細礫・鉄分含む
5. 2.5Y4/2　暗灰黄　シルト質細砂～中礫　細礫含む
6. 10YR5/2　灰黄褐　シルト質細砂～粗砂　細礫～中礫多く含む
7. 木質が腐食したシルト質

0　2m

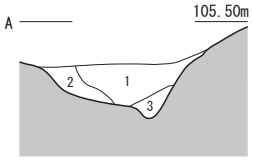
18 世紀の遺構 4（集石埋桶遺構）



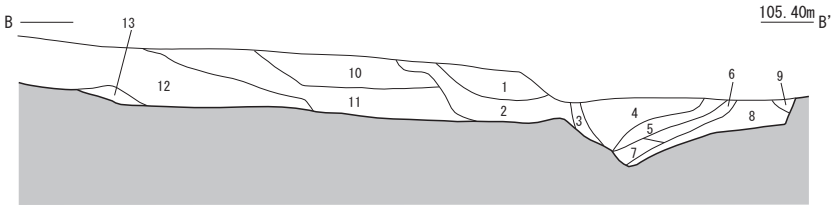
18 世紀の遺構 5（SX2081）

広根遺跡Ⅰ区

SD6011

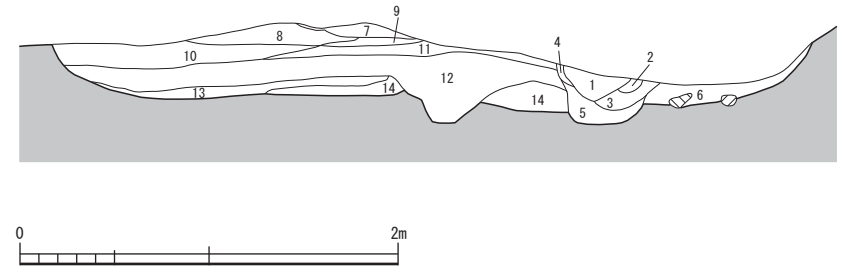


1. 2.5Y4/2 暗灰黄 細砂 整地土層
2. 2.5Y3/1 黒褐 シルト 若干整地土層ブロック含む
3. 2.5Y2/1 黒 シルト 若干整地土層ブロック含む



1. 5YR2/1 黒褐 細砂 炭粒・焼土粒含む 整地土層
2. 5YR2/2 黒褐 細砂 炭粒・焼土粒含む 1層より焼土粒が多い 整地土層
3. 10YR4/1 褐灰 細砂 炭粒含む
4. 10YR3/1 黒褐 シルト混じり細砂
5. 7.5YR3/1 黒褐 極細砂 炭粒・焼土粒含む
6. 7.5YR3/2 黒褐 細砂 炭粒含む
7. 10YR4/2 灰黄褐 シルト 粘性弱い
8. 10YR5/2 灰黄褐 極細砂混じりシルト
9. 10YR4/3 にぶい黄褐 シルト
10. 2.5Y4/3 オリーブ褐 細砂
11. 2.5Y5/3 黄褐 細砂
12. 2.5Y6/6 明黄褐 細砂
13. 5Y4/1 灰 細砂

SD6021・SD6022・谷部土層堆積

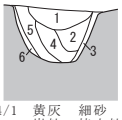


1. 10YR5/6 黄褐 粗砂混じり細砂 小礫～中礫含む
2. 5Y4/3 暗オリーブ 細砂
3. 2.5Y3/1 黒褐 シルト 炭若干含む
4. 5Y4/2 灰オリーブ 細砂
5. 2.5Y3/2 黒褐 粗砂混じりシルト 焼土粒 炭粒含む
6. 2.5Y5/6 黄褐 シルト 粘質強い
7. 10YR3/2 黒褐 細砂 炭若干含む
8. 10YR4/3 にぶい黄褐 細砂 1層より焼土が多い
9. 8層と同質
10. 2.5Y4/2 暗灰黄 細砂 焼土・炭粒多く含む
11. 2.5Y5/4 黄褐 極細砂 整地土より焼土少ない
12. 10YR3/1 黒褐 極細砂混じり細砂 小礫～中礫 炭多く含む
13. 10YR3/3 暗褐 極細砂混じり細砂 小礫～中礫 整地土含む 炭は2層より少ない
14. 2.5Y4/3 オリーブ褐 シルト 7層より炭多い

Ⅰ－６区 18～19 世紀代の遺構群

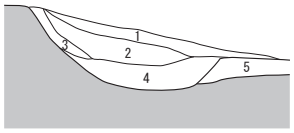
広根遺跡Ⅰ区

SD6020 D—— 104.20m D'



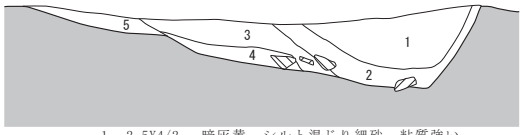
1. 2.5Y4/1　黄灰　細砂　炭粒・焼土粒含む
2. 2.5Y4/2　暗灰黄　粗砂混じり細砂　炭粒・焼土粒含む
3. 2.5Y5/4　黄褐　極細砂　地山
4. 2.5Y4/4　オリーブ褐　細砂　炭粒・焼土粒含む
5. 2.5Y3/1　黒褐　細砂　炭粒・焼土粒含む
6. 2.5Y5/4　黄褐　極細砂　地山

SD6020 E—— 104.20m E'



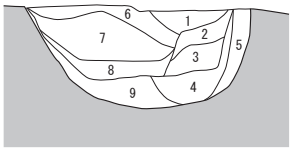
1. 5Y4/1　灰　細砂　小礫～中礫含む　炭粒含む
2. 5Y4/2　灰オリーブ　粗砂混じり細砂　中礫・炭粒含む
3. 2.5Y4/2　オリーブ褐　極細砂
4. 2.5Y5/4　黄褐　粗細　小礫～中礫含む
5. 2.5Y5/3　黄褐　粗細　小礫～中礫含む

SD6020 F—— 104.80m F'



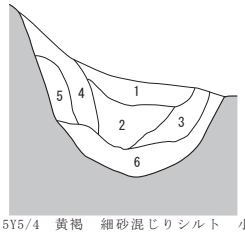
1. 2.5Y4/2　暗灰黄　シルト混じり細砂　粘質強い
2. 2.5Y3/1　黒褐　シルト　炭粒含む
3. 2.5Y2/1　黒　粗砂混じりシルト　焼土粒・炭粒多く含む
4. 10YR2/1　黒褐　シルト混じり細砂　炭粒多く含む
5. 2.5YR4/3　オリーブ褐　細砂　整地土層ブロック

SD6020 G—— 104.80m G'



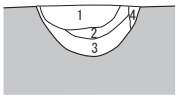
1. 2.5Y5/6　明黄褐　極細砂
2. 2.5Y4/1　黄灰　細砂　小礫～中礫混じる
3. 2.5Y4/2　暗灰黄　細砂　小礫～中礫混じる
4. 2.5Y4/4　オリーブ褐　細砂
5. 2.5Y4/3　オリーブ褐　粗砂混じり細砂　地山
6. 2.5Y3/2　オリーブ黒　細砂　焼土粒・炭粒若干含む
7. 10YR3/2　黒褐　細砂　炭粒・焼土粒
8. 5Y4/1　灰　シルト混じり細砂　整地土層多く含む　粘質強い
9. 2.5Y5/3　黄褐　細砂　4層より粒子が粗い

SD6020 H—— 105.20m H'



1. 2.5Y5/4　黄褐　細砂混じりシルト　小礫～中礫含む
2. 2.5Y4/4　オリーブ褐　極細砂　中礫～大礫含む
3. 2.5Y4/3　オリーブ褐　細砂　小礫～中礫含む
4. 2.5Y4/2　暗灰黄　細砂　小礫～中礫含む
5. 2.5Y4/6　オリーブ褐　細砂　小礫～中礫含む
6. 2.5Y5/3　黄褐　細砂　小礫～中礫含む

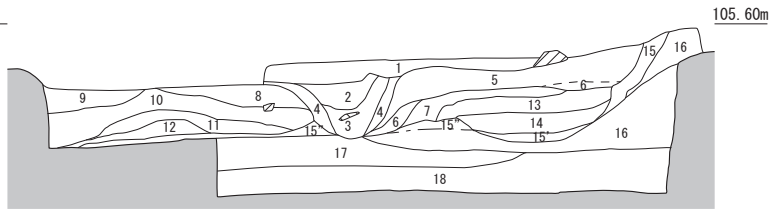
SD6030 I—— 104.10m I'



1. 10YR2/1　黒褐　極細砂混じり細砂
2. 10YR5/4　にぶい黄褐　細砂　炭粒多く含む
3. 10YR4/2　灰黄褐　シルト混じり細砂　粘質強い
4. 10YR1.7/1　黒　シルト　炭混じる

0　2m

Ⅰ－６区　石敷遺構



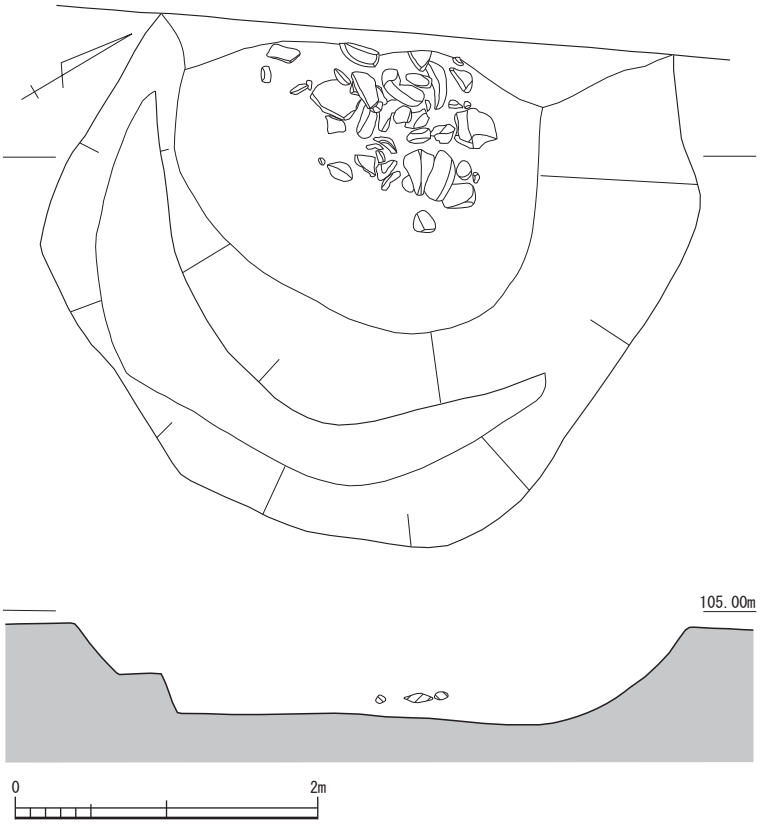
1. 2.5Y5/4　黄褐　シルト混じり細砂
2. 2.5Y4/2　暗灰黄　粗砂混じり細砂　整地土含む
3. 5Y4/2　灰オリーブ　シルト　中礫～小礫含む
4. 2.5Y4/4　オリーブ褐　シルト　若干炭粒含む
5. 2.5Y5/4　黄褐　粗砂混じり細砂　巨礫～小礫含む
6. 10YR5/6　黄褐　シルト　地山
7. 2.5Y3/1　黒褐　細砂　炭粒・焼土粒含む
8. 2.5Y4/3　オリーブ褐　細砂　整地土含む
9. 10YR2/1　黒　細砂
10. 10YR3/2　黒褐　細砂　窯の盛り土
11. 10YR3/1　黒褐　細砂　焼土粒・炭多く含む
12. 10YR3/3　暗褐　シルト混じり細砂
13. 10YR4/4　褐　極細砂混じり細砂　小礫～中礫多く含む
14. 10YR3/1　黒褐　極細砂
15. 2.5Y5/2　暗灰黄　シルト
15'. 2.5Y5/2　暗灰黄　シルト
15''. 2.5Y5/2　暗灰黄　細砂
16. 10YR4/2　灰黄褐　細砂混じりシルト
17. 7.5YR4/4　褐　極細砂混じり細砂
18. 7.5YR4/6　褐　シルト混じり中砂

0　2m

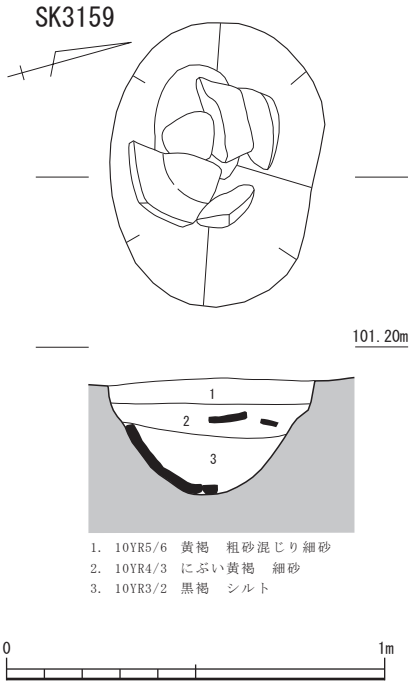
Ⅰ－６区　近世の溝・石敷遺構

広根遺跡Ⅰ区

SK2053

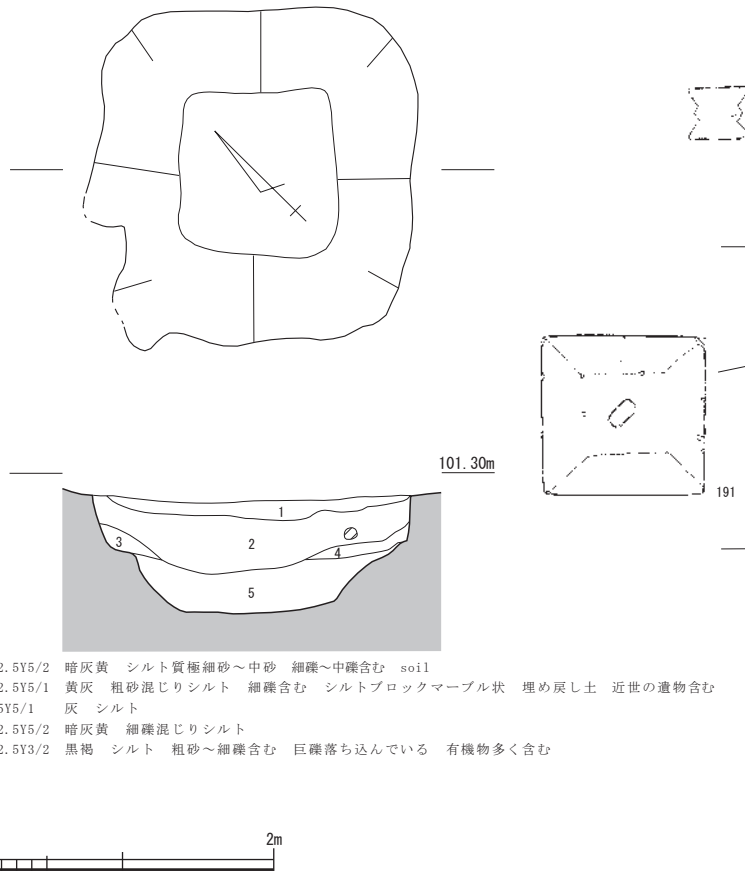


SK3159



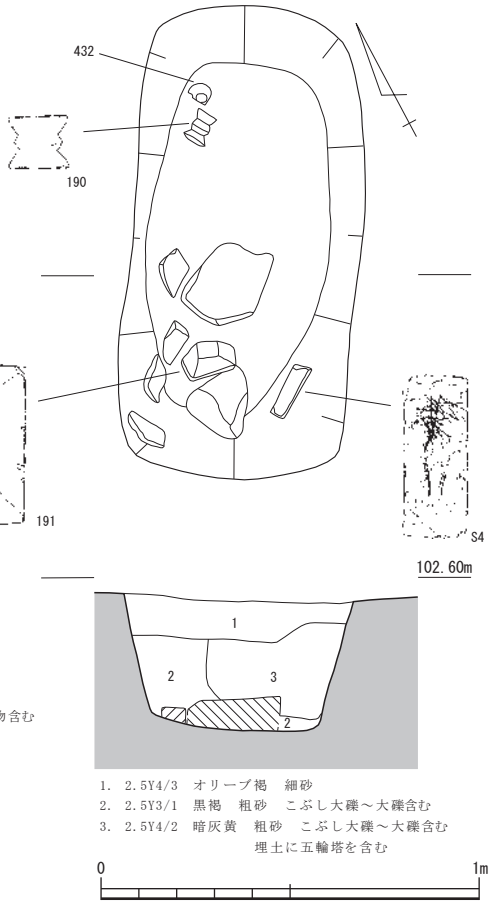
1. 10YR5/6　黄褐　粗砂混じり細砂
2. 10YR4/3　にぶい黄褐　細砂
3. 10YR3/2　黒褐　シルト

SK3133



1. 2.5Y5/2　暗灰黄　シルト質極細砂～中砂　細礫～中礫含む　soil
2. 2.5Y5/1　黄灰　粗砂混じりシルト　細礫含む　シルトブロックマーブル状　埋め戻し土　近世の遺物含む
3. 5Y5/1　灰　シルト
4. 2.5Y5/2　暗灰黄　細礫混じりシルト
5. 2.5Y3/2　黒褐　シルト　粗砂～細礫含む　巨礫落ち込んでいる　有機物多く含む

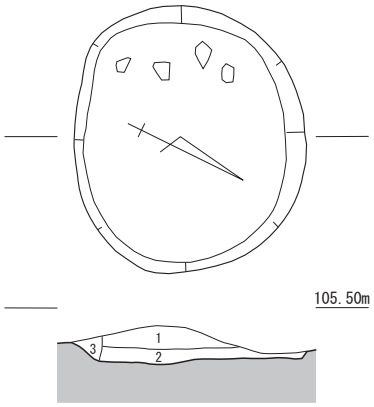
SK2065



1. 2.5Y4/3　オリーブ褐　細砂
2. 2.5Y3/1　黒褐　粗砂　こぶし大礫～大礫含む
3. 2.5Y4/2　暗灰黄　粗砂　こぶし大礫～大礫含む
埋土に五輪塔を含む

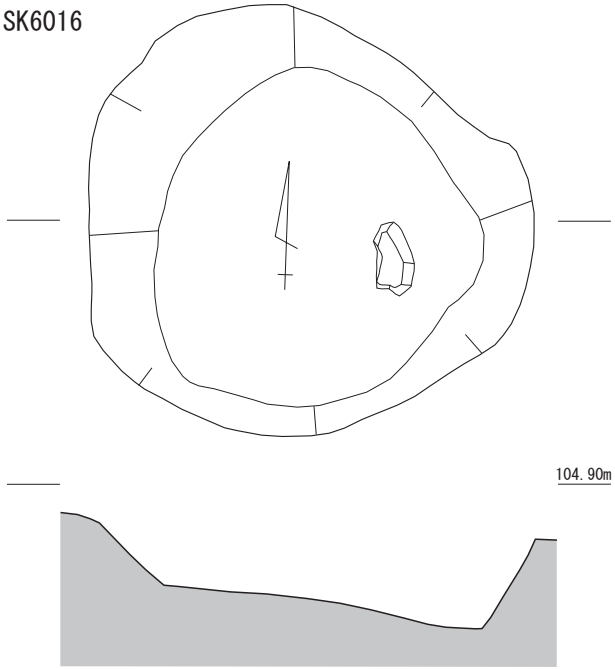
近代の遺構１（土坑）

SK6018

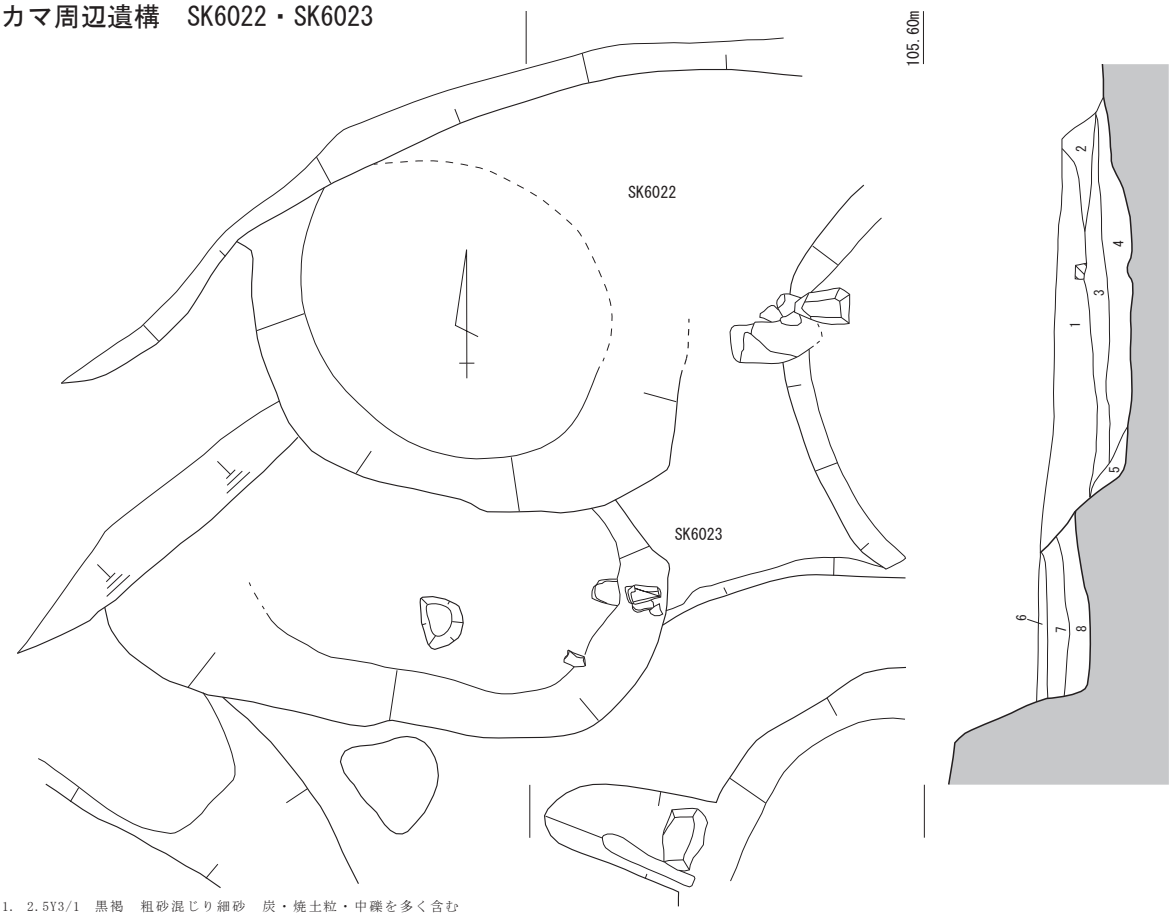


1. 5Y3/2　暗赤褐　細砂～極細砂　炭・地山含む　焼土多い
2. 2.5YR3/2　暗赤褐　極細砂　地山含む　焼土多い
3. 5YR3/1　黒褐　極細砂

SK6016



カマ周辺遺構　SK6022・SK6023

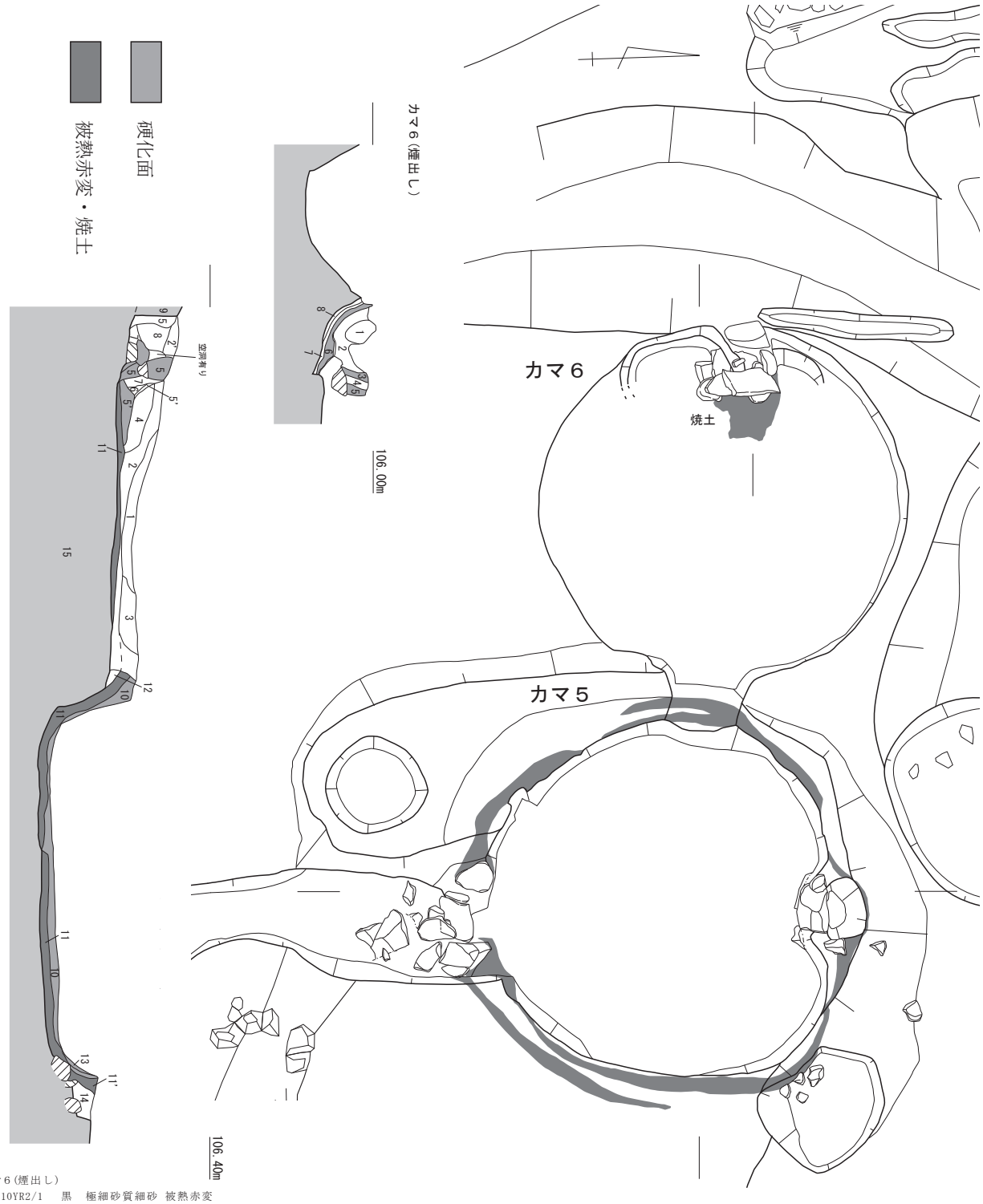


1. 2.5Y3/1　黒褐　粗砂混じり細砂　炭・焼土粒・中礫を多く含む
2. 2.5Y4/3　オリーブ褐　シルト混じり極細砂
3. 2.5Y3/2　黒褐　粗砂混じり細砂　小礫～中礫多い　炭・焼土含む
4. 2.5Y4/4　オリーブ褐　シルト
5. 2.5Y3/3　暗オリーブ褐　シルト混じり極細砂
6. 2.5Y2/1　黒　シルト　炭多く含む
7. 2.5Y5/4　黄褐　細砂　炭・焼土粒多少含む
8. 2.5Y4/6　オリーブ褐　シルト混じり細砂　炭・焼土粒多少含む

0　2m

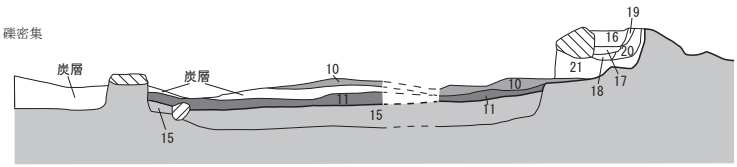
近代の遺構２（土坑）

広根遺跡Ⅰ区



カマ６（煙出し）

1. 10YR2/1　黒　極細砂質細砂 被熱赤変
2. 7.5YR6/4　にぶい橙　シルト混じり細砂　窯壁片多く含む
3. N2/　黒　ガラス質　煙道壁
4. 7.5YR6/6　橙　礫・窯壁片（小片）が密に入る　φ5mm～1cm礫密集
5. N2/　黒　細砂　炭多く含む　窯壁
6. N1.5/　黒　ガラス質　煙道
7. 2.5YR2/2　極暗赤褐　シルト混じり細砂質極細砂　被熱赤変 地山
8. 10YR4/6　褐　シルト混じり極細砂質細砂　地山



カマ５・カマ６

1. 10YR4/6　褐　極細砂混じり細砂 炭含む
2. 5YR4/3　にぶい赤褐　細砂混じり極細砂 窯壁の細片入る
2'. 5YR4/6　褐　中砂混じり細砂
3. 2.5YR5/8　明赤褐　細砂質極細砂 赤変　窯壁片か?
4. 7.5YR5/4　にぶい褐　極細砂 窯壁片が密に入る
5. 7.5YR2/1　黒　細砂 煙出し部分
5'. 10YR2/1　黒　細砂 堅く締まる　窯壁
6. 10YR6/4～5/4　にぶい黄橙～にぶい黄褐　極細砂質シルト
7. 7.5YR4/4　褐　極細砂混じり細砂　柔らかい
8. 7.5YR4/6　褐　極細砂、細砂混じりシルト　窯壁片入る
9. 10YR4/6　褐　礫まじり極細砂質細砂
10. 10YR1.7/1　黒　細砂　石灰化面　堅くやける
11. 5YR2/4　極暗赤褐　細砂混じり中砂
11'. 当初の硬化面
12. 7.5YR5/6　明褐　極細砂混じり細砂
13. 5YR3/6　暗赤褐　細砂混じり中砂　カマ５窯壁の赤変
14. 7.5YR5/6　明褐　極細砂混じり細砂
15. 地山
16. 10YR1.7/1　黒　極細砂　炭多く含む
17. 10YR5/3　にぶい黄褐　極細砂
18. 炭層
19. 10YR3/1　黒褐　極細砂　炭含む
20. 炭層
21. 10YR1.7/1　黒　極細砂　炭多く含む

0　2m

近代の遺構３（カマ５・６）

カマ３

カマ２

硬化面

被熱赤変

105.00m

1. 10YR5/4　にぶい黄褐　シルト混じり極細砂　炭・地山ブロックが入る
2. 10YR5/4～5/6　にぶい黄褐～黄褐　シルト混じり細砂　地山ブロック多く含む
炭層
3. 2.5YR3/4　暗赤褐　極細砂まじり細砂　赤変、堅く締まる
4. 2.5YR2/2　黒褐　細砂　堅化面で堅い
5. 5YR4/4　にぶい赤　中砂～中砂　堅く締まる
6. 2.5YR3/4　暗赤褐　細砂　堅く締まる
7. 2.5YR3/4　黒　細砂　硬化面
8. N1.5/
9. 5YR3/3　暗赤褐　細砂まじりシルト　被熱面
10. 7.5YR5/6　明褐　シルトまじり中砂～シルト　地山
11. 5YR3/1　黒褐　細砂まじり極細砂　埋土
12. 2.5YR4/6　赤褐　シルトまじり　硬くはないが硬化面か
13. N1.5/　黒　シルト　硬化面
14. 5YR3/4　暗赤褐　細砂　盛土
15. 7.5YR5/6　明褐　細砂
16. 10YR4/4　褐　シルト混じり細砂

カマ３

105.00m

1. 2.5YR5/8　明赤褐　細砂　焼土
2. 10YR2/1　黒　細砂　硬化面・炭含む
3. 5YR4/3　にぶい赤褐　礫混じり細砂
4. 5YR4/2　灰褐　礫混じり細砂
4'. 5YR4/2　灰褐　礫混じり細砂　しまりなし
5. 5YR3/6　暗赤褐　中砂混じり細砂　被熱？

カマ２

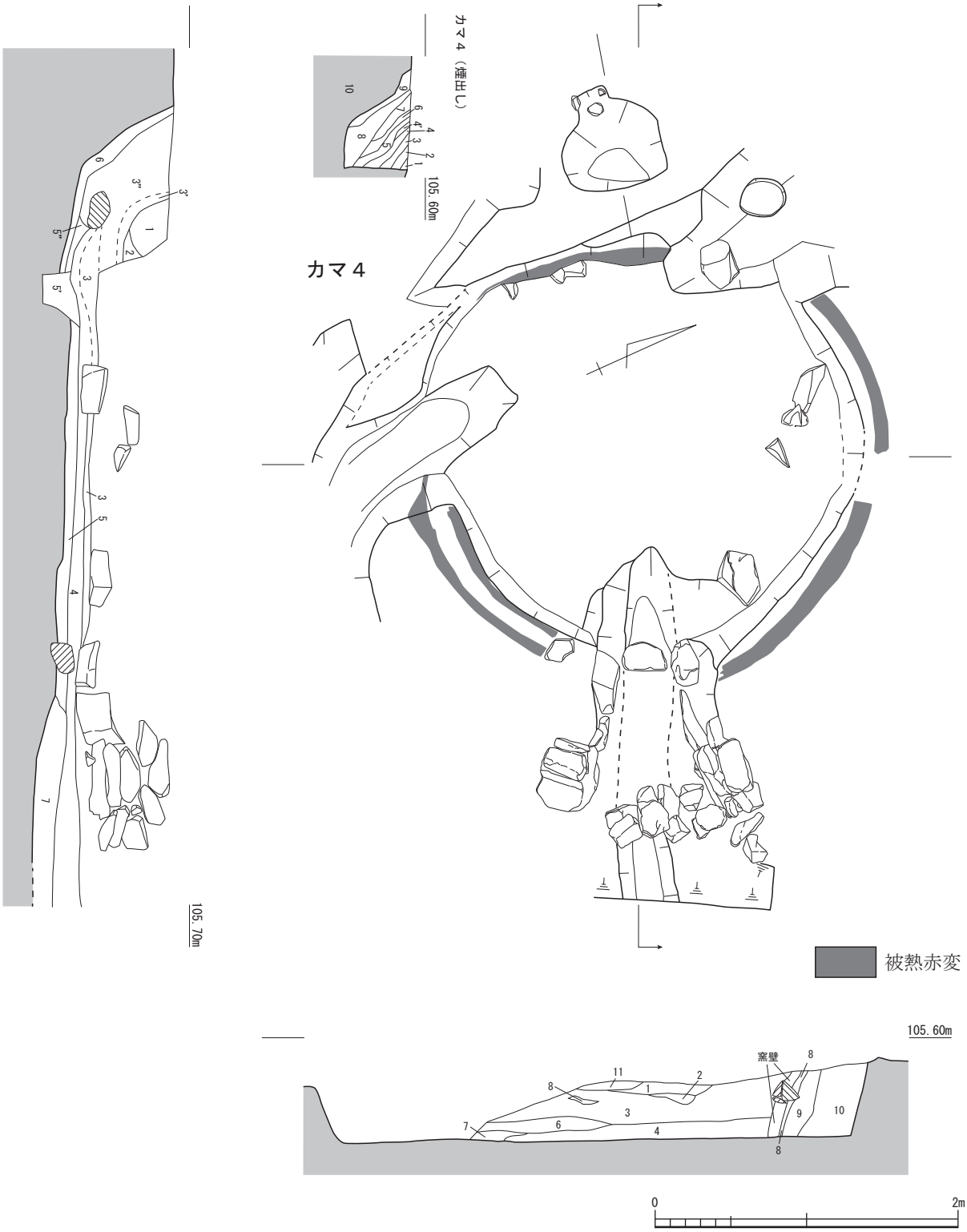
105.60m

1. 7.5R3/2　暗赤褐　細砂　赤変
2. 10R3/3　暗赤褐　シルトまじり細砂
3. 2.5YR3/2～5YR3/2　暗赤褐～暗赤褐　礫・シルトまじり細砂　φ5mm内外礫多し
4. 2.5YR3/2　暗赤褐　礫・シルトまじり細砂
5. 5YR4/4　にぶい赤褐　細砂まじりシルト　地山ブロック含む
6. 2.5YR3/4　暗赤褐　礫・シルトまじり細砂　赤変　φ0.5～1cm礫多し
7. 10R5/4　にぶい黄褐　シルトまじり細砂　地山ブロック含む　積み土
8. 7.5YR3/2　黒褐　極細砂混じり細砂　礫・炭含む　灰原の敷直しか
9. 7.5YR3/3　暗褐　極細砂混じり細砂　礫・炭含む　φ10cm内外炭ブロックで10層に混ざる
10. 7.5YR4/4　褐　シルト・粘土混じり細砂　地山土・炭・焼土による整地
10'. 5YR2/3　極暗赤褐　シルトまじり細砂
11. 10R4/6～6/6　赤褐～橙　礫まじりシルト　地山土による整地
12. 10R6/6　橙　礫まじりシルト
13. 10R6/4　赤褐　中砂混じり粘土
14. 10R6/6～2.5Y6/6　明黄褐～橙　中砂混じり粘土　13層より礫多し
15. 10R4/4　褐　シルトを含む礫混じり細砂　φ5mm内外角礫多し
16. 5YR3/1　黒褐　細砂　炭・焼土含む
17. 5YR4/6　赤褐　細砂　小～中礫・焼土塊・窯壁片含む
18. 5YR4/3　にぶい赤褐　粗砂混じり細砂　小～中礫　窯壁片含む　炭粒・焼土粒含む
19. 2.5YR3/4　暗赤褐　粗砂混じりシルト　焼土塊・炭粒含む
20. 2.5YR3/3　暗赤褐　シルト(粘質強い)　炭粒含む　窯壁が焼けたもの
21. 2.5YR3/2　暗赤褐　シルト　小～中礫・窯壁片含む
22. 10R4/3　にぶい黄褐　粗砂混じりシルト　整地土含む
23. 7.5YR2/1　黒　細砂　炭粒・　焼土含む

0　2m

近代の遺構４（カマ２・３）

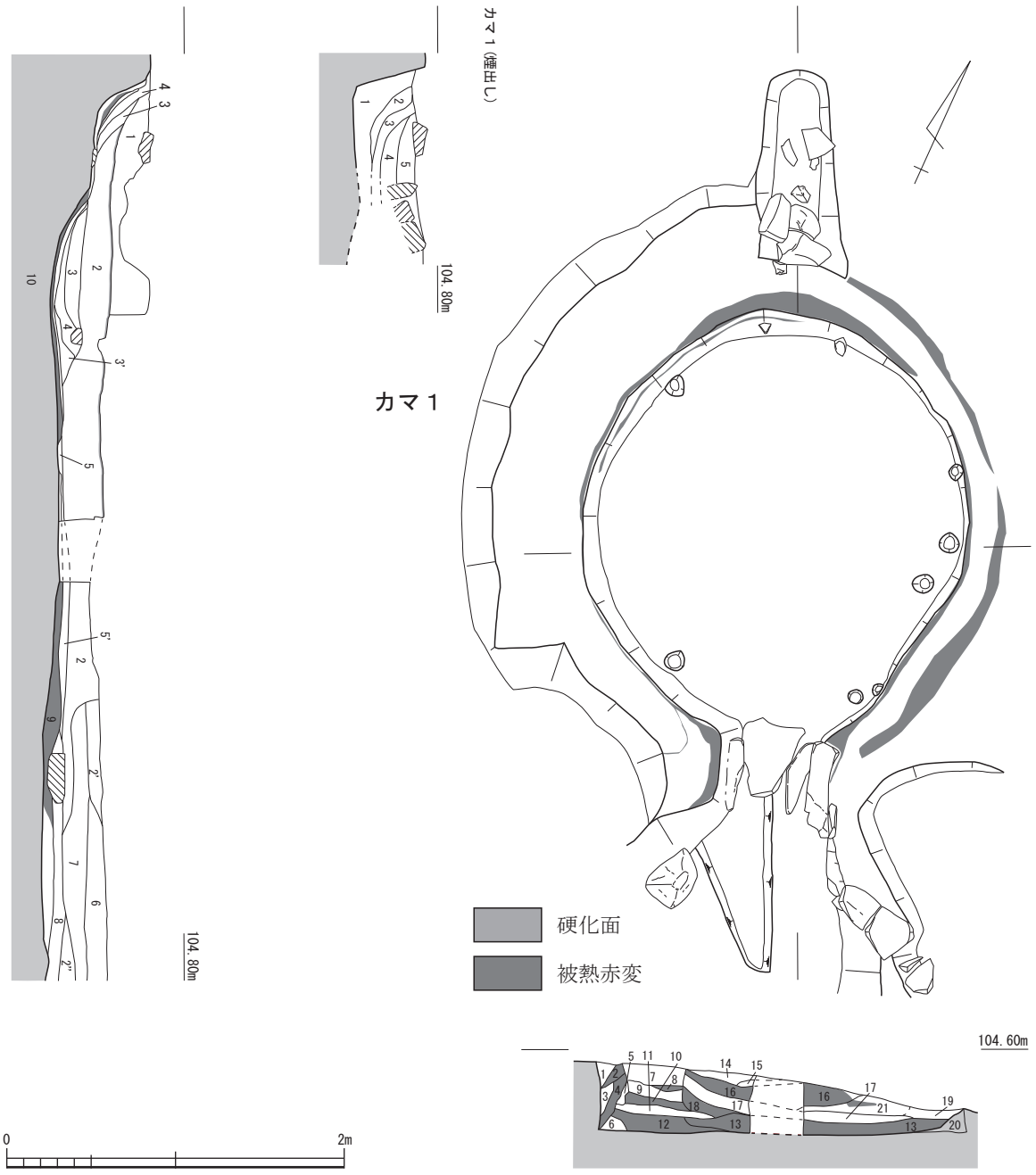
広根遺跡Ⅰ区



カマ４（煙出し）
1. 7.5YR3/2　黒褐　極細砂混じり細砂　2層との間に炭層入る
2. 7.5YR3/2　黒褐　極細砂混じり細砂
3. 7.5YR3/2　黒褐　礫まじり細砂　炭ブロック含む
4. N5/　灰　炭層
4'. 7.5YR3/2　黒褐　極細砂質シルト
5. 5YR2/2　黒褐　細砂質極細砂N1.5/炭多く入る　φ3㎜内外ブロックで固まる
6. 5YR3/1　黒褐　極細砂質シルト
7. 5YR2/2　黒褐　細砂混じりシルト　灰・炭含む
8. N1.5/　黒　厚く(ガラス質)コークス状の炭素分たまる
9. 7.5YR5/4　にぶい褐　シルト混じり極細砂　被熱赤変
10. 10R5/4　にぶい黄褐　細砂　盛り土

カマ４（東西・南北セクション、同一土層名）
1. 2.5YR3/2　暗赤褐　粗砂
2. 2.5YR3/3　暗赤褐　粗砂
3. 床面（硬化面）
3'. 煙出し天井部
3''. 5YR3/2　暗赤褐　礫混じり細砂　炭含む　煙出し埋土
4. N1.5/　黒　炭層　古い床面
5. 2.5YR3/3　暗赤褐　礫まじり極細砂～細砂混じりシルト
5'. 10YR6/3　にぶい黄橙　細砂混じりシルト
5''. 5YR3/2　暗赤褐　礫混じり極細砂～シルト　汚れる
6. 10YR5/6　黄褐　礫混じりシルト
7. 7.5YR4/4　褐　礫混じり　シルト～粘土
8. 7.5YR6/6　橙　極細砂　黄変
9. 10R3/3　暗赤褐　極細砂
10. 5YR3/1　黒褐　極細砂
11. 7.5YR6/6　橙　シルト　炭含む

近代の遺構５（カマ４）



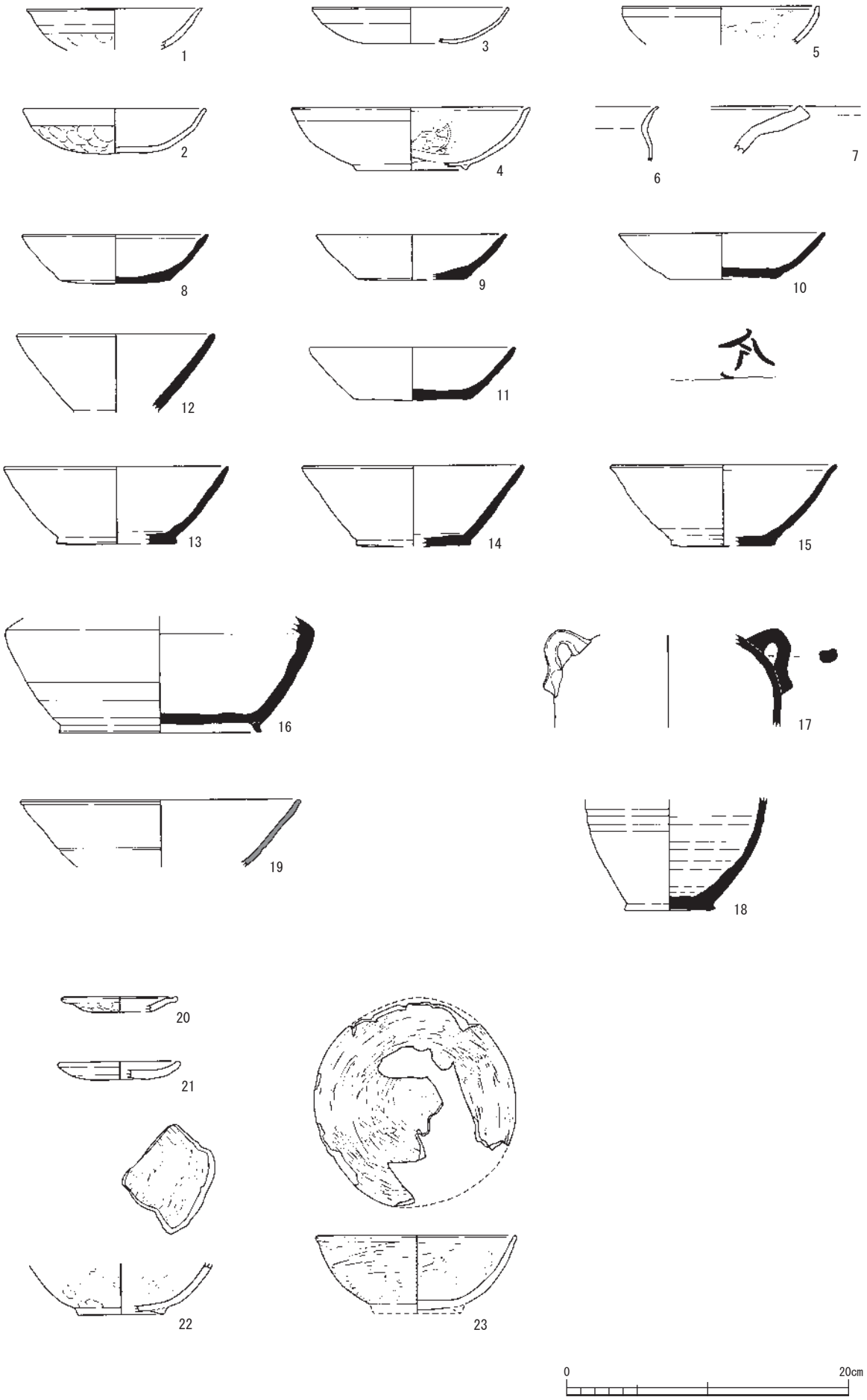
カマ１(煙出し)
1. 10YR4/4　褐　細砂　粘土ブロック混じる　盛土
2. N1.5/　黒　シルト　コークス状の炭素分たまる　上面硬化
3. 7.5YR2/2　黒褐　細砂まじりシルト　炭・粘土含む
4. 5Y4/3　暗オリーブ　細砂混じりシルト　焼土塊多く含む　壁土が壊れているのか
5. 5Y3/1　オリーブ黒　シルト混じり細砂　炭粒・巨礫含む

カマ１(南北セクション)
1. 5YR4/4　にぶい赤褐　礫混じり極細砂
2. 7.5YR4/4　褐　シルト　被熱面　火の影響強く受ける
2'. 2.5YR4/4　にぶい赤褐　礫混じり細砂
2''. 5YR4/4　にぶい赤褐　礫混じり細砂　焼土多し
3. 2.5YR4/6　赤褐　細砂　焼土による埋土
3'. 2.5YR3/6　暗赤褐　細砂　焼土
4. 2.5YR3/3　暗赤褐　炭混じり細砂
5. 7.5YR3/2　黒褐極細砂　硬化面
5'. 炭層
6. 10YR7/6　明黄褐　礫混じり細砂
7. 10YR4/4　褐　礫混じり細砂　盛り土
8. 5YR2/1　黒褐　細砂　炭、焼土含む
9. 5YR3/2　暗赤褐　礫混じりシルト　赤変
10. 地山

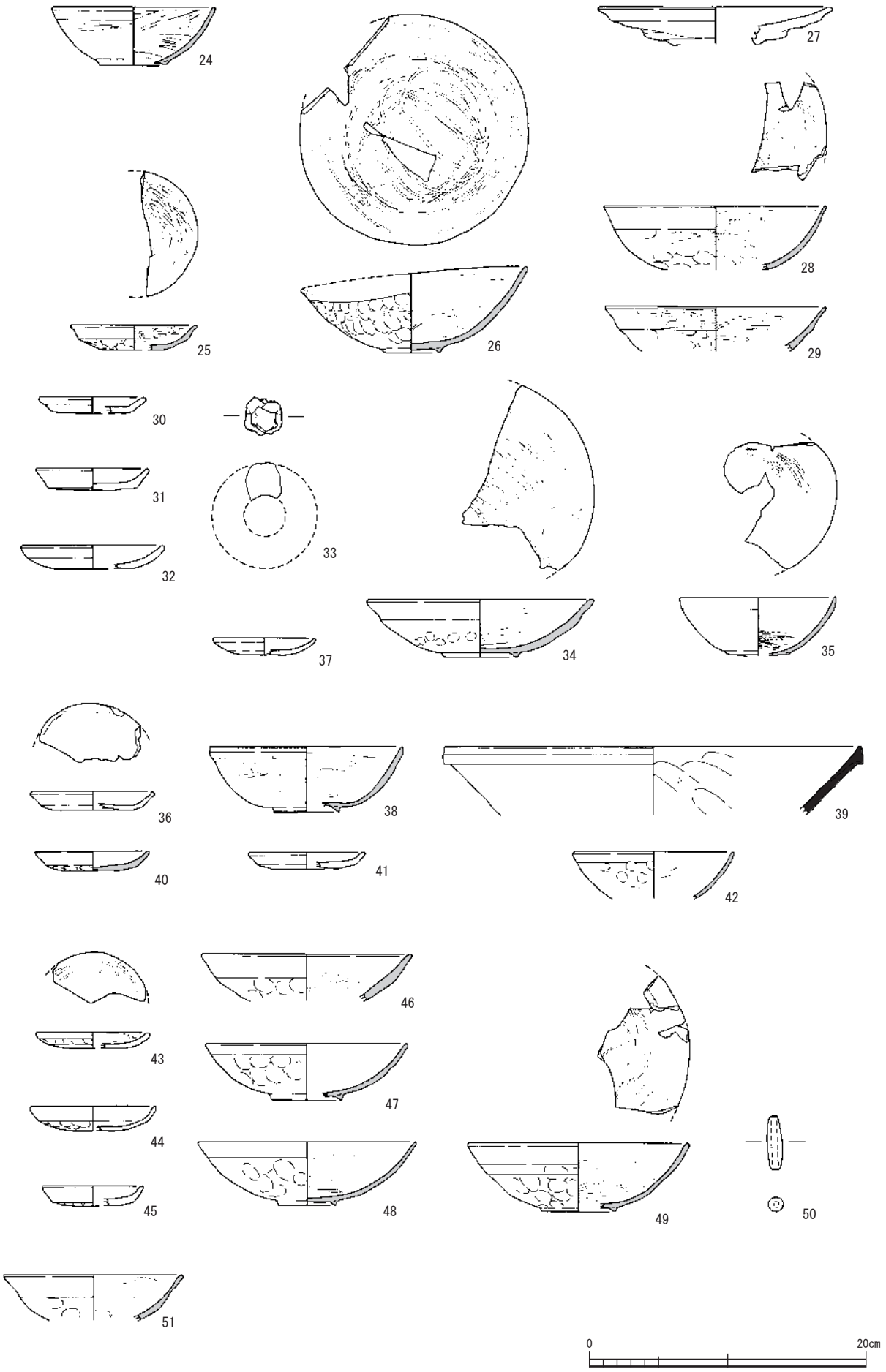
カマ１(東西セクション)
1. 7.5YR3/2　黒褐　極細砂
2. 7.5YR4/4　褐　シルト　被熱面　火の影響強く受ける
3. 7.5YR3/1　黒褐　極細砂
4. 7.5YR4/6　褐　シルト　2層と同じ
5. 7.5YR3/2　黒褐　極細砂
6. 7.5YR2/1　黒　極細砂　炭粒含む
7. 7.5YR4/2　灰褐　極細砂
8. 7.5YR4/3　褐　極細砂
9. 7.5YR4/4　褐　細砂
10. 7.5YR5/4　にぶい褐　極細砂混じり細砂　焼土塊・炭粒多く含む
11. 7.5YR2/2　黒褐　シルト
12. 7.5YR4/6　褐　極細砂　焼土塊・炭粒多く含む
13. 7.5YR4/6　褐　極細砂　焼土塊・炭粒多く含む　12層と同一
14. 2.5Y3/1　黒褐　細砂　小礫・炭粒含む
15. 10YR2/1　黒　粗砂混じり細砂　窯壁片含む
16. 10YR3/2　黒褐　細砂　焼土粒・炭粒若干含む
17. 10YR2/1　黒　細砂　小礫含む　炭層
18. 10YR3/3　暗褐　極細砂　小～中礫・焼土若干含む
19. 7.5Y3/1　黒褐　細砂　炭粒・焼土粒含む
20. 7.5Y3/2　黒褐　極細砂　壁が崩れている
21. 7.5Y2/2　黒褐　細砂　窯壁・炭粒・焼土粒含む

近代の遺構６（カマ１）

広根遺跡Ⅰ区

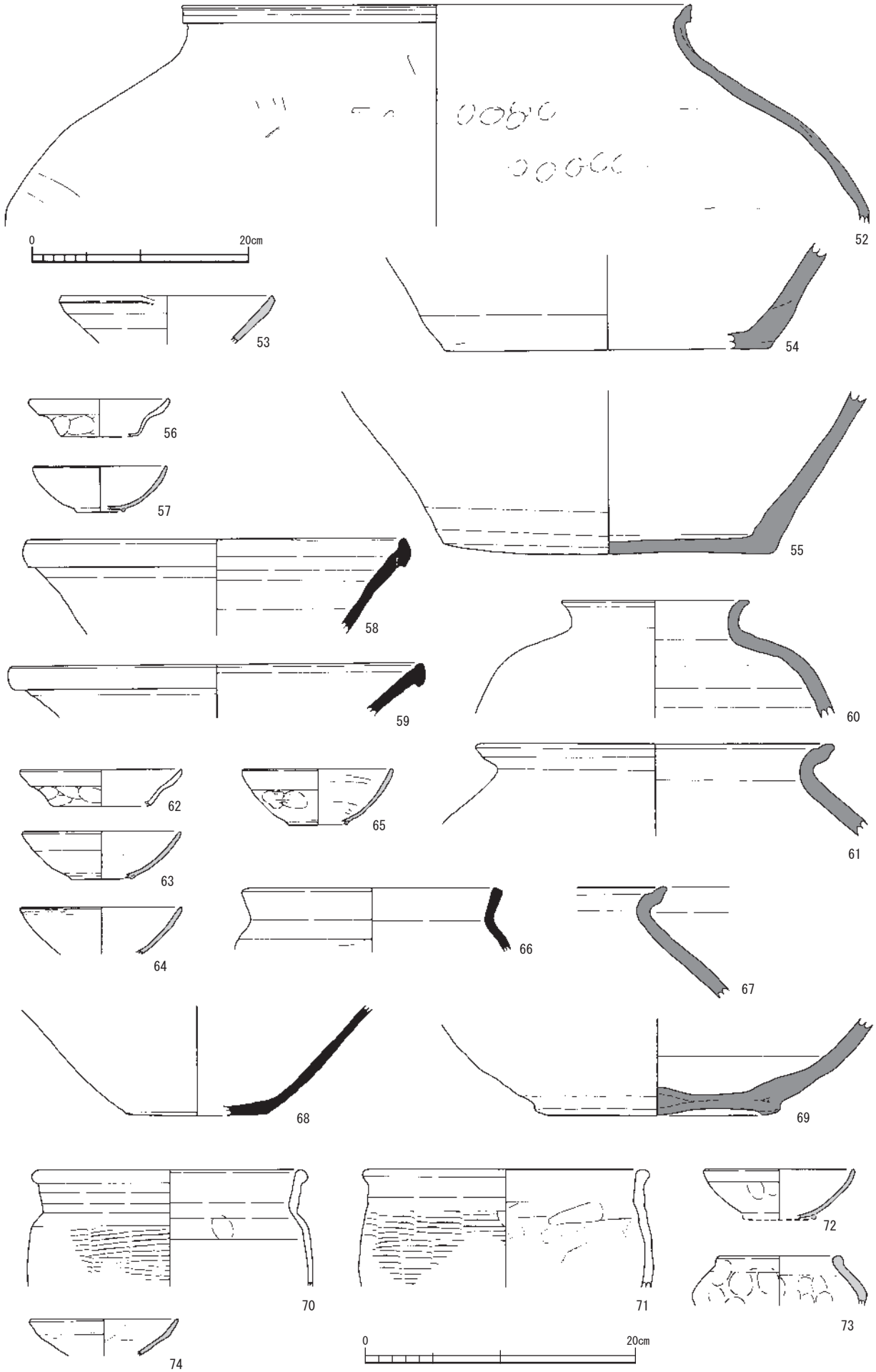


出土土器１（古代の土器）

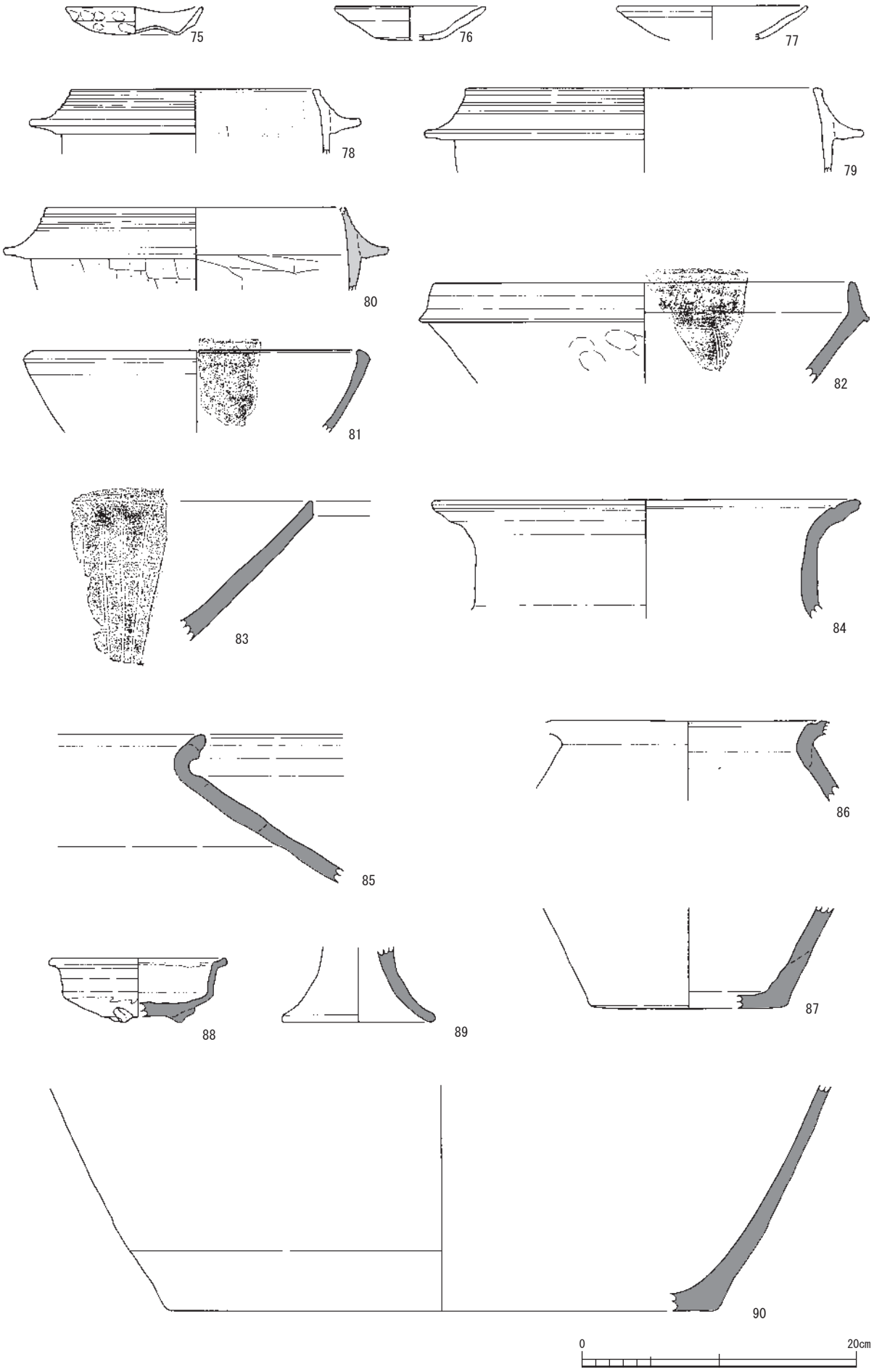


出土土器 2（中世の土器 1）

広根遺跡Ⅰ区

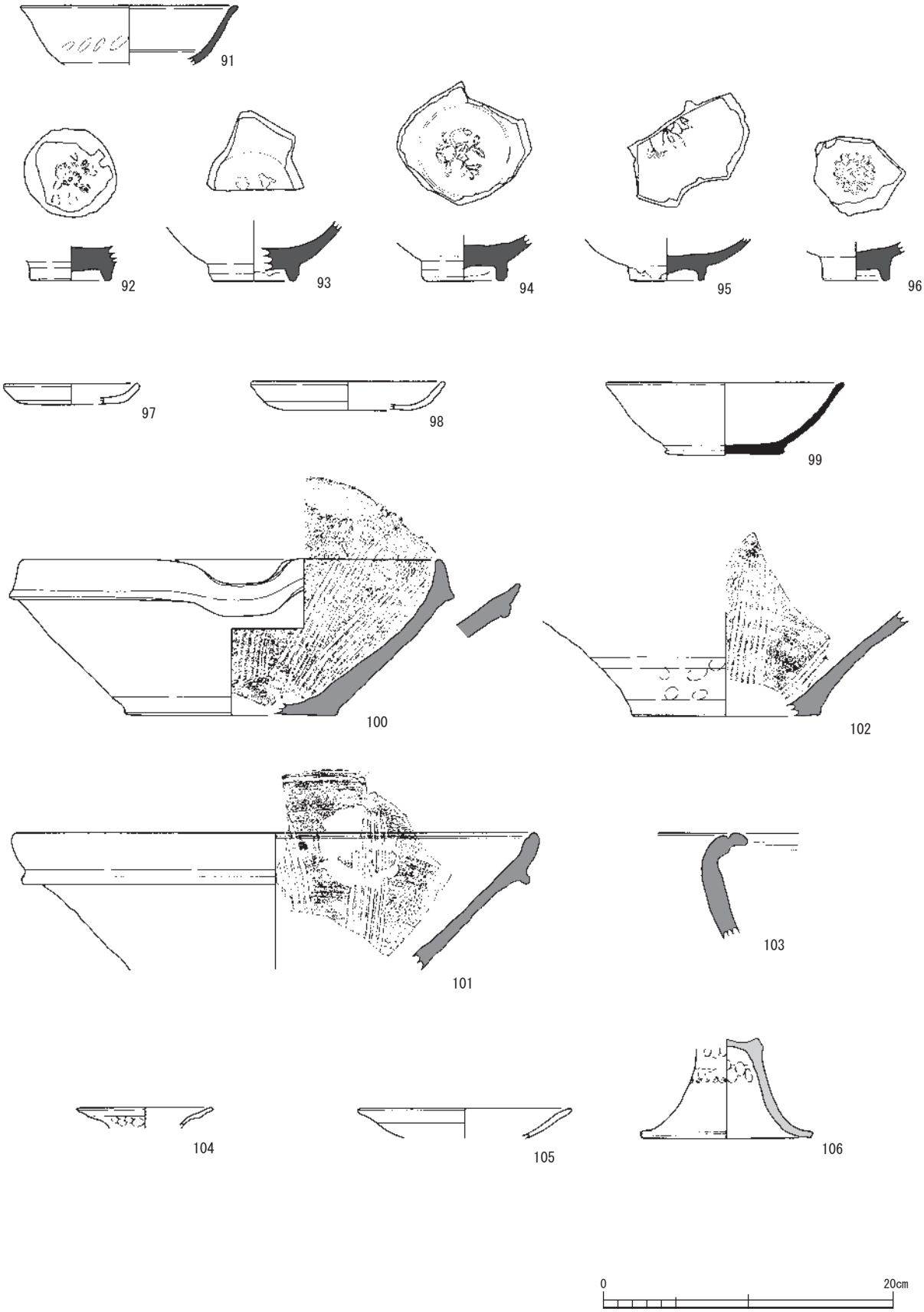


出土土器 3（中世の土器 2）

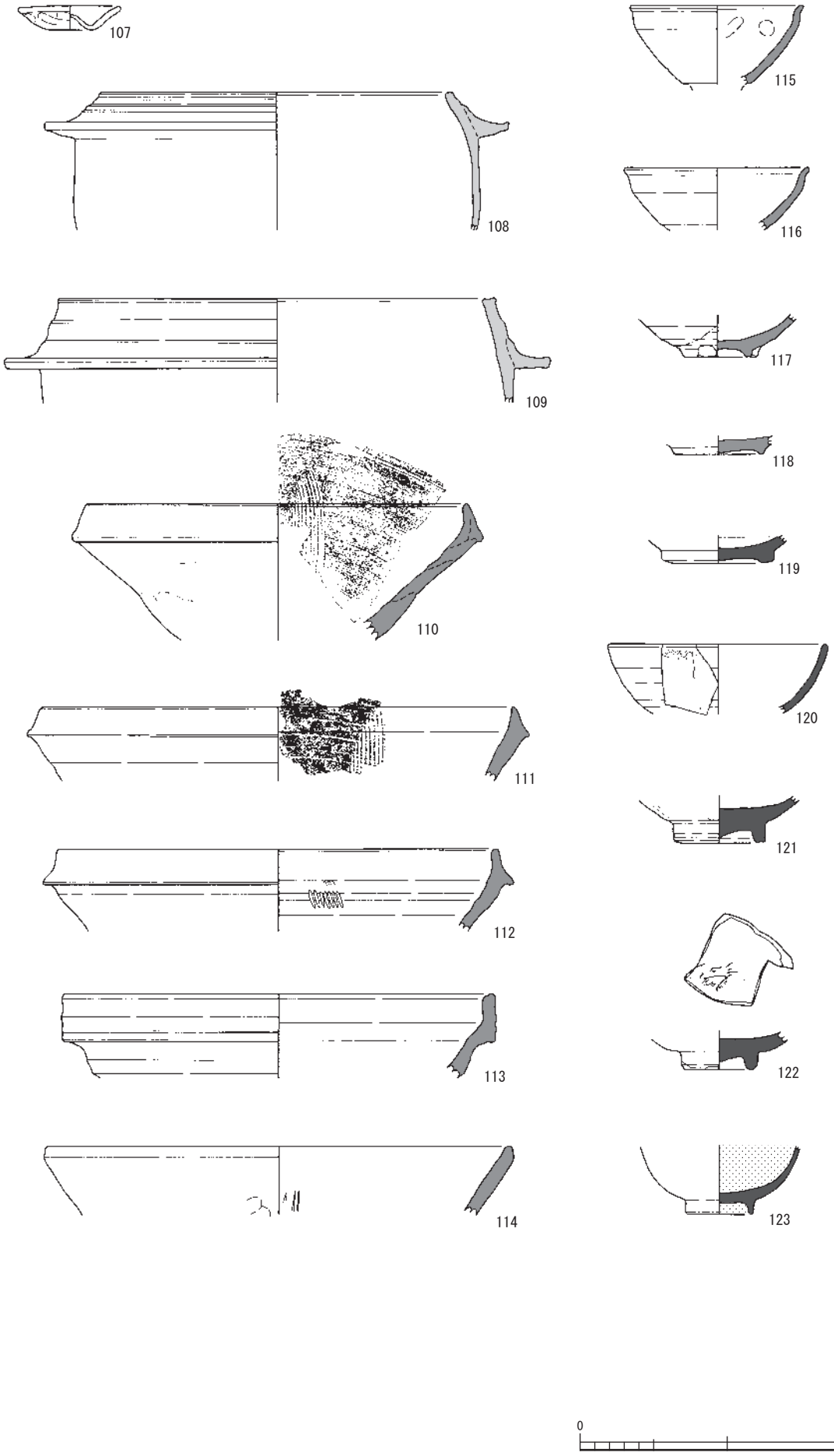


出土土器 4（中世の土器 3）

広根遺跡Ⅰ区

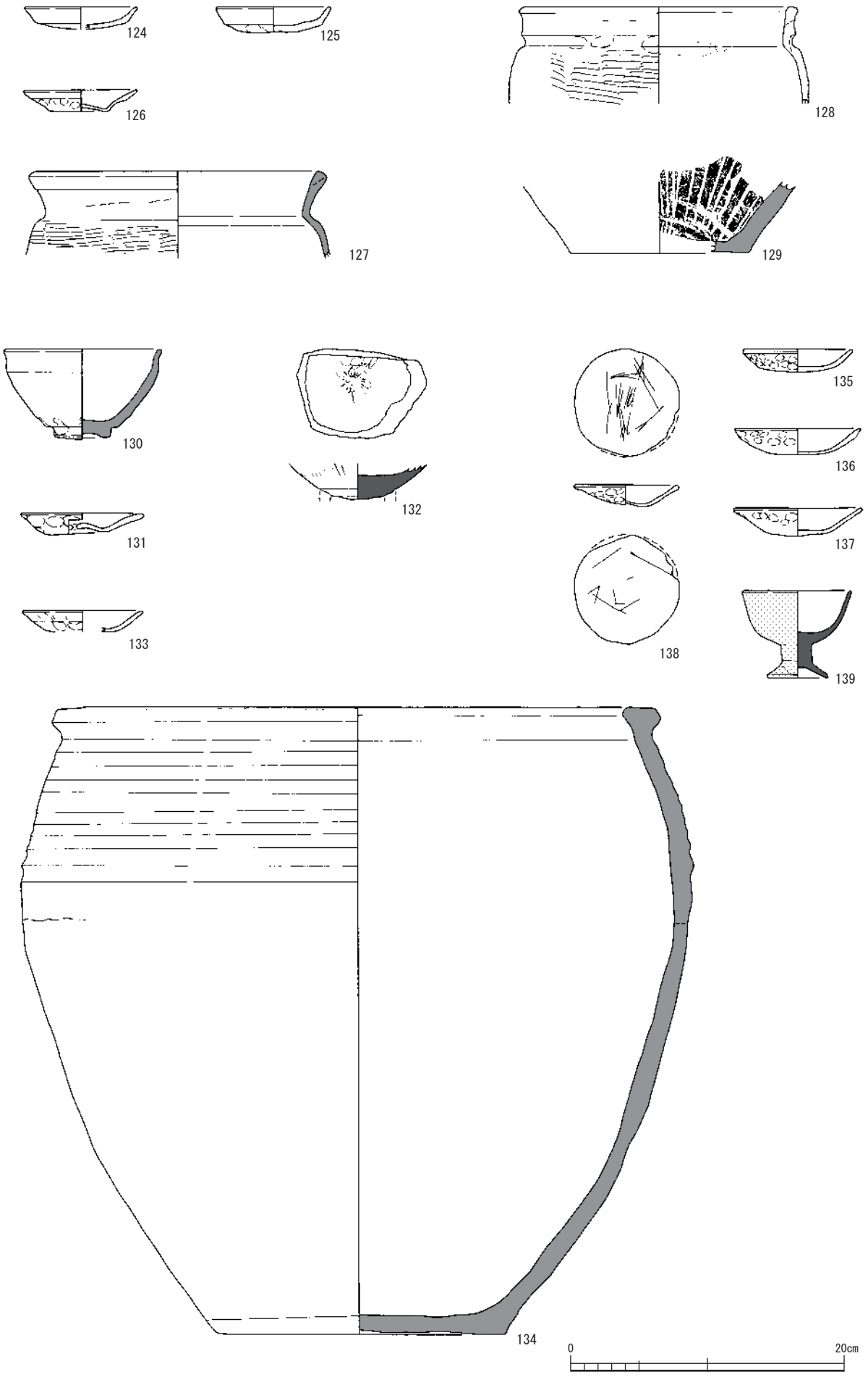


出土土器 5（中世の土器 4）

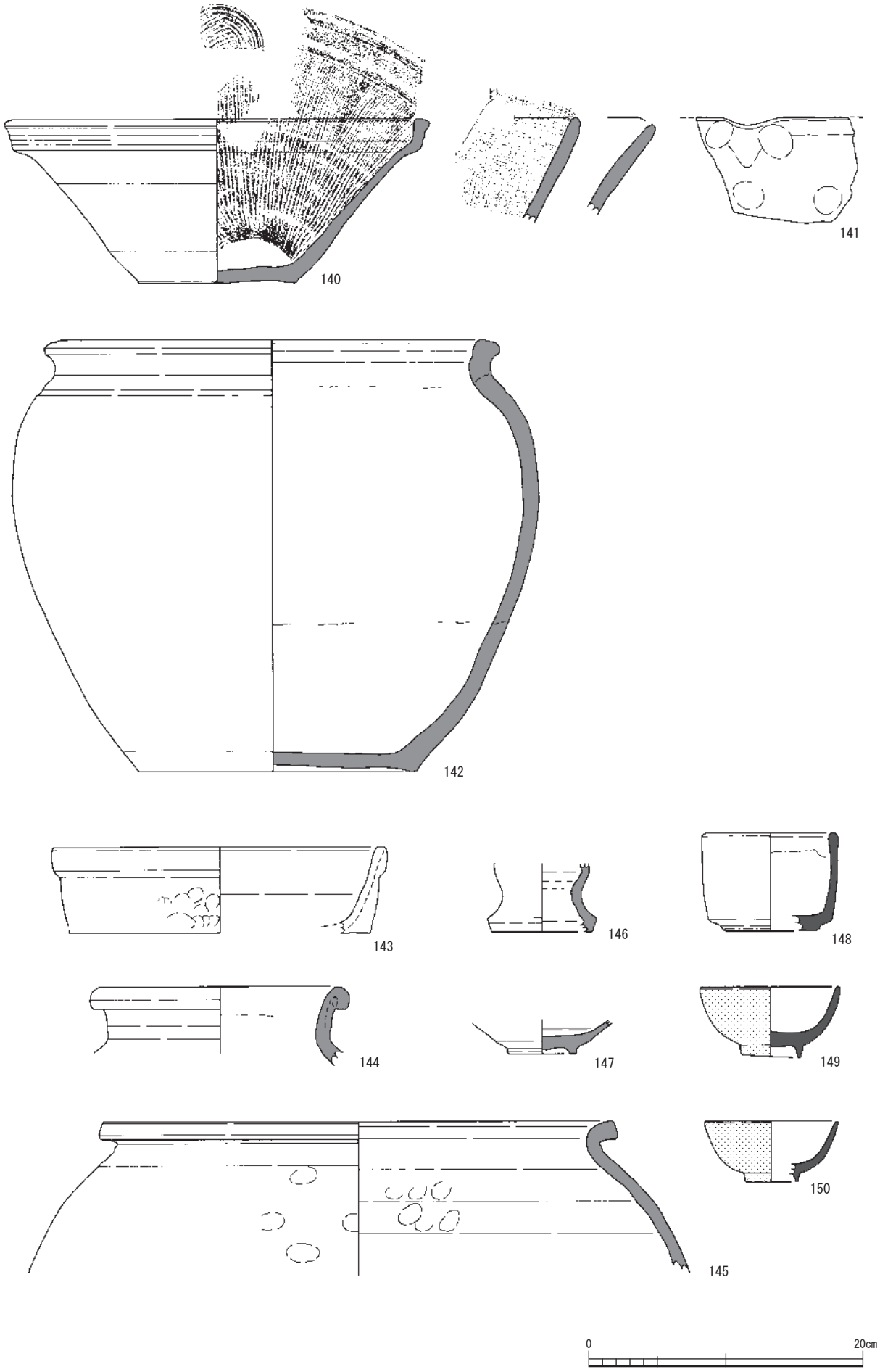


出土土器 6（中世の土器 5）

広根遺跡Ⅰ区

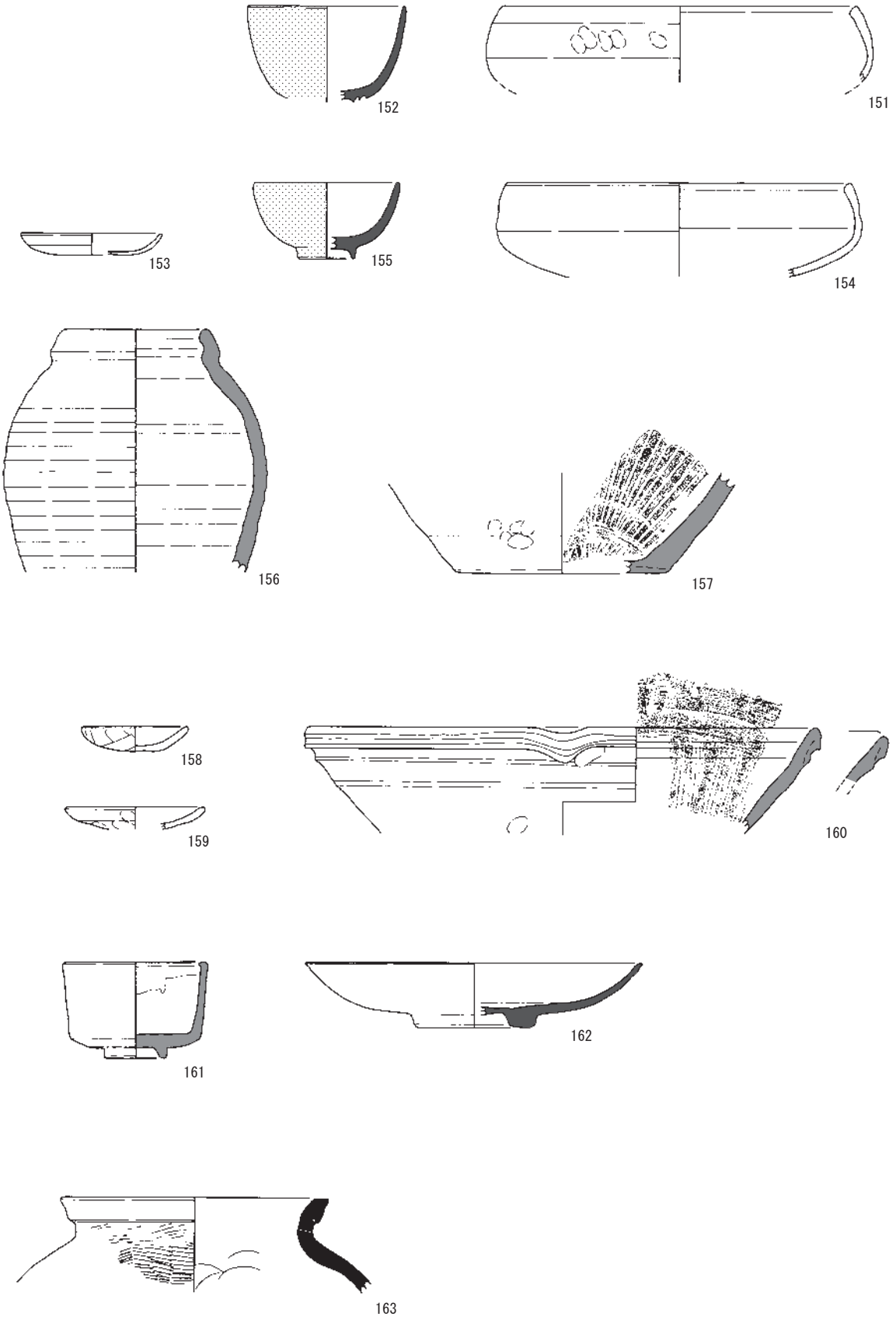


出土土器 7（中世の土器 6・近世の土器 1）

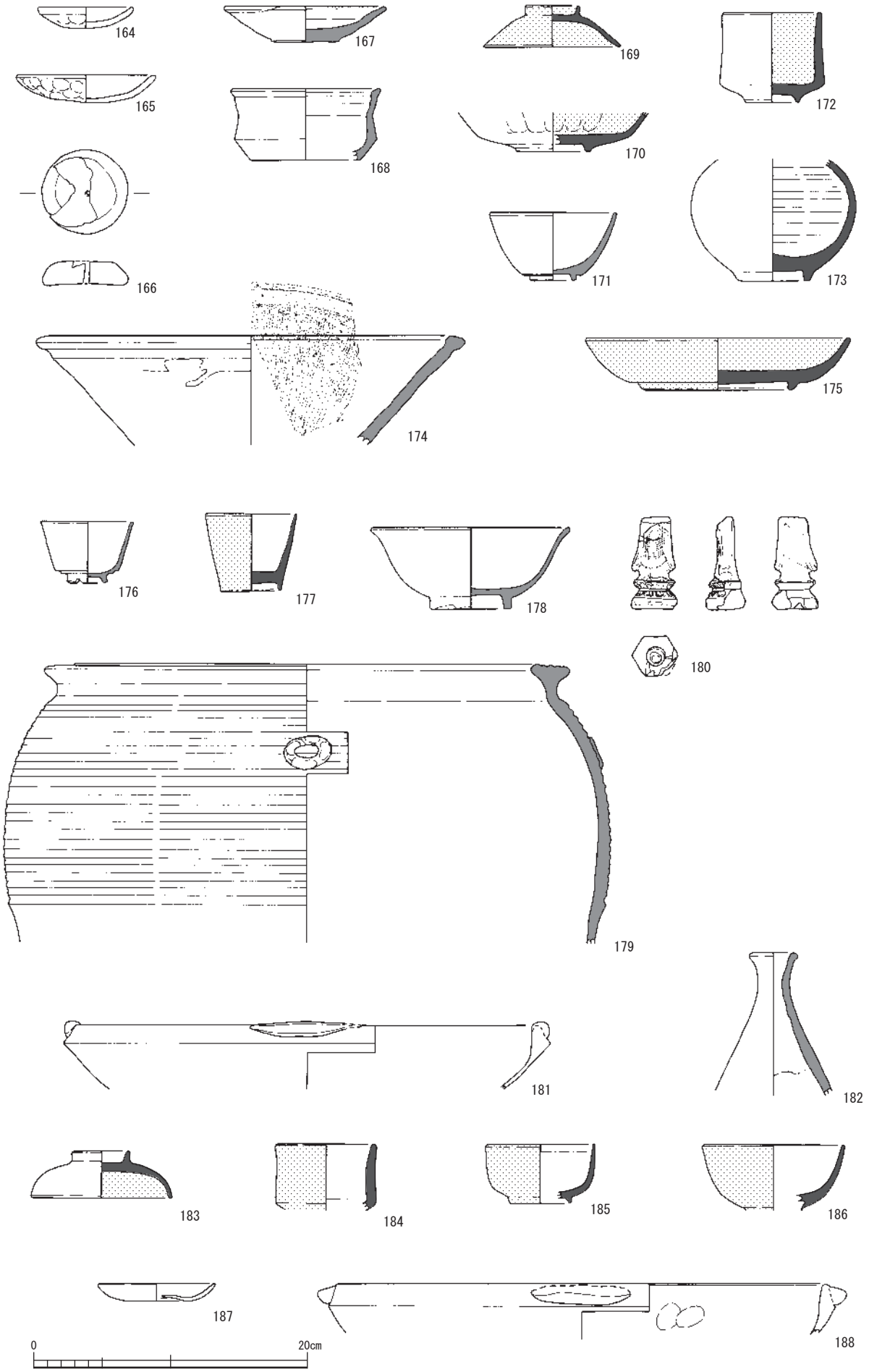


出土土器 8（近世の土器 2）

広根遺跡Ⅰ区

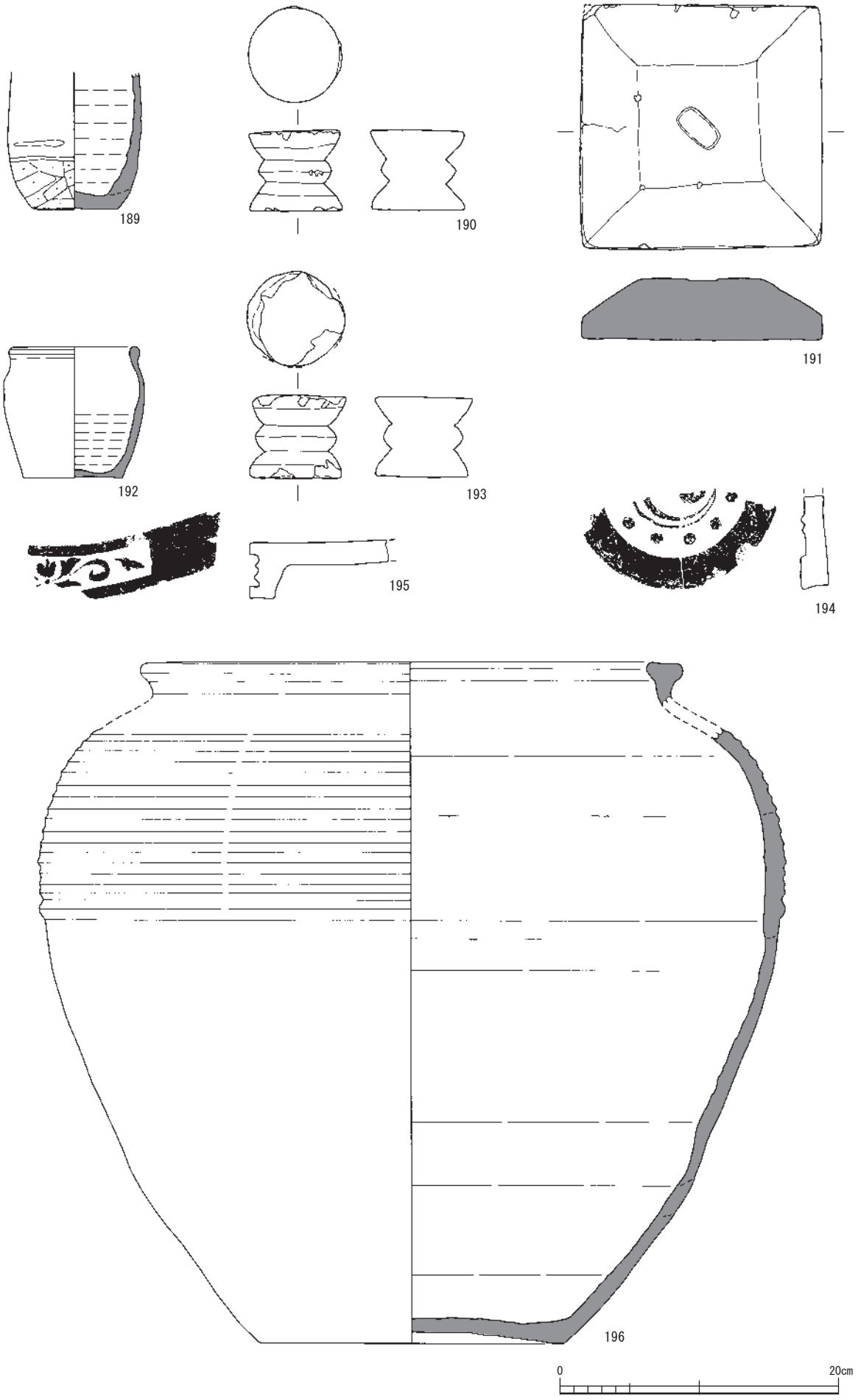


出土土器 9（近世の土器 3）

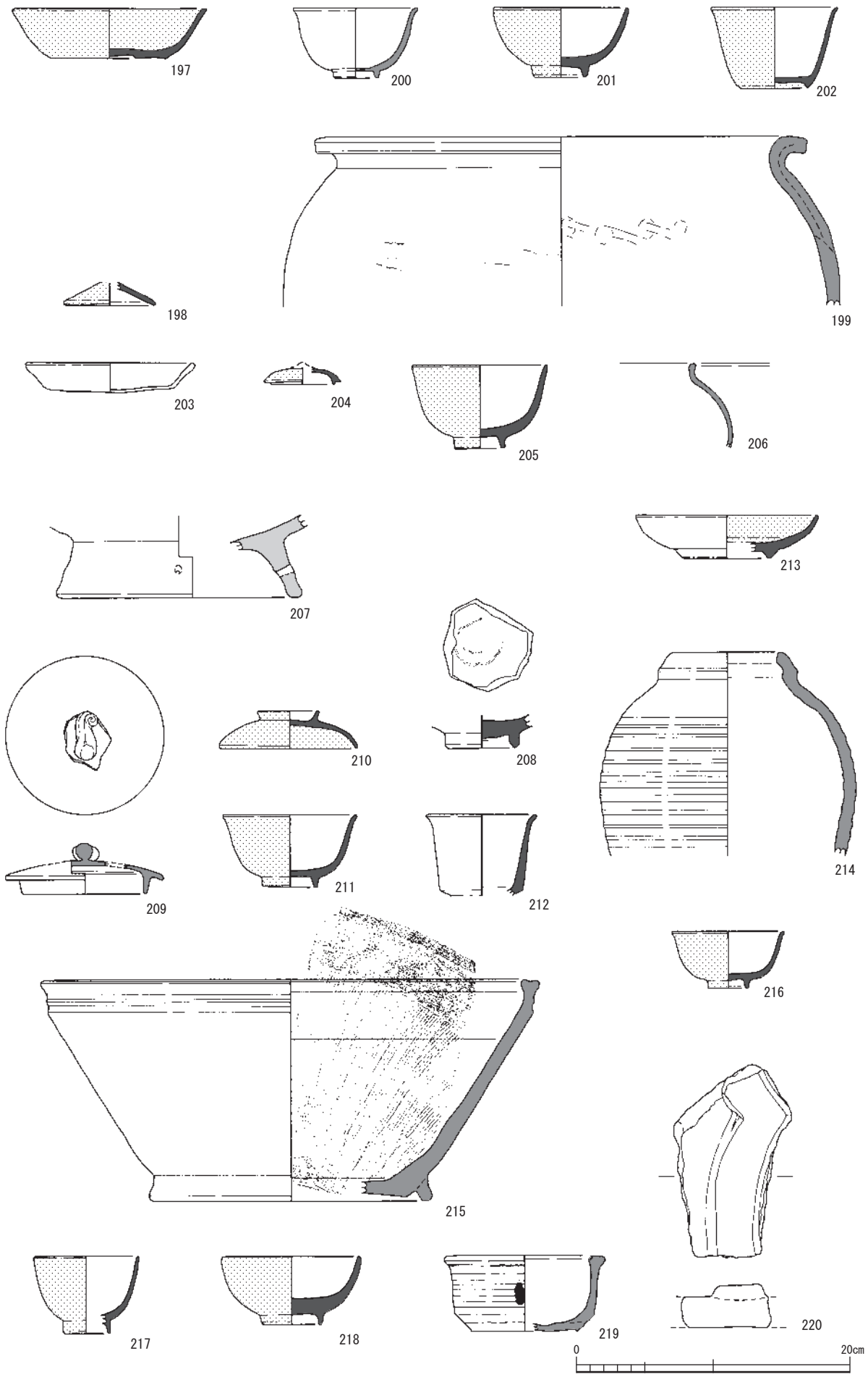


出土土器 10（近世の土器 4・近代の土器 1）

広根遺跡Ⅰ区

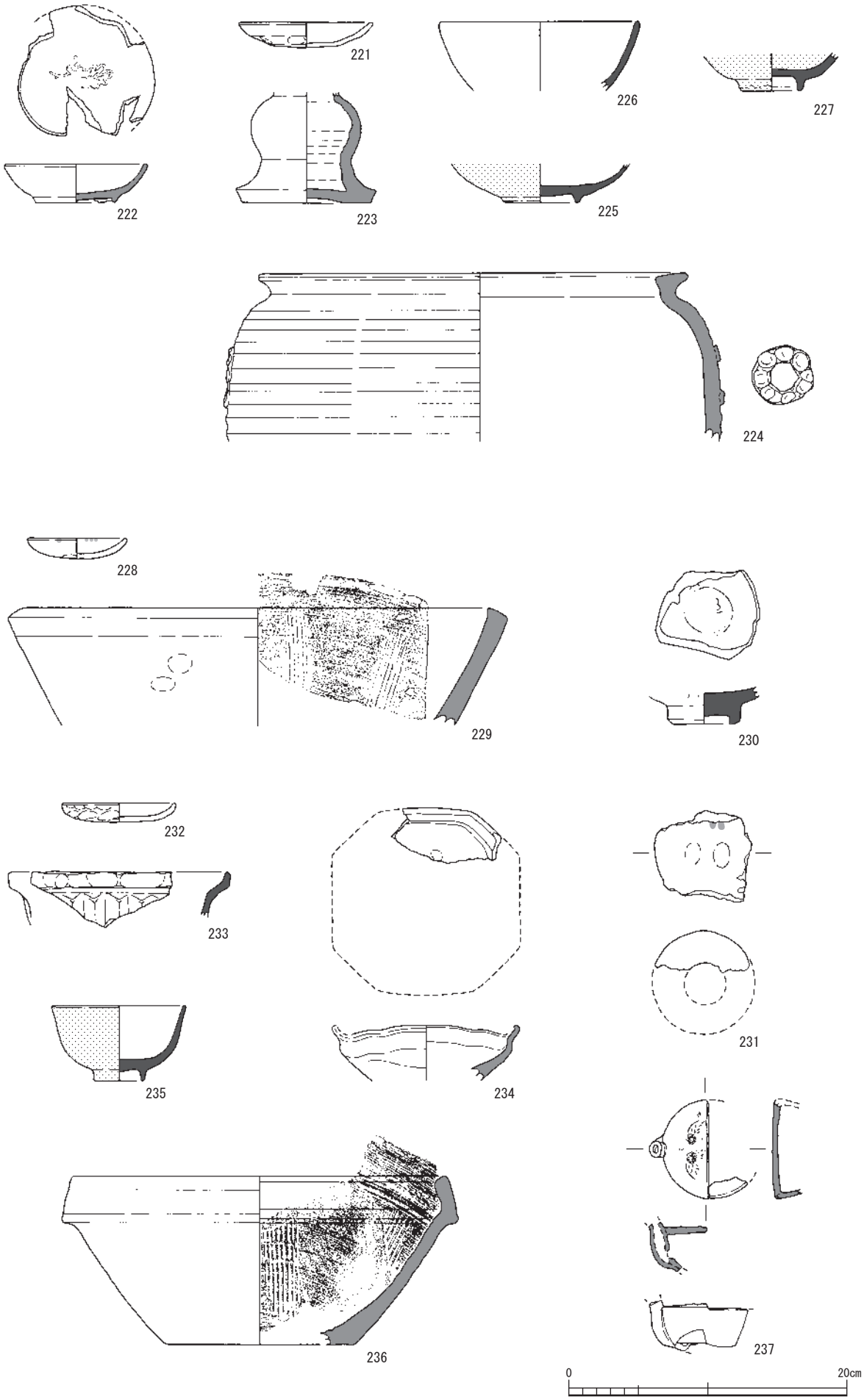


出土土器 11（近代の土器 2）

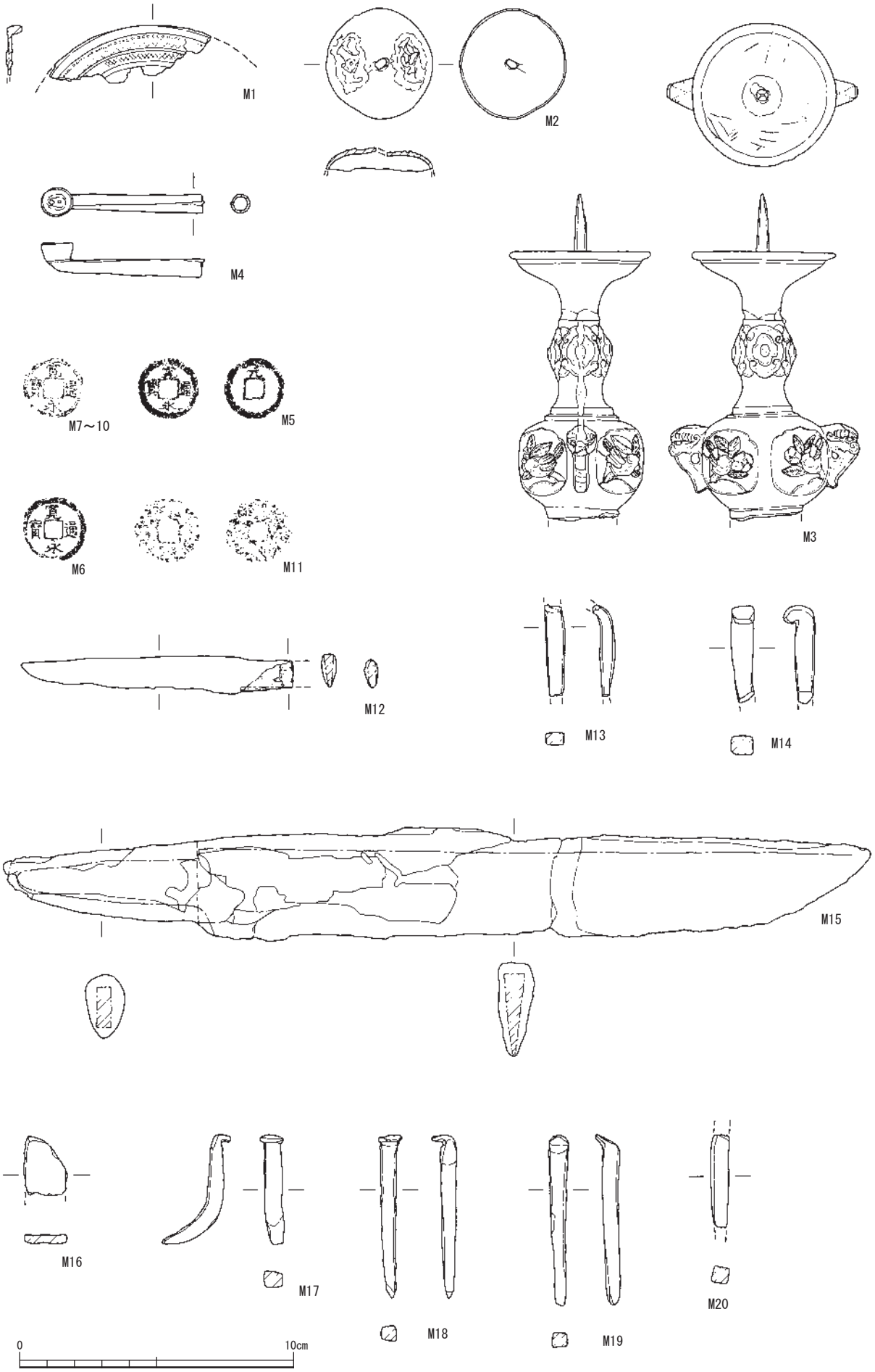


出土土器 12（近代の土器 3）

広根遺跡Ⅰ区

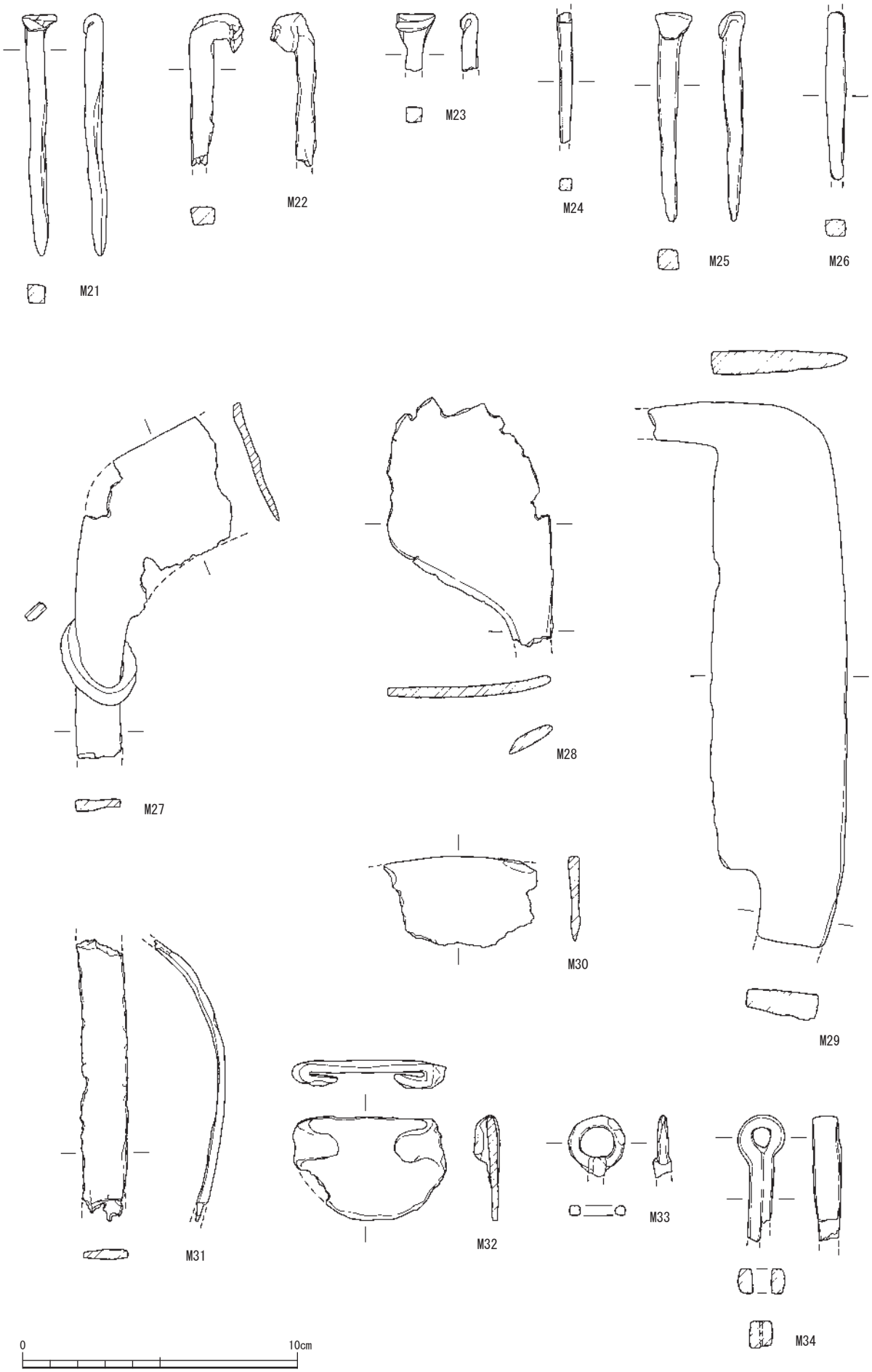


出土土器 13（各区の包含層）

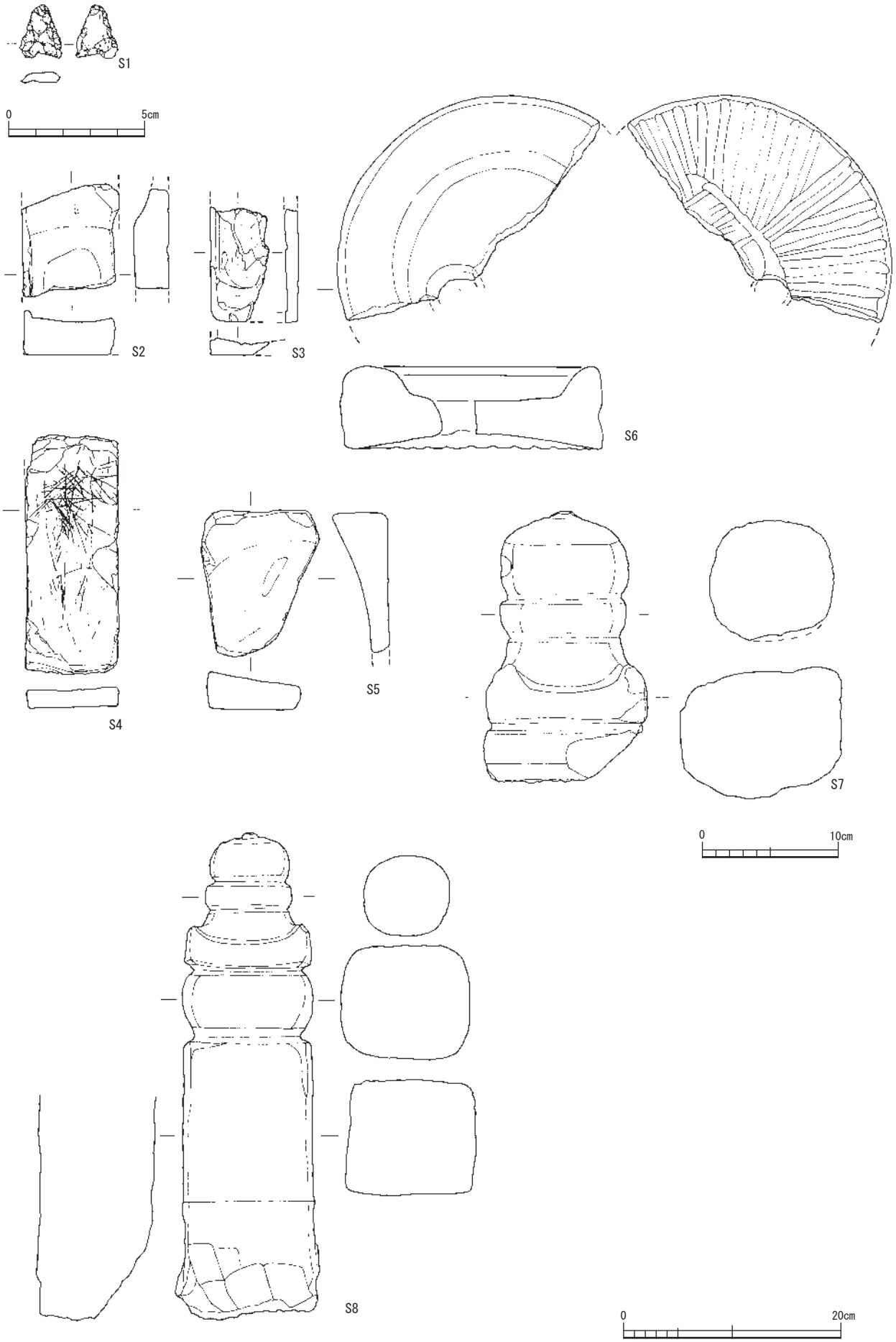

M1
M2
M3
M4
M5
M6
M7～10
M11
M12
M13
M14
M15
M16
M17
M18
M19
M20
0
10cm

出土金属製品 1

広根遺跡Ⅰ区

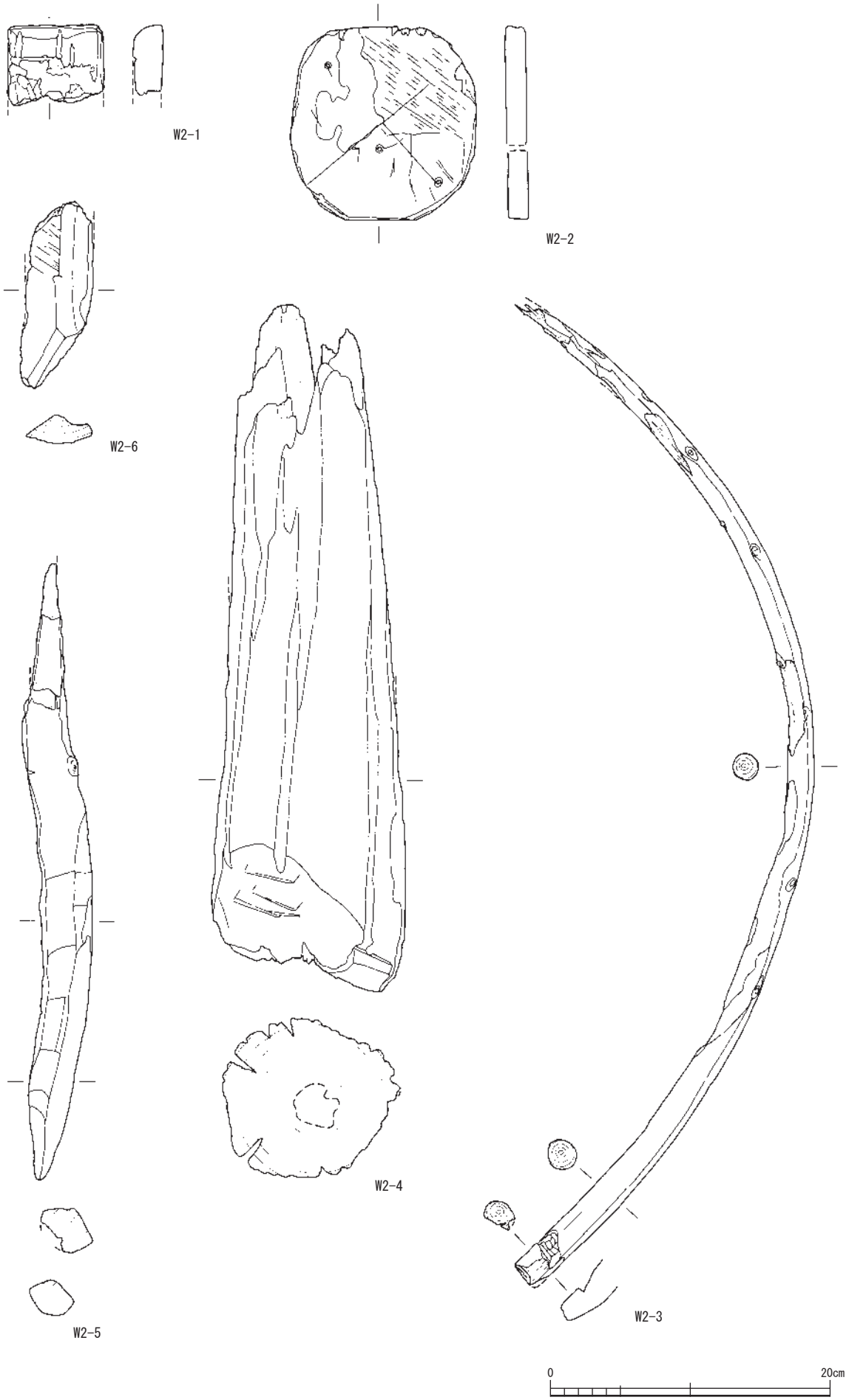


出土金属製品 2

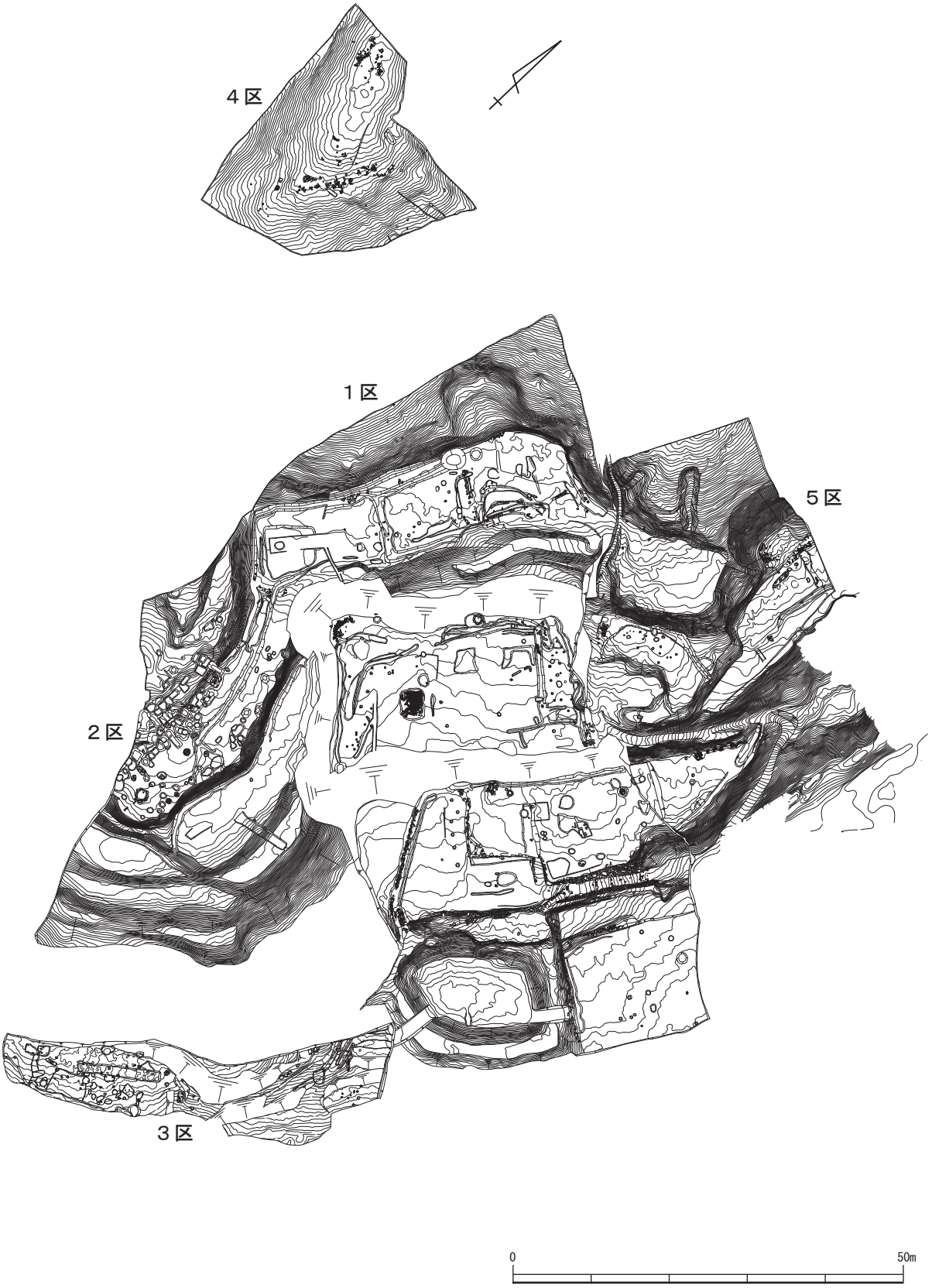


出土石製品

広根遺跡Ⅰ区

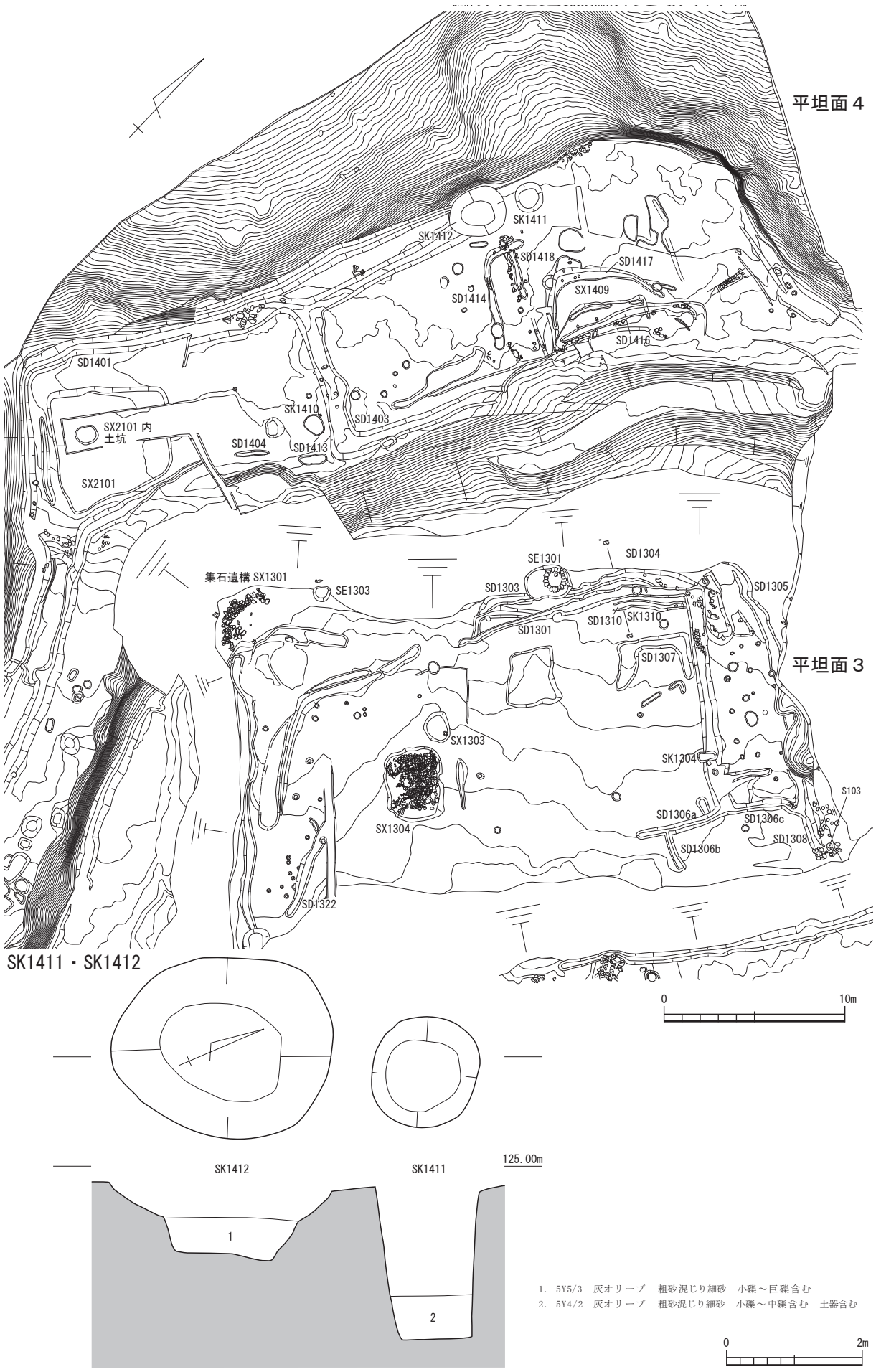


出土木製品

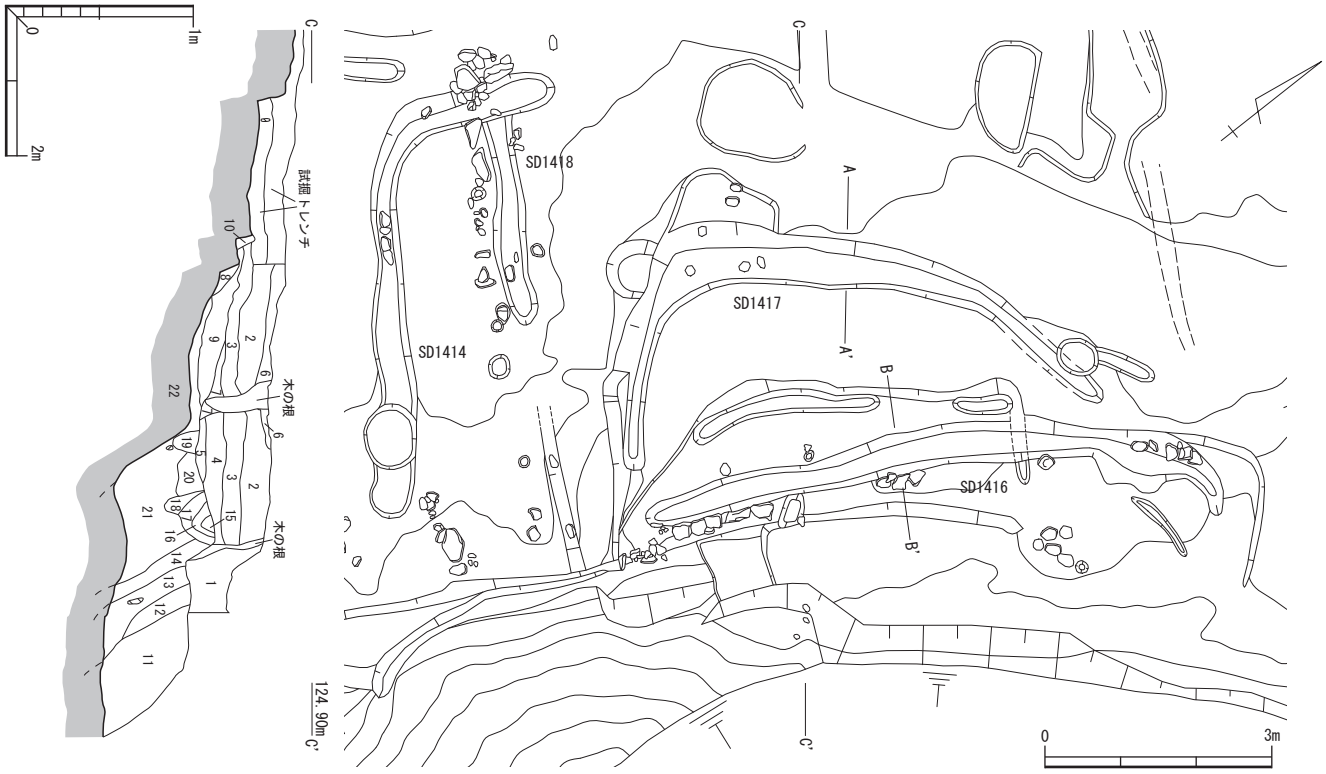


観音寺跡全体図

観音寺跡

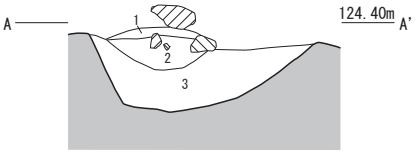


１区平坦面３・４



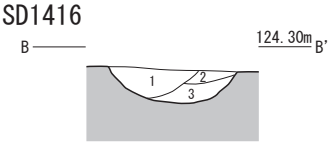
1. 2.5Y4/4　オリーブ褐　細砂　焼土粒・小礫含む
2. 2.5Y4/6　オリーブ褐　粗砂混じり細砂　中礫を含む
3. 2.5Y3/2　黒褐　シルト混じり細砂　炭・小礫含む
4. 2.5Y3/2　黒褐　シルト混じり細砂　炭・焼土粒・小礫含む　黒い層
5. 5Y4/1　灰　粗砂　炭・焼土粒・小礫～中礫を多く含む　少し黒い層
6. 5Y3/1　オリーブ黒　粗砂混じりシルト　粘質強い
7. 10YR4/3　にぶい黄褐　シルト
8. 5Y4/2　灰オリーブ　細砂　炭・焼土粒を多く含む
9. 2.5Y4/2　暗灰黄　シルト混じり細砂　炭・焼土粒を多く含む
10. 5Y4/2　灰オリーブ　細砂　炭・焼土粒を多く含む
11. 10YR5/6　黄褐　シルト混じり細砂　盛土
12. 7.5YR5/6　明褐　粗砂混じりシルト　汚れる
13. 10YR6/8　明黄褐　細砂混じりシルト
14. 7.5YR5/6　明褐～黄褐　細砂～粗砂混じりシルト　汚れる　～10YR5/6
15. 10YR4/6　褐　シルト混じり細砂～中砂　焼土・炭含む
16. 10YR6/6　明黄褐　シルト・中砂混じり極細砂　炭含む
17. 10YR5/6　黄褐　細砂～中砂に10YR4/6褐（焼土）含む　焼土・炭
18. 10YR6/6　明黄褐　シルト混じり中砂
19. 7.5YR5/4　にぶい褐　シルト若干含む粗砂
20. 10YR5/6　黄褐～明褐　シルト含む細砂　～7.5YR5/6
21. 10YR5/6　黄褐　シルト混じり中砂　よく汚れる　φ3　内外円礫含む
22. 10YR6/8　明黄褐　ベース　粗砂混じり粗砂～極細砂

SD1417

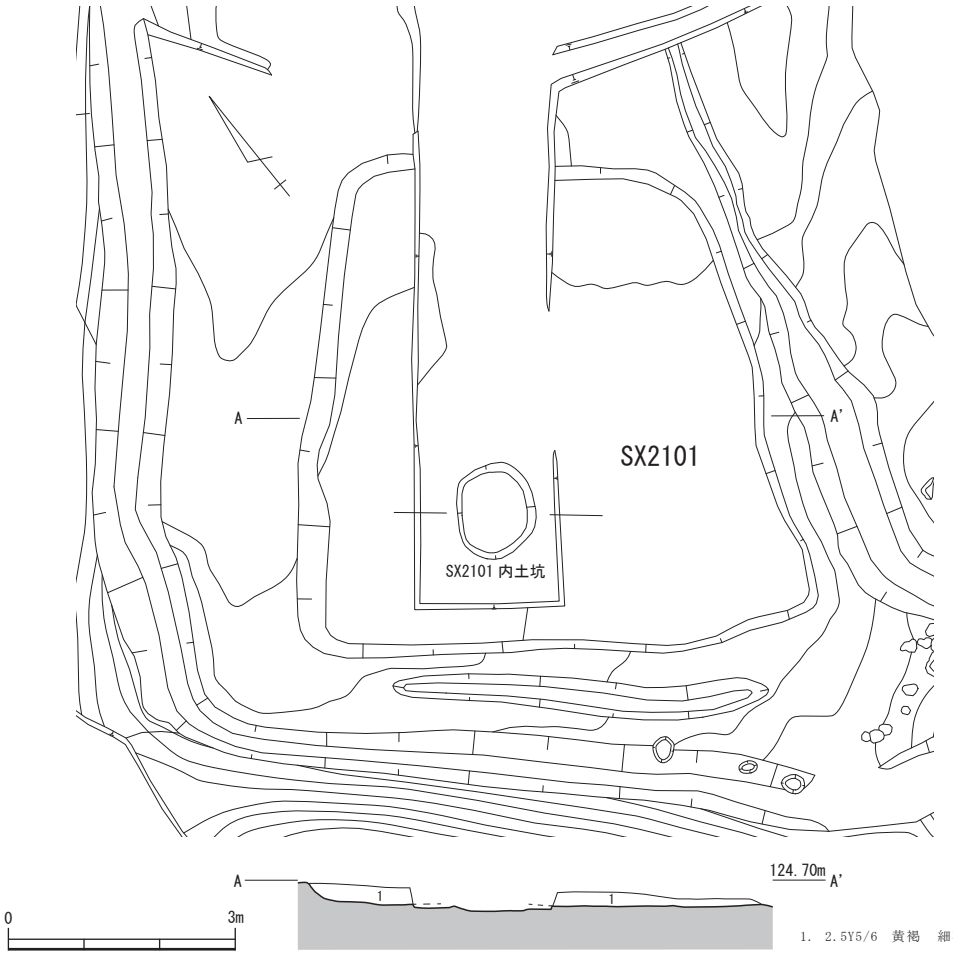


1. 2.5Y4/3　オリーブ褐　細砂　巨礫～中礫含む　溝埋土
2. 2.5Y4/2　暗灰黄　シルト混じり細砂　中礫～小礫含む　溝埋土
3. 2.5Y5/4　黄褐　粗砂混じり細砂　小礫含む　地山

SD1416

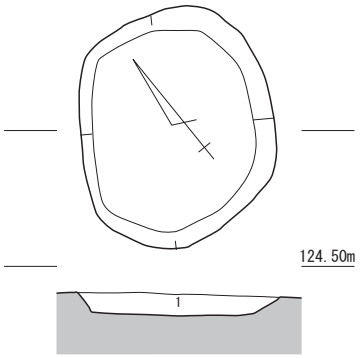


1. 7.5Y4/3　褐　粗砂混じり細砂　焼土
2. 2.5Y4/2　暗灰黄　粗砂混じり細砂
3. 2.5Y4/3　オリーブ褐　シルト



1. 2.5Y5/6　黄褐　細砂

SX2101 内土坑

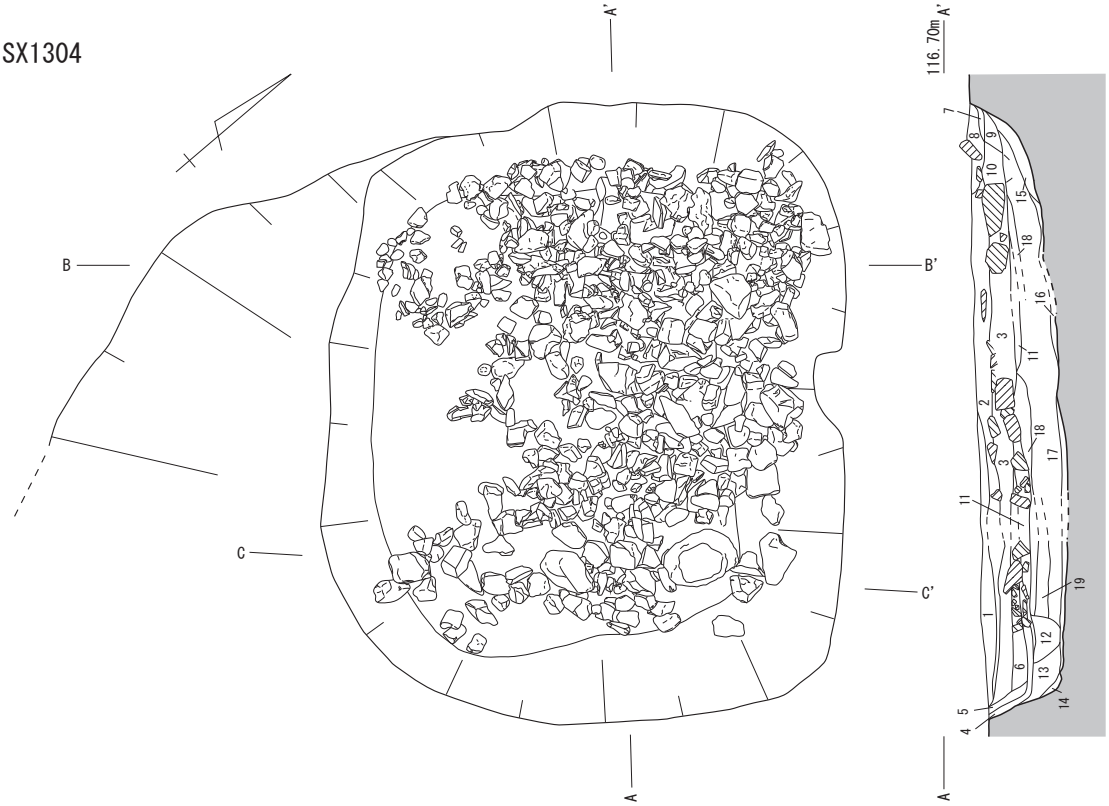


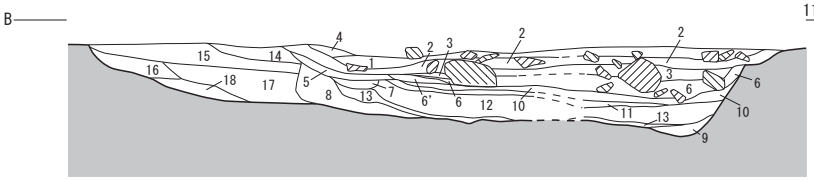
1. 2.5Y5/3　黄褐　細砂

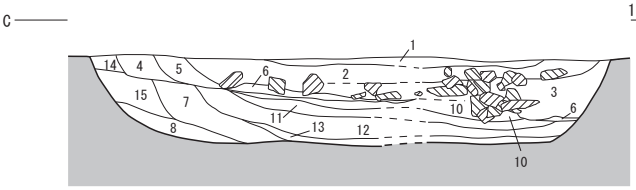
1区平坦面４・２区各遺構

観音寺跡

SX1304







0 2m

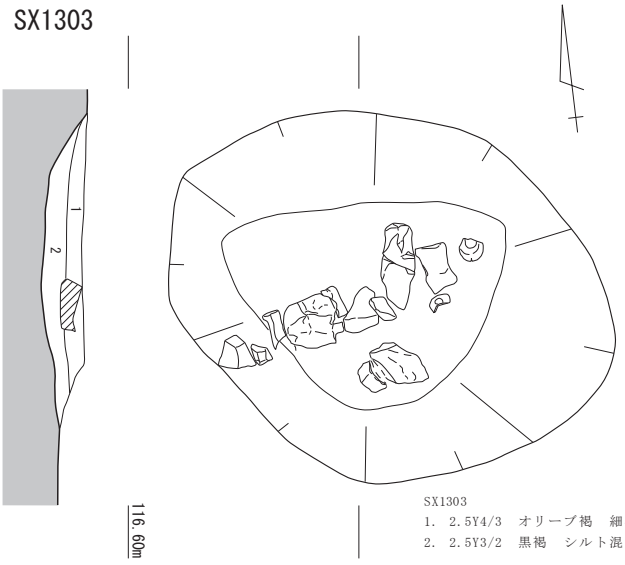
SX1304 南北セクション(A-A')

1. 7.5Y3/2 黒褐 粗砂混じり細砂 焼土・炭・多少含む
2. 2.5Y4/3 黄褐 細砂 炭粒多く含む 地山ブロック多少含む
3. 2.5Y5/2 暗灰黄 シルト混じり細砂 少量の炭含む 整地土層
4. 5YR3/2 暗赤褐 細砂 炭、焼土塊 中礫～巨礫含む 溶壁土多く含む
5. 2.5Y5/2 暗灰黄 シルト
6. 5YR3/3 暗赤褐 細砂 4層と同じ
7. 5Y4/2 灰オリーブ 粗砂混じり細砂 地山ブロック含む
8. 5Y4/4 暗オリーブ シルト
9. 2.5Y5/2 暗灰黄 シルト混じり細砂
10. 2.5Y4/3 黄褐 細砂 壁溝埋土
11. 2.5Y5/2 暗灰黄 シルト混じり細砂 土器含む 汚れている
12. 10YR5/3 にぶい黄褐 シルト
13. 10YR4/4 褐 シルト
14. 10YR3/1 黒褐 シルト混じり細砂
15. 10YR5/3 にぶい黄褐 シルト
16. 2.5Y2/1 黒 シルト 若干炭粒含む
17. 2.5Y5/1 黄灰 細砂 中礫含む 2.5Y4/4オリーブ褐ブロック含む
18. 2.5Y5/2 暗灰黄 細砂
19. 2.5Y4/6 オリーブ褐 シルト混じり細砂

SX1304 東西セクション (B－B'、C-C')

1. 7.5Y3/2 黒褐 粗砂混じり細砂 焼土・炭・多少含む
2. 2.5Y4/3 黄褐 細砂 炭粒多く含む 地山ブロック多少含む
3. 2.5Y6/4 にぶい黄 シルト質細砂 整地土
4. 2.5Y5/3 黄褐 シルト質細砂
5. 2.5Y4/2 暗灰黄 シルト質細砂 壁溝
6. 2.5Y6/3 にぶい黄 シルト質細砂 整地土ブロック若干含む
6'. 2.5Y6/3 にぶい黄 シルト細砂 この層はB－B'のみ
7. 10YR5/3 にぶい黄褐 シルト混じり細砂
8. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐 細砂 小礫含む
9. 2.5Y3/2 黒褐 細砂 小礫含む この層はB－B'のみ
10. 2.5Y4/6 オリーブ褐 シルト混じり細砂
11. 2.5Y5/2 暗灰黄 細砂
12. 2.5Y5/1 黄灰 シルト 中礫含む 2.5Y4/4オリーブ褐シルトブロック含む
13. 2.5Y2/1 黒 シルト 若干炭粒含む
14. 2.5Y5/2 暗灰黄 細砂
15. 2.5Y4/1 黄灰 細砂 小礫多く混じる 炭粒含む
16. 2.5Y4/3 オリーブ褐 細砂
17. 2.5Y4/2 暗灰黄 細砂 小礫～中礫 炭粒少量含む
18. 2.5Y4/4 オリーブ褐 シルト

SX1303

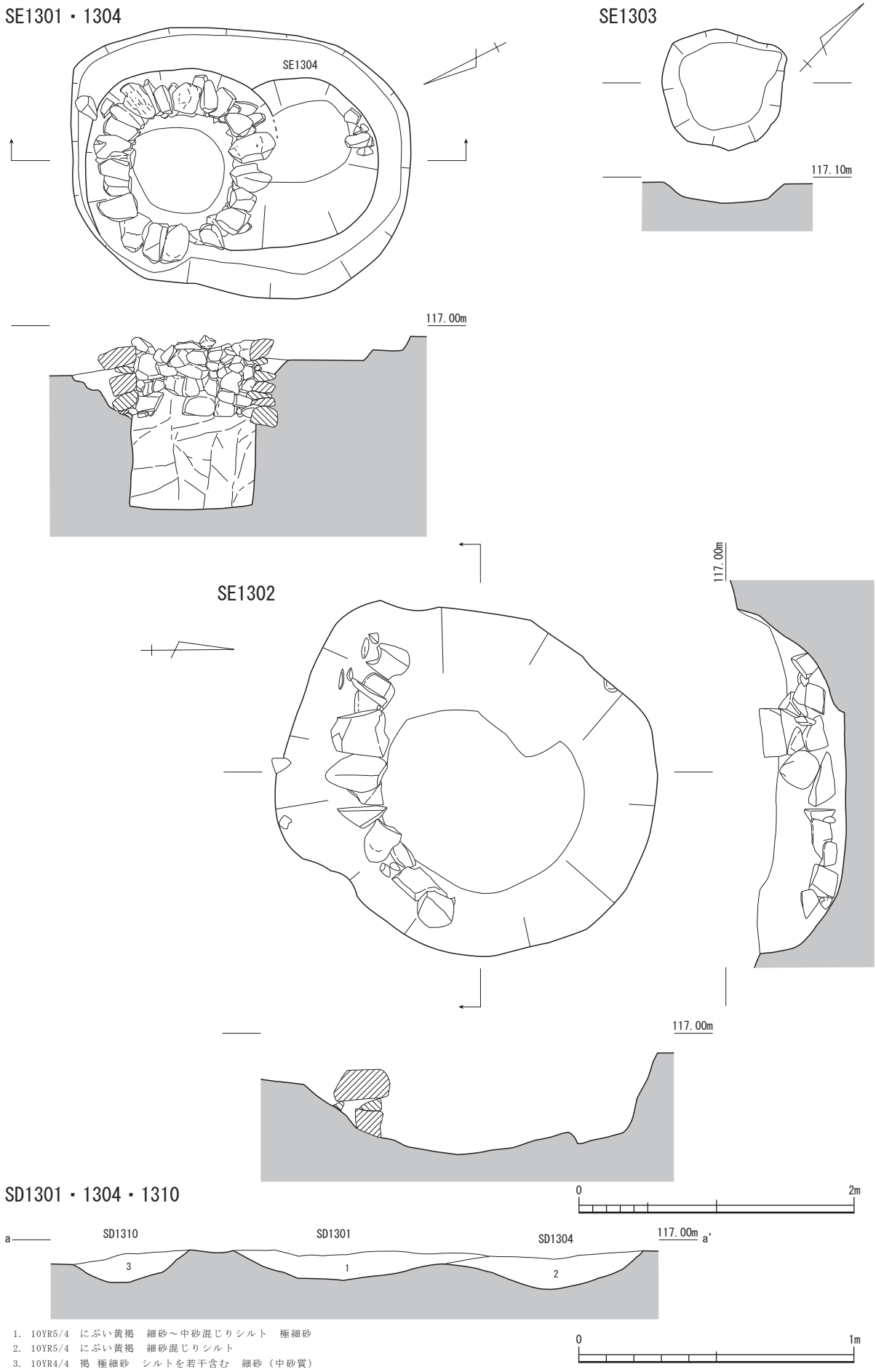


SX1303

1. 2.5Y4/3 オリーブ褐 細砂 炭、焼土粒、小礫～巨礫含む
2. 2.5Y3/2 黒褐 シルト混じり細砂 炭、焼土粒、小礫～中礫含む

0 1m

1区平坦面3集石土坑

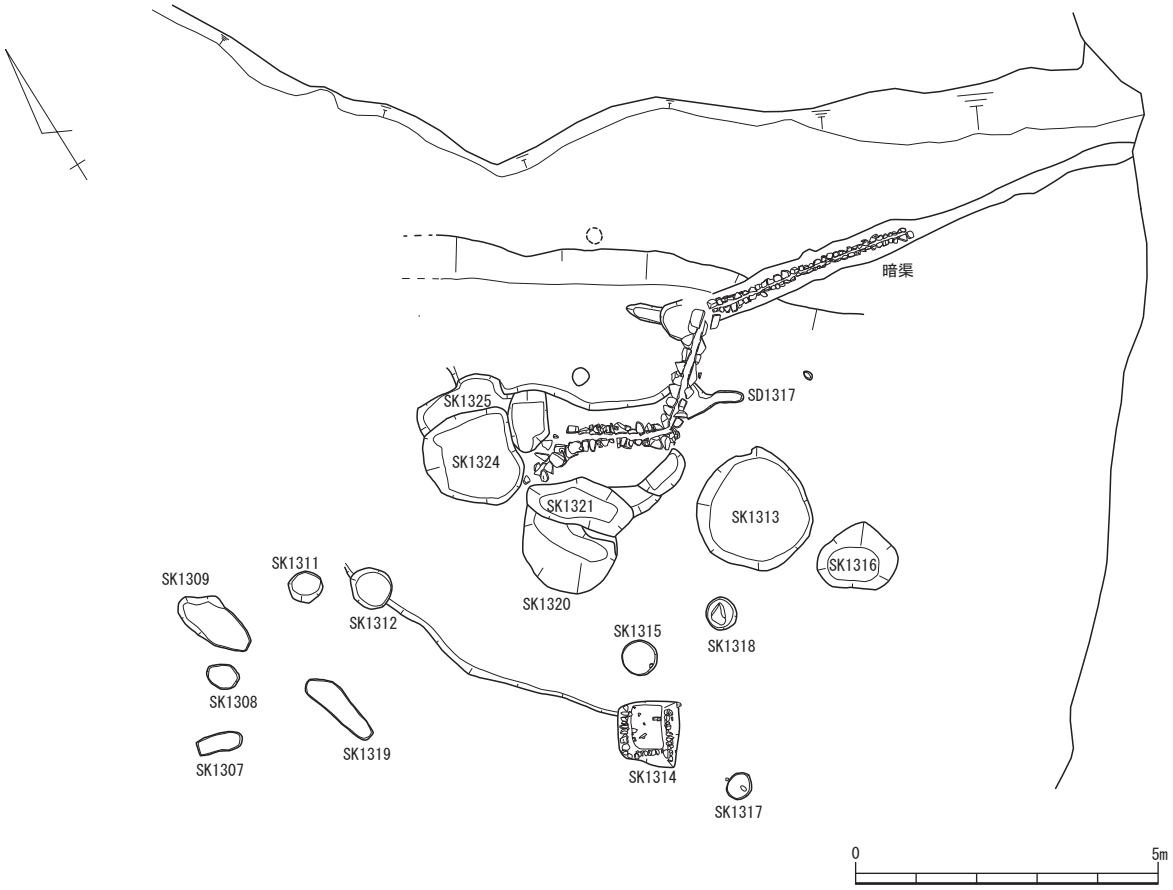


1. 10YR5/4 にぶい黄褐 細砂～中砂混じりシルト 極細砂
2. 10YR5/4 にぶい黄褐 細砂混じりシルト
3. 10YR4/4 褐 極細砂 シルトを若干含む 細砂（中砂質）

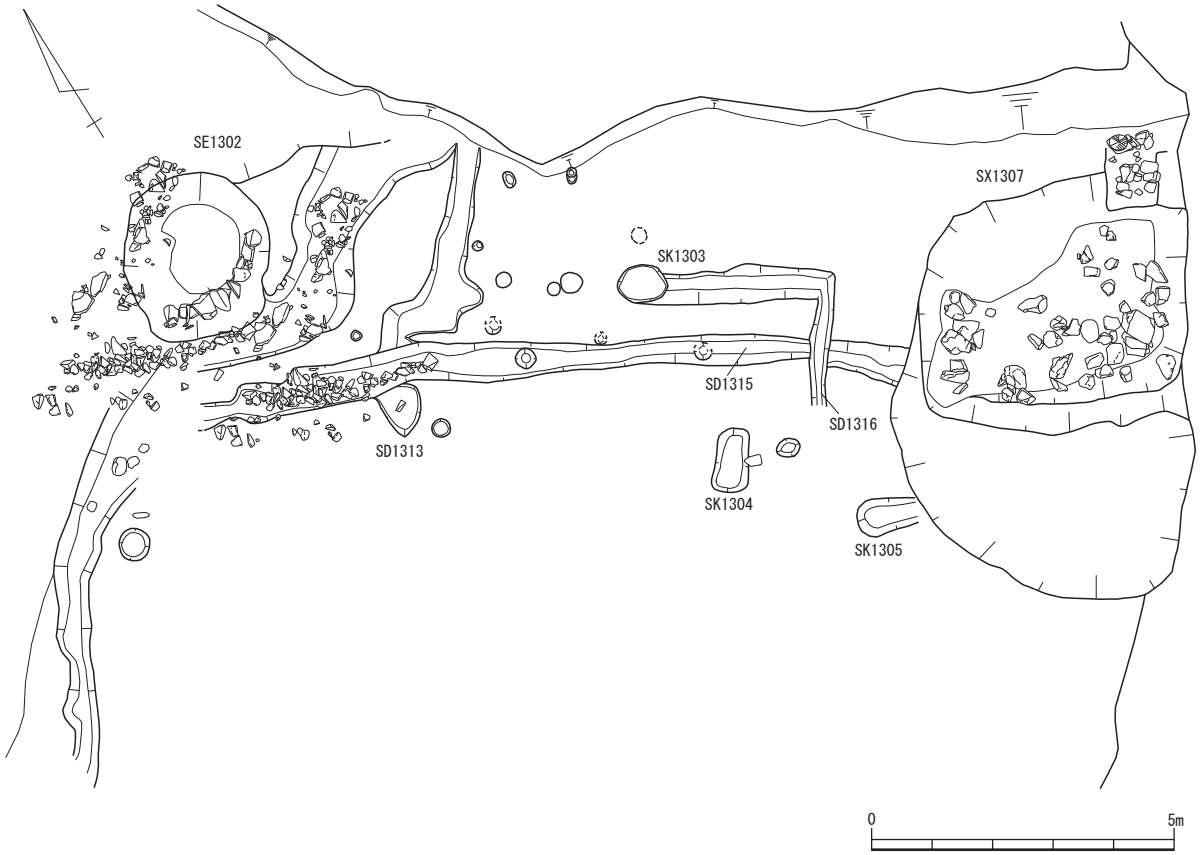
1区平坦面3井戸・水溜遺構・溝

観音寺跡

下層の遺構



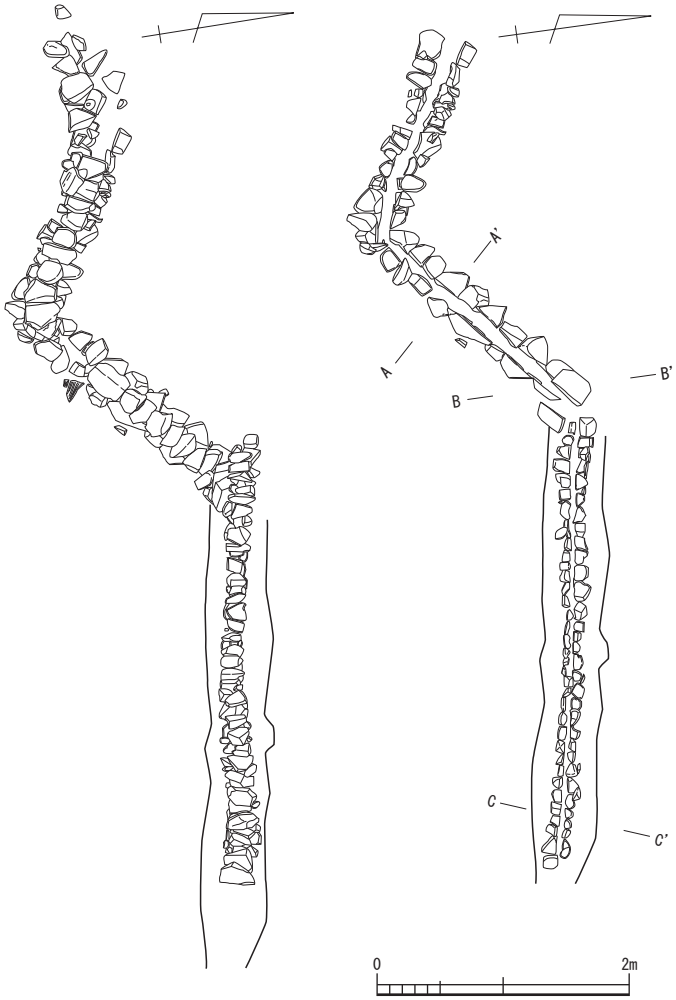
中層の遺構

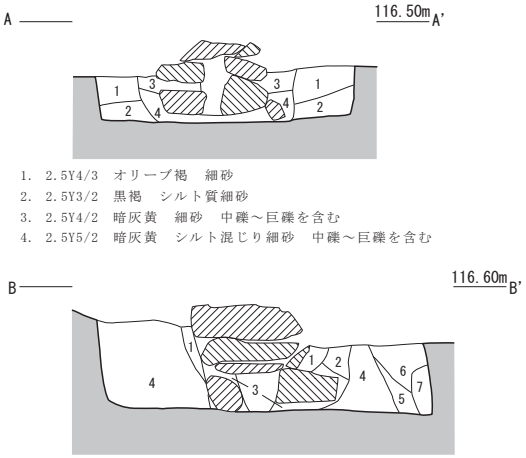


１区平坦面３東半・中層・下層の遺構

暗渠　蓋あり

蓋除去後



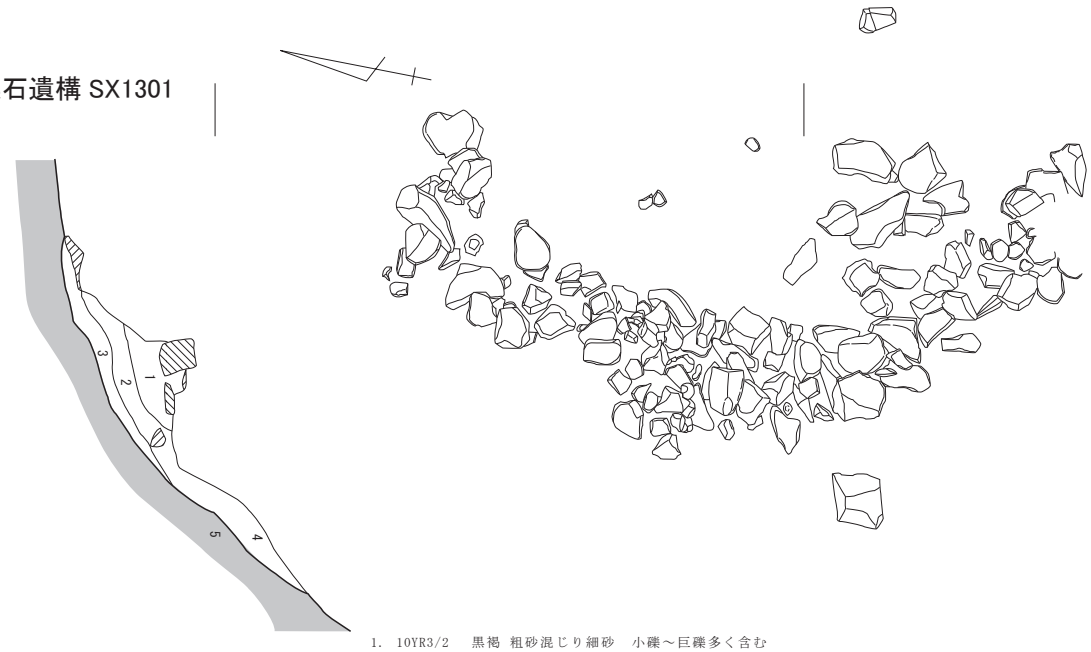


1. 2.5Y4/3　オリーブ褐　細砂
2. 2.5Y3/2　黒褐　シルト質細砂
3. 2.5Y4/2　暗灰黄　細砂　中礫～巨礫を含む
4. 2.5Y5/2　暗灰黄　シルト混じり細砂　中礫～巨礫を含む

1. 2.5Y4/2　暗灰黄　細砂
2. 2.5Y4/3　オリーブ褐　シルト混じり細砂
3. 2.5Y3/2　黒褐　細砂　小礫～巨礫を含む
4. 2.5Y5/3　黄褐　細砂
5. 10YR4/3　にぶい黄褐　炭粒混じりシルト
6. 10YR5/3　にぶい黄褐　シルト混じり細砂　粘土ブロック含む
7. 10YR4/1　褐灰　シルト混じり細砂

1. 10YR6/6　明黄褐　粘土細砂混じり礫　粘土分多し　人為的埋土
2. 10YR6/6　明黄褐　粘土混じり礫
φ2～3mm角礫で構成　φ3cm内外円礫含む　人為的埋土
3. 10YR5/6　黄褐　礫混じり粘土　人為的埋土
4. 7.5YR6/8　明黄褐　砂岩層　地山

集石遺構 SX1301

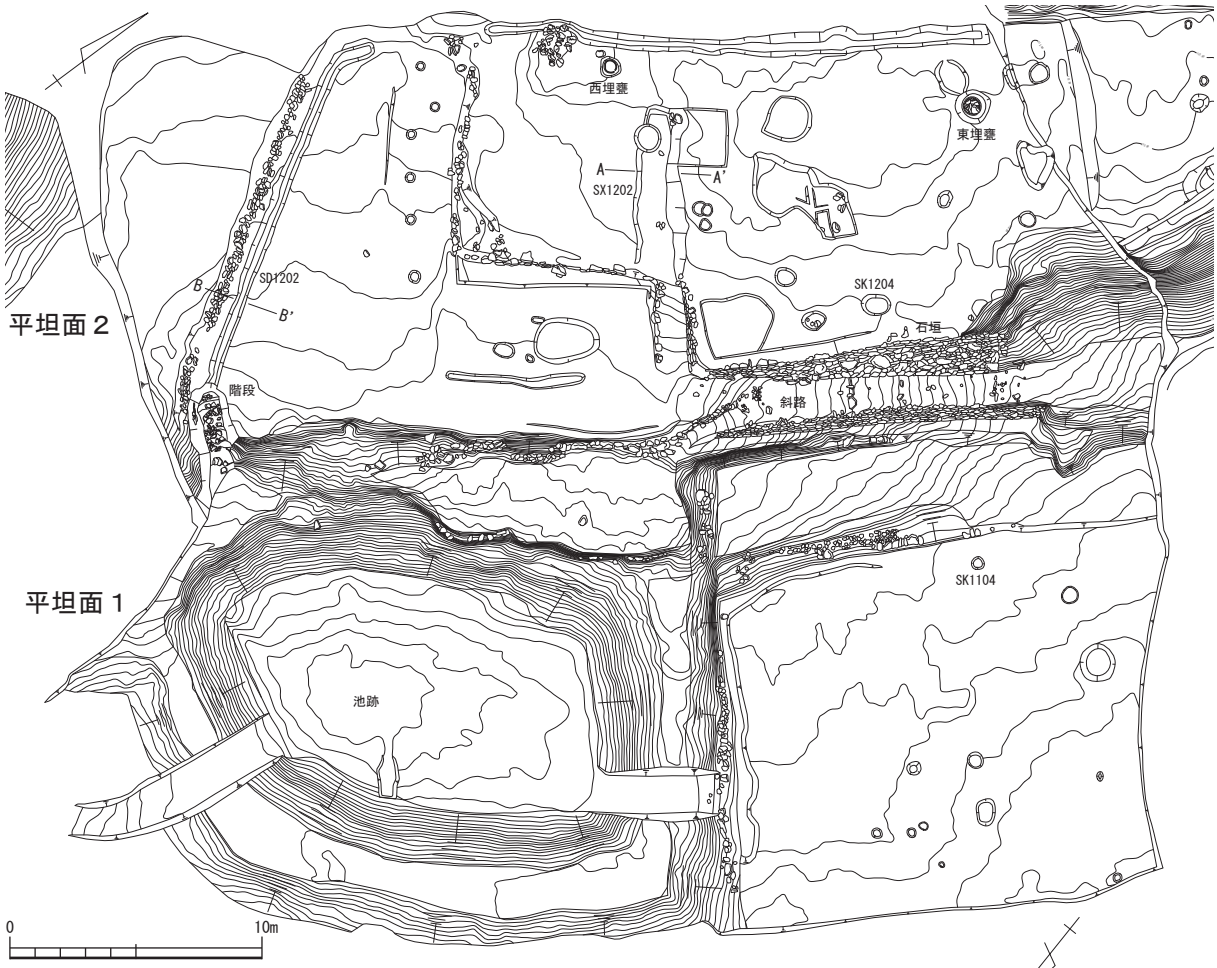


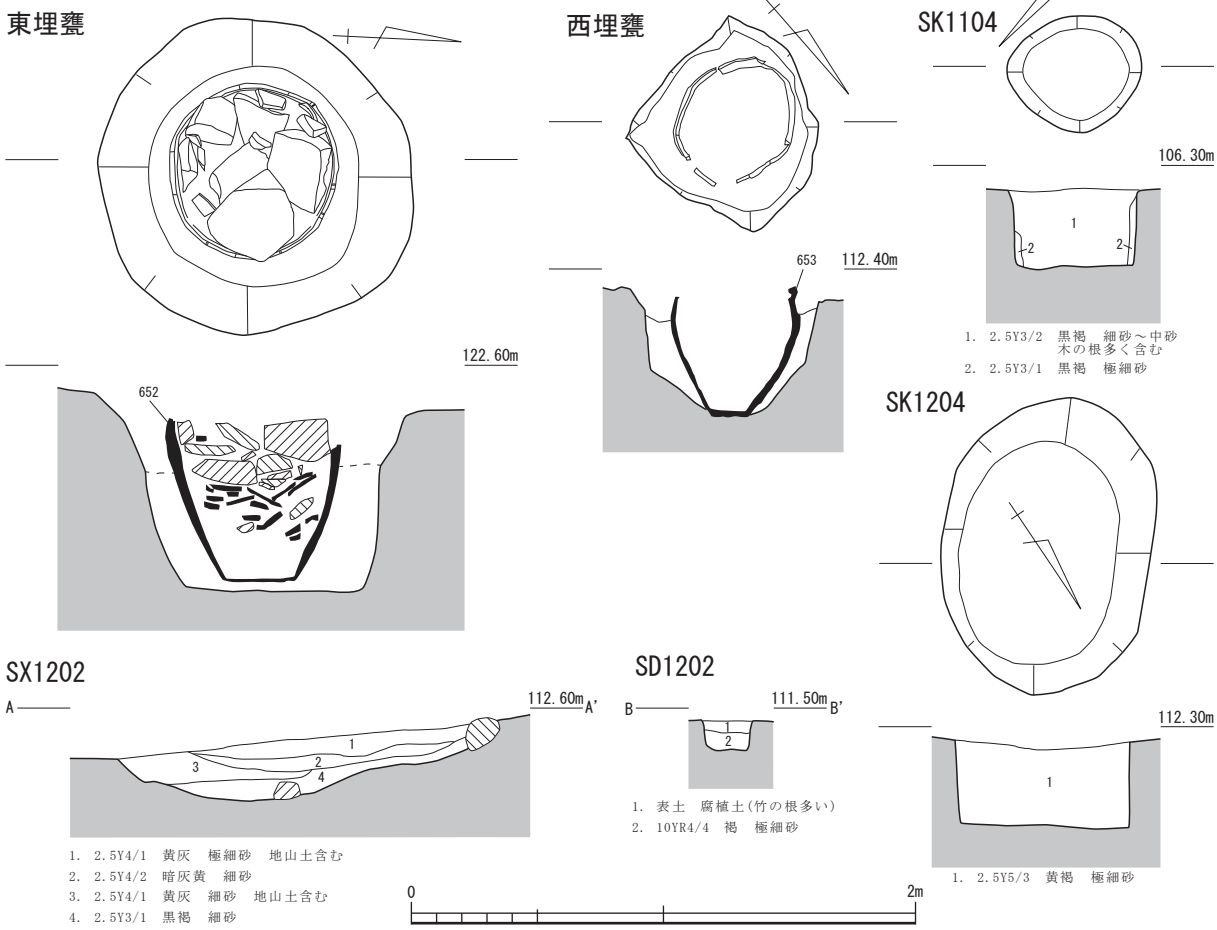
1. 10YR3/2　黒褐 粗砂混じり細砂　小礫～巨礫多く含む
2. 10YR4/2　灰黄褐 細砂
3. 7.5YR8/1　灰白 シルト混じり細砂
4. 10YR7/4　にぶい黄橙 粗砂混じり細砂
5. 10YR8/4　浅黄橙 細砂　地山の石・小礫含む

0　2m

1区平坦面３暗渠・集石遺構 SX1301

観音寺跡

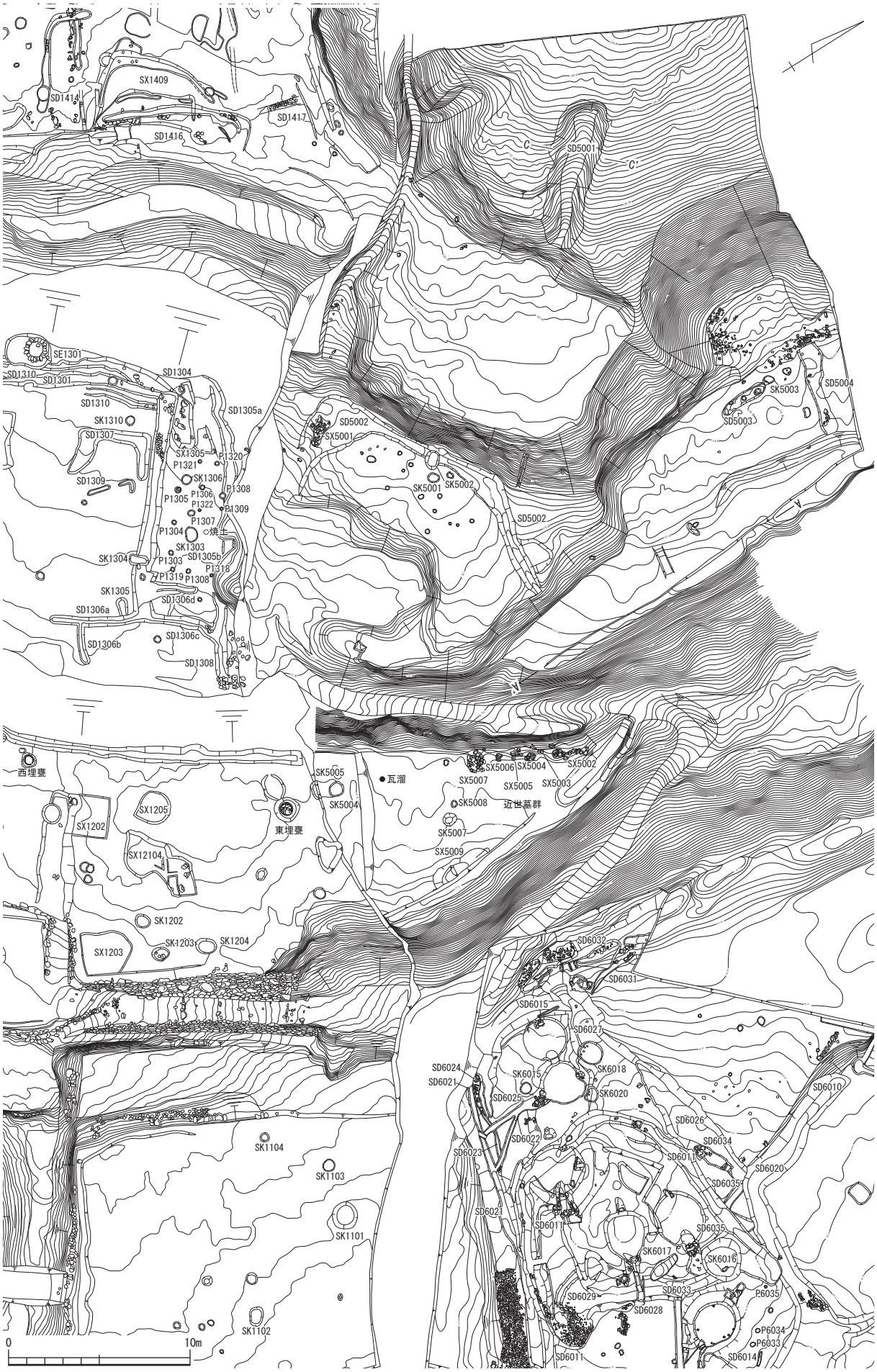




１区平坦面１・２全体図・各遺構

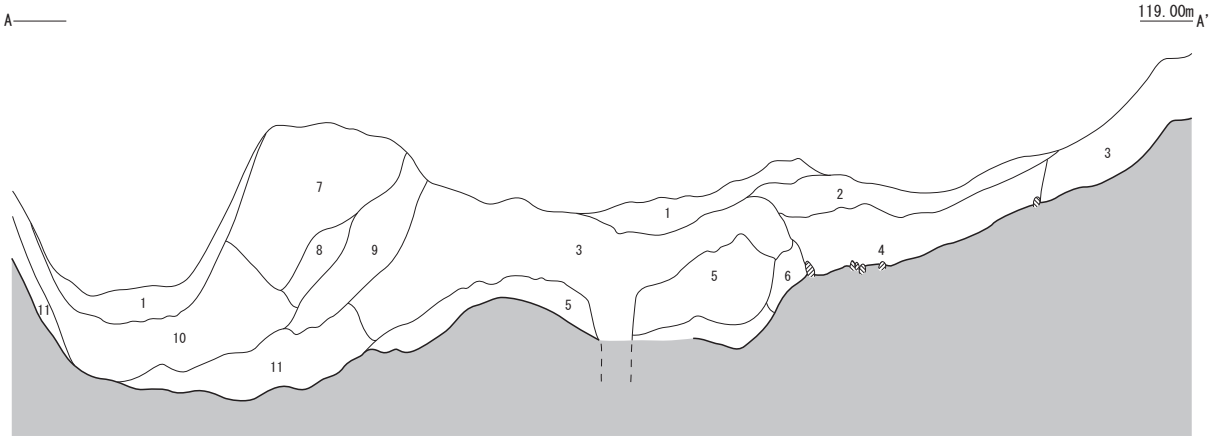
１区平坦面１・２間石垣・斜路

観音寺跡

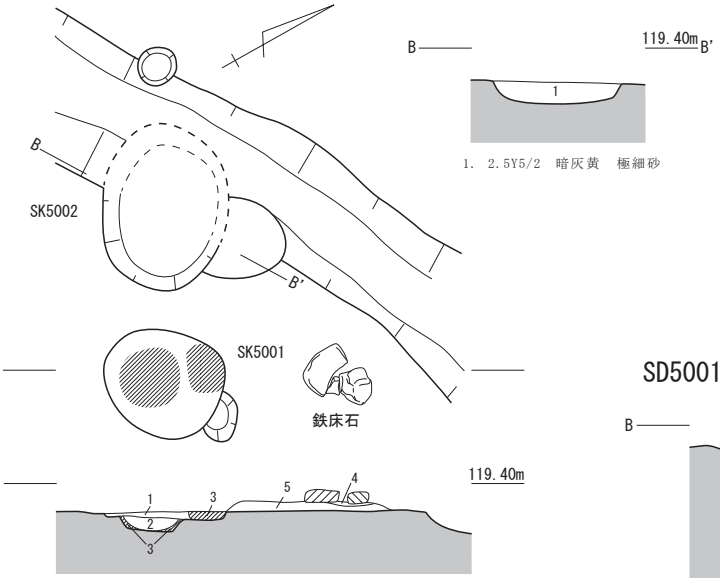


５区及び周辺全体

中段東平坦面



SK5001・5002



1. 表土（腐植土）
2. 2.5Y6/4　にぶい黄　極細砂　腐植土混じる
3. 2.5Y5/3　黄褐　細砂～極細砂　しまりなし
4. 2.5Y4/2　暗灰黄　細砂
5. 2.5Y4/3　オリーブ褐　細砂　しまりなし
6. 2.5Y6/4　にぶい黄　細砂　地山土含む
7. 2.5Y5/3　黄褐　細砂　円礫含む
8. 2.5Y5/6　黄褐　極細砂
9. 2.5Y5/4　黄褐　細砂～中砂
10. 10YR5/6　黄褐　細砂
11. 10YR5/6　黄褐　シルト質極細砂

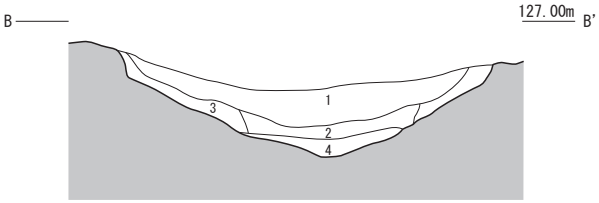
50cm　5m　0

1. 2.5Y5/2　暗灰黄　極細砂

1. 2.5Y5/4　黄褐　極細砂
2. 7.5YR4/4　褐　極細砂　鉄滓出土
3. 鉄分層
4. 10YR4/2　灰黄褐　細砂　表土・地山土混じる
5. 2.5Y5/3　黄褐　極細砂　地山土混じる

鉄分

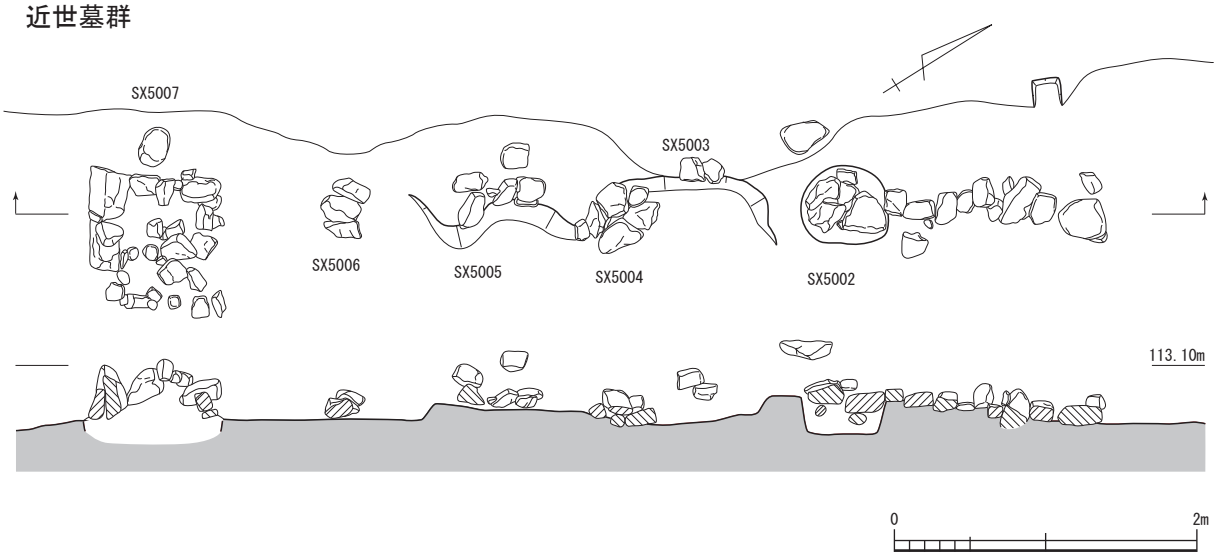
SD5001



1. 2.5Y4/3　オリーブ褐　極細砂
2. 2.5Y5/3　黄褐　極細砂
3. 10YR5/4　にぶい黄褐　極細砂
4. 2.5Y4/2　暗灰黄　極細砂

0　2m

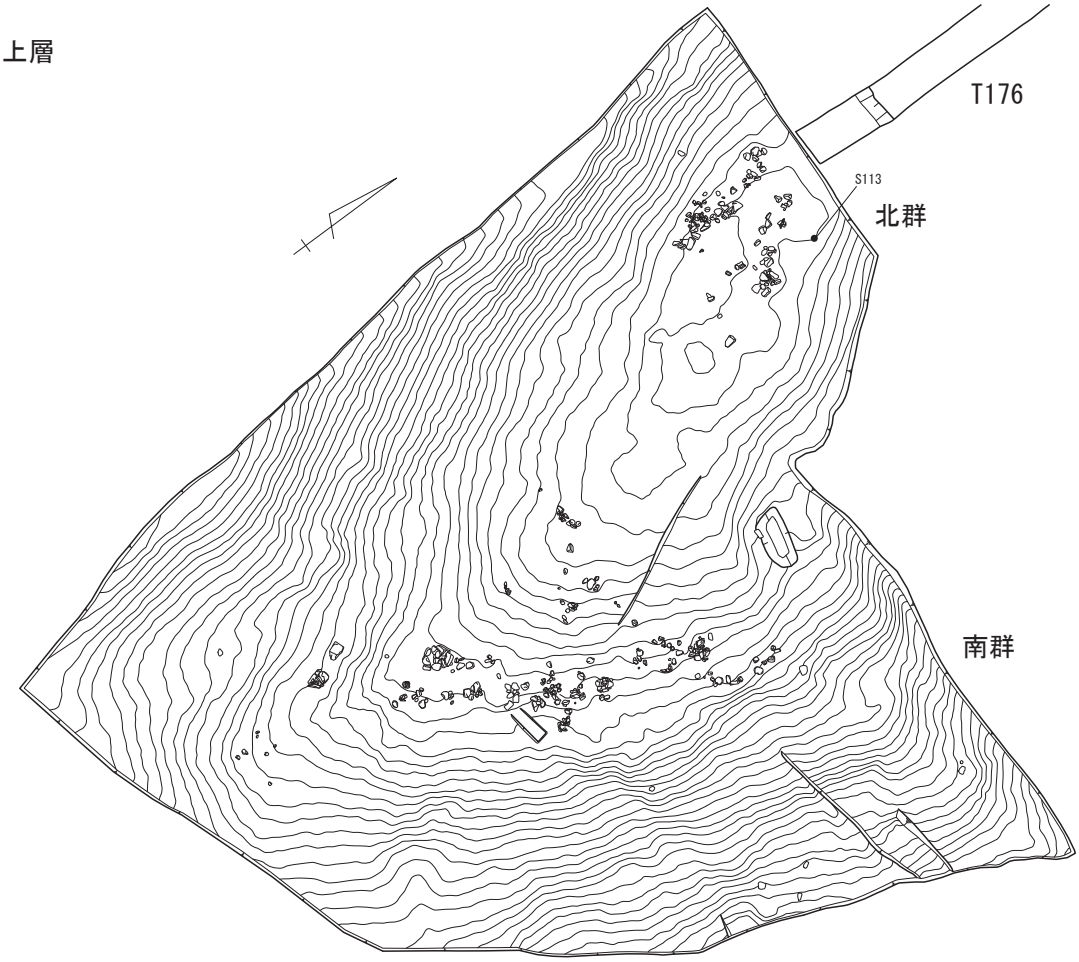
近世墓群



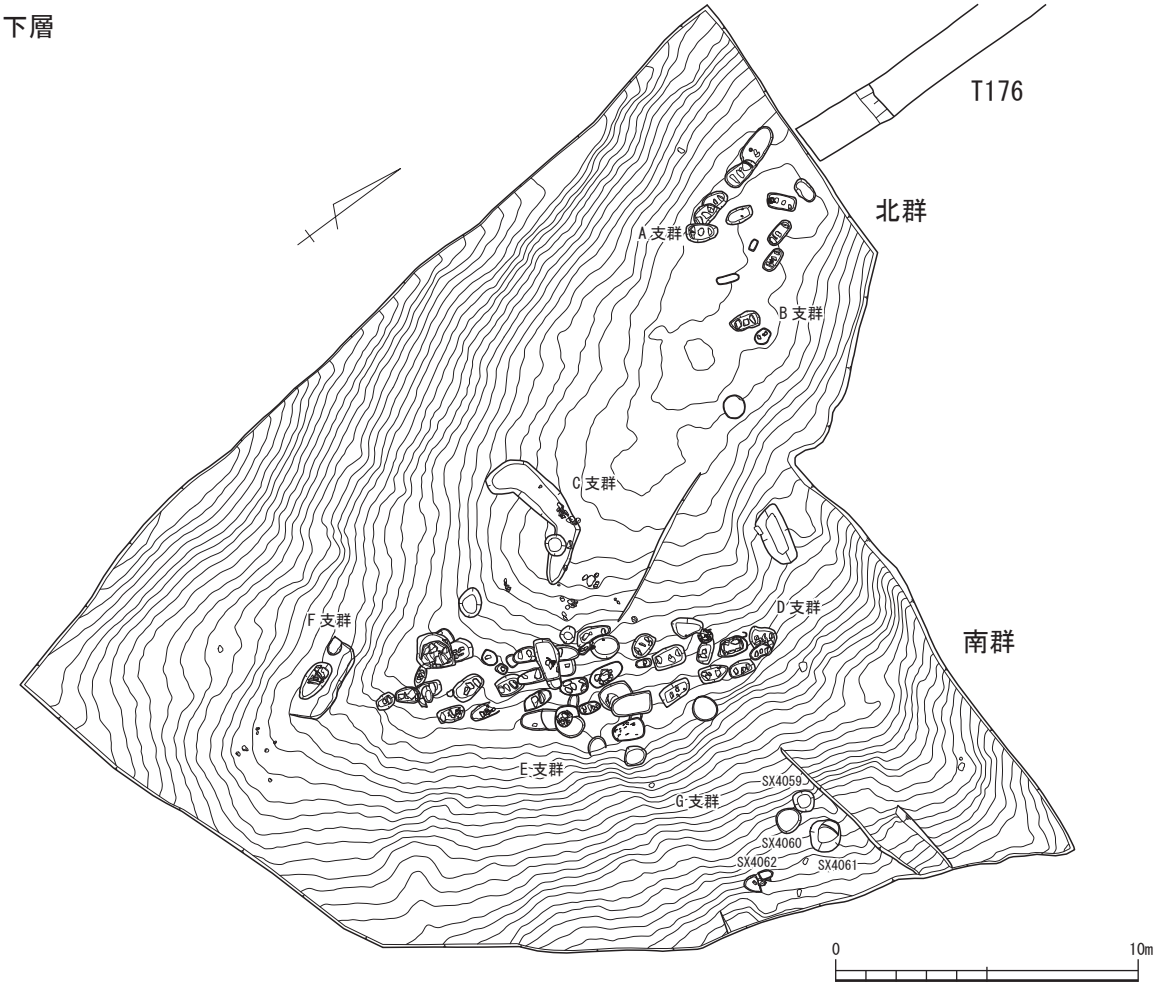
5区調査区土層断面・各遺構

観音寺跡

上層

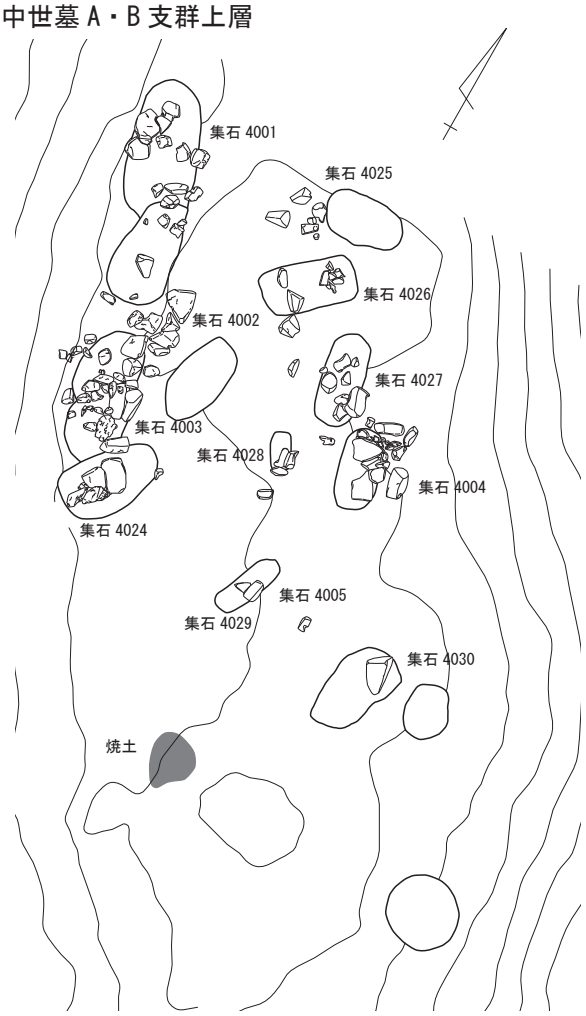


下層

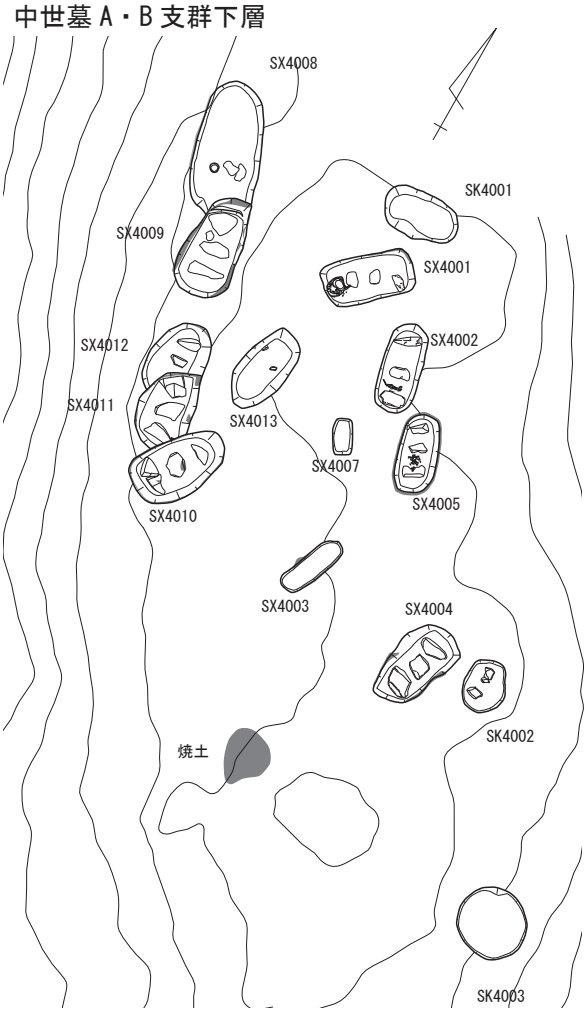


4区全体図（上・下層）

中世墓 A・B 支群上層

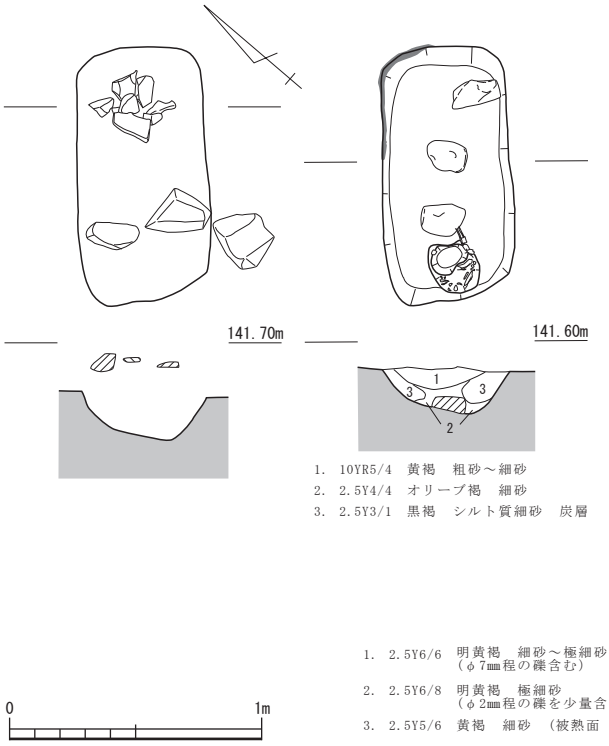


中世墓 A・B 支群下層

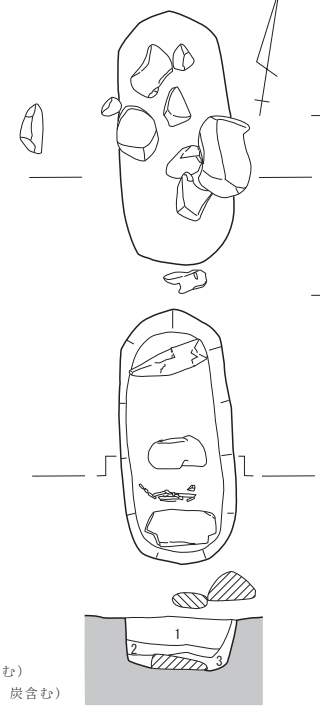


被熱赤変・焼土

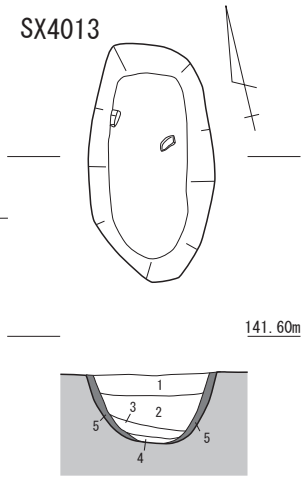
集石 4026・SX4001



集石 4027・SX4002



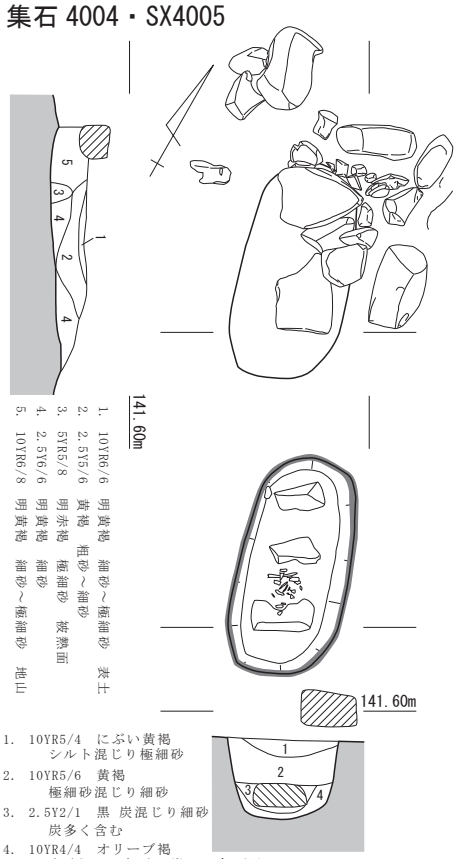
SX4013



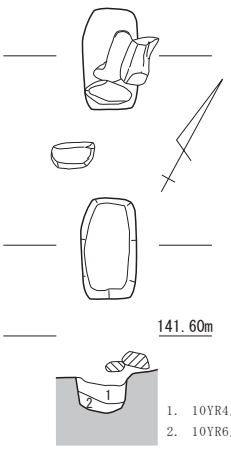
4区中世墓北群 A・B 支群

観音寺跡

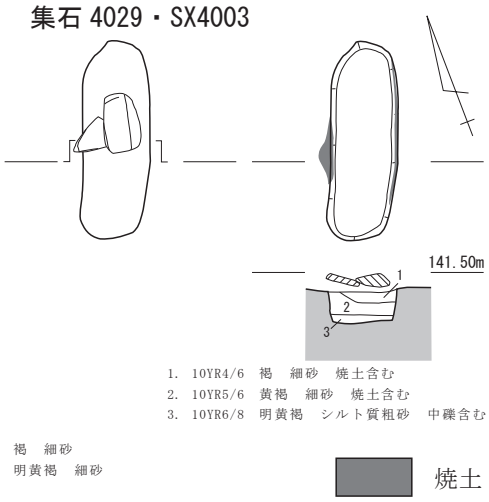
集石 4004・SX4005



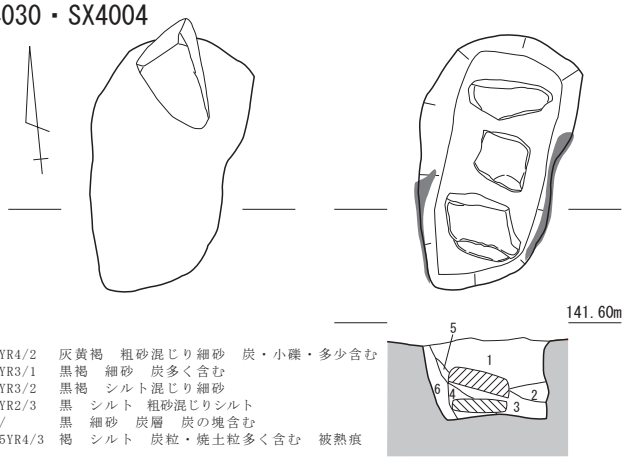
集石 4028・SX4007



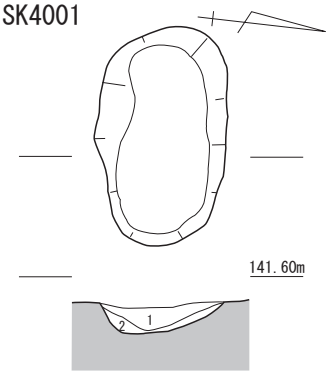
集石 4029・SX4003



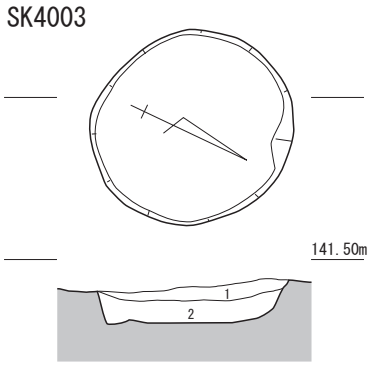
集石 4030・SX4004



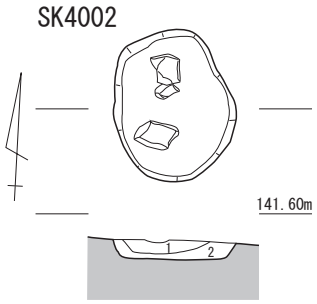
SK4001



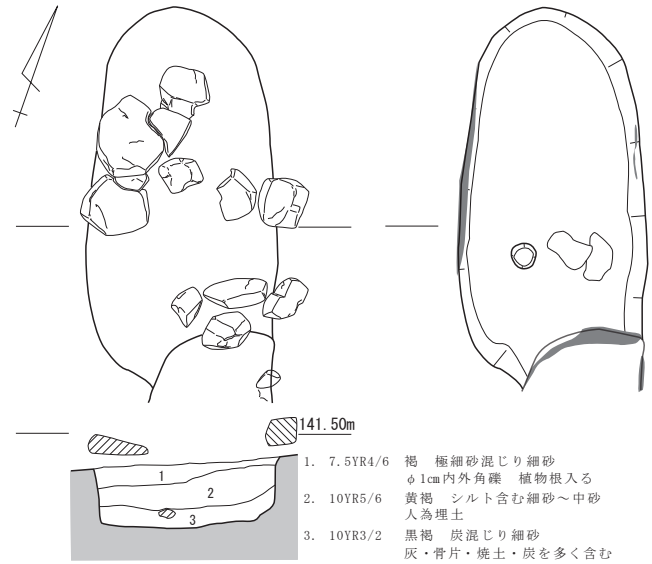
SK4003



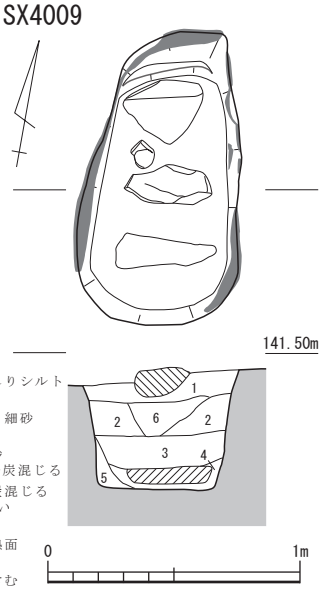
SK4002



集石 4001・SX4008

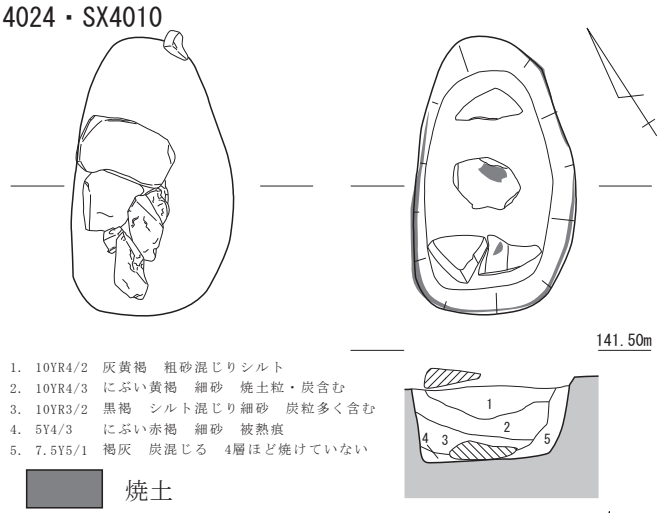


SX4009



集石 4002

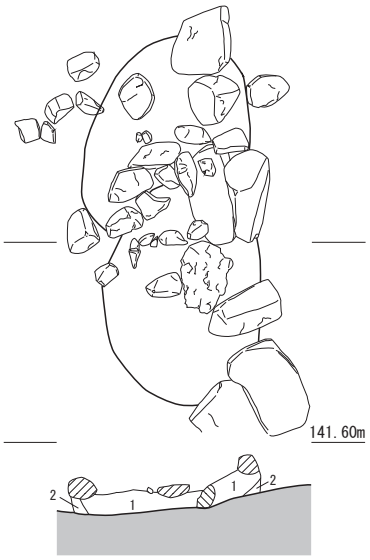
集石 4024・SX4010



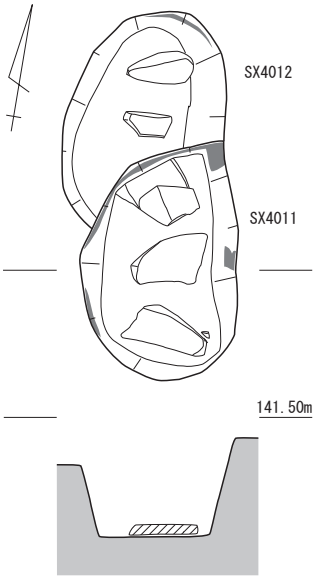
1. 10YR4/2 灰黄褐 粗砂混じりシルト
2. 10YR4/3 にぶい黄褐 細砂 焼土粒・炭含む
3. 10YR3/2 黒褐 シルト混じり細砂 炭粒多く含む
4. 5Y4/3 にぶい赤褐 細砂 被熱痕
5. 7.5Y5/1 褐灰 炭混じる 4層ほど焼けていない

焼土

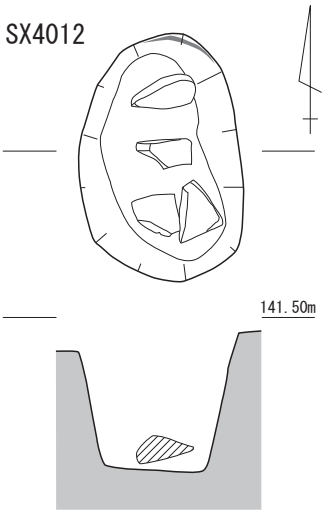
集石 4003・SX4011・4012



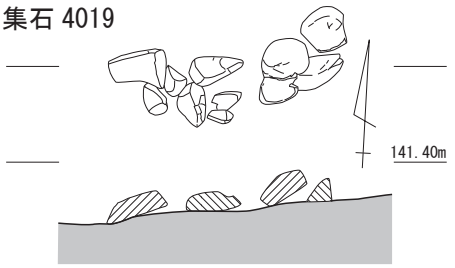
1. 10YR6/8 明黄褐 細砂～極細砂
2. 2.5YR4/4 にぶい赤褐 細砂 被熱痕

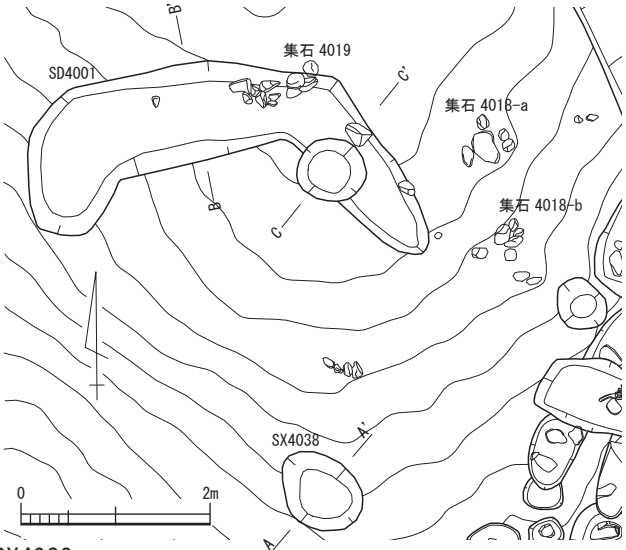


SX4012

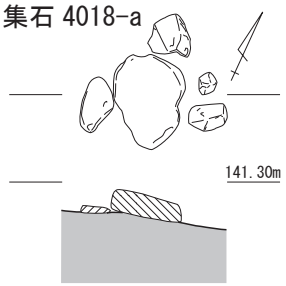


集石 4019

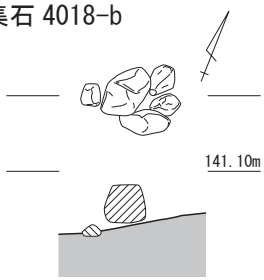




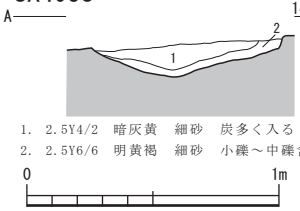
集石 4018-a



集石 4018-b

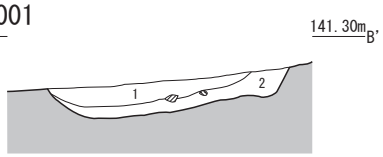


SX4038



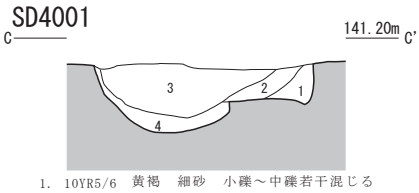
1. 2.5Y4/2 暗灰黄 細砂 炭多く入る
2. 2.5Y6/6 明黄褐 細砂 小礫～中礫含む 地山

SD4001



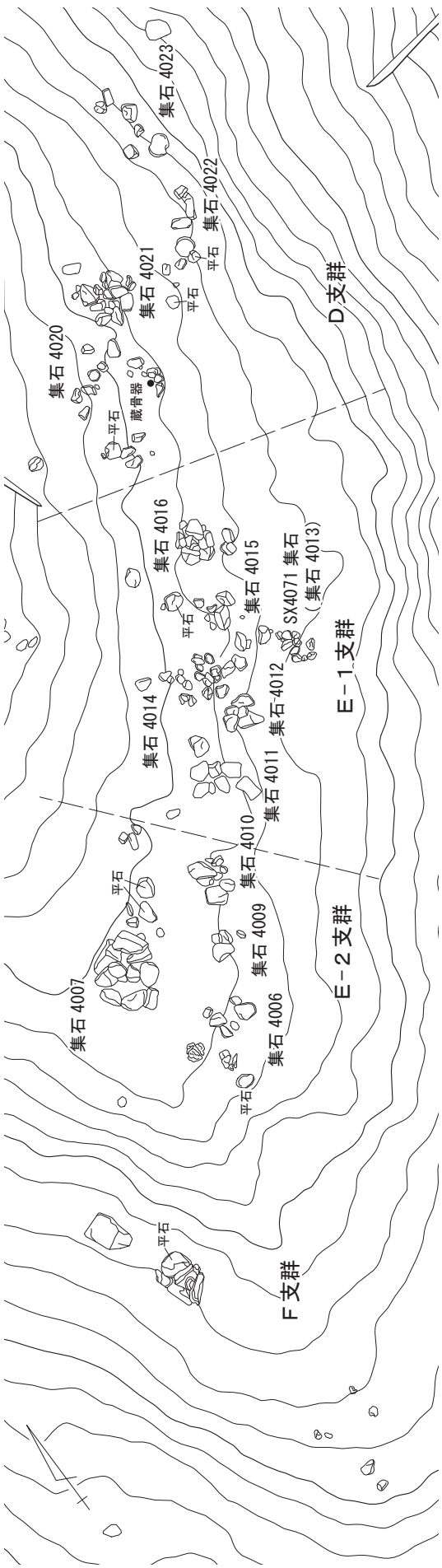
1. 10YR4/4 褐 細砂 小礫～中礫含む
2. 10YR4/6 褐 細砂 小礫～中礫含む 地山

SD4001

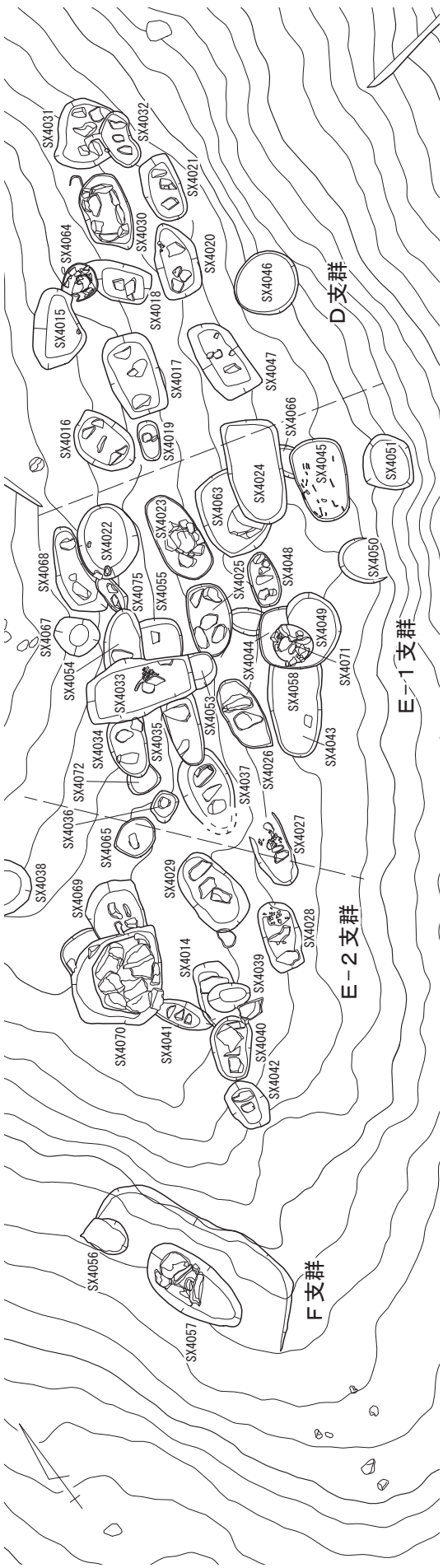


1. 10YR5/6 黄褐 細砂 小礫～中礫若干混じる
2. 10YR4/3 にぶい黄褐 シルト混じり細砂
3. 10YR4/2 灰黄褐 粗砂混じり細砂 砂粒混じる
4. 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト

観音寺跡



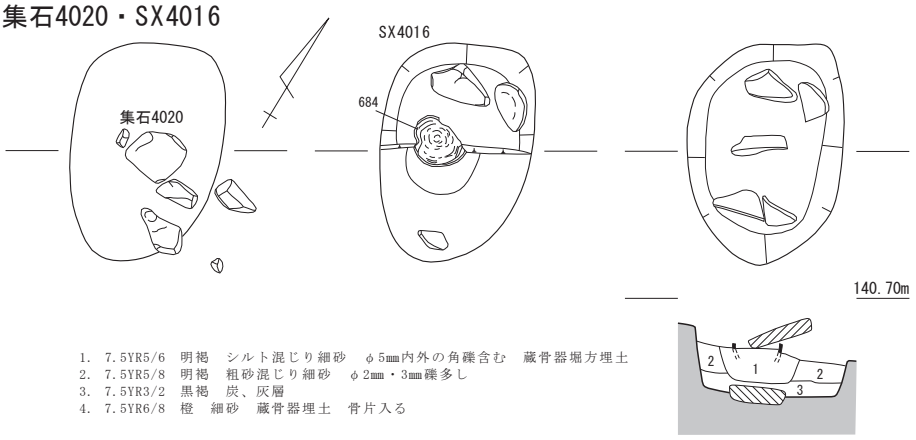
D～F支群上層　集石の状況



D～F支群下層　火葬址の状況

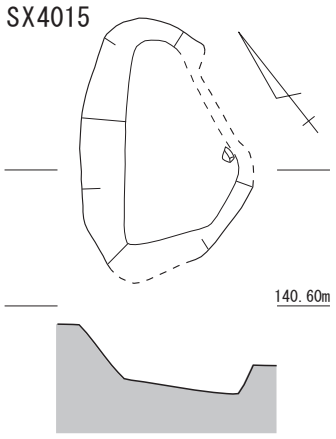
4区南群D～F支群（上層・下層）

集石4020・SX4016

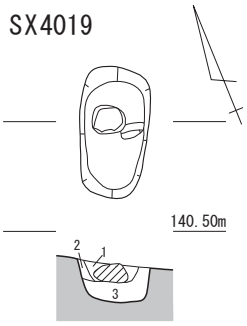


1. 7.5YR5/6 明褐 シルト混じり細砂 φ5㎜内外の角礫含む 蔵骨器堀方埋土
2. 7.5YR5/8 明褐 粗砂混じり細砂 φ2㎜・3㎜礫多し
3. 7.5YR3/2 黒褐 炭、灰層
4. 7.5YR6/8 橙 細砂 蔵骨器埋土 骨片入る

SX4015

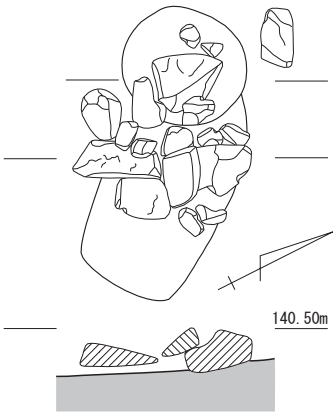


SX4019

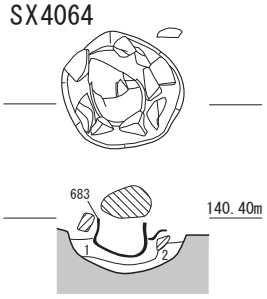


1. 7.5YR5/4 にぶい褐 シルト φ10cm程度礫含む
2. 7.5YR4/4 褐 シルト 炭粒若干混じる
3. 7.5YR5/4 にぶい褐 シルト混じり細砂

集石4021・SX4064・4018

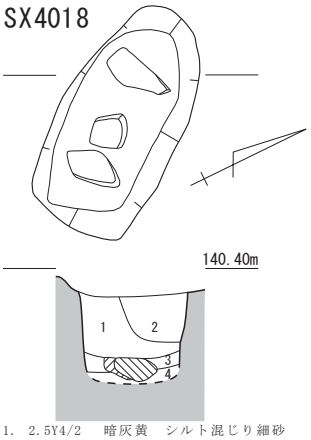


SX4064



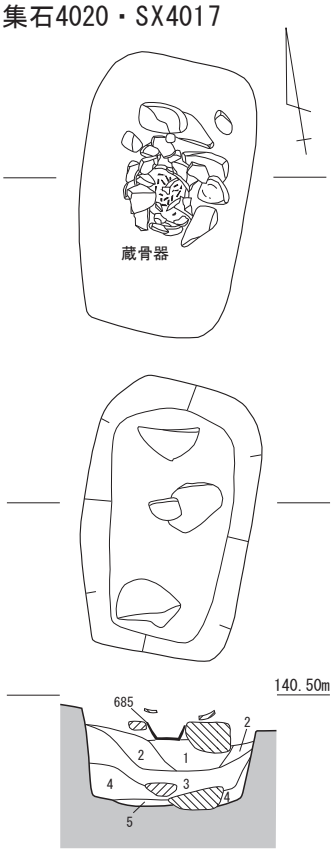
1. 2.5Y4/2 暗灰黄 小礫混じり細砂
2. 7.5YR5/6 明褐～黄褐 ～10YR5/6 細砂混じりシルト質粘土

SX4018



1. 2.5Y4/2 暗灰黄 シルト混じり細砂
2. 2.5Y6/4 にぶい黄 シルト
3. 2.5Y3/1 黒褐 シルト
4. 7.5YR4/3 褐 シルト

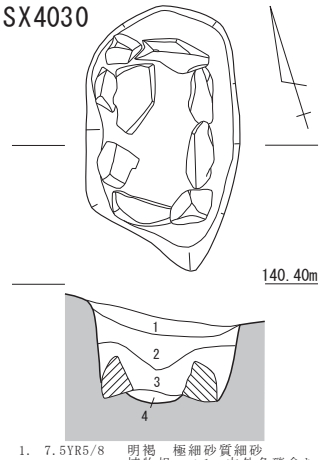
集石4020・SX4017



1. 7.5YR5/6 明褐 極細砂混じり細砂 蔵骨器すえつけ坑堀方
2. 7.5YR5/8 明褐 シルト混じり細砂質極細砂
3. 5YR5/2 褐灰～明褐 礫混じり細砂質極細砂 ～7.5YR5/8 φ2㎜内外礫 焼土含む
4. 7.5YR5/8 明褐 細砂混じりシルト 炭・焼土含む
5. 7.5YR2/1 黒 中砂混じり極細砂 炭 炭層

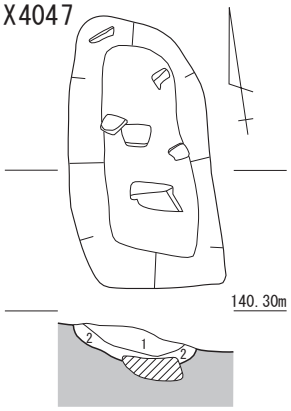
0 1m

SX4030



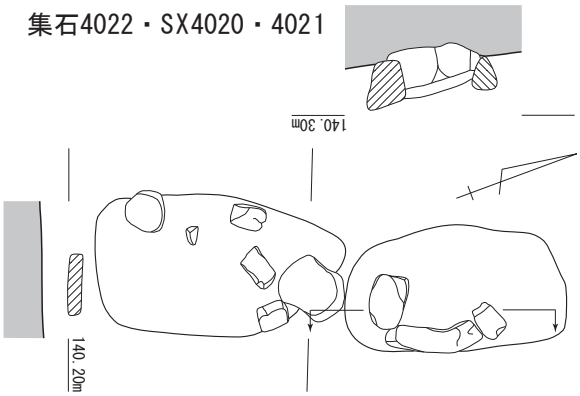
1. 7.5YR5/8 明褐 極細砂質細砂 植物根・φ1cm内外角礫含む
2. 7.5YR5/6 明褐 極細砂質細砂
3. 10YR1.7/1 黒 細砂 炭と灰堆積層 φ3cm内外炭片多し
4. 10YR6/8 明黄褐 極細砂混じり細砂 地山

SX4047

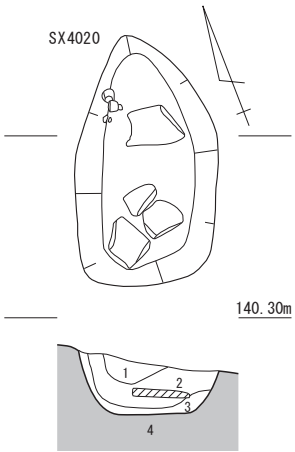


1. 7.5YR5/3 にぶい褐 粗砂～中砂
2. 7.5YR2/1 黒 細砂～中砂 φ3cm内外炭片多し 炭灰層

集石4022・SX4020・4021

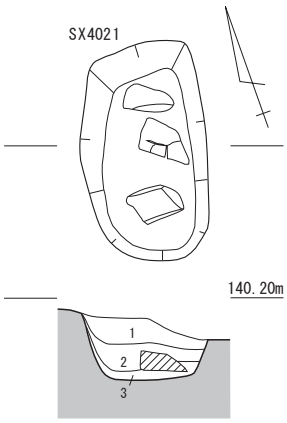


SX4020



1. 10YR4/6 褐 粗砂混じり細砂 炭粒・骨片少量含む
2. 10YR3/1 黒褐 粗砂 炭塊・炭粒・木の根多く含む 若干被熱した棺台石入る
3. 10YR4/2 灰黄褐 シルト混じり細砂 炭層だが2層より炭少ない
4. 10YR4/4 褐 細砂 地山

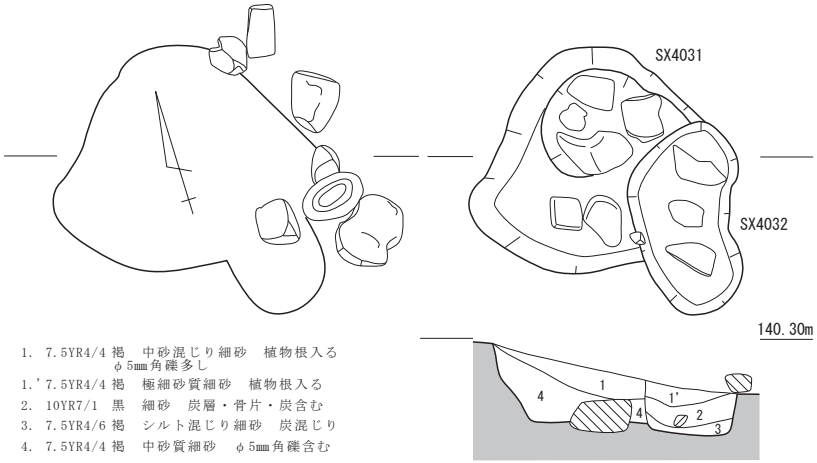
SX4021



1. 10YR4/2 灰黄褐 細砂 小礫～中礫含む 木の根入る 炭粒若干含む
2. 10YR3/2 黒褐 シルト混じり細砂 中礫含む 木の根入る 炭粒・骨片含む
3. 10YR3/3 暗褐 シルト 焼土塊 炭粒若干含む 被熱している 棺台石入る

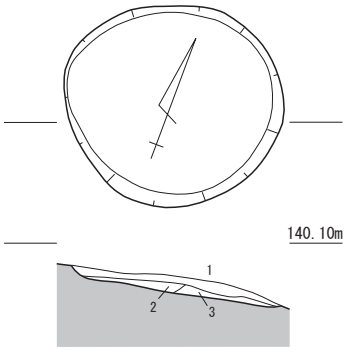
観音寺跡

集石 4023・SX4031・4032



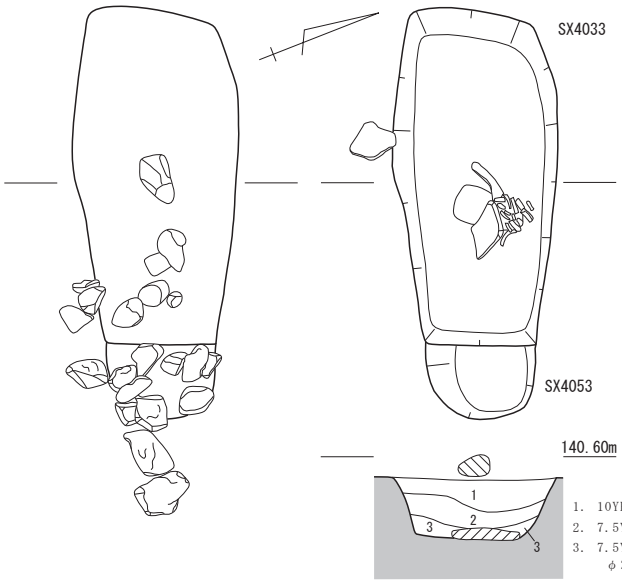
1. 7.5YR4/4 褐　中砂混じり細砂　植物根入る
　φ5㎜角礫多し
1.' 7.5YR4/4 褐　極細砂質細砂　植物根入る
2. 10YR7/1　黒　細砂　炭層・骨片・炭含む
3. 7.5YR4/6 褐　シルト混じり細砂　炭混じり
4. 7.5YR4/4 褐　中砂質細砂　φ5㎜角礫含む

SX4046



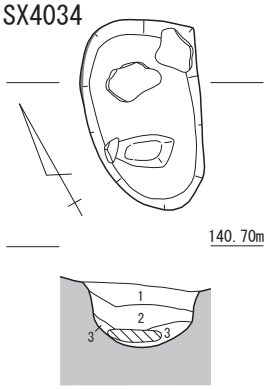
1. 10YR5/1　褐灰　粗砂混じり細砂
　炭多く入る
2. 10YR4/4　褐　細砂　小礫含む
3. 10YR3/2　黒褐　シルト混じり細砂

集石 4014・SX4033・SX4053



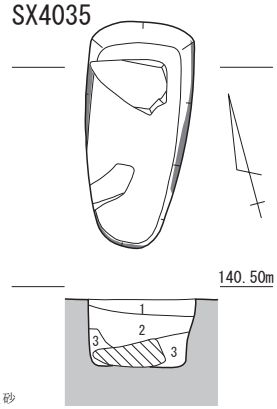
1. 10YR6/6　明黄褐　中砂質細砂
2. 7.5YR5/6　明褐　粗砂混じり細砂
3. 7.5YR5/8　明褐　極細砂混じり中砂～細砂
　φ2㎜内外の砂粒多く含む　骨、炭含む

SX4034



1. 10YR6/6　明黄褐　細砂混じり中砂～粗砂
　φ5㎜内外の角礫含む
2. 7.5YR5/8 明褐　粗砂混じり細砂
3. 5YR5/8～7.5YR5/8 明赤褐～明褐
　粗砂混じり極細砂質細砂　骨炭含む

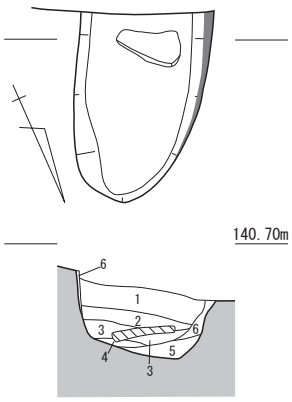
SX4035



1. 10YR5/6　黄褐　粗砂
　小礫混じる
2. 10YR4/4　褐
　シルト混じり細砂
3. 10YR4/6　褐　粗砂

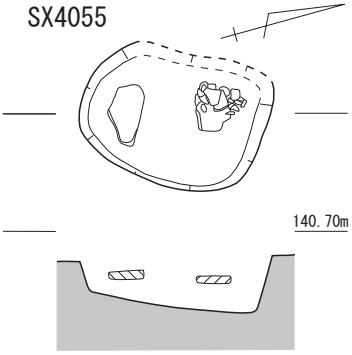
焼土

SX4054

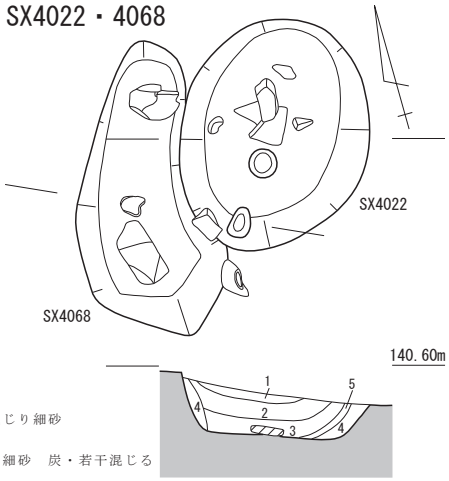


1. 7.5YR5/8～2.5Y5/8　明褐～明赤褐
　極細砂・中砂混じり細砂
2. 7.5YR5/8　明褐　細砂混じりシルト
3. 7.5YR3/4　暗褐　極細砂混じり細砂
　多く骨炭、炭焼土含む
4. 7.5YR4/4　褐　極細砂質細砂　若干被熱
5. 7.5YR5/8　明褐　中砂混じり極細砂
　φ2㎜内外の角礫含む
6. 5YR3/6　暗赤褐　中砂混じり極細砂

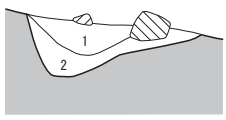
SX4055



SX4022・4068



SX4022
1. 10YR6/4　にぶい黄橙　粗砂混じり細砂
2. 7.5YR5/6 明褐　細砂
3. 7.5YR3/2 暗褐　シルト混じり細砂　炭・若干混じる
4. 5YR5/6　明赤褐　細砂　地山
5. 5YR4/1　褐灰　シルト　炭層

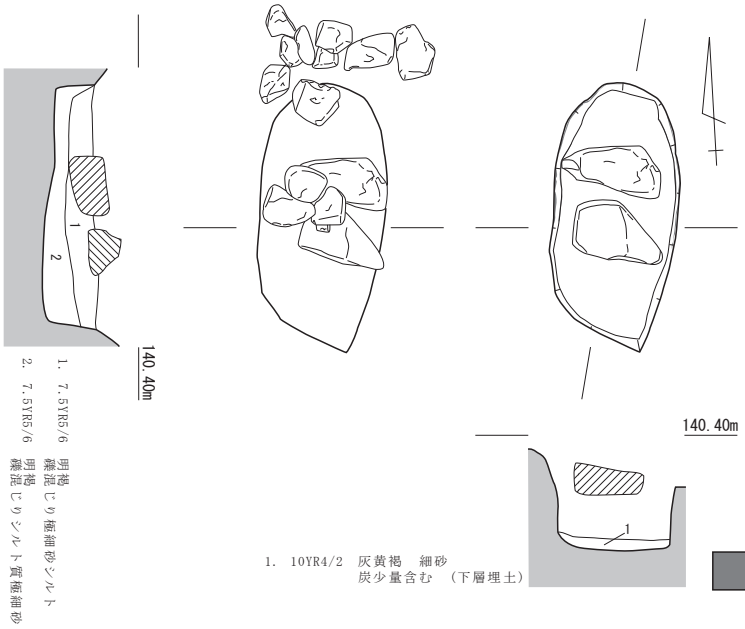


SX4068
1. 10YR6/8　明黄褐　細砂混じりシルト質粘土
2. 7.5YR6/8 橙　粘土混じり細砂　やや汚れる

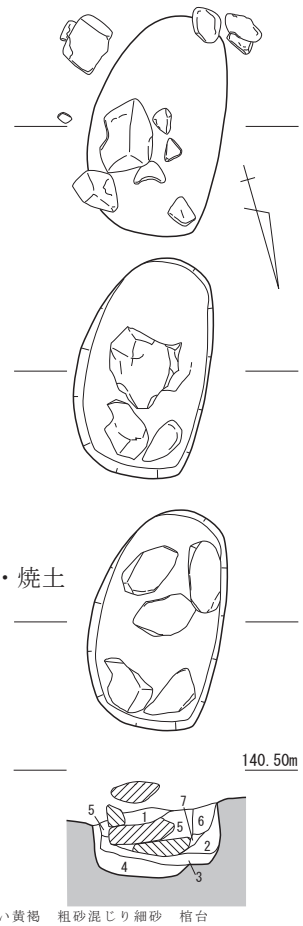
0　1m

4区南群D支群2・E-1支群1

集石 4012・SX4026

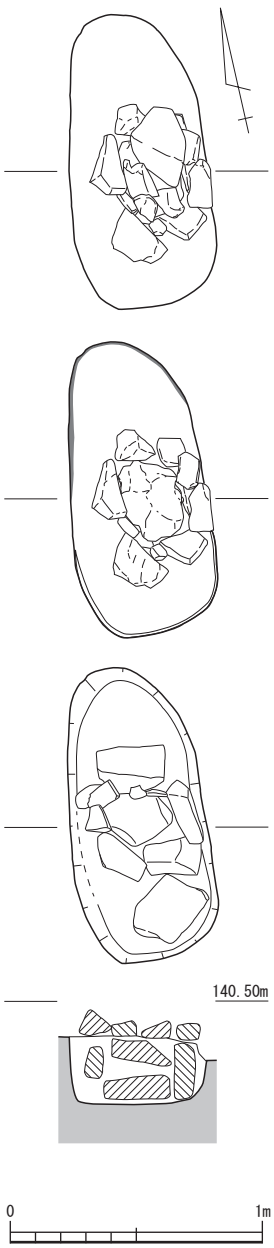


集石 4015・SX4025

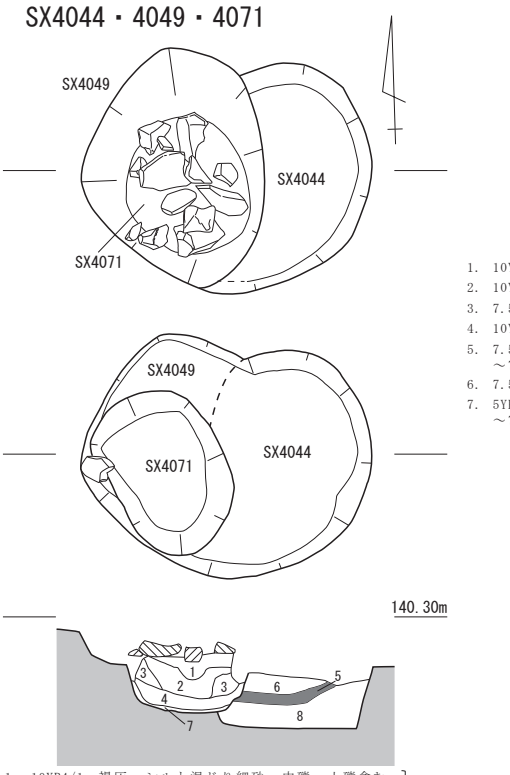


被熱赤変・焼土

集石 4016・SX4023

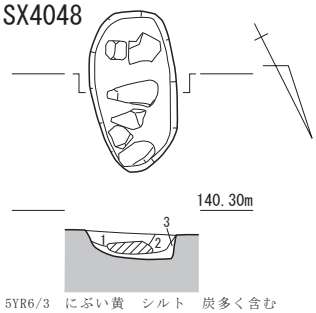


SX4044・4049・4071



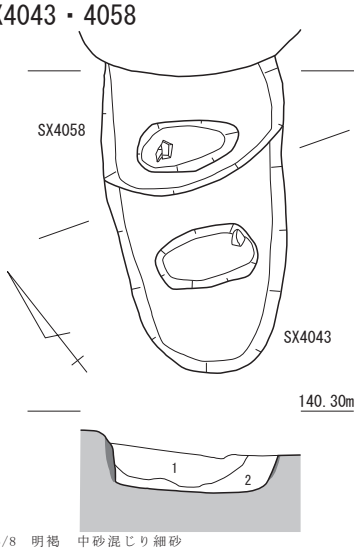
1. 10YR4/1 褐灰 シルト混じり細砂 中礫～小礫含む } SX4071の埋土
2. 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト
3. 10YR4/3 にぶい黄褐 シルト
4. 7.5Y4/2 灰褐 シルト 若干被熱している } SX4044の埋土
5. 5YR4/6 赤褐 シルト 焼土
6. 10YR4/4 褐 細砂若干炭粒含む } SX4049の埋土
7. 10YR5/6 黄褐 細砂
8. 10YR3/3 暗褐 シルト混じり細砂 底面に被熱痕と炭含む

SX4048

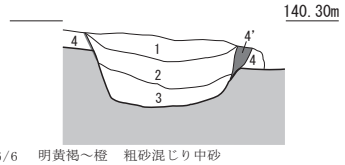


1. 2.5YR6/3 にぶい黄 シルト 炭多く含む
2. 2.5YR4/3 オリーブ褐 炭若干含む φ15cm程の礫含む
3. 2.5YR5/6 オリーブ褐

SX4043・4058



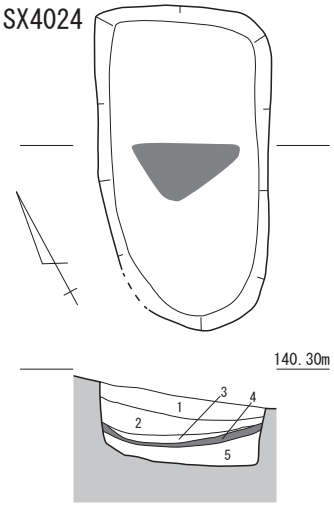
1. 7.5YR5/8 明褐 中砂混じり細砂
2. 5YR5/8 明赤褐 中砂混じり極細砂質細砂 炭若干含む



1. 10YR6/6 明黄褐～橙 粗砂混じり中砂～7.5YR6/6 φ5mm～1cm角礫 植物根多し
2. 7.5YR5/8 明褐 細砂混じり中砂 φ3mm内外礫多く含む
3. 7.5YR4/6 褐 極細砂混じり細砂 炭入る
4. 10YR6/6 明黄褐 細砂質中砂
4'. 2.5YR5/8 明赤褐 被熱

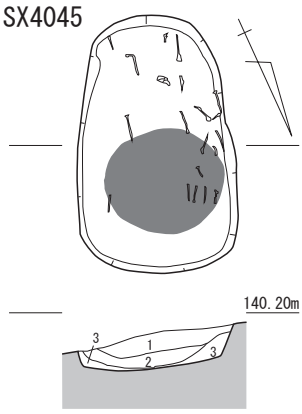
観音寺跡

SX4024



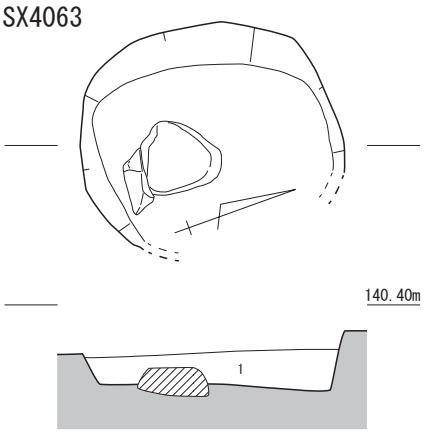
1. 2.5Y5/3　黄褐　粗砂混じりシルト　炭粒若干含む
2. 2.5Y5/2　暗灰黄　粗砂混じりシルト　炭粒若干含む
3. N2/　黒　シルト　硬く焼きしまる　被熱
4. 5YR4/6　赤褐　シルト　被熱面
5. 7.5YR5/4　にぶい褐　シルト　炭粒若干含む

SX4045



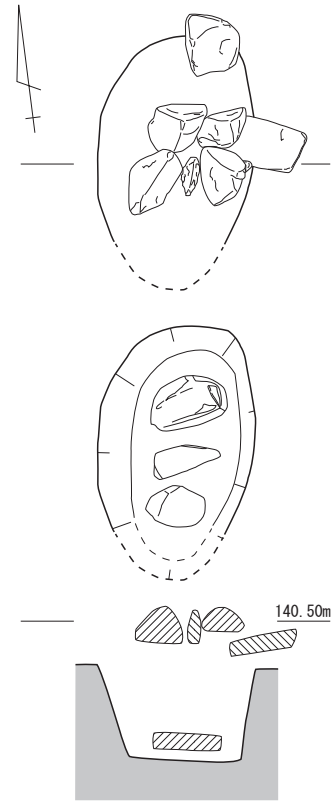
1. 7.5YR6/6　橙～明黄褐　細砂　φ1～2㎜砂礫含む
　～10YR6/6
2. 7.5YR6/6　橙～明褐　シルト混じり中砂～細砂
　～7.5YR5/8
3. 7.5YR5/8　明褐　シルト混じり細砂

SX4063

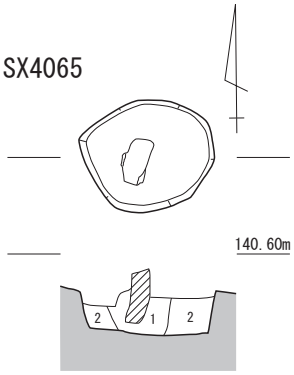


1. 7.5YR5/8　明褐　礫混じり細砂　φ5㎜内外礫含む

集石 4011・SX4037

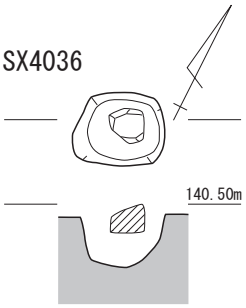


SX4065

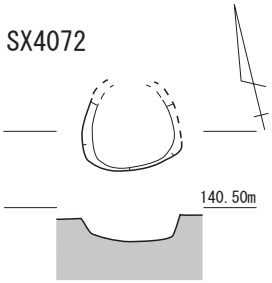


1. 7.5YR5/8　明褐　中砂混じり粘土　汚れる
2. 7.5YR5/8　明褐～黄褐　細砂混じり粘土
　～10YR5/8

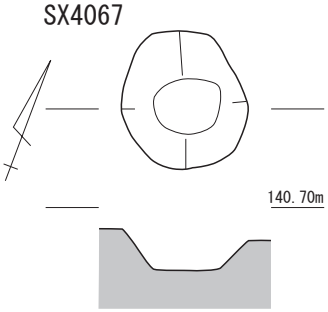
SX4036



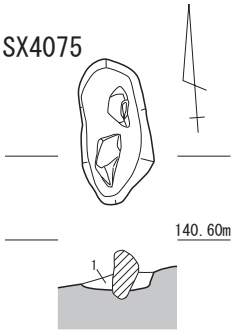
SX4072



SX4067



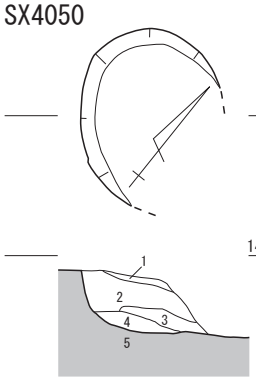
SX4075



1. 10YR4/4　褐　細砂　巨礫2ケ含む

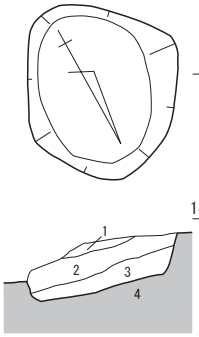
被熱赤変

SX4050



1. 7.5YR5/8　明褐　中砂混じり細砂
2. 10YR5/6　黄褐　中砂混じり極細砂質細砂　炭含む
3. 7.5YR5/8　明褐　中砂質細砂
4. 7.5YR5/8　明褐　細砂混じり中砂
5. 7.5YR6/8　橙　粗砂・細砂混じり中砂　ベース

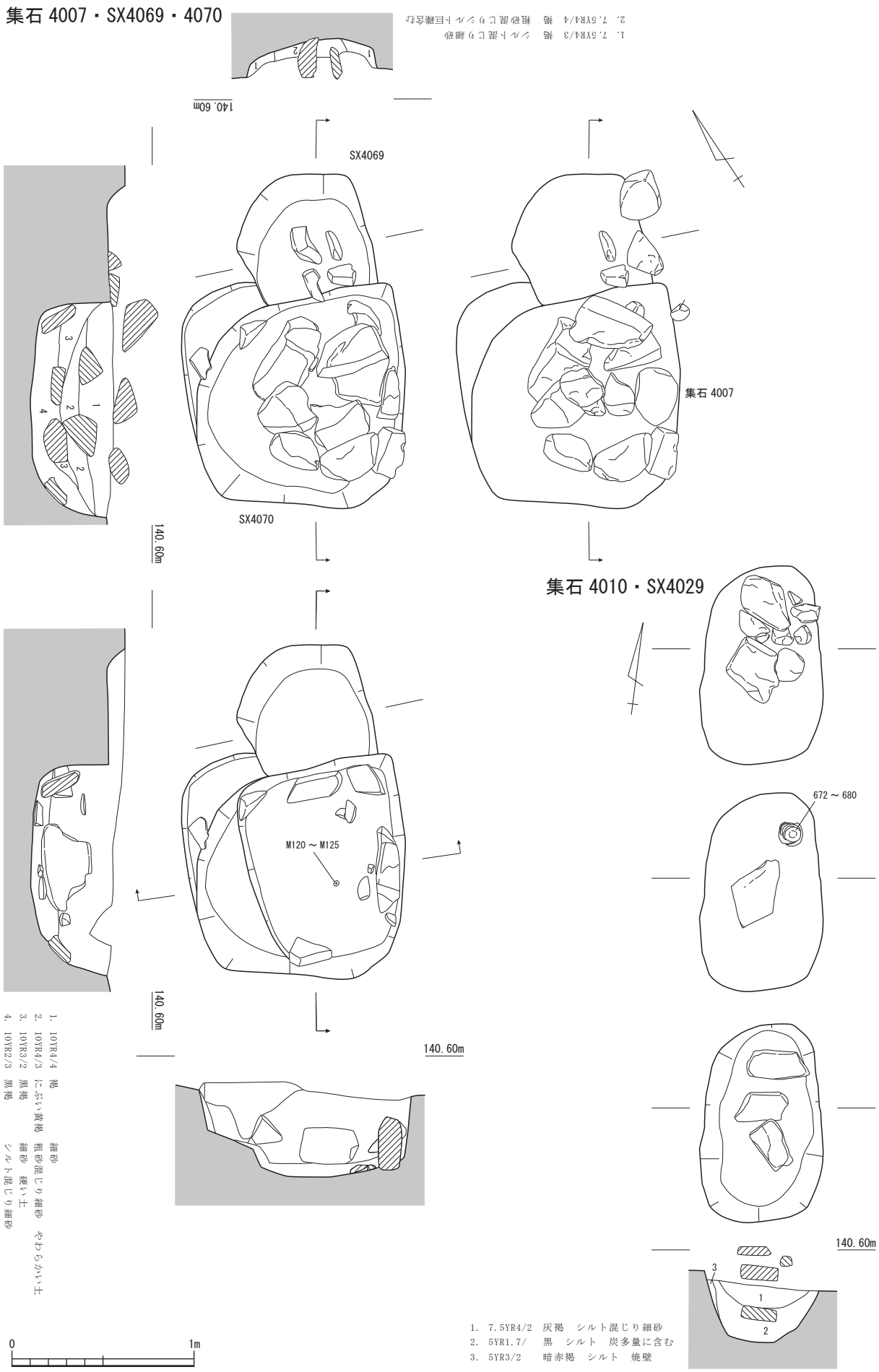
SX4051



1. 7.5YR5/8　明褐　細砂混じり極細砂
　φ1cm内外円礫含む　炭含む
2. 7.5YR5/6　明褐　細砂混じり極細砂
3. 7.5YR5/8　明褐　細砂含むシルト
4. 7.5YR5/8　明褐　極細砂質シルト
　φ5～10cm角礫入る　地山

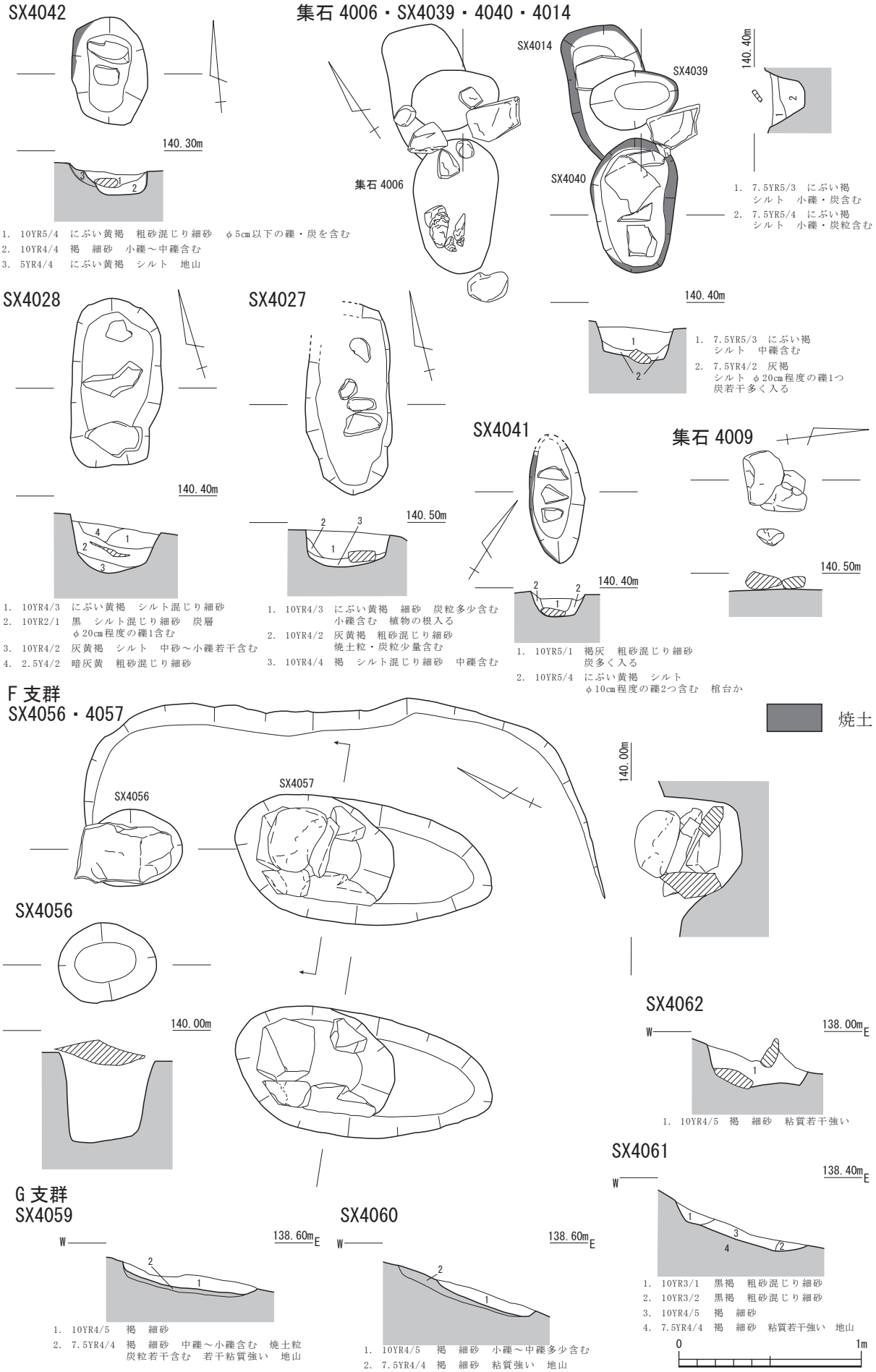
0　1m

4区南群 E-1 支群 3

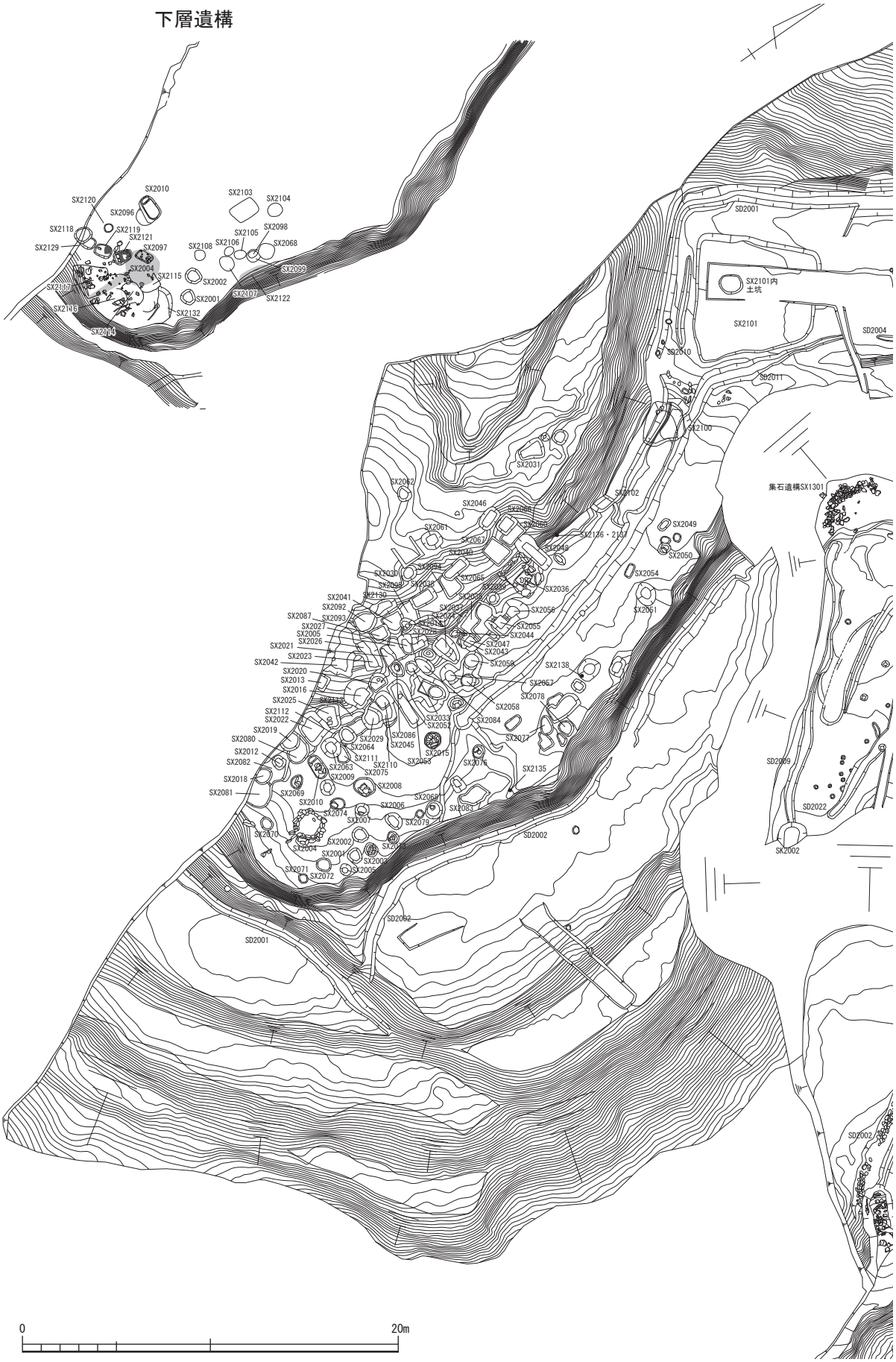

集石 4007・SX4069・4070
1. 7.5YR4/3 褐 シルト混じり細砂
2. 7.5YR4/4 褐 粗砂混じりシルト巨礫含む
140.60m
SX4069
集石 4007
SX4070
140.60m
集石 4010・SX4029
672 ～ 680
M120 ～ M125
140.60m
140.60m
140.60m
1. 10YR4/4 褐 細砂
2. 10YR4/3 にぶい黄褐 粗砂混じり細砂 やわらかい土
3. 10YR3/2 黒褐 細砂 硬い土
4. 10YR2/3 黒褐 シルト混じり細砂
1. 7.5YR4/2 灰褐 シルト混じり細砂
2. 5YR1.7/ 黒 シルト 炭多量に含む
3. 5YR3/2 暗赤褐 シルト 焼壁
0
1m

4 区南群 E-2 支群 1

観音寺跡



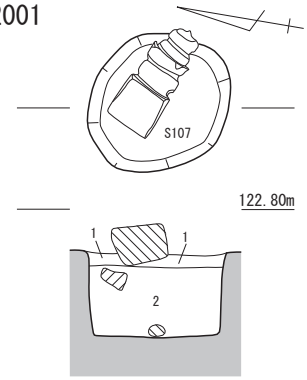
4区南群 E-2 支群 2・F 支群・G 支群


下層遺構
SX2010
SX2120
SX2096
SX2119
SX2121
SX2118
SX2129
SX2097
SX2004
SX2115
SX2002
SX2001
SX2132
SX2114
SX2103
SX2104
SX2105
SX2098
SX2106
SX2108
SX2068
SX2099
SX2107
SX2122
SD2001
SX2101内
土坑
SX2101
SD2004
SD2010
SD2011
SX2100
集石遺構SX1301
SX2031
SX2062
SX2046
SX2102
SX2049
SX2050
SX2054
SX2061
SX2036
SX2056
SX2055
SX2044
SX2047
SX2045
SX2058
SX2138
SX2057
SX2078
SX2084
SX2077
SX2135
SX2041
SX2092
SX2087
SX2093
SX2027
SX2005
SX2026
SX2021
SX2023
SX2042
SX2020
SX2013
SX2016
SX2025
SX2112
SX2022
SX2019
SX2080
SX2012
SX2082
SX2018
SX2081
SX2069
SX2010
SX2074
SX2070
SX2004
SX2071
SX2072
SX2002
SX2001
SX2006
SX2079
SX2081
SX2068
SX2008
SX2009
SX2075
SX2063
SX2111
SX2110
SX2064
SX2029
SX2086
SX2045
SX2015
SX2053
SX2033
SX2051
SX2076
SD2002
SD2009
SD2022
SK2002
SD2001
0
20m

２区全体図

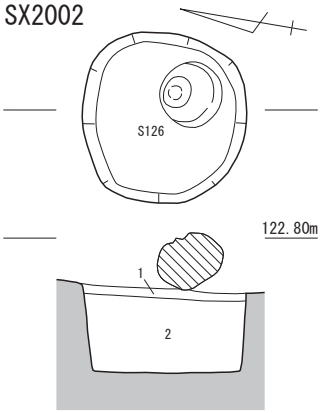
観音寺跡

SX2001



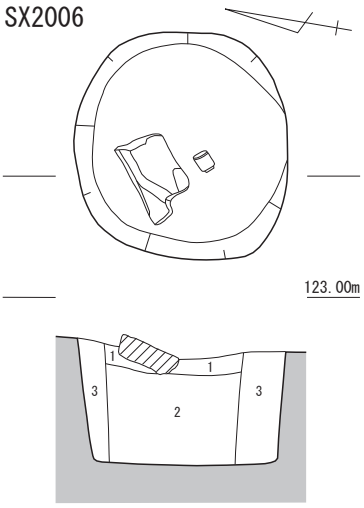
1. 腐植土
2. 10YR4/2 灰黄褐 極細砂 礫含む

SX2002



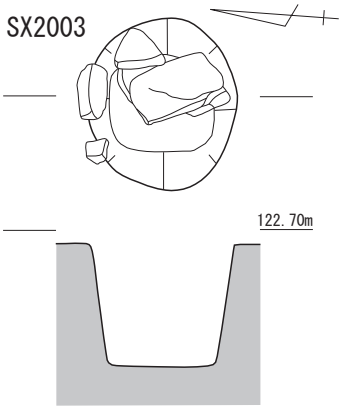
1. 10YR2/2 黒褐 極細砂
2. 10YR4/3 にぶい黄褐 極細砂

SX2006

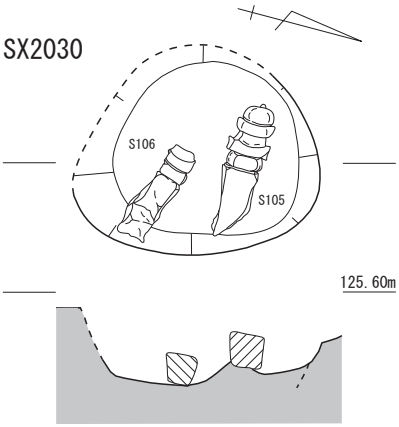


1. 腐植土
2. 2.5Y4/2 暗灰黄 極細砂 木の根多い
3. 掘方埋土

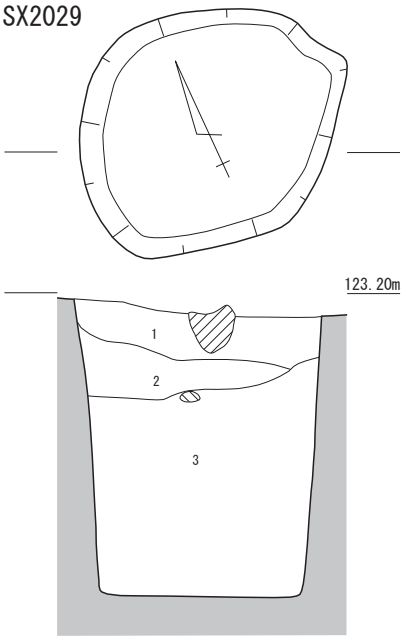
SX2003



SX2030

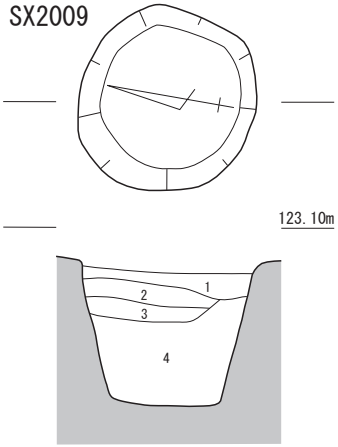


SX2029



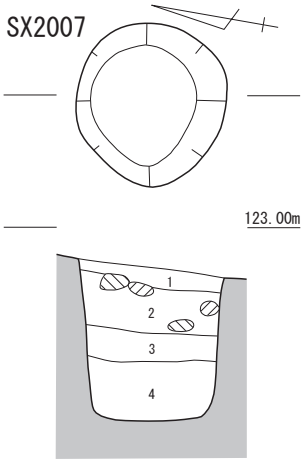
1. 7.5YR3/2 黒褐 細砂
2. 10YR2/1 黒 細砂～極細砂 地山土含む
3. 10YR4/3 にぶい黄褐 極細砂

SX2009



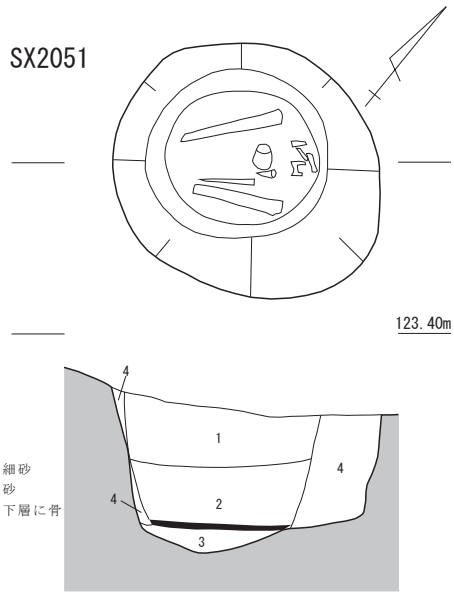
1. 10YR2/1 黒 極細砂 腐植土混じり
2. 10YR4/2 灰黄褐 極細砂
3. 10YR5/6 黄褐 極細砂 しまりなし
4. 10YR4/3 にぶい黄褐 細砂～極細砂

SX2007



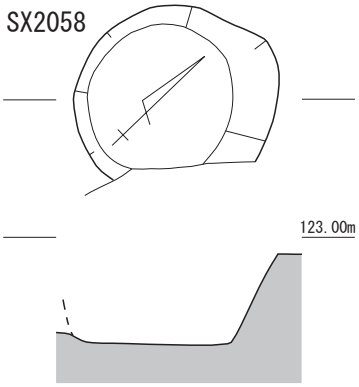
1. 腐植土
2. 10YR4/2 灰黄褐 極細砂 小礫含む
3. 10YR4/2 灰黄褐 極細砂 礫含む
4. 10YR3/3 暗褐 極細砂

SX2051



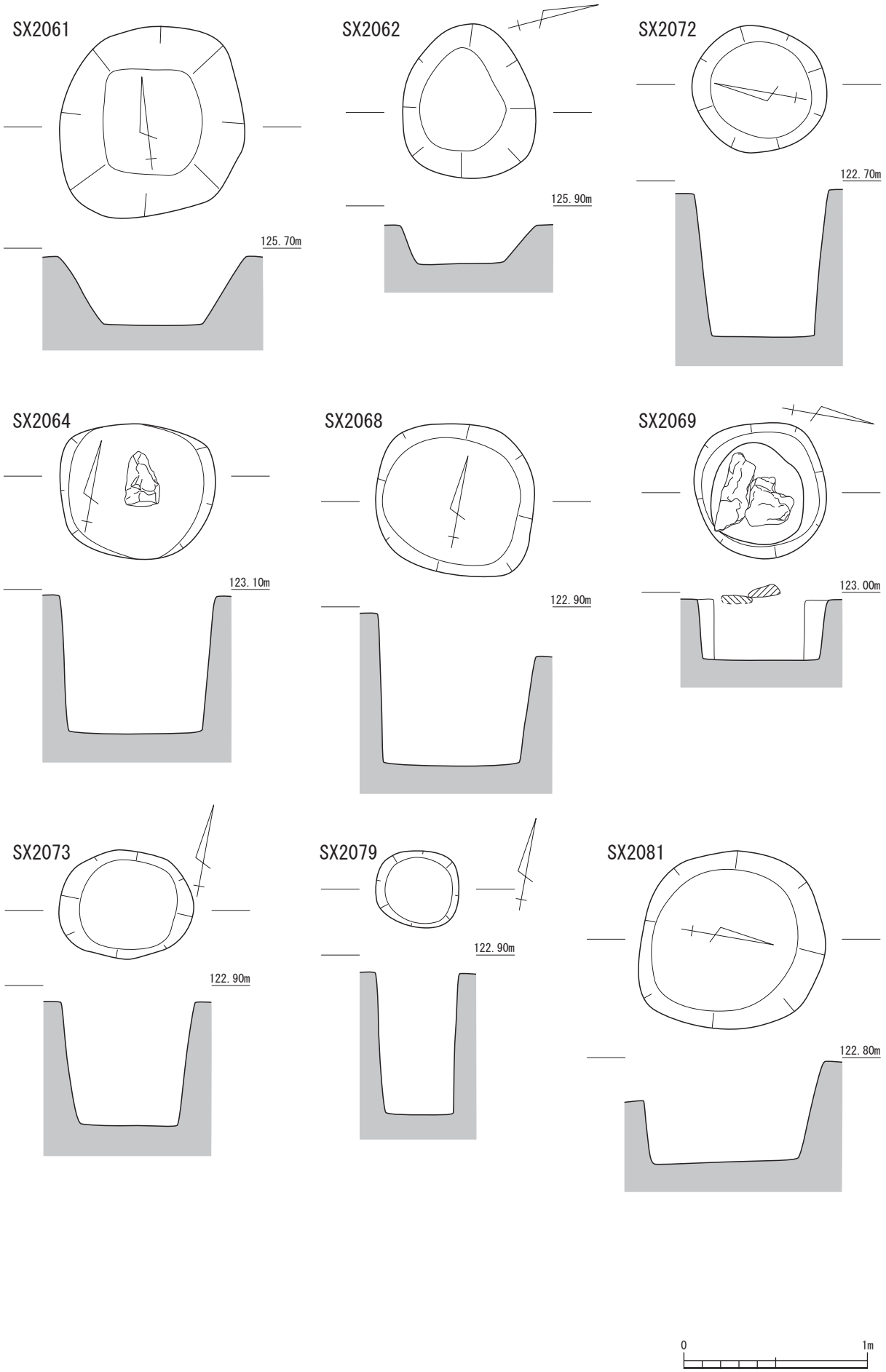
1. 2.5Y4/3 オリーブ褐 粗砂混じり細砂
2. 2.5Y4/2 暗灰黄 シルト混じり細砂
3. 2.5Y5/3 黄褐 粗砂混じり細砂 下層に骨
4. 2.5Y5/4 黄褐 細砂

SX2058



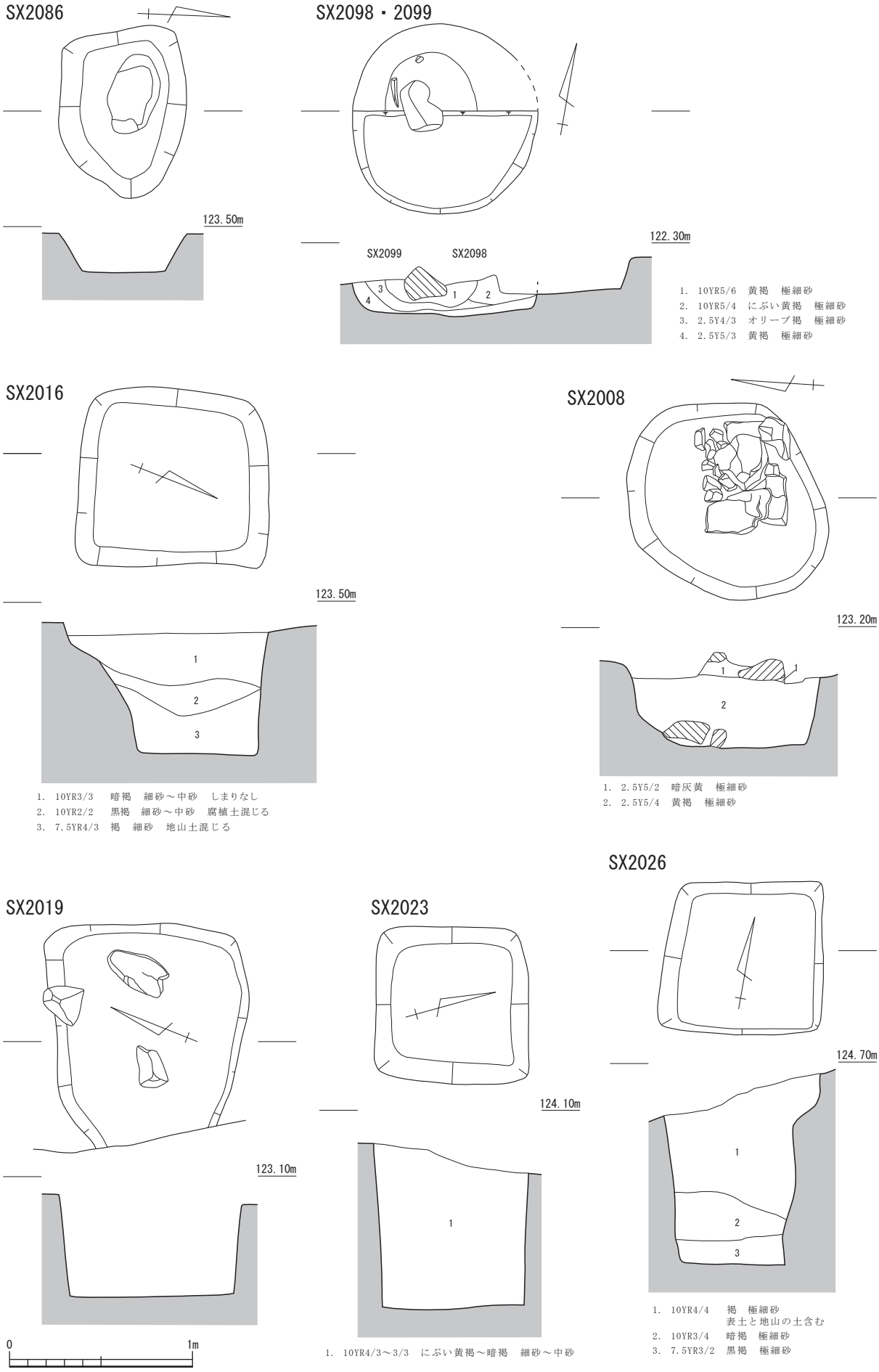
0 1m

２区土層墓　円形棺１

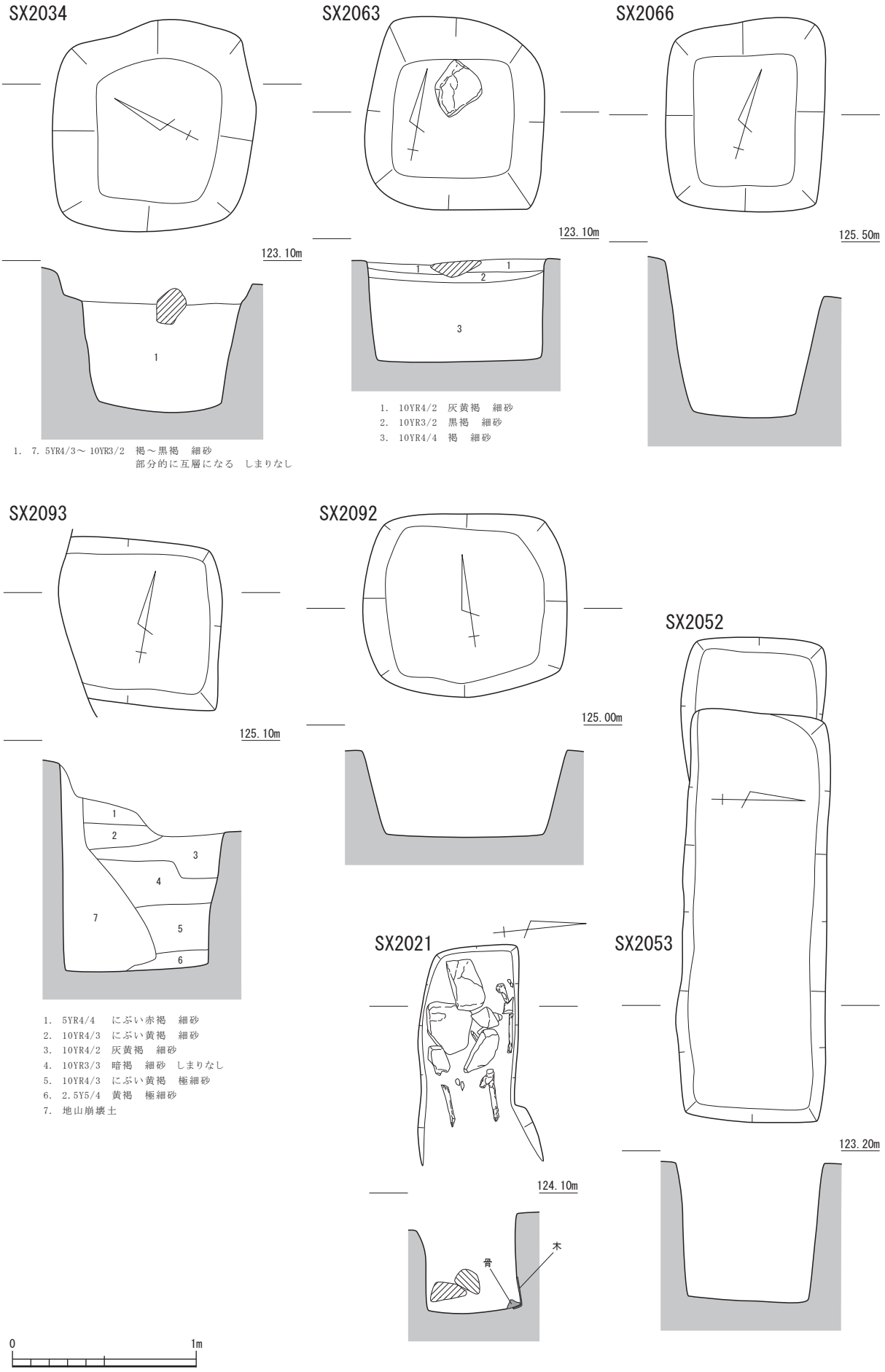

SX2061
125.70m
SX2062
125.90m
SX2072
122.70m
SX2064
123.10m
SX2068
122.90m
SX2069
123.00m
SX2073
122.90m
SX2079
122.90m
SX2081
122.80m
0
1m

２区土葬墓　円形棺２

観音寺跡

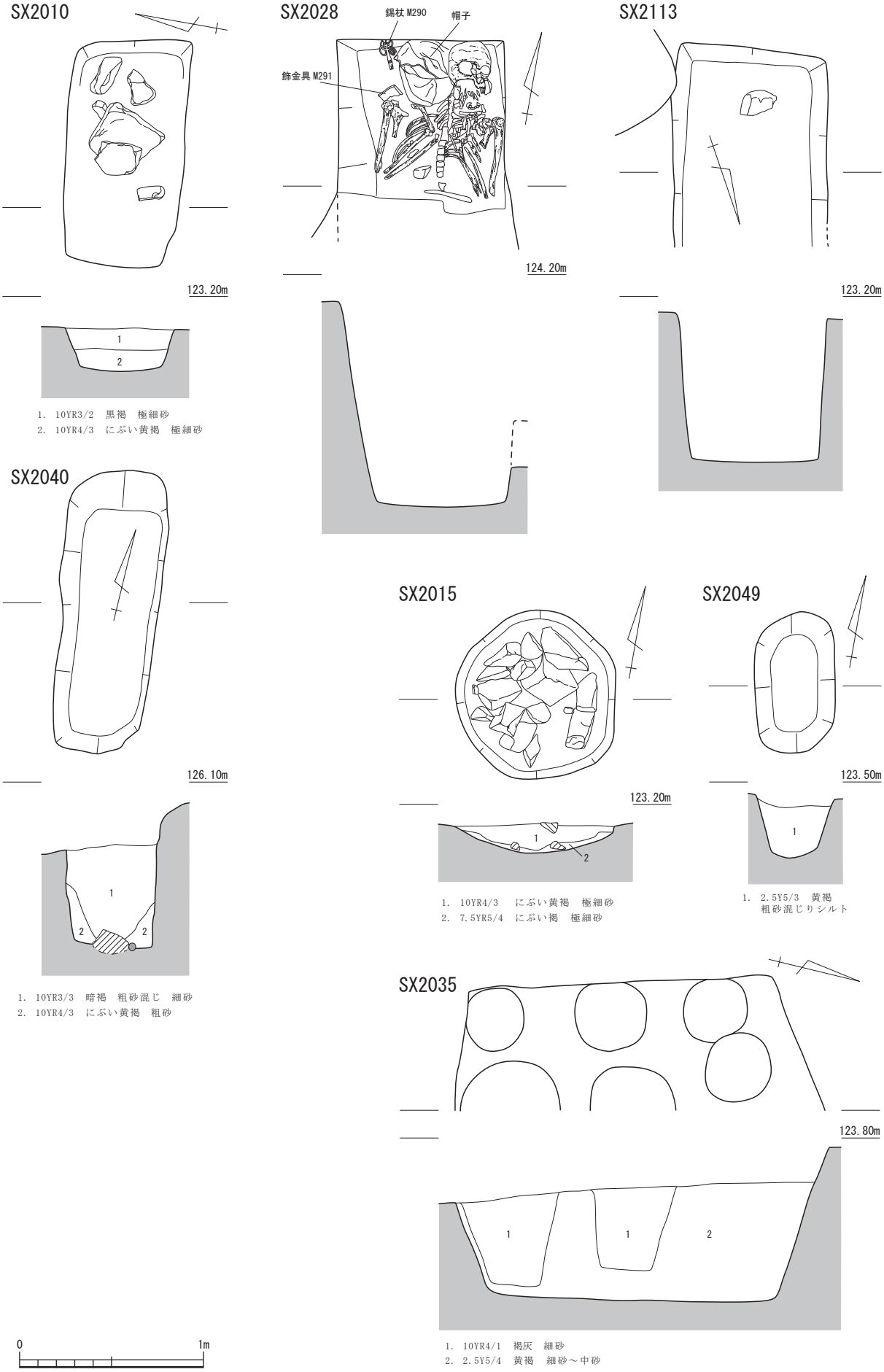


２区土葬墓　円形棺３・方形棺１



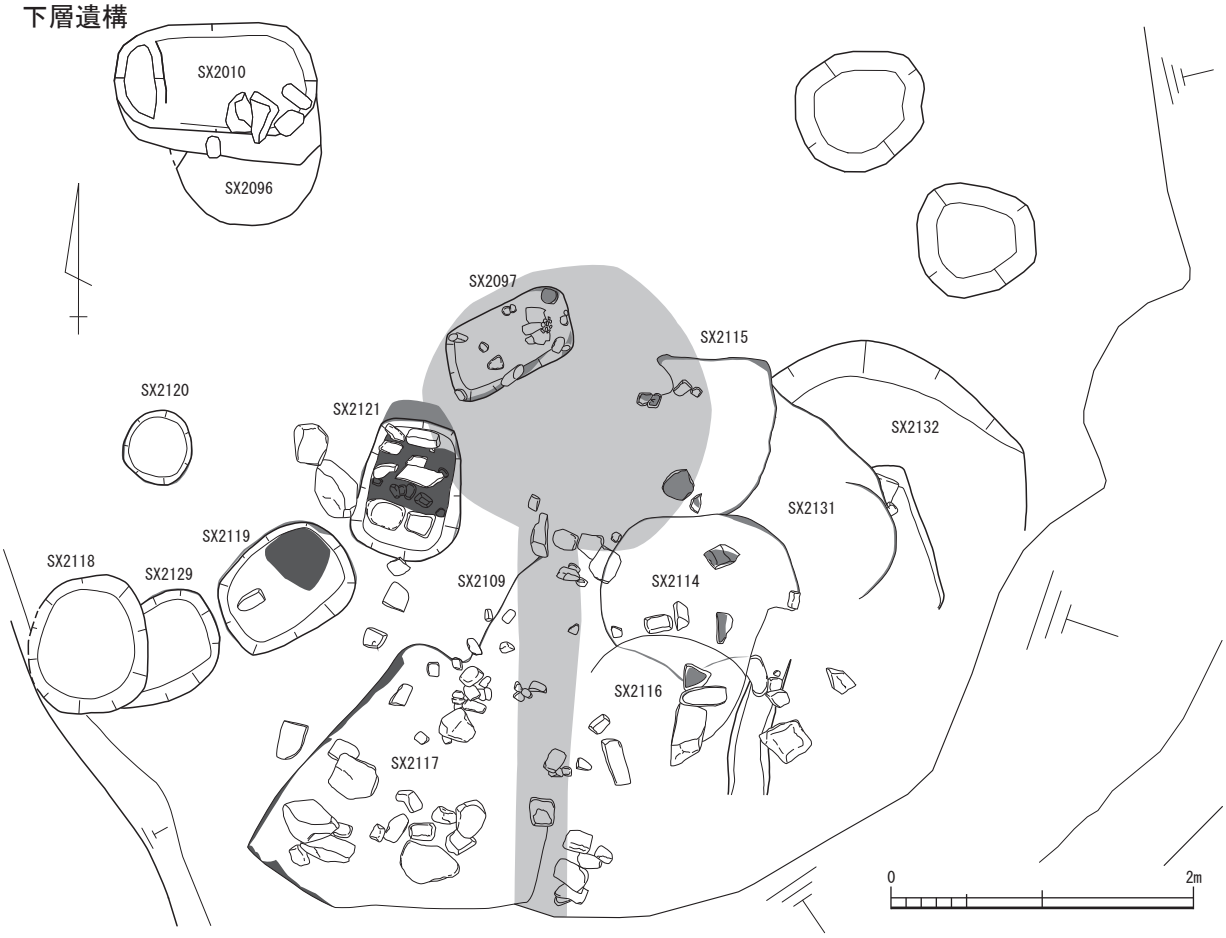
２区土葬墓 方形棺２・長方形棺１

観音寺跡

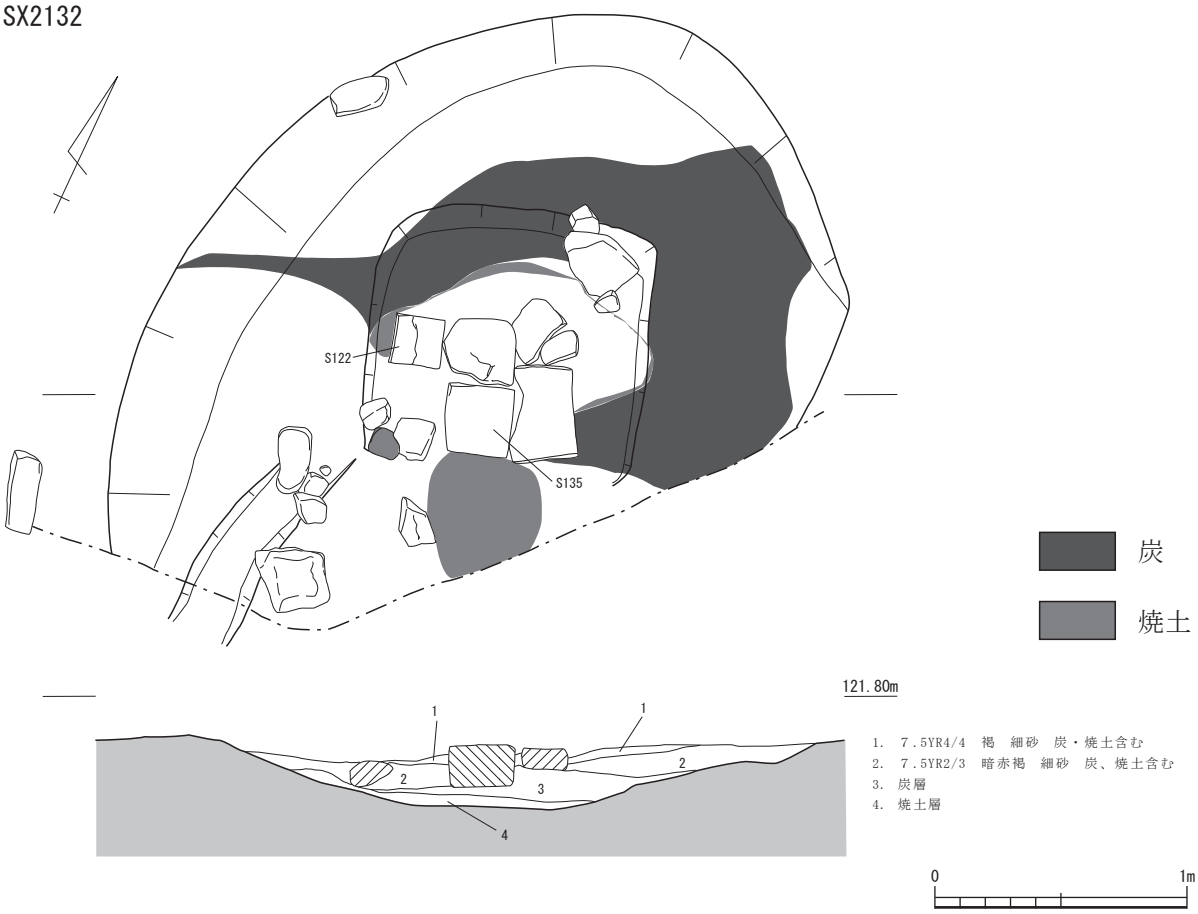


２区土葬墓　長方形棺２・その他

下層遺構

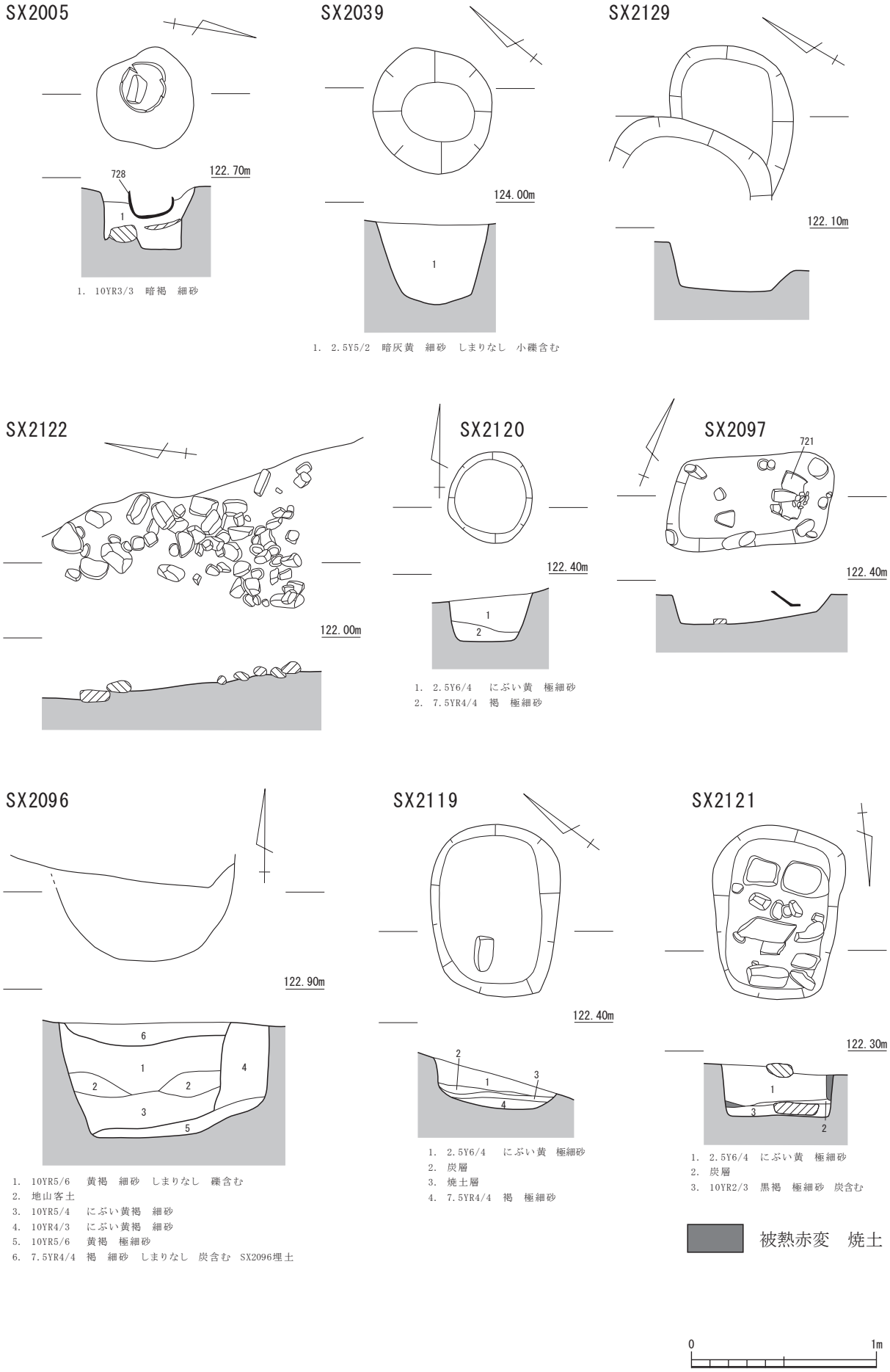


SX2132

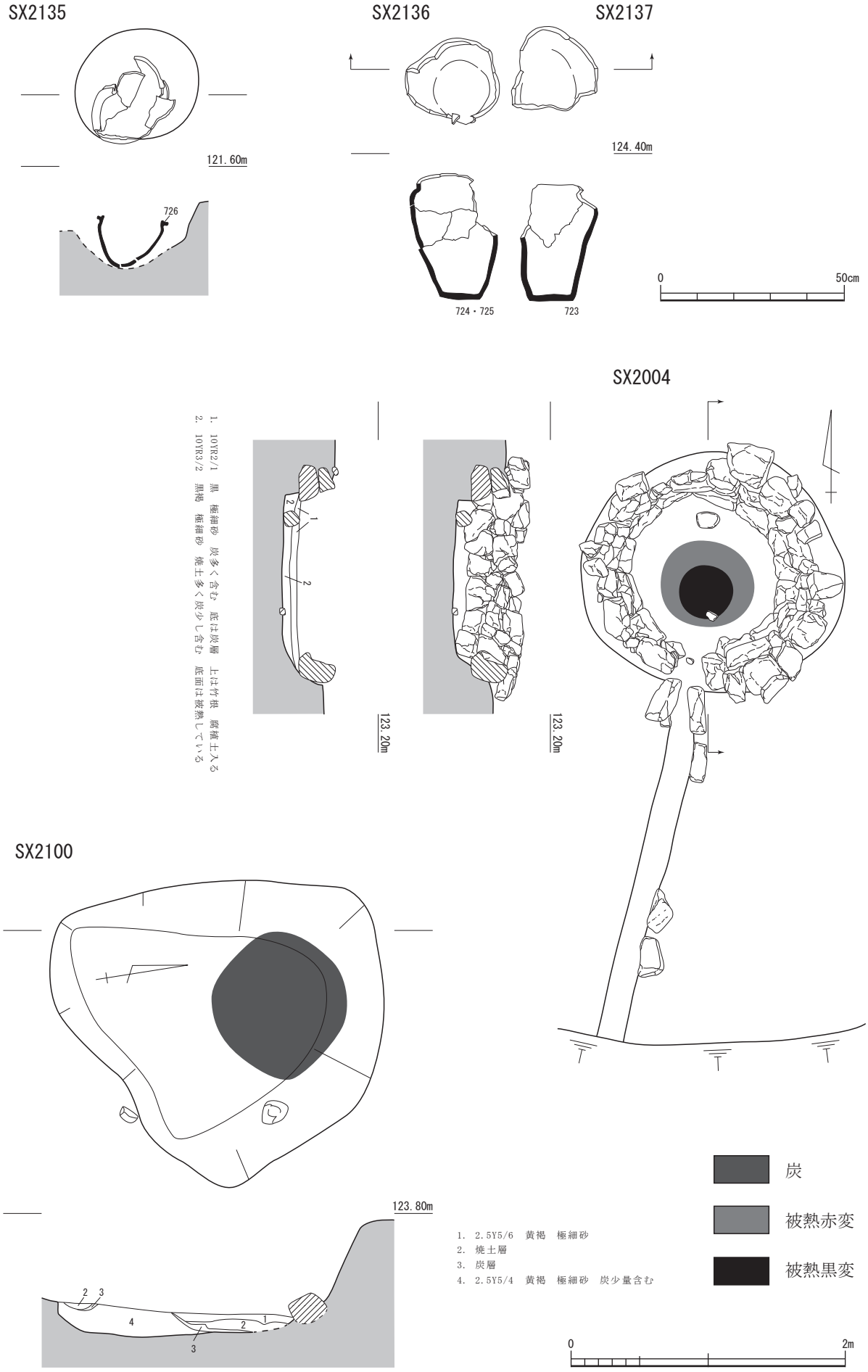


２区下層の中近世火葬址と共同火葬場

観音寺跡

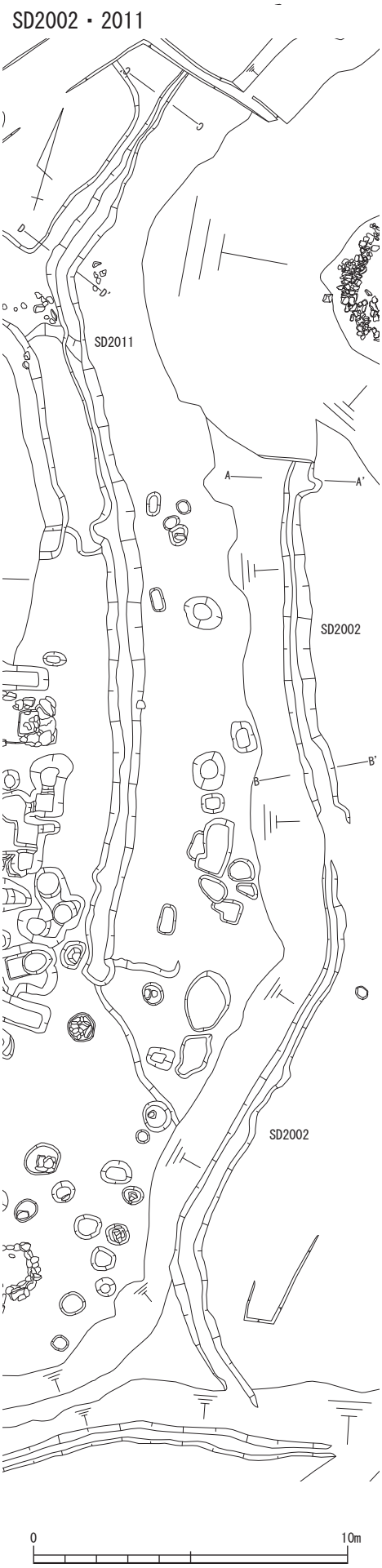


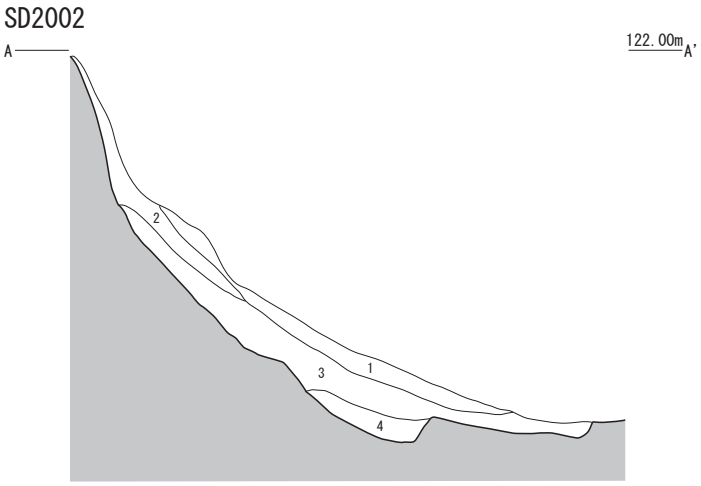
２区中近世火葬墓・火葬址



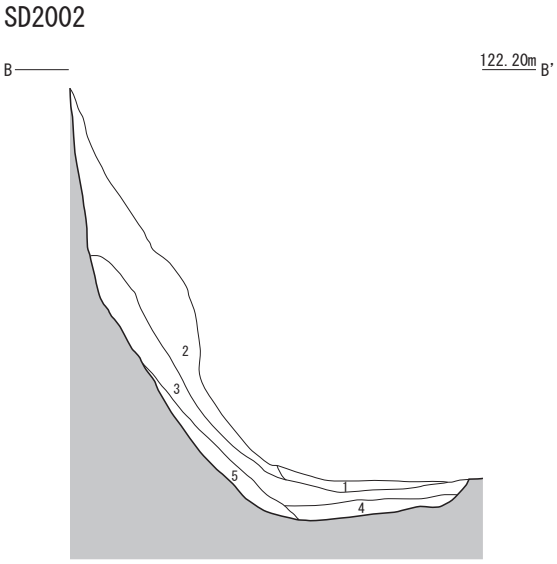
２区近世火葬墓・火葬址と各時期の共同火葬場

観音寺跡

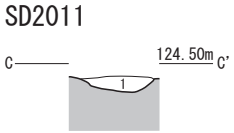




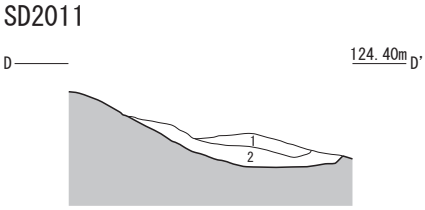
1. 2.5Y4/3 オリーブ褐 細砂
2. 2.5Y5/3 黄褐 細砂～中砂
3. 2.5Y5/4 黄褐 極細砂 小礫含む
4. 2.5Y3/2 黒褐 細砂



1. 2.5Y4/3 オリーブ褐 細砂
2. 2.5Y5/3 黄褐 細砂～中砂
3. 2.5Y5/4 黄褐 極細砂 小礫含む
4. 2.5Y4/2 暗灰黄 中砂 礫・地山土含む
5. 2.5Y5/6 黄褐 細砂



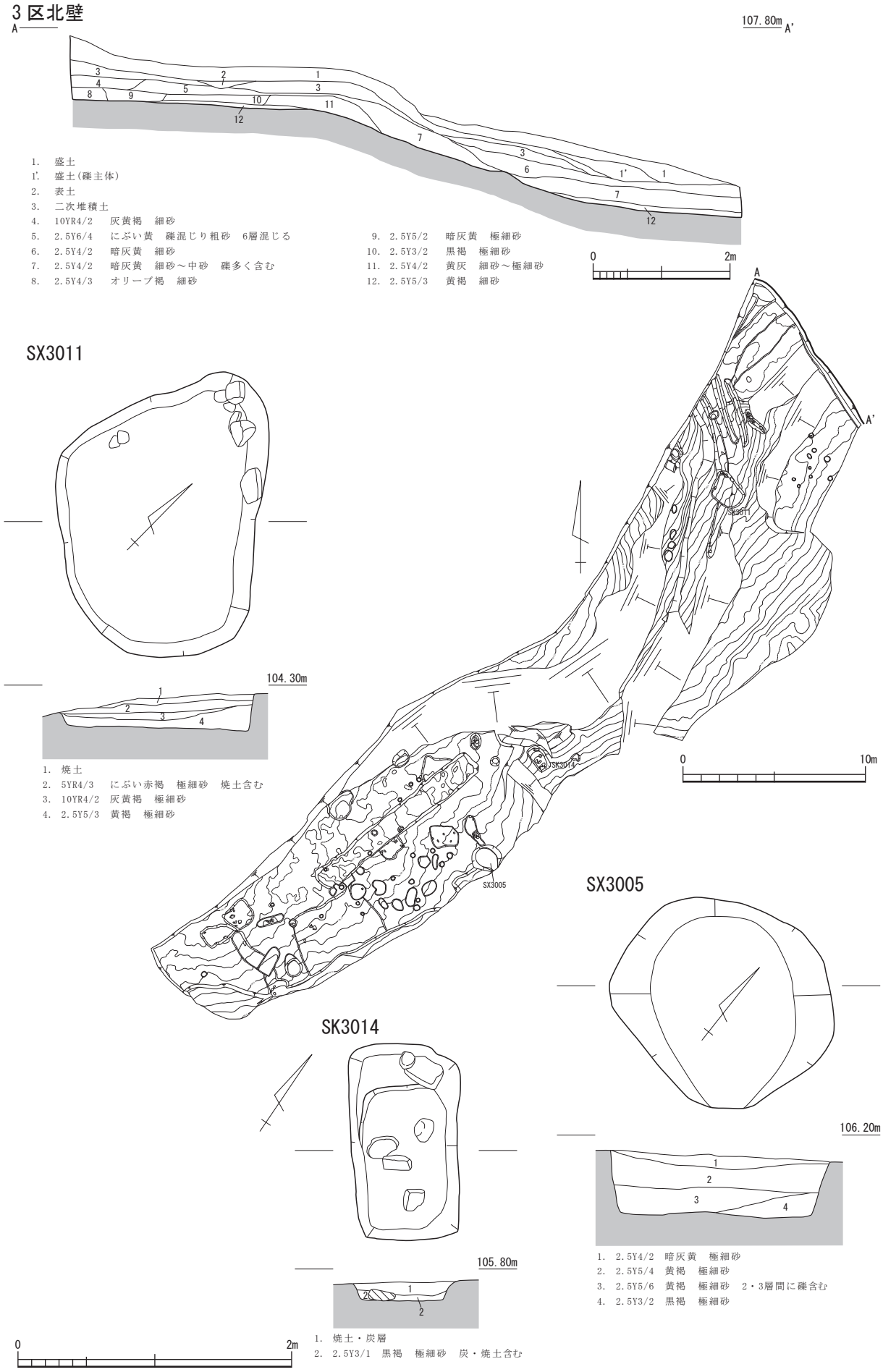
1. 2.5Y5/6 黄褐 細砂 炭含む



1. 2.5Y4/3 オリーブ褐 細砂 小礫～中礫 炭含む
2. 2.5Y5/3 黄褐 細砂 小礫～中礫含む

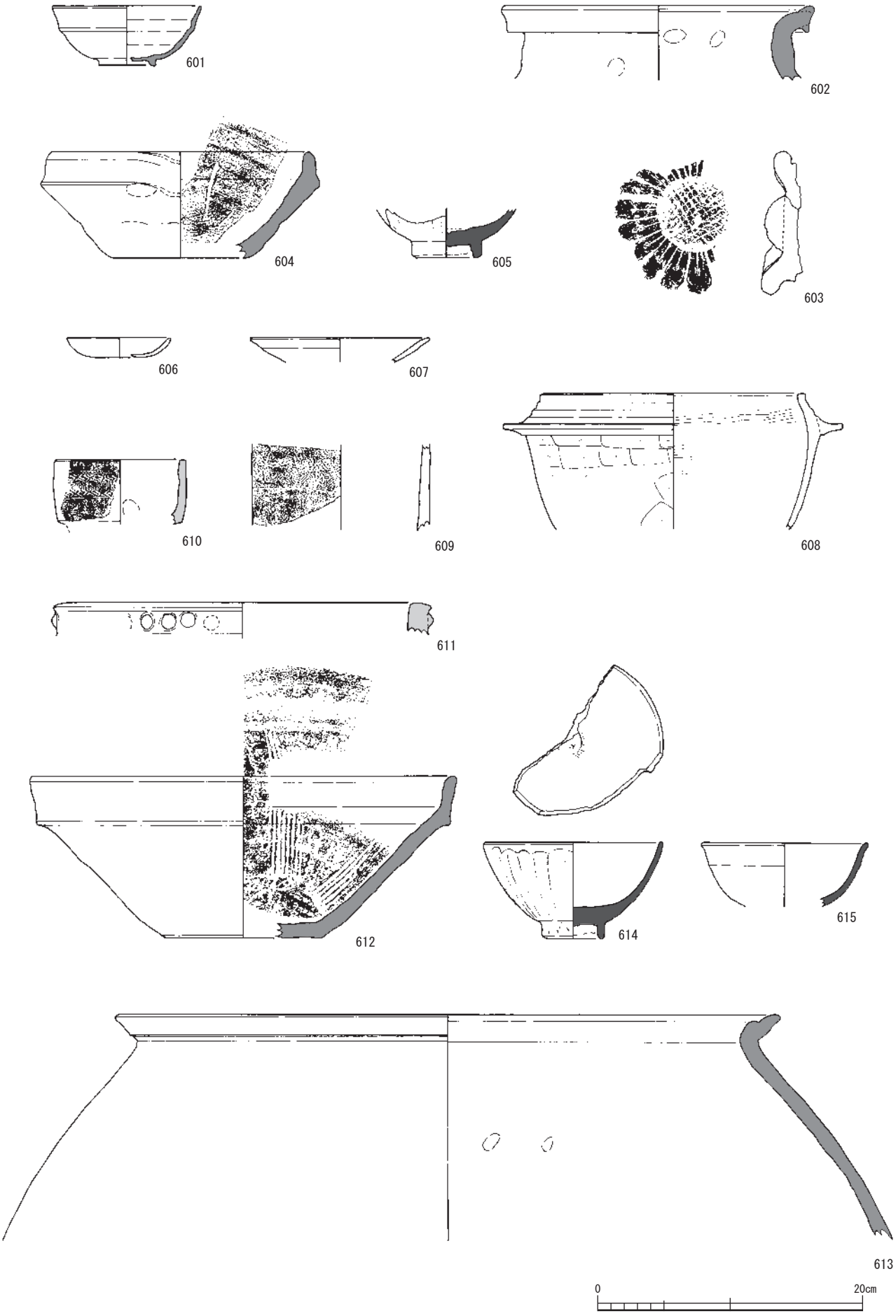
0 1m

2区中段溝

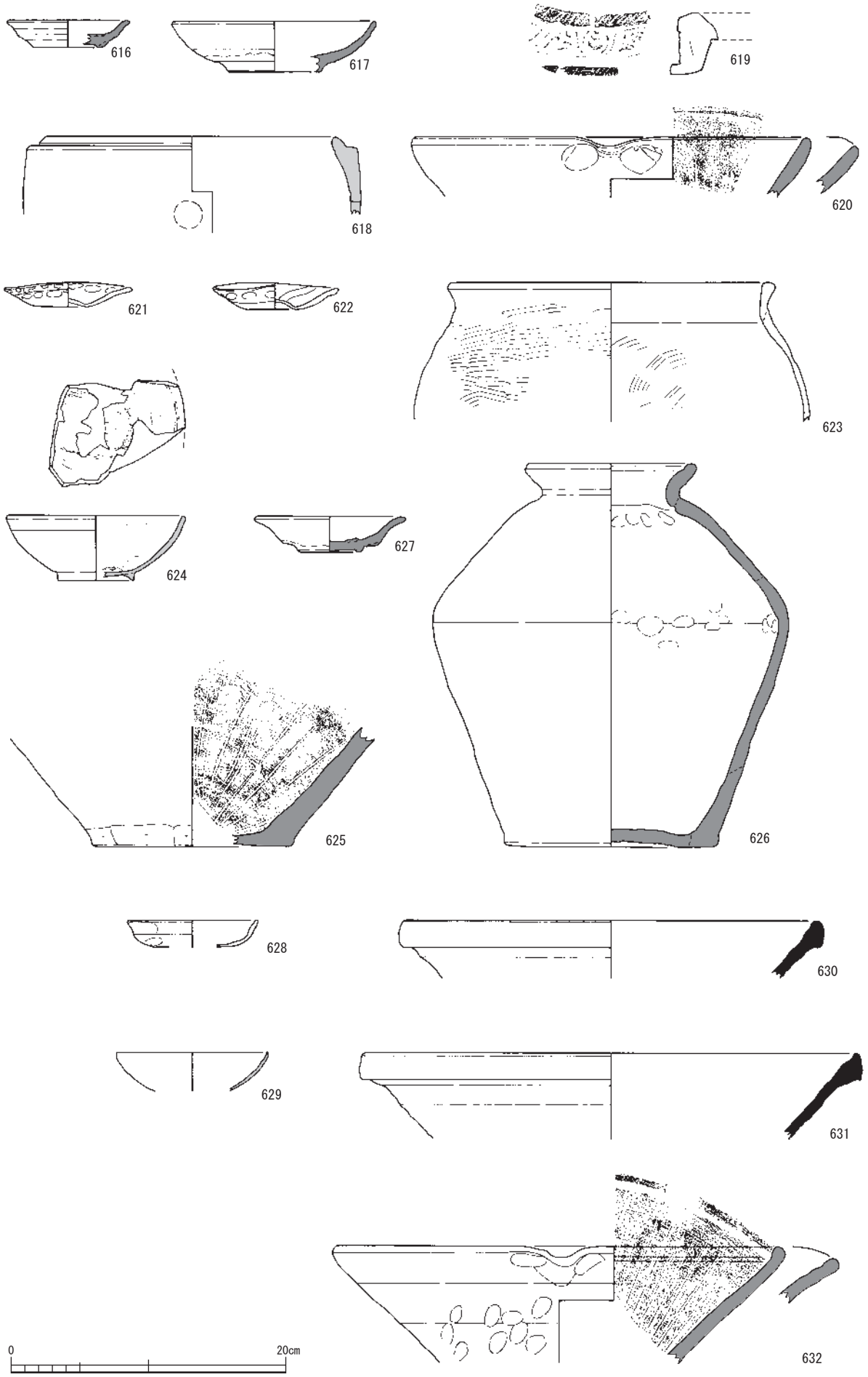


3区全体図・土層断面・土坑

観音寺跡１区

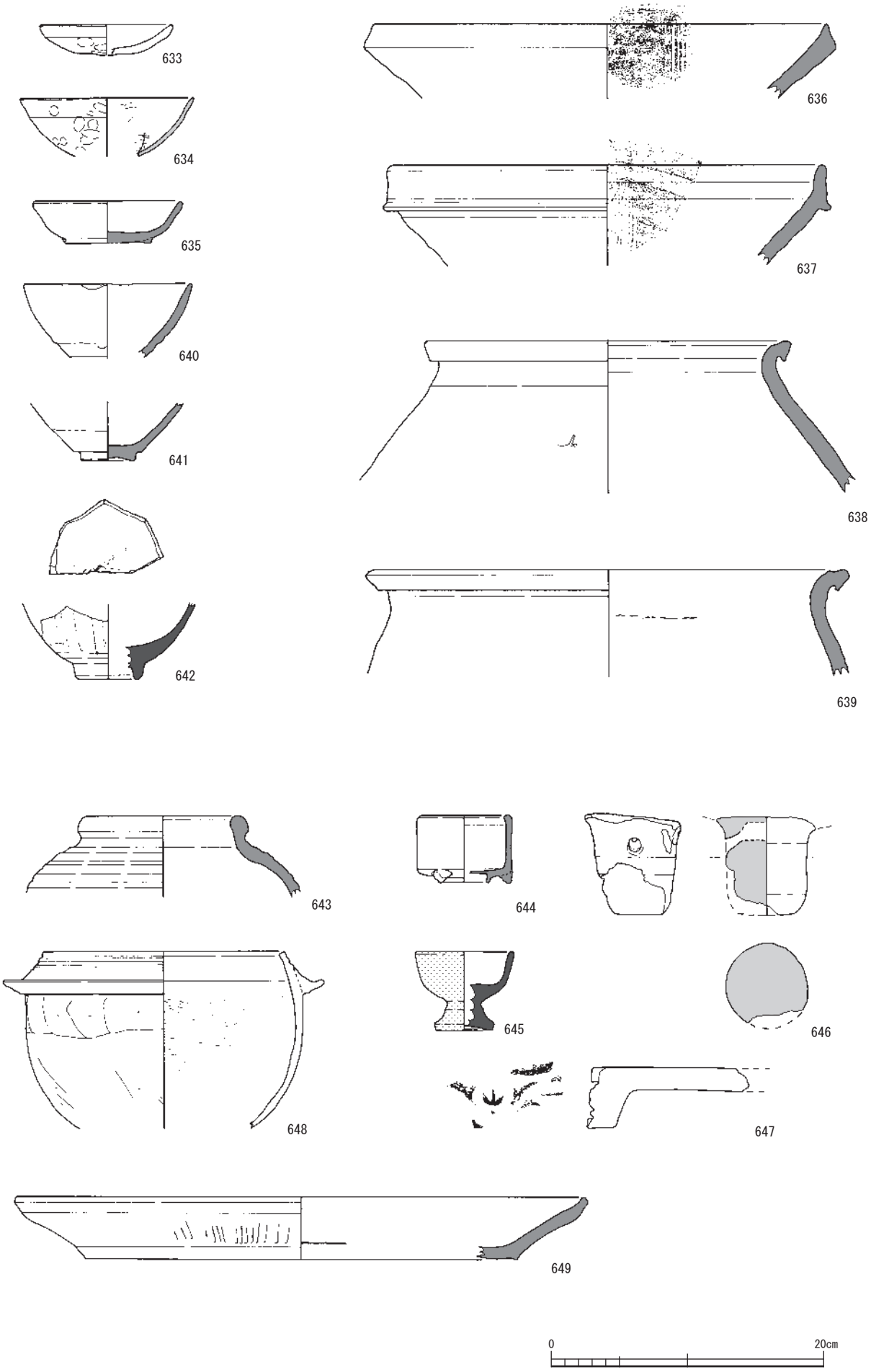


出土土器１（平坦面４の土器）

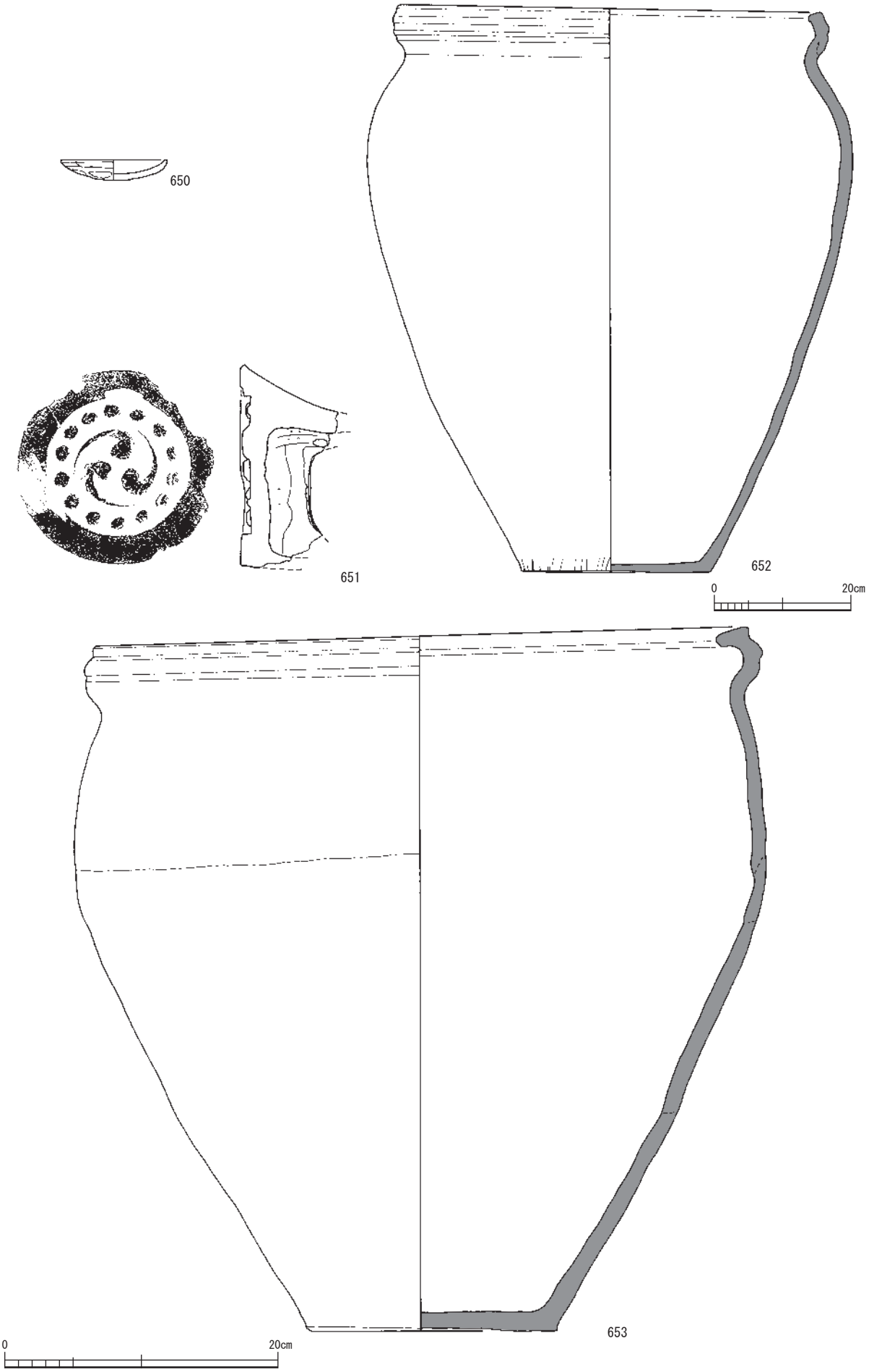


出土土器２（平坦面３の土器１）

観音寺跡１区

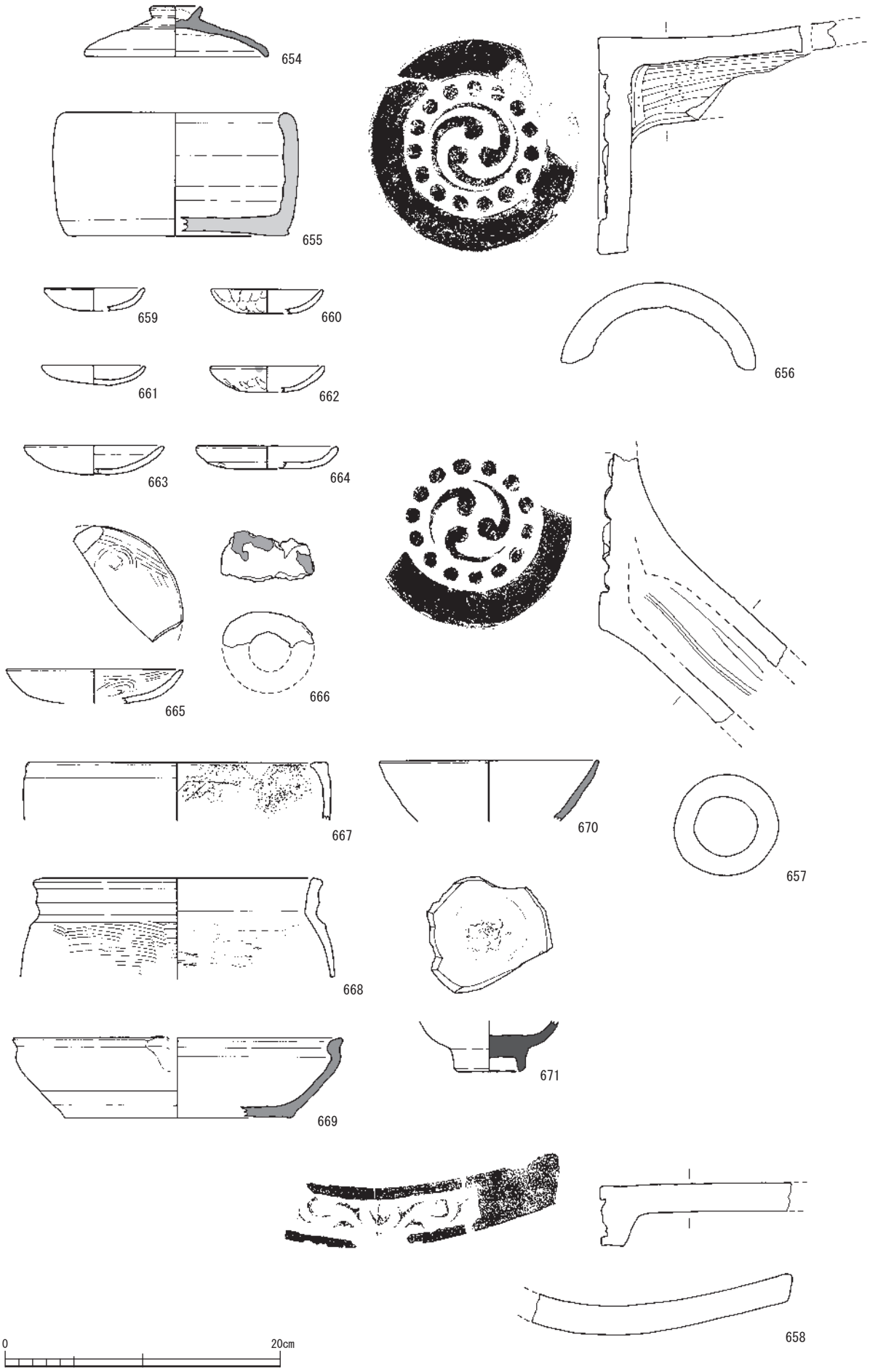


出土土器３（平坦面３の土器２、平坦面１の土器）

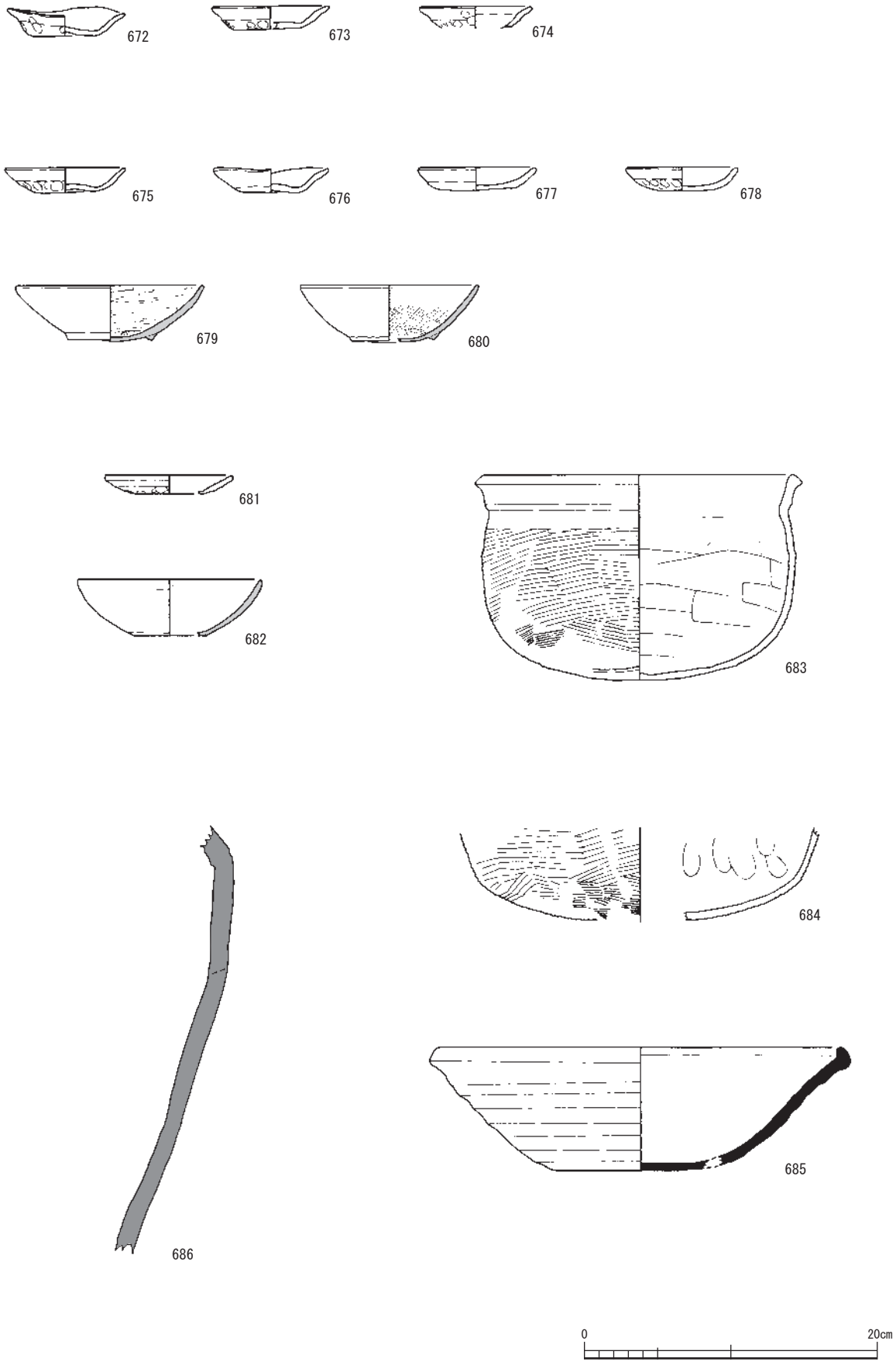


出土土器４（平坦面２の土器）

観音寺跡５区

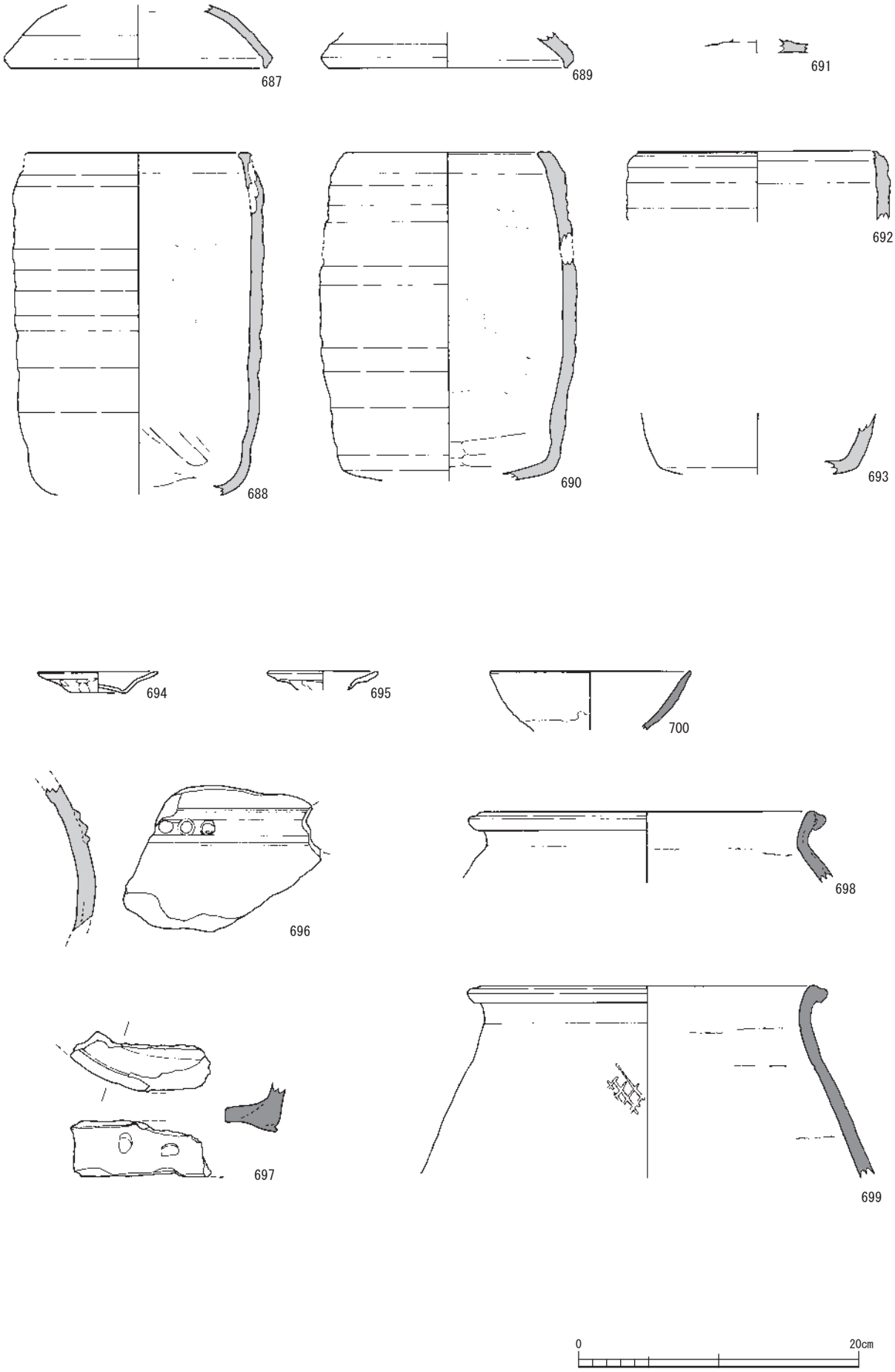


出土土器５（５区の土器）



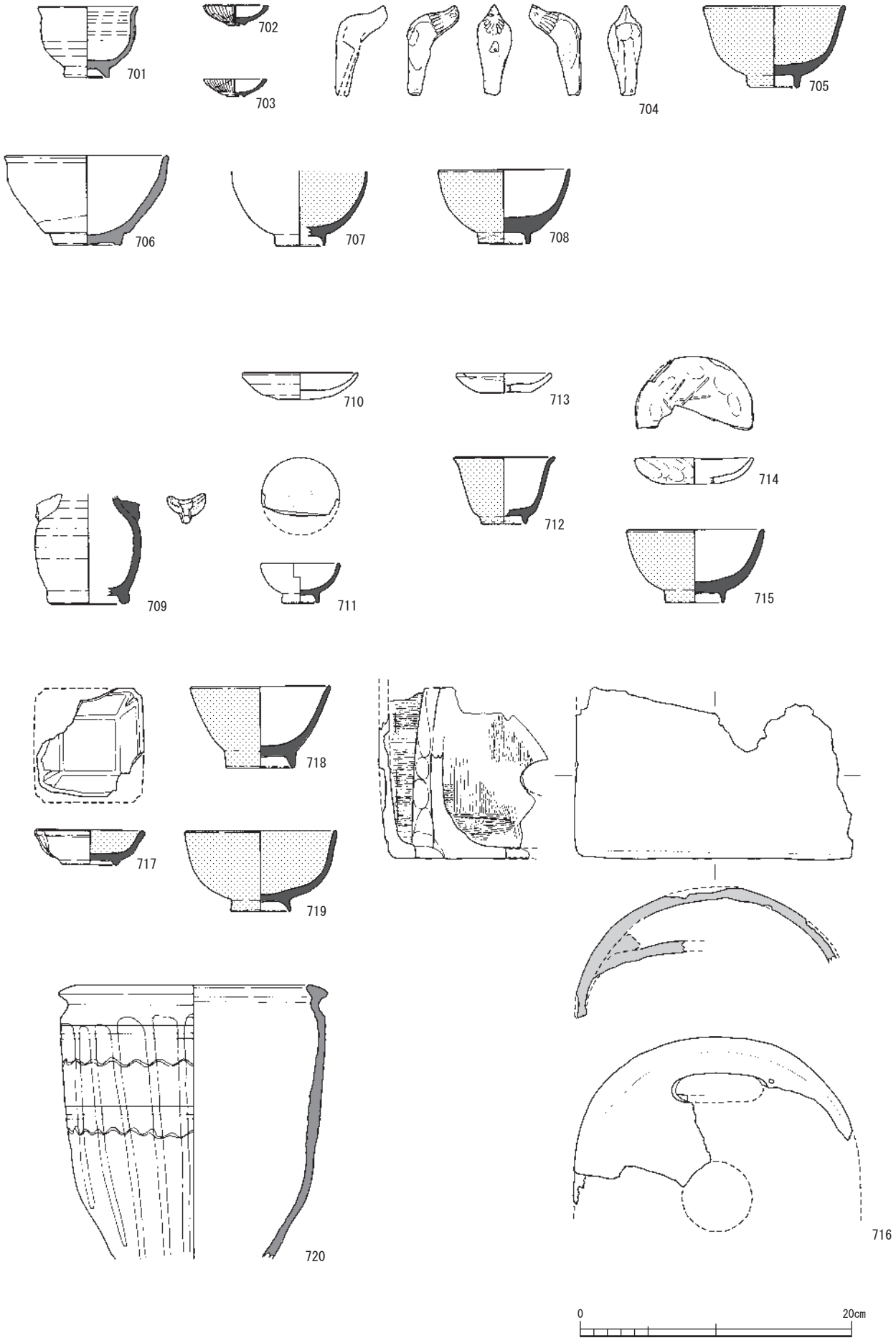
出土土器 6（中世墓の土器）

観音寺跡４区



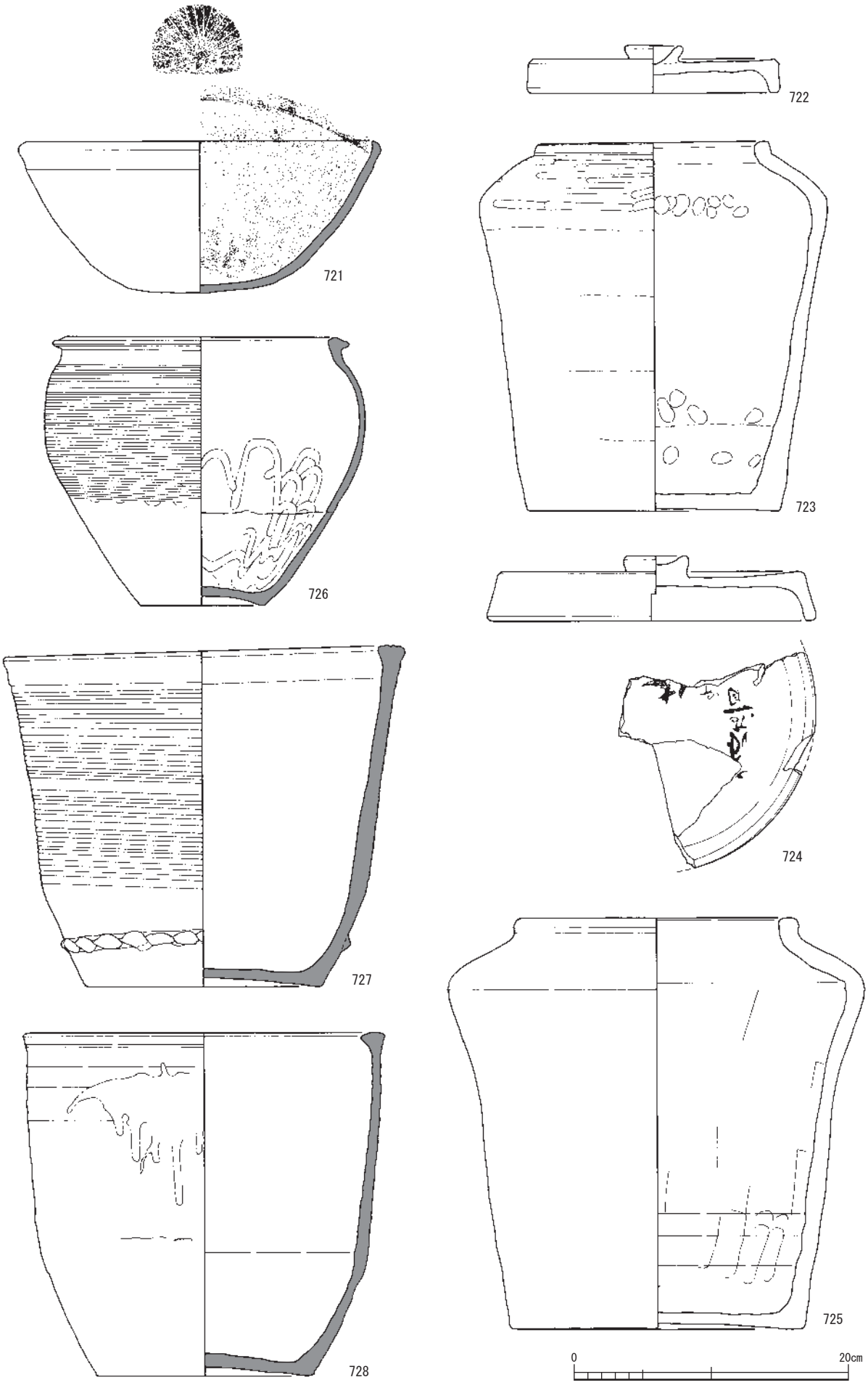
出土土器７（中世墓・包含層の土器）

観音寺跡２区

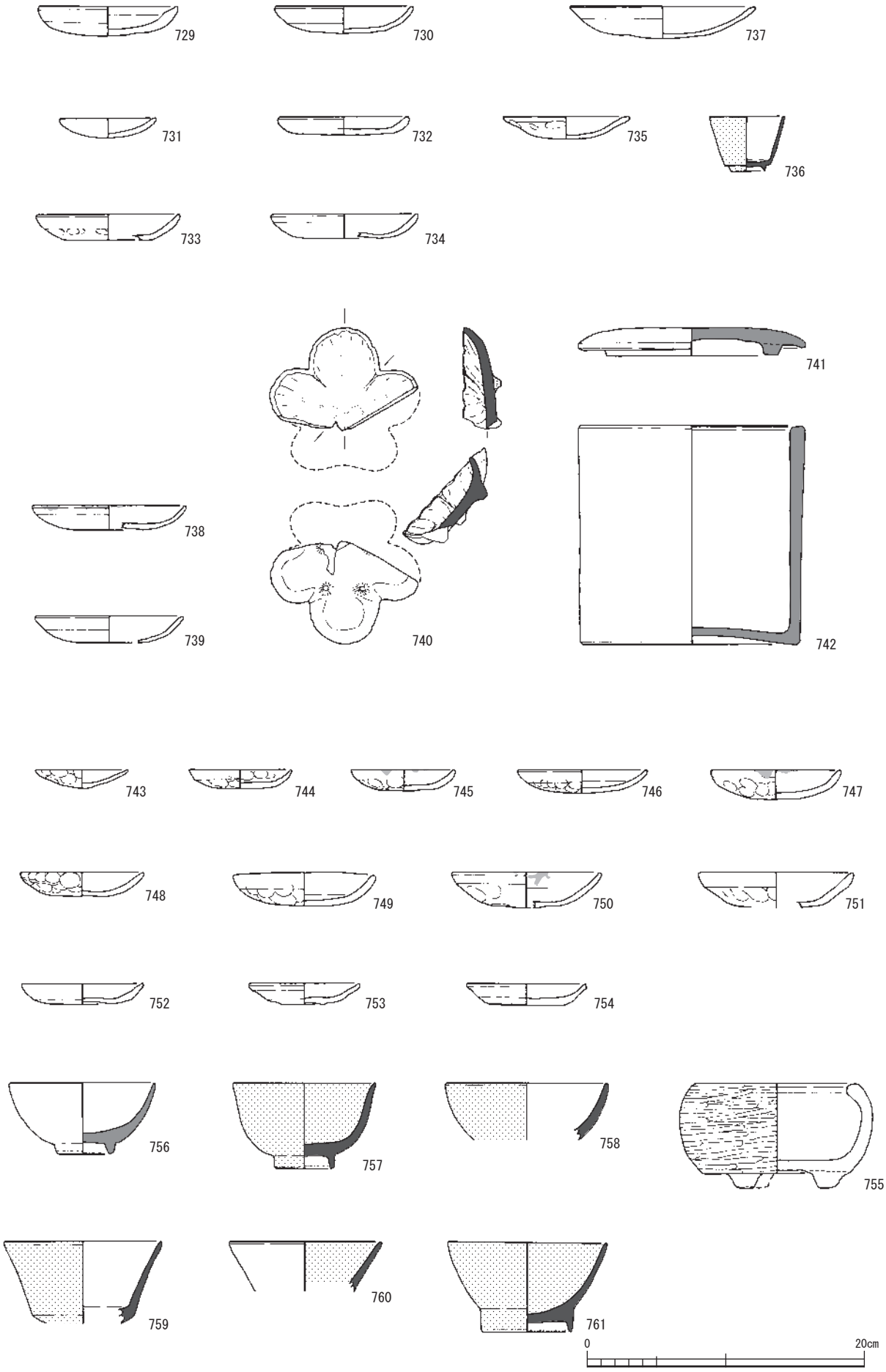


出土土器８（土葬墓の土器）

観音寺跡２区

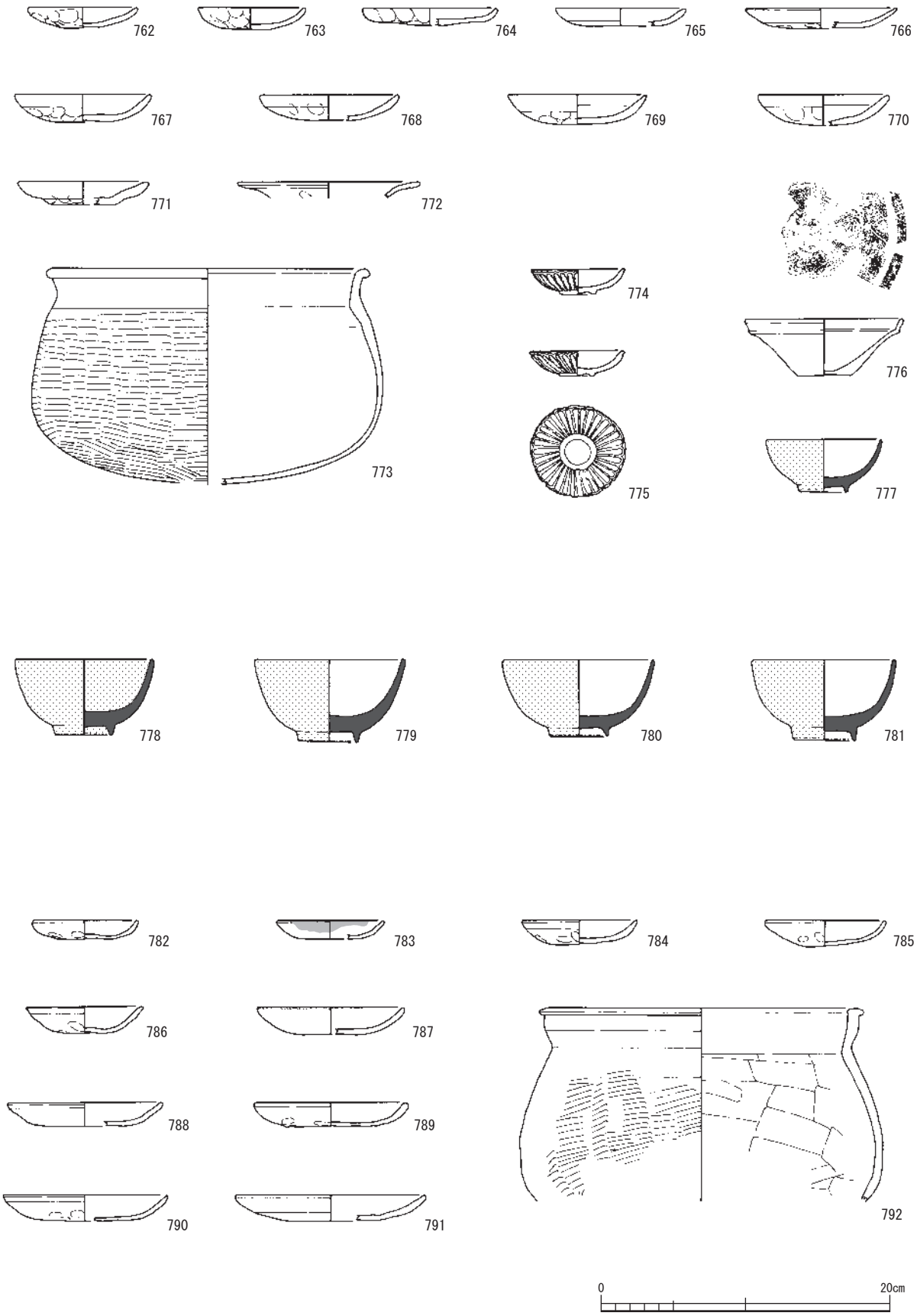


出土土器９（蔵骨器）



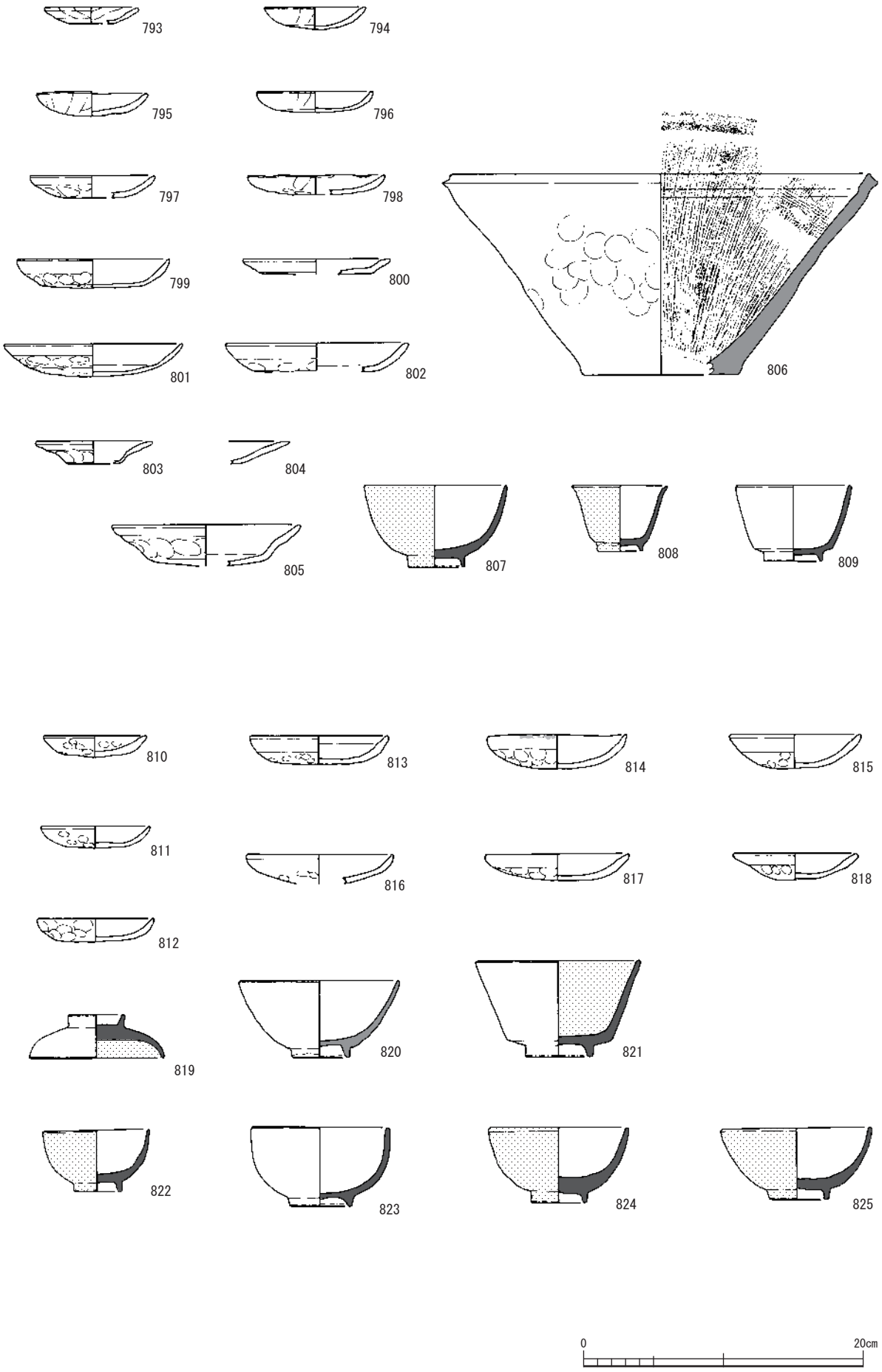
出土土器 10（火葬址・上段・上層・包含層の土器）

観音寺跡２区



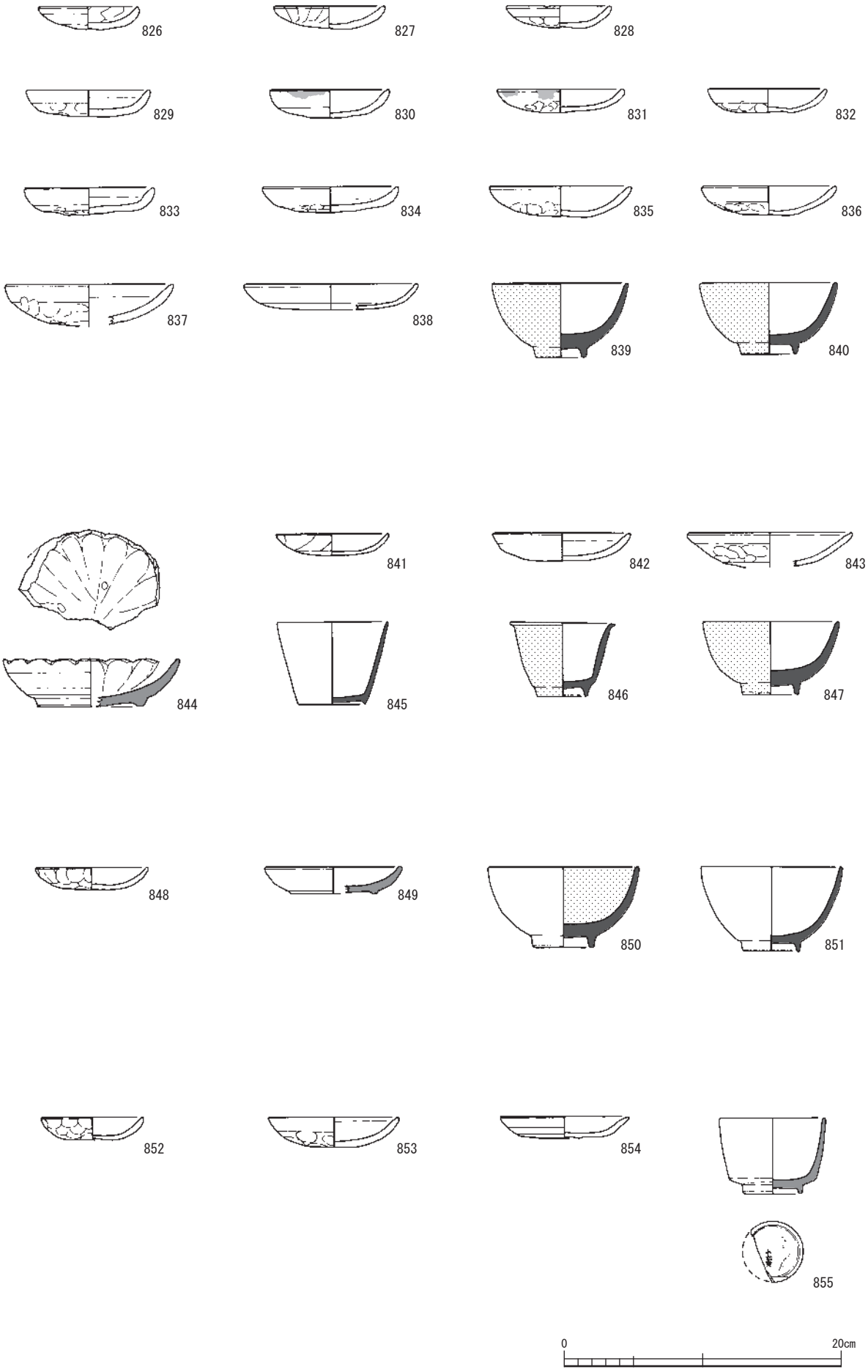
出土土器 11（上段下層の土器 1）

観音寺跡２区



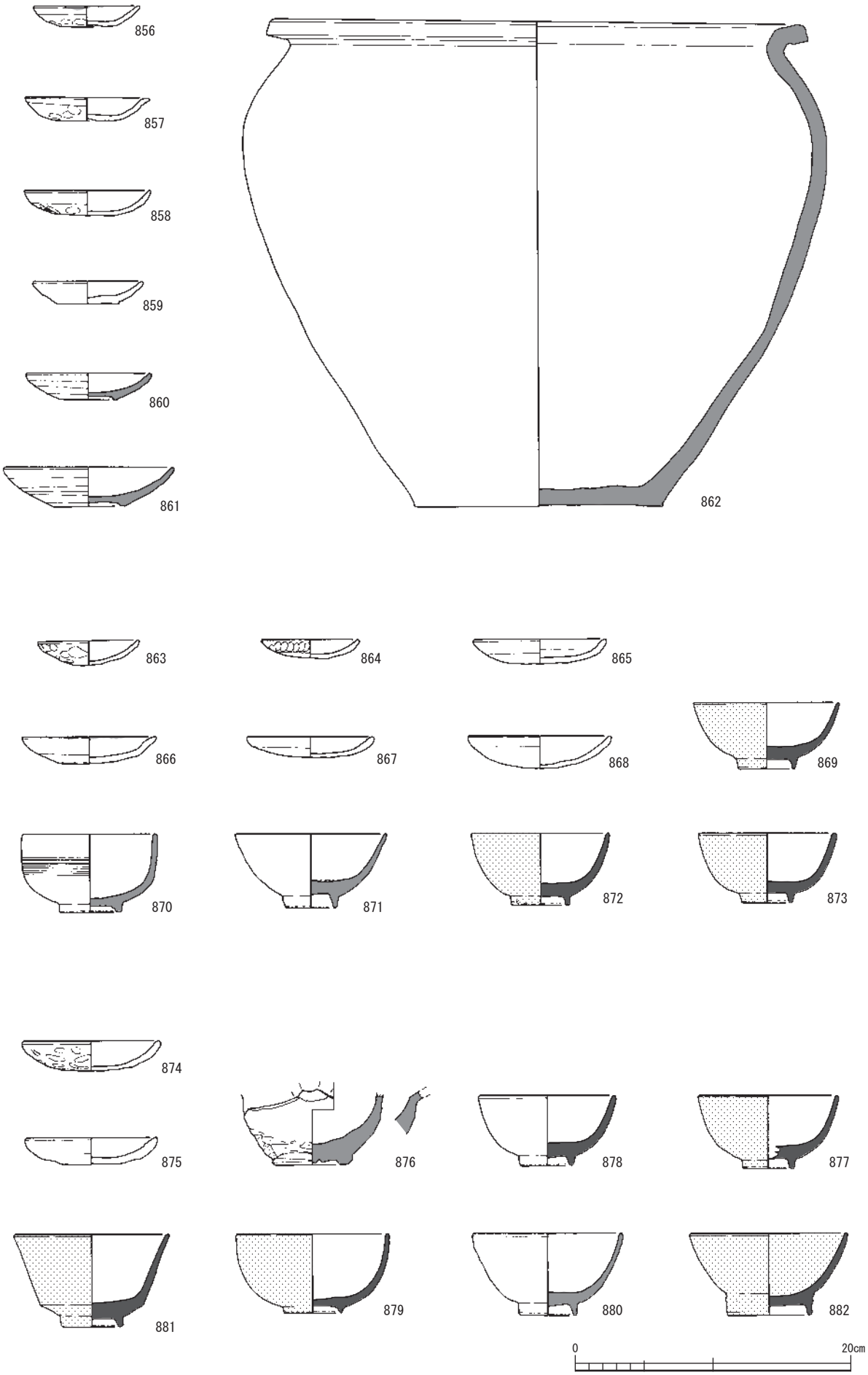
出土土器 12（上段下層の土器 2）

観音寺跡２区



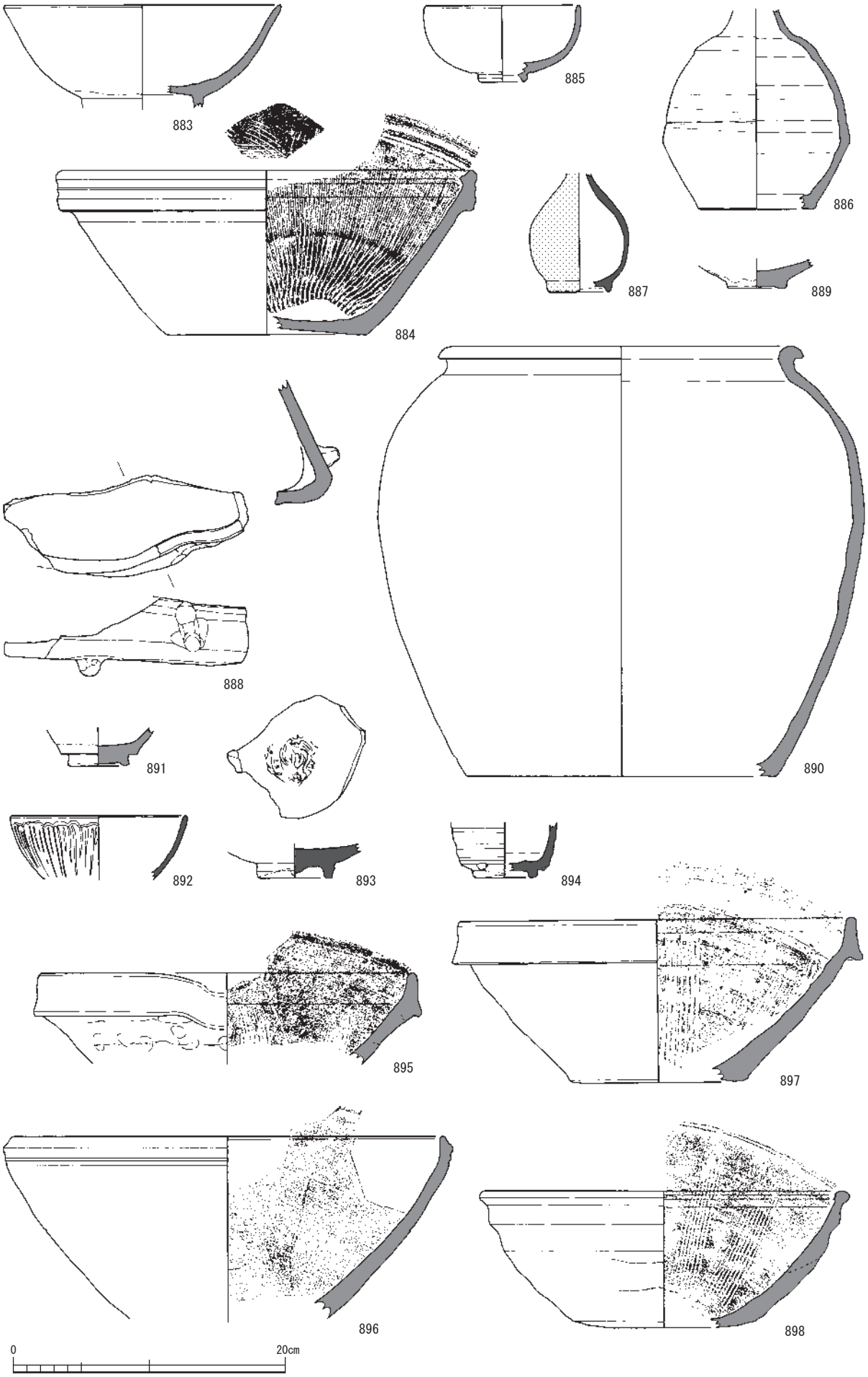
出土土器 13（中段・包含層の土器 1）

観音寺跡２区



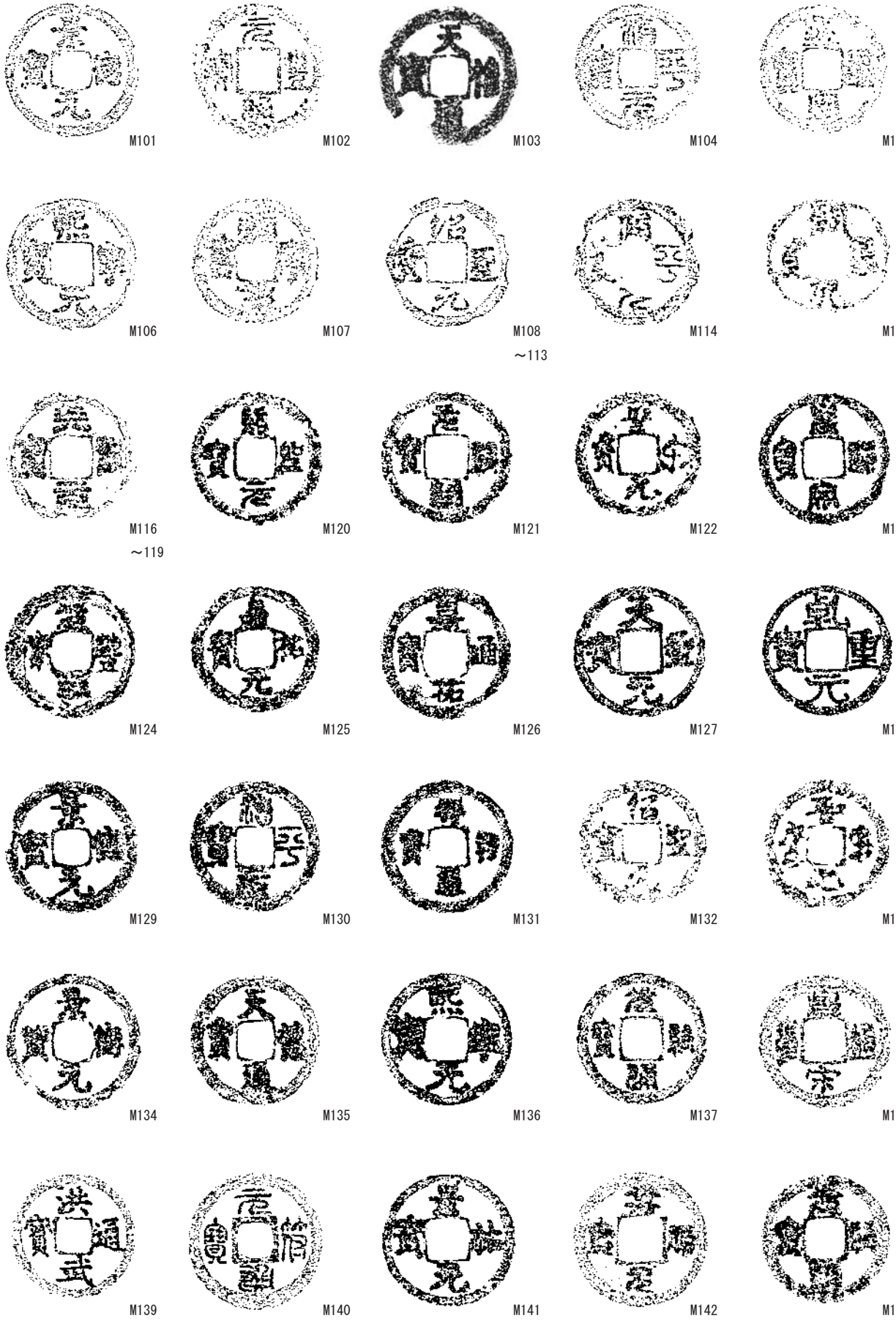
出土土器 14（中段・包含層の土器 2）

観音寺跡３区



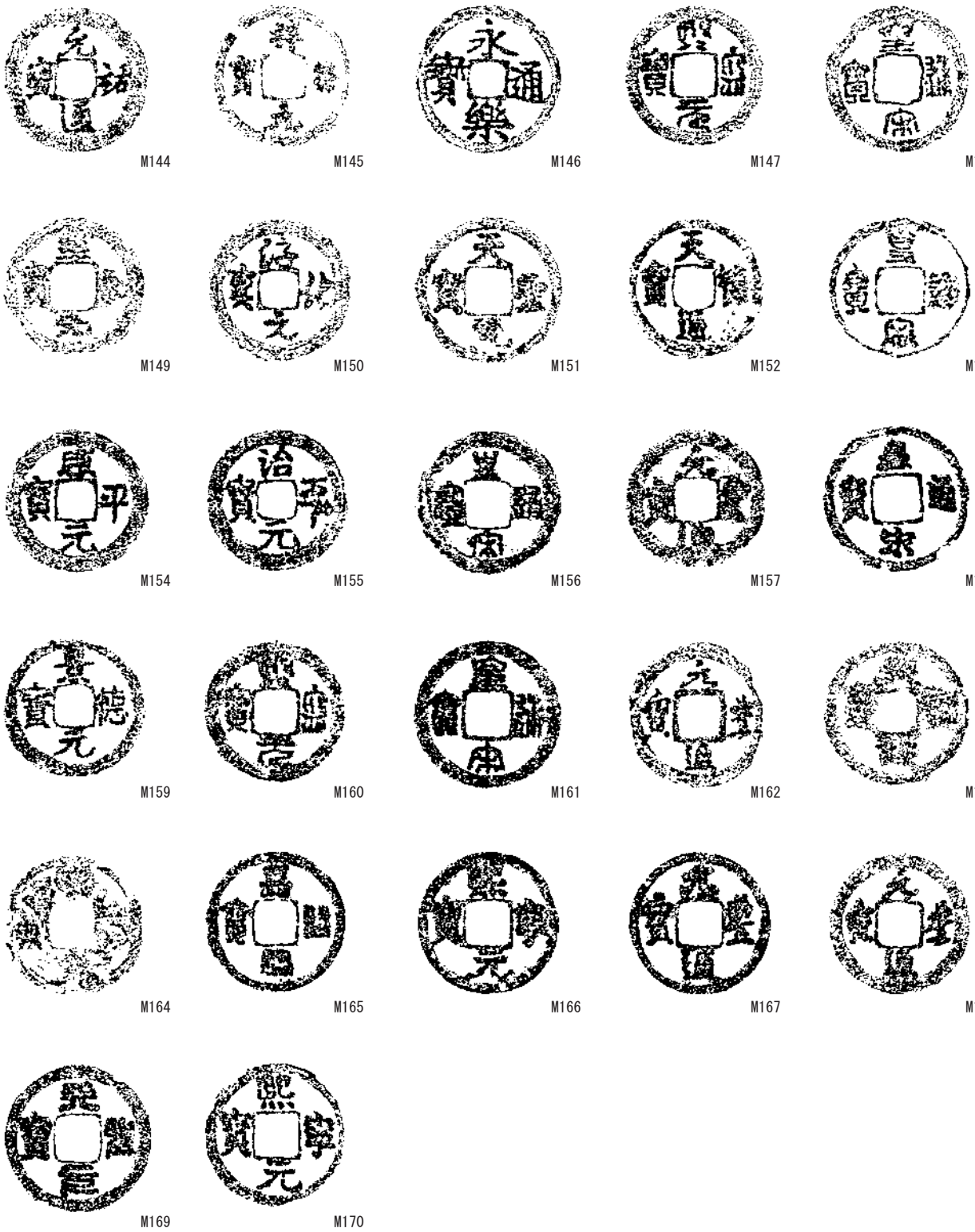
出土土器 15（遺構・包含層・トレンチの土器）

観音寺跡



出土金属製品 1

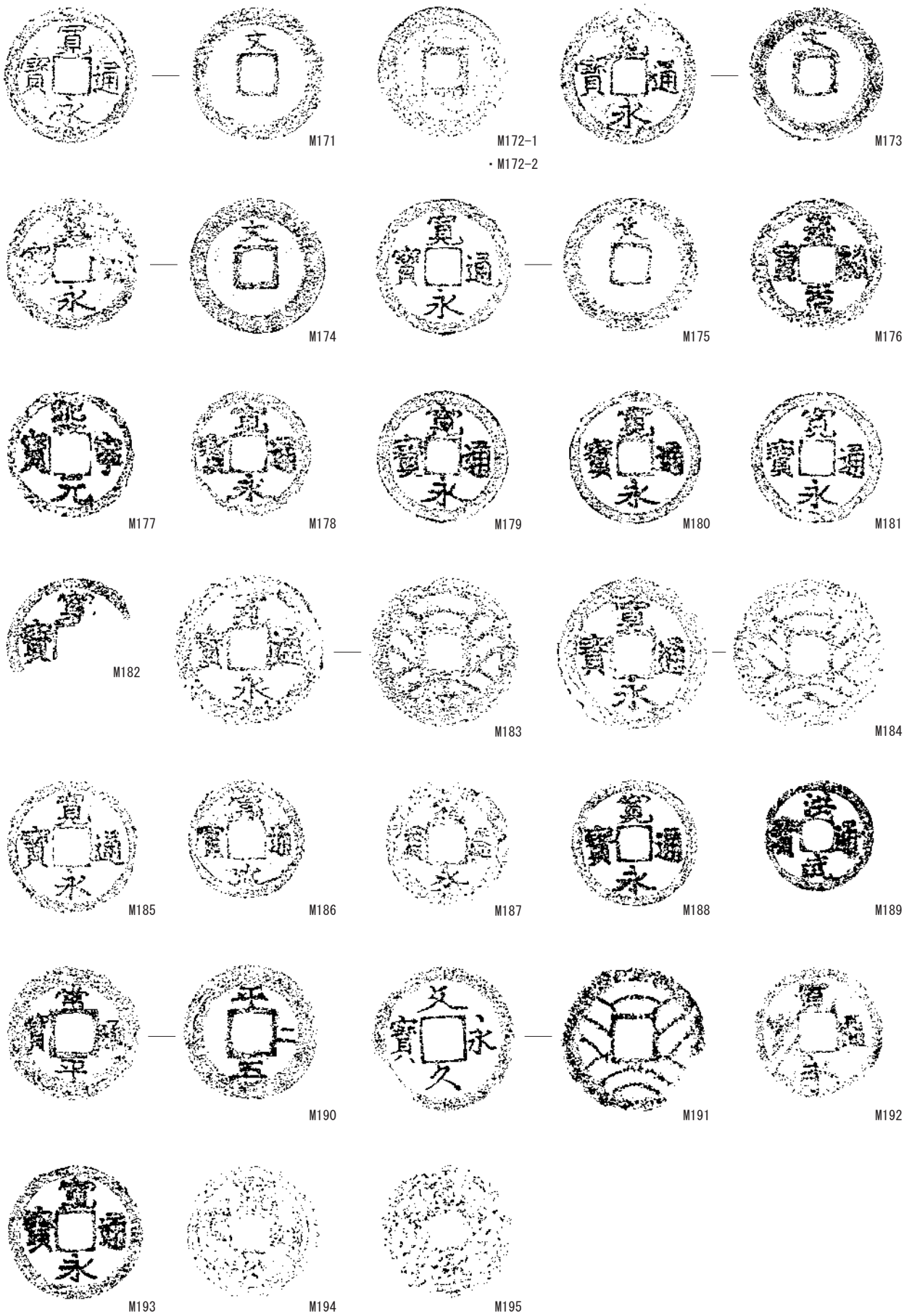
観音寺跡



0 10cm

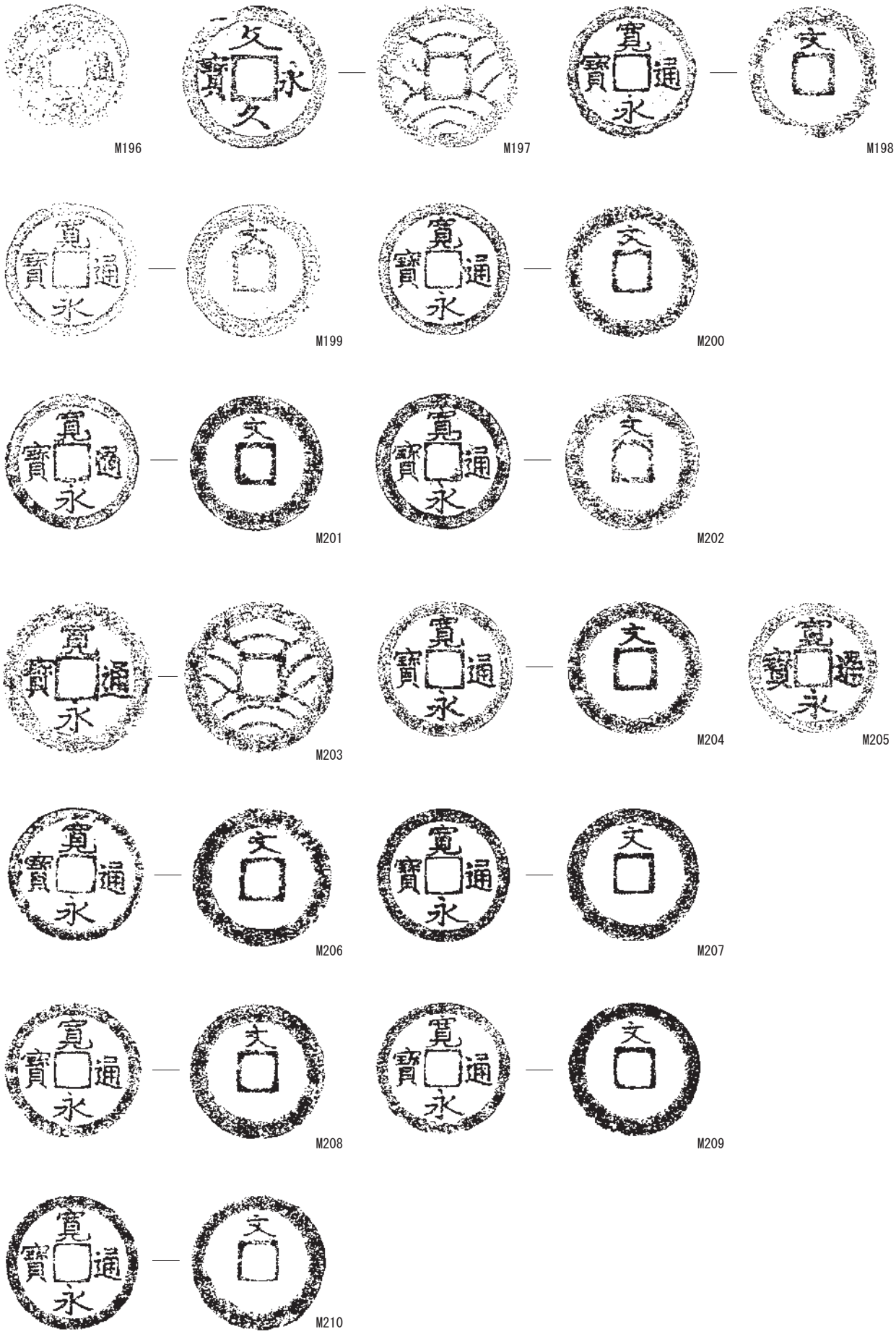
出土金属製品 2

観音寺跡



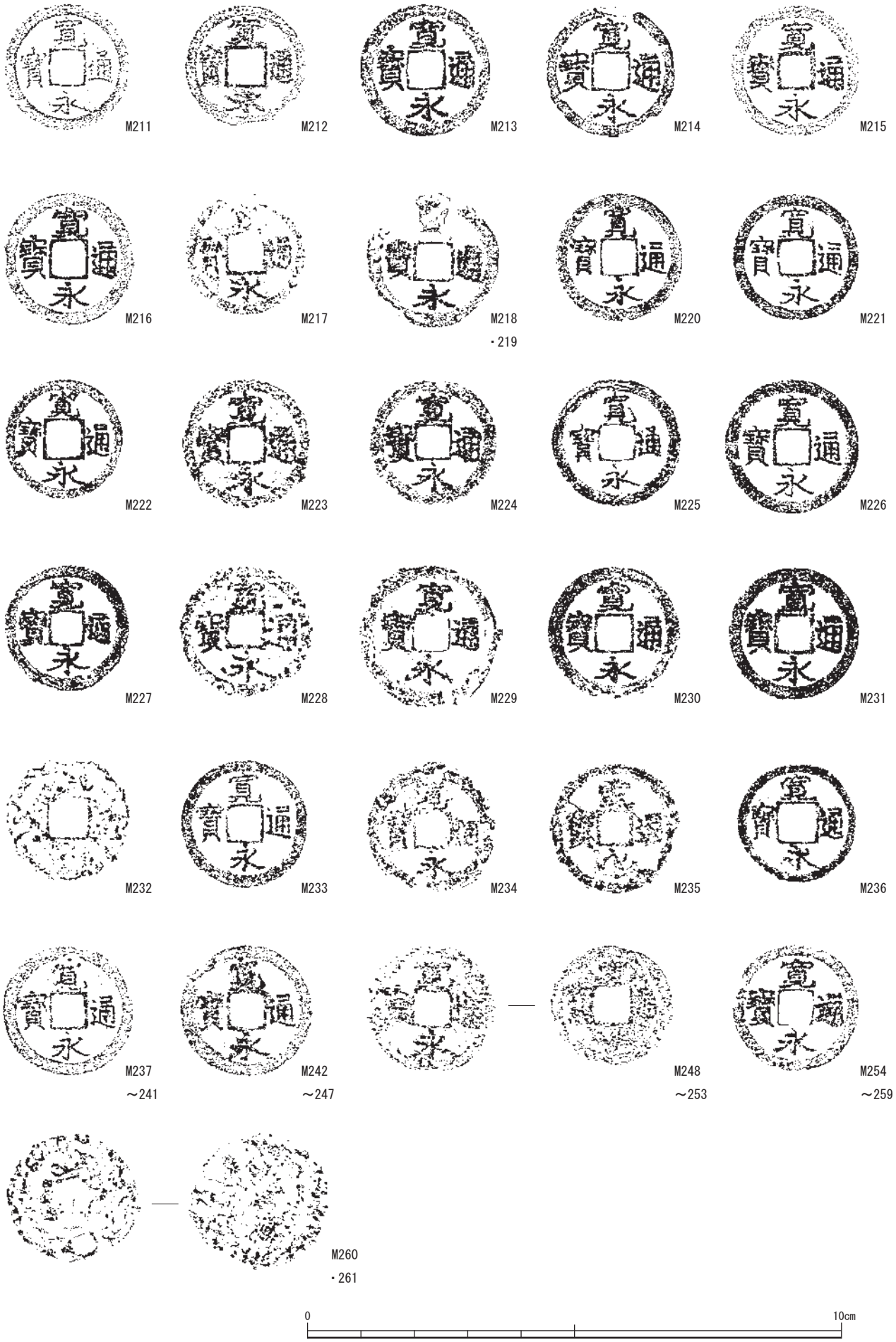
出土金属製品 3

観音寺跡



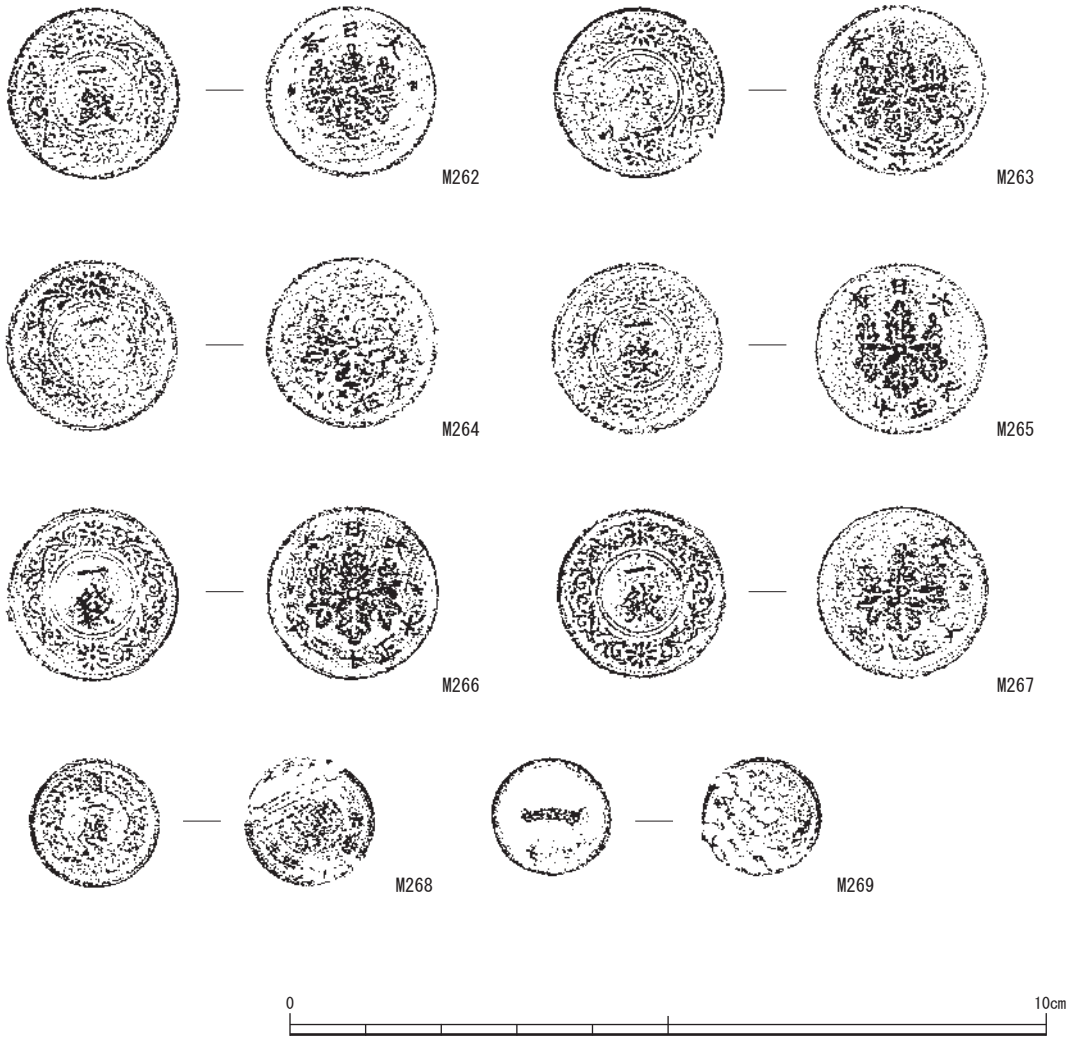
出土金属製品 4

観音寺跡

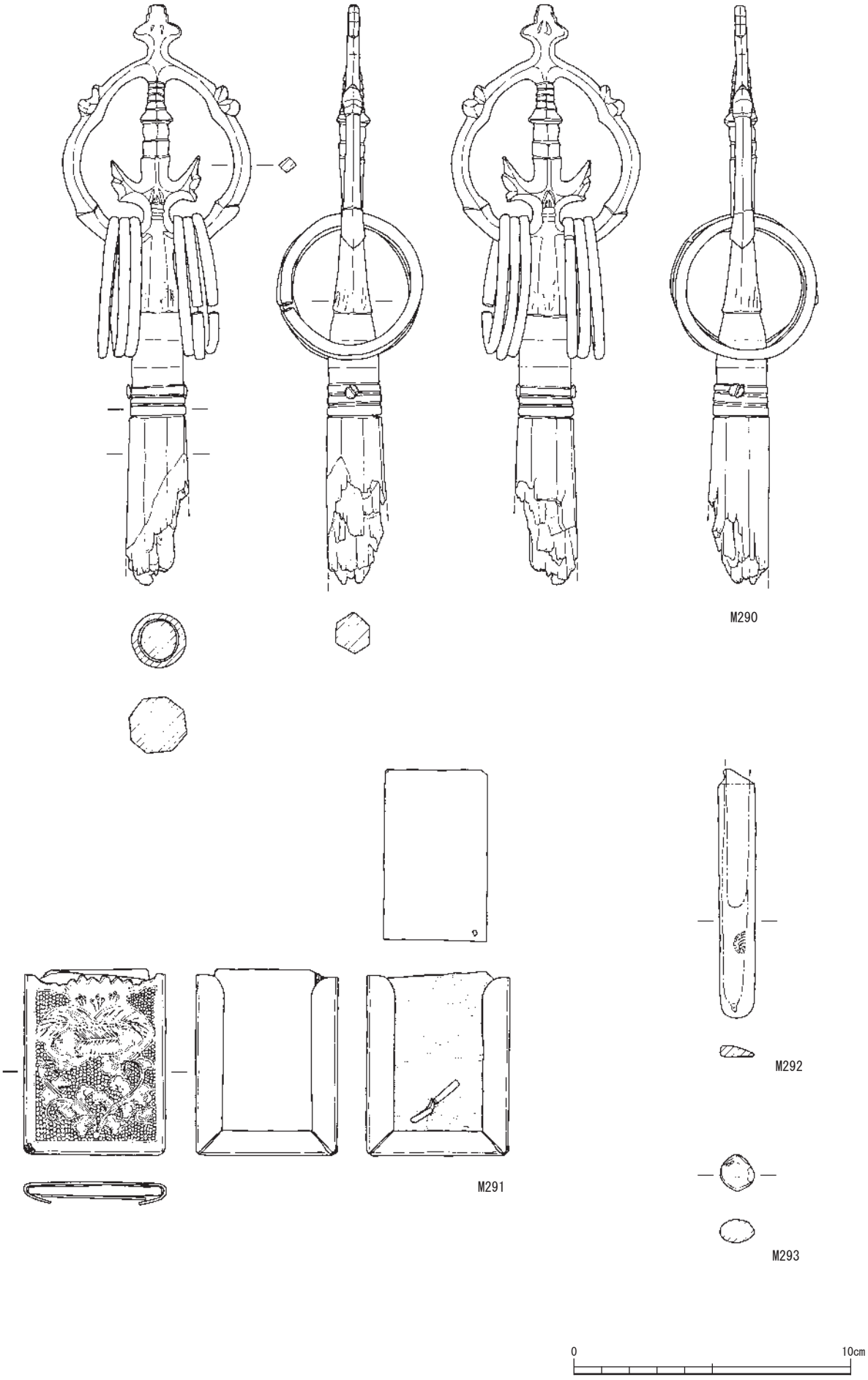


出土金属製品 5

観音寺跡

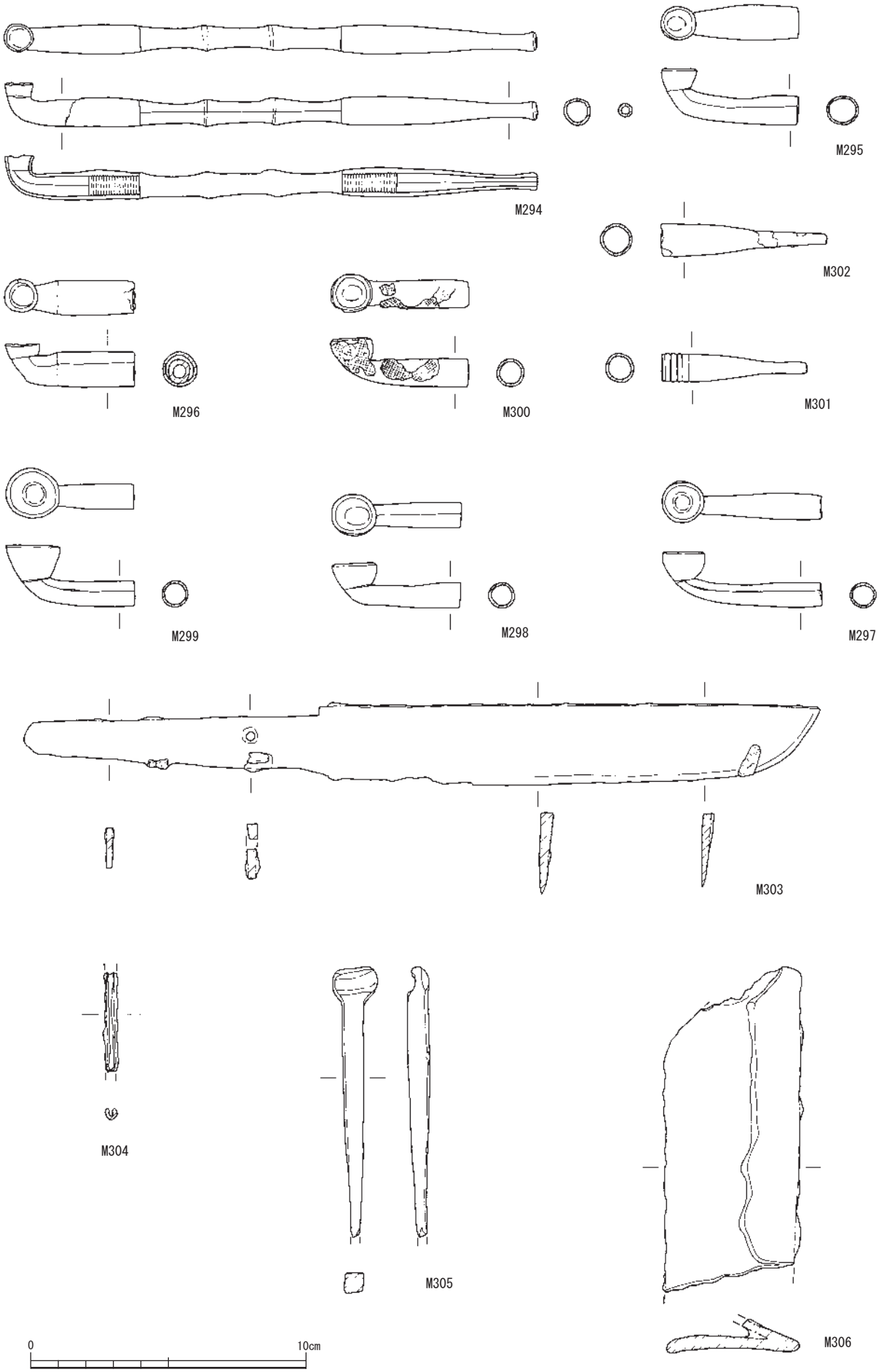


出土金属製品 6

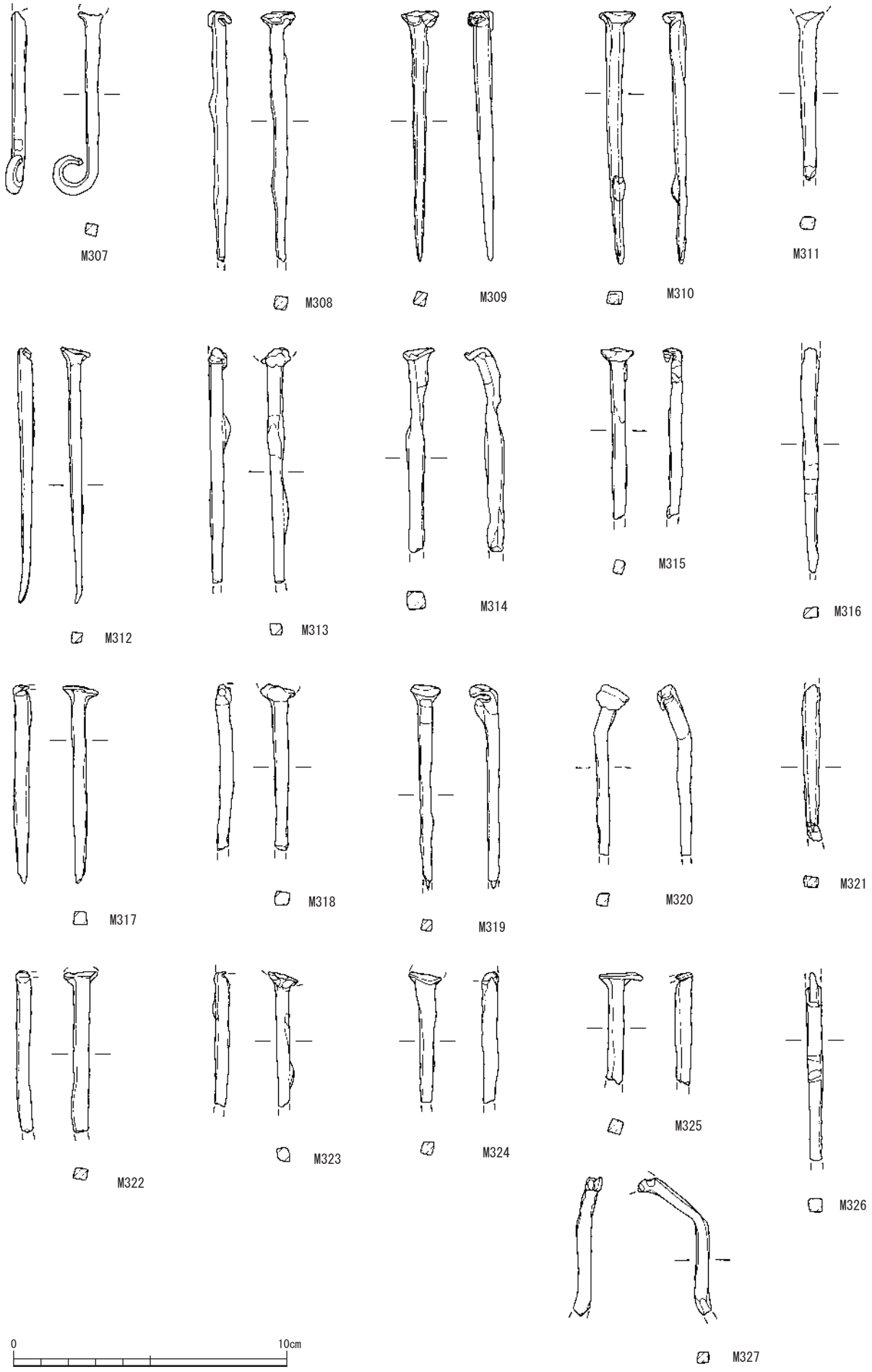


出土金属製品 7

観音寺跡

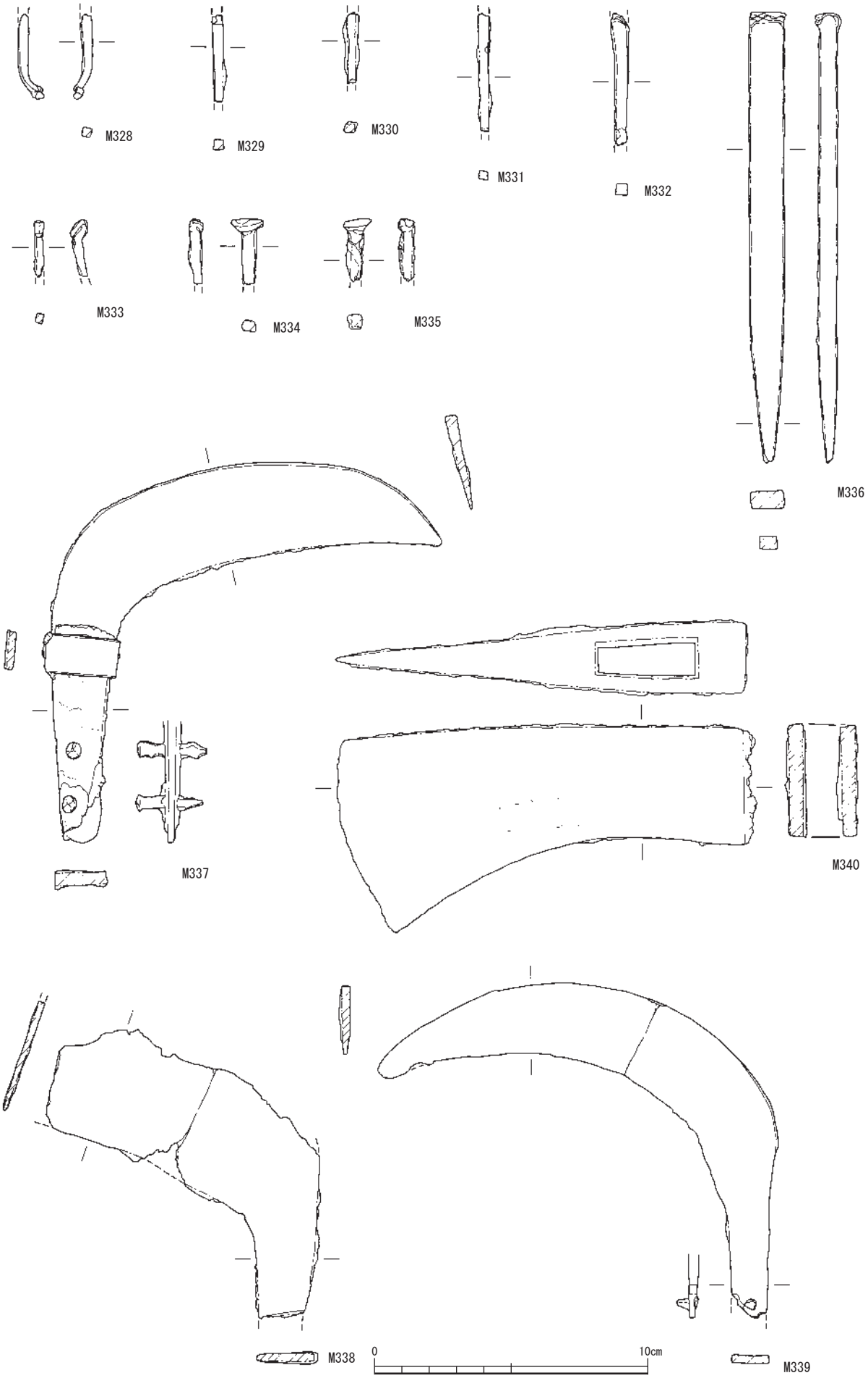

M294
M295
M302
M296
M300
M301
M299
M298
M297
M303
M304
M305
M306
0
10cm

出土金属製 8

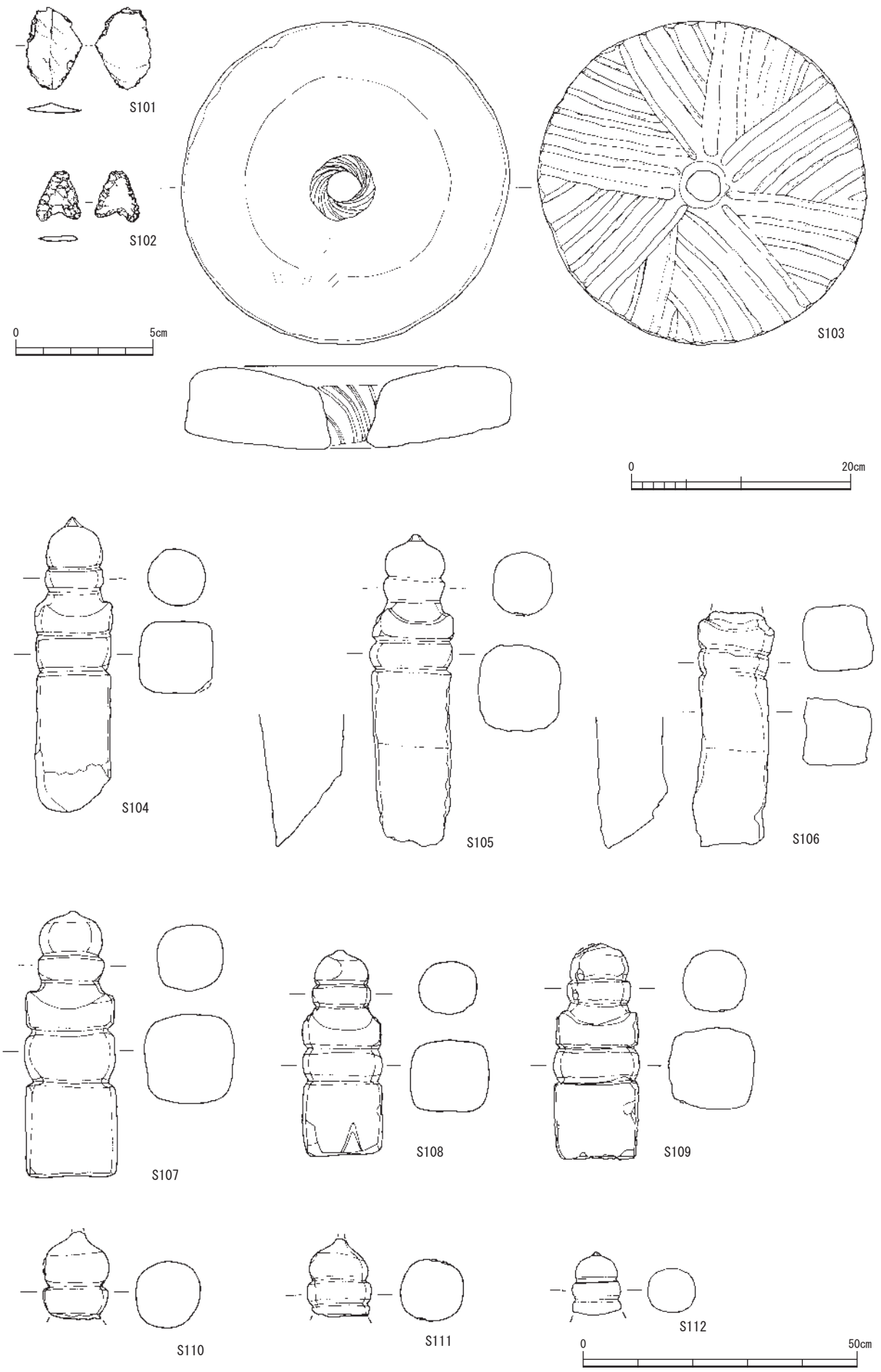

M307
M308
M309
M310
M311
M312
M313
M314
M315
M316
M317
M318
M319
M320
M321
M322
M323
M324
M325
M326
M327
0
10cm

出土金属製品 9

観音寺跡

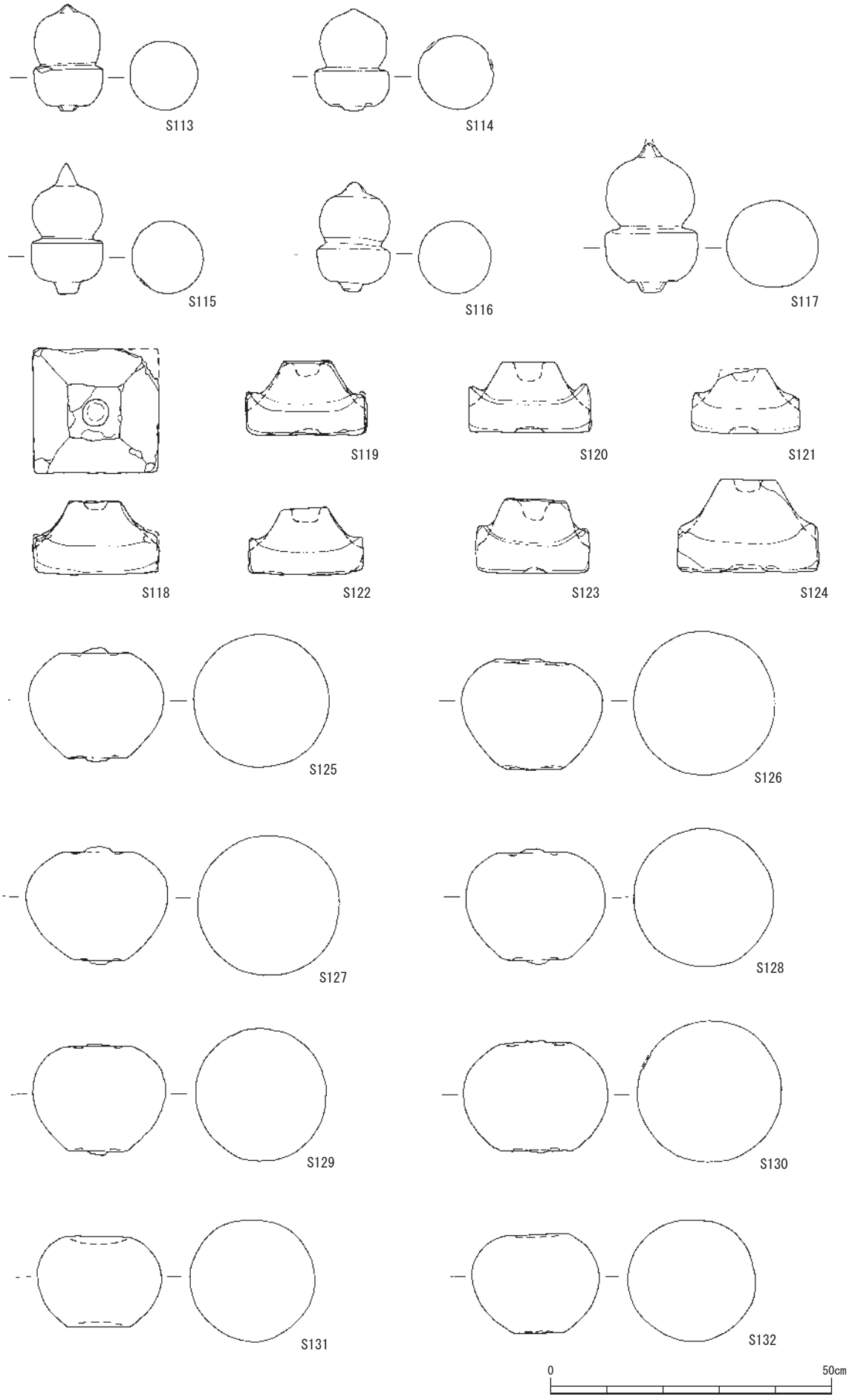


出土金属製品 10

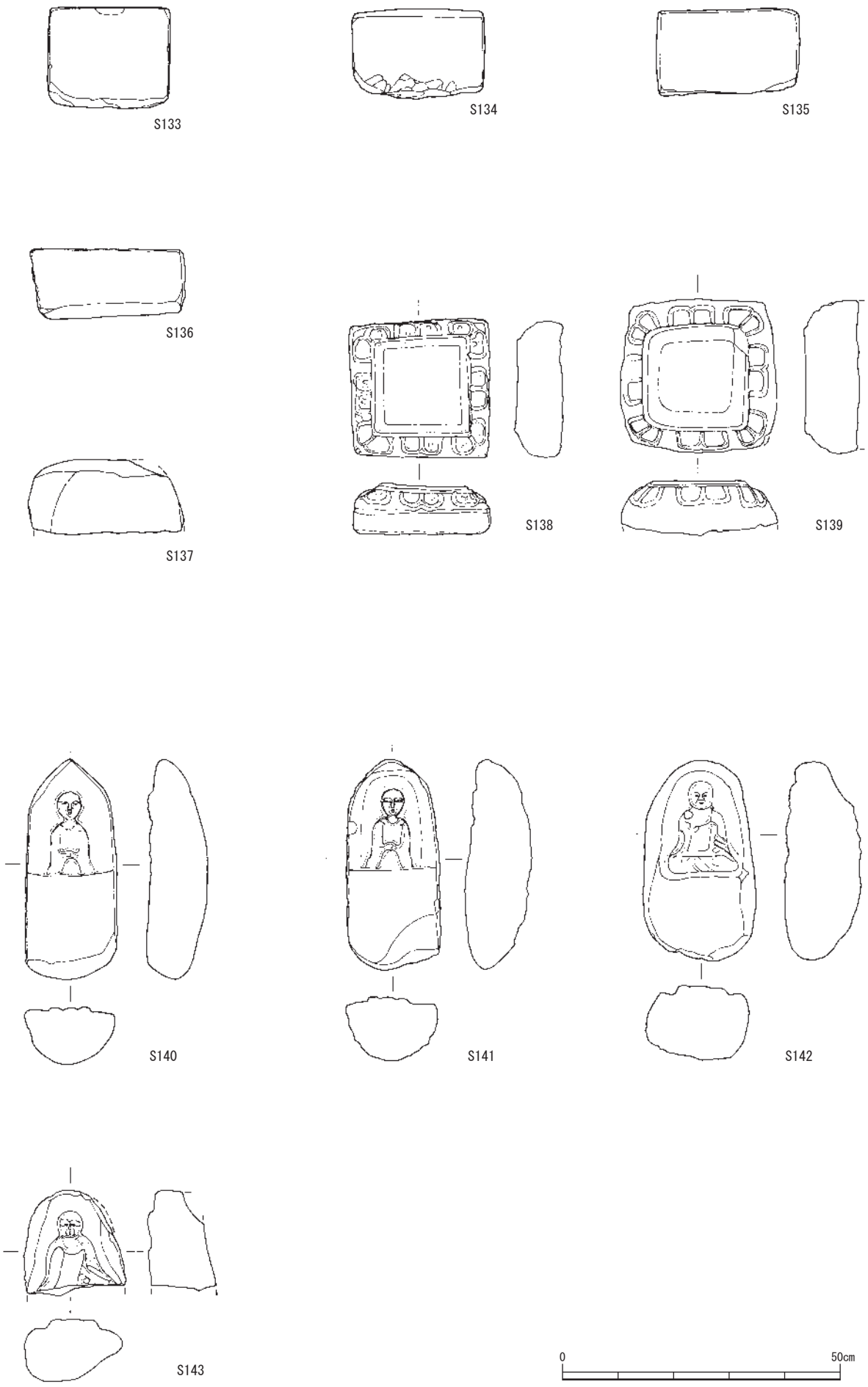

S101
S102
0
5cm
S103
0
20cm
S104
S105
S106
S107
S108
S109
S110
S111
S112
0
50cm

出土石製品 1

観音寺跡


S113
S114
S115
S116
S117
S118
S119
S120
S121
S122
S123
S124
S125
S126
S127
S128
S129
S130
S131
S132
0
50cm

出土石製品 2



出土石製品 3